

茨城県教育財団文化財調査報告第152集

北浦複合団地造成事業地内
埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

木工台遺跡 2
(下 卷)

平成 11 年 7 月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第152集

北浦複合団地造成事業地内
埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

ほっくだい
木工台遺跡 2
(下 卷)

平成 11 年 7 月

茨 城 県
財団法人 茨城県教育財団

目 次

— 下 卷 —

1 竪穴住居跡……………	397
(第213～256号住居跡)	
2 鍛冶工房跡……………	545
3 掘立柱建物跡及び柱穴群……………	547
4 土 坑……………	560
5 地下式墳……………	573
6 溝……………	581
7 不明遺構……………	586
8 遺構外出土遺物……………	589
第4節 ま と め……………	601
付 章……………	619
写真図版	

下 卷 挿 図 目 次

第300図 第213号住居跡実測図……………	397	第315図 第218B号住居跡実測図……………	417
第301図 第213号住居跡出土遺物実測図……………	398	第316図 第218B号住居跡出土遺物実測図……………	418
第302図 第214号住居跡実測図……………	401	第317図 第219号住居跡実測図……………	420
第303図 第214号住居跡出土遺物実測図……………	402	第318図 第219号住居跡出土遺物実測図……………	421
第304図 第215号住居跡実測図……………	403	第319図 第220号住居跡実測図……………	423
第305図 第215号住居跡出土遺物実測図……………	404	第320図 第220号住居跡出土遺物実測図……………	423
第306図 第216号住居跡実測図(1)……………	405	第321図 第221号住居跡実測図……………	424
第307図 第216号住居跡実測図(2)……………	406	第322図 第221号住居跡出土遺物実測図……………	425
第308図 第216号住居跡出土遺物実測図(1)……………	407	第323図 第222号住居跡実測図……………	427
第309図 第216号住居跡出土遺物実測図(2)……………	408	第324図 第222号住居跡出土遺物実測図……………	428
第310図 第217号住居跡実測図……………	410	第325図 第223号住居跡実測図……………	429
第311図 第217号住居跡出土遺物実測図……………	411	第326図 第223号住居跡出土遺物実測図……………	429
第312図 第218A号住居跡実測図……………	413	第327図 第224A号住居跡実測図……………	431
第313図 第218A号住居跡出土遺物実測図(1)……………	414	第328図 第224A号住居跡出土遺物実測図……………	432
第314図 第218A号住居跡出土遺物実測図(2)……………	415	第329図 第224B号住居跡実測図……………	434

第 330 图	第224 B 号住居跡出土遺物実測図	435	第 368 图	第235号住居跡出土遺物実測図(9)	481
第 331 图	第225号住居跡実測図	437	第 369 图	第236 A 号住居跡実測図	488
第 332 图	第225号住居跡出土遺物実測図(1)	438	第 370 图	第236 A 号住居跡出土遺物実測図	489
第 333 图	第225号住居跡出土遺物実測図(2)	439	第 371 图	第236 B 号住居跡実測図(1)	491
第 334 图	第226号住居跡実測図	441	第 372 图	第236 B 号住居跡実測図(2)	492
第 335 图	第228号住居跡実測図	442	第 373 图	第236 B 号住居跡出土遺物実測図	493
第 336 图	第228号住居跡出土遺物実測図	443	第 374 图	第237 A 号住居跡実測図	495
第 337 图	第229号住居跡実測図	444	第 375 图	第237 A 号住居跡出土遺物実測図	496
第 338 图	第229号住居跡出土遺物実測図	445	第 376 图	第237 B 号住居跡実測図	498
第 339 图	第230 A 号住居跡実測図(1)	447	第 377 图	第237 B 号住居跡出土遺物実測図(1)	499
第 340 图	第230 A 号住居跡実測図(2)	448	第 378 图	第237 B 号住居跡出土遺物実測図(2)	500
第 341 图	第230 A 号住居跡出土遺物実測図	448	第 379 图	第237 D 号住居跡実測図	501
第 342 图	第230 B 号住居跡実測図	450	第 380 图	第237 D 号住居跡出土遺物実測図	503
第 343 图	第230 B 号住居跡出土遺物実測図	451	第 381 图	第238号住居跡実測図	505
第 344 图	第231号住居跡実測図	452	第 382 图	第238号住居跡出土遺物実測図	506
第 345 图	第231号住居跡出土遺物実測図	453	第 383 图	第240号住居跡実測図	508
第 346 图	第232号住居跡実測図	455	第 384 图	第240号住居跡出土遺物実測図	509
第 347 图	第232号住居跡出土遺物実測図	456	第 385 图	第241号住居跡実測図	510
第 348 图	第233号住居跡実測図	458	第 386 图	第242号住居跡実測図	511
第 349 图	第233号住居跡出土遺物実測図	460	第 387 图	第243号住居跡実測図	512
第 350 图	第234 A 号住居跡実測図	461	第 388 图	第243号住居跡出土遺物実測図	513
第 351 图	第234 A 号住居跡出土遺物実測図	462	第 389 图	第244 A 号住居跡・出土遺物実測図	515
第 352 图	第234 B 号住居跡実測図	463	第 390 图	第244 C 号住居跡実測図	516
第 353 图	第234 B 号住居跡出土遺物実測図	464	第 391 图	第245号住居跡実測図	517
第 354 图	第234 C 号住居跡出土遺物実測図	465	第 392 图	第245号住居跡出土遺物実測図	518
第 355 图	第234 C 号住居跡実測図	466	第 393 图	第246号住居跡実測図	519
第 356 图	第234 D 号住居跡実測図	467	第 394 图	第246号住居跡出土遺物実測図	520
第 357 图	第234 D 号住居跡出土遺物実測図	468	第 395 图	第247号住居跡実測図	521
第 358 图	第235号住居跡実測図(1)	470	第 396 图	第247号住居跡出土遺物実測図	522
第 359 图	第235号住居跡実測図(2)	471	第 397 图	第248号住居跡実測図(1)	523
第 360 图	第235号住居跡出土遺物実測図(1)	473	第 398 图	第248号住居跡実測図(2)	524
第 361 图	第235号住居跡出土遺物実測図(2)	474	第 399 图	第248号住居跡出土遺物実測図	524
第 362 图	第235号住居跡出土遺物実測図(3)	475	第 400 图	第249号住居跡実測図	526
第 363 图	第235号住居跡出土遺物実測図(4)	476	第 401 图	第249号住居跡出土遺物実測図	527
第 364 图	第235号住居跡出土遺物実測図(5)	477	第 402 图	第250号住居跡実測図	528
第 365 图	第235号住居跡出土遺物実測図(6)	478	第 403 图	第250号住居跡出土遺物実測図	529
第 366 图	第235号住居跡出土遺物実測図(7)	479	第 404 图	第251号住居跡実測図	530
第 367 图	第235号住居跡出土遺物実測図(8)	480	第 405 图	第251号住居跡出土遺物実測図	531

第 406 図	第252号住居跡実測図……………532	第 427 図	土坑・第 1 号井戸状遺構実測図(2) ……567
第 407 図	第252号住居跡出土遺物実測図……………532	第 428 図	土坑出土遺物実測図(1) ……………568
第 408 図	第253号住居跡実測図……………533	第 429 図	土坑出土遺物実測図(2) ……………569
第 409 図	第253号住居跡出土遺物実測図……………535	第 430 図	土坑出土遺物実測図(3) ……………570
第 410 図	第254号住居跡・出土遺物実測図……………536	第 431 図	第 1・2 号地下式竈実測図 ……………574
第 411 図	第255号住居跡実測図……………538	第 432 図	溝・出土遺物実測図 ……………584
第 412 図	第255号住居跡出土遺物実測図……………538	第 433 図	第 1 号不明遺構・出土遺物実測図 ……587
第 413 図	第256号住居跡実測図……………539	第 434 図	第 2 号不明遺構実測図 ……………588
第 414 図	第256号住居跡出土遺物実測図……………540	第 435 図	第 2 号不明遺構出土遺物実測図 ……589
第 415 図	第 3 号鍛冶工房跡実測図 ……………546	第 436 図	遺構外出土遺物実測図(1) ……………590
第 416 図	第 3 号鍛冶工房跡出土遺物実測図 ……547	第 437 図	遺構外出土遺物実測図(2) ……………591
第 417 図	第 2 号掘立柱建物跡・出土遺物 実測図 ……………548	第 438 図	遺構外出土遺物実測図(3) ……………592
第 418 図	第 3 号掘立柱建物跡実測図 ……………549	第 439 図	遺構外出土遺物実測図(4) ……………593
第 419 図	第 4 号掘立柱建物跡実測図 ……………550	第 440 図	遺構外出土遺物実測図(5) ……………594
第 420 図	第 5 号掘立柱建物跡実測図 ……………551	第 441 図	遺構外出土遺物実測図(6) ……………595
第 421 図	第 6 号掘立柱建物跡・出土遺物 実測図 ……………553	第 442 図	遺構外出土遺物実測図(7) ……………596
第 422 図	第 7 号掘立柱建物跡実測図 ……………554	第 443 図	木工台 3～5 期の土器群 ……………608
第 423 図	第 8 号掘立柱建物跡実測図 ……………556	第 444 図	木工台 6～8 期の土器群 ……………609
第 424 図	第 9・10号掘立柱建物跡・出土遺物 実測図 ……………557	第 445 図	木工台 9～11期の土器群 ……………610
第 425 図	柱穴群実測図 ……………559	第 446 図	木工台12～14期の土器群 ……………611
第 426 図	土坑実測図(1) ……………566	第 447 図	木工台15～18期の土器群 ……………612
		第 448 図	木工台遺跡集落変遷図 1 ……………613
		第 449 図	木工台遺跡集落変遷図 2 ……………615

下 卷 表 目 次

表 2	木工台遺跡住居跡一覧表 ……………541	表 5	木工台遺跡土坑一覧表 ……………575
表 3	木工台遺跡掘立柱建物跡一覧表 ……………558	表 6	木工台遺跡溝一覧表 ……………585
表 4	木工台遺跡柱穴群柱穴計測表 ……………558		

写真図版目次

P L 1	木工台遺跡遠景，木工台遺跡全景	P L 3	第109 A 号住居跡竈遺物出土状況，第109 B 号住居跡，第109 B 号住居跡遺物出土状況
P L 2	第108号住居跡，第108号住居跡遺物出土状 況，第109 A 号住居跡	P L 4	第110 A 号住居跡，第110 A 号住居跡遺物出

- 土狀況，第110A号住居跡竈遺物出土狀況
- P L 5 第110B号住居跡，第111号住居跡，第111号住居跡遺物出土狀況
- P L 6 第112・113・114号住居跡，第112号住居跡，第112号住居跡遺物出土狀況，第112号住居跡竈
- P L 7 第112号住居跡遺物出土狀況，第113号住居跡，第114号住居跡遺物出土狀況
- P L 8 第115号住居跡，第115号住居跡遺物出土狀況，第116A号住居跡
- P L 9 第118号住居跡，第118号住居跡竈遺物出土狀況，第119号住居跡
- P L 10 第120A・120C・120D・120E号住居跡，第120C号住居跡遺物出土狀況，第120E号住居跡遺物出土狀況，第120E号住居跡竈遺物出土狀況
- P L 11 第121号住居跡，第121号住居跡遺物出土狀況，第122号住居跡
- P L 12 第122号住居跡遺物出土狀況，第123A号住居跡，第123A号住居跡遺物出土狀況
- P L 13 第125A・125B・125C号住居跡遺物出土狀況，第126A・126B号住居跡，第126A・126B号住居跡遺物出土狀況
- P L 14 第127A・127B・127C・127D号住居跡，第127A・127B・127C・127D号住居跡遺物出土狀況，第127C号住居跡，第127A号住居跡遺物出土狀況，第127C号住居跡竈遺物出土狀況
- P L 15 第127D号住居跡，第128号住居跡遺物出土狀況，第128号住居跡遺物出土狀況
- P L 16 第128号住居跡遺物出土狀況，第130号住居跡，第130号住居跡遺物出土狀況
- P L 17 第131号住居跡遺物出土狀況，第131号住居跡竈遺物出土狀況，第132A号住居跡
- P L 18 第132A・132B・133号住居跡，第132A号住居跡遺物出土狀況，第132A号住居跡遺物出土狀況，第132A号住居跡竈遺物出土狀況，第133号住居跡
- P L 19 第133号住居跡遺物出土狀況
- P L 20 第133号住居跡竈遺物出土狀況，第134A・134B号住居跡，第134A号住居跡遺物出土狀況
- P L 21 第134C・134D号住居跡，第135A号住居跡，第135A号住居跡遺物出土狀況
- P L 22 第135A・135B・136C号住居跡，第135B号住居跡，第135B・136C号住居跡遺物出土狀況，第135B号住居跡竈遺物出土狀況，第136C号住居跡遺物出土狀況
- P L 23 第136A号住居跡，第136B号住居跡，第136B号住居跡遺物出土狀況
- P L 24 第136D・136E号住居跡，第137号住居跡，第137号住居跡遺物出土狀況
- P L 25 第138B・138C号住居跡，第138B号住居跡遺物出土狀況，第138C号住居跡，第138C号住居跡遺物出土狀況
- P L 26 第138A号住居跡，第138A号住居跡遺物出土狀況，第139号住居跡
- P L 27 第139号住居跡遺物出土狀況，第140号住居跡
- P L 28 第141号住居跡，第141号住居跡遺物出土狀況，第142号住居跡竈遺物出土狀況
- P L 29 第144号住居跡，第144号住居跡遺物出土狀況，第144号住居跡竈
- P L 30 第144号住居跡遺物出土狀況，第145A号住居跡，第145B号住居跡
- P L 31 第145C・145D号住居跡，第148号住居跡遺物出土狀況，第148号住居跡竈遺物出土狀況
- P L 32 第149号住居跡，第149号住居跡遺物出土狀況
- P L 33 第149号住居跡竈遺物出土狀況，第150A号住居跡，第150B号住居跡
- P L 34 第150B号住居跡遺物出土狀況，第150C号住居跡
- P L 35 第150C号住居跡竈遺物出土狀況，第150D号住居跡，第151号住居跡

- P L 36 第151号住居跡遺物出土狀況, 第152号住居跡
- P L 37 第152号住居跡遺物出土狀況, 第153号住居跡, 第153号住居跡遺物出土狀況
- P L 38 第154号住居跡, 第154号住居跡遺物出土狀況
- P L 39 第155A号住居跡, 第155B号住居跡, 第156号住居跡
- P L 40 第156号住居跡遺物出土狀況, 第157号住居跡
- P L 41 第157号住居跡遺物出土狀況, 第158号住居跡
- P L 42 第158号住居跡遺物出土狀況
- P L 43 第158号住居跡遺物出土狀況, 第160号住居跡
- P L 44 第160号住居跡遺物出土狀況, 第161A号住居跡
- P L 45 第161B号住居跡, 第162号住居跡, 第163号住居跡
- P L 46 第163号住居跡遺物出土狀況, 第163号住居跡竈遺物出土狀況, 第164・165号住居跡
- P L 47 第164・165号住居跡遺物出土狀況, 第164号住居跡遺物出土狀況, 第165号住居跡遺物出土狀況
- P L 48 第165号住居跡竈遺物出土狀況, 第166A・166B号住居跡, 第166A号住居跡遺物出土狀況
- P L 49 第166A号住居跡遺物出土狀況, 第166B号住居跡
- P L 50 第166B号住居跡竈遺物出土狀況, 第167号住居跡, 第168号住居跡
- P L 51 第168号住居跡遺物出土狀況
- P L 52 第168B号住居跡, 第169号住居跡, 第170A号住居跡
- P L 53 第171号住居跡, 第171号住居跡遺物出土狀況
- P L 54 第171号住居跡遺物出土狀況, 第172号住居跡, 第172号住居跡遺物出土狀況
- P L 55 第173号住居跡, 第173号住居跡遺物出土狀況
- P L 56 第173号住居跡遺物出土狀況, 第174号住居跡, 第174号住居跡遺物出土狀況
- P L 57 第174号住居跡遺物出土狀況, 第177号住居跡, 第178号住居跡
- P L 58 第178号住居跡遺物出土狀況, 第179号住居跡
- P L 59 第179号住居跡遺物出土狀況
- P L 60 第181A・181B号住居跡, 第181A号住居跡, 第181A号住居跡遺物出土狀況
- P L 61 第181B号住居跡, 第181B号住居跡遺物出土狀況, 第182号住居跡遺物出土狀況
- P L 62 第182号住居跡, 第183A号住居跡遺物出土狀況, 第183B号住居跡
- P L 63 第186A・186B号住居跡遺物出土狀況, 第186A・186B号住居跡, 第186C・186D号住居跡, 第186B号住居跡竈遺物出土狀況
- P L 64 第188A号住居跡, 第188A号住居跡竈遺物出土狀況, 第188B号住居跡
- P L 65 第188B号住居跡遺物出土狀況, 第189A号住居跡, 第193A号住居跡
- P L 66 第193A号住居跡遺物出土狀況, 第193B号住居跡遺物出土狀況, 第193C号住居跡, 第193A・193B・193C号住居跡
- P L 67 第194号住居跡, 第194号住居跡竈袖部遺物出土狀況, 第200号住居跡
- P L 68 第202号住居跡, 第203D号住居跡, 第204号住居跡
- P L 69 第204号住居跡遺物出土狀況, 第205号住居跡
- P L 70 第205号住居跡竈遺物出土狀況, 第208号住居跡遺物出土狀況
- P L 71 第208号住居跡遺物出土狀況, 第209A・209B号住居跡, 第209A号住居跡遺物出土狀況
- P L 72 第209B号住居跡遺物出土狀況, 第210号住居跡, 第210号住居跡遺物出土狀況

- P L 73 第211号住居跡, 第211号住居跡遺物出土狀況, 第213号住居跡
- P L 74 第213号住居跡遺物出土狀況, 第214号住居跡
- P L 75 第214号住居跡遺物出土狀況, 第215号住居跡
- P L 76 第216号住居跡, 第216号住居跡遺物出土狀況
- P L 77 第217号住居跡, 第217号住居跡遺物出土狀況, 第218A号住居跡
- P L 78 第218B号住居跡遺物出土狀況, 第218A号住居跡遺物出土狀況, 第218A号住居跡竈遺物出土狀況, 第218B号住居跡
- P L 79 第219号住居跡, 第219号住居跡遺物出土狀況, 第220号住居跡
- P L 80 第221号住居跡, 第224B号住居跡遺物出土狀況, 第225号住居跡
- P L 81 第225号住居跡遺物出土狀況, 第229号住居跡遺物出土狀況, 第230A号住居跡
- P L 82 第230B号住居跡, 第231号住居跡, 第232号住居跡
- P L 83 第232号住居跡遺物出土狀況, 第232号住居跡竈
- P L 84 第233号住居跡, 第233号住居跡遺物出土狀況
- P L 85 第234A号住居跡, 第234B号住居跡, 第234B号住居跡遺物出土狀況
- P L 86 第234B号住居跡遺物出土狀況, 第234C号住居跡, 第234C号住居跡遺物出土狀況
- P L 87 第235号住居跡, 第235号住居跡遺物出土狀況
- P L 88 第236A号住居跡, 第236B号住居跡, 第236B号住居跡遺物出土狀況
- P L 89 第236B号住居跡遺物出土狀況, 第236B号住居跡竈袖部遺物出土狀況, 第237A号住居跡
- P L 90 第237A号住居跡竈遺物出土狀況, 第237A号住居跡鍛冶關連施設, 第237A号住居跡
- P 1 内羽口出土狀況
- P L 91 第237B号住居跡, 第237B号住居跡遺物出土狀況
- P L 92 第237D号住居跡, 第237D号住居跡遺物出土狀況, 第238号住居跡
- P L 93 第3号鍛冶工房跡, 第3号鍛冶工房跡P 1, 第241号住居跡
- P L 94 第242号住居跡, 第243号住居跡, 第243号住居跡遺物出土狀況
- P L 95 第243号住居跡遺物出土狀況, 第244A・244B号住居跡, 第244B号住居跡
- P L 96 第245号住居跡, 第245号住居跡竈遺物出土狀況, 第246号住居跡
- P L 97 第247号住居跡, 第248号住居跡, 第249号住居跡
- P L 98 第250号住居跡, 第251号住居跡, 第252号住居跡
- P L 99 第253号住居跡, 第253号住居跡遺物出土狀況
- P L 100 第253号住居跡竈遺物出土狀況, 第254号住居跡, 第254号住居跡遺物出土狀況
- P L 101 第255号住居跡, 第255号住居跡遺物出土狀況, 第256号住居跡
- P L 102 第2~5, 7~10号掘立柱建物跡
- P L 103 柱穴群, 第182号土坑, 第221号土坑, 第456号土坑, 第1号地下式壙, 第2号地下式壙
- P L 104 第457号土坑, 第178号土坑, 第395号土坑, 第250号土坑, 第251号土坑, 第252号土坑, 第450号土坑, 第460号土坑
- P L 105 第451号土坑, 第1号井戸状遺構, 第35~37号溝, 第40号溝, 第44号溝, 第47号溝
- P L 106 第108・109A・109B・110号住居跡出土遺物
- P L 107 第110・111・112号住居跡出土遺物
- P L 108 第112・113・114・115号住居跡出土遺物
- P L 109 第115・116A・116B・118・119・120A~120E号住居跡出土遺物
- P L 110 第120E・121・122・123A号住居跡出土遺物
- P L 111 第120E・124号住居跡出土遺物

- P L 112 第125 A · 125 B · 126 A · 126 B · 127 A ~
127 D · 128号住居跡出土遺物
- P L 113 第129 · 131 · 132 A · 132 B · 133号住居跡
出土遺物
- P L 114 第133号住居跡出土遺物
- P L 115 第133 · 134 A · 134 B号住居跡出土遺物
- P L 116 第134 B · 134 C · 135 A · 135 B · 136 A ·
136 B号住居跡出土遺物
- P L 117 第136 C · 136 D · 137 · 138 A · 138 B号住
居跡出土遺物
- P L 118 第139 · 141 · 142 · 144 · 145 A号住居跡出
土遺物
- P L 119 第148 · 149 · 150 A · 150 B号住居跡出土
遺物
- P L 120 第150 B ~ 150 D · 151 ~ 154号住居跡出土
遺物
- P L 121 第157 · 158号住居跡出土遺物
- P L 122 第158号住居跡出土遺物
- P L 123 第160 · 161 A · 163 ~ 165号住居跡出土遺物
- P L 124 第165 · 166 A · 166 B号住居跡出土遺物
- P L 125 第166 B · 167 · 168 A · 169 A · 170 · 171
号住居跡出土遺物
- P L 126 第171 · 172号住居跡出土遺物
- P L 127 第173 · 174号住居跡出土遺物
- P L 128 第174 · 177 ~ 179号住居跡出土遺物
- P L 129 第179 · 181 A · 181 B · 183 A号住居跡出
土遺物
- P L 130 第183 A · 183 B · 184 · 186 A号住居跡出
土遺物
- P L 131 第186 A · 186 B · 187 A · 188 B号住居跡
出土遺物
- P L 132 第188 B · 190 · 193 A · 193 B · 194号住居
跡出土遺物
- P L 133 第193 D · 194 · 200 · 202 · 203 D · 204号
住居跡出土遺物
- P L 134 第204 · 205 · 208号住居跡出土遺物
- P L 135 第208号住居跡出土遺物
- P L 136 第208号住居跡出土遺物
- P L 137 第208 · 209 A · 209 B · 210 · 211 · 213号
住居跡出土遺物
- P L 138 第213 ~ 216号住居跡出土遺物
- P L 139 第216, 217号住居跡出土遺物
- P L 140 第217 · 218 A · 218 B号住居跡出土遺物
- P L 141 第218 A · 219 · 221 · 222 · 224 A · 224 B
号住居跡出土遺物
- P L 142 第224 B · 225号住居跡出土遺物
- P L 143 第229 · 230 A · 230 B · 231 · 232号住居跡
出土遺物
- P L 144 第232 · 233 · 234 A号住居跡出土遺物
- P L 145 第233 · 235号住居跡出土遺物
- P L 146 第235号住居跡出土遺物
- P L 148 第235号住居跡出土遺物
- P L 149 第235号住居跡出土遺物
- P L 150 第235号住居跡出土遺物
- P L 151 第235号住居跡出土遺物
- P L 152 第235号住居跡出土遺物
- P L 153 第235号住居跡出土遺物
- P L 154 第235号住居跡出土遺物
- P L 155 第235号住居跡出土遺物
- P L 156 第235 · 236 A号住居跡出土遺物
- P L 157 第236 A · 236 B · 237 A · 237 B · 237 D号
住居跡出土遺物
- P L 158 第237 D · 238 · 243号住居跡出土遺物
- P L 159 第244 ~ 251 · 253号住居跡出土遺物
- P L 160 第253 · 255号住居跡, 182 · 221 · 451号土
坑, 不明遺構出土遺物
- P L 161 第183 · 370 · 451 · 462号土坑, 36号溝,
遺構外出土遺物
- P L 162 住居跡出土遺物
- P L 163 住居跡出土遺物
- P L 164 住居跡, 土坑, 遺構外出土遺物
- P L 165 住居跡, 溝, 遺構外出土遺物
- P L 166 遺構外出土遺物
- P L 167 住居跡出土土製品
- P L 168 住居跡, 土坑出土土製品
- P L 169 住居跡出土土製品

P L 170 住居跡, 土坑, 遺構外出土土製品
P L 171 住居跡, 土坑, 遺構外出土土製品
P L 172 住居跡出土土製品
P L 173 住居跡, 遺構外出土土製品, 石製品
P L 174 住居跡, 遺構外出土石製品
P L 175 住居跡, 溝出土石製品

P L 176 住居跡, 遺構外出土石製品
P L 177 住居跡, 土坑, 溝出土鉄製品
P L 178 住居跡, 土坑出土鉄製品
P L 179 住居跡, 掘立柱建物跡, 遺構外出土鉄製品, 銅製品
P L 180 碗形滓

第213号住居跡 (第300図)

位置 調査区の南部, G 2 d9 区。

規模と平面形 長軸3.81m, 短軸3.72m の方形である。

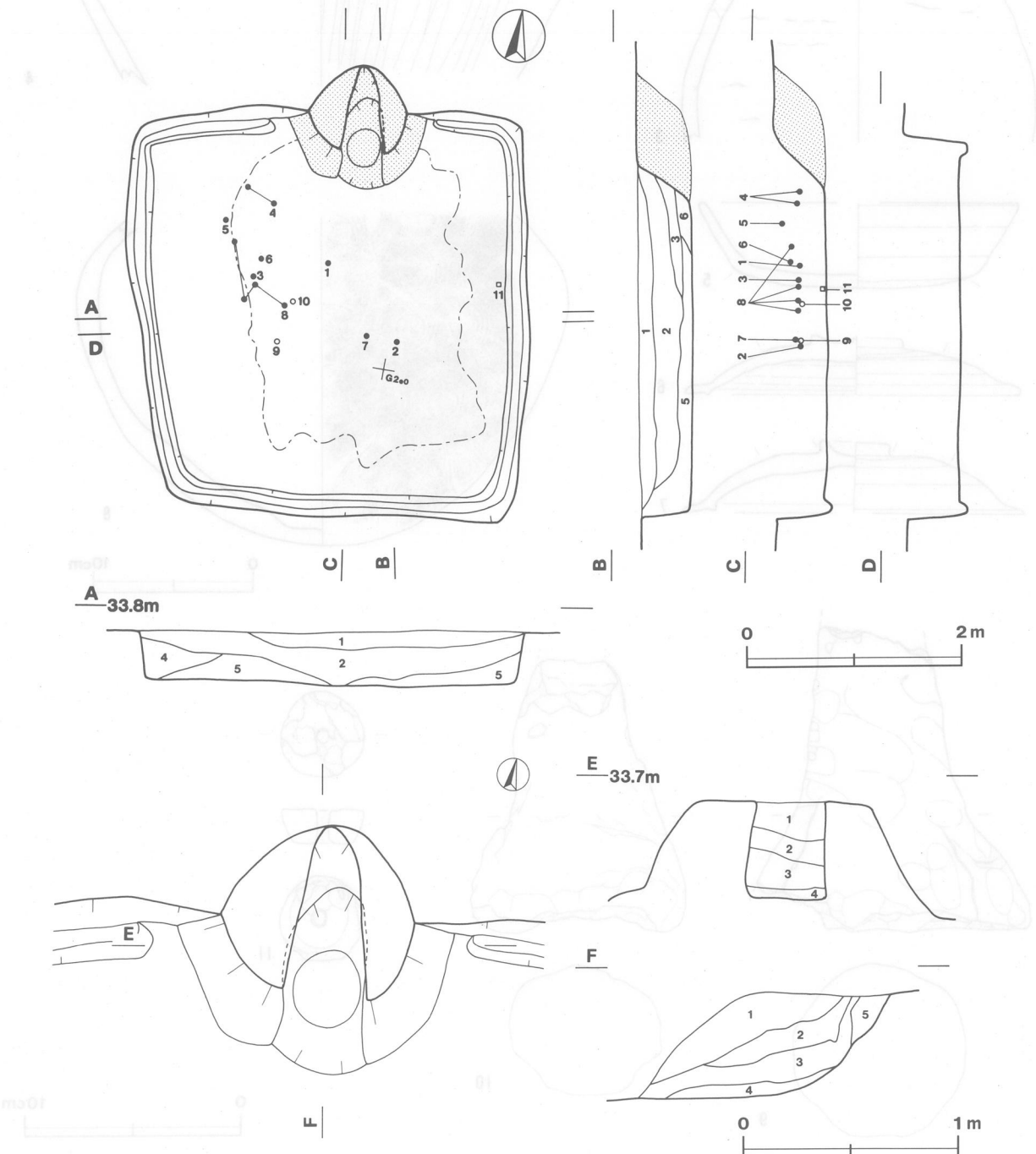
主軸方向 N - 12° - W

壁 壁高は40~50cmで, 外傾して立ち上がる。

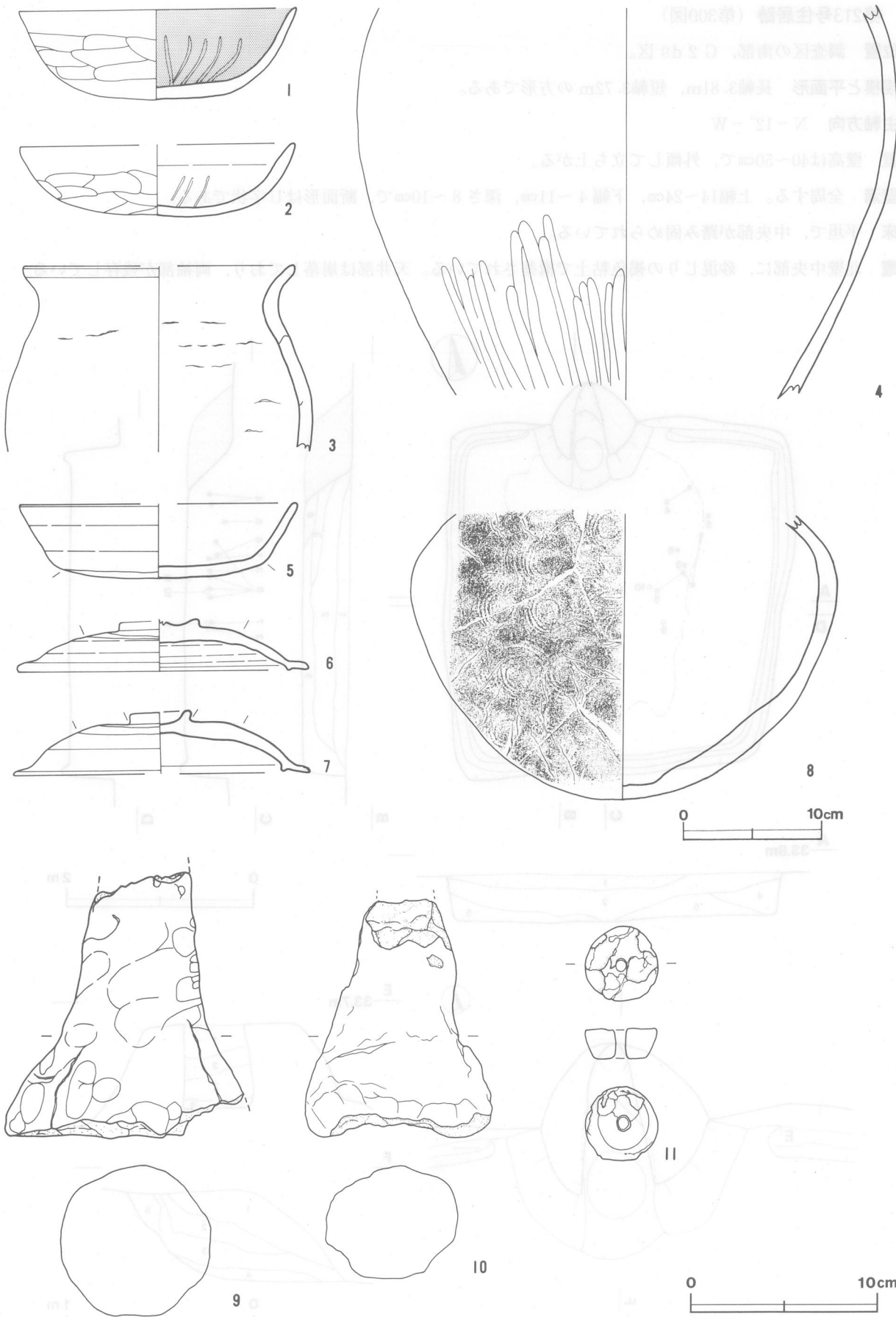
壁溝 全周する。上幅14~24cm, 下幅4~11cm, 深さ8~10cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に, 砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。



第300図 第213号住居跡実測図



第301図 第213号住居跡出土遺物実測図

規模は、煙道部から焚き口部まで116cm、両袖最大幅135cm、壁外への掘り込みは44cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 褐色 焼土粒子少量, 炭化・ローム・粘土粒子微量
- 2 灰褐色 粘土粒子多量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 3 にぶい赤褐色 焼土・炭化・粘土粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土・炭化粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量

覆土 6層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 焼土・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 焼土粒子少量, 炭化・ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化・ローム小ブロック微量
- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

遺物 土師器片185点(坏片31点, 甕片154点), 須恵器片14点(坏片11点, 甕片3点), 土製支脚2点, 石製紡錘車1点, 鉄滓150g, 含鉄滓200gが出土している。覆土上層では、第301図5の須恵器坏が中央部北西側から出土している。覆土中層では、1, 2の土師器坏, 7の須恵器蓋, 9, 10の土製支脚が中央部から, 4の土師器甕が中央部北西側から, 3の土師器甕, 6の須恵器蓋, 8の須恵器甕が中央部西側から出土している。1, 2, 6は逆位の状態で出土している。床面では、11の石製紡錘車が東壁部から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀初頭と考えられる。

第213号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第301図 1	坏 土師器	A 14.9 B 4.9	口縁部一部欠損。丸底。体部内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面放射状のヘラ磨き。内面黒色処理。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P 1271 95% 覆土中 PL137 二次焼成
2	坏 土師器	A [14.7] B 3.9	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外傾し口唇部は内削ぎ状で、内面に弱い稜を持つ。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面放射状のヘラ磨き。	長石・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P 1272 60% 覆土中 PL137 二次焼成
3	甕 土師器	A [14.6] B (10.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面に輪積み痕。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1274 20% 覆土中
4	甕 土師器	B (21.3)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面下位ヘラ磨き、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 1273 5% 覆土中
5	坏 須恵器	A [14.8] B 3.9	底部から口縁部片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面クロロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	P 1275 30% 覆土中
6	蓋 須恵器	A 15.7 B (2.8) F 4.3 G (0.4)	口縁部一部欠損。つまみはボタン状である。天井部は低く丸く、口縁部内面に短いかえりを持つ。	口縁部、天井部内・外面クロロナデ。天井部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P 1276 75% 覆土中 PL138
7	蓋 須恵器	A [15.0] B 3.4 F [3.2] G 0.6	口縁部一部欠損。つまみはボタン状である。天井部は低く丸く、口縁部内面に短いかえりを持つ。	口縁部、天井部内・外面クロロナデ。天井部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P 1277 20% 覆土中
8	甕 須恵器	B (20.5)	底部から体部片。丸底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面同心円状の叩き目、内面ナデ。	長石・石英 黄灰色 普通	P 1278 30% 覆土中 PL138

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考	
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第301図9	支脚	(14.3)	(12.0)	-	(1180.7)	覆土中	DP1105 80%	PL173
10	支脚	(12.9)	(10.0)	-	(619.4)	覆土中	DP1106 80%	

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考	
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
11	紡錘車	3.9	1.6	0.7	(33.5)	滑石	床面	Q1015	PL176

第214号住居跡 (第302図)

位置 調査区の南部, G 2 f 8 区。

規模と平面形 長軸3.34m, 短軸3.19mの方形である。

主軸方向 N-11°-E

壁 壁高は47~54cmで, 垂直に立ち上がる。

壁溝 南西コーナー部を除いて巡っている。上幅11~24cm, 下幅3~9cm, 深さ2~6cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

ピット P1は長径36cm, 短径31cmの楕円形, 深さ21cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に, 砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚き口部まで111cm, 両袖最大幅128cm, 壁外への掘り込みは54cmである。袖の内壁は, 火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は, 床面をわずかに掘りくぼめており, 火熱を受け赤変硬化している。煙道部は, 外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子微量

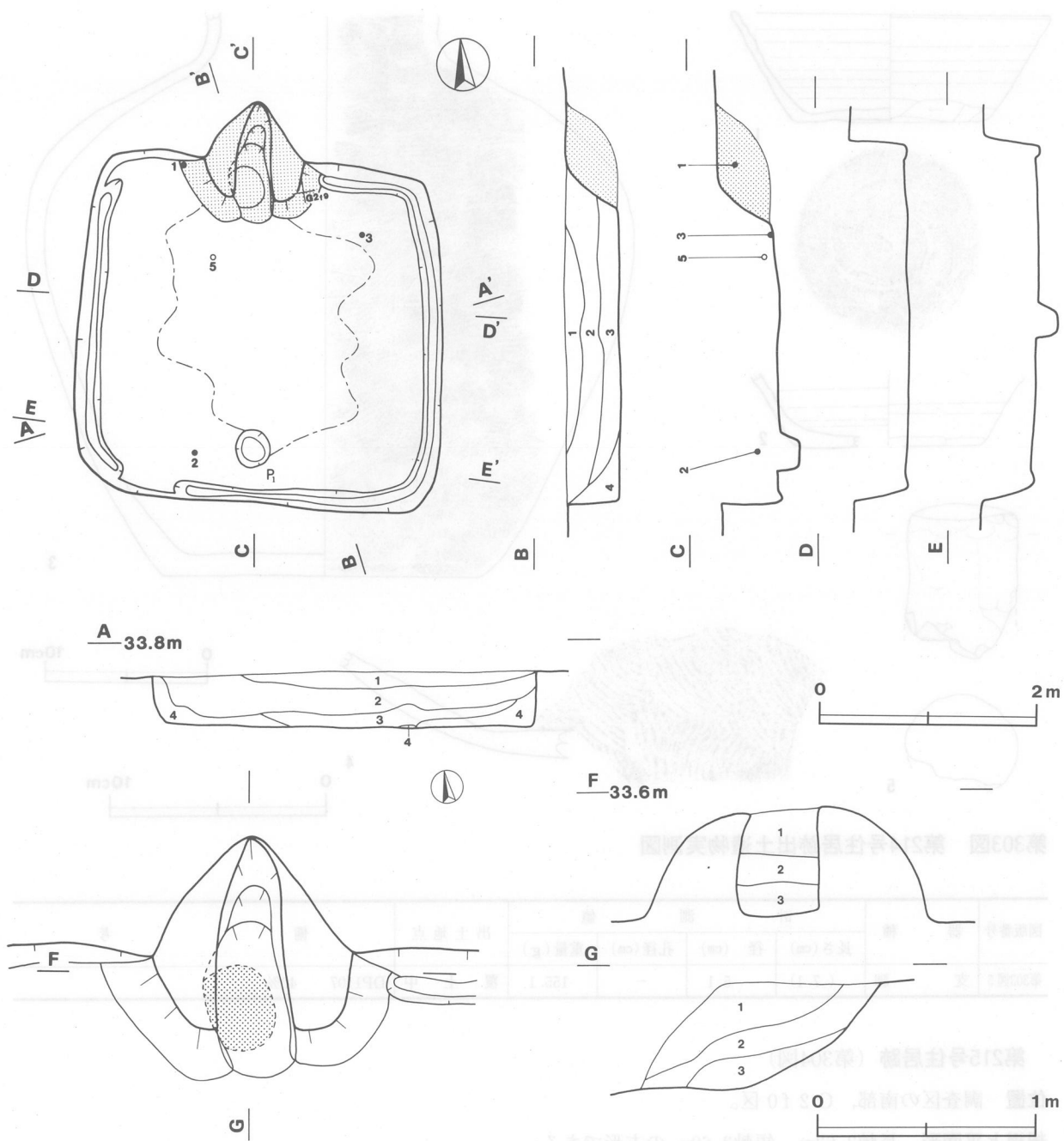
覆土 4層からなり, ロームブロックやローム粒子を含む人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量

遺物 土師器片190点(坏片9点, 高坏片1点, 甕片180点), 須恵器片19点(坏片19点), 土製支脚1点, 縄文土器片16点が出土している。覆土上層では, 第303図1の須恵器坏が竈の西側から斜位の状態で出土している。覆土下層では, 2の須恵器坏が南壁部から, 5の土製支脚が中央部から出土している。床面では, 3の須恵器甕が北東コーナー部から横位の状態で出土している。4は須恵器甕の底部から体部片で, 内面に同心円の当て具痕が施されている。

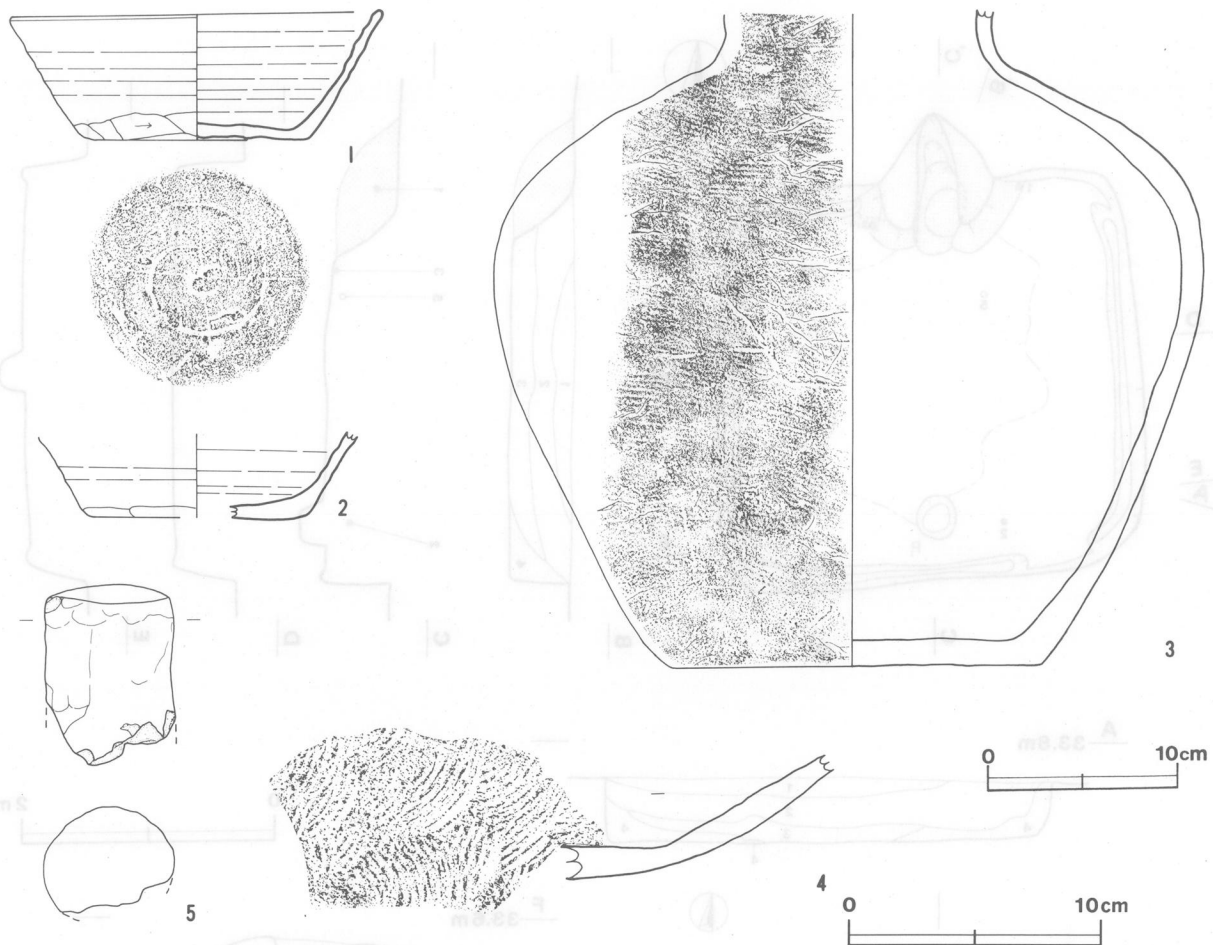
所見 本跡は, 覆土中にローム小ブロック・ローム粒子を含む層が堆積していることなどから, 人為的に埋め戻されたものと思われる。時期は, 遺構の形態及び出土遺物から8世紀後葉と考えられる。



第302図 第214号住居跡実測図

第214号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第303図 1	坏 須恵器	A 14.7 B 5.0 C 8.7	底部から口縁部片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、周縁二方向の手持ちヘラ削り。底部ヘラ記号。	長石・石英・雲母にぶい黄色普通	P 1279 80% 覆土中 PL138
2	坏 須恵器	B (3.4) C [8.4]	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母灰黄色普通	P 1280 20% 覆土中
3	甕 須恵器	B (34.6) C 19.5	底部から頸部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、頸部はわずかに外反して立ち上がる。	頸部ナデ。体部外面横位の平行叩き、底部ナデ。内面器面剝離。	長石・石英・雲母・小礫にぶい黄橙色普通	P 1281 80% 床面 PL138



第303図 第214号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第303図5	支脚	(7.1)	5.1	-	155.1	覆土中	DP1107 40%

第215号住居跡 (第304図)

位置 調査区の南部, G 2 f 0 区。

規模と平面形 長軸3.63m, 短軸3.60m の方形である。

主軸方向 N-88°-E

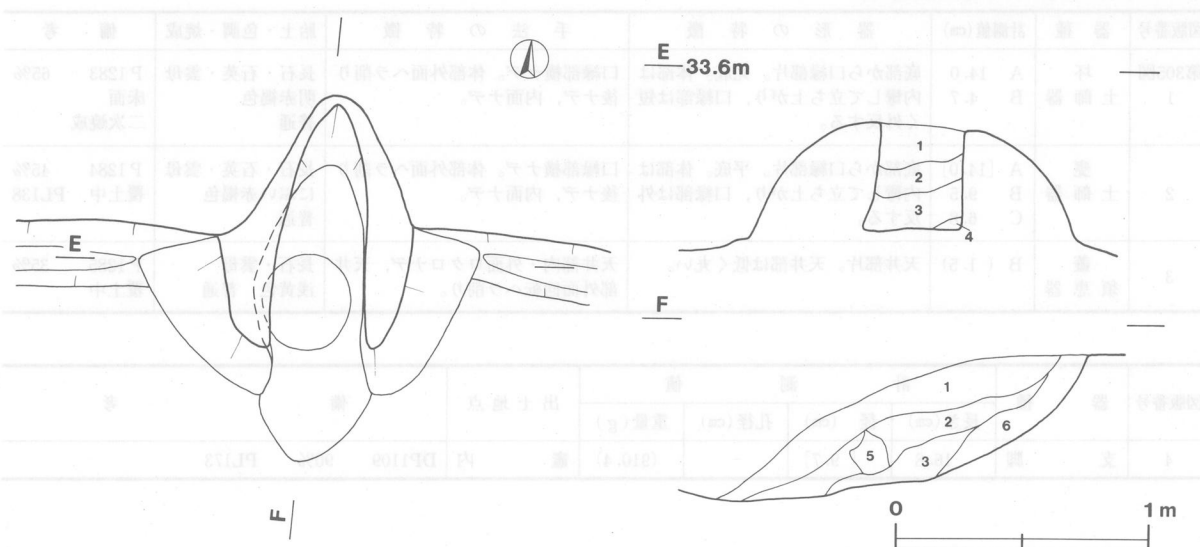
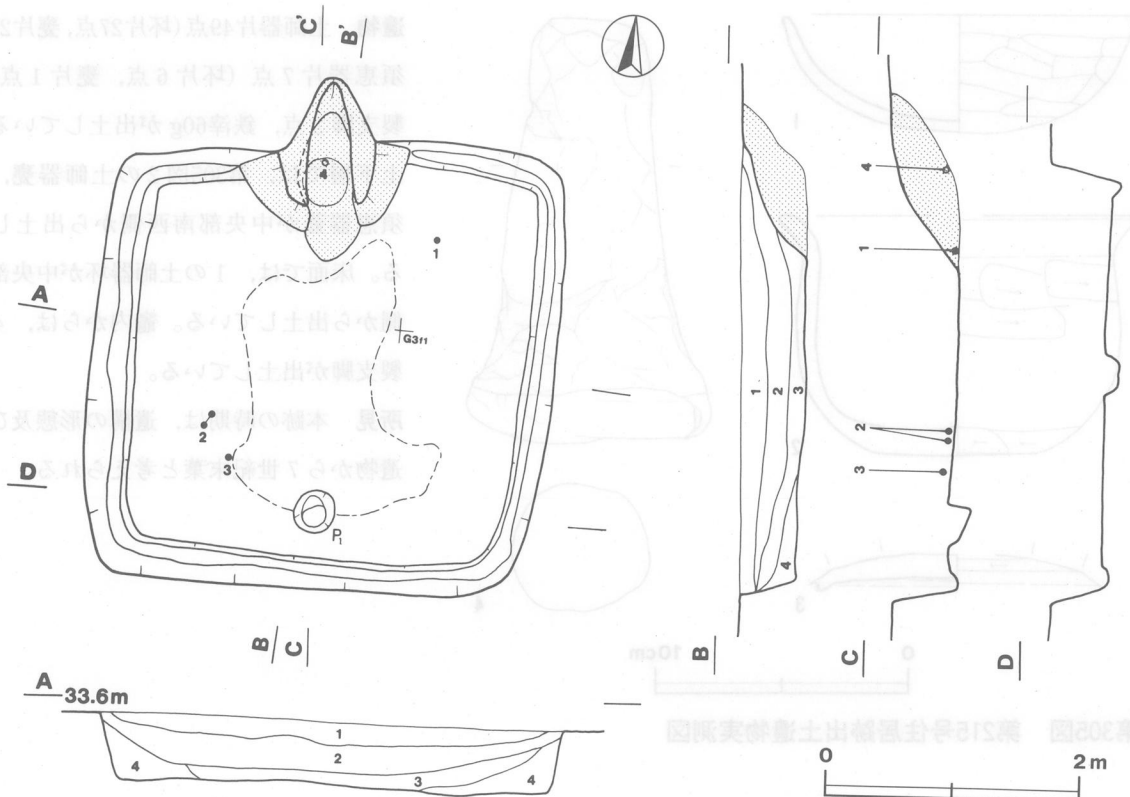
壁 壁高は40~46cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅23~36cm, 下幅6~16cm, 深さ4~8cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

ピット P1は長径35cm, 短径32cmの楕円形, 深さ4~8cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に, 砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚き口部まで145cm, 両袖最大幅119cm, 壁外への掘り込みは54cmである。袖の内壁は, 火熱を受けて赤変している。火床部は, 床面をわずかに掘りくぼめており, 火熱を受け赤変硬化している。土製支脚が, 火床部に立てられ, その周囲を粘土で覆った状態で出土している。煙道部は, 外傾して緩やかに立ち上がる。



第304図 第215号住居跡実測図

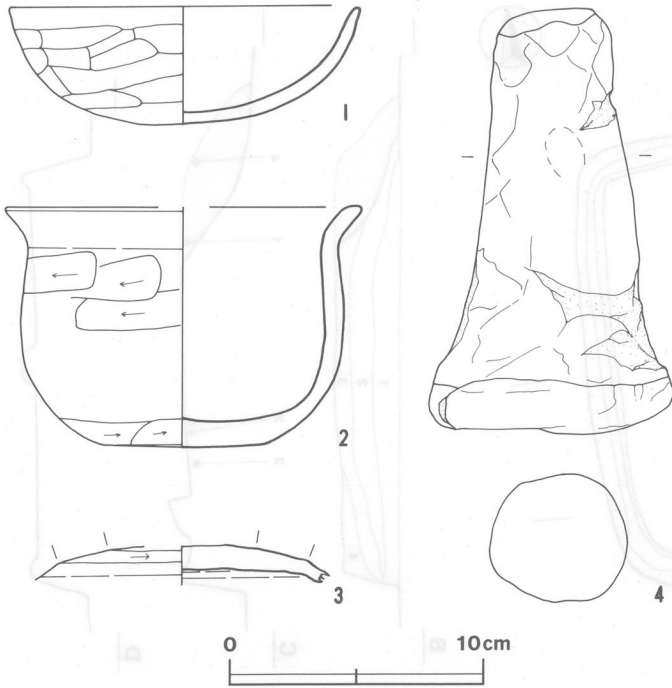
電土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・ローム・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 焼土・粘土粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土中・小ブロック・粘土粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 粘土粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子多量, 粘土粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子微量

覆土 4層からなり, レンズ状の堆積を示し, 自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量



遺物 土師器片49点(坏片27点, 甕片22点), 須恵器片7点(坏片6点, 甕片1点), 土製支脚2点, 鉄滓60gが出土している。覆土下層では, 第305図2の土師器甕, 3の須恵器蓋が中央部南西側から出土している。床面では, 1の土師器坏が中央部北東側から出土している。竈内からは, 4の土製支脚が出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から7世紀末葉と考えられる。

第305図 第215号住居跡出土遺物実測図

第215号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第305図 1	坏 土師器	A 14.0 B 4.7	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は短く外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ, 内面ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P1283 65% 床面 二次焼成
2	甕 土師器	A [14.0] B 9.5 C 6.8	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ, 内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P1284 45% 覆土中 PL138
3	蓋 須恵器	B (1.5)	天井部片。天井部は低く丸い。	天井部内・外面ロクロナデ, 天井部外面回転ヘラ削り。	長石・雲母 浅黄色 普通	P1285 35% 覆土中

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		備	考	
4	支脚	16.8	[9.7]	-	(910.4)	竈内	DP1109	90%	PL173

第216号住居跡 (第306・307図)

位置 調査区の南部, G3f2区。

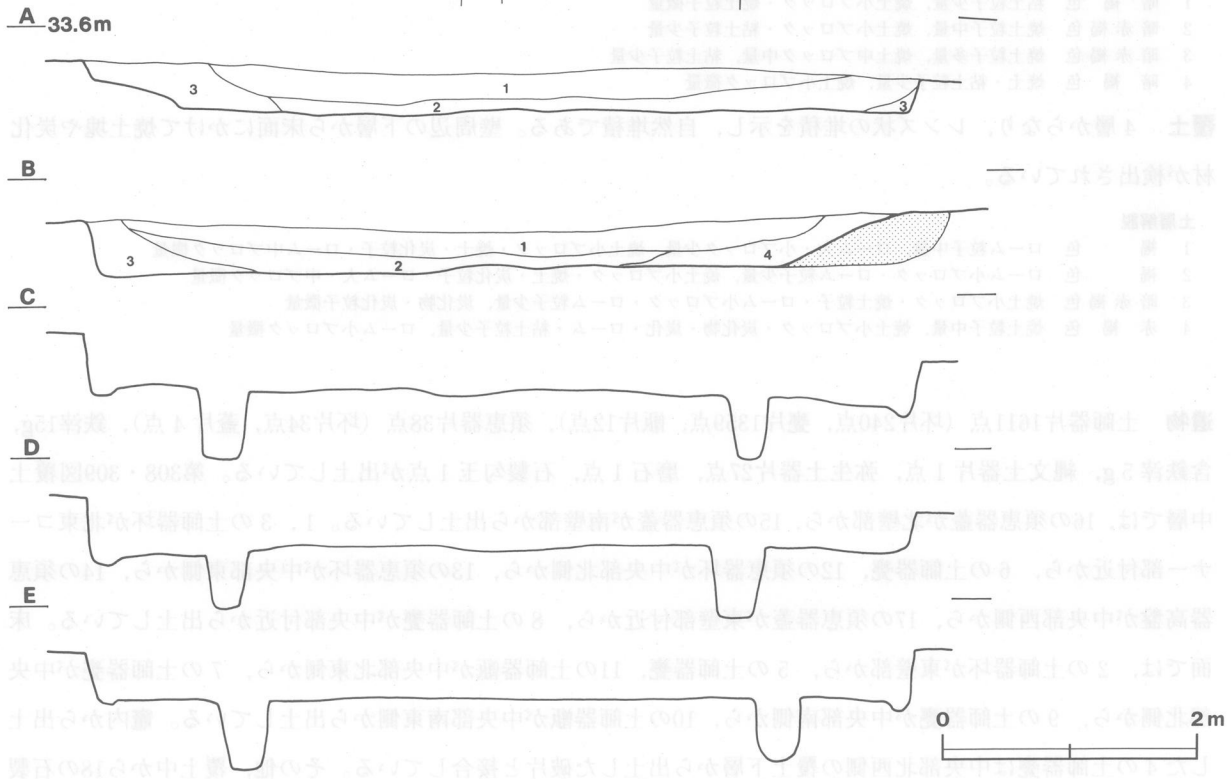
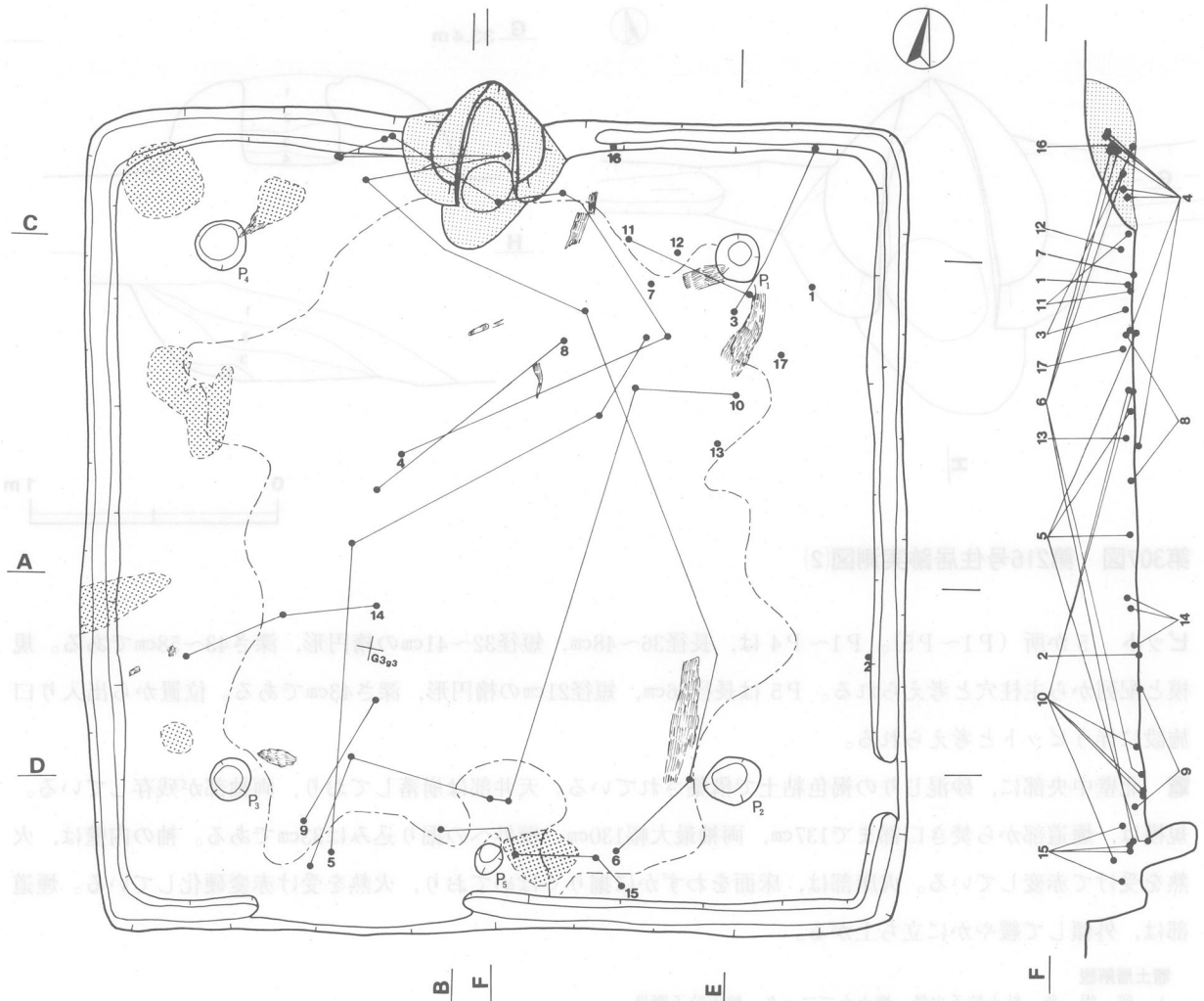
規模と平面形 長軸6.59m, 短軸6.29mの方形である。

主軸方向 N-13°-W

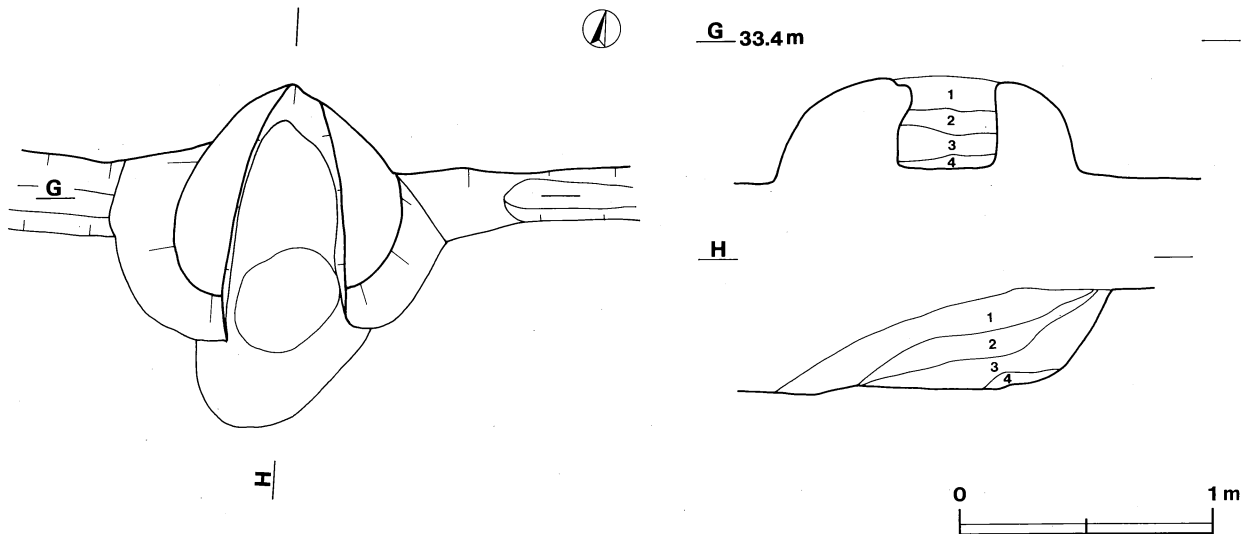
壁 壁高は31~43cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 南壁下と南東コーナー付近を除いて巡っている。上幅24~32cm, 下幅11~18cm, 深さ4~10cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。



第306図 第216号住居跡実測図(1)



第307図 第216号住居跡実測図(2)

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は、長径36~48cm、短径32~41cmの楕円形、深さ43~58cmである。規模と配列から支柱穴と考えられる。P5は長径26cm、短径21cmの楕円形、深さ43cmである。位置から出入口口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで137cm、両袖最大幅130cm、壁外への掘り込みは33cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

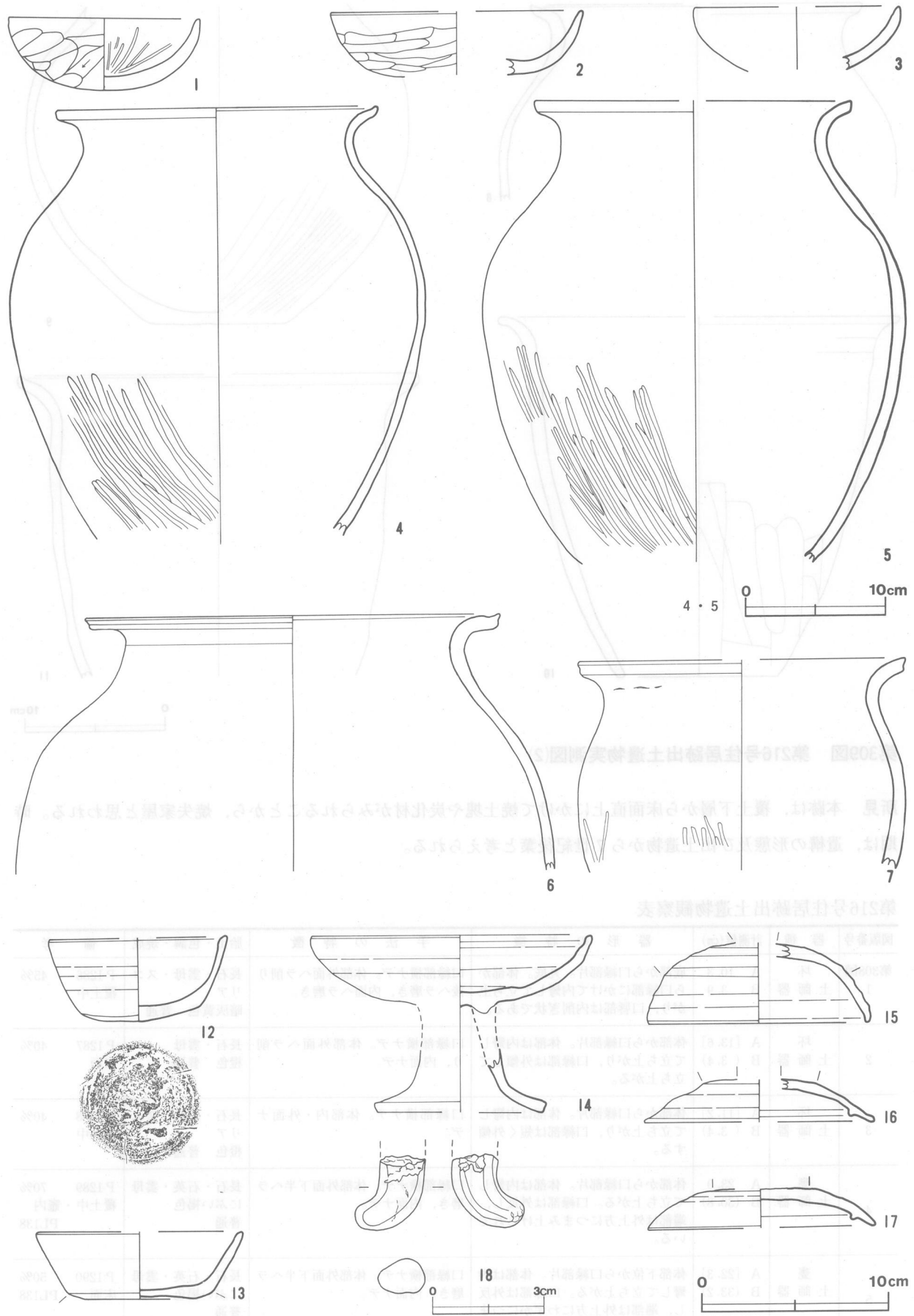
- 1 暗褐色 粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・粘土粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土中ブロック中量、粘土粒子少量
- 4 暗褐色 焼土・粘土粒子少量、焼土小ブロック微量

覆土 4層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。壁周辺の下層から床面にかけて焼土塊や炭化材が検出されている。

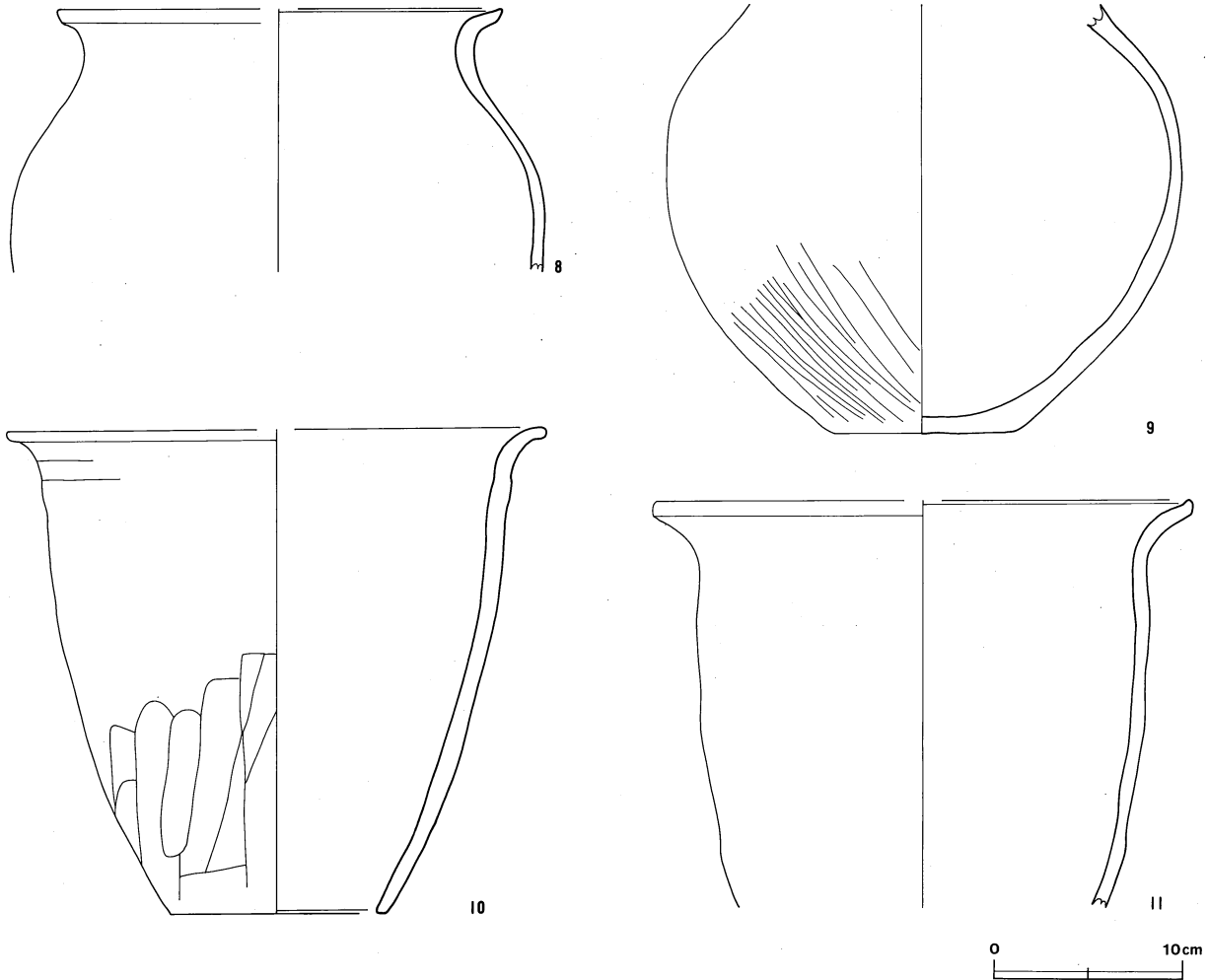
土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム大・小ブロック少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム大・中ブロック微量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物・炭化粒子微量
- 4 赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化物・炭化・ローム・粘土粒子少量、ローム小ブロック微量

遺物 土師器片1611点 (坏片240点、甕片1359点、甗片12点)、須恵器片38点 (坏片34点、蓋片4点)、鉄滓15g、含鉄滓5g、縄文土器片1点、弥生土器片27点、磨石1点、石製勾玉1点が出土している。第308・309図覆土中層では、16の須恵器蓋が北壁部から、15の須恵器蓋が南壁部から出土している。1、3の土師器坏が北東コーナー部付近から、6の土師器甕、12の須恵器坏が中央部北側から、13の須恵器坏が中央部東側から、14の須恵器高盤が中央部西側から、17の須恵器蓋が東壁部付近から、8の土師器甕が中央部付近から出土している。床面では、2の土師器坏が東壁部から、5の土師器甕、11の土師器甗が中央部北東側から、7の土師器甕が中央部北側から、9の土師器甕が中央部南側から、10の土師器甗が中央部南東側から出土している。竈内から出土した4の土師器甕は中央部北西側の覆土下層から出土した破片と接合している。その他、覆土中から18の石製勾玉が出土している。



第308図 第216号住居跡出土遺物実測図(1)



第309図 第216号住居跡出土遺物実測図(2)

所見 本跡は、覆土下層から床面直上にかけて焼土塊や炭化材がみられることから、焼失家屋と思われる。時期は、遺構の形態及び出土遺物から7世紀後葉と考えられる。

第216号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第308図 1	坏 土師器	A 10.3 B 3.9	底部から口縁部片。丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がり、口唇部は内削ぎ状である。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ヘラ磨き。	長石・雲母・スコリア 暗灰黄色 普通	P 1286 45% 覆土中
2	坏 土師器	A [13.6] B (3.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・雲母 橙色 普通	P 1287 40% 床面
3	坏 土師器	A [11.2] B (3.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外傾する。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P 1288 40% 覆土中
4	甕 土師器	A 23.0 B (30.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面下半ヘラ磨き、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 1289 70% 覆土中・竈内 PL138
5	甕 土師器	A [22.3] B (33.2)	体部下位から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、端部は外上方にわずかにつまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面下半ヘラ磨き、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 1290 50% 床面 PL138

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第308図 6	甕 土師器	A 22.3 B (13.7)	体部上位から口縁部片。体部は内 彎して立ち上がる。口縁部は外反 し、端部は外上方につまみ上げら れている。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1291 30% 覆土中 PL139
7	甕 土師器	A [17.6] B (11.3)	体部中位から口縁部片。体部は内 彎して立ち上がる。口縁部は外反 し、端部は外上方につまみ上げら れている。	口縁部横ナデ。体部外面中位から ヘラ磨き、内面ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 1293 20% 床面
第309図 8	甕 土師器	A [23.6] B (13.6)	体部上位から口縁部片。体部は内 彎して立ち上がる。口縁部は外反 し、端部は外上方につまみ上げら れている。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 1292 10% 覆土中 PL139
9	甕 土師器	B (22.6) C 9.6	底部から体部片。平底。体部は内 彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ磨き、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P 1294 30% 床面
10	甗 土師器	A [28.5] B 25.7 C 11.4	底部から口縁部片。無底式。体部 は内彎して立ち上がる。口縁部は 外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、 内面ナデ。	長石・石英・スコ リア にぶい橙色 普通	P 1295 40% 床面
11	甗 土師器	A [28.4] B (21.5)	体部から口縁部片。体部は内彎し て立ち上がる。口縁部は外反し、 端部は外上方につまみ上げられて いる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、 内面ナデ。	長石・石英・スコ リア 橙色 普通	P 1296 20% 床面
第308図 12	坏 須恵器	A [9.8] B 4.5 C 6.3	底部から口縁部片。平底。体部か ら口縁部にかけて外傾して立ち上 がる。	口縁部、体部内・外面クロロナデ。 底部回転ヘラ切り。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P 1297 65% 覆土内 PL139
13	坏 須恵器	A [11.2] B 3.6 C [5.8]	底部から口縁部片。平底。体部か ら口縁部にかけて外傾して立ち上 がる。	口縁部、体部内・外面クロロナデ。 体部下端回転ヘラ削り。底部回転 ヘラ削り。体部内・外面器面荒れ。	長石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	P 1299 45% 覆土中 PL139 二次焼成
14	高 須恵器	A 15.2 B [7.6] D [9.0] E [4.0]	脚部から坏部片。脚部は短くラッ パ状に開く。坏部から口縁部にか けて内彎して立ち上がり、口縁部 内面に凹線を持つ、端部は丸い。	坏部、脚部内・外面クロロナデ。	長石・石英 黄灰色 普通	P 1300 50% 覆土内 PL139
15	蓋 須恵器	A 12.0 B (4.3)	天井部から口縁部片。外周部から 口縁部にかけて下降する。端部は 丸い。	口縁部、天井部内・外面クロロナ デ。天井部上位回転ヘラ削り。	長石 灰色 普通	P 1298 60% 覆土中
16	蓋 須恵器	A [12.4] B (2.4)	天井部から口縁部片。天井部は低 く丸く、内側に短いかえりを持つ。	口縁部、天井部内・外面クロロナ デ。天井部上位回転ヘラ削り。	長石・雲母 灰黄色 普通	P 1301 45% 覆土中
17	蓋 須恵器	A [12.2] B (2.1)	天井部から口縁部片。天井部は低 く丸く、口縁部内面に短いかえり を持つ。	口縁部、天井部内・外面クロロナ デ。天井部上位回転ヘラ削り。つ まみ部剥離。	長石 黄灰色 普通	P 1302 40% 覆土中

図版番号	器種	計 測 値					石 質	出土地点	備 考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
18	勾 玉	(2.0)	1.3	0.9	-	(4.4)	瑪 瑙	覆 土 中	Q1017 90% PL173

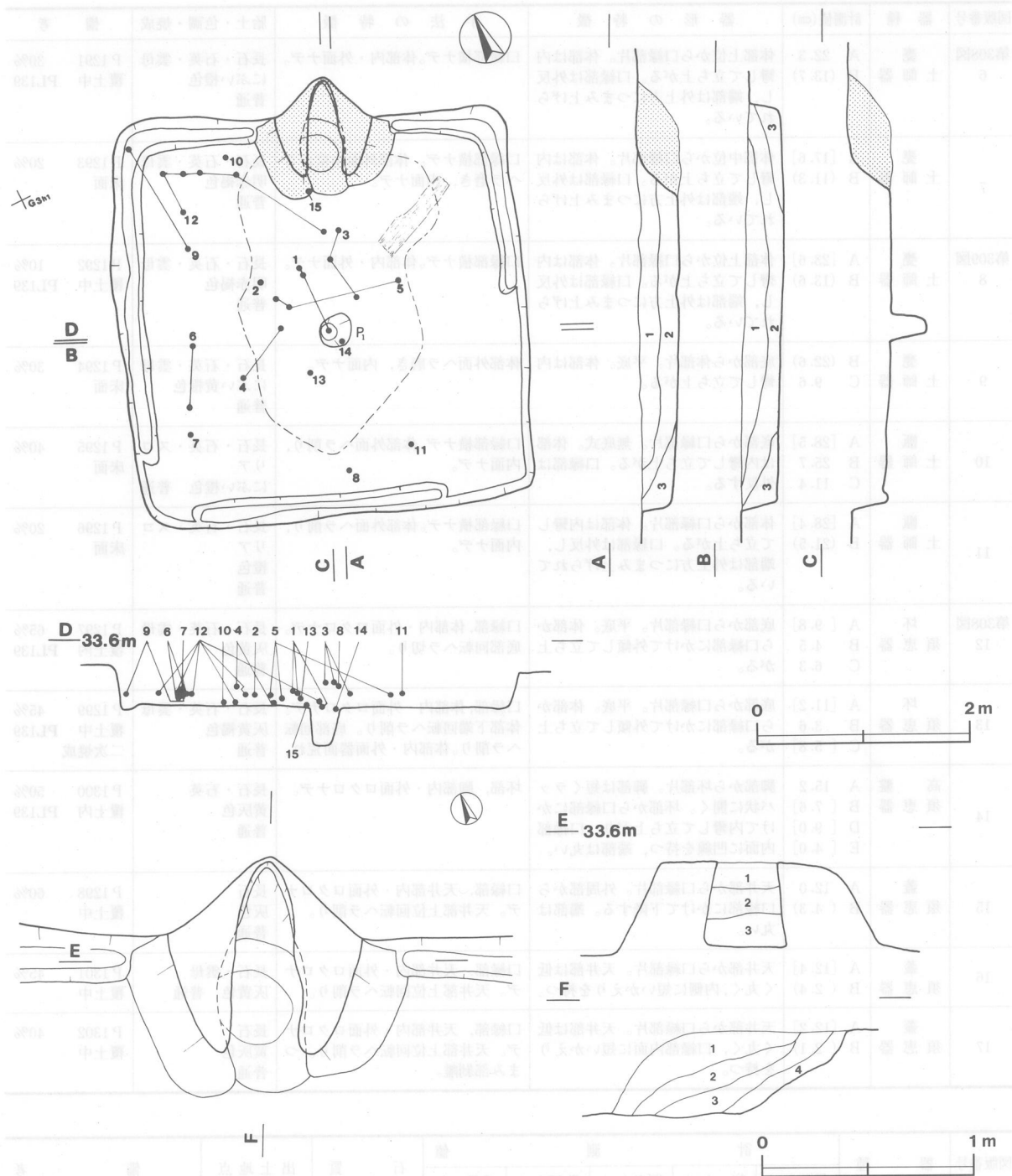
第217号住居跡 (第310図)

位置 調査区の南部，G 3 h1 区。

規模と平面形 長軸3.85m，短軸3.80m の方形である。

主軸方向 N - 20° - E

壁 壁高は30～37cmで，外傾して立ち上がる。



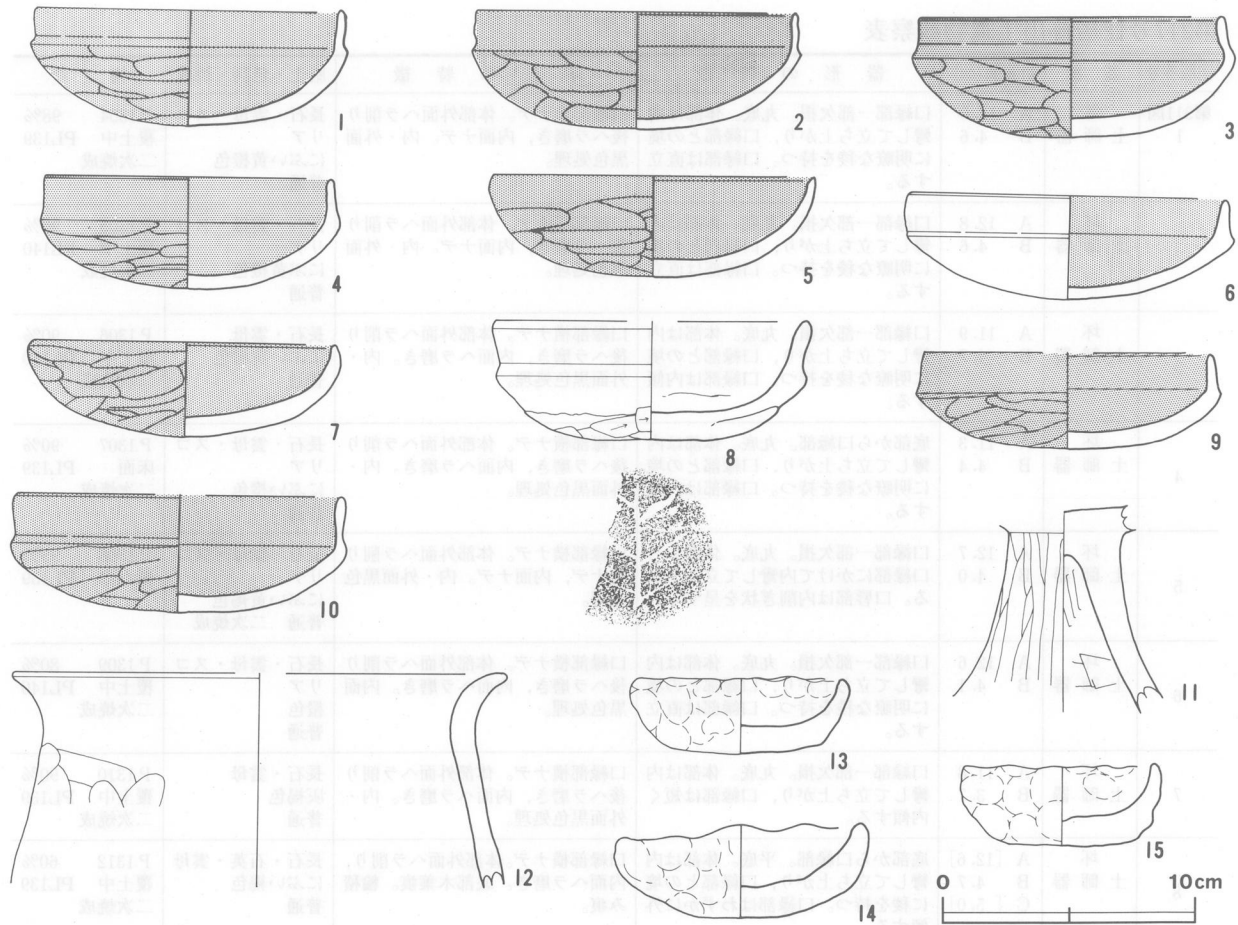
第310図 第217号住居跡実測図

壁溝 南東コーナー部と南西コーナー部付近の壁下を除いて巡っている。上幅18~34cm, 下幅6~13cm, 深さ4~6cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

ピット P1は径31cmの円形, 深さ34cmであるが, 性格は不明である。

竈 北壁中央部に, 砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚き口部まで111cm, 両袖最大幅129cm, 壁外への掘り込みは38cmである。袖の内壁は, 火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は, 床面を6cm掘りくぼめており, 火熱を受け赤変硬化している。



第311図 第217号住居跡出土遺物実測図

煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

甕土層解説

- 1 灰褐色 粘土粒子中量, 焼土・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, 灰微量
- 4 暗赤褐色 ローム粒子少量, 焼土・粘土粒子微量

覆土 3層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

遺物 土師器片312点(坏片87点, 甕片225点), 鉄滓5g, 縄文土器片6点, 弥生土器片2点が出土している。覆土上層では、第311図2, 3, 5の土師器坏, 13の手捏土器が中央部付近から, 6の土師器坏が中央部西側から, 7の土師器坏が西コーナー部から, 8の土師器坏, 11の土師器高坏が南東壁部から出土している。2, 3は正位, 5, 7は逆位, 13は横位, 8は斜位の状態で出土している。覆土下層では、1の土師器坏が中央部から, 9の土師器坏, 12の土師器甕が北コーナー部付近から出土している。床面では、4の土師器坏が中央部から逆位の状態で, 10の土師器坏が北コーナー部付近から, 14の土師器手捏土器が中央部付近から, 15の土師器手捏土器が竈前方部から出土している。ほとんどの出土遺物は二次焼成をうけている。

所見 本跡の出土遺物は二次焼成をうけていることから焼失したと思われる。時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀後葉と考えられる。

第217号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第311図 1	坏土師器	A 12.0 B 4.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P 1304 98% 覆土中 PL139 二次焼成
2	坏土師器	A 12.8 B 4.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P 1305 95% 覆土中 PL140 二次焼成
3	坏土師器	A 11.9 B 4.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母 にぶい黄橙色 普通	P 1306 90% 覆土中 PL140 二次焼成
4	坏土師器	A 11.3 B 4.4	底部から口縁部。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P 1307 90% 床面 PL139 二次焼成
5	坏土師器	A 12.7 B 4.0	口縁部一部欠損。丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。口唇部は内削ぎ状を呈する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・雲母・スコリア にぶい黄褐色 普通 二次焼成	P 1308 95% 覆土中 PL139
6	坏土師器	A 12.6 B 4.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P 1309 80% 覆土中 PL140 二次焼成
7	坏土師器	A 11.8 B 3.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母 灰褐色 普通	P 1310 90% 覆土中 PL139 二次焼成
8	坏土師器	A [12.6] B 4.7 C [5.0]	底部から口縁部。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き。底部木葉痕。輪積み痕。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 1312 60% 覆土中 PL139 二次焼成
9	坏土師器	A [11.4] B 3.8	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P 1311 60% 覆土中 PL139 二次焼成
10	坏土師器	A [13.0] B 4.7	底部から口縁部。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P 1313 60% 床面 PL139 二次焼成
11	高坏土師器	B (8.1) E (7.2)	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面ヘラ削り後、ナデ、内面ヘラナデ。	長石・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P 1314 20% 覆土中
12	甕土師器	A [19.5] B (8.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。外面一部器面剥離。	長石・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P 1315 20% 覆土中 二次焼成
13	手捏土器土師器	A 8.2 B 3.1 C 3.2	底部から口縁部片。丸底。体部から口縁にかけて内彎して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。外面指頭痕。	長石・雲母 灰色 普通	P 1316 85% 覆土内 PL139 二次焼成
14	手捏土器土師器	A 10.0 B 3.7	底部から口縁部片。丸底。体部から口縁にかけて内彎して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。外面指頭痕。	長石・雲母 にぶい赤褐色 不良	P 1317 70% 床面 二次焼成
15	手捏土器土師器	A 7.6 B 3.3 C 3.7	底部から口縁部片。丸底。体部から口縁にかけて内彎して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。外面指頭痕。	長石・雲母 灰黄褐色 普通	P 1318 70% 床面 二次焼成

第218A号住居跡 (第312図)

位置 調査区の南部、G 2 h 8 区。

重複関係 本跡が、第218B号住居跡の東壁部を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.92m、短軸3.68mの方形である。

主軸方向 N-2°-E

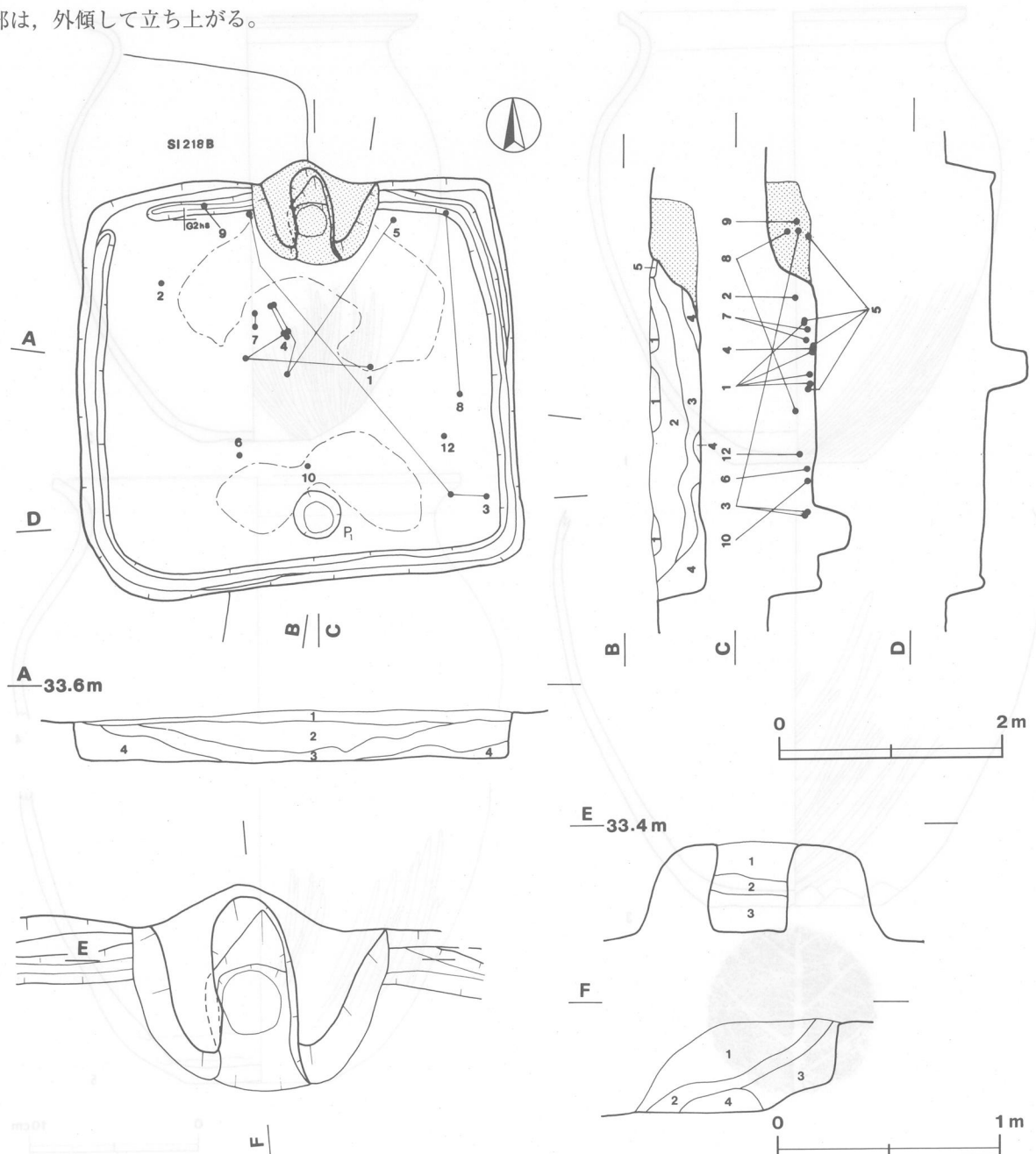
壁 壁高は32~43cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北西コーナー部を除いて巡っている。上幅18~26cm、下幅5~13cm、深さ4~5cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、竈前方と出入口ピット付近が踏み固められている。

ピット P1は長径45cm、短径43cmの楕円形、深さ36cmである。位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで95cm、両袖最大幅105cm、壁外への掘り込みは20cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して立ち上がる。



第312図 第218A号住居跡実測図

竈土層解説

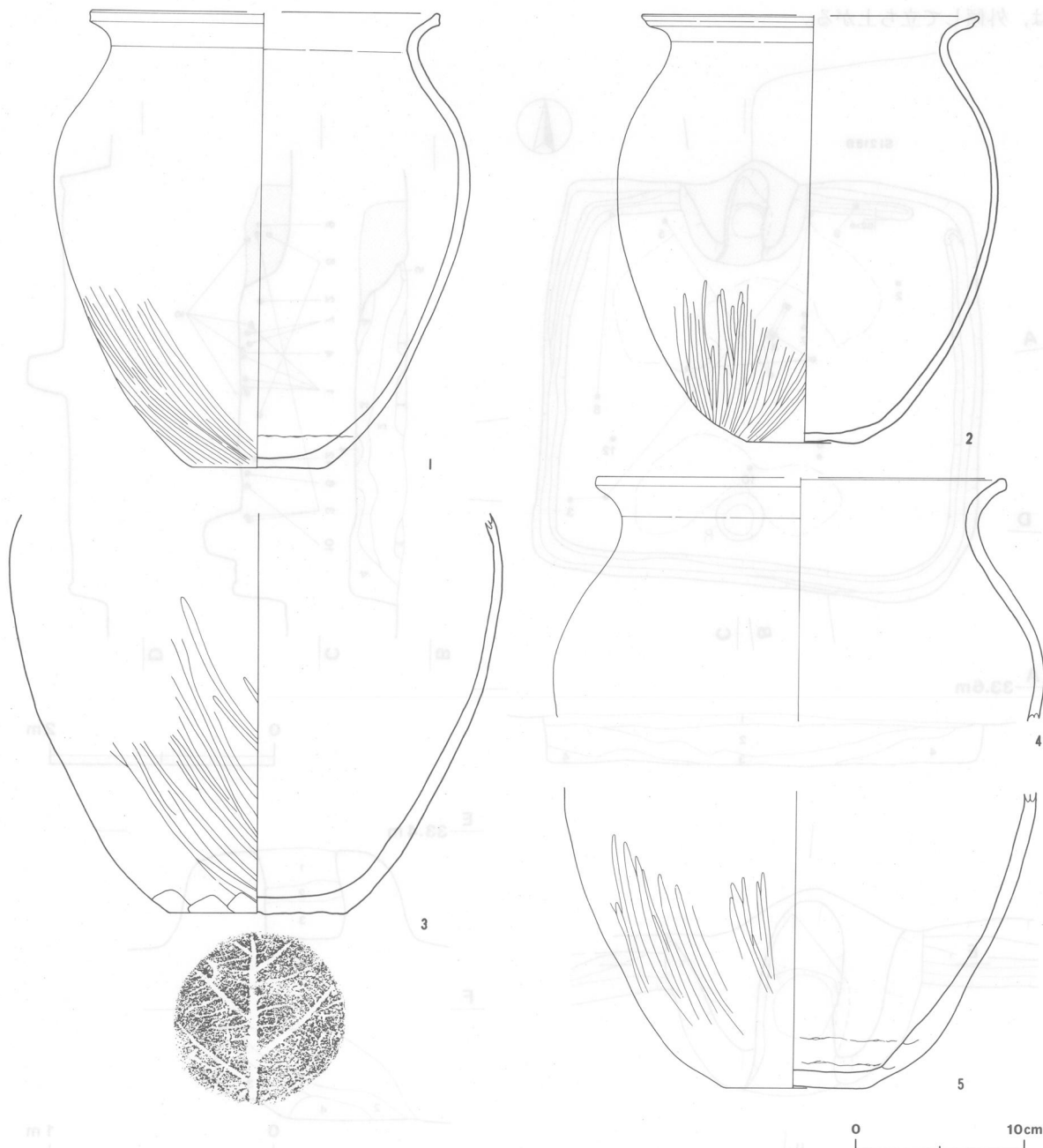
- 1 暗褐色 焼土中ブロック・焼土・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子少量, 焼土中ブロック微量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, 粘土粒子微量

覆土 5層からなり, レンズ状の堆積を示し, 自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土・炭化・ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土中ブロック・炭化物・ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 5 褐色 ローム・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量

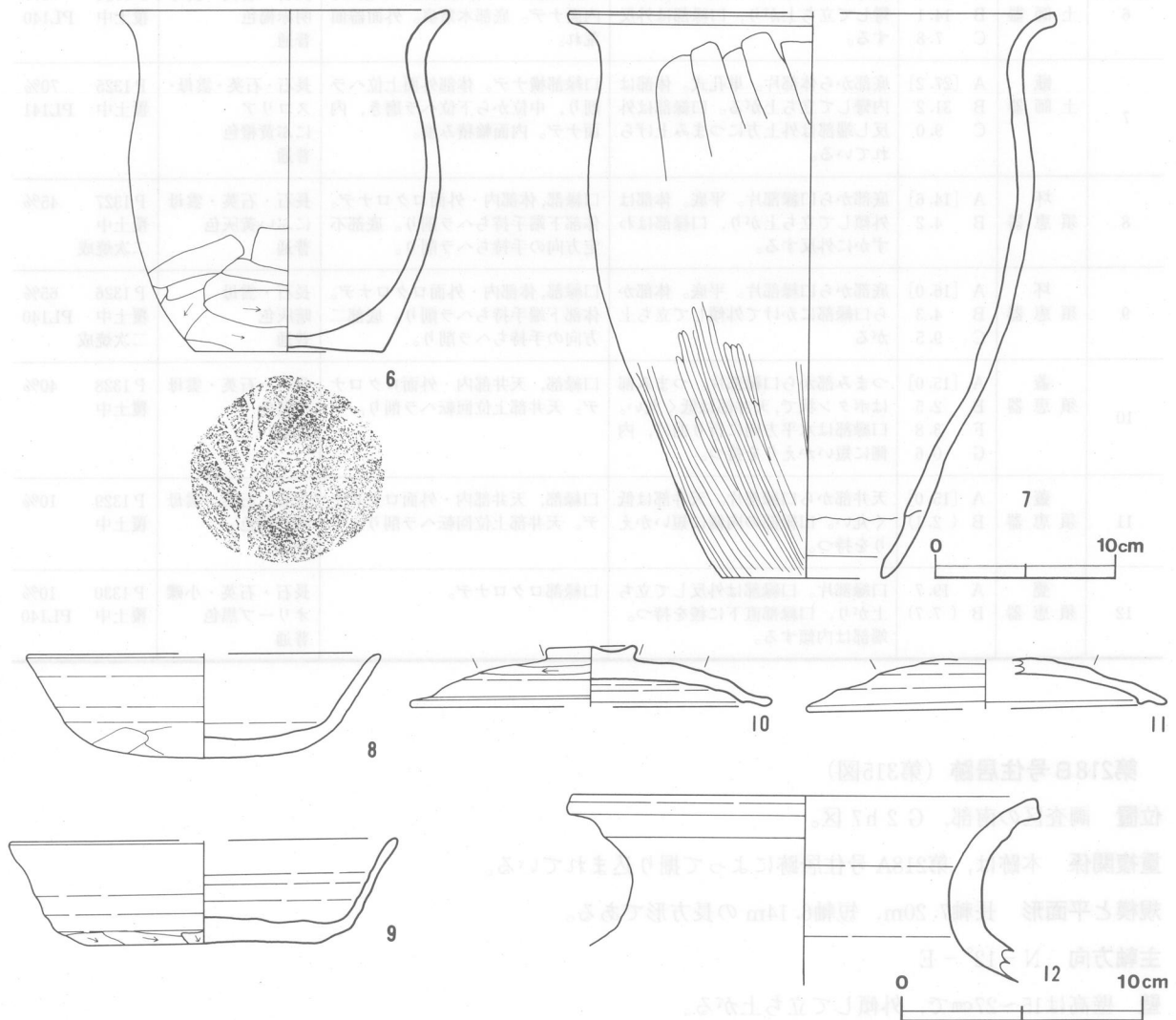
遺物 土師器片358点(坏片36点, 甕片322点), 須恵器片8点(坏片5点, 甕片2点, 蓋片1点)が出土して



第313図 第218A号住居跡出土遺物実測図(1)

いる。第313・314図覆土中層では、2の土師器甕が北西コーナー部付近から横位の状態で、8の須恵器杯が東壁部から、12の須恵器甕が南東コーナー部から出土している。覆土下層では、1、4の土師器甕、7の土師器甕が中央部から、3の土師器甕が竈の西側から、6の土師器甕、10の須恵器蓋が中央部南側から、9の須恵器杯が北西コーナー部から出土している。床面では、5の土師器甕が中央部から出土している。6は横位、9は正位の状態で出土している。その他、覆土中から11の須恵器蓋が出土している。

所見 遺物の大部分は、出土状況から北壁側から投棄されたものと思われる。本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と考えられる。



第314図 第218A号住居跡出土遺物実測図(2)

第218A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第313図 1	甕 土師器	A [27.7] B 35.8 C 10.4	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面下半ヘラ磨き、内面ナデ。内面輪積み痕。	長石・石英・雲母にぶい褐色普通	P 1319 60% 覆土中 PL140
2	甕 土師器	A [26.4] B 33.6 C 9.0	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。外面一部器面剝離。	長石・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P 1320 60% 覆土中 PL140 二次焼成

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第313図 3	甕 土師器	B (24.6) C 10.3	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面中位から下位へラ磨き体部下端へラ削り、内面ナデ。底部木葉痕。	長石・石英・雲母にぶい黄橙色普通	P 1321 40% 覆土中
4	甕 土師器	A [24.4] B (14.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母にぶい橙色普通	P 1322 20% 覆土中
5	甕 土師器	B (17.6) C 8.7	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面下位へラ磨き、内面ナデ。内面輪積み痕。	長石・雲母灰褐色普通	P 1323 40% 床面
第314図 6	甕 土師器	A 13.6 B 14.1 C 7.8	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。底部木葉痕。外面器面荒れ。	長石・石英・雲母明赤褐色普通	P 1324 70% 覆土中 PL140
7	甗 土師器	A [27.2] B 31.2 C 9.0	底部から体部片。単孔式。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面上位へラ削り、中位から下位へラ磨き、内面ナデ。内面輪積み痕。	長石・石英・雲母・スコリアにぶ黄褐色普通	P 1325 70% 覆土中 PL141
8	坏 須恵器	A [14.6] B 4.2	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部不定方向の手持ちへラ削り。	長石・石英・雲母にぶい黄灰色普通	P 1327 45% 覆土中 二次焼成
9	坏 須恵器	A [16.0] B 4.3 C 9.5	底部から口縁部片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下端手持ちへラ削り。底部二方向の手持ちへラ削り。	長石・雲母暗灰色普通	P 1326 65% 覆土中 PL140 二次焼成
10	蓋 須恵器	A [15.0] B 2.5 F 3.8 G 0.6	つまみ部から口縁部片。つまみ部はボタン状で、天井部は低く丸い。口縁部は水平方向に折り曲げ、内側に短いかえりを持つ。	口縁部、天井部内・外面ロクロナデ。天井部上位回転へラ削り。	長石・石英・雲母灰黄色普通	P 1328 40% 覆土中
11	蓋 須恵器	A [15.0] B (2.1)	天井部から口縁部片。天井部は低く丸い。口縁部の内側に短いかえりを持つ。	口縁部、天井部内・外面ロクロナデ。天井部上位回転へラ削り。	長石・石英・雲母暗灰黄色普通	P 1329 10% 覆土中
12	甕 須恵器	A 19.7 B (7.7)	口縁部片。口縁部は外反して立ち上がり、口縁部直下に稜を持つ。端部は内傾する。	口縁部ロクロナデ。	長石・石英・小礫オリープ黒色普通	P 1330 10% 覆土中 PL140

第218B号住居跡（第315図）

位置 調査区の南部，G 2 h7 区。

重複関係 本跡は，第218A号住居跡によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸7.20m，短軸6.14mの長方形である。

主軸方向 N-12°-E

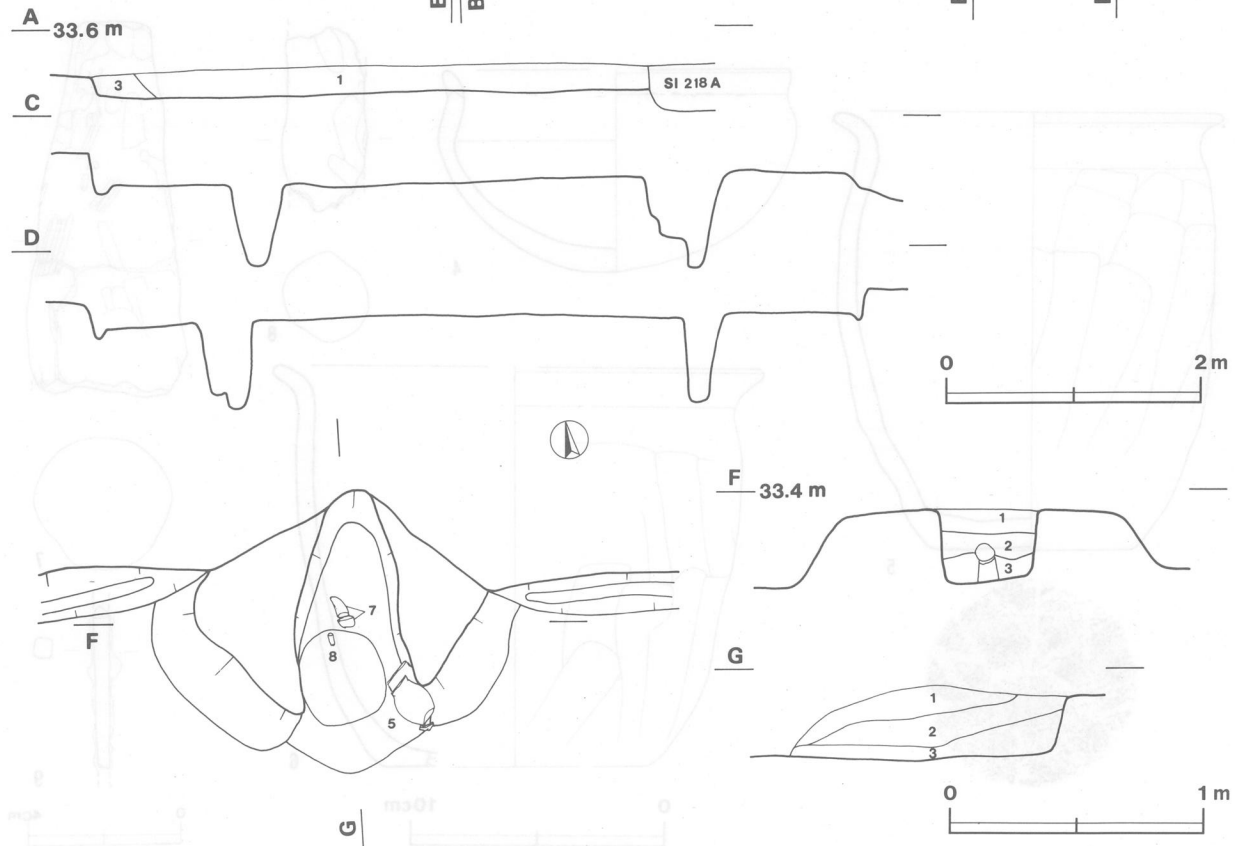
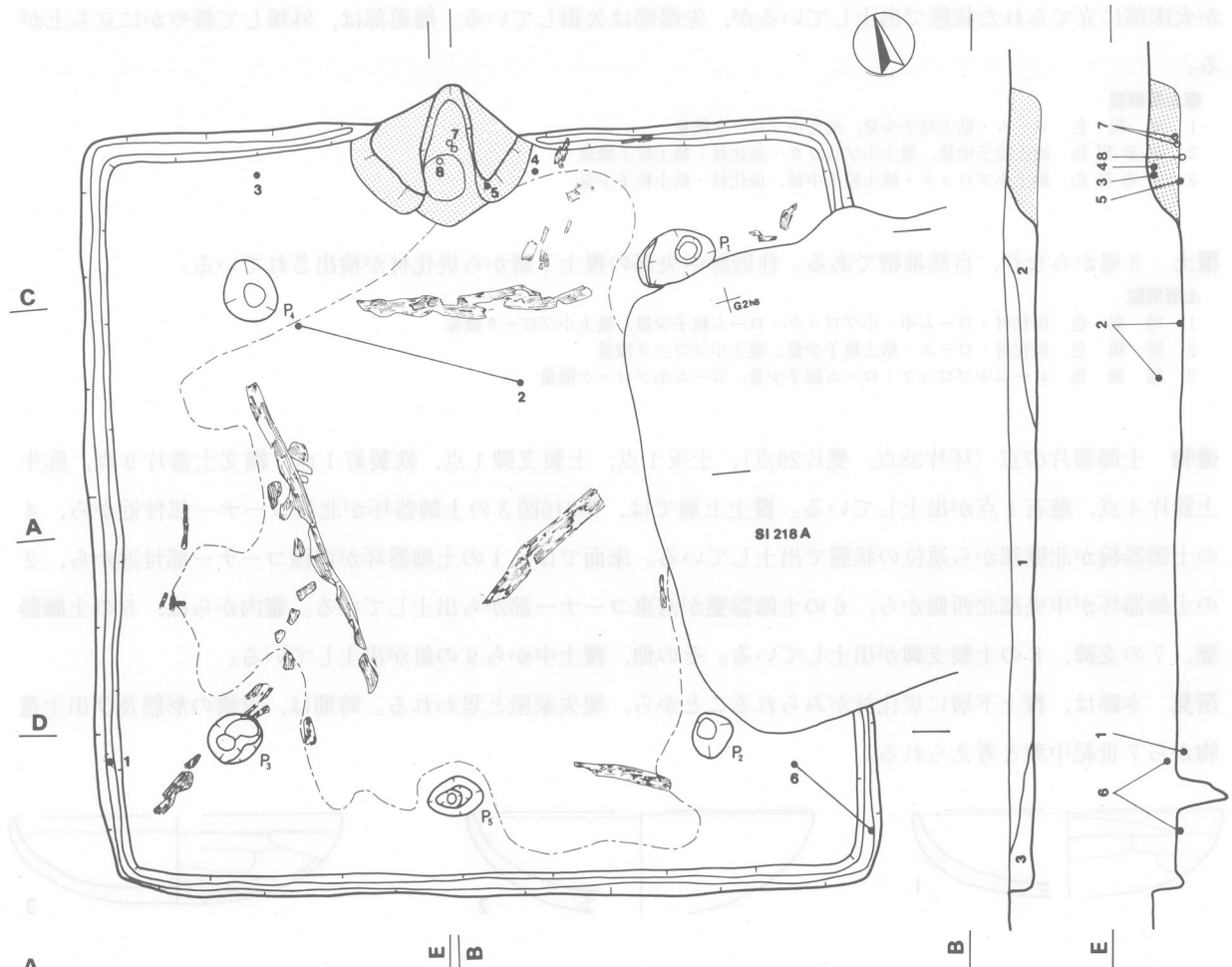
壁 壁高は15～27cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅14～27cm，下幅5～10cm，深さ6～8cmで，断面形はU字状である。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット 5か所（P1～P5）。P1～P4は，長径38～65cm，短径30～42cmの楕円形，深さ65～73cmである。規模と配列から支柱穴と考えられる。P5は長径46cm，短径32cmの楕円形，深さ39cmの楕円形である。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に，砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，煙道部から焚き口部まで111cm，両袖最大幅144cm，壁外への掘り込みは36cmである。袖の内壁は，火熱を受けて赤変している。火床部は，床面をわずかに掘りくぼめており，火熱を受け赤変硬化している。支脚



第315図 第218B号住居跡実測図

第316図 第218B号住居跡出土遺物実測図

が火床部に立てられた状態で出土しているが、先端部は欠損している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

電土層解説

- 1 暗褐色 ローム・粘土粒子少量，焼土小ブロック微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化材・粘土粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量，炭化材・粘土粒子少量

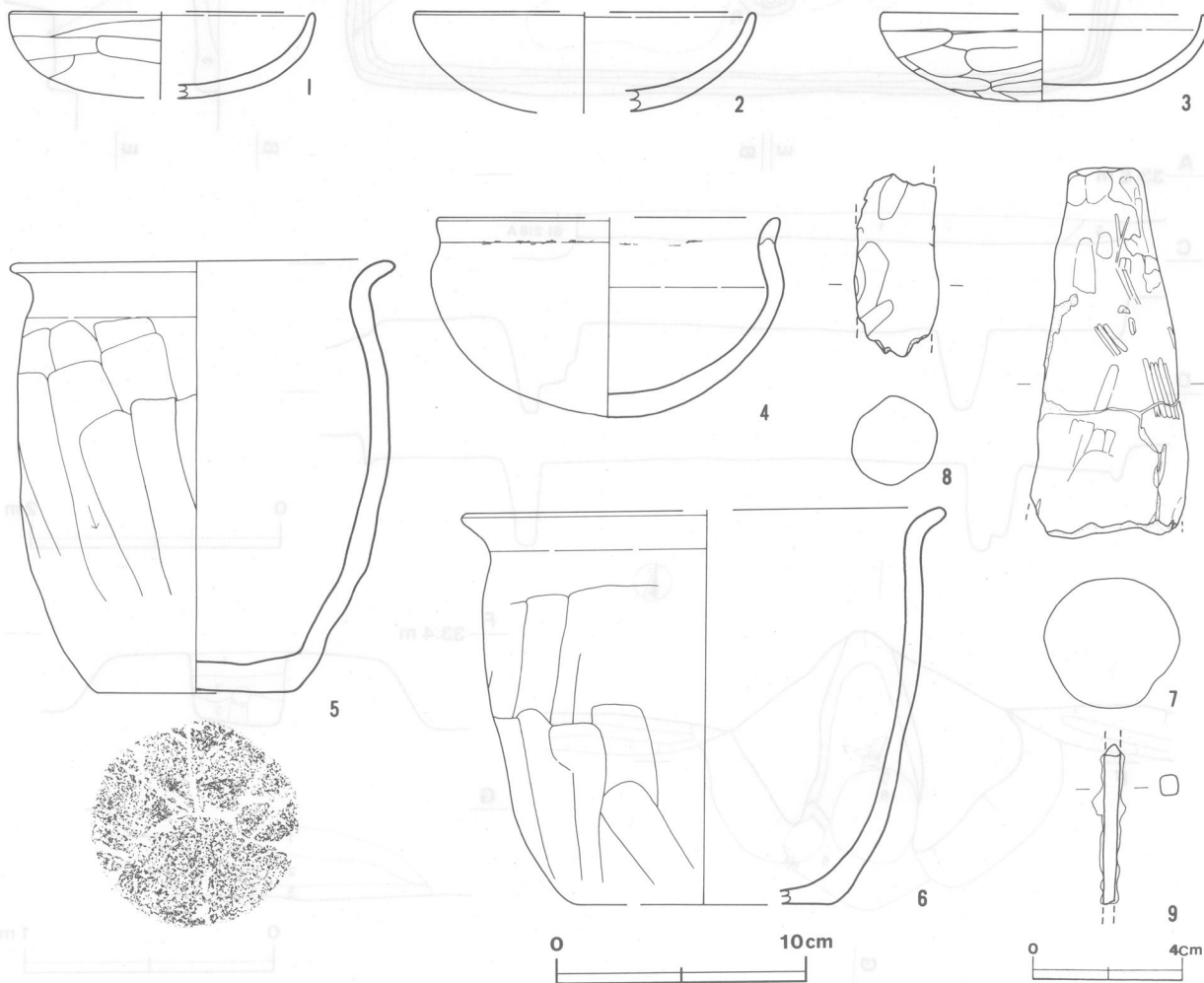
覆土 3層からなり，自然堆積である。住居跡中央部の覆土下層から炭化材が検出されている。

土層解説

- 1 暗褐色 炭化材・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック微量
- 2 暗褐色 炭化材・ローム・粘土粒子少量，焼土小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子少量，ローム小ブロック微量

遺物 土師器片67点（坏片38点，甕片29点），土玉1点，土製支脚1点，鉄製釘1点，縄文土器片9点，弥生土器片4点，敲石1点が出土している。覆土上層では，第316図3の土師器坏が北西コーナー部付近から，4の土師器碗が北壁部から逆位の状態で出土している。床面では，1の土師器坏が南西コーナー部付近から，2の土師器坏が中央部北西側から，6の土師器甕が南東コーナー部から出土している。竈内からは，5の土師器甕，7の支脚，8の土製支脚が出土している。その他，覆土中から9の釘が出土している。

所見 本跡は，覆土下層に炭化材がみられることから，焼失家屋と思われる。時期は，遺構の形態及び出土遺物から7世紀中葉と考えられる。



第316図 第218B号住居跡出土遺物実測図

第218B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第316図 1	坏 土師器	A [12.2] B (3.5)	体部から口縁部片。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ナデ。	長石・石英・スコリア にぶい橙色 普通	P 1331 30% 床面
2	坏 土師器	A [13.6] B (4.0)	体部から口縁部片。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部内面ナデ。外面器面荒れ。	長石・石英 黒色 普通	P 1332 30% 床面 二次焼成
3	坏 土師器	A [13.0] B 3.5	体部から口縁部片。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ナデ。	長石・スコリア にぶい黄橙色 普通	P 1333 10% 覆土中 二次焼成
4	碗 土師器	A [13.7] B 8.0	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部内面ナデ。外面器面荒れ。口縁部内・外面に輪積み痕。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P 1334 70% 覆土中 PL140 二次焼成
5	甕 土師器	A 15.4 B 17.3 C 8.1	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り、内面ナデ。底部木葉痕。外面器面荒れ。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 不良	P 1335 80% 竈内 PL140 二次焼成
6	甕 土師器	A [19.8] B 16.0 C [10.4]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P 1336 50% 床面 PL140

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径 (cm)	孔径(cm)	重量(g)		
7	支脚	(14.9)	[6.8]	-	(400.4)	竈内 DP1110	80%
8	支脚	(7.3)	3.4	-	(84.8)	竈内 DP1111	30%

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
9	釘	(4.3)	0.9	0.5	(3.6)	覆土中 M1025	95% PL179

第219号住居跡 (第317図)

位置 調査区の南部，G 2 e6 区。

規模と平面形 長軸4.33m，短軸4.11mの方形である。

主軸方向 N - 5° - W

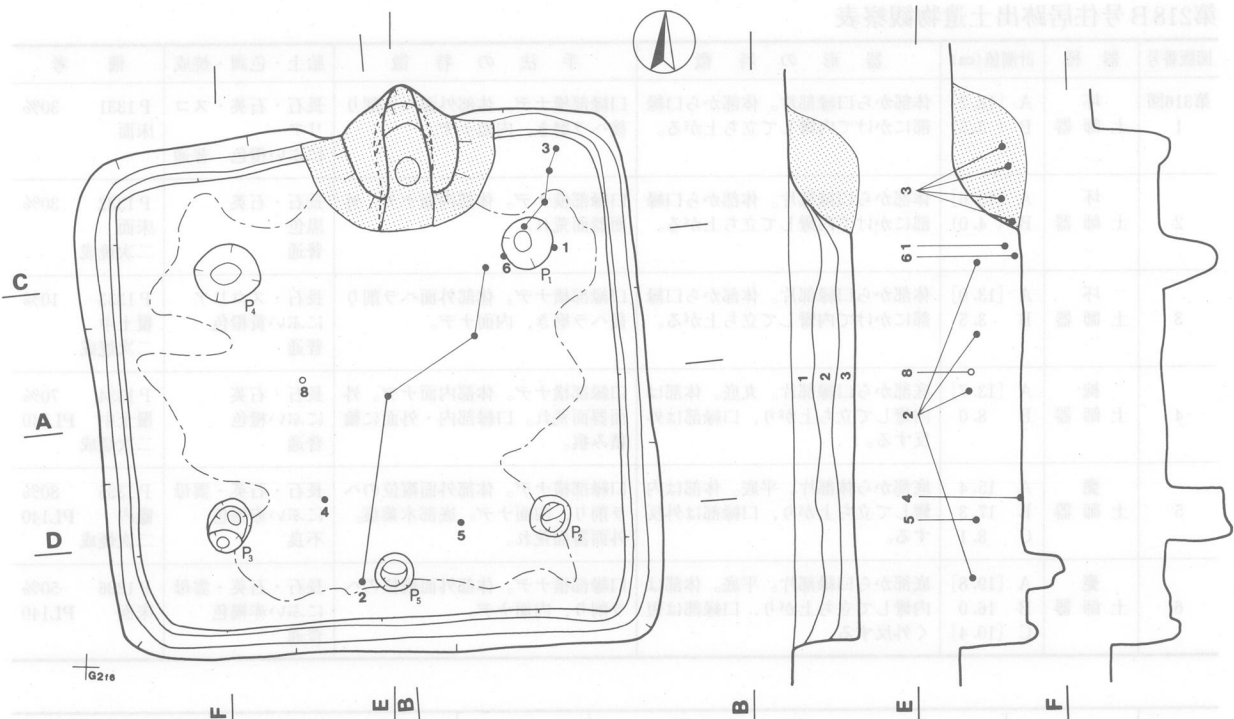
壁 壁高は50～52cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅22～34cm，下幅8～14cm，深さ4～11cmで，断面形はU字状である。

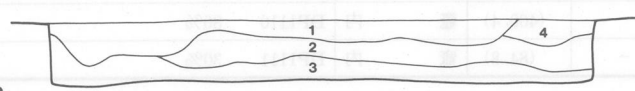
床 平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット 5か所 (P1～P5)。P1～P4は，長径36～53cm，短径35～48cmの楕円形，深さ47～66cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は径31cmの円形，深さ31cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

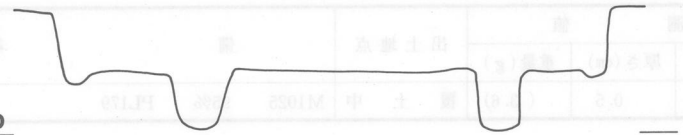
竈 北壁中央部に，砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，煙道部から焚き口部まで116cm，両袖最大幅144cm，壁外への掘り込みは31cmである。袖の内壁は，火熱を受けて赤変している。火床部は，床面を10cm掘りくぼめており，火熱を受けわずかに赤変硬化している。煙道部は，外傾して緩やかに立ち上がる。



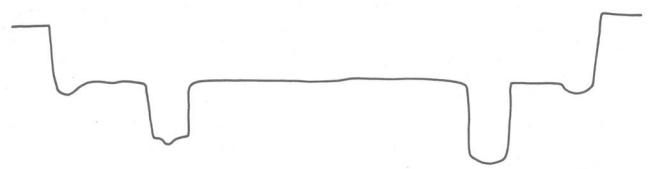
A 33.8m



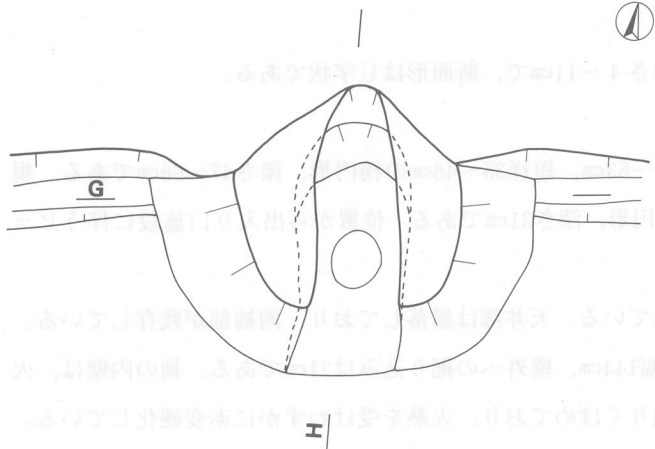
C



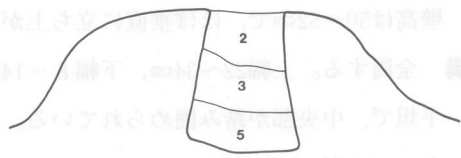
D



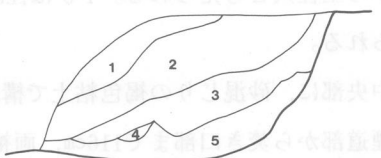
G 33.7m



E



H



第317図 第219号住居跡実測図

竈土層解説

- 1 灰 褐色 粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 2 灰 褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 3 褐色 粘土粒子多量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 4 赤 褐色 焼土粒子多量
- 5 暗 赤褐色 焼土粒子中量, 焼土中ブロック・炭化・粘土粒子少量

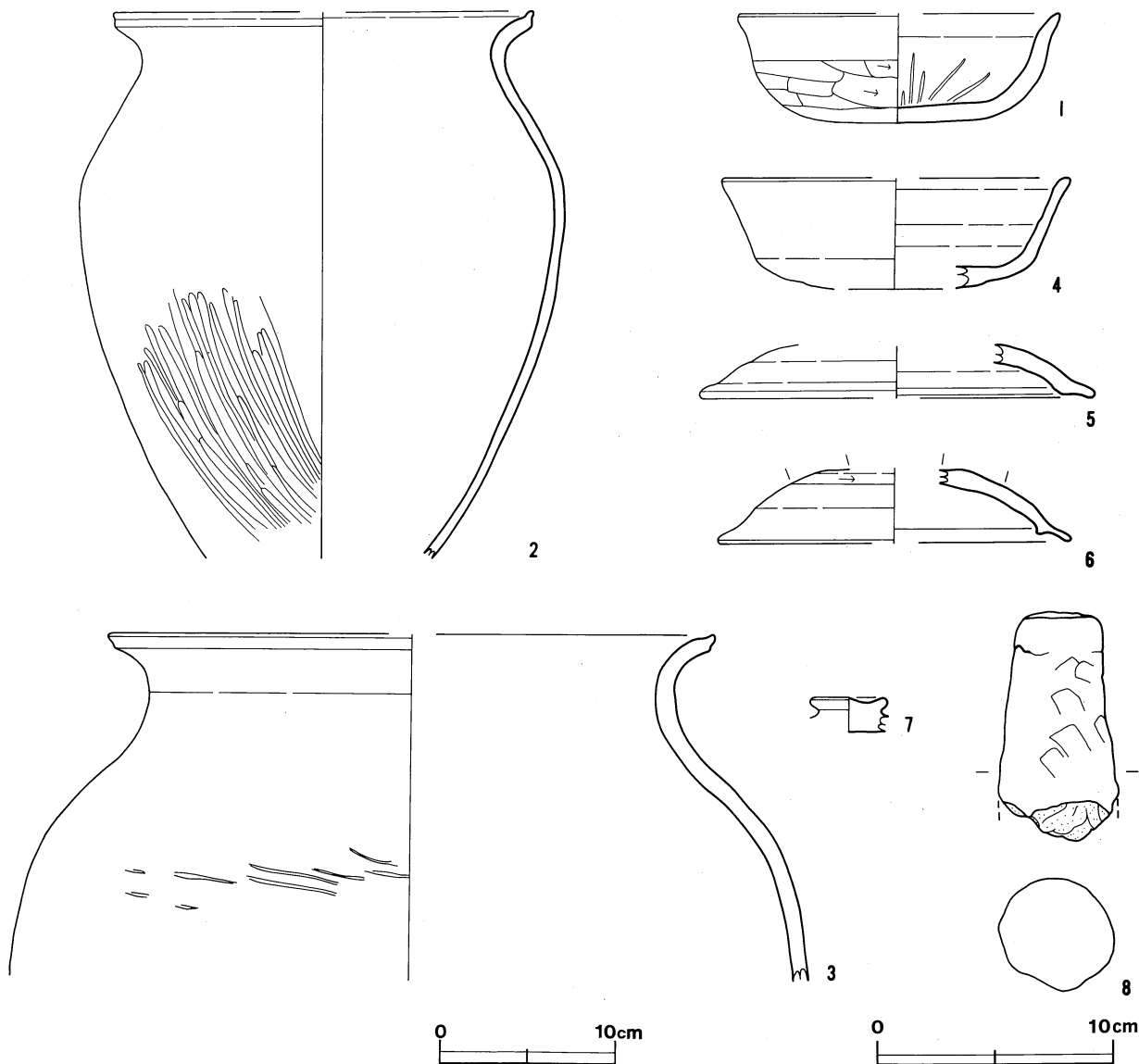
覆土 4層からなり, レンズ状の堆積を示し, 自然堆積である。

土層解説

- 1 暗 褐色 炭化物・炭化粒子・ローム大・中・小ブロック・ローム粒子微量
- 2 暗 褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子・ローム大・中ブロック・ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, 炭化物・炭化粒子・ローム大・中・小ブロック微量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・ローム大・中ブロック微量

遺物 土師器片428点 (坏片93点, 甕片332点, 甑1点, 手捏土器2点), 須恵器片16点 (坏片13点, 蓋片1点, 甕片2点), 土製支脚1点, 縄文土器片1点, 弥生土器片1点, 磨石1点が出土している。覆土上層では, 第318図2の土師器甕が中央部付近から, 5の須恵器蓋が中央部南側から, 8の土製支脚が中央部付近から出土している。覆土下層では, 1の土師器坏が中央部北東側から, 3の土師器甕が北東コーナー部から, 6の須恵器蓋が中央部北東側から出土している。床面では, 4の須恵器坏が中央部南側から出土している。その他, 覆土中から7の須恵器蓋が出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と考えられる。



第318図 第219号住居跡出土遺物実測図

第219号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第318図 1	坏 土師器	A [13.7] B 4.6	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面放射状のヘラ磨き。	長石・スコリア 明赤褐色 普通	P 1337 50% 覆土中 PL141
2	甕 土師器	A [23.8] B (31.0)	体部から口縁部。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面下半ヘラ磨き、内面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P 1338 50% 覆土中 PL141
3	甕 土師器	A [25.8] B (14.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P 1339 20% 覆土中
4	坏 須恵器	A [14.8] B 4.7 C [6.6]	体部から口縁部片。二次底部面。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P 1340 20% 床面
5	蓋 須恵器	A [16.7] B (2.2)	天井部から口縁部片。天井部は低く丸い。口縁部は外反し、内側に短いかえりを持つ。	口縁部、天井部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P 1341 15% 覆土中
6	蓋 須恵器	A [15.1] B (3.1)	天井部から口縁部片。天井部は低く丸い。口縁部の内側に短いかえりを持つ。	口縁部、天井部内・外面ロクロナデ。天井部上位回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	P 1342 20% 覆土中
7	蓋 須恵器	B (1.5) F 3.2 G 0.5	つまみ部片。つまみ部はボタン状である。	つまみ部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 灰オリーブ色 普通	P 1343 5% 覆土中

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径 (cm)	孔径(cm)	重量(g)		
8	支脚	(9.8)	(5.2)	-	(205.4)	覆土中	DP1112 40%

第220号住居跡 (第319図)

位置 調査区の南部，G 2 d5 区。

規模と平面形 長軸3.95m，短軸3.92mの隅丸方形である。

主軸方向 N-81°-E

壁 壁高は18~24cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦で，踏み固められた部分は見られない。

ピット 7か所 (P1~P7)。P1~P6は，長径30~48cm，短径28~46cmの楕円形，深さ37~69cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P7は径25cmの円形，深さ24cmである。補助柱穴と考えられる。

炉 P6付近の床面に，熱を受けわずかに赤化した部分が見られたが，位置から炉として捉えることはできなかった。

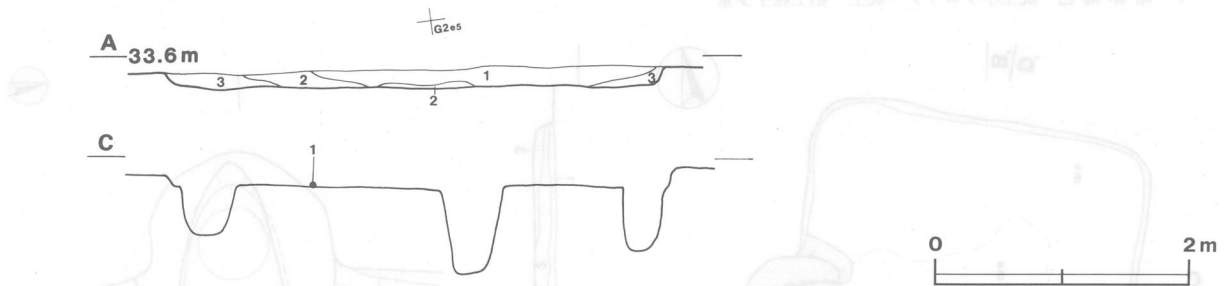
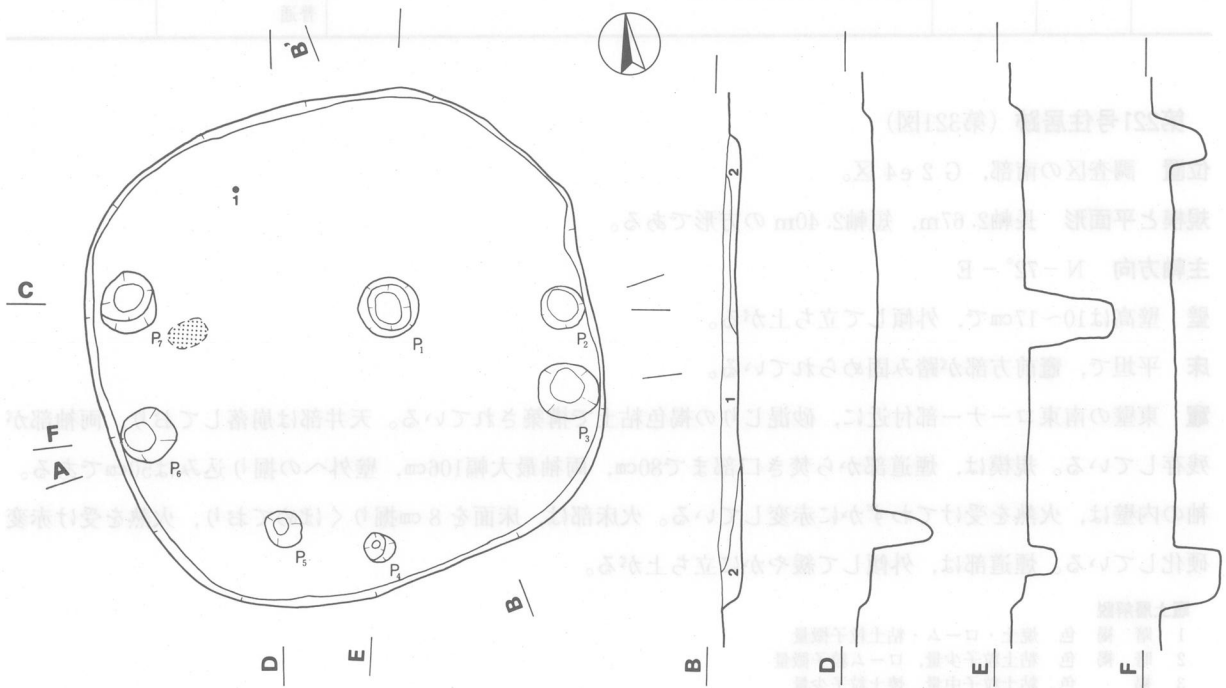
覆土 3層からなり，レンズ状の堆積を示し，自然堆積である。

土層解説

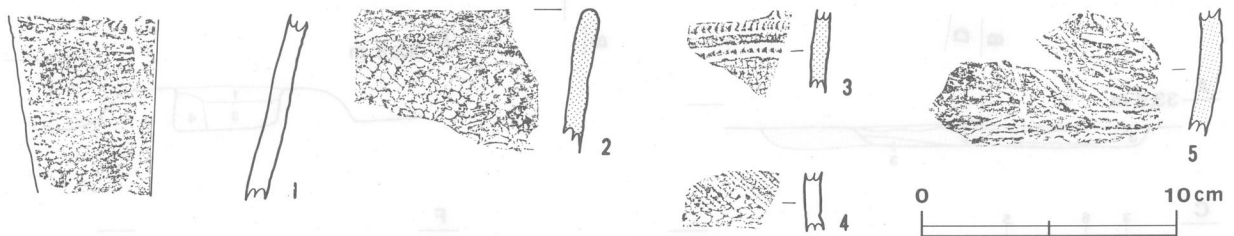
- 1 褐色 焼土・ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量

遺物 縄文土器片19点である。床面では，第320図1の縄文土器深鉢が北壁の床面から出土している。2~5は縄文土器深鉢である。2は口縁部片で単節RLの縄文が施されている。5は胴部片で無節Rの縄文が施されている。3は胴部片で縄文を地文とし，横方向に爪形文を施している。4は胴部片で縄文を地文とし，横方向

に爪形文を配し、縦方向に竹管による円形刺突文が施されている。2, 3, 5は胎土に繊維を含む。
 所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から縄文前期（黒浜期）と考えられる。



第319図 第220号住居跡実測図



第320図 第220号住居跡出土遺物実測図

第220号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徵	胎土・色調・焼成	備考
第320図 1	深鉢 縄文土器	B (7.1)	胴部片。胴部は外傾して立ち上がる。文様は地文にLRの単節縄文を施し連続爪形文を二段に配する。	長石・雲母・繊維 橙色 普通	P1344 5% 床面

第221号住居跡 (第321図)

位置 調査区の南部, G 2 e4 区。

規模と平面形 長軸2.67m, 短軸2.40mの方形である。

主軸方向 N-72°-E

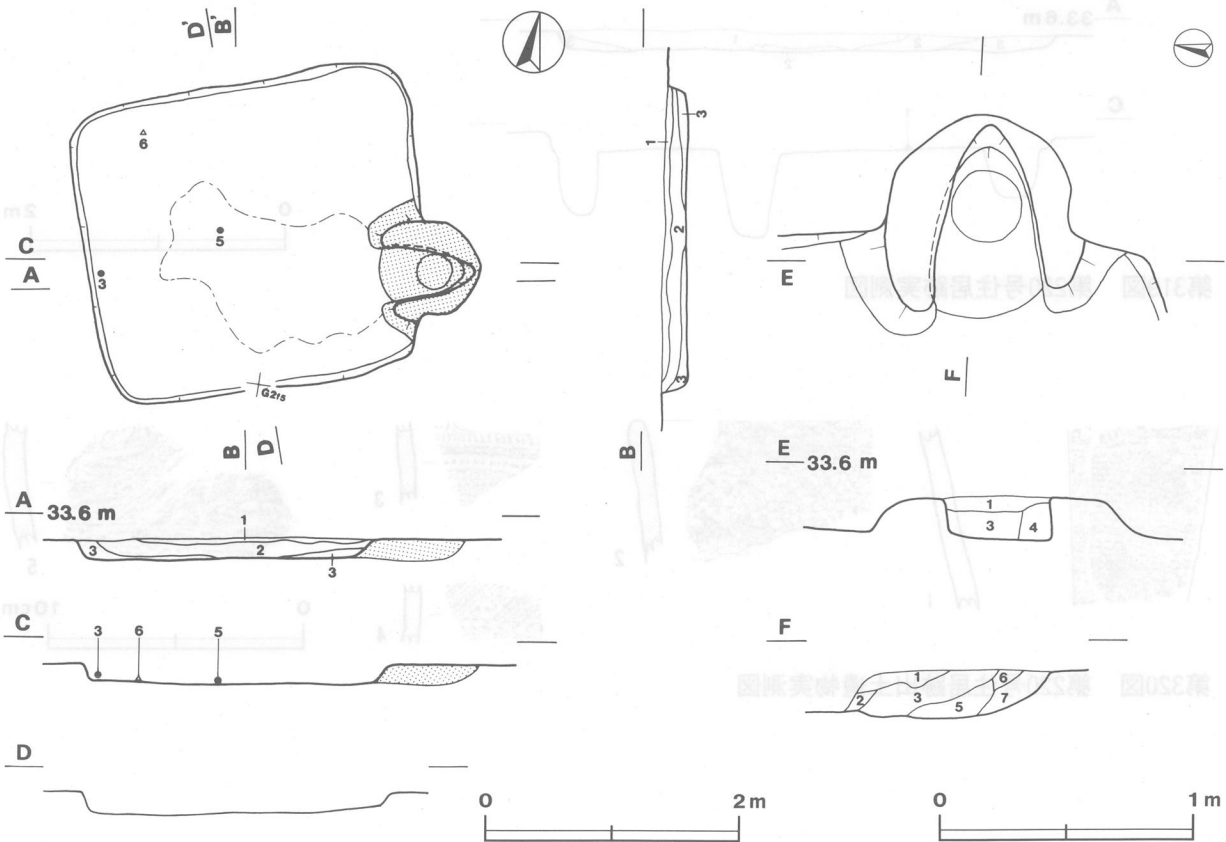
壁 壁高は10~17cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 竈前方部が踏み固められている。

竈 東壁の南東コーナー部付近に, 砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚き口部まで80cm, 両袖最大幅106cm, 壁外への掘り込みは50cmである。袖の内壁は, 火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は, 床面を8cm掘りくぼめており, 火熱を受け赤変硬化している。煙道部は, 外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 焼土・ローム・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 粘土粒子少量, ローム粒子微量
- 3 褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量
- 4 褐色 粘土粒子多量, ローム粒子少量
- 5 暗赤褐色 焼土大ブロック中量, 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土・粘土粒子少量
- 7 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子少量



第321図 第221号住居跡実測図

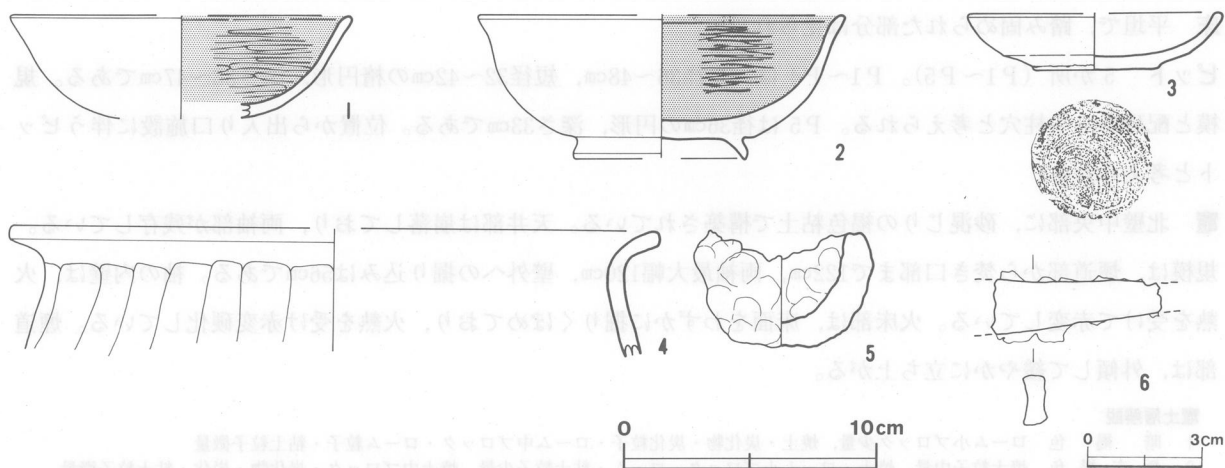
覆土 3層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック微量

遺物 土師器片87点 (坏片1点, 高台付坏片11点, 甕片75点), 須恵器片3点 (坏片2点, 蓋片1点), 刀子1点, 縄文土器片5点, 弥生土器片2点が出土している。覆土下層では, 第322図3の土師器小皿が西壁部から, 6の刀子が北西コーナー部から出土している。床面では, 5の土師器手捏土器が中央部から横位の状態で出土している。覆土中からは, 1, 2の土師器高台付椀, 4の土師器甕が出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から10世紀中葉と考えられる。



第322図 第221号住居跡出土遺物実測図

第221号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第322図 1	高台付椀 土師器	A [13.5] B (4.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	長石・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P 1345 10% 覆土中
2	高台付椀 土師器	A [14.4] B 5.7 D [6.7] E 0.9	高台部から口縁部片。高台は短くハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。高台部貼付け。内面黒色処理。	長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P 1346 30% 覆土中
3	小皿 土師器	A [10.0] B 2.2 C 5.0	底部から口縁部片。平底。体部から口縁部にかけて緩やかに内彎して立ち上がる。	口縁部, 体部外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・角閃石 にぶい黄橙色 普通	P 1347 60% 覆土中 PL141
4	甕 土師器	A [25.8] B (4.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し, 端部は外上方にわずかにつまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り, 内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P 1348 5% 覆土中
5	手捏土器 土師器	A 5.9 B 4.5	底部から口縁部片。丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ナデ。外面凹凸。	長石 明黄褐色 普通	P 1349 95% 床面

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
第322図6	刀子	(4.5)	1.6	0.6	(10.3)	覆土中	M1026	95%	PL177

第222号住居跡 (第323図)

位置 調査区の南東部, G 2 g 3 区。

規模と平面形 長軸4.30m, 短軸4.11m の方形である。

主軸方向 N-14°-E

壁 壁高は15~40cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅13~23cm, 下幅7~15cm, 深さ6~10cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 踏み固められた部分は見られない。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は, 長径36~48cm, 短径32~42cmの楕円形, 深さ33~47cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は径36cmの円形, 深さ33cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に, 砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚き口部まで122cm, 両袖最大幅120cm, 壁外への掘り込みは56cmである。袖の内壁は, 火熱を受けて赤変している。火床部は, 床面をわずかに掘りくぼめており, 火熱を受け赤変硬化している。煙道部は, 外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土・炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量
- 2 極赤褐色 焼土粒子中量, 焼土・ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量, 焼土中ブロック・炭化物・炭化・粘土粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土中・小ブロック少量, ローム小ブロック・ローム・粘土粒子微量
- 4 にぶい赤褐色 焼土粒子多量, 粘土粒子微量
- 5 暗褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土・粘土粒子微量

覆土 5層からなり, レンズ状の堆積を示し, 自然堆積である。

土層解説

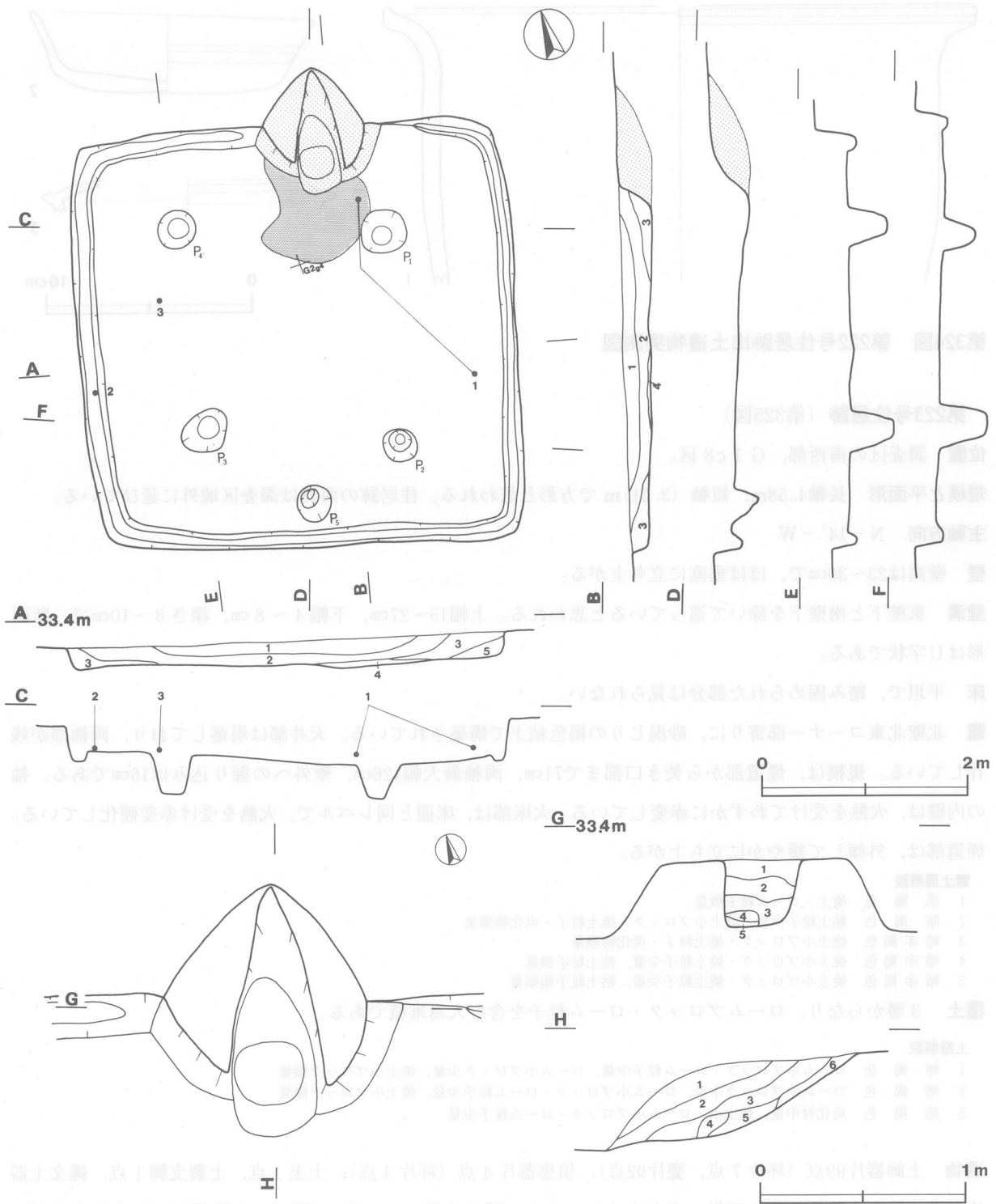
- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子極微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物粒子・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量

遺物 土師器片285点 (坏片26点, 甕片258点, 甑片1点), 須恵器片8点 (坏片8点), 砥石1点, 鉄滓10g, 含鉄滓19g, 縄文土器片31点, 弥生土器片27点が出土している。覆土下層では, 第324図1の土師器甑が竈の前方部から出土している。床面では, 2の須恵器坏が西壁部から, 3の須恵器蓋が中央部西側から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と考えられる。

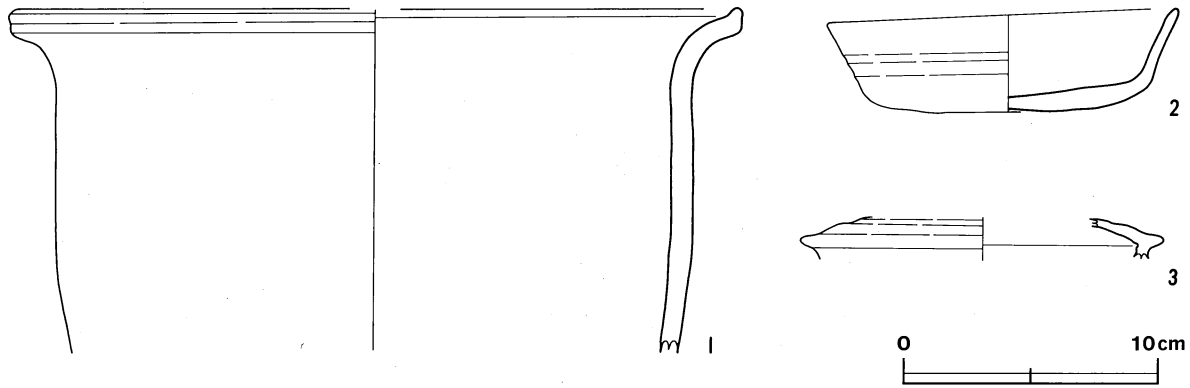
第222号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第324図 1	甑 土師器	A [27.8] B (13.6)	体部から口縁部片。体部はわずかに内彎して立ち上がる。口縁部は外反し, 端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面縦位のヘラ削り, 内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい澄色 普通	P 1350 10% 覆土中



第323図 第222号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第324図 2	坏 須恵器	A 13.8 B 4.1 C 5.4	底部から口縁部片。平底，二次底面を持つ。体部は外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部，体内内・外面ロクロナデ。底部手持ちヘラ削り。	長石・石英・小礫 灰黄色 普通	P 1351 80% 床面
3	蓋 須恵器	B (1.6)	天井部から口縁部片。天井部は低く丸い。口縁部は水平方向にわずかに折り曲げ，内側にかえりを持つ。	口縁部，天井部内・外面ロクロナデ。	長石 灰色 普通	P 1352 10% 床面 PL141



第324図 第222号住居跡出土遺物実測図

第223号住居跡 (第325図)

位置 調査区の南西部, G1c8区。

規模と平面形 長軸4.58m, 短軸(3.31)mで方形と思われる。住居跡の西側は調査区域外に延びている。

主軸方向 N-14°-W

壁 壁高は23~30cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 東壁下と南壁下を除いて巡っていると思われる。上幅15~27cm, 下幅4~8cm, 深さ8~10cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 踏み固められた部分は見られない。

竈 北壁北東コーナー部寄りに, 砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚き口部まで71cm, 両袖最大幅126cm, 壁外への掘り込みは16cmである。袖の内壁は, 火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は, 床面と同レベルで, 火熱を受け赤変硬化している。

煙道部は, 外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 粘土粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 粘土粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 粘土粒子極微量

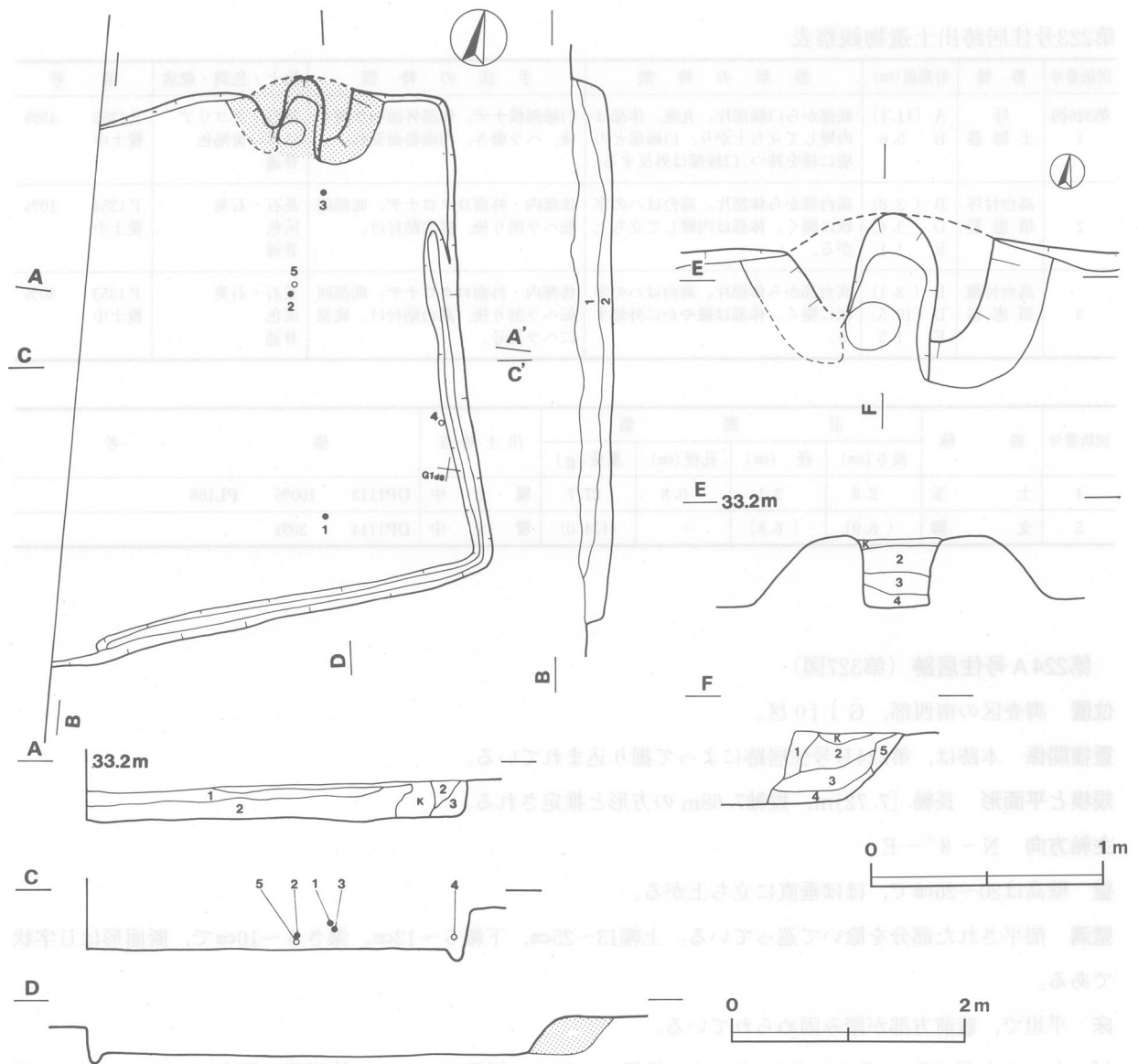
覆土 3層からなり, ロームブロック・ローム粒子を含む人為堆積である。

土層解説

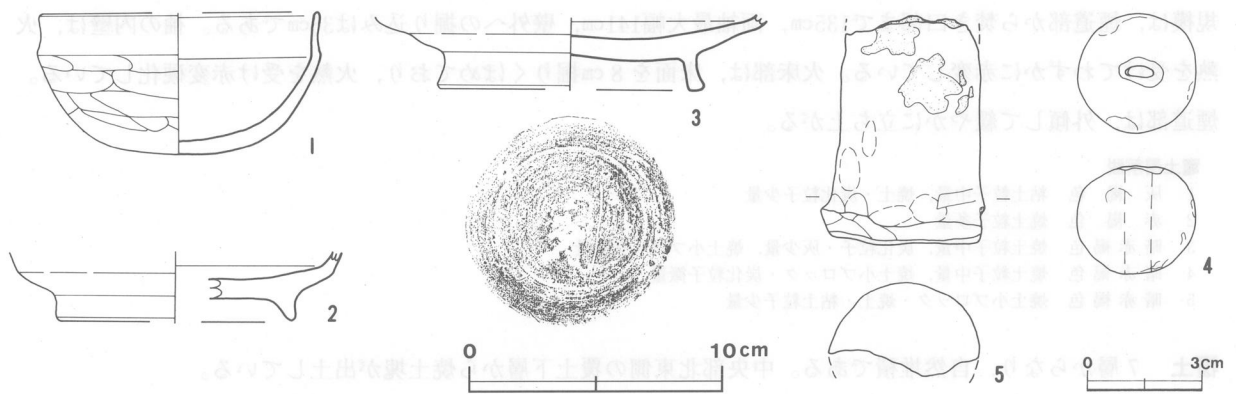
- 1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 3 暗褐色 炭化材中量, 焼土小・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片99点(坏片7点, 甕片92点), 須恵器片4点(坏片4点), 土玉1点, 土製支脚1点, 縄文土器片47点, 弥生土器片1点, 石鏃1点が出土している。覆土中層では, 第326図1の土師器坏が中央部南東側から出土しているが流れ込んだ遺物である。3の須恵器高台盤が北側中央部から出土している。覆土下層では, 2の須恵器高台付坏, 5の土製支脚は中央部から, 4の土玉が東壁部から出土している。

所見 本跡は, 覆土中にロームブロック・ローム粒子を含む層が堆積していることなどから人為的に埋め戻されたものと思われる。本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から8世紀後葉と考えられる。



第325図 第223号住居跡実測図



第326図 第223号住居跡出土遺物実測図

第223号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第326図 1	坏土師器	A [11.1] B 5.6	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り後、へラ磨き。内面器面荒れ。	長石・スコリアにぶい黄褐色普通	P 1355 45% 覆土中
2	高台付坏須恵器	B (2.8) D [9.4] E 1.1	高台部から体部片。高台はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ削り後、高台貼付け。	長石・石英灰色普通	P 1354 10% 覆土中
3	高台付盤須恵器	B (3.1) D [10.5] E 1.5	高台部から体部片。高台はハの字状に開く。体部は緩やかに外傾する。	体部内・外面ロクロナデ。底部回転へラ削り後、高台貼付け。底部にへラ記号。	長石・石英灰色普通	P 1353 30% 覆土中

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		DP	%	PL
4	土玉	2.8	3.1	0.8	27.7	覆土中	DP1113	100%	PL168
5	支脚	(8.9)	[6.8]	-	(174.0)	覆土中	DP1114	30%	

第224 A号住居跡 (第327図)

位置 調査区の南西部, G1f0区。

重複関係 本跡は, 第224 B号住居跡によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸 [7.72]m, 短軸7.68mの方形と推定される。

主軸方向 N-8°-E

壁 壁高は20~26cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 削平された部分を除いて巡っている。上幅13~25cm, 下幅5~12cm, 深さ6~10cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 竈前方部が踏み固められている。

ピット 4か所 (P1~P4)。P1~P4は, 長径66~82cm, 短径57~69cmの楕円形, 深さ65~75cmである。規模と配列から支柱穴と考えられる。

竈 北壁中央部に, 砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚き口部まで135cm, 両袖最大幅141cm, 壁外への掘り込みは36cmである。袖の内壁は, 火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は, 床面を8cm掘りくぼめており, 火熱を受け赤変硬化している。煙道部は, 外傾して緩やかに立ち上がる。

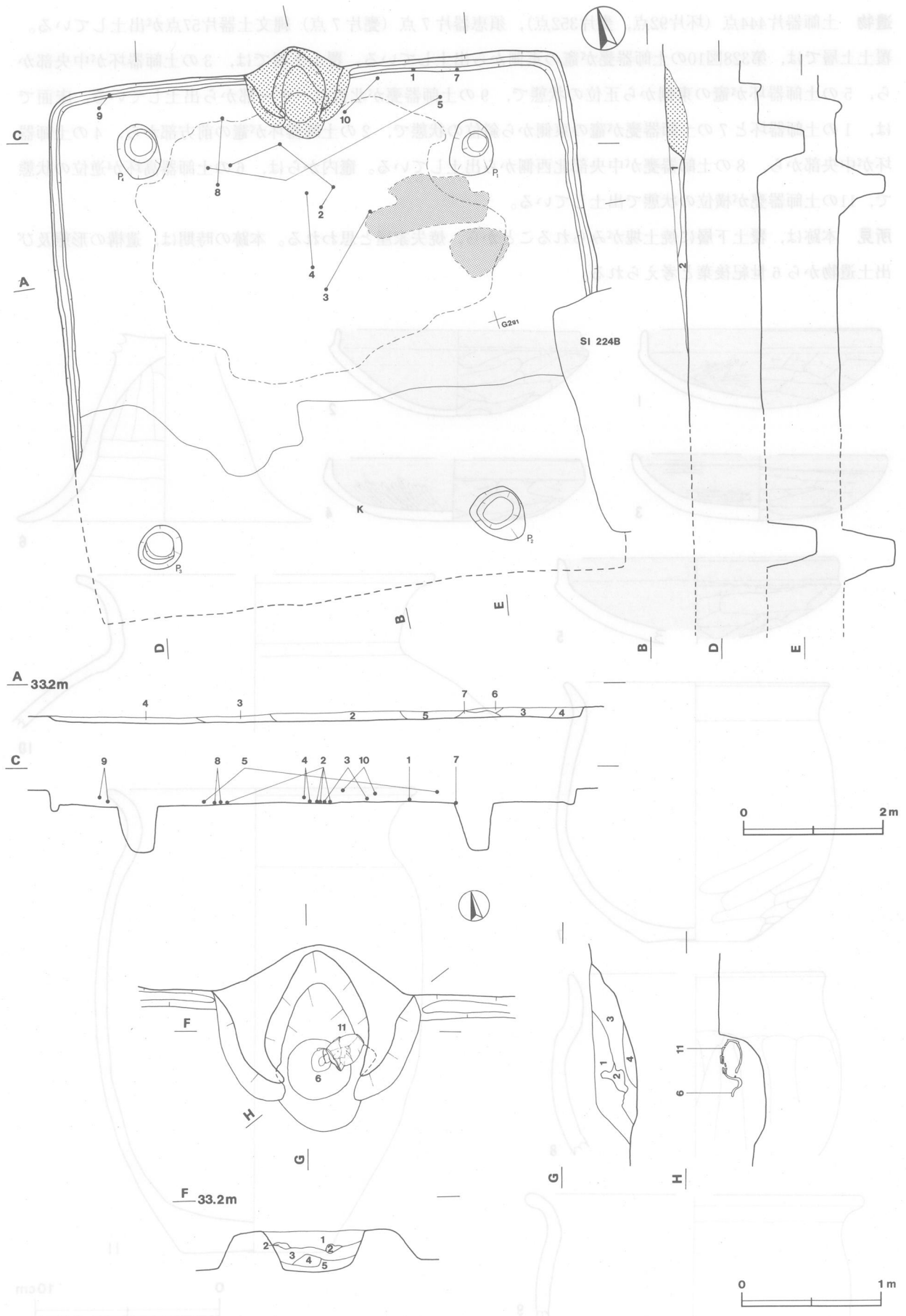
竈土層解説

- 1 灰褐色 粘土粒子中量, 焼土・炭化粒子少量
- 2 赤褐色 焼土粒子多量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化粒子・灰少量, 焼土小ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子少量

覆土 7層からなり, 自然堆積である。中央部北東側の覆土下層から焼土塊が出土している。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量 | 4 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック微量 | 5 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量 |
| 3 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 | 6 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| | | 7 赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子中量, 炭化物・ローム粒子微量 |

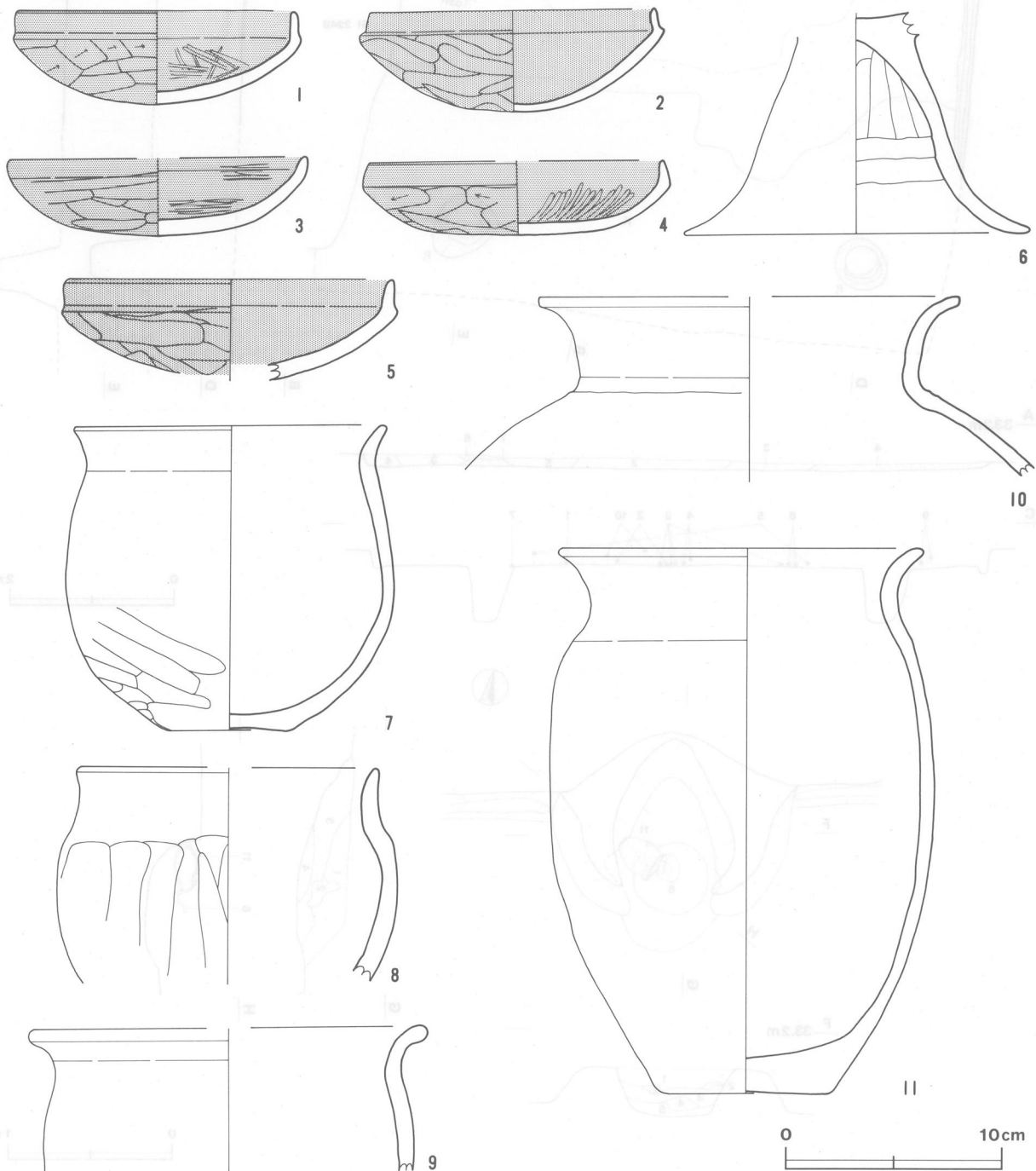


第327図 第224 A号住居跡実測図

第328図 第224 A号住居跡実測図

遺物 土師器片444点（坏片92点，甕片352点）、須恵器片7点（甕片7点）縄文土器片57点が出土している。覆土上層では、第328図10の土師器甕が竈の東側から出土している。覆土下層では、3の土師器坏が中央部から、5の土師器坏が竈の東側から正位の状態で、9の土師器甕が北西コーナー部から出土している。床面では、1の土師器坏と7の土師器甕が竈の東側から斜位の状態で、2の土師器坏が竈の前方部から、4の土師器坏が中央部から、8の土師器甕が中央部北西側から出土している。竈内からは、6の土師器高坏が逆位の状態で、11の土師器甕が横位の状態で出土している。

所見 本跡は、覆土下層に焼土塊がみられることから、焼失家屋と思われる。本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀後葉と考えられる。



第328図 第224A号住居跡出土遺物実測図

図解実測図計号A 352A 図328

第224A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第328図 1	坏 土師器	A 12.8 B 4.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに内傾して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・スコリア にぶい橙色 普通	P 1356 98% 床面 PL141
2	坏 土師器	A 13.2 B 4.7	体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・雲母 明赤褐色 普通	P 1357 80% 床面 PL141
3	坏 土師器	A [13.7] B 3.8	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・スコリア 黒褐色 普通	P 1360 20% 覆土中
4	坏 土師器	A [13.7] B 3.5	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面放射状のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母 黒色 普通	P 1359 25% 床面
5	坏 土師器	A 14.9 B (4.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・石英 黒褐色 普通	P 1358 70% 覆土中 PL141
6	高坏 土師器	B (10.3) D 16.0 E 9.1	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部内面ナデ。外面器面剝離。内面輪積み痕。	長石・石英 明赤褐色 普通	P 1361 50% 竈内
7	甕 土師器	A 13.5 B 14.1 C 5.8	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。外面器面荒れ。	長石・石英 明赤褐色 不良	P 1363 70% 床面 PL141
8	甕 土師器	A [13.6] B (10.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。内面器面荒れ。	長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P 1365 15% 床面
9	甕 土師器	A [18.4] B (6.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。内面器面荒れ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 1364 15% 覆土中
10	甕 土師器	A [19.6] B (8.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、端部は角である。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。	長石・雲母 明赤褐色 普通	P 1366 20% 覆土中
11	甕 土師器	A 16.9 B 25.3 C 7.9	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面器面摩耗、内面器面剝離。	長石・石英 赤褐色 不良	P 1362 70% 竈内 PL141

第224B号住居跡 (第329図)

位置 調査区の南西部、G 2 g1 区。

重複関係 本跡が、第224A号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.52m、短軸3.24mの方形である。

主軸方向 N - 6° - E

壁 壁高は18~20cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

ピット P1は径36cmの円形、深さ20cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。

規模は、煙道部から焚き口部まで114cm、両袖最大幅116cm、壁外への掘り込みは14cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。支脚が、焚き口部から横位の状態で出土している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

覆土層解説

- 1 灰 褐色 粘土粒子中量, 焼土・炭化粒子微量
- 2 灰 褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 3 暗赤褐色 焼土・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量, 炭化・粘土粒子・灰微量
- 5 暗赤褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, 粘土粒子微量
- 7 黒褐色 焼土・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化材微量

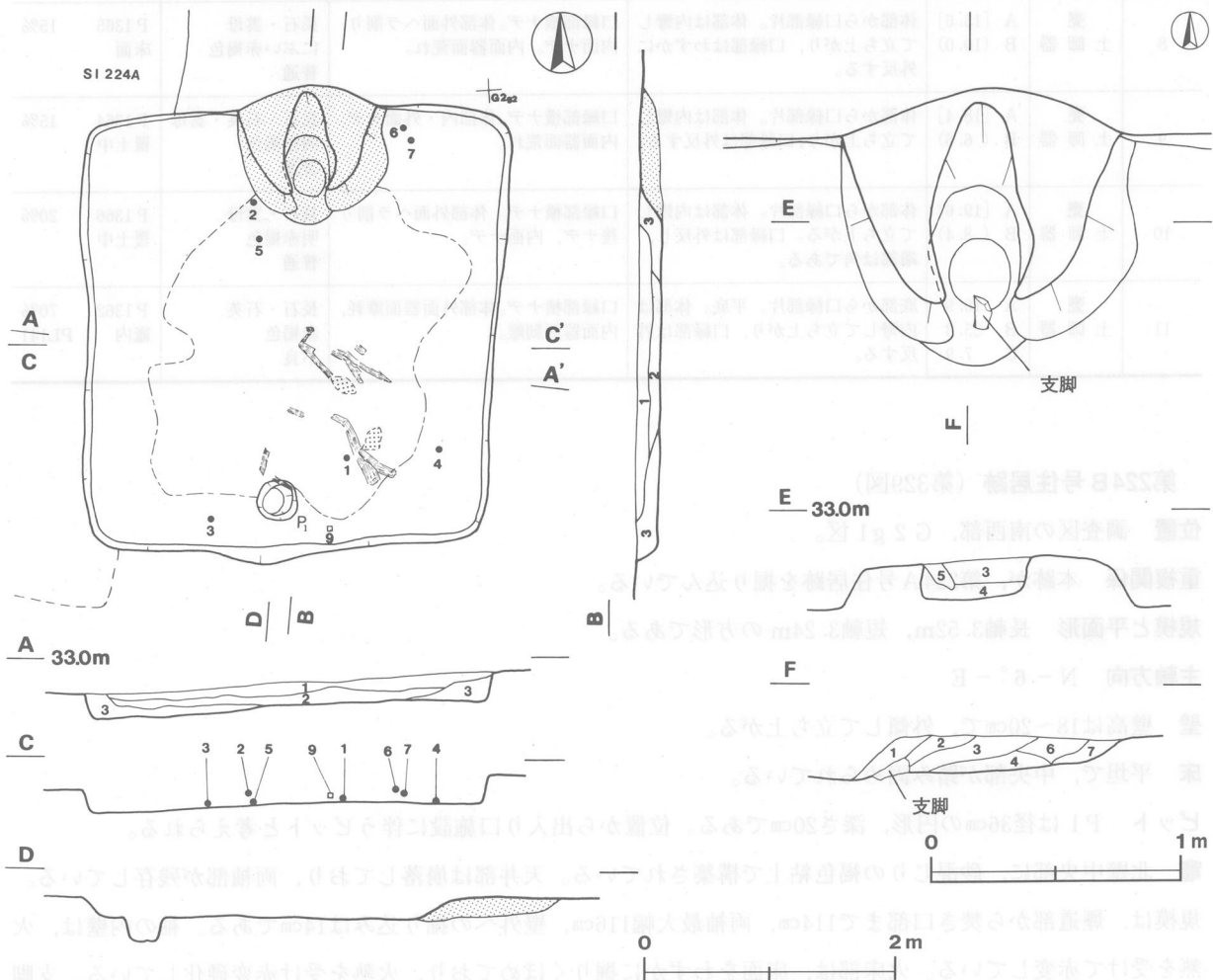
覆土 3層からなり, レンズ状の堆積を示し, 自然堆積である。住居跡中央部南東側の下層から焼土塊や炭化材が検出されている。

土層解説

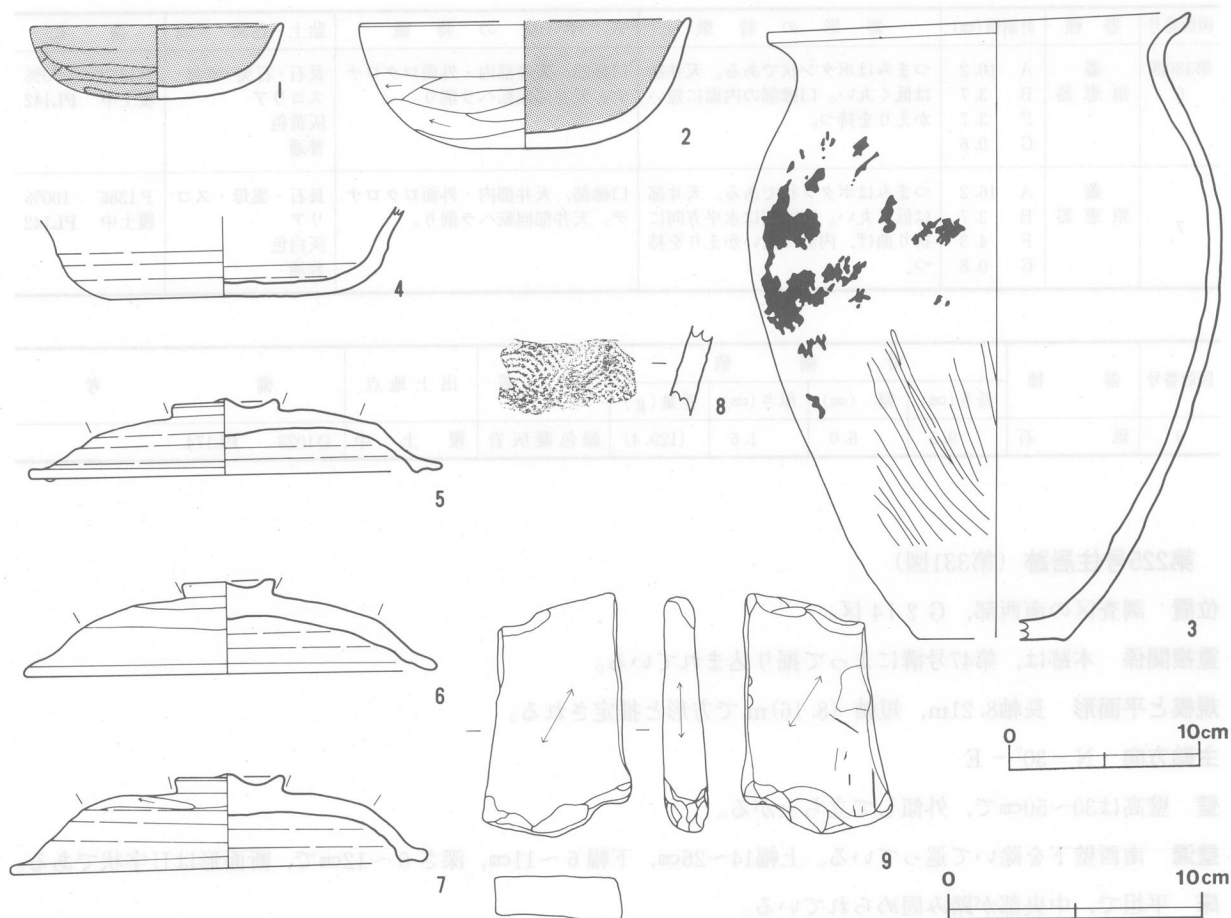
- 1 褐色 ローム粒子多量
- 2 暗褐色 炭化材・ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化材微量

遺物 土師器片96点 (坏片12点, 甕片83点, 甑片1点), 須恵器片5点 (坏片3点, 蓋片2点), 砥石1点, 縄文土器片3点が出土している。覆土下層では, 第330図2の土師器坏が竈西袖部付近から, 3の土師器甕, 9の砥石が南壁部から, 6, 7の須恵器蓋が北東コーナー部から出土している。6は逆位, 7は正位で出土している。床面では, 1の土師器坏が中央部南側から逆位の状態で, 4の須恵器坏が南東コーナー部から, 5の須恵器蓋が中央部北側から逆位の状態で出土している。8の須恵器甕の体部片は, 外面に同心円文も叩きが施されている。

所見 本跡は, 覆土下層に焼土塊や炭化材がみられることから, 焼失家屋と思われる。時期は, 遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と考えられる。



第329図 第224B号住居跡実測図



第330図 第224B号住居跡出土遺物実測図

第224B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第330図 1	坏 土師器	A 10.0 B 2.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 彎して立ち上がり、口縁部は外傾 する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、 内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・雲母・スコ リア にぶい橙色 普通	P 1367 90% 床面 PL141
2	坏 土師器	A [13.2] B 5.0	体部から口縁部片。丸底。体部は 内彎して立ち上がり、口縁部は外 傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、 内面ナデ。内面黒色処理。	長石・雲母・スコ リア 橙色 普通	P 1368 60% 覆土中
3	甕 土師器	A 22.3 B 32.8 C [7.8]	底部から口縁部片。平底。体部は 内彎して立ち上がる。口縁部は外 反し端部は外上方につまみ上げら れている。	口縁部横ナデ。体部外面下半ヘラ 磨き、内面ナデ。外面煤付着。	長石・石英・雲母・ スコリア 橙色 普通	P 1369 60% 覆土中 煤付着 PL141
4	坏 須恵器	B (3.4) C [8.5]	底部から体部片。平底。体部は外 傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。底部一 方向の手持ちヘラ削り。	長石・雲母 灰黄色 普通	P 1370 40% 床面
5	蓋 須恵器	A 16.2 B 3.2 F 4.2 G 0.4	つまみはボタン状である。天井部 は低く丸い。口縁部は水平方向に 折り曲げ、内側に短いかえりを持 つ。	口縁部、天井部内・外面口クロナ デ。天井部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母・ スコリア 灰黄色 普通	P 1371 100% 床面 PL141

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第330図 6	蓋 須恵器	A 10.2 B 3.7 F 3.7 G 0.6	つまみはボタン状である。天井部は低く丸い。口縁部の内面に短いかえりを持つ。	口縁部, 天井部内・外面ロクロナデ。天井部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母・スコリア 灰黄色 普通	P 1372 70% 覆土中 PL142
7	蓋 須恵器	A 16.2 B 3.7 F 4.3 G 0.8	つまみはボタン状である。天井部は低く丸い。口縁部は水平方向に折り曲げ, 内側に短いかえりを持つ。	口縁部, 天井部内・外面ロクロナデ。天井部回転ヘラ削り。	長石・雲母・スコリア 灰白色 普通	P 1386 100% 覆土中 PL142

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
9	砥石	9.5	6.0	1.6	(129.4)	緑色凝灰岩	覆土中	Q1023 PL174

第225号住居跡 (第331図)

位置 調査区の南西部, G 2 i 4 区。

重複関係 本跡は, 第47号溝によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸8.21m, 短軸 (8.16)m で方形と推定される。

主軸方向 N - 30° - E

壁 壁高は30~50cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 南西壁下を除いて巡っている。上幅14~26cm, 下幅 6~11cm, 深さ 6~12cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は, 長径37~49cm, 短径33~36cmの楕円形, 深さ74~82cmである。規模と配列から支柱穴と考えられる。P5は長径50cm, 短径44cmの楕円形, 深さ51cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北東壁中央部に, 砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 煙道部と両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚き口部まで128cm, 両袖最大幅119cm, 壁外への掘り込みは50cmである。袖の内壁は, 火熱を受けて赤変している。火床部は, 床面をわずかに掘りくぼめており, 火熱を受け赤変硬化している。煙道部は, 外傾して緩やかに立ち上がる。

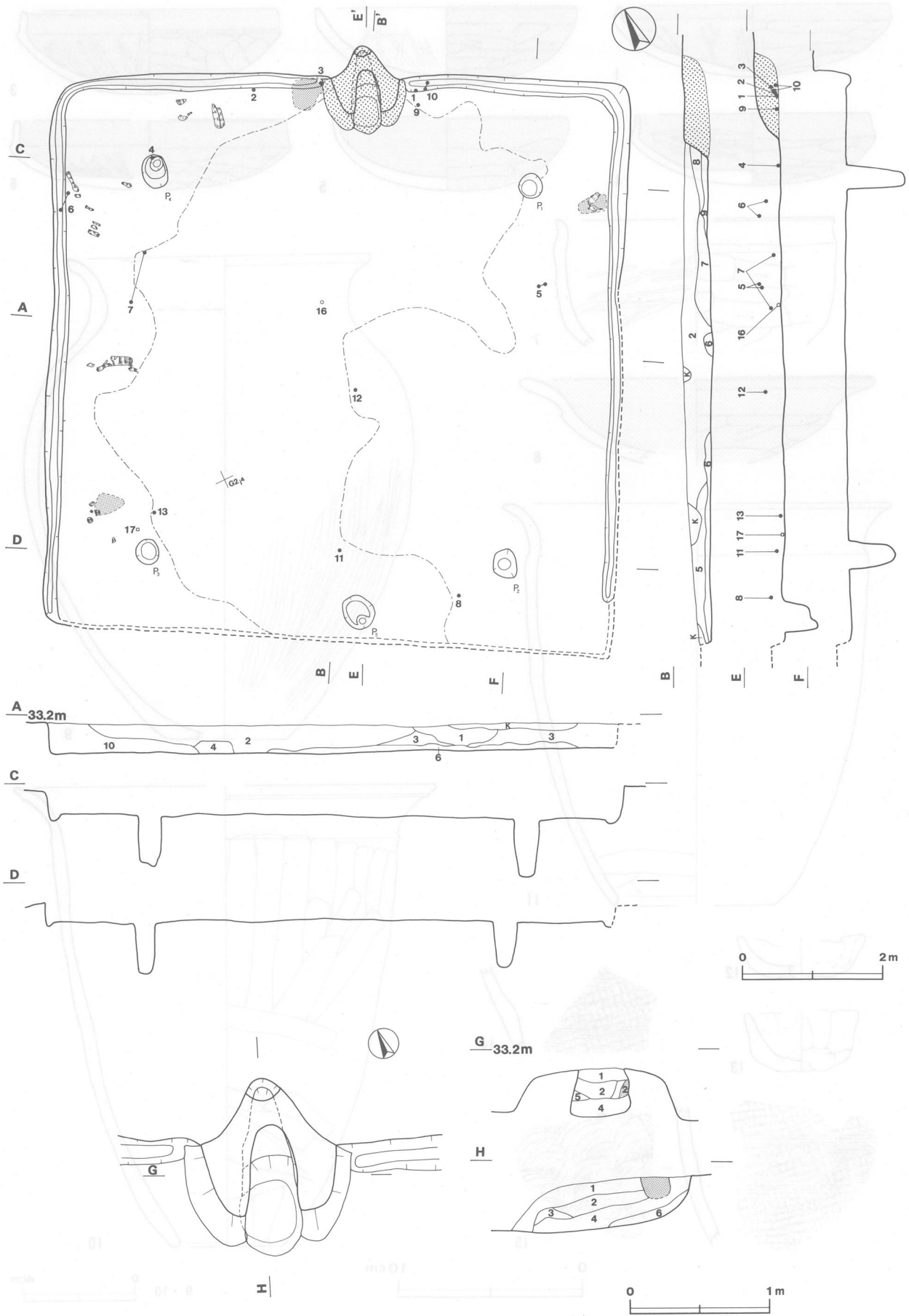
竈土層解説

- 1 灰褐色 粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土・ローム・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 粘土粒子多量, 焼土粒子少量, 焼土中ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子中量, 粘土粒子少量
- 6 極暗赤褐色 焼土粒子・灰少量, 炭化粒子微量

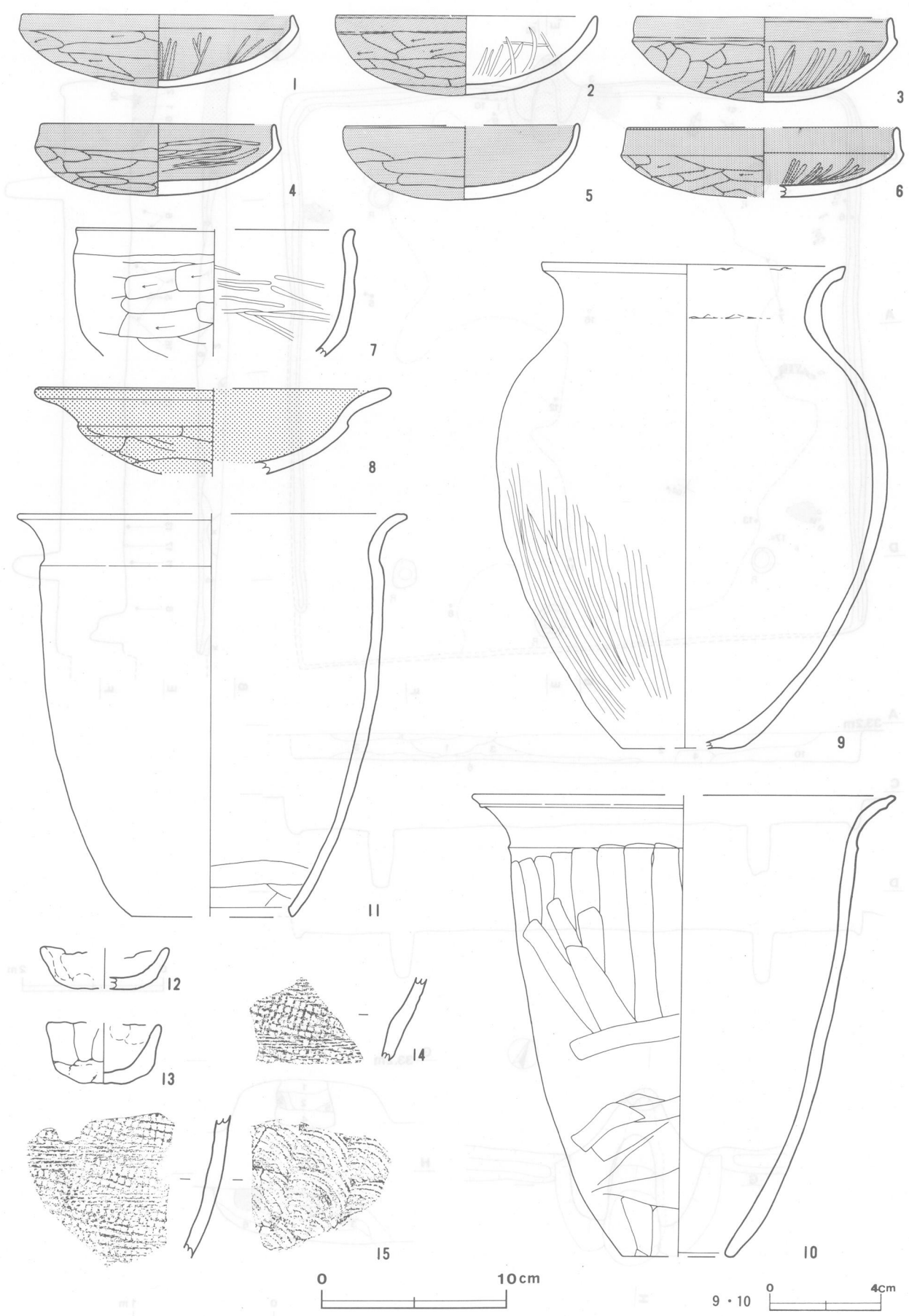
覆土 10層からなり, 自然堆積である。北西壁部の覆土下層から焼土塊や炭化材が検出されている。

土層解説

- 1 黒褐色 炭化・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子極微量
- 4 暗褐色 炭化・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 5 褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量
- 6 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土・炭化粒子微量
- 7 暗褐色 焼土・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 8 灰褐色 ローム粒子少量, 焼土・粘土粒子微量
- 9 黒褐色 焼土粒子・炭化物・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 10 暗褐色 焼土・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム小ブロック微量



第331图 第225号住居跡実測图

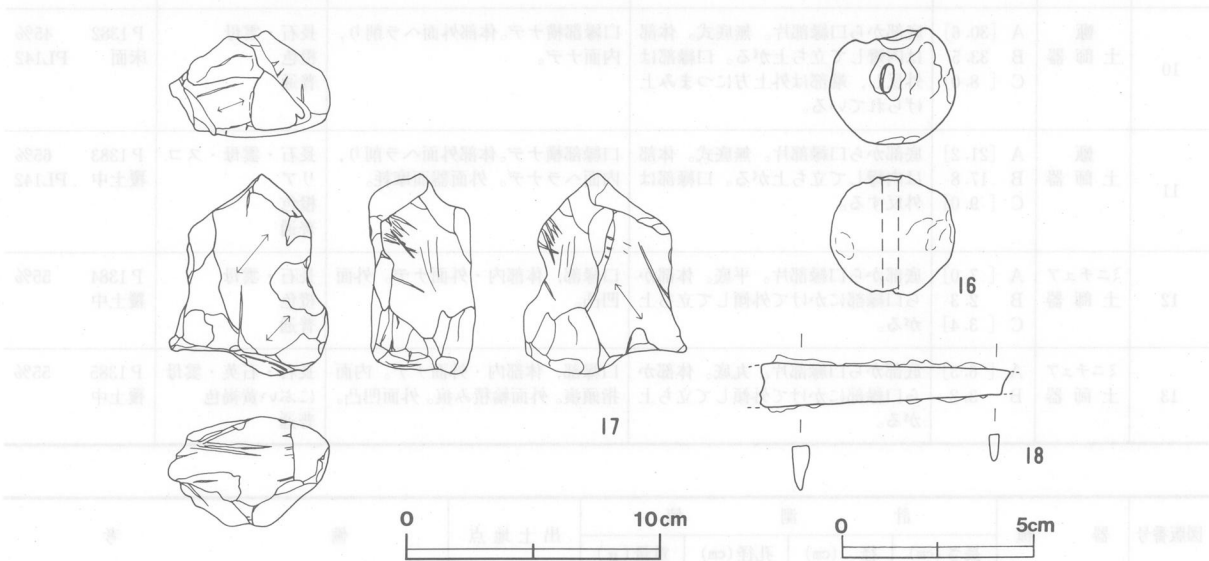


第332图 第225号住居跡出土遺物実測図(1)

图版实録卷廿号255第 图1331

遺物 土師器片1256点（坏片283点，高坏片6点，甕片883点，甗片84点），須恵器片19点（甕片19点），土玉1点，刀子1点，砥石1点，含鉄滓287g，縄文土器片46点，弥生土器片29点が出土している。第332，333図覆土上層では，5の土師器坏が中央部東側から，6の土師器坏が北西壁部付近から，8の土師器高坏が南西コーナーから，12の土師器ミニチュア土器が中央部から斜位の状態で出土している。覆土下層では，2，3の土師器坏が竈西側から，7の土師器碗が北西壁部付近から，11の土師器甗が中央部南西側から，13の土師器ミニチュア土器，17の砥石が西コーナー部から出土している。2は正位，3は逆位，13は横位の状態で出土している。床面では，1の土師器坏，9の土師器甕，10の土師器甗が竈東側から，4の土師器坏が北コーナー部付近から，16の土玉が中央部から出土している。4は逆位，9は横位の状態で出土している。その他，覆土中から18の刀子が出土している。14，15の須恵器甕の体部片である。14は外面に格子目叩き後，カキ目調整が施されている。15は外面に格子目叩き後，カキ目調整，内面に同心円の当て具痕が施されている。14は第209A号住居跡出土の15の須恵器甕片と同一個体である。

所見 本跡は，覆土下層に焼土塊や炭化材がみられることから，焼失家屋と思われる。時期は，遺構の形態及び出土遺物から6世紀後葉と考えられる。



第333図 第225号住居跡出土遺物実測図(2)

第225号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第332図 1	坏 土師器	A 14.6 B 3.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り後へラ磨き，内面放射状のへラ磨き。内・外面黑色処理。	長石・雲母にぶい褐色普通	P1373 98% 床面 PL142 二次焼成
2	坏 土師器	A 14.2 B 4.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り後へラ磨き，内面へラ磨き。外面黑色処理。	長石・石英・スコリア 明黄褐色普通	P1374 98% 覆土中 PL142 二次焼成
3	坏 土師器	A 13.9 B 4.6	口縁部から体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り後へラ磨き，内面放射状のへラ磨き。内・外面黑色処理。	長石・スコリア 橙色普通	P1375 90% 覆土中 PL142 内面・外面一部に二次焼成

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第332図 4	坏 土師器	A 12.6 B 4.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後、ヘラ磨き、内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。内面器面荒れ。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P 1376 90% 床面 PL142 二次焼成
5	坏 土師器	A [12.7] B 4.0	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P 1377 50% 覆土中 二次焼成
6	坏 土師器	A [14.8] B (3.8)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面放射状のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母 褐色 普通	P 1378 30% 覆土中 二次焼成
7	碗 土師器	A [15.0] B (6.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ヘラ磨き。	長石・スコリア 暗褐色 普通	P 1379 20% 覆土中
8	高坏 土師器	A [19.1] B (4.2)	坏部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は大きく外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 1380 5% 覆土中 流れ込み
9	甕 土師器	A 21.9 B 35.2 C [9.0]	底部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、端部はわずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面中位から下位にかけてヘラ磨き、内面ナデ。外面器面摩耗。内面輪積み痕。	長石・石英・雲母・ スコリア 橙色 普通	P 1381 90% 床面 PL142
10	甌 土師器	A [30.6] B 33.5 C [8.0]	底部から口縁部片。無底式。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・雲母 橙色 普通	P 1382 45% 床面 PL142
11	甌 土師器	A [21.2] B 17.8 C [9.0]	底部から口縁部片。無底式。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。外面器面摩耗。	長石・雲母・スコ リア 橙色 普通	P 1383 65% 覆土中 PL142
12	ミニチュア 土師器	A [7.0] B 2.3 C [3.4]	底部から口縁部片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ナデ。外面凹凸。	長石・雲母 橙色 普通	P 1384 55% 覆土中
13	ミニチュア 土師器	A [6.3] B 3.2	底部から口縁部片。丸底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ナデ。内面指頭痕。外面輪積み痕。外面凹凸。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 1385 55% 覆土中

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
第333図16	土玉	3.2	3.3	0.8	(31.7)	床面	DP1115	90%	PL168

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
17	砥石	8.0	6.4	4.3	182.3	凝灰岩	覆土中	Q1024	

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
18	刀子	(6.5)	1.5	0.5	(5.6)	覆土中	M1027	95%	PL177

第226号住居跡 (第334図)

位置 調査区の南西部, G 2 j2 区。

規模と平面形 長軸 [3.50]m, 短軸 [3.23]m の方形と推定される。

主軸方向 不明

壁 壁高は28cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 北東コーナー部から東壁下にかけて一部巡っている。上幅17~24cm, 下幅5~11cm, 深さ5~7cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 北東コーナー部付近に踏み固められた部分が見られる。

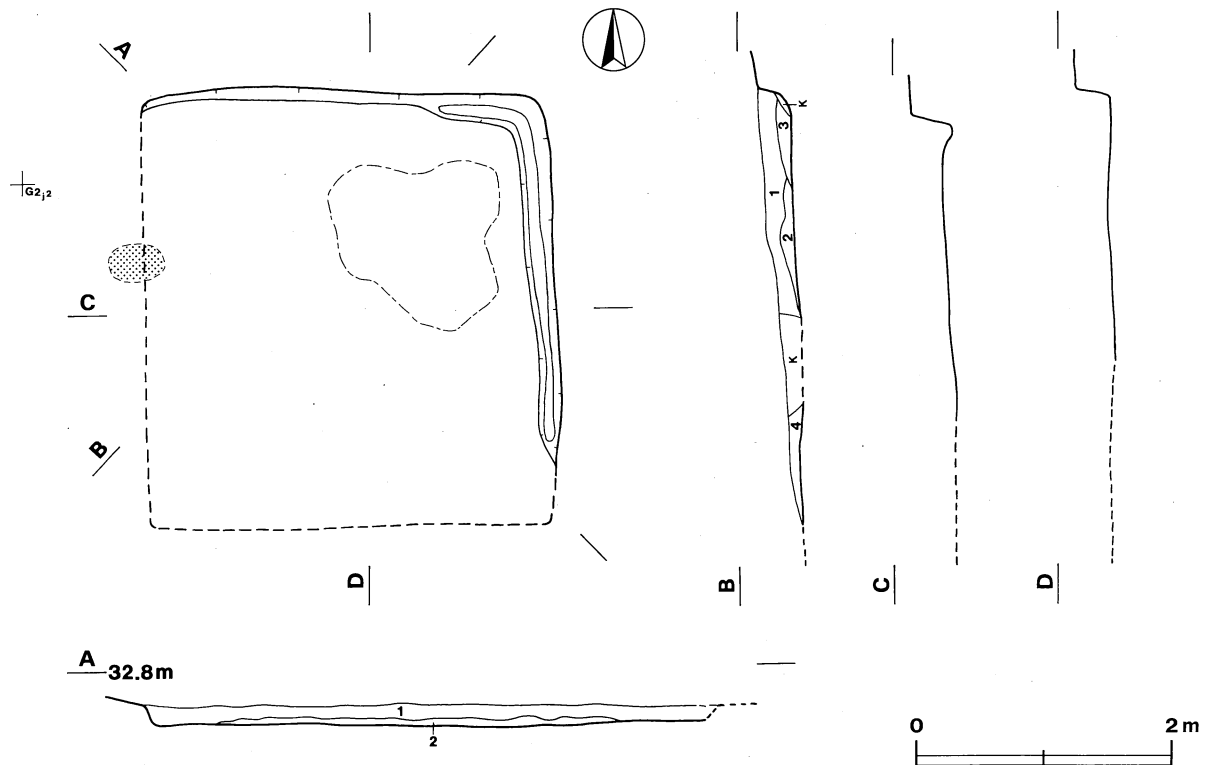
覆土 4層からなり, 自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 炭化・ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗赤褐色 焼土, ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量

遺物 土師器片58点 (甕片58点), 縄文土器片3点が出土しているが, ほとんどが細片のため図示できるものはない。

所見 本跡は, 南西側が削平されているため竈が確認できなかった。出土遺物が細片のため, 時期は不明である。



第334図 第226号住居跡実測図

第228号住居跡 (第335図)

位置 調査区の南西中央部, H 2 c4 区。

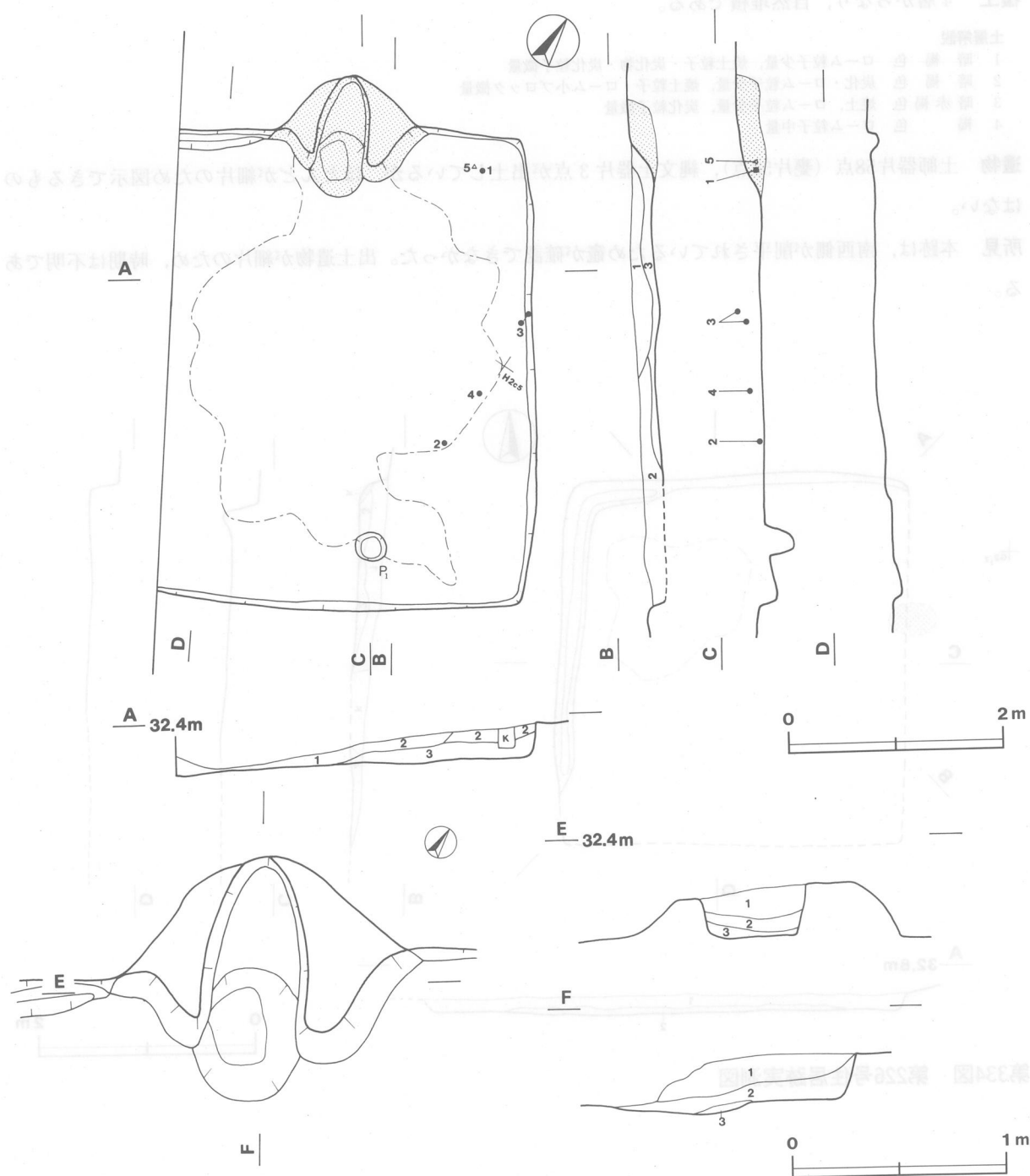
規模と平面形 長軸4.46m, 短軸 (3.44)m の長方形と推定される。

主軸方向 N-30°-W

壁 壁高は6~18cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 北西壁下に一部巡っている。上幅20cm, 下幅7cm, 深さ10cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。



第335図 第228号住居跡実測図

ピット P1 は径30cmの円形、深さ25cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北西壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで115cm、両袖最大幅120cm、壁外への掘り込みは10cmである。袖の内壁は、火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は、床面を10cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・粘土粒子微量
- 2 暗赤褐色 粘土粒子中量、焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 3 褐色 焼土・ローム・粘土粒子中量

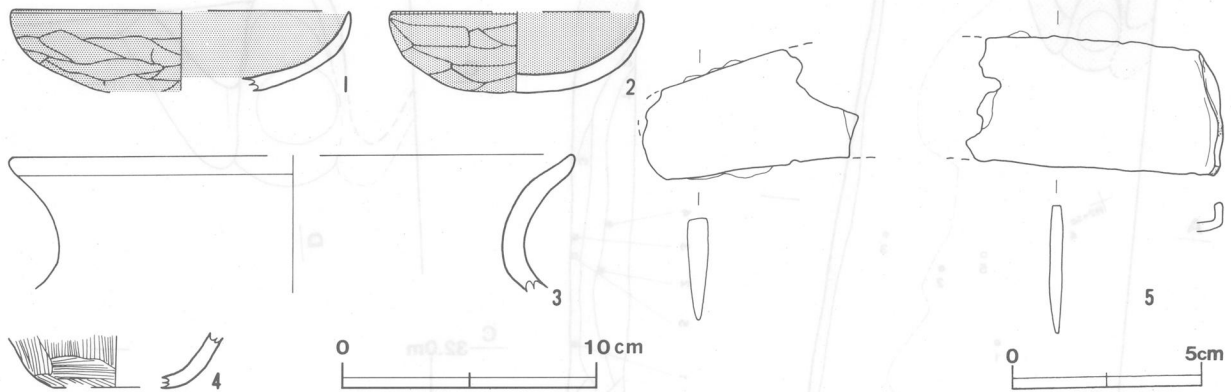
覆土 3層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子少量

遺物 土師器片99点（坏片17点、甕片82点）、須恵器片1点（甕片1点）、鉄鎌1点、鉄滓55g、含鉄滓50g、縄文土器片1点、ナイフ形石器1点が出土している。覆土上層では、第336図3の土師器甕が北東壁部から出土している。覆土下層では、1の土師器坏、5の鉄製鎌が北コーナー部から出土している。床面では、2の土師器坏が中央部東側から出土している。その他、覆土中から4の土師器甕が出土しているが、流れ込んだ遺物である。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から7世紀中葉と考えられる。



第336図 第228号住居跡出土遺物実測図

第228号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第336図 1	坏 土師器	A [13.3] B (3.1)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・雲母 黒褐色 普通	P 1387 30% 覆土中
2	坏 土師器	A [9.7] B 3.3	底部から口縁部片。丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・雲母 褐灰色 普通	P 1388 30% 床面
3	甕 土師器	A [22.2] B (5.3)	口縁部片。口縁部は外反し、端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P 1389 5% 覆土中

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第336図 4	甕 土師器	B (2.1) C [5.0]	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面刷毛目。内面器面剝離。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P1390 覆土中

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
5	鎌	(15.3)	3.7	0.5	(24.0)	覆土中	M1028	95%

第229号住居跡 (第337図)

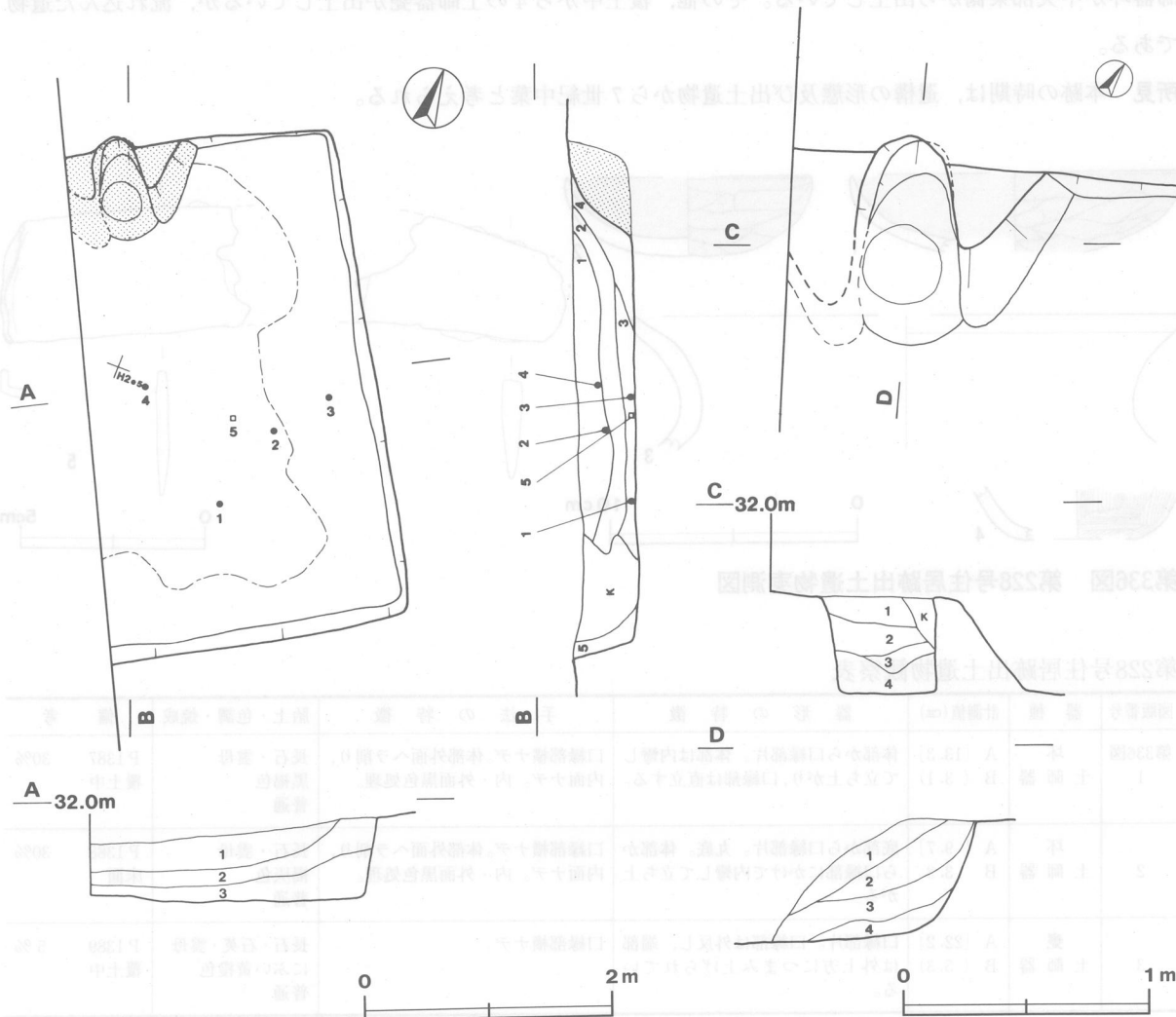
位置 調査区の南西部, H 2 d5 区。

規模と平面形 長軸4.12m, 短軸(2.33)mの方形と推定される。

主軸方向 N-28°-W

壁 壁高48~64cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 中央部は踏み固められている。



第337図 第229号住居跡実測図

竈 北西壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、東側袖部が攪乱を受けている。規模は、煙道部から焚き口部まで85cm、両袖最大幅96cm、壁外への掘り込みは10cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 炭化粒子少量、焼土粒子・炭化物・ローム粒子微量
- 3 褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量

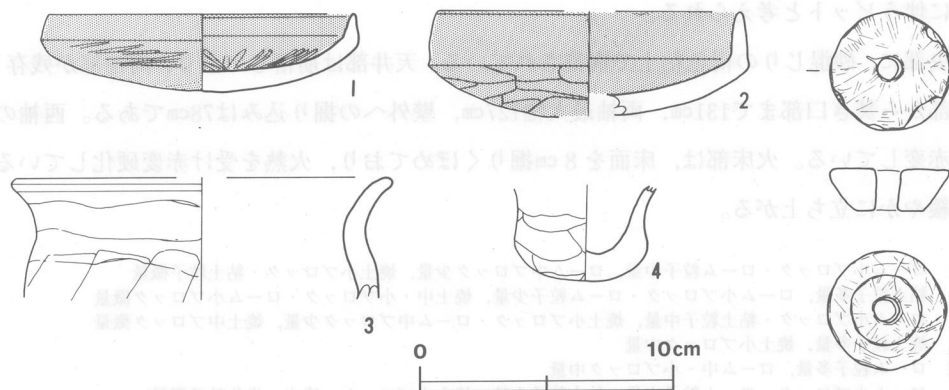
覆土 5層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土小ブロック・ローム中・小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 5 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量

遺物 土師器片485点（坏片71点、甕片414点）、石製紡錘車1点、縄文土器片6点が出土している。覆土上層では、第338図2の土師器坏が中央部東側から、4の土師器ミニチュア土器が斜位の状態で中央部から出土している。覆土下層では、1の土師器坏が中央部南東側から正位の状態で、3の土師器甕が北東壁部から出土している。床面では、5の石製紡錘車が中央部東側から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀中葉と考えられる。



第338図 第229号住居跡出土遺物実測図

第229号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第338図 1	坏 土師器	A 12.2 B 3.1	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面へら削り後へら磨き、内面放射状のへら磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母 黒褐色 普通	P 1391 65% 覆土中 PL143
2	坏 土師器	A [12.0] B (4.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へら削り後へら磨き、内面へら磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母 黒褐色 普通	P 1392 30% 覆土中 二次焼成
3	甕 土師器	A [15.0] B (4.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へら削り、内面ナデ。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	P 1393 3% 覆土中 二次焼成

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第338図 4	ミニチュア 土師器	B (3.8)	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 彎して立ち上がり、口縁部はわず かに外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラナデ、 内面ナデ。	長石、石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P 1394 98% 覆土中 PL143

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
5	紡錘車	4.7	1.7	0.9	45.3	粘板岩	床面	Q1026 PL176

第230 A 号住居跡 (第339・340図)

位置 調査区の南部，H 2 b6 区。

重複関係 本跡が，第230 B 号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸6.24m，短軸6.14m の方形である。

主軸方向 N - 46° - W

壁 壁高17～43cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅13～22cm，下幅3～7cm，深さ6～16cmで，断面形はU字状である。

床 平坦で，中央部は踏み固められている。

ピット 5か所 (P1～P5)。P1～P4 は，長径68～85cm，短径65～70cmの楕円形，深さ70～82cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5 は長径38cm，短径31cmの楕円形，深さ26cmの楕円形である。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北西壁中央部に，砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，煙道部から焚き口部まで131cm，両袖最大幅127cm，壁外への掘り込みは78cmである。西袖の内壁は，火熱を受けて赤変している。火床部は，床面を8cm掘りくぼめており，火熱を受け赤変硬化している。煙道部は，外傾して緩やかに立ち上がる。

電土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土小ブロック・粘土粒子微量
- 2 にぶい褐色 粘土粒子多量，ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土中・小ブロック・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・粘土粒子中量，焼土小ブロック・ローム中ブロック少量，焼土中ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子多量，焼土小ブロック中量
- 5 褐色 ローム粒子多量，ローム中・小ブロック中量
- 6 褐灰色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，粘土粒子少量，焼土小ブロック・焼土・炭化粒子微量
- 7 灰褐色 粘土粒子中量，焼土小ブロック・ローム小ブロック少量，焼土中ブロック・ローム粒子微量
- 8 褐灰色 ローム・粘土粒子少量，焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・焼土・粘土粒子微量

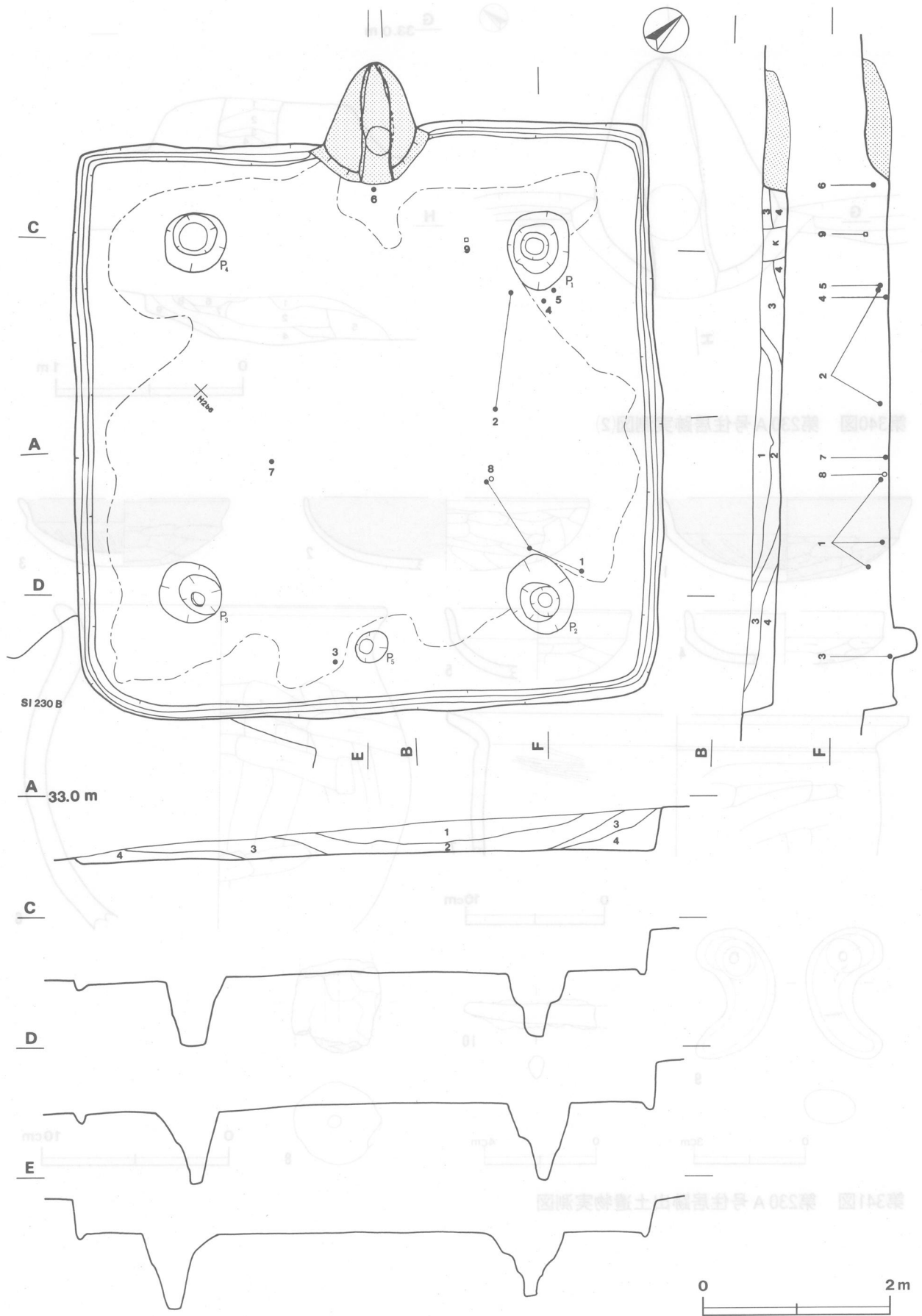
覆土 4層からなり，レンズ状の堆積を示し，自然堆積である。

土層解説

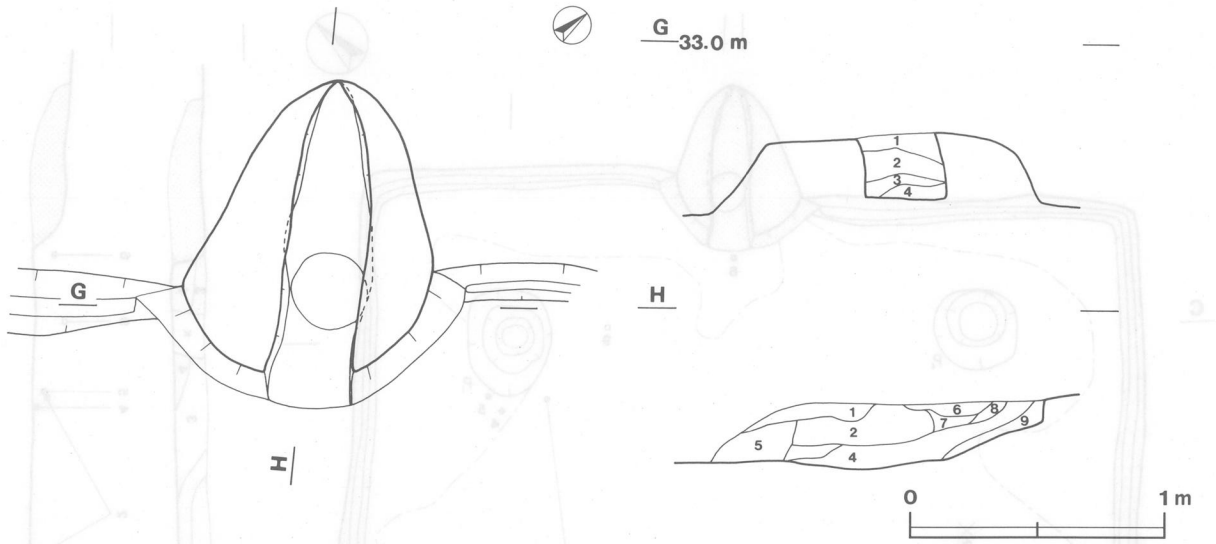
- 1 暗褐色 ローム粒子中量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 焼土小ブロック・焼土・ローム粒子少量，焼土中ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量，焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量

遺物 土師器片521点 (坏片105点，甕片416点)，須恵器片3点 (長頸瓶片2点，甕片1点)，管状土錘1点，刀子1点，勾玉1点，縄文土器片2点が出土している。覆土上層では，第341図1の土師器坏が中央部東側から，6の土師器甕が竈付近から，9の勾玉が中央部北側から出土している。覆土中層では，5の土師器坏が中央部北側から出土している。覆土下層では，2の土師器坏が中央部北東側から，3の土師器坏が南東壁部から，7の土師器甕が中央部南側から，8の管状土錘が中央部東側から出土している。床面では，4の土師器坏が中央部北側から出土している。その他，覆土中では，10の刀子が出土している。

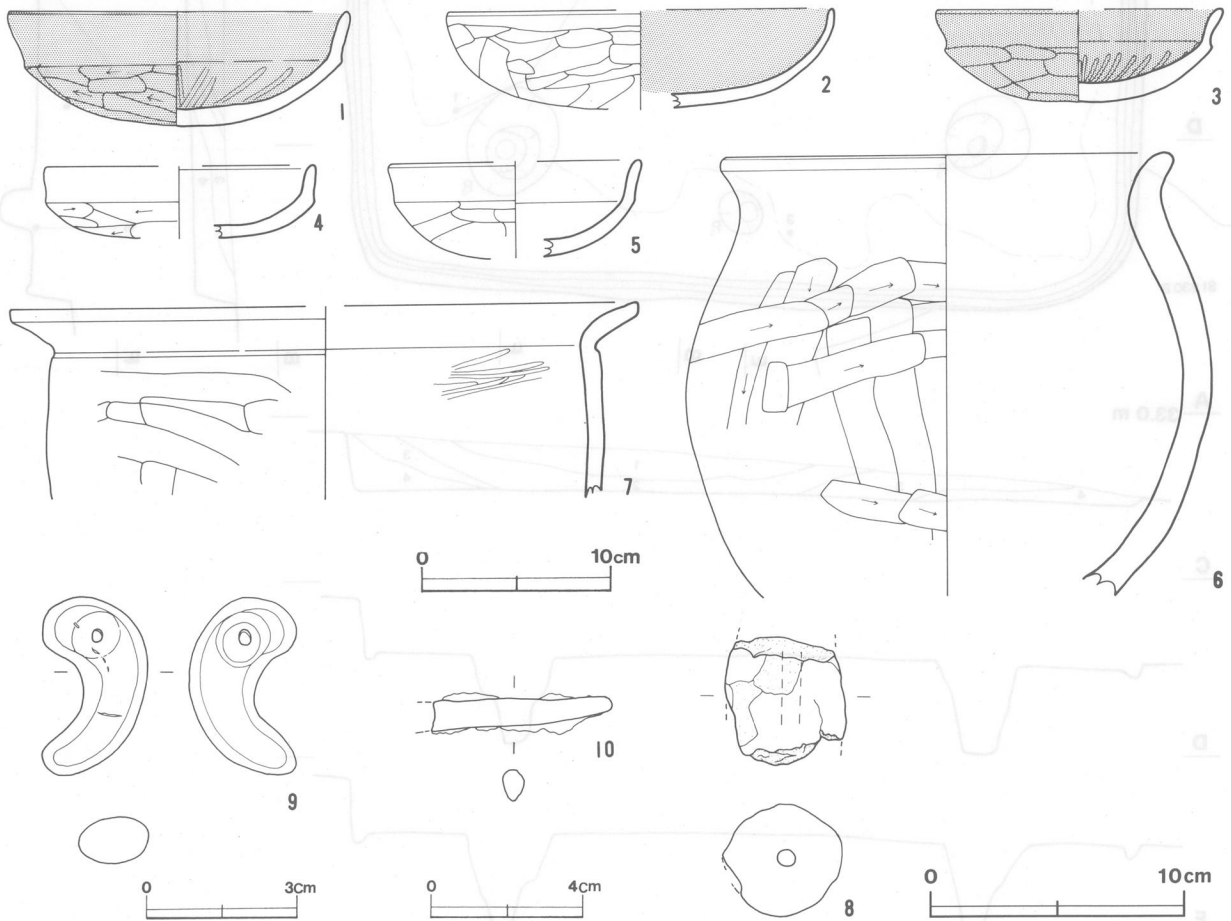
所見 本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から6世紀後葉と考えられる。



第339图 第230 A号住居跡実測図(1)



第340图 第230 A号住居跡実測图(2)



第341图 第230 A号住居跡出土遺物実測图

第230A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第341図 1	坏 土師器	A 13.5 B 4.5	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り後へラ磨き、内面放射状のへラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母にぶい橙色普通	P 1395 80% 覆土中 PL143 二次焼成
2	坏 土師器	A [15.2] B (3.9)	体部から口縁部片。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内面黒色処理。	長石・石英・雲母にぶい橙色普通	P 1396 40% 覆土中 二次焼成
3	坏 土師器	A [11.4] B 3.6	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面放射状のへラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・石英・雲母にぶい橙色普通	P 1397 50% 覆土中 二次焼成
4	坏 土師器	A [10.7] B (2.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・雲母・スコリア 橙色普通	P 1398 25% 床面 二次焼成
5	坏 土師器	A [10.0] B (3.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・雲母 灰黄褐色普通	P 1399 25% 覆土中 二次焼成
6	甕 土師器	A 17.9 B (17.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。外面一部器面剝離。	長石・石英・雲母にぶい橙色普通	P 1400 70% 覆土中 PL143 二次焼成
7	甗 土師器	A [33.0] B (10.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外傾し、端部はわずかに外上方につまみ上げている。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラ磨き。	長石・石英・雲母にぶい橙色普通	P 1401 10% 覆土中 二次焼成

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
8	管状土錘	(5.1)	(4.7)	0.7	(81.4)	覆土中 DP1116	20%

図版番号	器種	計測値					石質	出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
9	勾玉	3.6	1.3	0.9	-	(8.4)	滑石	覆土中 Q1027	90%

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
10	刀子	(4.8)	1.2	0.6	(3.5)	覆土中 M1029	95%

第230B号住居跡 (第342図)

位置 調査区の南部，H 2 d6 区。

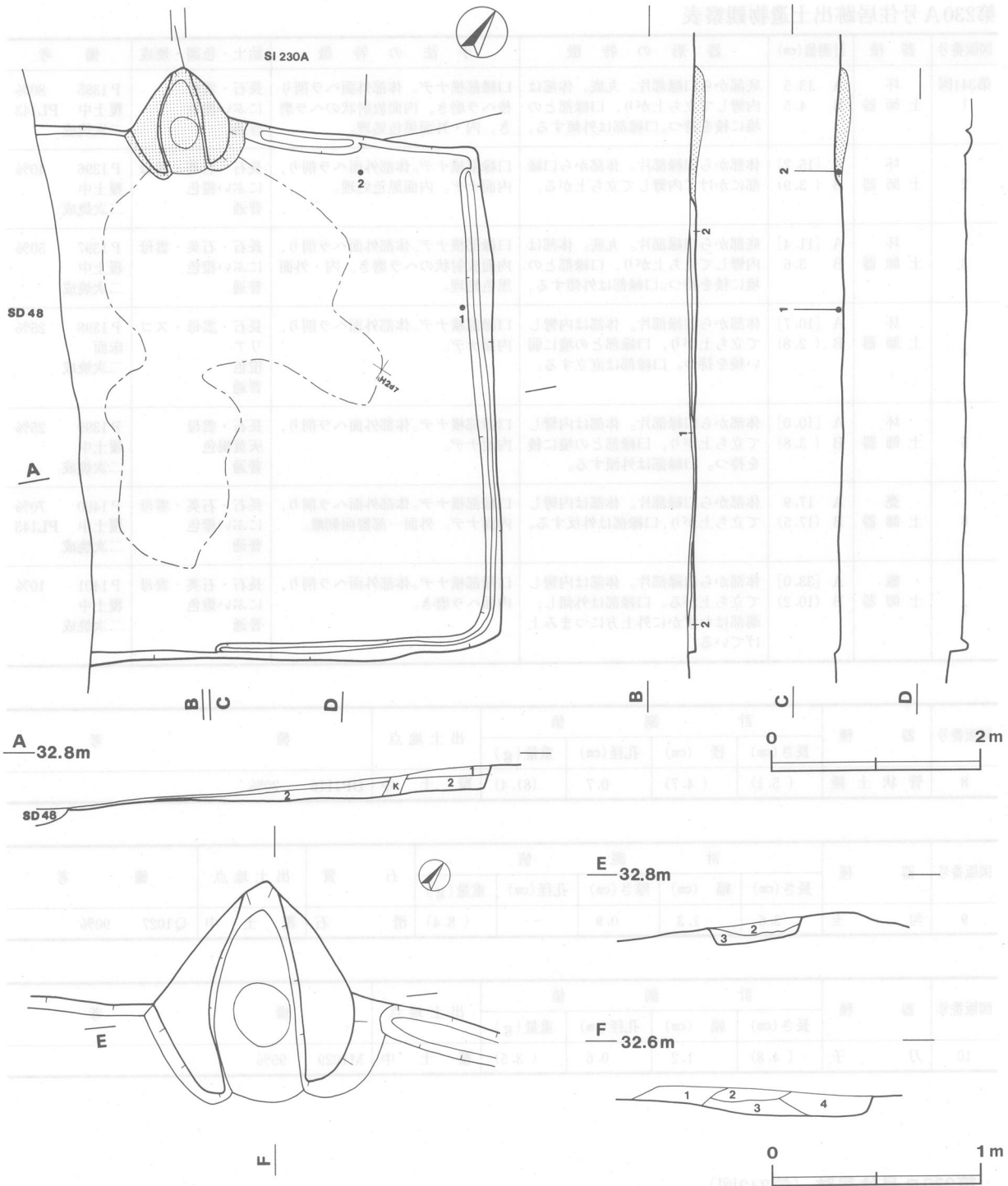
重複関係 本跡は，第230A号住居跡と第48号溝によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.17m，短軸 (4.16)m の方形と推定される。

主軸方向 N - 35° - W

壁 壁高5～28cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 北コーナー部付近から南東壁下中央部にかけて半周する。上幅13～25cm，下幅4～10cm，深さ7～8cmで，断面形はU字状である。



第342図 第230B号住居跡実測図

床 平坦で、竈前方部は踏み固められている。

竈 北西壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで103cm、両袖最大幅112cm、壁外への掘り込みは58cmである。袖の内壁は、火熱を受けてわずかに赤変している。火床面は、床面を8cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

甕土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム・粘土粒子少量
- 2 にぶい赤褐色 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子少量
- 3 暗 赤 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 粘土粒子微量
- 4 暗 褐 色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

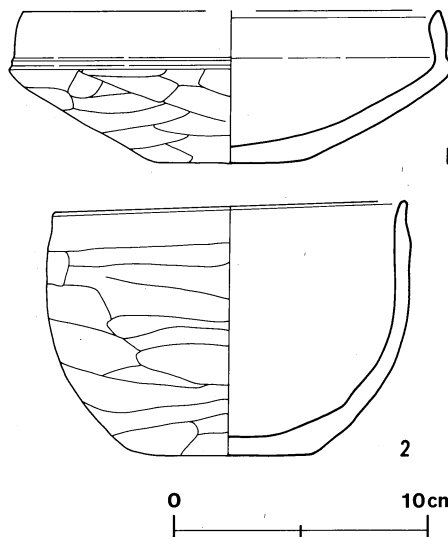
覆土 2層からなり, 自然堆積である。

土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化物微量
- 2 褐 色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・
焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量

遺物 土師器片57点(坏片17点, 甕片40点), 須恵器片1点(甕片1点)が出土している。床面では, 第343図1の土師器坏が北東壁部から, 2の土師器鉢が北コーナー部付近から正位の状態出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から6世紀前葉と考えられる。



第343図 第230B号住居跡出土遺物実測図

第230B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第343図 1	坏 土師器	A [16.1]	底部から口縁部片。平底。体部はわずかに内彎して立ち上がり, 口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ, 内面ナデ。	長石・雲母 明褐色 普通	P 1402 55% 床面 PL143
		B 6.0				
		C 6.0				
2	鉢 土師器	A 14.0	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は短く外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り, 内面ヘラ磨き。	長石・雲母 赤褐色 普通	P 1403 3% 床面 PL143
		B 10.1				
		C 7.3				

第231号住居跡 (第344図)

位置 調査区の南部, H 2 a 7 区。

重複関係 本跡は, 第47号溝によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.96m, 短軸3.61mの方形である。

主軸方向 N-102°-E

壁 壁高16~30cmで, 外傾して立ち上がる。

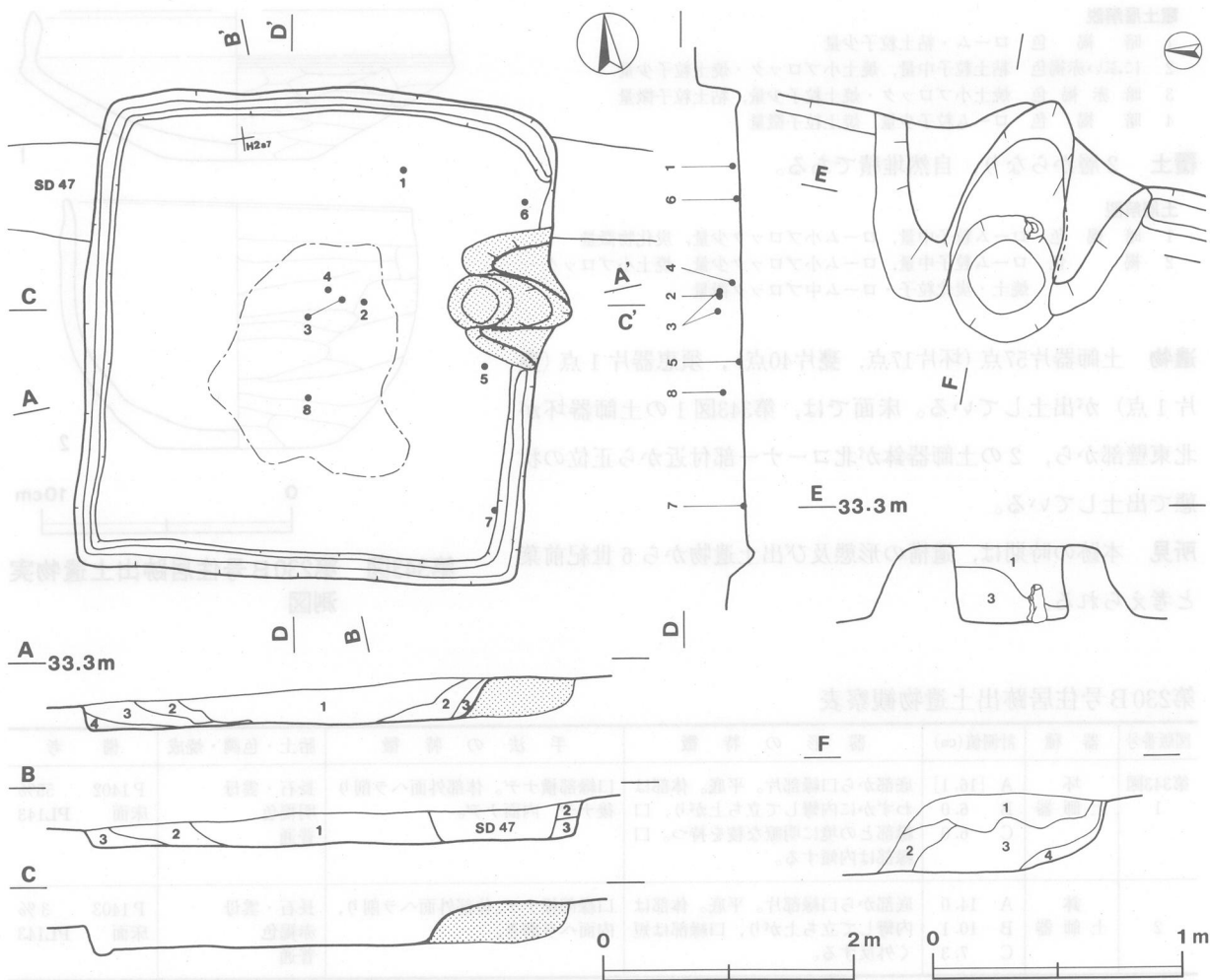
壁溝 全周する。上幅16~24cm, 下幅6~11cm, 深さ4~8cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部は踏み固められている。

竈 東壁中央部に, 砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚き口部まで98cm, 両袖最大幅106cm, 壁外への掘り込みは23cmである。袖の内壁は, 火熱を受けて赤変している。火床部は, 床面をわずかに掘りくぼめており, 火熱を受け赤変硬化している。土製支脚が火床部中央付近に立った状態で出土している。煙道部は, 外傾して立ち上がる。

甕土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・粘土粒子微量
- 2 暗 褐 色 焼土小ブロック・炭化物微量
- 3 暗 赤 褐色 焼土粒子中量, 焼土中・小ブロック・粘土粒子少量
- 4 暗 褐 色 焼土・ローム粒子少量



第344図 第231号住居跡実測図

覆土 4層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

土層解説

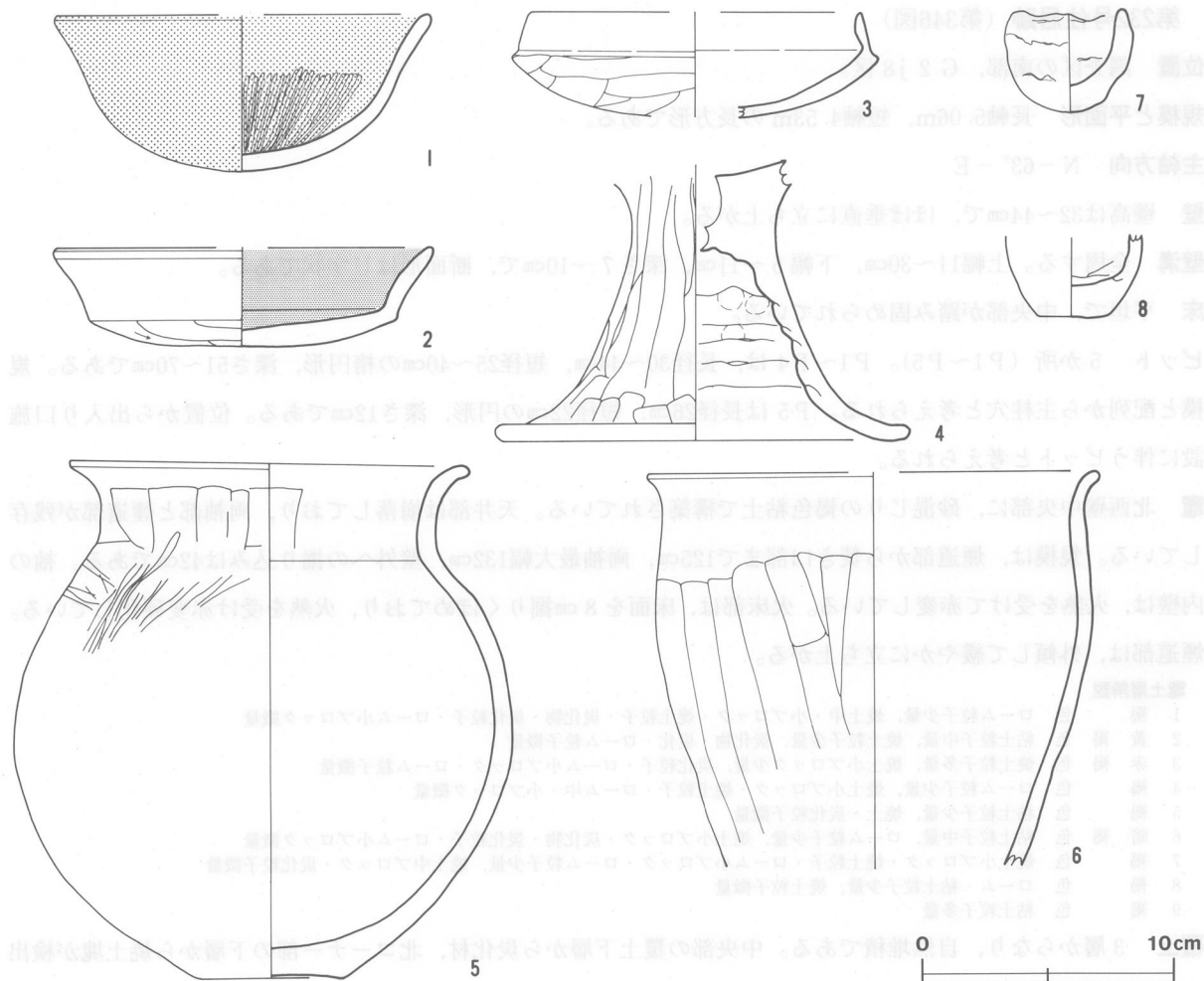
- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 4 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量

遺物 土師器片89点(坏片12点、甕片76点、高坏片1点)、縄文土器片1点、弥生土器片1点が出土している。覆土中層では、第345図2、3の土師器坏、8のミニチュア土器が中央部付近から出土している。2は逆位、8は正位の状態出土している。覆土下層では、1の土師器坏が中央部北東側から、4の土師器高坏が中央部付近から出土している。1は逆位の状態出土している。床面では、5の土師器甕が竈の前方部から逆位の状態、6の土師器甕が北東コーナー部付近から、7のミニチュア土器が南東コーナー部付近から正位の状態出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀中葉と考えられる。

第231号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第345図 1	坏 土師器	A [15.0] B 6.1	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ、内面放射状のヘラ磨き。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P1404 覆土中 PL143



第345図 第231号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第345図 2	坏 土師器	A [15.2] B 4.0	底部から口縁部片。丸底。体部はわずかに内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内面黒色処理。	長石・石英・雲母 スコリア 黒褐色 普通	P 1405 50% 覆土中 二次焼成
3	坏 土師器	A [13.2] B (4.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り後へラ磨き、内面ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 1406 40% 覆土中 二次焼成
4	高坏 土師器	B (11.1) D 16.6 E 10.1	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部外面へラ削り、内面ナデ、輪積み及び指頭痕。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 1407 45% 覆土中
5	甕 土師器	A 15.9 B 20.6 C 5.8	底部から口縁部片。平底。体部は球形形状を呈し、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。頸部外面縦位へラ削り。体部外面へラ磨き、内面ナデ。外面器面剝離。	長石・石英・雲母 赤褐色 不良	P 1408 60% 床面 PL143
6	甗 土師器	A [18.0] B (15.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面縦位のへラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P 1409 40% 床面
7	ミニチュア 土師器	A 4.5 B 4.1	丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ナデ。内・外面輪積み痕。	長石・雲母 明赤褐色 普通	P 1410 100% 床面 PL143
8	ミニチュア 土師器	B (3.2) C 2.6	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。内面輪積み痕。	長石・雲母 黄灰色 普通	P 1411 60% 覆土中

第232号住居跡 (第346図)

位置 調査区の南部, G 2 j 8 区。

規模と平面形 長軸5.06m, 短軸4.53mの長方形である。

主軸方向 N-63°-E

壁 壁高は32~44cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅11~30cm, 下幅5~11cm, 深さ7~10cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は, 長径30~44cm, 短径25~40cmの楕円形, 深さ51~70cmである。規模と配列から支柱穴と考えられる。P5は長径26cm, 短径22cmの円形, 深さ12cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北西壁中央部に, 砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部と煙道部が残存している。規模は, 煙道部から焚き口部まで125cm, 両袖最大幅132cm, 壁外への掘り込みは42cmである。袖の内壁は, 火熱を受けて赤変している。火床部は, 床面を8cm掘りくぼめており, 火熱を受け赤変硬化している。煙道部は, 外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 焼土中・小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黄褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量, 炭化物・炭化・ローム粒子微量
- 3 赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック少量, 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中・小ブロック微量
- 5 褐色 粘土粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 粘土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 7 褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土中ブロック・炭化粒子微量
- 8 褐色 ローム・粘土粒子少量, 焼土粒子微量
- 9 褐色 粘土粒子多量

覆土 3層からなり, 自然堆積である。中央部の覆土下層から炭化材, 北コーナー部の下層から焼土塊が検出されている。

土層解説

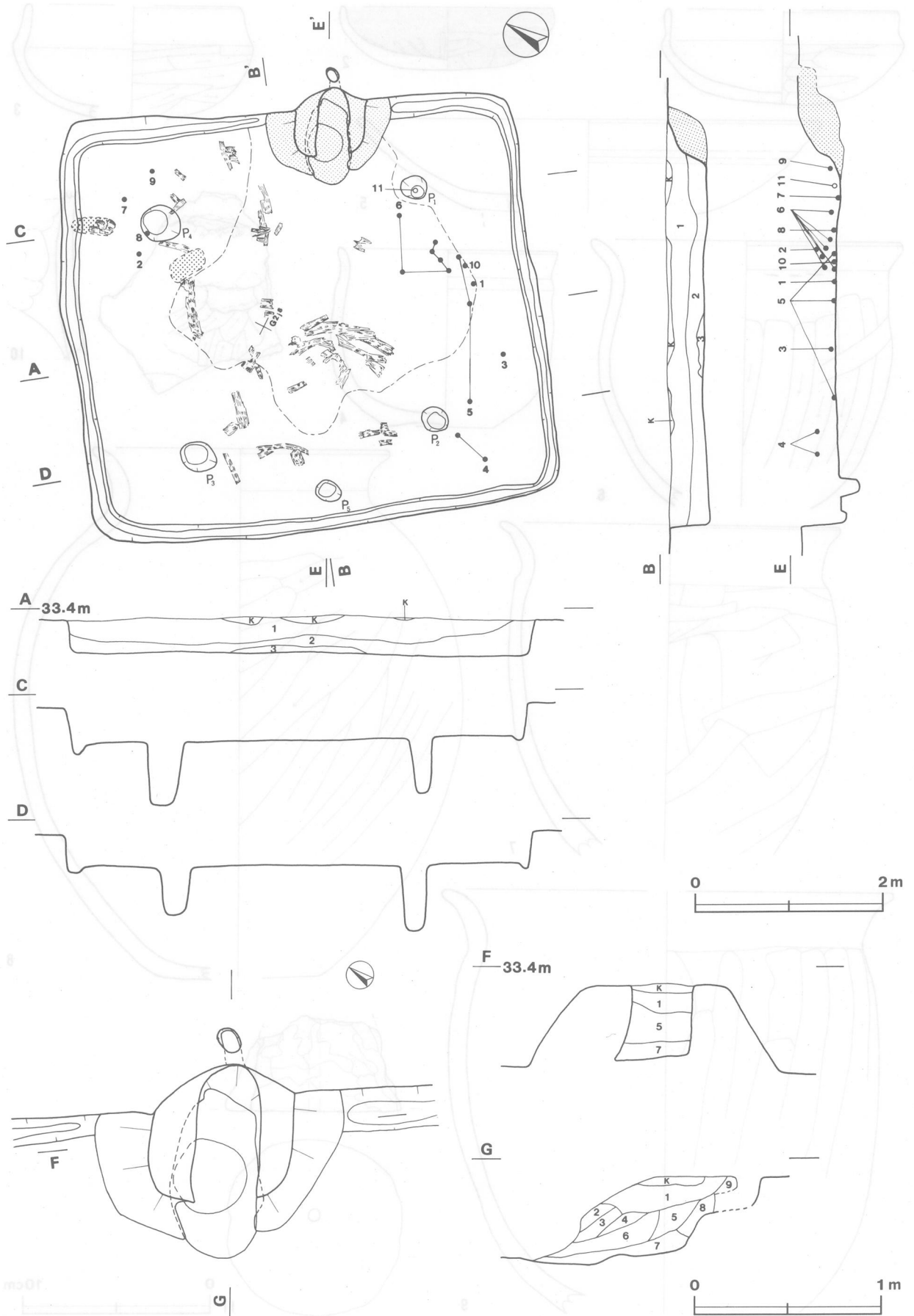
- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土・炭化・ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化材・炭化物微量
- 3 黒褐色 炭化粒子中量, 焼土粒子・炭化材・炭化物少量, ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物 土師器片257点 (坏片8点, 甕片249点), 土製支脚1点, 縄文土器片12点が出土している。覆土中層では, 第347図2の土師器坏が北コーナー部から, 4の土師器碗が南コーナー部付近から出土している。覆土下層では, 9の土師器甕が北コーナー部から, 11の土製支脚が中央部東側から出土している。床面では, 1の土師器坏, 3の土師器坏, 5の土師器高坏, 6の土師器甕, 10の土師器甗が南東壁部付近から, 8の土師器甕, 7の甕が北コーナー部から出土している。1は逆位の状態で出土している。

所見 本跡は, 覆土下層から床面にかけて焼土塊や炭化材がみられることから, 焼失家屋と思われる。本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から6世紀中葉と考えられる。

第232号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第347図 1	坏 土師器	A [12.2] B 5.0	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り, 内面ナデ。	長石・石英・雲母にぶい黄橙色 普通	P1412 床面 PL143 70%
2	坏 土師器	A 11.4 B 3.3	底部から口縁部片。丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り, 内面放射状のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母・スコリア 灰褐色 普通	P1413 覆土中 PL144 80%



第346图 第232号住居跡実測図

图346 第232号住居跡出土物実測図



第347图 第232号住居跡出土遺物実測図

図版実録器封子SES第 図版実録

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第347図 3	坏 土師器	A [11.4] B (6.1)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P 1414 30% 床面
4	碗 土師器	A 11.8 B 9.5 C 5.8	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部内面ナデ。外面器面荒れ。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 不良	P 1416 40% 覆土中 二次焼成
5	高坏 土師器	A 25.0 B (5.1)	坏部片。坏部は外傾して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。	長石 にぶい褐色 普通	P 1415 70% 床面 PL144 二次焼成
6	甕 土師器	A 16.8 B (14.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面縦位のへラ削り後ナデ、内面ナデ。口縁部に輪積み痕。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1420 80% 床面 PL143
7	甕 土師器	A 18.2 B (17.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 1419 80% 床面
8	甕 土師器	A 15.9 B 28.6 C [8.6]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 1417 85% 床面 PL144
9	甕 土師器	A [24.8] B (22.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面縦位のへラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P 1418 80% 覆土中 PL144
10	甌 土師器	-	把手部一部欠損片。把手は環状を呈する。	把手部貼付け後、ナデ。	長石・石英・雲母 オリーブ黒色 普通	P 1421 5% 床面

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
11	支脚	(5.0)	9.4	0.7	(338.2)	覆土中	DP1117 20%

第233号住居跡（第348図）

位置 調査区の南部，H 2 j2 区。

規模と平面形 長軸4.70m，短軸4.41mの方形である。

主軸方向 N - 3° - W

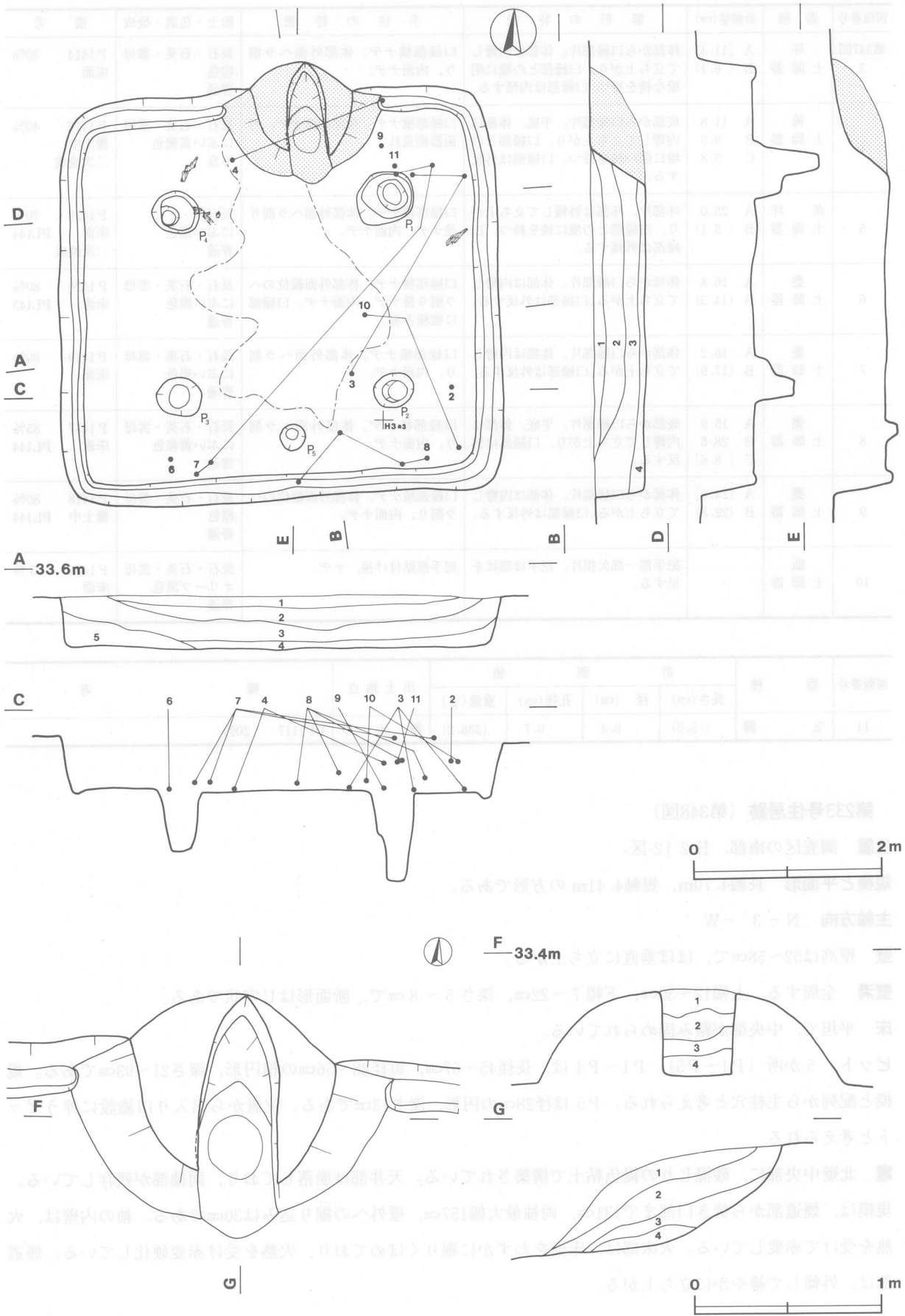
壁 壁高は52～58cmで，ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅12～30cm，下幅7～22cm，深さ5～8cmで，断面形はU字状である。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット 5か所（P1～P5）。P1～P4は，長径45～67cm，短径38～56cmの楕円形，深さ21～93cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は径28cmの円形，深さ13cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に，砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は，煙道部から焚き口部まで131cm，両袖最大幅157cm，壁外への掘り込みは30cmである。袖の内壁は，火熱を受けて赤変している。火床部は，床面をわずかに掘りくぼめており，火熱を受け赤変硬化している。煙道部は，外傾して緩やかに立ち上がる。



第348図 第233号住居跡実測図

甕土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム・粘土粒子少量, 焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 4 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子多量, ローム粒子少量, 焼土大・中ブロック・炭化物・炭化粒子微量

覆土 5層からなり, レンズ状の堆積を示し, 自然堆積である。東壁部と竈の前方部の覆土下層から炭化材や焼土塊が検出されている。

土層解説

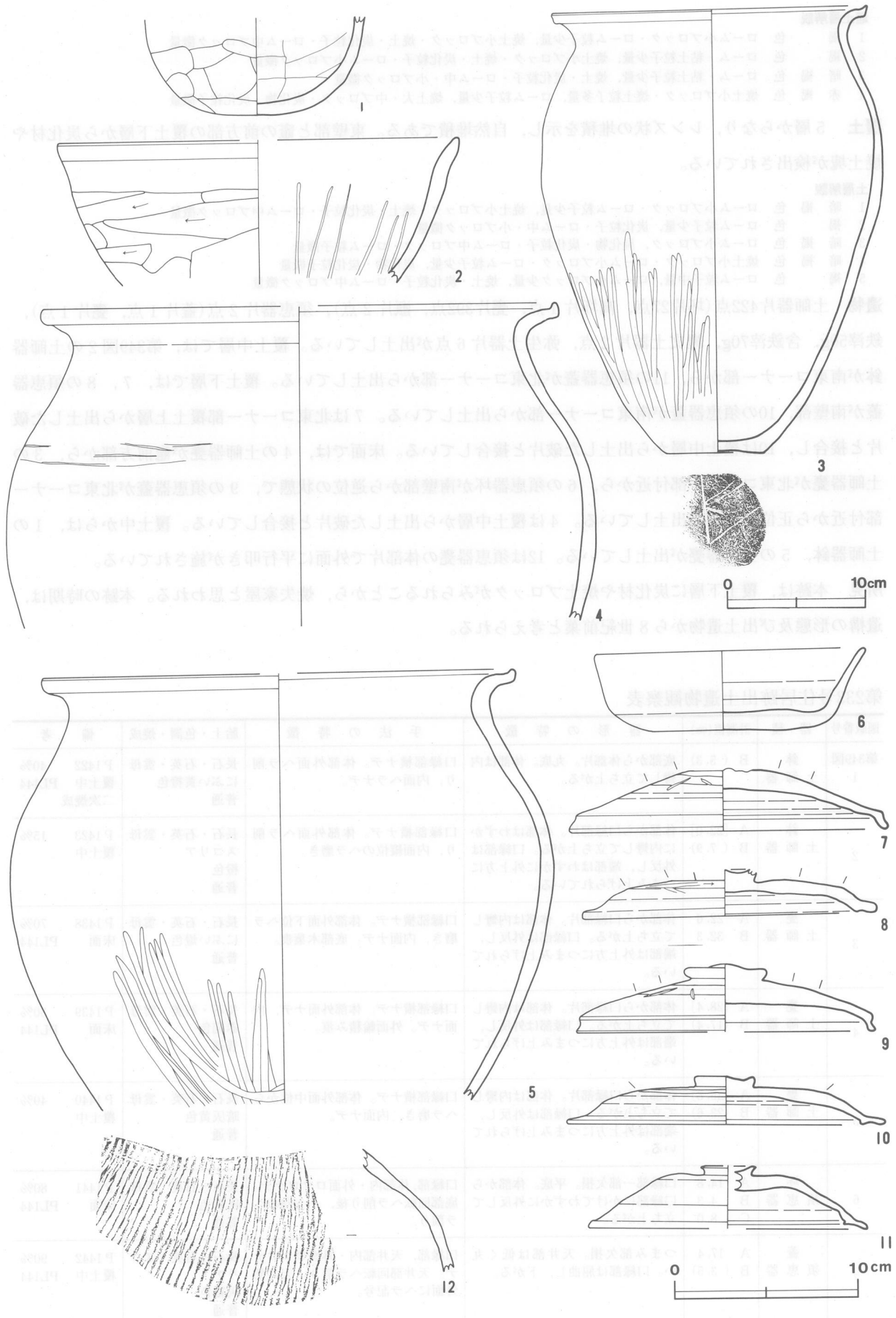
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック, 炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量

遺物 土師器片422点(坏片27点, 高坏片1点, 甕片392点, 甗片2点), 須恵器片2点(蓋片1点, 甕片1点), 鉄滓50g, 含鉄滓70g, 縄文土器片2点, 弥生土器片6点が出土している。覆土中層では, 第349図2の土師器鉢が南東コーナー部から, 11の須恵器蓋が北東コーナー部から出土している。覆土下層では, 7, 8の須恵器蓋が南壁部, 10の須恵器蓋が南東コーナー部から出土している。7は北東コーナー部覆土上層から出土した破片と接合し, 10は覆土中層から出土した破片と接合している。床面では, 4の土師器甕が竈前方部から, 3の土師器甕が北東コーナー部付近から, 6の須恵器坏が南壁部から逆位の状態で, 9の須恵器蓋が北東コーナー部付近から正位の状態で出土している。4は覆土中層から出土した破片と接合している。覆土中からは, 1の土師器鉢, 5の土師器甕が出土している。12は須恵器甕の体部片で外面に平行叩きが施されている。

所見 本跡は, 覆土下層に炭化材や焼土ブロックがみられることから, 焼失家屋と思われる。本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から8世紀前葉と考えられる。

第233号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第349図 1	鉢 土師器	B (5.3)	底部から体部片。丸底。体部は内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り, 内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P 1422 40% 覆土中 PL144 二次焼成
2	鉢 土師器	A [22.0] B (7.9)	体部から口縁部片。体部はわずかに内彎して立ち上がる。口縁部は外反し, 端部はわずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り, 内面縦位のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 スコリア 橙色 普通	P 1423 15% 覆土中
3	甕 土師器	A 22.6 B 32.3	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し, 端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面下位ヘラ磨き, 内面ナデ。底部木葉痕。	長石・石英・雲母 にぶい燈色 普通	P 1438 70% 床面 PL144
4	甕 土師器	A [28.4] B (17.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し, 端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面ナデ, 内面ナデ。外面輪積み痕。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P 1439 30% 床面 PL144
5	甕 土師器	A [25.8] B (23.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し, 端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面中位からヘラ磨き, 内面ナデ。	長石・石英・雲母 暗灰黄色 普通	P 1440 40% 覆土中
6	坏 須恵器	A 14.8 B 4.3 C 8.0	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけてわずかに外反して立ち上がる。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ削り後, 一方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P 1441 80% 床面 PL144
7	蓋 須恵器	A 17.4 B (3.5)	つまみ部欠損。天井部は低く丸い。口縁部は屈曲し, 下がる。	口縁部, 天井部内・外面ロクロナデ。天井部回転ヘラ削り。天井部外面にヘラ記号。	長石・石英・スコリア 灰褐色 普通	P 1442 90% 覆土中 PL144



第349図 第233号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第349図 8	蓋 須恵器	A 16.1 B (2.5) F 4.3 G 0.8	つまみ部から口縁部片。つまみはボタン状である。天井部は低く丸い。口縁部は水平方向に折り曲げ、内面に短いかえりを持つ。	口縁部、天井部内・外面ロクロナデ。天井部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	P 1443 80% 覆土中 PL145
9	蓋 須恵器	A [16.3] B 3.8 F [4.4] G (1.1)	つまみ部から口縁部片。つまみはボタン状である。天井部は低く丸い。口縁部は屈曲し、下がる。	口縁部、天井部内・外面ロクロナデ。天井部回転ヘラ削り。天井部外面にヘラ記号。	長石・スコリア 灰黄褐色 普通	P 1444 65% 床面 PL145
10	蓋 須恵器	A 17.4 B 2.7 F 3.3 G 0.7	つまみ部から口縁部片。つまみはボタン状である。天井部は低く丸い。口縁部は水平方向に折り曲げ、内面に短いかえりを持つ。	口縁部、天井部内・外面ロクロナデ。天井部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P 1445 80% 覆土中 PL145
11	蓋 須恵器	A [15.2] B 3.8 F [3.0] G 0.5	つまみ部から口縁部片。つまみはボタン状である。天井部は頂部が平坦で、外周部はなだらかに下降する。口縁部は内面に短いかえりを持つ。	口縁部、天井部内・外面ロクロナデ。天井部回転ヘラ削り。	長石・石英 灰色 普通	P 1446 25% 覆土中

第234A号住居跡 (第350図)

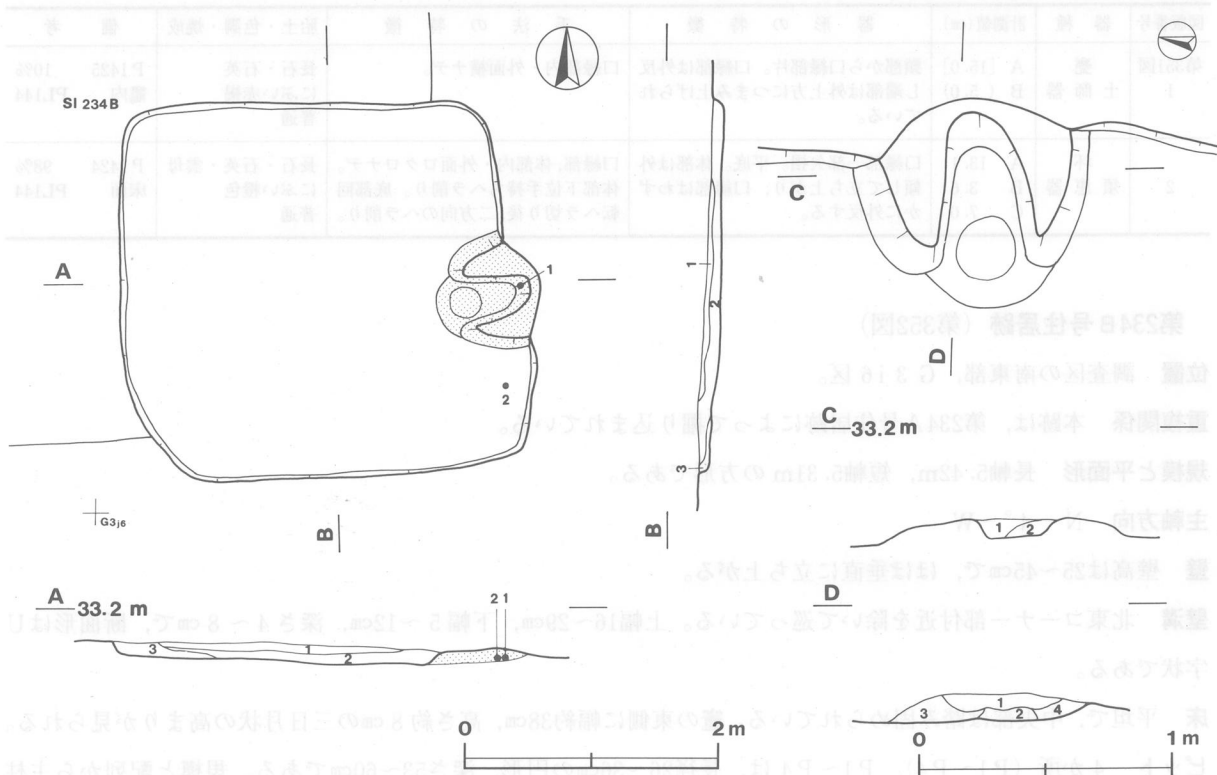
位置 調査区の南東部，G 3 i 6 区。

重複関係 本跡が，第234B号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.01m，短軸2.95mの方形である。

主軸方向 N-89°-E

壁 壁高は8～12cmで，外傾して立ち上がる。



第350図 第234A号住居跡実測図

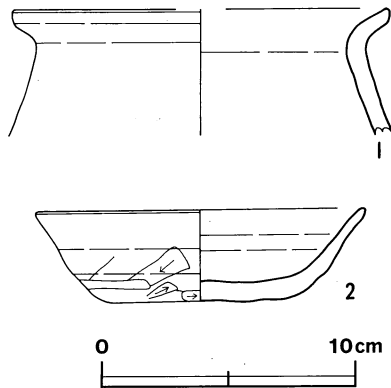
床 平坦で、踏み固められた部分は見られない。

竈 東壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は削平されているが、両袖部は残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで83cm、両袖最大幅94cm、壁外への掘り込みは20cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土中・小ブロック・焼土・ローム粒子少量、炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 焼土・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 焼土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量

覆土 3層からなり、自然堆積である。



土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

遺物 土師器片73点（坏片24点、甕片49点）が出土している。床面では、第351図2の須恵器坏が南東コーナー部付近から正位の状態出土している。竈内からは、1の土師器甕が出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から8世紀と考えられる。

第351図 第234A号住居跡出土遺物実測図

第234A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第351図 1	甕 土師器	A [15.0] B (5.0)	頸部から口縁部片。口縁部は外反し端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英にぶい赤褐普通	P 1425 10% 竈内 PL144
2	坏 須恵器	A 13.1 B 3.6 C 7.0	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下位手持ちヘラ削り。底部回転ヘラ切り後、二方向のヘラ削り。	長石・石英・雲母にぶい橙色普通	P 1424 98% 床面 PL144

第234B号住居跡（第352図）

位置 調査区の南東部、G 3 i 6 区。

重複関係 本跡は、第234A号住居跡によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.42m、短軸5.31mの方形である。

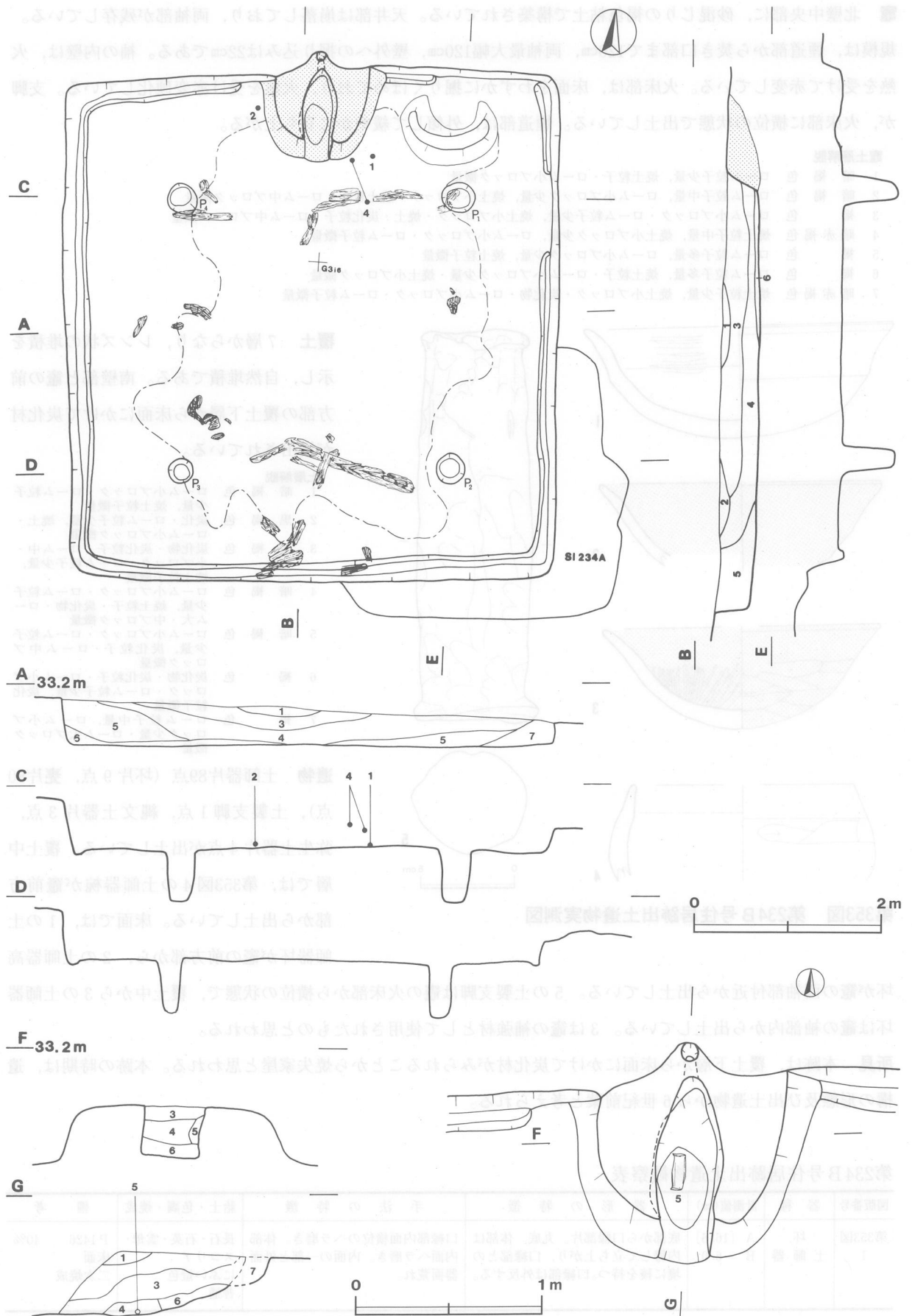
主軸方向 N - 4° - W

壁 壁高は25~45cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 北東コーナー部付近を除いて巡っている。上幅16~29cm、下幅5~12cm、深さ4~8cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。竈の東側に幅約38cm、高さ約8cmの三日月状の高まりが見られる。

ピット 4か所（P1~P4）。P1~P4は、長径26~36cmの円形、深さ53~60cmである。規模と配列から支柱穴と考えられる。

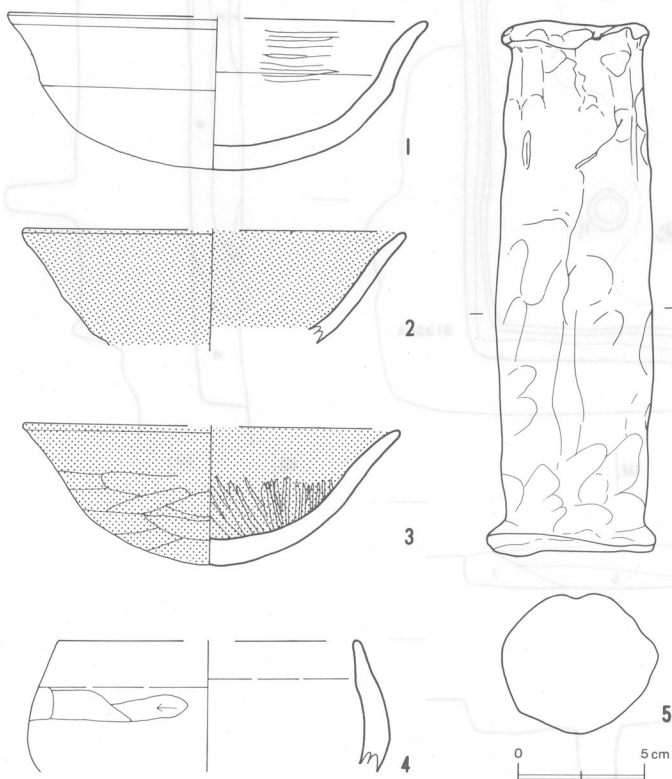


第352図 第234号住居跡実測図

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は、煙道部から焚き口部まで120cm、両袖最大幅120cm、壁外への掘り込みは22cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。支脚が、火床部に横位の状態で出土している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム中ブロック微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック少量, ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子多量, 焼土粒子・ローム小ブロック少量・焼土小ブロック微量
- 7 暗赤褐色 焼土粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物・ローム小ブロック・ローム粒子微量



覆土 7層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。南壁部と竈の前方部の覆土下層から床面にかけて炭化材が検出されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 炭化・ローム粒子少量, 焼土・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 炭化物・炭化粒子・ローム中・小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物・ローム大・中ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 6 褐色 炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量・ローム大ブロック微量

遺物 土師器片89点（坏片9点, 甕片80点）, 土製支脚1点, 縄文土器片3点, 弥生土器片4点が出土している。覆土中層では、第353図4の土師器碗が竈前方部から出土している。床面では、1の土師器坏が竈の前方部から、2の土師器高坏が竈の西袖部付近から出土している。5の土製支脚は竈の火床部から横位の状態で、覆土中から3の土師器坏は竈の袖部内から出土している。3は竈の補強材として使用されたものと思われる。

第353図 第234B号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡は、覆土下層から床面にかけて炭化材がみられることから焼失家屋と思われる。本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀前葉と考えられる。

第234B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第353図 1	坏 土師器	A [16.6] B 6.0	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内面横位のヘラ磨き。体部内面ヘラ磨き。内面の一部と外面器面荒れ。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい燈色 普通	P1426 40% 床面 二次焼成

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第353図 2	高坏 土師器	A [15.0] B (4.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英 橙色 普通	P1427 20% 床面
3	坏 土師器	A [14.9] B 5.5	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ、内面放射状のへら磨き。内・外面赤彩。	長石・石英 赤色 普通	P1437 50% 竈内
4	碗 土師器	A [11.6] B (5.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。	長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P1428 15% 覆土中 二次焼成

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		備	考	
5	支脚	21.0	6.7	-	903.9	竈内	DP1118	100%	PL173

第234C号住居跡 (第355図)

位置 調査区の南東部，H3j5区。

重複関係 本跡が，第234D号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.58m，短軸3.45mの方形である。

主軸方向 N-78°-E

壁 壁高は30~35cmで，外傾して立ち上がる。

壁溝 南東コーナー部と南壁下の一部を除いて巡っている。上幅17~24cm，下幅4~8cm，深さ4~11cmで，断面形はU字状である。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。

貯蔵穴 南西コーナーに付設され，は長径67cm，短径51cmの楕円形，深さ23cmである。性格は不明である。

貯蔵穴土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

竈 東壁中央部に，砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，煙道部と両袖部が残存している。規模は，煙道部から焚き口部まで105cm，両袖最大幅88cm，壁外への掘り込みは64cmである。袖の内壁は，火熱を受けて赤変している。火床部は，床面を8cm掘りくぼめており，火熱を受け赤変硬化している。煙道部は，外傾して緩やかに立ち上がる。

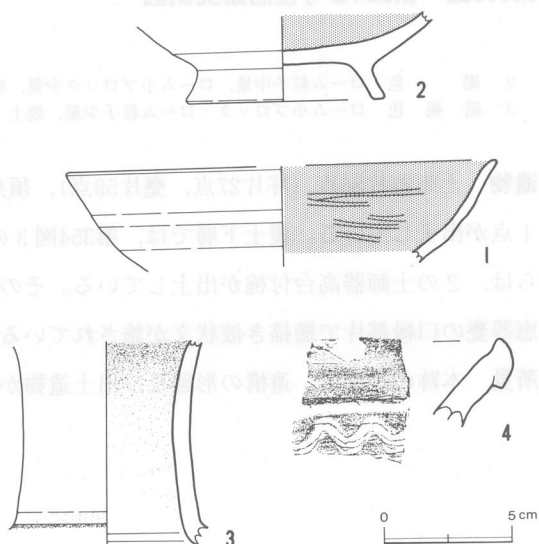
竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム・粘土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム・粘土粒子少量，焼土粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土粒子中量，ローム小ブロック・粘土粒子少量
- 5 褐色 粘土ブロック多量

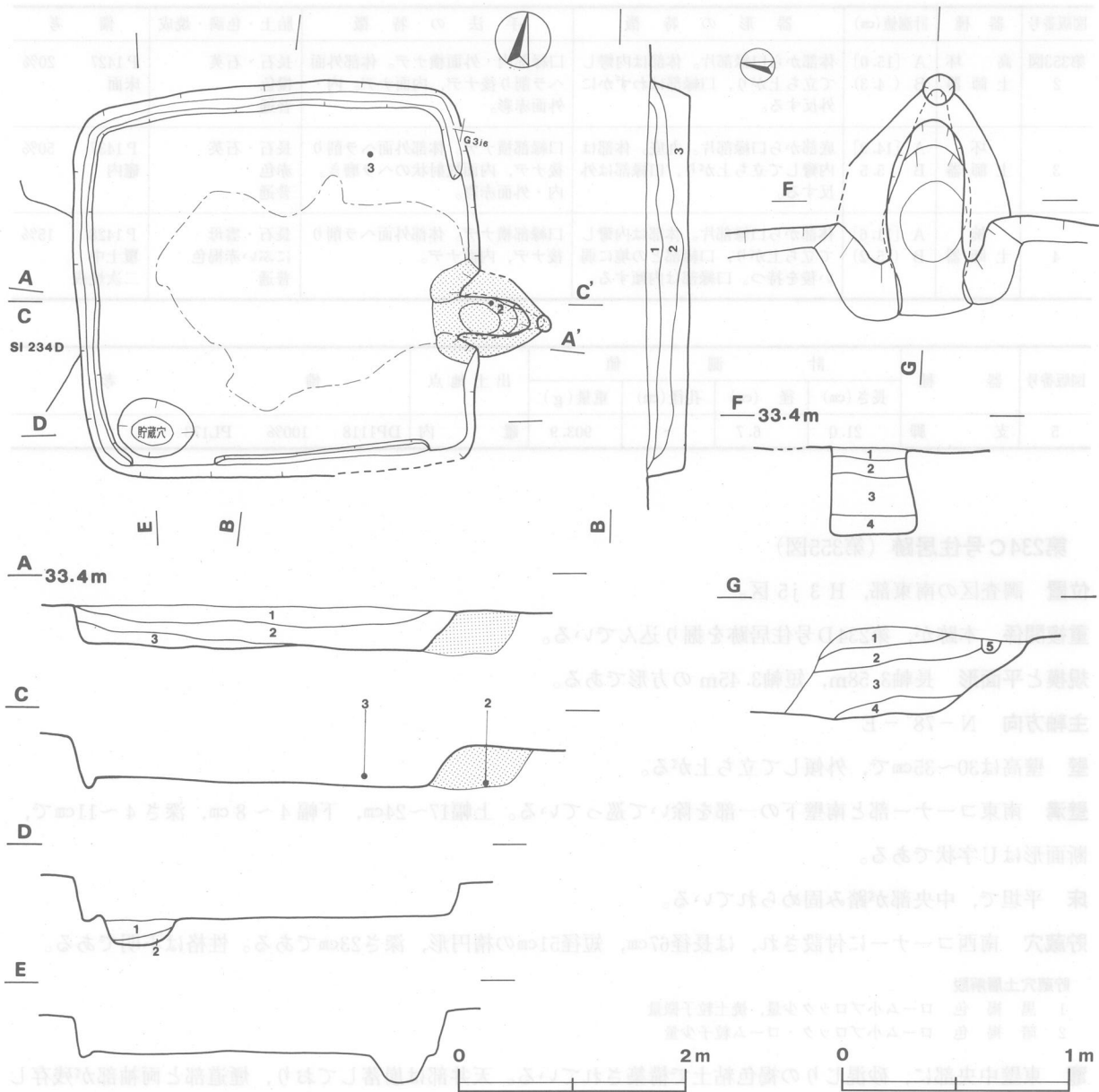
覆土 3層からなり，レンズ状の堆積を示し，自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック微量



第354図 第234C号住居跡出土遺物実測図



第355図 第234C号住居跡実測図

- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量

遺物 土師器片86点(坏片27点, 甕片59点), 須恵器片22点(坏片15点, 甕片7点), 含鉄滓10g, 縄文土器片1点が出土している。覆土下層では, 第354図3の須恵器長頸瓶が北東コーナー部から出土している。竈内からは, 2の土師器高台付椀が出土している。その他, 覆土中から1の土師器高台付椀が出土している。4は須恵器甕の口縁部片で櫛描き波状文が施されている。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から10世紀前葉と考えられる。

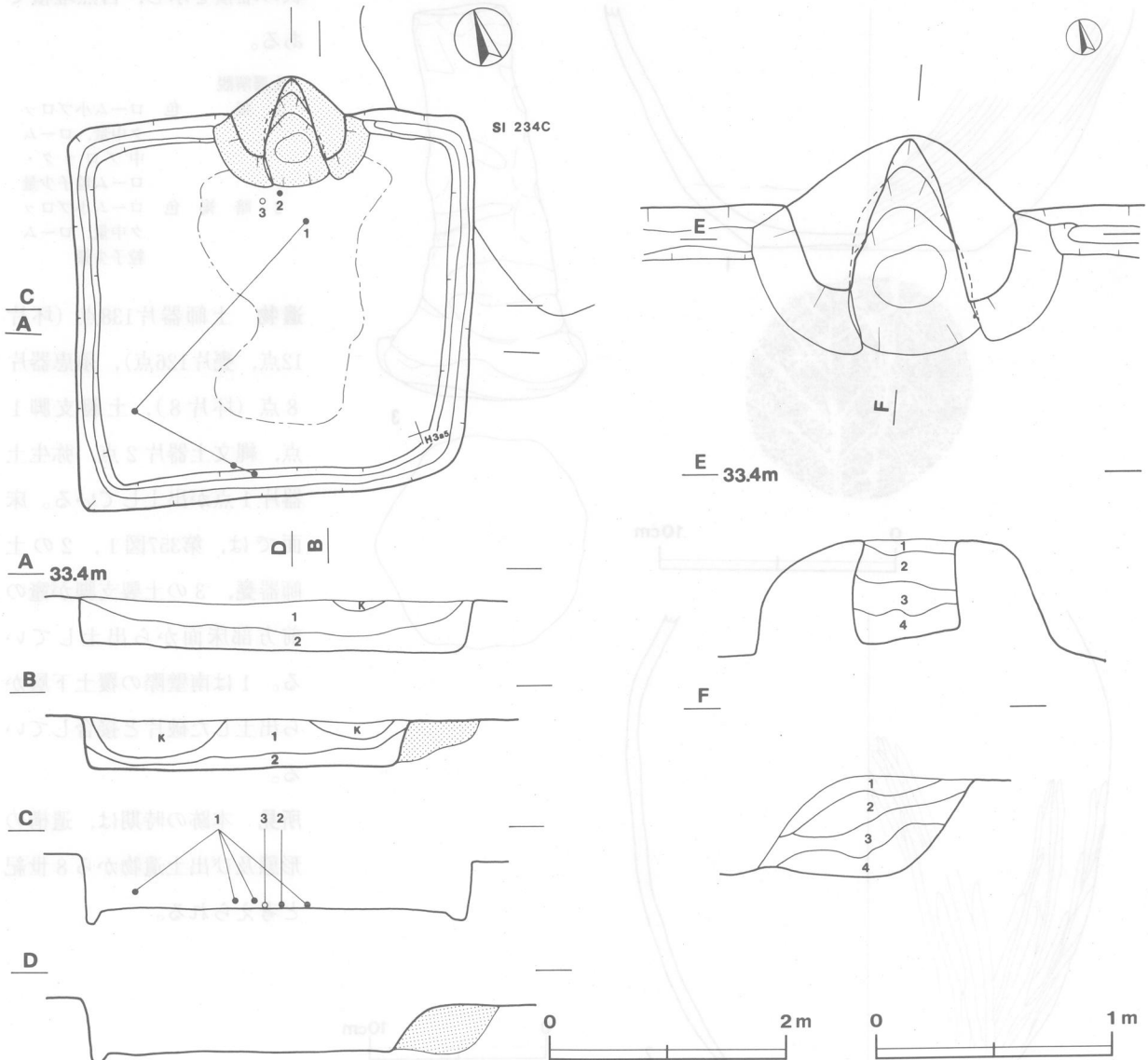
第234C号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第354図 1	高台付椀 土師器	A [17.0] B (3.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。内面黒色処理。	長石・石英・雲母にぶい褐色普通	P 1430 10% 覆土中 二次焼成
2	高台付椀 土師器	B (3.4) D 7.9 E 1.3	高台部から体部片。高台部はハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。内面黒色処理。高台貼付け。	長石・石英・雲母にぶい橙色普通	P 1431 20% 竈内 二次焼成
3	長頸瓶 灰釉陶器	B (8.0)	頸部片。頸部はわずかに外反して立ち上がる。	頸部内・外面ロクロナデ。内面上位灰釉。	長石・黒い吹き出し 灰黄色普通	P 1432 5% 覆土中 黒笹90号窯式

第234D号住居跡 (第356図)

位置 調査区の南東部, G 3 j 4 区。

重複関係 本跡は, 第234C号住居跡によって掘り込まれている。



第356図 第234D号住居跡実測図

規模と平面形 長軸3.38m, 短軸3.26m の方形である。

主軸方向 N-18°-E

壁 壁高は42~45cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅18~28cm, 下幅7~13cm, 深さ7~11cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

竈 北壁中央部に, 砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は, 煙道部から焚き口部まで94cm, 両袖最大幅131cm, 壁外への掘り込みは32cmである。袖の内壁は, 火熱を受けて赤変している。火床部は, 床面を8cm掘りくぼめており, 火熱を受け赤変硬化している。煙道部は, 外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 2 褐色 ローム中・小ブロック少量, 焼土・炭化・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 焼土小ブロック・焼土・ローム粒子少量, 焼土中ブロック・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量

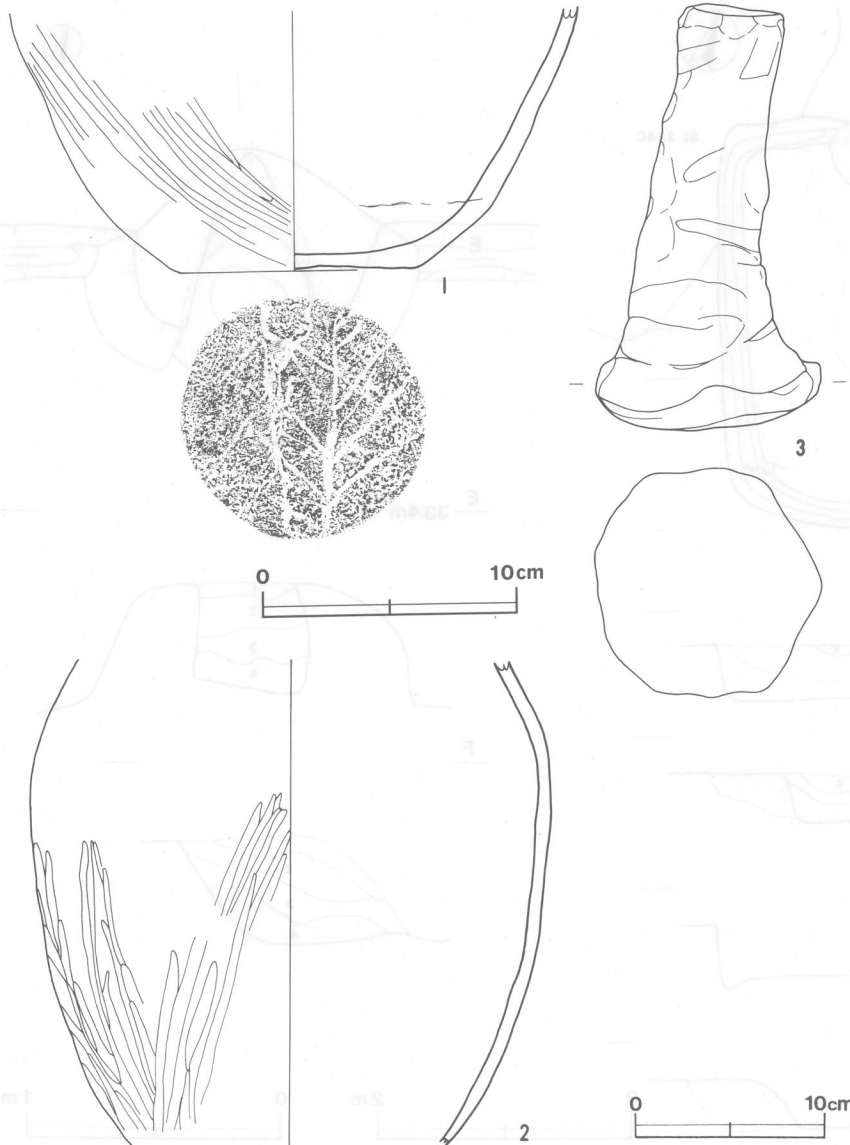
覆土 2層からなり, レンズ状の堆積を示し, 自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量

遺物 土師器片138点(坏片12点, 甕片126点), 須恵器片8点(坏片8), 土製支脚1点, 縄文土器片2点, 弥生土器片1点が出土している。床面では, 第357図1, 2の土師器甕, 3の土製支脚が竈の前方部床面から出土している。1は南壁際の覆土下層から出土した破片と接合している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から8世紀と考えられる。



第357図 第234D号住居跡出土遺物実測図

第234D号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第357図 1	甕 土師器	B (10.3) C 9.6	底部から体部下位片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面へラ磨き、内面ナデ。底部木葉痕。内面輪積み痕。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P 1433 30% 床面
2	甕 土師器	B (25.6)	体部上位から下位片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面中位から下位にかけてへラ磨き。内面ナデ。	長石・石英・雲母 におい赤褐色 普通	P 1434 30% 床面

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
3	支脚	16.9	9.0	-	681.6	床面	DP1119	100%	PL172

第235号住居跡 (第358・359図)

位置 調査区の南東部, H 3 b5 区。

規模と平面形 長軸4.86m, 短軸4.83m の方形である。

主軸方向 N - 4° - E

壁 壁高は38~58cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅18~33cm, 下幅5~14cm, 深さ8~12cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は, 長径55~68cm, 短径50~59cmの楕円形, 深さ47~62cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P5は長径45cm, 短径36cmの楕円形, 深さ31cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に, 砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は煙道部から焚き口部まで106cm, 両袖最大幅106cm, 壁外への掘り込みは46cmである。袖の内壁は, 火熱を受けて赤変している。火床面は, 床面をわずかに掘りくぼめており, 火熱を受け赤変硬化している。煙道部は, 外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

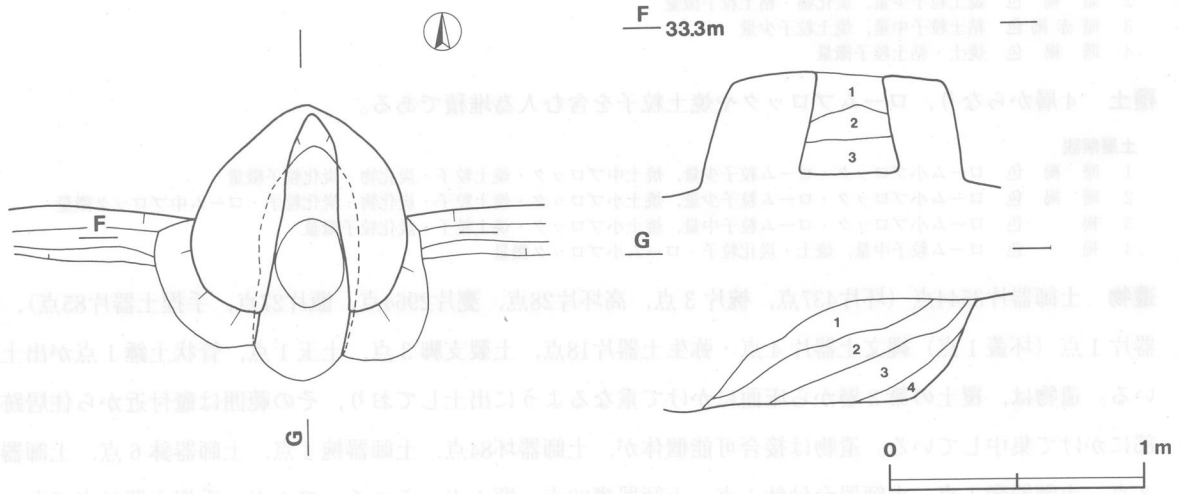
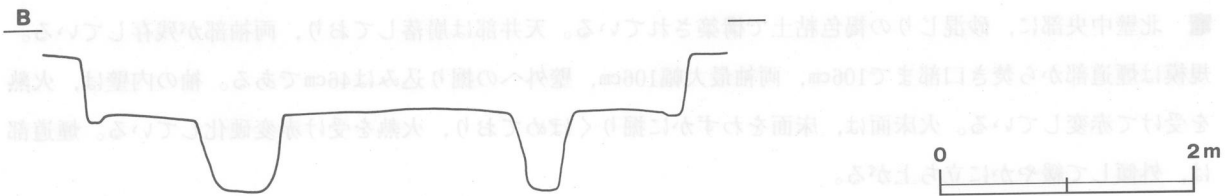
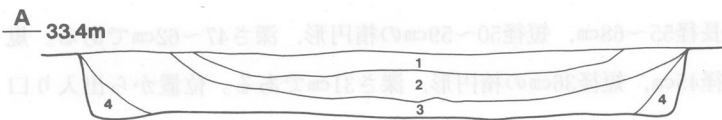
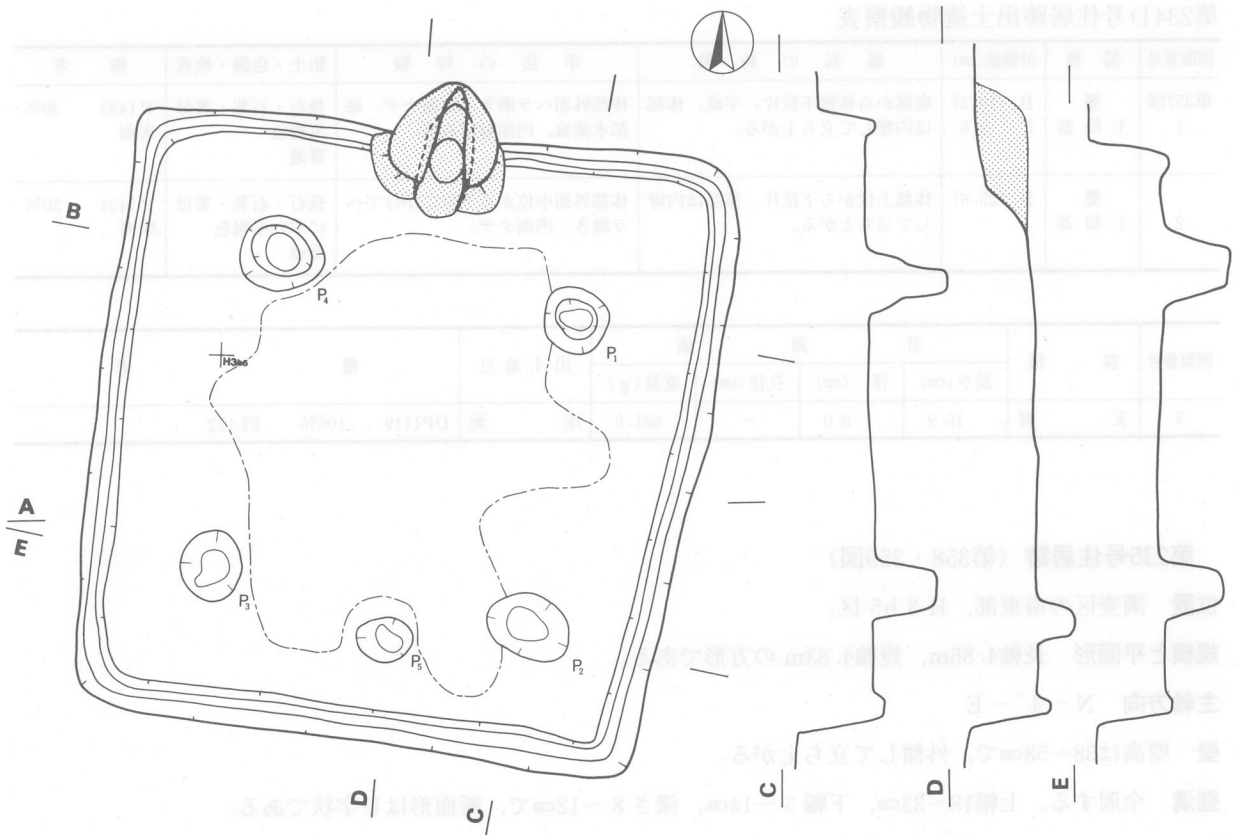
- 1 褐色 ローム・粘土粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 焼土粒子少量, 炭化物・粘土粒子微量
- 3 暗赤褐色 粘土粒子中量, 焼土粒子少量
- 4 暗褐色 焼土・粘土粒子微量

覆土 4層からなり, ロームブロックや焼土粒子を含む人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片3544点 (坏片437点, 椀片3点, 高坏片28点, 甕片2964点, 甗片27点, 手捏土器片85点), 須恵器片1点 (坏蓋1点) 縄文土器片4点・弥生土器片18点, 土製支脚3点, 土玉1点, 管状土錘1点が出土している。遺物は, 覆土の第3層から床面にかけて重なるように出土しており, その範囲は竈付近から住居跡中央部にかけて集中している。遺物は接合可能個体が, 土師器坏84点, 土師器椀4点, 土師器鉢6点, 土師器高坏3点, 土師器壺1点, 土師器台付鉢1点, 土師器甕30点, 甗1点, ミニチュア1点, 手捏土器40点であった。



第358図 第235号住居跡実測図(1)

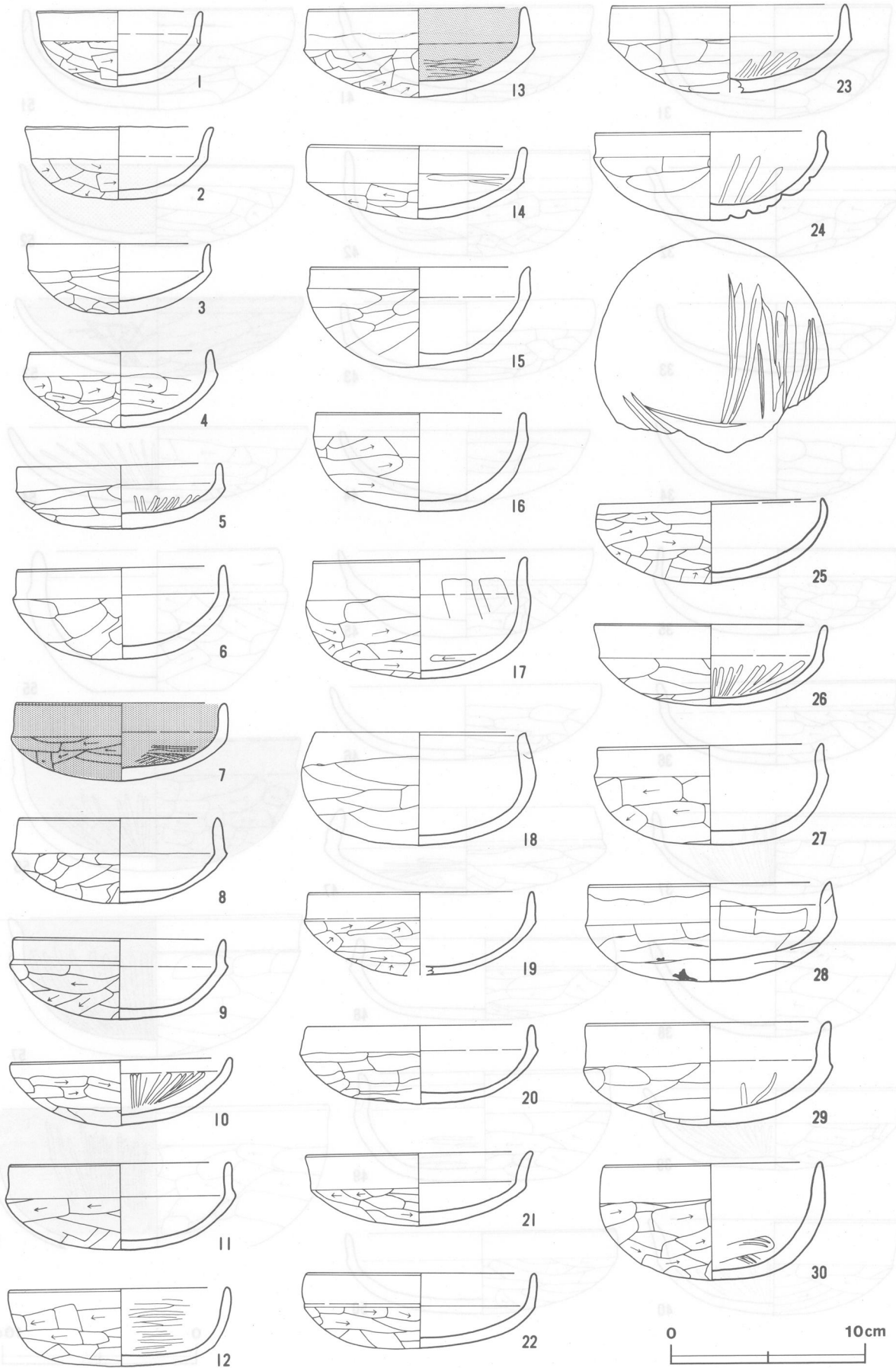


第359図 第235号住居跡遺物出土状況図(2)

所見 本跡は、覆土中にローム小ブロック・ローム粒子を多く含んでいることから、人為的に埋め戻されたものと思われる。遺物は、本跡が廃棄された後に竈側から大量に投棄されたと思われる。器種は、坏、甕、手捏土器等が多く、その中で坏、手捏土器は完形品が多い。これらのことから、遺物の大量廃棄は、単なる廃棄ではなく祭祀の意味合いを持つものと考えられる。本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀後葉と考えられる。

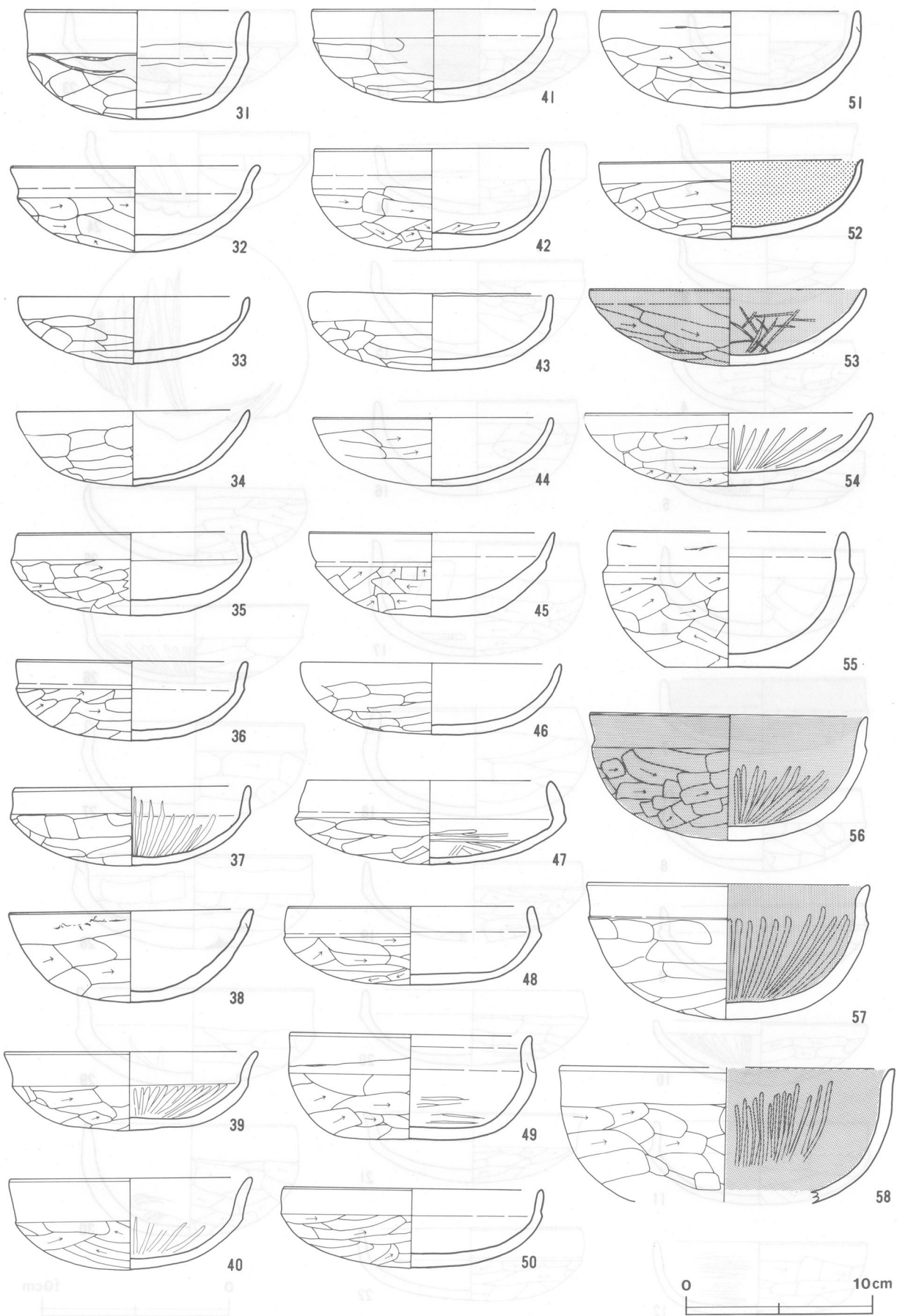
第235号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第360図 1	坏 土師器	A 8.6 B 3.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。口縁部輪積み痕。	長石・石英・雲母 明黄褐色 普通	P 1450 98% 覆土中 PL145
2	坏 土師器	A 9.8 B 3.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 1451 97% 覆土中 PL145 二次焼成
3	坏 土師器	A 9.5 B 3.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 1452 98% 覆土中 PL145 二次焼成
4	坏 土師器	A 9.4 B 3.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P 1453 97% 覆土中 PL145
5	坏 土師器	A 10.7 B 3.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面放射状のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P 1454 95% 覆土中 PL145
6	坏 土師器	A 10.8 B 4.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P 1455 95% 覆土中 PL145 二次焼成
7	坏 土師器	A 10.9 B 4.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・石英・雲母 黒色 普通	P 1456 93% 覆土中 PL145
8	坏 土師器	A 10.3 B 4.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	P 1457 98% 覆土中 PL145
9	坏 土師器	A 11.0 B 4.2	体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・雲母・スコリア 赤褐色 普通	P 1458 95% 覆土中 PL145
10	坏 土師器	A 11.5 B 3.4	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面放射状のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 1459 95% 覆土中 PL145
11	坏 土師器	A 11.0 B 4.5	体部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 スコリア 明赤褐色 普通	P 1460 80% 覆土中 PL145
12	坏 土師器	A 11.5 B 4.0	底部から口縁部片。丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ヘラ磨き。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P 1462 98% 覆土中 PL145
13	坏 土師器	A 11.3 B 4.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	長石・石英・雲母 褐灰色 普通	P 1461 98% 覆土中 PL145
14	坏 土師器	A 11.4 B 3.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ヘラ磨き。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 1463 98% 覆土中 PL145

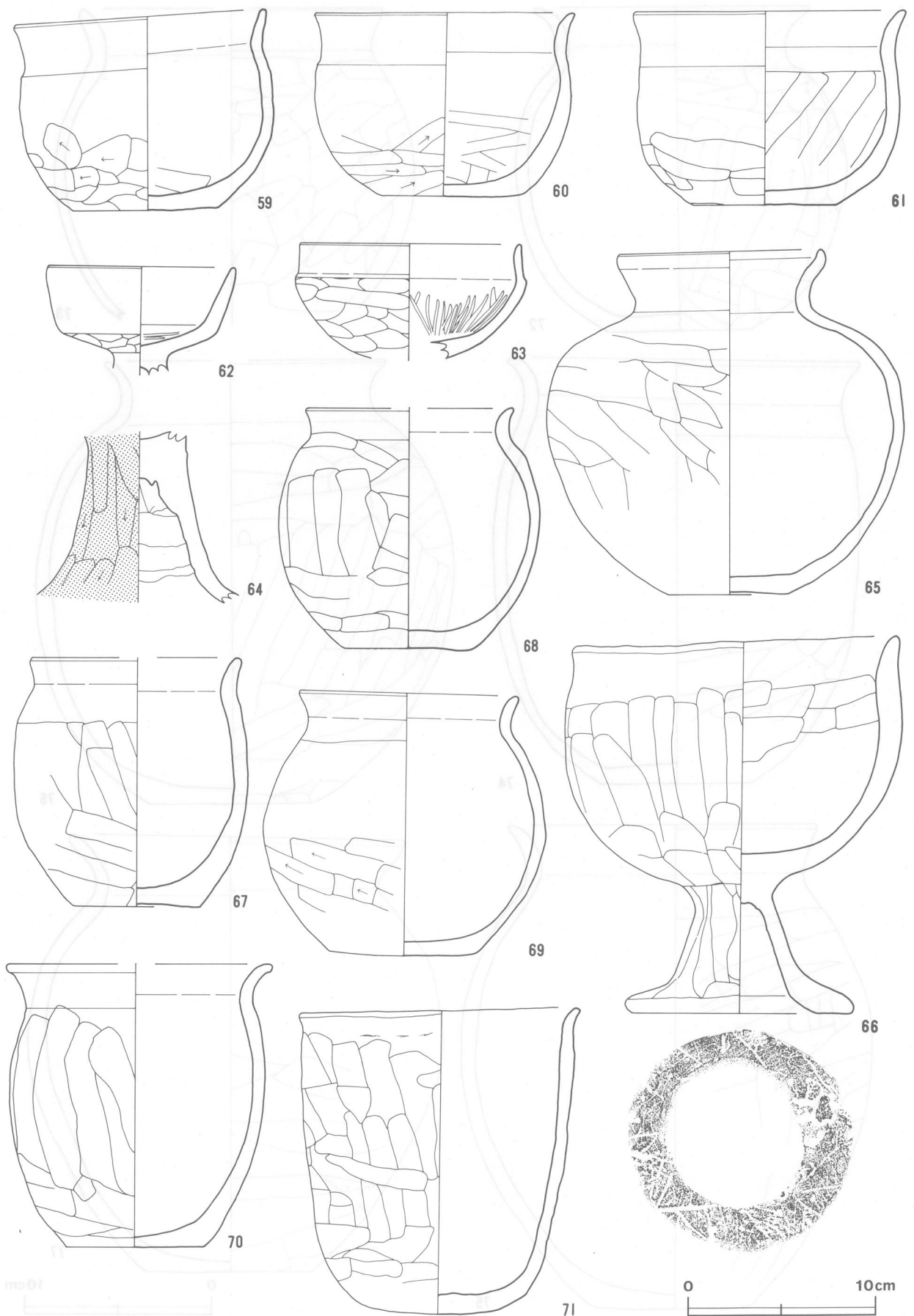


第360图 第235号住居跡出土遺物実測図(1)

第360图 第235号住居跡出土遺物実測図(1)

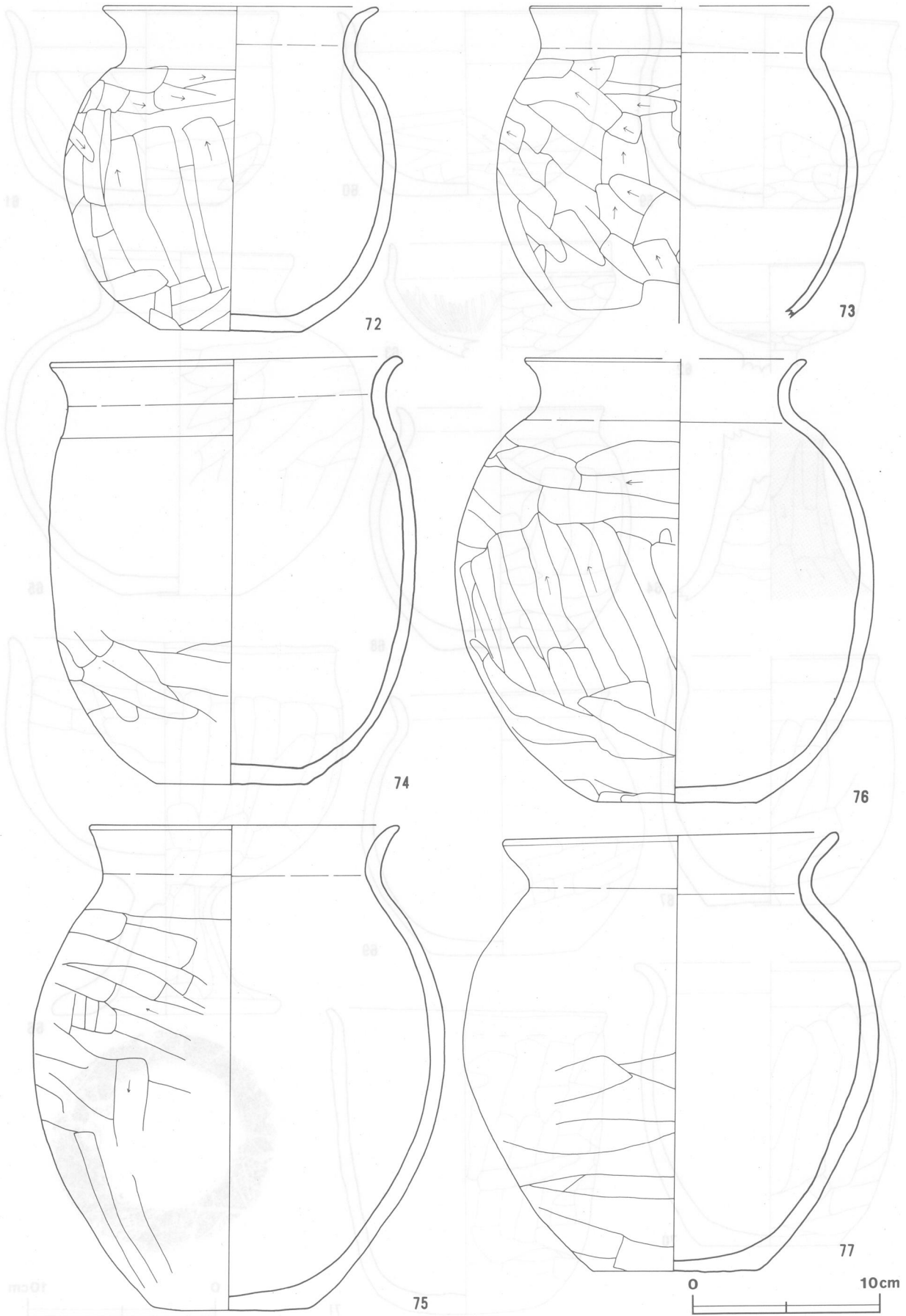


第361图 第235号住居跡出土遺物実測図(2)



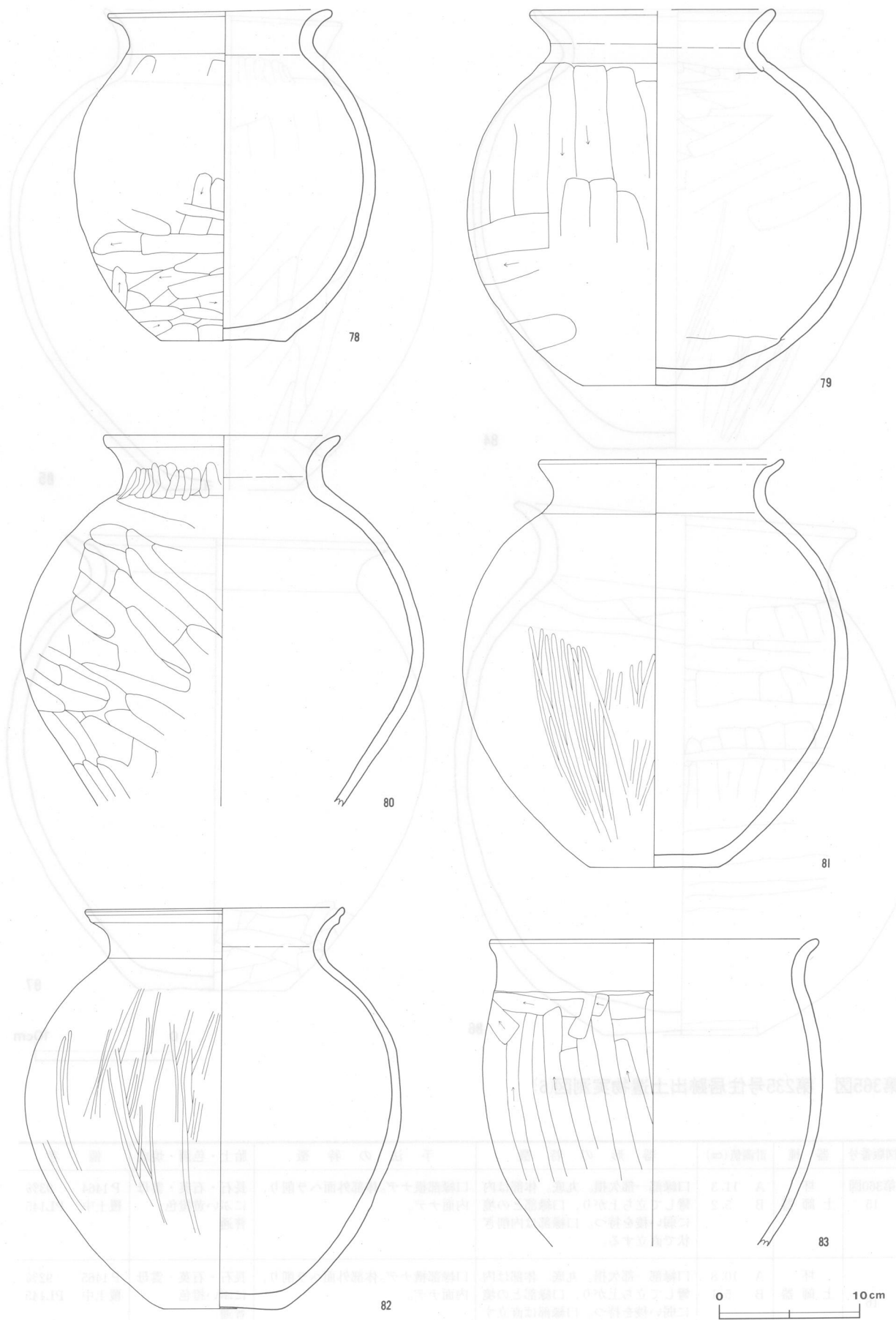
第362图 第235号住居跡実測图(3)

图362 第235号住居跡出土陶器実測图(3)

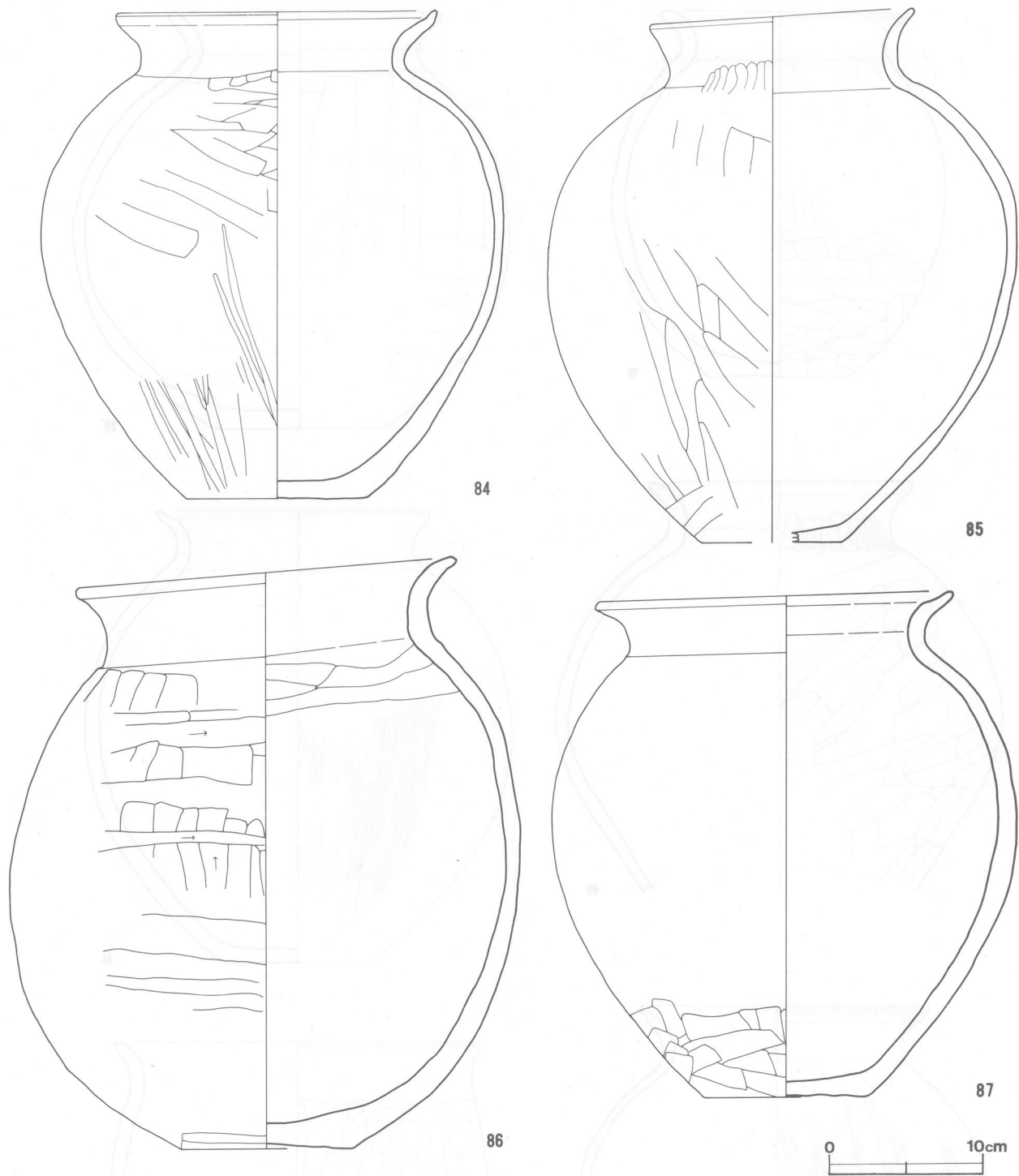


第363图 第235号住居跡出土遺物実測図(4)

363图 第235号住居跡出土遺物実測図(4)

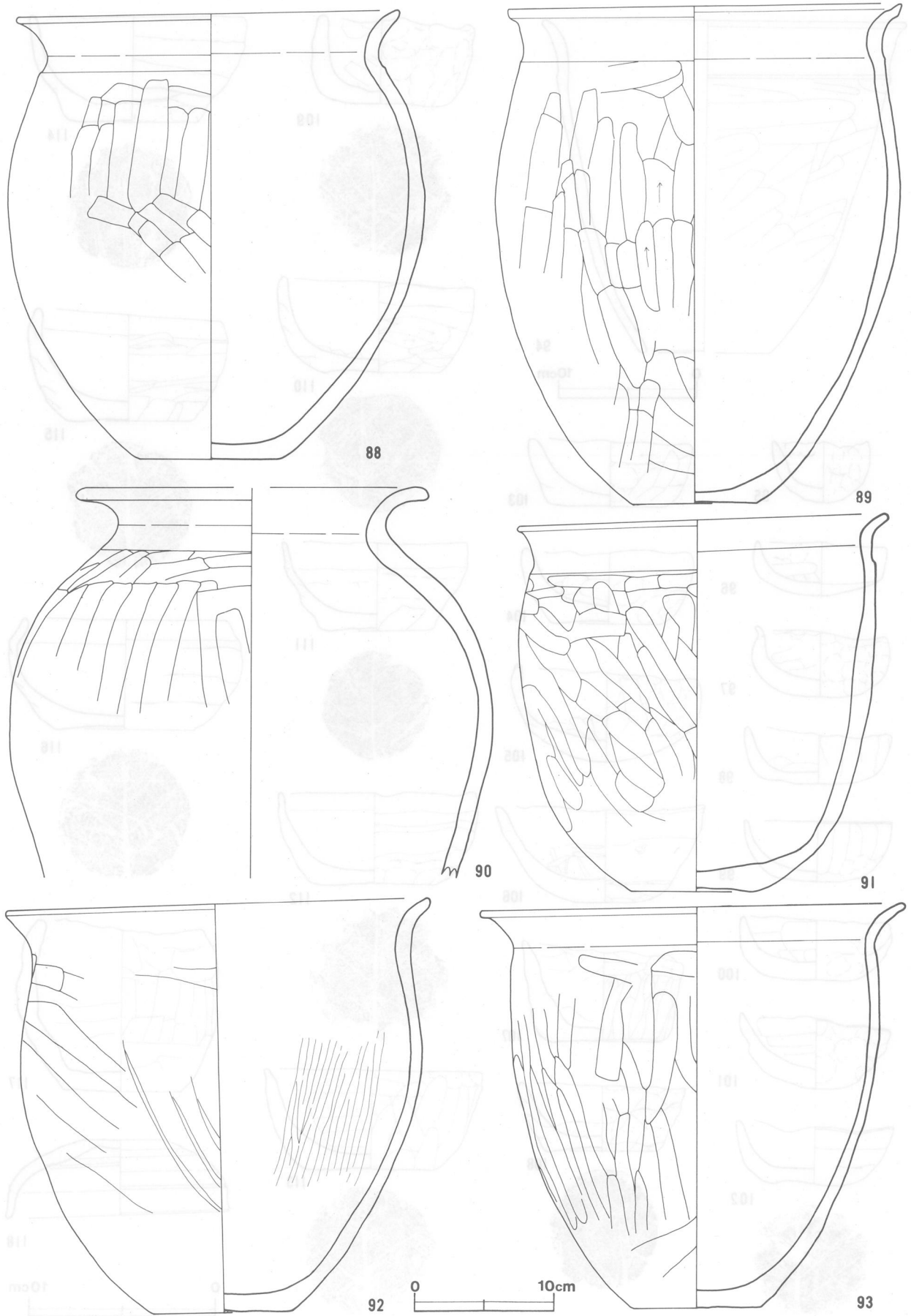


第364图 第235号住居跡出土遺物実測図(5)

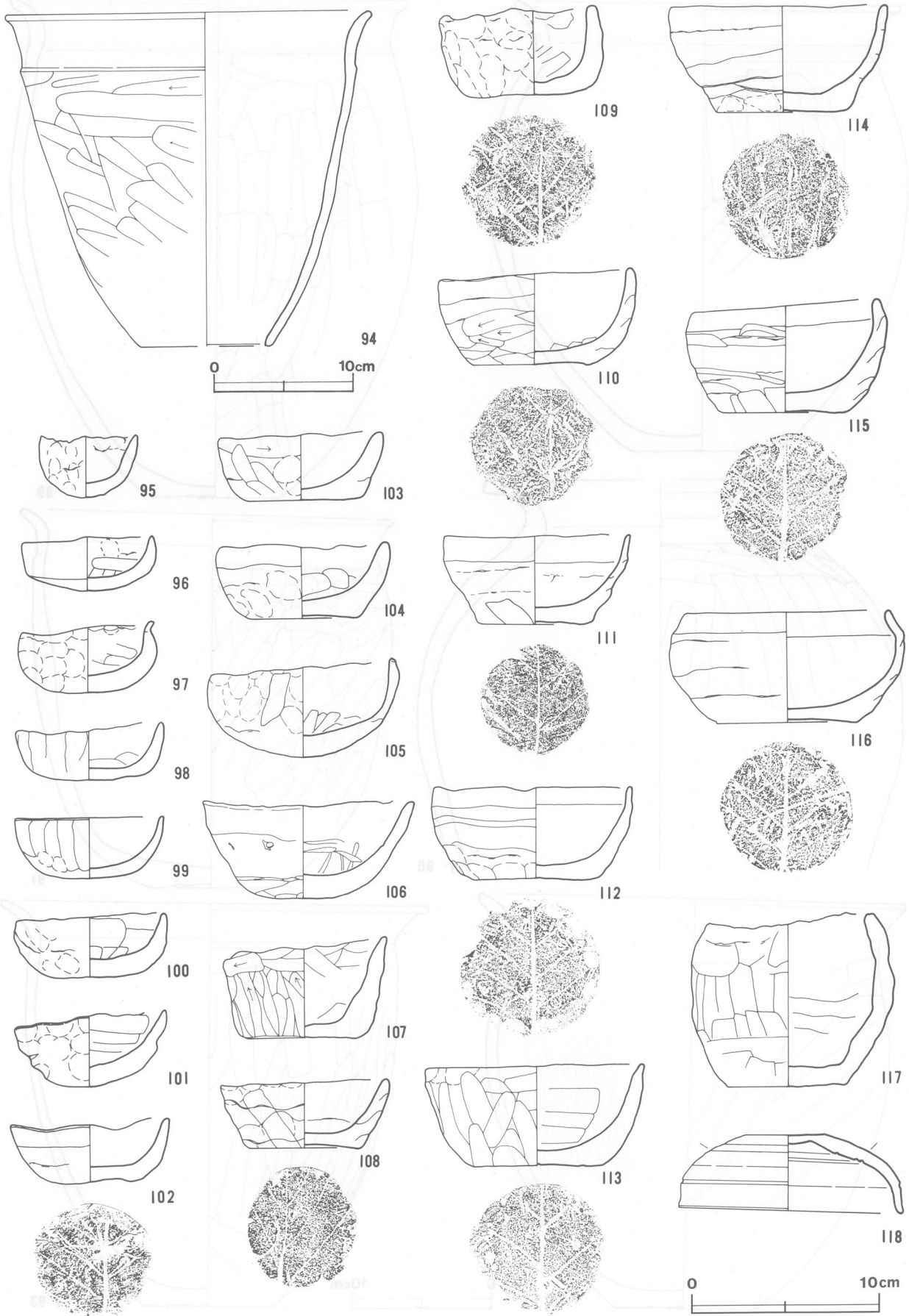


第365図 第235号住居跡出土遺物実測図(6)

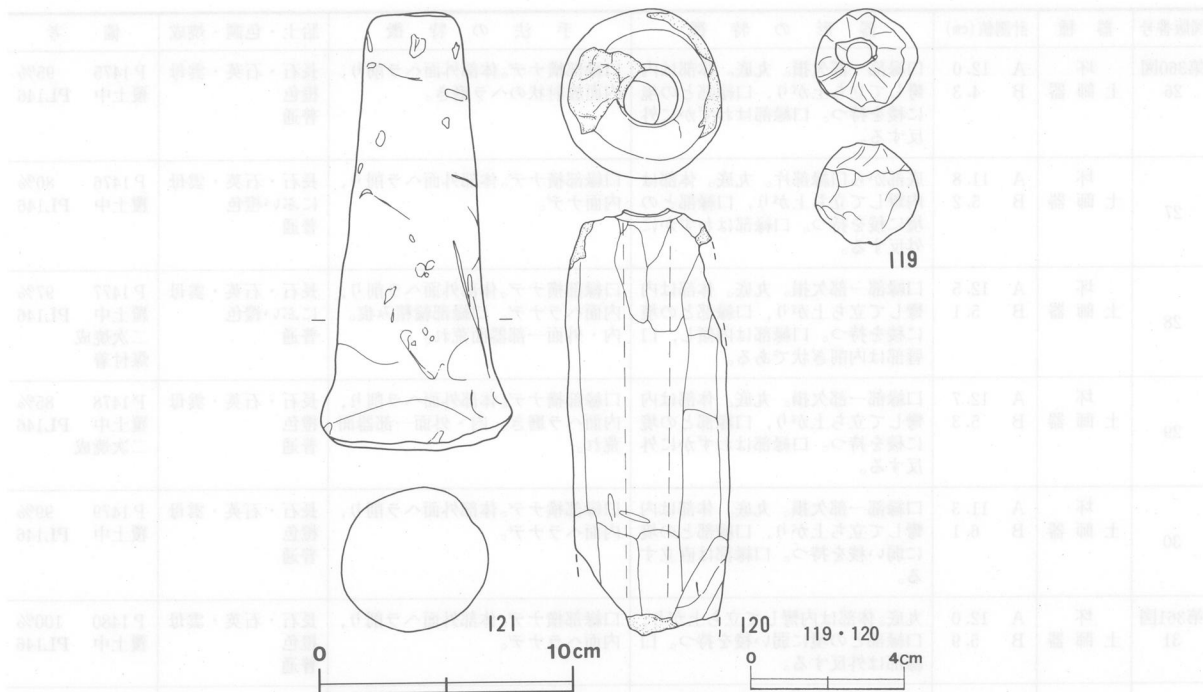
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第360図 15	坏 土師器	A 11.3 B 5.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は内削ぎ状で直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母にぶい黄橙色普通	P 1464 93% 覆土中 PL145
16	坏 土師器	A 10.8 B 5.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母にぶい橙色普通	P 1465 92% 覆土中 PL145



第366图 第235号住居跡出土遺物実測図(7)



第367图 第235号住居跡出土遺物実測図(8)



第368図 第235号住居跡出土遺物実測図(9)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第360図 17	坏 土師器	A 11.2 B 6.2	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラナデ。	長石・石英・雲母にぶい橙色 普通	P 1466 85% 覆土中 PL146
18	坏 土師器	A 11.0 B 5.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。外面器面荒れ。	長石・石英・雲母にぶい黄褐色 普通	P 1467 98% 覆土中 PL146
19	坏 土師器	A 11.3 B (4.3)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリアにぶい橙色 普通	P 1468 75% 覆土中 PL146
20	坏 土師器	A 11.8 B 4.1	体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母にぶい橙色 普通	P 1469 85% 覆土中 PL146
21	坏 土師器	A 11.8 B 3.7	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母にぶい赤褐色 普通	P 1470 88% 覆土中 PL146 二次焼成
22	坏 土師器	A 11.8 B 4.0	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに内彎する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母にぶい黄褐色 普通	P 1471 98% 覆土中 PL146 二次焼成
23	坏 土師器	A 12.2 B (4.5)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラ磨き。	長石・石英・雲母明赤褐色 普通	P 1472 80% 覆土中
24	坏 土師器	A 11.9 B 4.6	底部から口縁部。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面放射状のへラ磨き。底部摩耗痕。	長石・石英・雲母橙色色 普通	P 1473 80% 覆土中 PL146 二次焼成
25	坏 土師器	A 11.5 B 4.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く内彎する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母にぶい赤褐色 普通	P 1474 93% 覆土中 PL146

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第360図 26	坏 土師器	A 12.0 B 4.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面放射状のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P 1475 95% 覆土中 PL146
27	坏 土師器	A 11.8 B 5.2	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1476 80% 覆土中 PL146
28	坏 土師器	A 12.5 B 5.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は内傾し、口唇部は内削ぎ状である。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。口縁部輪積み痕。内・外面一部器面荒れ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1477 97% 覆土中 PL146 二次焼成 煤付着
29	坏 土師器	A 12.7 B 5.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き。内・外面一部器面荒れ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P 1478 85% 覆土中 PL146 二次焼成
30	坏 土師器	A 11.3 B 6.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P 1479 99% 覆土中 PL146
第361図 31	坏 土師器	A 12.0 B 5.9	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P 1480 100% 覆土中 PL146
32	坏 土師器	A 13.3 B 4.7	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P 1481 PL 146 90% 覆土中 二次焼成
33	坏 土師器	A 12.2 B 3.6	口縁部一部欠損。丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P 1482 99% 覆土中 PL146
34	坏 土師器	A 12.6 B 4.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1483 98% 覆土中 PL146 二次焼成
35	坏 土師器	A 12.2 B 4.5	口縁部及び体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 浅黄橙色 普通	P 1484 90% 覆土中 PL146
36	坏 土師器	A 12.5 B 4.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P 1485 85% 覆土中 PL146
37	坏 土師器	A 12.8 B 4.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面放射状のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1486 100% 覆土中 PL147 二次焼成
38	坏 土師器	A 13.2 B 4.9	口縁部一部欠損。丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。外面輪積み痕。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P 1487 97% 覆土中 PL147 二次焼成
39	坏 土師器	A 13.6 B 4.2	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面放射状のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P 1488 88% 覆土中 PL147 二次焼成
40	坏 土師器	A 12.0 B 4.9	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面放射状のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 1489 80% 覆土中 PL147 二次焼成
41	坏 土師器	A 12.2 B 5.0	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1490 85% 覆土中 PL147
42	坏 土師器	A 12.7 B 6.6	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1491 94% 覆土中 PL147

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第361図 43	坏 土師器	A 13.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は内彎する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母にぶい黄橙色普通	P 1492 85% 覆土中 PL147
		B 4.2				
44	坏 土師器	A 13.0	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母にぶい黄橙色普通	P 1493 70% 覆土中 PL147
		B 3.7				
45	坏 土師器	A [13.2]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は内彎する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。底部ヘラ削り。	長石・石英・雲母にぶい黄橙色普通	P 1494 70% 覆土中 PL147
		B 4.5				
		C 4.6				
46	坏 土師器	A 14.1	底部から口縁部片。丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・雲母・スコリア 橙色普通	P 1495 80% 覆土中 PL147
		B 3.9				
47	坏 土師器	A 13.3	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は内彎する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ後ヘラ磨き。	長石・石英・雲母・スコリア 灰褐色普通	P 1496 100% 覆土中 PL147
		B 4.5				
48	坏 土師器	A 12.2	丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は内彎する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい黄橙色普通	P 1497 100% 覆土中 PL147
		B 4.2				
49	坏 土師器	A 13.1	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き。口縁部に輪積み痕。	長石・雲母 灰黄褐色普通	P 1498 96% 覆土中 PL147
		B 5.8				
50	坏 土師器	A 14.0	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。口縁部に輪積み痕。	長石・雲母 にぶい黄褐色普通	P 1500 80% 覆土中 PL147
		B 4.3				
51	坏 土師器	A 13.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・雲母 にぶい黄色普通	P 1499 90% 覆土中 PL147 二次焼成
		B 5.3				
52	坏 土師器	A 14.2	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。体部内面赤彩。	長石・雲母・スコリア にぶい褐色普通	P 1501 80% 覆土中 PL147
		B 4.3				
53	坏 土師器	A 14.9	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母・スコリア 黄褐色 普通	P 1502 85% 覆土中 PL148
		B 4.2				
54	坏 土師器	A 15.4	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面放射状のヘラ磨き。	長石・雲母・スコリア にぶい橙色普通	P 1503 80% 覆土中 PL148
		B 3.9				
55	椀 土師器	A [12.5]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。底部ヘラ削り。口縁部に輪積み痕。	長石・雲母 にぶい褐色普通	P 1504 65% 覆土中 PL148
		B 7.4				
		C 6.7				
56	椀 土師器	A 14.9	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部はわずかに外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面放射状のヘラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母 灰黄褐色普通	P 1505 80% 覆土中
		B 6.8				
57	椀 土師器	A 25.2	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面放射状のヘラ磨き。内面黒色処理。	長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P 1506 90% 覆土中 PL148
		B 7.4				
58	椀 土師器	A [18.0]	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部はわずかに外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面放射状のヘラ磨き。内面黒色処理。	長石・石英・雲母・スコリア 橙色普通	P 1507 50% 覆土中 PL148
		B (7.2)				
第362図 59	鉢 土師器	A 13.6	口縁部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	長石・雲母 橙色普通	P 1508 96% 覆土中 PL148 二次焼成
		B 10.9				
		C 7.8				
60	鉢 土師器	A 14.0	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	長石・雲母 黄灰色普通	P 1509 96% 覆土中 二次焼成
		B 10.0				
		C 7.8				

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第362図 61	鉢 土師器	A 14.6 B 10.5 C 7.8	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	長石・雲母 橙色 普通	P 1510 100% 覆土中 PL148 二次焼成
62	高坏 土師器	A 10.1 B (5.3) E (1.2)	坏部片。坏部は底部外面で屈曲し、体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	脚部外面ヘラ削り後、ナデ、内面ヘラ磨き。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 1511 50% 覆土中 PL148
63	高坏 土師器	A 12.0 B (6.2)	坏部片。坏部は内彎して立ち上がり口縁部との境に明瞭な稜を持つ、口縁部はわずかに外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後縦位のヘラ磨き、内面放射状のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 1512 40% 覆土中 PL148
64	高坏 土師器	E (9.3)	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部内・外面ヘラ削り。外面赤彩。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 1513 30% 覆土中
65	壺 土師器	A 11.0 B 18.6 C 6.5	体部一部欠損片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反し、端部は上方につまみ上げている。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後内面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア 橙色 普通	P 1514 70% 覆土中 PL148
66	台付鉢 土師器	A 17.6 B 20.4 D 12.3 E 6.5	鉢部一部欠損。脚部はラッパ状に開く。鉢部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	鉢部は口縁部横ナデ、体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。脚部は接地面に木葉痕、内面ヘラ削り。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1515 85% 覆土中 PL148
67	甕 土師器	A [11.4] B 13.4 C 6.8	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P 1516 85% 覆土中 PL148
68	甕 土師器	A [11.1] B 13.1 C 6.9	底部から口縁部片。平底。体部は球状を呈し、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア にぶい黄橙色 普通	P 1517 60% 覆土中
69	甕 土師器	A 12.0 B 14.0 C 8.0	底部から口縁部片。平底。体部は球状を呈し、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア 橙色 普通	P 1518 60% 覆土中 PL148
70	甕 土師器	A [14.4] B 15.3 C 7.3	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア にぶい橙色 普通	P 1519 85% 覆土中 PL149
71	甕 土師器	A 15.2 B 16.6	底部から口縁部片。丸底。体部はわずかに内彎するが、垂直気味に立ち上がる。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。口縁部に輪積み痕。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P 1520 98% 覆土中 PL149
第363図 72	甕 土師器	A 14.8 B 17.5 C 7.6	底部から口縁部片。平底。体部は球状を呈し、口縁部の境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア 橙色 普通	P 1521 90% 覆土中 PL149
73	甕 土師器	A [16.2] B (16.7)	体部から口縁部片。体部は球状を呈し、口縁部の境に稜を持つ。口縁部は外反し、端部はわずかに上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア 橙色 普通	P 1522 70% 覆土中 PL149
74	甕 土師器	A 18.9 B 23.2 C 8.0	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部の境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア にぶい褐色 普通	P 1523 80% 覆土中 PL149
75	甕 土師器	A 16.6 B 26.3 C 8.3	体部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア 明赤褐色 普通	P 1524 70% 覆土中 PL149
76	甕 土師器	A [15.1] B 23.9 C 8.8	底部から口縁部片。平底。体部は球状を呈し、口縁部の境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア にぶい橙色 普通	P 1525 60% 覆土中 PL149
77	甕 土師器	A 18.0 B 23.6 C 8.8	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。外面器面摩耗。	長石・石英・雲母・ スコリア にぶい黄橙色 普通	P 1526 75% 覆土中 PL149

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第364図 78	甕 土師器	A 16.1 B 23.9 C 8.9	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部の境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリアにぶい褐色普通	P 1527 99% 覆土中 PL149
79	甕 土師器	A [17.7] B 27.1 C 11.0	底部から口縁部片。体部は球状を呈し、口縁部の境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母明赤褐色普通	P 1528 60% 覆土中 PL150
80	甕 土師器	A 17.1 B (26.6)	体部から口縁部片。体部は球状を呈する。口縁部は外反し、端部はわずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部外面ヘラ削り後、ナデ、内面ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア明赤褐色普通	P 1529 50% 覆土中 PL150
81	甕 土師器	A 17.6 B 29.4 C 9.2	底部から口縁部片。体部は球状を呈し、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反し、端部はわずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ磨き、内面ナデ。	長石・石英・雲母にぶい黄褐色普通	P 1530 90% 覆土中 PL150
82	甕 土師器	A 18.6 B 28.7 C 8.5	底部から口縁部片。体部は球状を呈し、口縁部の境に弱い稜を持つ。口縁部は外反し、端部はわずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ磨き、内面ナデ。	長石・石英・雲母橙色普通	P 1531 90% 覆土中 PL150
83	甕 土師器	A 23.5 B (22.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部の境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母にぶい褐色普通	P 1537 80% 覆土中 PL152
第365図 84	甕 土師器	A 20.8 B 31.7 C 11.7	底部から口縁部片。体部は球状を呈し、口縁部の境に弱い稜を持つ。口縁部は外反し、端部はわずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリアにぶい褐色普通	P 1532 80% 覆土中 PL150
85	甕 土師器	A 17.2 B 34.6 C 9.1	底部から口縁部片。体部は球状を呈し、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。頸部外面ヘラ削り、内面ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア橙色普通	P 1533 80% 覆土中 PL150
86	甕 土師器	A 24.7 B 38.5 C 11.2	底部から口縁部片。体部は卵形を呈し、口縁部の境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母・スコリア明赤褐色普通	P 1535 80% 覆土中 PL151
87	甕 土師器	A 23.1 B 32.8 C 10.5	底部から口縁部片。体部は球状を呈する。口縁部は外反し、端部はわずかに外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリアにぶい褐色普通	P 1534 75% 覆土中 PL149
第366図 88	甕 土師器	A 27.4 B 32.3 C 10.0	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部の境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。底部ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア明赤褐色普通	P 1541 80% 覆土中 PL152
89	甕 土師器	A 28.3 B 35.9 C 9.1	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部の境に稜を持つ。口縁部は外反し、端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。底部ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア橙色普通	P 1542 95% 覆土中 PL151
90	甕 土師器	A [25.4] B (28.2)	体部から口縁部片。体部は球形状を呈し、口縁部の境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・スコリアにぶい黄褐色普通	P 1536 20% 覆土中 PL151
91	鉢 土師器	A 26.6 B 27.3 C 9.4	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部の境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア明赤褐色普通	P 1538 80% 覆土中 PL151
92	鉢 土師器	A 30.5 B 29.4 C 10.0	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ、内面縦位のヘラ磨き。底部ナデ。	長石・石英・雲母・スコリアにぶい褐色普通	P 1540 80% 覆土中 PL151
93	鉢 土師器	A 30.6 B 20.1 C 9.5	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は大きく外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア橙色普通	P 1539 85% 覆土中 PL151

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第367図 94	甌 土師器	A 28.3 B 24.0 C [9.3]	底部から口縁部。無底式。体部は、内彎して立ち上がり、口縁部の境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 赤褐色 普通	P 1543 50% 覆土中 PL152
95	ミニチュア 土師器	A 5.2 B 3.4	丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ナデ。外面凹凸。輪積み痕。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 1544 99% 覆土中 PL152 鉢のミニチュア
96	手捏土器 土師器	A 7.0 B 3.0	丸底。体部は緩やかに内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ナデ、内面指ナデ。輪積み痕。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 1545 100% 覆土中 PL152
97	手捏土器 土師器	A 7.0 B 3.9	丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ナデ、内面指ナデ。体部外面指頭痕、輪積み痕。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 1546 100% 覆土中 PL152
98	手捏土器 土師器	A 8.0 B 3.1	口縁部一部欠損。丸底。体部は緩やかに内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ナデ、内面指ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1547 95% 覆土中 PL152
99	手捏土器 土師器	A 8.0 B 3.2	口縁部一部欠損。丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ナデ。体部外面指頭痕。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 1548 98% 覆土中 PL152
100	手捏土器 土師器	A 8.1 B 3.5	丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ナデ。体部外面指頭痕。輪積み痕。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P 1549 100% 覆土中 PL152
101	手捏土器 土師器	A 8.1 B 4.2	口縁部一部欠損。丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ナデ。外面にヘラ削り痕。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 1550 98% 覆土内
102	手捏土器 土師器	A 8.6 B 3.4 C 5.4	平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面輪積み痕。底部木葉痕。	長石・石英・雲母 スコリア 橙色 普通	P 1551 100% 覆土中 PL152
103	手捏土器 土師器	A 8.8 B 3.6 C 6.0	平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面指頭痕、輪積み痕。底部ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1552 100% 覆土中 PL152
104	手捏土器 土師器	A 9.0 B 4.1 C 6.1	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ナデ、内面ヘラナデ。体部外面輪積み痕、指頭痕。底部ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1553 95% 覆土中 PL152
105	手捏土器 土師器	A 10.0 B 5.3	口縁部一部欠損。丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部、体部外面ナデ、内面ヘラナデ。体部外面指頭痕、輪積み痕。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P 1554 99% 覆土中 PL152
106	手捏土器 土師器	A 11.4 B 5.3 C 4.3	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ヘラ磨き。体部外面輪積み痕。	長石・石英・雲母 にぶい黄褐色 普通	P 1555 90% 覆土中 PL152
107	手捏土器 土師器	A 8.7 B 5.4 C 5.9	平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面指ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1558 100% 覆土中 PL152
108	手捏土器 土師器	A 9.0 B 3.8 C 5.9	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけてわずかに内彎して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ナデ。体部外面指頭痕、輪積み痕。底部木葉痕。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 1556 99% 覆土中 PL152
109	手捏土器 土師器	A 8.6 B 4.8 C 6.8	平底。体部から口縁部にかけて直立して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ナデ。体部外面に指頭痕、輪積み痕。底部木葉痕。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1557 100% 覆土中 PL152
110	手捏土器 土師器	A 10.5 B 5.2 C 6.3	平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部内・外面指ナデ。体部下端ヘラ削り。外面に輪積み痕。底部木葉痕。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 1559 100% 覆土中 PL152
111	手捏土器 土師器	A 10.1 B 4.8 C 6.0	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面輪積み痕。底部木葉痕。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P 1560 100% 覆土中 PL152

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第367図 112	手捏土器 土師器	A 10.6 B 5.0 C 6.7	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。外面輪積み痕、指頭痕。底部木葉痕。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P 1561 98% 覆土中 PL152
113	手捏土器 土師器	A 11.8 B 5.4 C 7.0	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部横ナデ。体部外面縦位のナデ、内面ヘラナデ。底部木葉痕。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P 1562 95% 覆土中 PL154
114	手捏土器 土師器	A 10.71 B 5.8 C 7.2	突出した平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面5段の輪積み痕、下端に指ナデ、内面ナデ。底部木葉痕。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P 1563 100% 覆土中 PL154
115	手捏土器 土師器	A 9.9 B 6.1 C 6.8	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面輪積み痕。底部木葉痕。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1564 99% 覆土中 PL154
116	手捏土器 土師器	A 10.9 B 6.0 C 7.8	口縁部一部欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。体部外面輪積み痕。底部木葉痕。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P 1565 99% 覆土中 PL154
117	手捏土器 土師器	A 8.9 B 9.2 C 6.3	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部ナデ。体部外面縦位のヘラナデ、内面ナデ。体部外面輪積み痕。底部ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1566 95% 覆土中 PL154
118	坏蓋 須恵器	A 11.9 B 4.3	口縁部一部欠損。天井部は平坦で、体部から口縁部にかけて内彎して下降する。口縁部との境に沈線を持つ。	口縁部、体部内・外面クロロナデ。天井部、体部上位にかけて回転ヘラ割り。天井部から体部にかけて自然釉。	長石・石英 灰色 普通	P 1567 99% 覆土中

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		備	考	
第368図119	土玉	2.7	3.7	0.7	(15.0)	覆土中	DP1156	90%	PL169
120	管状土錘	(11.2)	4.2	1.9	(197.8)	覆土中	DP1121	90%	PL170
121	支脚	16.9	7.6	-	552.5	覆土中	DP1122	100%	PL172

第236A号住居跡 (第369図)

位置 調査区の南部，H3c2区。

重複関係 本跡が，第236B号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸 [4.84]m，短軸3.16mの長方形である。

主軸方向 N-82°-E

壁 壁高は28~38cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦で，竈前方部と中央部の一部分が踏み固められている。

竈 東壁の南東コーナー部寄りに，砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落している。規模は煙道部から焚き口部まで110cm，両袖最大幅118cm，壁外への掘り込みは77cmである。両袖部は残存していないが，雲母片岩が竈前方から中央部にかけて出土していることから，袖部の補強材に雲母片岩を使用して構築されていたと思われる。袖の内壁は，火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は，床面をわずかに掘りくぼめており，火熱を受け赤変硬化している。支脚は火床部中央とその南側の2か所にあり，中央の支脚は土師器壺の口縁部を逆位に立て，南側の支脚は土製の羽口を転用して使用している。煙道部は，外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・焼土・粘土粒子微量

- 3 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 粘土粒子微量
- 4 暗褐色 焼土・粘土粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子中量, 焼土小ブロック・粘土粒子少量

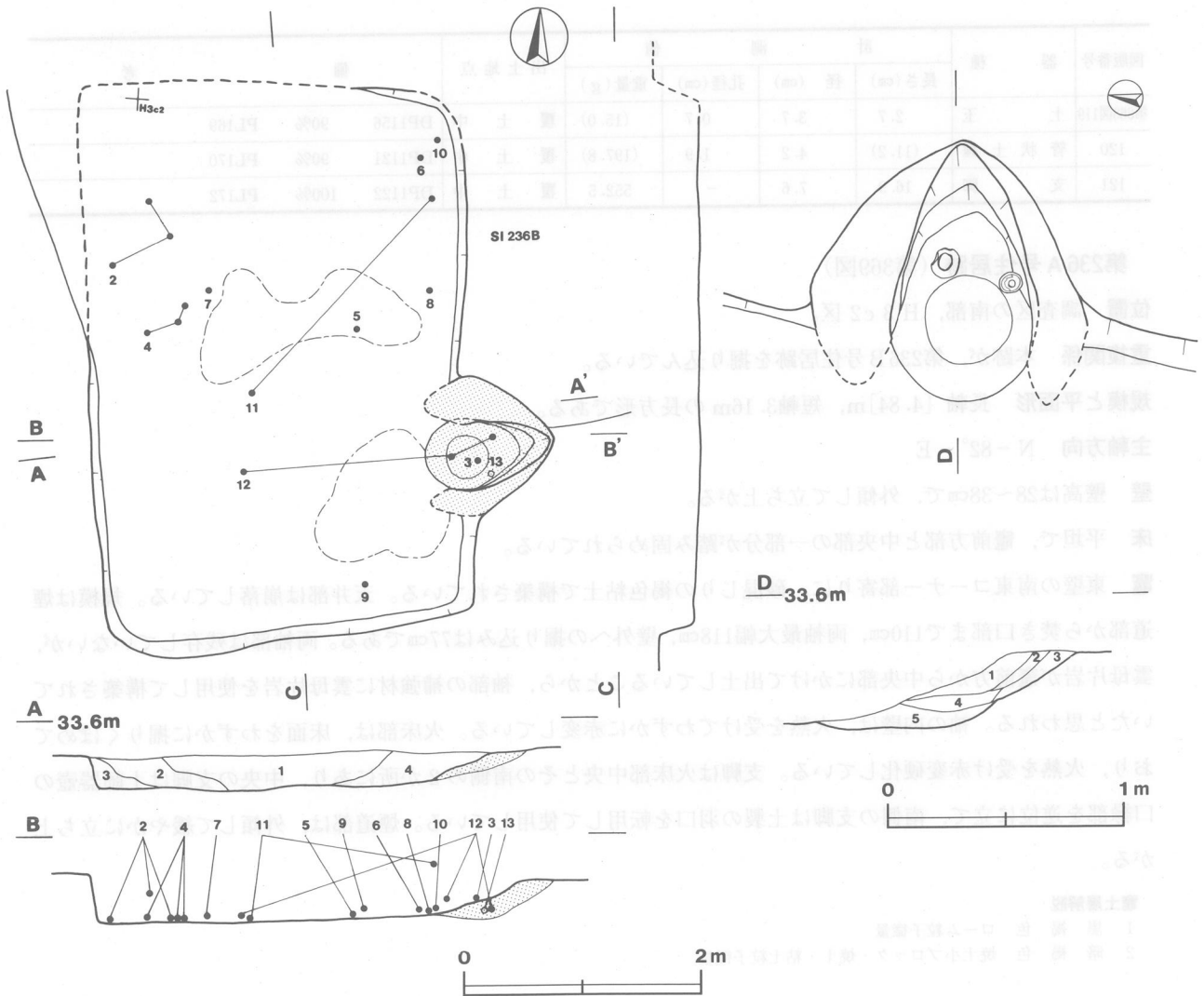
覆土 5層からなり, レンズ状の堆積を示し, 自然堆積である。

土層解説

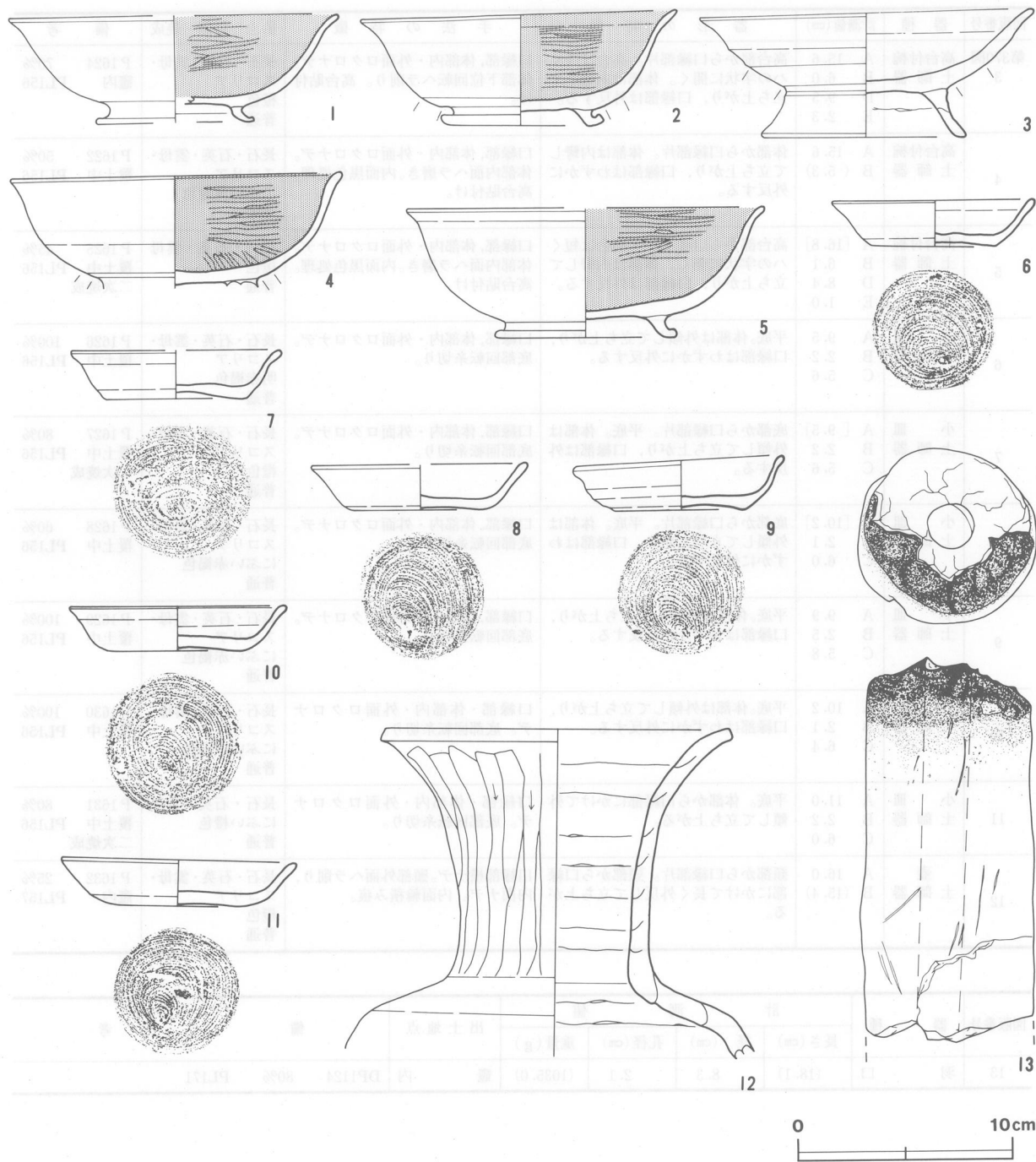
- 1 極暗褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量

遺物 土師器片168点 (坏片42点, 高台付坏片5点, 小皿片5点, 甕片116点), 須恵器片2点 (甕片2点), 羽口1点, 含鉄滓200g, 鉄滓1,360gが出土している。覆土下層では, 第370図4の土師器高台付椀が西壁部中央付近から, 2の土師器高台付椀が北西コーナー部付近から, 5の土師器高台付椀が中央部東側から, 7の土師器小皿が中央部北西側から正位の状態で出土している。11の土師器小皿が中央部付近から, 6, 10の土師器小皿が北東コーナー部から逆位の状態で出土している。8の土師器小皿が東壁部から, 9の土師器小皿が南壁部東側付近から逆位の状態で出土している。竈内から3の土師器高台付椀, 12の土師器壺, 13の羽口が出土している。12は中央部付近の下層から出土した破片と接合している。

所見 本跡内から羽口, 鉄滓が出土しているが, 鍛冶関連の施設は確認されなかった。時期は, 遺構の形態及び出土遺物から10世紀後葉と考えられる。



第369図 第236A号住居跡実測図



第370図 第236A号住居跡出土遺物実測図

第236A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第370図 1	高台付椀 土師器	A [15.6] B 5.0 C [7.4] E 0.9	高台部から口縁部片。高台は短くハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。高台貼付け。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P 1621 50% 覆土中 PL156 二次焼成
2	高台付椀 土師器	A 14.8 B 5.3 D 6.8 E 0.8	高台部から口縁部片。高台は短くハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。体部下位回転ヘラ削り、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。高台貼付け。	長石・石英・雲母・ スコリア 灰褐色 普通	P 1623 80% 覆土中 PL156 二次焼成

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第370図 3	高台付椀 土師器	A 15.6 B 6.0 D 9.5 E 2.3	高台部から口縁部片。高台は長くハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部下位回転ヘラ削り。高台貼付け。	長石・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P 1624 70% 竈内 PL156
4	高台付椀 土師器	A 15.6 B (5.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。高台貼付け。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい黄橙色 普通	P 1622 50% 覆土中 PL156
5	高台付椀 土師器	A [16.8] B 6.1 D 8.4 E 1.0	高台部から口縁部片。高台は短くハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。高台貼付け。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P 1625 45% 覆土中 PL156 二次焼成
6	小皿 土師器	A 9.5 B 2.2 C 5.6	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P 1626 100% 覆土中 PL156
7	小皿 土師器	A [9.5] B 2.2 C 5.6	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P 1627 80% 覆土中 PL156 二次焼成
8	小皿 土師器	A [10.2] B 2.1 C 6.0	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい赤褐色 普通	P 1628 60% 覆土中 PL156
9	小皿 土師器	A 9.9 B 2.5 C 5.8	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい赤褐色 普通	P 1629 100% 覆土中 PL156
10	小皿 土師器	A 10.2 B 2.1 C 6.4	平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい赤褐色 普通	P 1630 100% 覆土中 PL156
11	小皿 土師器	A 11.0 B 2.2 C 6.0	平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 1631 80% 覆土中 PL156 二次焼成
12	壺 土師器	A 16.0 B (15.4)	頸部から口縁部片。頸部から口縁部にかけて長く外反して立ち上がる。	口縁部横ナデ。頸部外面ヘラ削り、内面ナデ。内面輪積み痕。	長石・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P 1632 25% 竈内 PL157

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		備	考	
13	羽口	(18.1)	8.3	2.1	(1035.0)	竈内	DP1124	80%	PL171

第236B号住居跡 (第371・372図)

位置 調査区の南部, H 3 c 2 区。

重複関係 本跡は, 第236A号住居跡によって掘り込まれている。

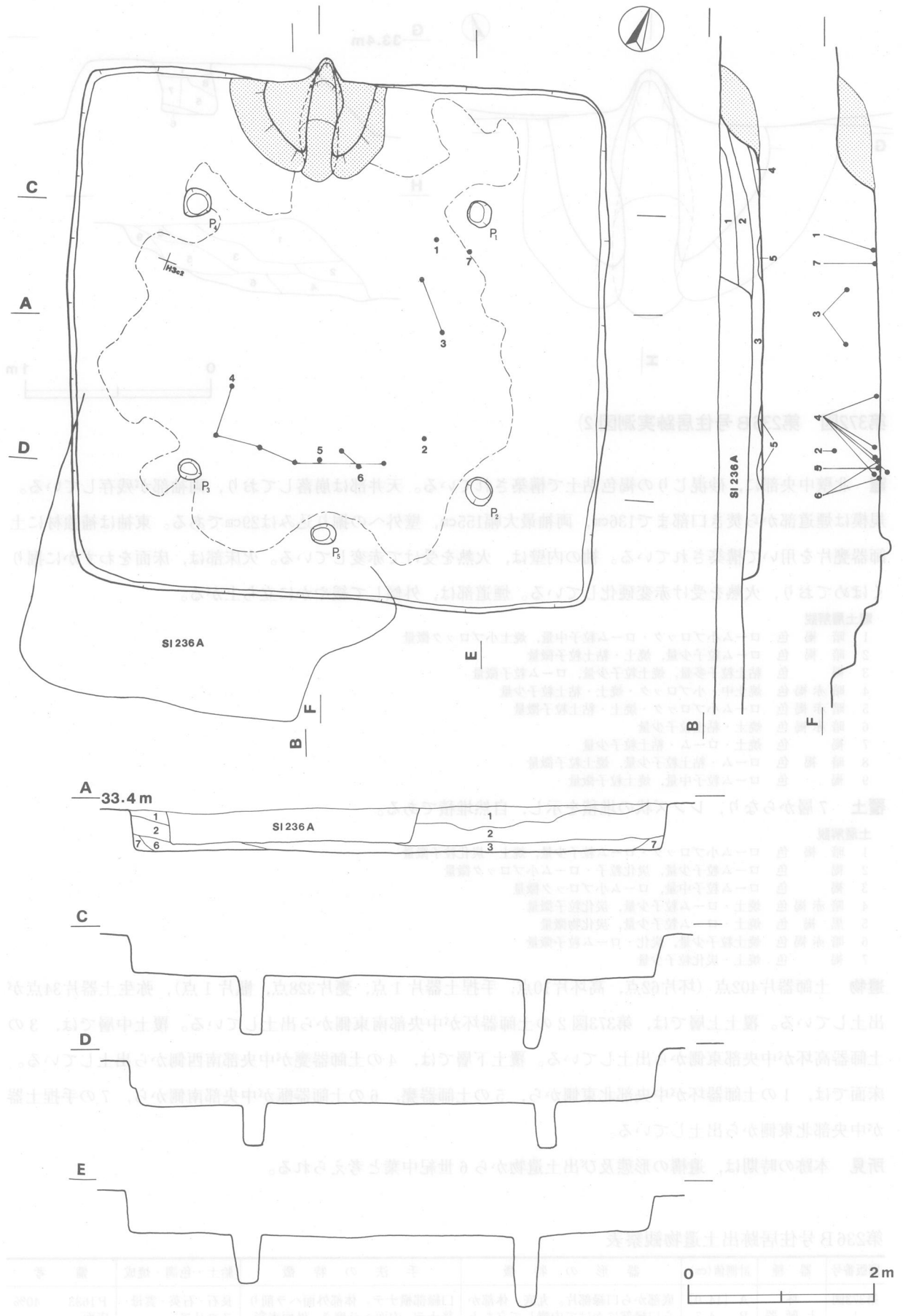
規模と平面形 長軸5.78m, 短軸5.62mの方形である。

主軸方向 N-21°-W

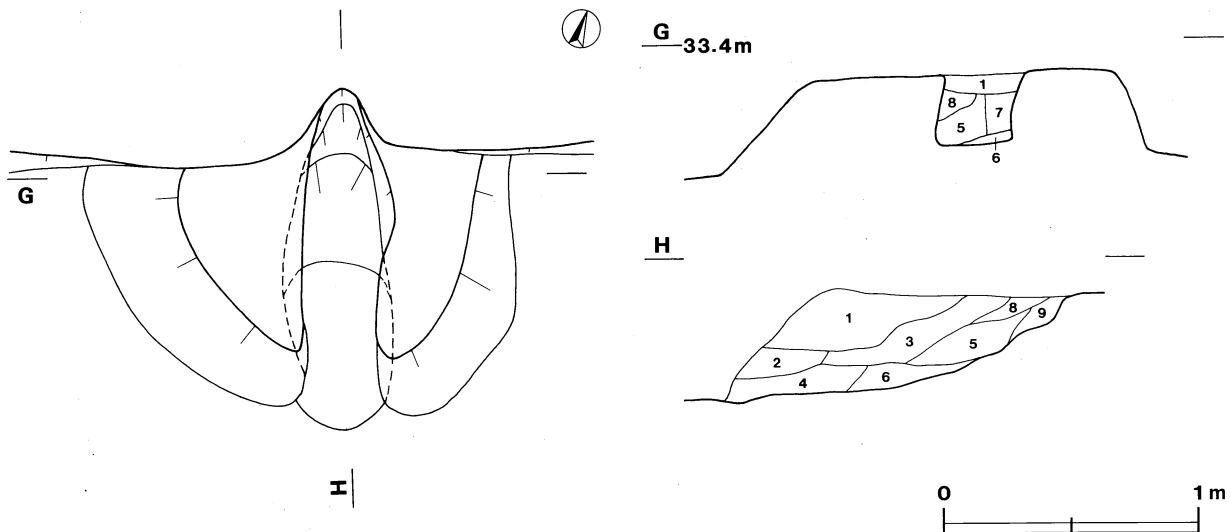
壁 壁高は42~52cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は, 長径26~32cm, 短径20~31cmの楕円形, 深さ43~74cmである。規模と配列から支柱穴と考えられる。P5は長径26cm, 短径21cmの楕円形, 深さ10cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第371図 第236B号住居跡実測図(1)



第372図 第236B号住居跡実測図(2)

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は煙道部から焚き口部まで136cm、両袖最大幅155cm、壁外への掘り込みは29cmである。東袖は補強材に土師器甕片を用いて構築されている。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・粘土粒子微量
- 3 褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量、ローム粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土中・小ブロック・焼土・粘土粒子少量
- 5 暗赤褐色 ローム小ブロック・焼土・粘土粒子微量
- 6 暗赤褐色 焼土・粘土粒子少量
- 7 褐色 焼土・ローム・粘土粒子少量
- 8 暗褐色 ローム・粘土粒子少量、焼土粒子微量
- 9 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量

覆土 7層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

土層解説

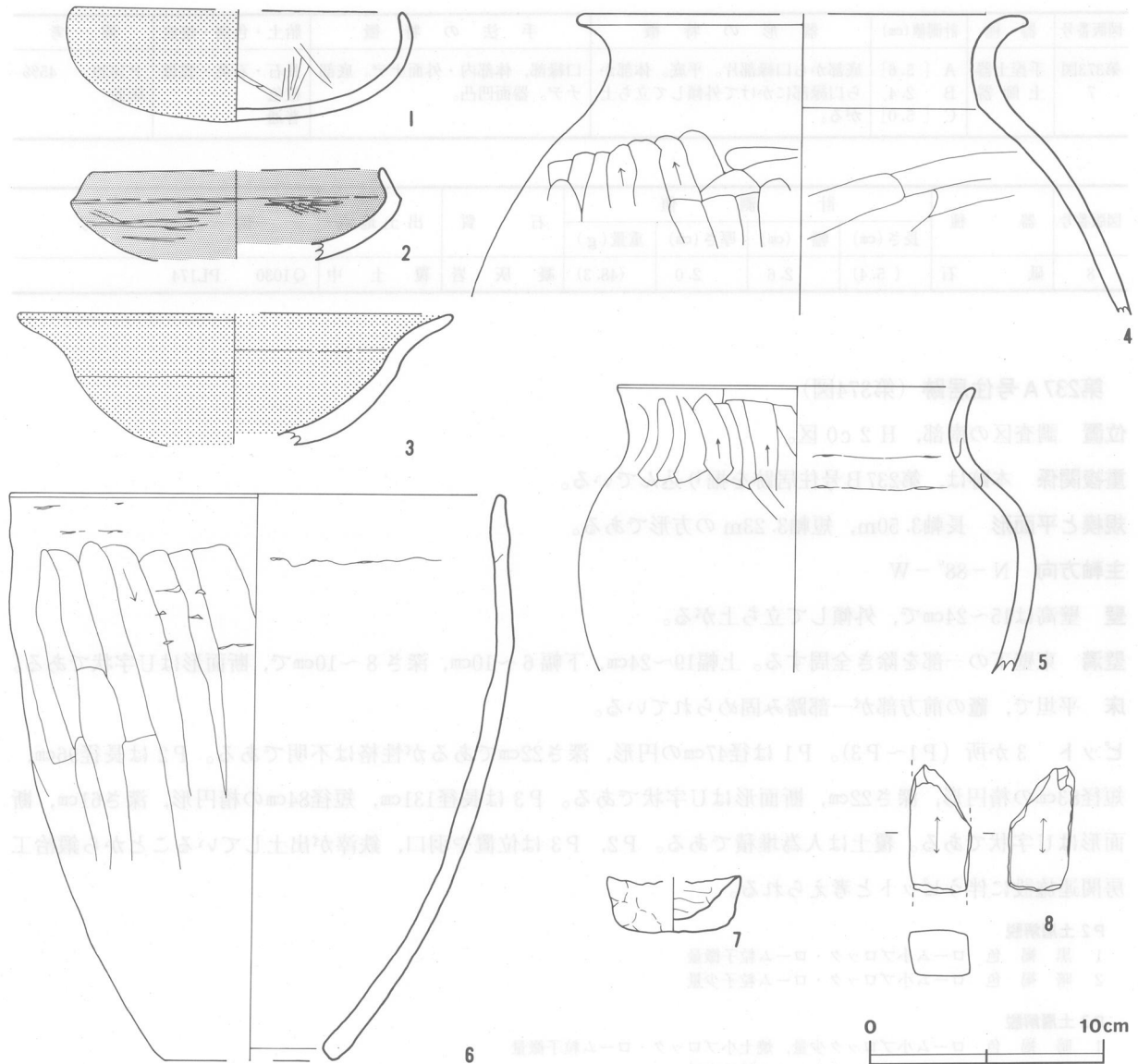
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
- 4 暗赤褐色 焼土・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 5 黒褐色 焼土・ローム粒子少量、炭化物微量
- 6 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化・ローム粒子微量
- 7 褐色 焼土・炭化粒子少量

遺物 土師器片402点（坏片62点、高坏片10点、手捏土器片1点、甕片328点、甗片1点）、弥生土器片34点が出土している。覆土上層では、第373図2の土師器坏が中央部南東側から出土している。覆土中層では、3の土師器高坏が中央部東側から出土している。覆土下層では、4の土師器甕が中央部南西側から出土している。床面では、1の土師器坏が中央部北東側から、5の土師器甕、6の土師器甗が中央部南側から、7の手捏土器が中央部北東側から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀中葉と考えられる。

第236B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第373図 1	坏 土師器	A [14.0] B 4.7	底部から口縁部片。丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ヘラ磨き。外面赤彩。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい赤褐色 普通	P1633 40% 床面 二次焼成



第373図 第236B号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第373図 2	坏 土師器	A [12.6] B (3.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ磨き、内面へラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・石英・雲母・スコリア 黒褐色 普通	P 1634 30% 覆土中
3	高 土師器	A [18.6] B (5.6)	坏部片。坏部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 針状鉱物 明赤褐色 普通	P 1635 30% 覆土中
4	甕 土師器	A [19.2] B (12.8)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラナデ。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P 1637 20% 覆土中
5	甕 土師器	A 15.3 B (12.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。体部内・外面ナデ。内面輪積み痕。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P 1636 40% 床面 PL157
6	甕 土師器	A 20.5 B 24.3 C [7.2]	体部下位一部欠損。単孔式。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面輪積み痕。	長石・石英・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P 1638 75% 床面 PL157

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第373図 7	手捏土器 土師器	A [5.6] B 2.4 C [5.0]	底部から口縁部片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ナデ。底部ナデ。器面凹凸。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P 1639 45% 床面

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅 (cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
8	砥石	(5.4)	2.6	2.0	(48.3)	凝灰岩	覆土中	Q1030	PL174

第237A号住居跡 (第374図)

位置 調査区の南部, H 2 c 0 区。

重複関係 本跡は, 第237B号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.50m, 短軸3.23mの方形である。

主軸方向 N-88°-W

壁 壁高は15~24cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 東壁下の一部を除き全周する。上幅19~24cm, 下幅6~10cm, 深さ8~10cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 竈の前方部が一部踏み固められている。

ピット 3か所 (P1~P3)。P1は径47cmの円形, 深さ22cmであるが性格は不明である。P2は長径96cm, 短径83cmの楕円形, 深さ22cm, 断面形はU字状である。P3は長径131cm, 短径84cmの楕円形, 深さ61cm, 断面形はU字状である。覆土は人為堆積である。P2, P3は位置や羽口, 鉄滓が出土していることから鍛冶工房関連施設に伴うピットと考えられる。

P2土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

P3土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量

竈 東壁中央部に, 砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落している。規模は煙道部から焚き口部まで110cm, 両袖最大幅89cm, 壁外への掘り込みは54cmである。両袖は残存してないが, 雲母片岩が両袖部から直立した状態で検出されており, 袖部の補強材に用いられたものと考えられる。袖の内壁は, 火熱を受けて赤変している。火床部は, 床面を14cm掘りくぼめており, 火熱を受けて赤変硬化している。煙道部は, 外傾して緩やかに立ち上がる。

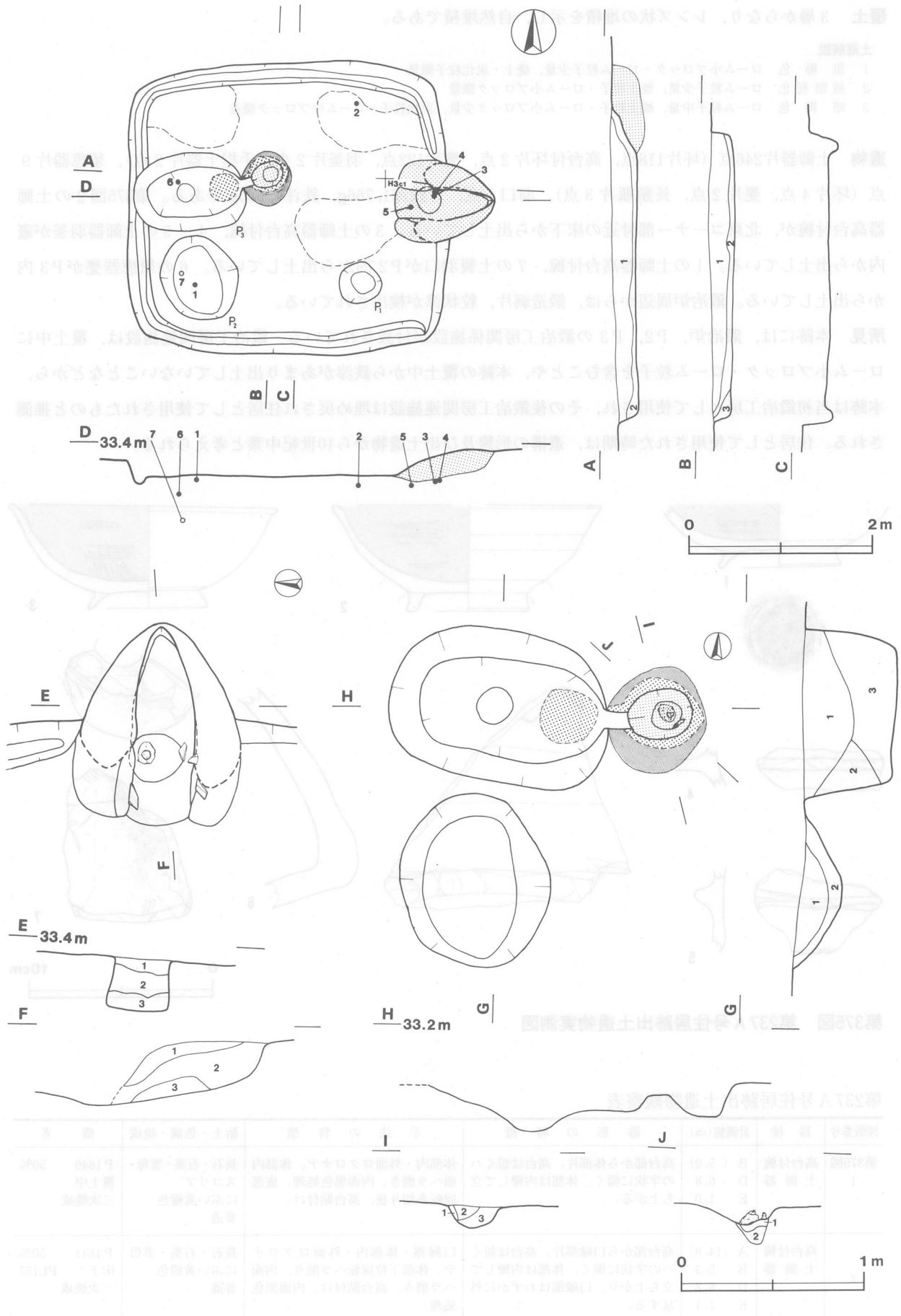
竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗赤褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量, 焼土中・小ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック微量

鍛冶炉 中央部に位置し, 長径45cm, 短径39cmの楕円形で, 床面を16cm掘りくぼめた地床炉である。炉床面は, 火熱を受け赤変硬化し, 炉底には椀形滓が残存する。

鍛冶炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土粒子中量, ローム粒子少量
- 2 黒褐色 焼土・ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子中量, ローム粒子微量



第374図 第237A号住居跡実測図

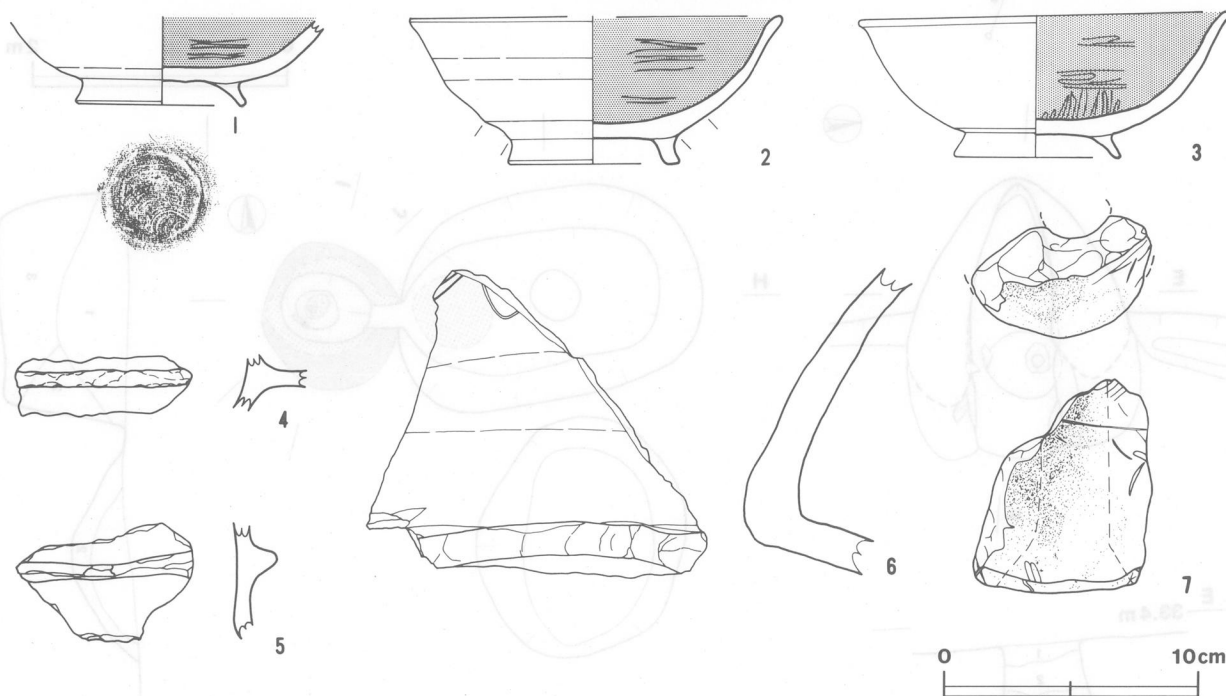
覆土 3層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・ローム小ブロック少量、炭化粒子・ローム中ブロック微量

遺物 土師器片246点（坏片118点、高台付坏片2点、甕片122点、羽釜片2点、手捏土器片2点）、須恵器片9点（坏片4点、甕片2点、長頸瓶片3点）、羽口1点、含鉄滓1,766g、鉄滓1,980gである。第375図2の土師器高台付椀が、北東コーナー部付近の床下から出土している。3の土師器高台付椀、4、5の土師器羽釜が竈内から出土している。1の土師器高台付椀、7の土製羽口がP2内から出土している。6の須恵器甕がP3内から出土している。鍛冶炉周辺からは、鍛造剥片、粒状滓が検出されている。

所見 本跡には、鍛冶炉、P2、P3の鍛冶工房関係施設が付設されている。鍛冶工房関連施設は、覆土中にローム小ブロック・ローム粒子を含むことや、本跡の覆土中から鉄滓があまり出土していないことなどから、本跡は当初鍛冶工房として使用され、その後鍛冶工房関連施設は埋め戻され住居として使用されたものと推測される。住居として使用された時期は、遺構の形態及び出土遺物から10世紀中葉と考えられる。



第375図 第237A号住居跡出土遺物実測図

第237A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第375図 1	高台付椀 土師器	B (5.0) D 6.8 E 1.0	高台部から体部片。高台は短くハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。底部回転糸切り後、高台貼付け。	長石・石英・雲母・スコリアにぶい黄橙色普通	P1640 50% 覆土中 二次焼成
2	高台付椀 土師器	A [14.8] B 5.3 D 6.8 E 1.1	高台部から口縁部片。高台は短くハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。体部下位回転ヘラ削り、内面ヘラ磨き。高台貼付け。内面黒色処理。	長石・石英・雲母にぶい黄橙色普通	P1641 50% 床下 PL157 二次焼成

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第375図 3	高台付碗 土師器	A 14.5	高台部から口縁部片。高台は短くハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。口縁部はわずかに外反し端部は丸い。	口縁部・体部内・外面ロクロナデ。体部内面へラ磨き。高台貼付け。内面黒色処理。	長石・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P 1642 65% 竈内 PL157 二次焼成
		B 5.8				
		D 5.5				
		E 1.0				
4	羽釜 土師器	B (2.2)	鐏部片。	内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 1643 5% 竈内 PL157
5	羽釜 土師器	B (4.6)	鐏部片。	内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 1644 5% 竈内 PL157
6	甕 須恵器	B (12.1)	頸部から口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ，外面波状文。	長石・石英 オリブ黒色 普通	P 1672 10% 覆土中

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
7	羽口	(8.4)	(7.0)	[2.6]	(129.5)	SI-237A	DP1125	20%	PL171

第237B号住居跡（第376図）

位置 調査区の南部，H 2 b0 区。

重複関係 本跡は，第237A，237D号住居跡，第350号土坑によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸7.28m，短軸 [5.54]m の隅丸長方形である。

主軸方向 N-45°-W

壁 壁高は7～35cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦で，踏み固められた部分は見られない。

炉 ほぼ中央部に位置し，長径84cm，短径56cmの楕円形で，床面を6cm掘りくぼめた地床炉である。炉床面は，火熱を受けわずかに赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量

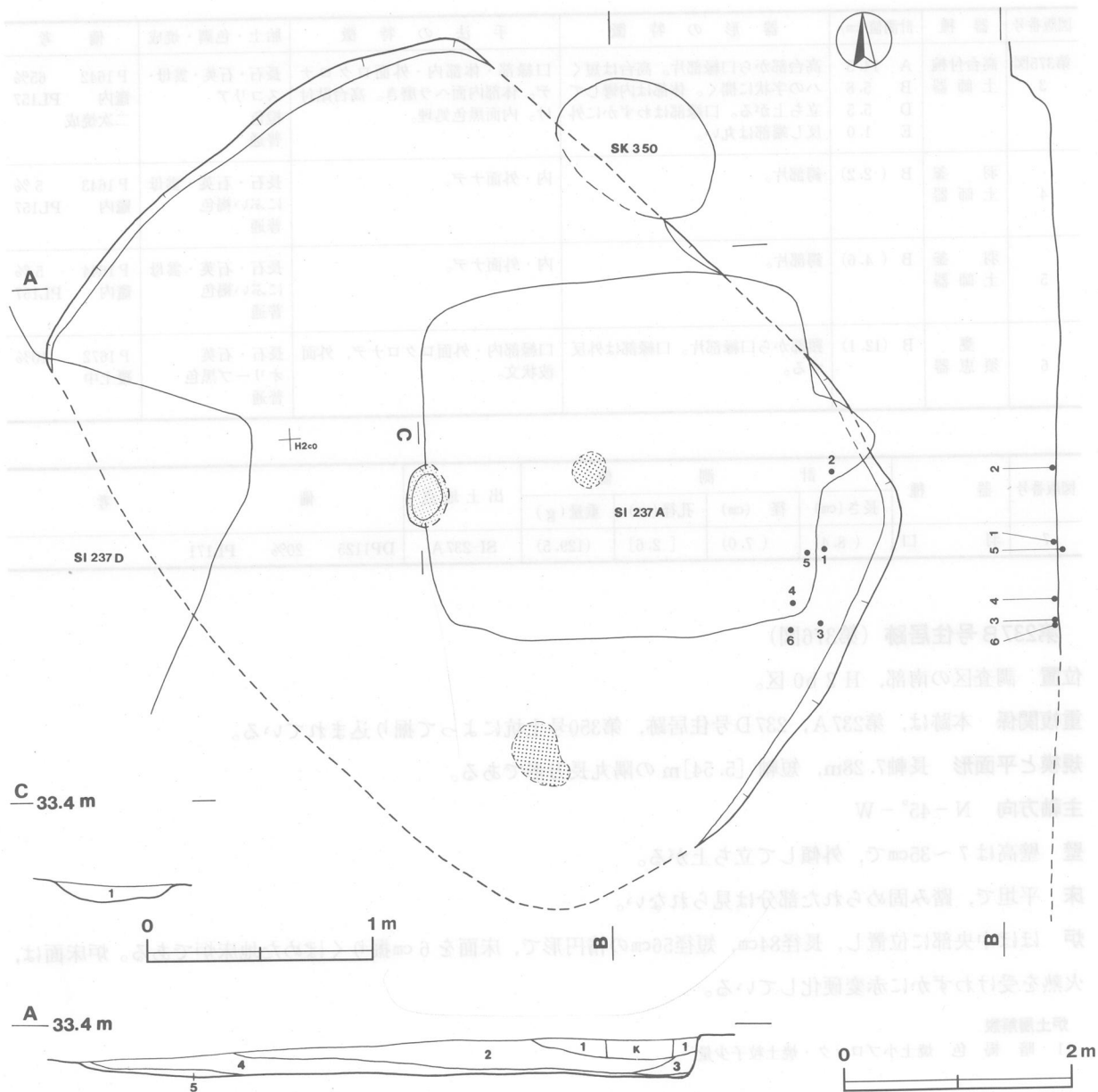
覆土 5層からなり，レンズ状の堆積を示し，自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・焼土・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化材・炭化物・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子少量，焼土・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 5 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大・中ブロック微量

遺物 縄文土器片3点，弥生土器片292点である。第377，378図覆土下層では，4の弥生土器の広口壺が南東壁部から，2の弥生土器甕が東コーナー部付近から出土している。床面では，1，5の弥生土器広口壺が東コーナー部付近から，3，6の弥生土器広口壺が南東壁部から出土している。7は弥生土器の胴部片で付加条一種付加1条の縄文が施されている。

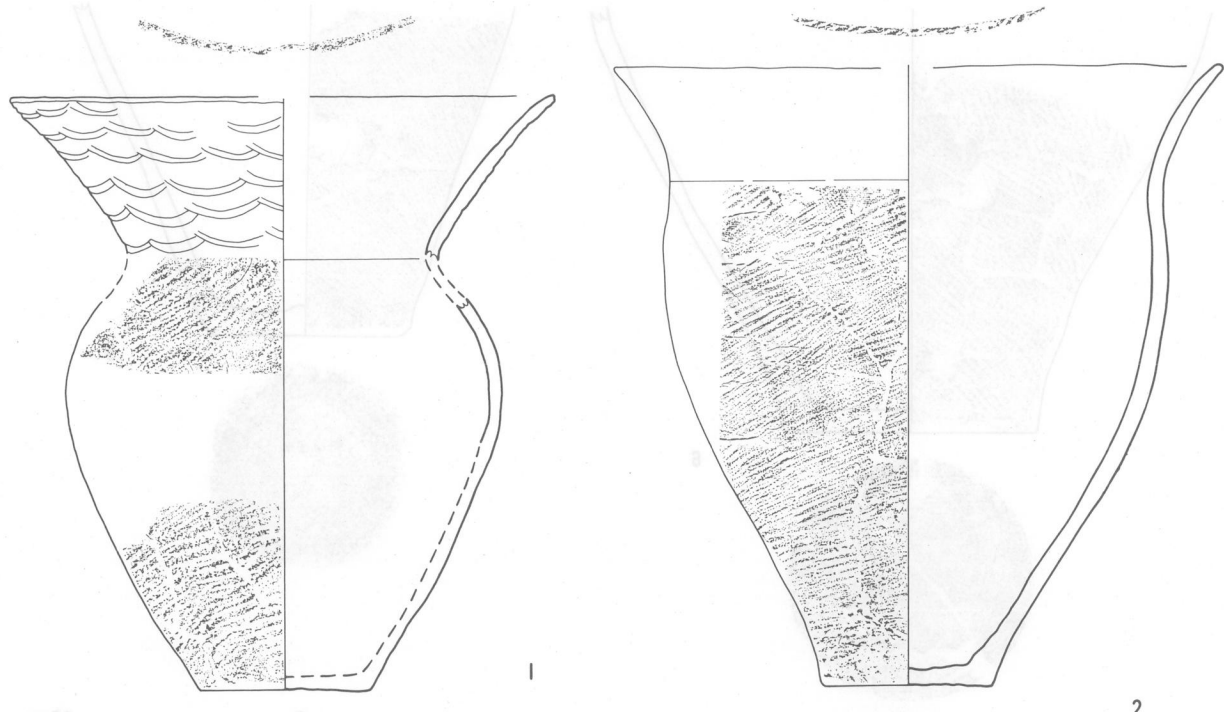
所見 当跡の中央部と南コーナー部付近の床面直上から焼土塊が検出された。時期は，遺構の形態及び出土遺物から弥生時代中期末葉と考えられる。1～3は銚子市佐野原遺跡出土の弥生土器に類似する。4は南関東系の土器と考えられ搬入品と思われる。



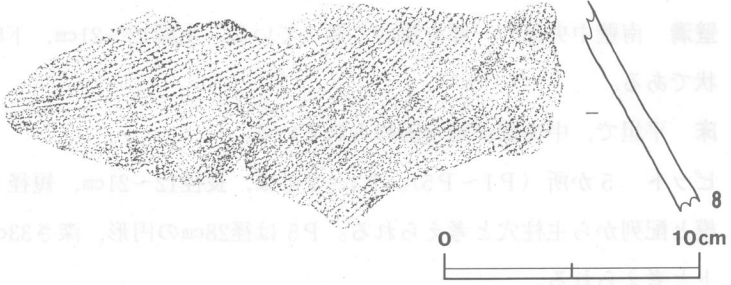
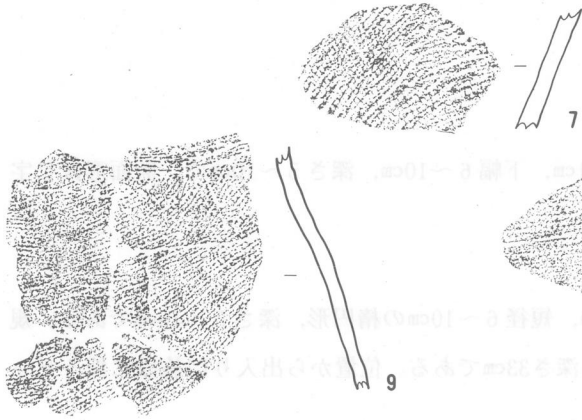
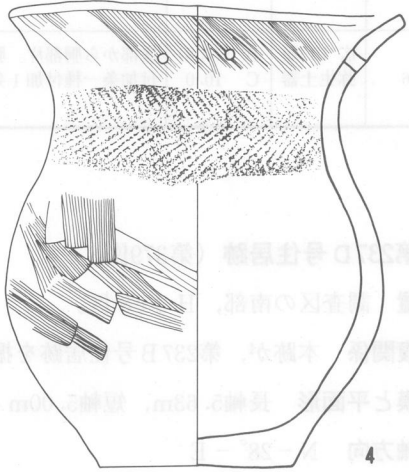
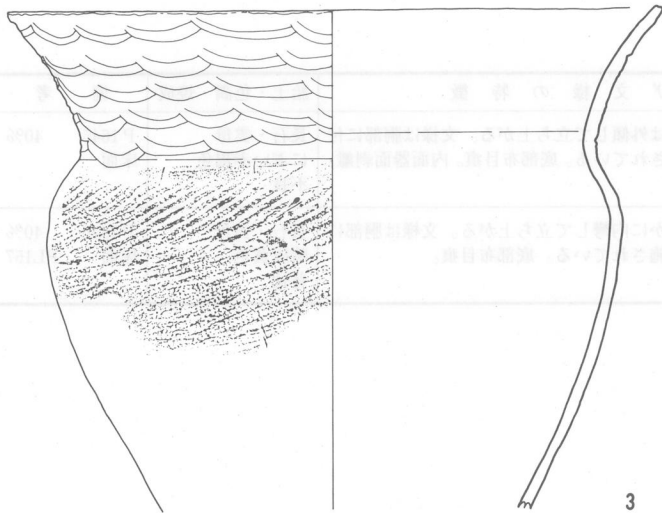
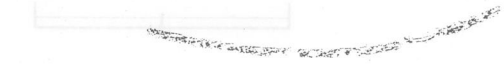
第376図 第237B号住居跡実測図

第237B号住居跡出土遺物観察表

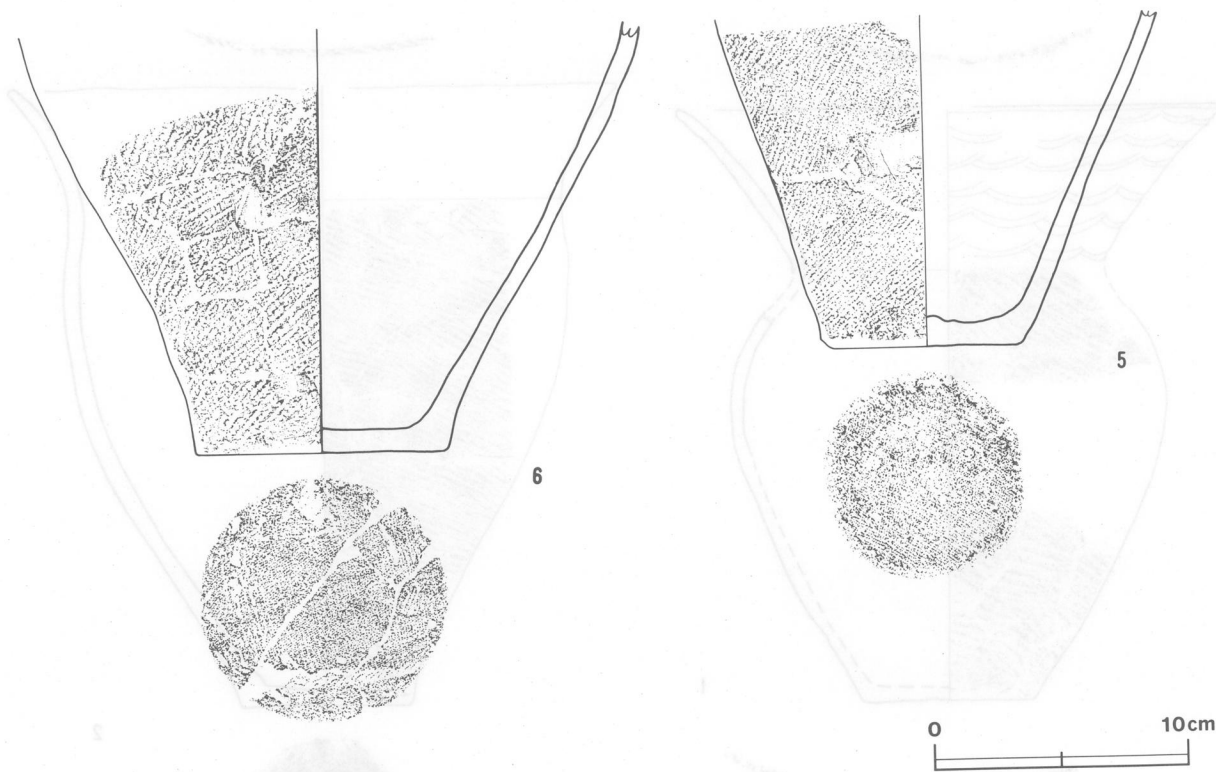
図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第377図 1	広口壺 弥生土器	A [21.5] B [23.4] C 6.7	底部から口縁部片。平底。胴部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。文様は口縁部に櫛歯2本の連弧文を六段に配し、胴部には付加条一種付加1条の縄文が施されている。	長石・雲母 赤色 普通	P 1647 60% 床面 PL157
2	甕 弥生土器	A [23.8] B 24.5 C 6.6	底部から口縁部片。平底。胴部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。文様は口縁部無文、口唇部と胴部に付加条一種付加1条の縄文が施されている。底部布目痕。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	P 1649 60% 覆土中 PL157
3	広口壺 弥生土器	A 25.9 B (19.8)	胴部から口縁部片。胴部は内彎して立ち上がり、口縁部は大きく外反する。文様は口縁部に櫛歯2本の連弧文を5段に配し、口唇部と胴部には付加条一種付加1条の縄文が施されている。	長石・雲母 黒褐色 普通	P 1650 60% 床面 PL157
4	広口壺 弥生土器	A 15.6 B 18.4 C 7.6	底部から口縁部片。平底。胴部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。文様は口唇部に単節LRの縄文が施され、口縁部と胴部にハケ目、頸部に単節LRとRLの縄文が羽状に施されている。口縁部に2対の孔あり。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P 1648 95% 覆土中 PL157



10cm



第377図 第237B号住居跡出土遺物実測図(1)



第378図 第237B号住居跡出土遺物実測図(2)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第378図 5	広口壺 弥生土器	B (13.6) C 7.2	底部から胴部片。平底。胴部は外傾して立ち上がる。文様は胴部に付加条一種付加1条の縄文が施されている。底部布目痕。内面器面剥離。	長石・雲母 にぶい赤褐色 不良	P 1645 40% 床面
6	広口壺 弥生土器	B (16.8) C 10.0	底部から胴部片。胴部はわずかに内彎して立ち上がる。文様は胴部に付加条一種付加1条の縄文が施されている。底部布目痕。	長石・雲母 暗灰黄色 普通	P 1646 40% 床面 PL157

第237D号住居跡 (第379図)

位置 調査区の南部, H 2 c 8 区。

重複関係 本跡が, 第237B号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸5.63m, 短軸5.00mの長方形である。

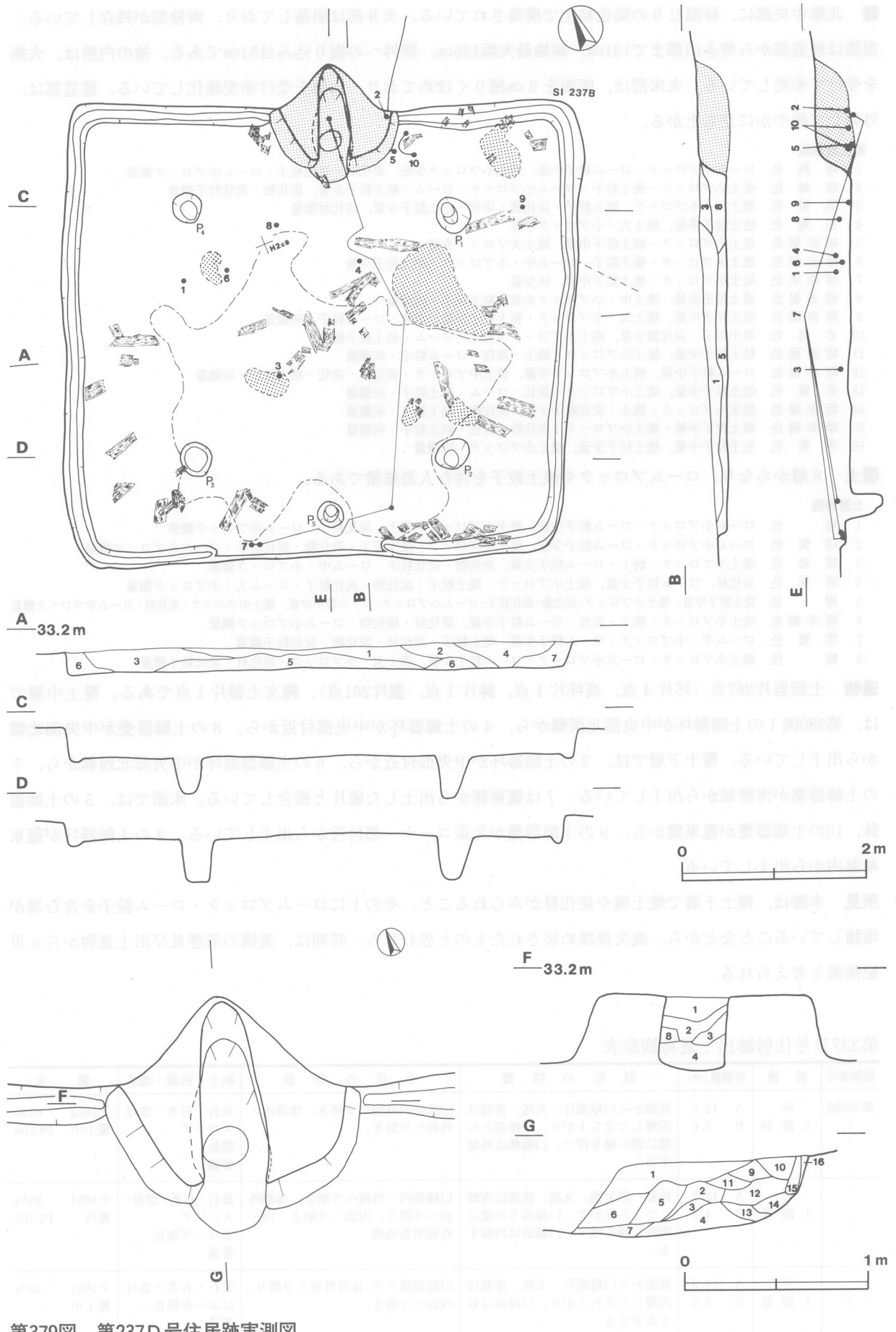
主軸方向 N-28°-E

壁 壁高は15~38cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

壁溝 南壁中央部の一部を除いて巡っている。上幅12~21cm, 下幅6~10cm, 深さ5~10cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部が踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は, 長径12~21cm, 短径6~10cmの楕円形, 深さ5~10cmである。規模と配列から支柱穴と考えられる。P5は径28cmの円形, 深さ33cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。



竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は煙道部から焚き口部まで131cm、両袖最大幅136cm、壁外への掘り込みは51cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面を6cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土小ブロック少量、炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量、炭化物・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 焼土大・小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化・粘土粒子少量、炭化材微量
- 4 赤褐色 焼土粒子多量、焼土大・小ブロック中量
- 5 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土粒子中量、焼土大ブロック少量
- 6 暗赤褐色 焼土中ブロック・焼土粒子・ローム中・小ブロック・粘土粒子少量
- 7 暗赤灰色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、灰少量
- 8 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土中・小ブロック少量、粘土粒子・灰微量
- 9 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土大・小ブロック・粘土粒子少量、炭化・ローム粒子・灰微量
- 10 赤褐色 焼土粒子・炭化物少量、焼土小ブロック・炭化・ローム・粘土粒子微量
- 11 暗赤褐色 粘土粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム粒子・灰微量
- 12 暗赤褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック少量、焼土中ブロック・炭化物・炭化・粘土粒子・灰微量
- 13 赤褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化・ローム・粘土粒子・灰微量
- 14 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量、炭化物・粘土粒子・灰微量
- 15 暗赤褐色 焼土粒子少量・焼土小ブロック・炭化物・炭化・粘土粒子・灰微量
- 16 赤褐色 粘土粒子中量、焼土粒子少量、焼土小ブロック・灰微量

覆土 8層からなり、ロームブロックや焼土粒子を含む人為堆積である。

土層解説

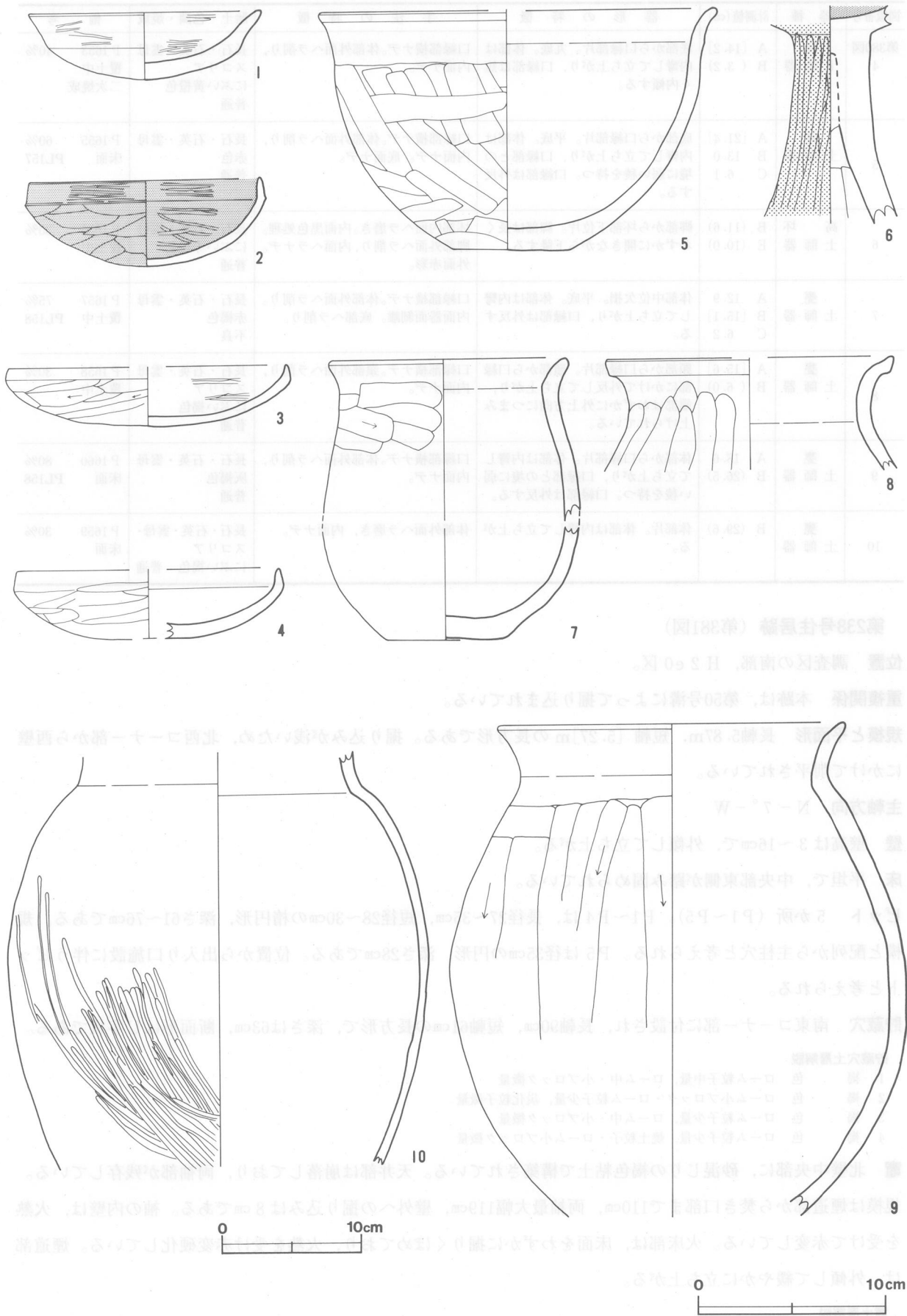
- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム大ブロック微量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・焼土・ローム粒子少量、炭化物・炭化粒子・ローム中・小ブロック微量
- 4 暗褐色 炭化材、ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム大・中ブロック微量
- 5 褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土中ブロック・炭化材・ローム中ブロック微量
- 6 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム粒子少量、炭化材・炭化物・ローム小ブロック微量
- 7 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化材・炭化物・炭化粒子微量
- 8 褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土大・小ブロック・炭化材・炭化粒子微量

遺物 土師器片267点(坏片4点、高坏片1点、鉢片1点、甕片261点)、縄文土器片1点である。覆土中層では、第380図1の土師器坏が中央部北西側から、4の土師器坏が中央部付近から、8の土師器甕が中央部北側から出土している。覆土下層では、3の土師器坏が中央部付近から、6の土師器高坏が中央部北西側から、7の土師器甕が南壁部から出土している。7は竈東側から出土した破片と接合している。床面では、5の土師器鉢、10の土師器甕が竈東側から、9の土師器甕が北東コーナー部付近から出土している。2の土師器坏が竈東袖部内から出土している。

所見 本跡は、覆土下層で焼土塊や炭化材がみられること、その上にロームブロック・ローム粒子を含む層が堆積していることなどから、焼失後埋め戻されたものと思われる。時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀後葉と考えられる。

第237D号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第380図 1	坏 土師器	A 12.5 B 3.6	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外傾する。	口縁部内外面ヘラ磨き。体部内・外面ヘラ磨き。	長石・石英・雲母 スコリア 橙色 普通	P 1652 60% 覆土中 PL158
2	坏 土師器	A 12.3 B 4.5	体部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を残す。口縁部は内傾する。	口縁部内・外面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・石英・雲母・ スコリア オリーブ黒色 普通	P 1654 95% 竈内 PL158
3	坏 土師器	A [14.8] B 3.2	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラ磨き。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P 1651 45% 覆土中



第380図 第237D号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第380図 4	坏 土師器	A [14.2] B (3.2)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 スコリア にぶい黄橙色 普通	P 1653 40% 覆土中 二次焼成
5	鉢 土師器	A [21.4] B 13.0 C 6.1	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。底面ナデ。	長石・石英・雲母 赤色 普通	P 1655 60% 床面 PL157
6	高坏 土師器	B (11.6) E (10.0)	脚部から坏部下位片。脚部は長くわずかに開きながら下降する。	坏部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。脚部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。外面赤彩。	長石・石英・雲母 にぶい赤橙色 普通	P 1656 30% 覆土中
7	甕 土師器	A 12.9 B [15.1] C 6.2	体部中位欠損。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り。内面器面剝離。底部ヘラ削り。	長石・石英・雲母 赤褐色 不良	P 1657 75% 覆土中 PL158
8	甕 土師器	A [15.6] B (6.0)	頸部から口縁部片。頸部から口縁部にかけて外反して立ち上がり、端部はわずかに外上方向につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。頸部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 スコリア にぶい褐色 普通	P 1658 30% 覆土中
9	甕 土師器	A 18.6 B (26.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 灰褐色 普通	P 1660 80% 床面 PL158
10	甕 土師器	B (29.6)	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面ヘラ磨き、内面ナデ。	長石・石英・雲母・ スコリア にぶい褐色 普通	P 1659 30% 床面

第238号住居跡 (第381図)

位置 調査区の南部，H 2 e0 区。

重複関係 本跡は，第50号溝によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.87m，短軸 [5.27]m の長方形である。掘り込みが浅いため，北西コーナー部から西壁にかけて削平されている。

主軸方向 N - 7° - W

壁 壁高は3～16cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦で，中央部東側が踏み固められている。

ピット 5か所 (P1～P5)。P1～P4は，長径27～35cm，短径28～30cmの楕円形，深さ61～76cmである。規模と配列から支柱穴と考えられる。P5は径35cmの円形，深さ28cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

貯蔵穴 南東コーナー部に付設され，長軸90cm，短軸61cmの長方形で，深さは63cm，断面形はU字状である。

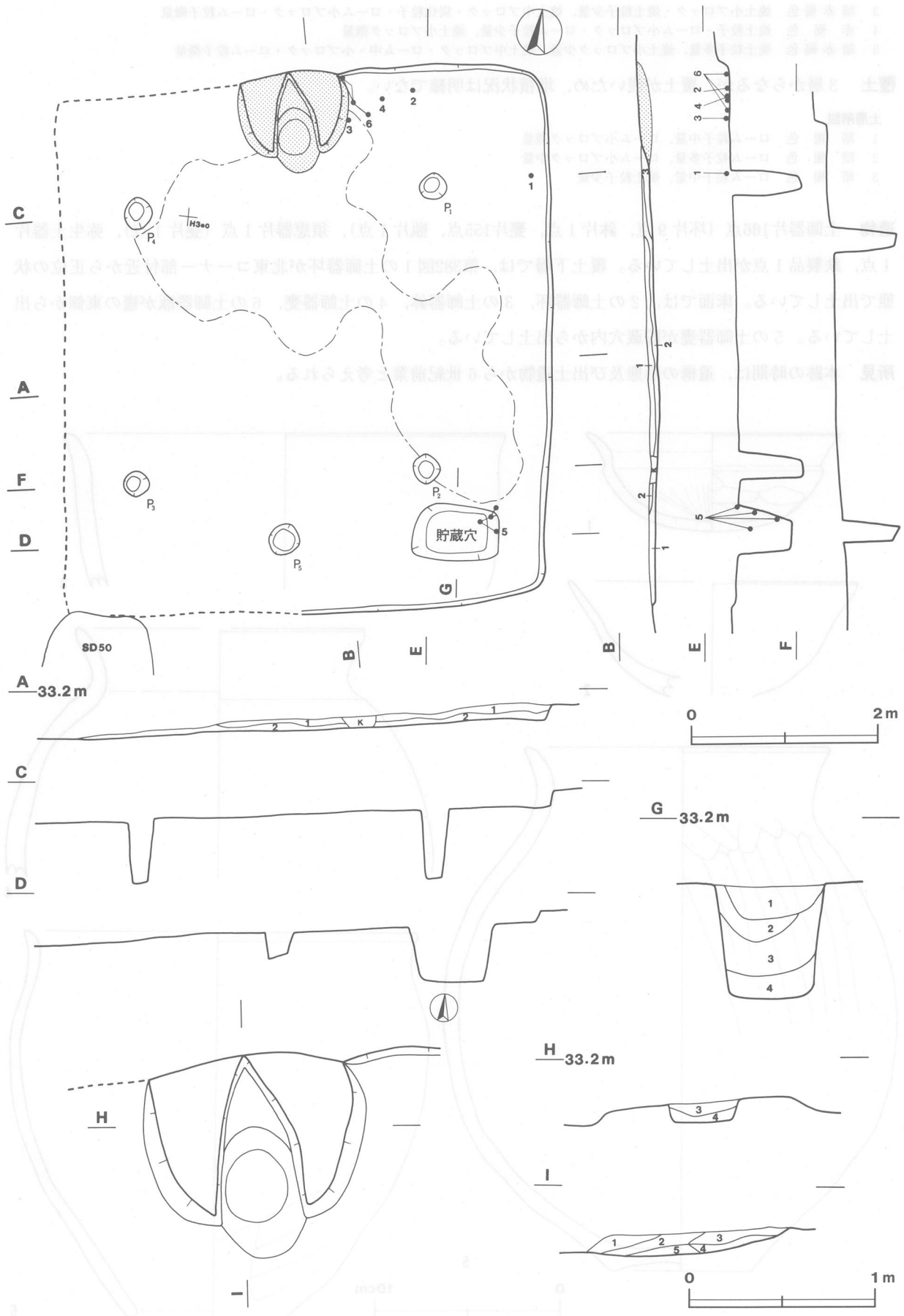
貯蔵穴土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量，ローム中・小ブロック微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子少量，ローム中・小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・ローム小ブロック微量

竈 北壁中央部に，砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は煙道部から焚き口部まで110cm，両袖最大幅119cm，壁外への掘り込みは8cmである。袖の内壁は，火熱を受けて赤変している。火床部は，床面をわずかに掘りくぼめており，火熱を受け赤変硬化している。煙道部は，外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化・ローム粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土・ローム粒子少量，焼土中・小ブロック・ローム中・小ブロック微量



第381図 第238号住居跡実測図

第382図 第238号住居跡出土物実測図

- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 焼土中ブロック・炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 赤褐色 焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子多量, 焼土小ブロック少量, 焼土中ブロック・ローム中・小ブロック・ローム粒子微量

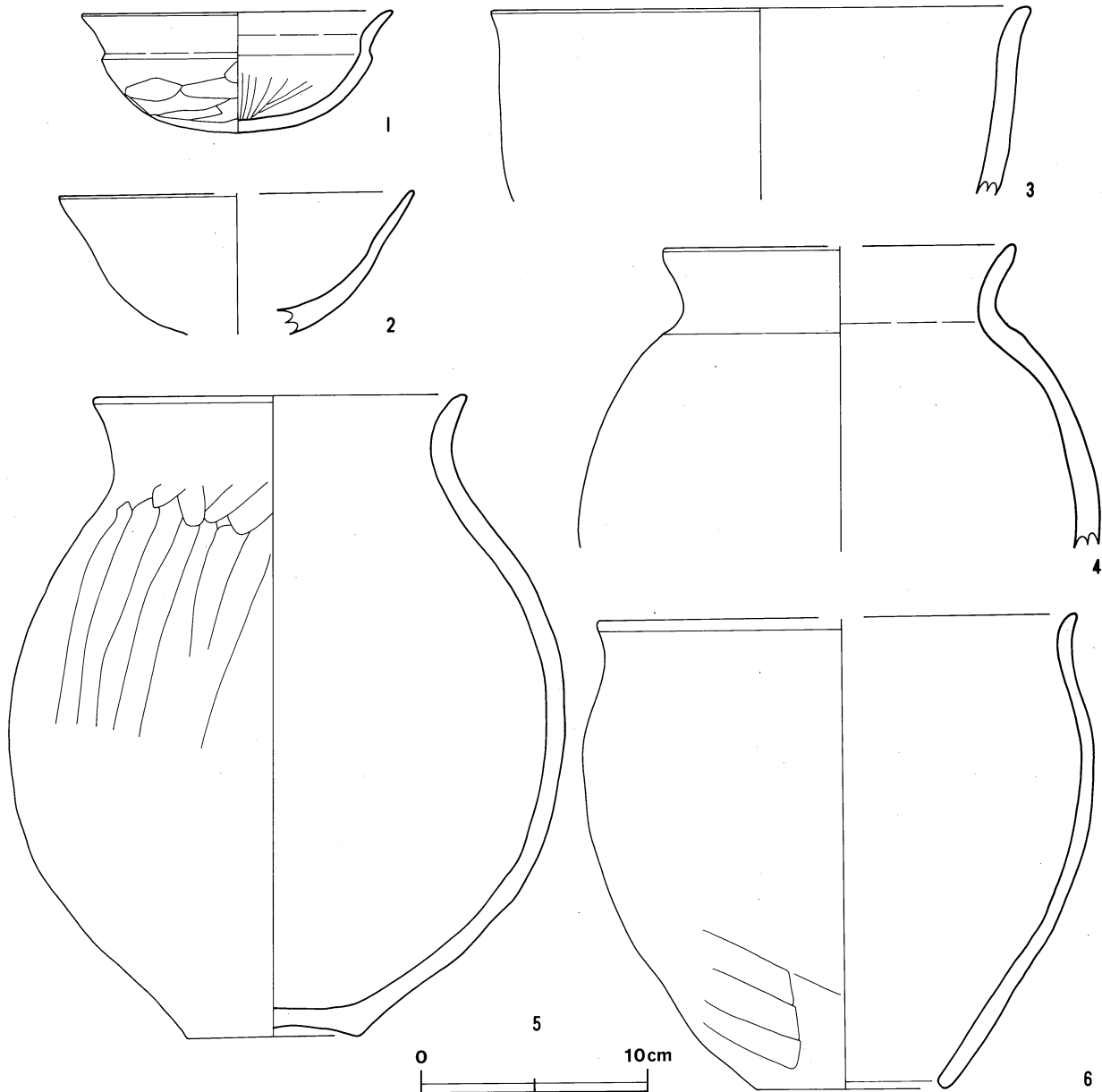
覆土 3層からなるが、覆土が浅いため、堆積状況は明確でない。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子少量

遺物 土師器片166点（坏片9点, 鉢片1点, 甕片155点, 甑片1点）; 須恵器片1点（甕片1点）, 弥生土器片1点, 鉄製品1点が出土している。覆土下層では、第382図1の土師器坏が北東コーナー部付近から正位の状態で出土している。床面では、2の土師器坏, 3の土師器鉢, 4の土師器甕, 6の土師器甑が竈の東側から出土している。5の土師器甕が貯蔵穴内から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀前葉と考えられる。



第382図 第238号住居跡出土遺物実測図

第238号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第282図 1	坏 土師器	A 13.7 B 5.4	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面放射状のへラ磨き。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P 1661 90% 覆土中 PL158 二次焼成
2	坏 土師器	A [15.6] B (6.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	口縁部横ナデ。体部内・外面器面荒れ。	長石・雲母 にぶい橙色 普通	P 1662 40% 床面 PL158 二次焼成
3	鉢 土師器	A 23.9 B (8.3)	体部から口縁部片。体部はわずかに内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P 1663 40% 床面 PL158
4	甕 土師器	A [15.6] B (13.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部内面ナデ。外面器面摩耗。	長石・石英・雲母 明赤褐色 不良	P 1664 30% 床面 PL158
5	甕 土師器	A 16.6 B 27.8 C [7.6]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P 1665 80% 貯蔵穴内 PL158
6	甗 土師器	A [21.2] B 20.9 C 8.2	底部から口縁部片。無底式。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P 1666 45% 覆土中 PL158

第240号住居跡 (第383図)

位置 調査区の南部，H 2 i 7 区。

規模と平面形 長軸5.37m，短軸 [5.20]m の方形である。

主軸方向 N-23°-W

壁 壁高は8～26cmで，外傾して立ち上がる。西壁は削平されている。

壁溝 削平された西側を除いて巡っている。上幅13～25cm，下幅5～10cm，深さ3～6cmで，断面形はU字状である。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット 5か所 (P1～P5)。P1～P4は，長径63～69cm，短径50～60cmの楕円形，深さ50～76cmである。規模と配列から支柱穴と考えられる。P5は長径26cm，短径23cmの楕円形，深さ14cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に，砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており，両袖部が残存している。規模は煙道部から焚き口部まで105cm，両袖最大幅146cm，壁外への掘り込みは20cmである。袖の内壁は，火熱を受けて赤変している。火床部は，床面を6cmほど掘りくぼめており，火熱を受けわずかに赤変硬化している。煙道部は，外傾して緩やかに立ち上がる。

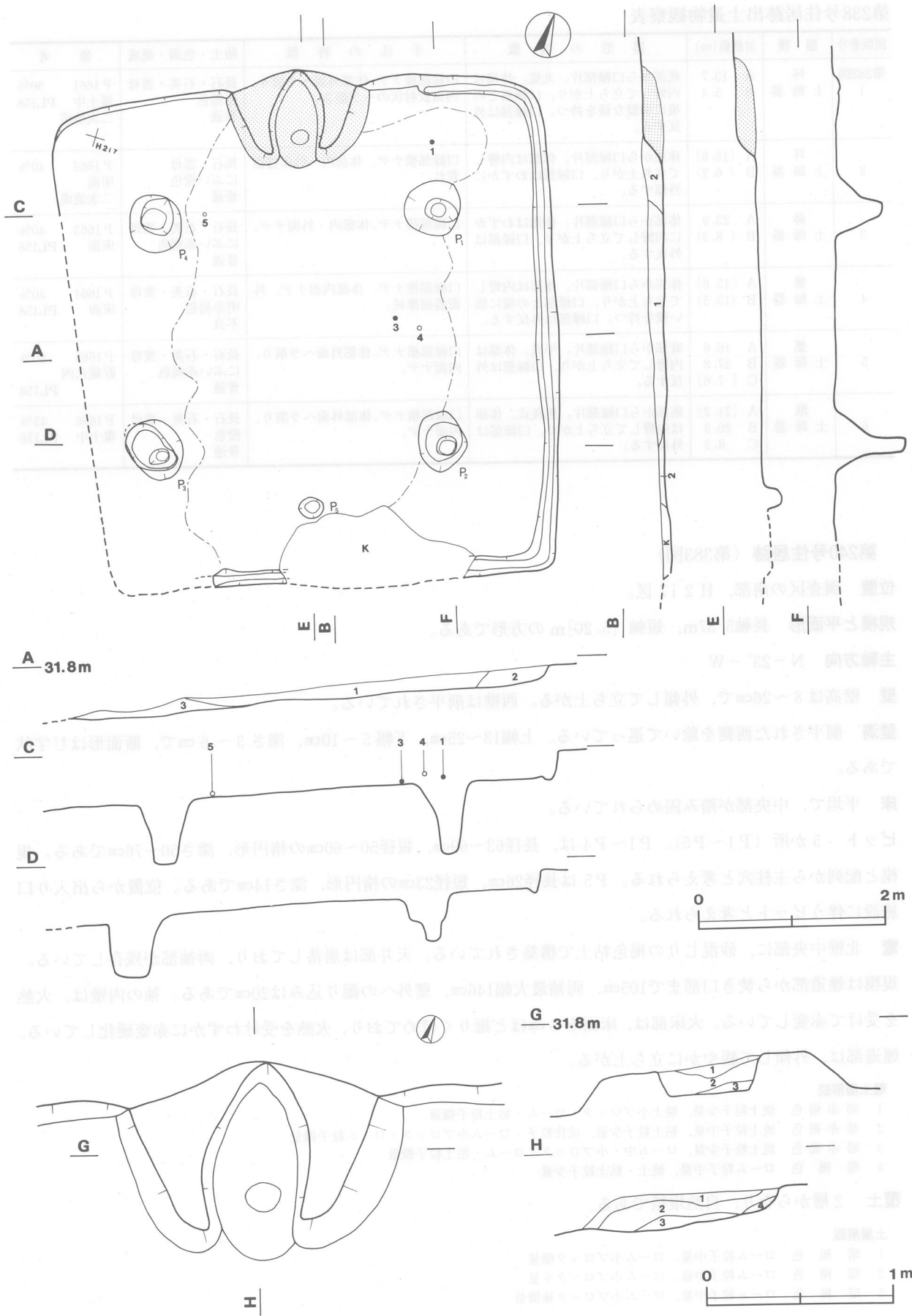
竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子少量，焼土小ブロック・ローム・粘土粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子中量，粘土粒子少量，炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子少量，ローム中・小ブロック・ローム・粘土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量，焼土・粘土粒子少量

覆土 2層からなり，自然堆積である。

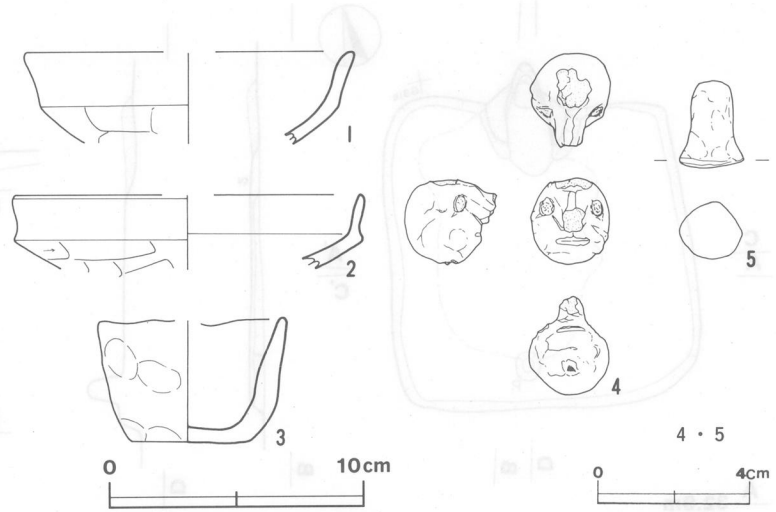
土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック極微量



第383図 第240号住居跡実測図

遺物 土師器片92点（坏片46点，甕片46点），土製品2点，縄文土器片1点，弥生土器片18点が出土している。覆土下層では，第384図1の土師器坏が北東コーナー部付近から，4の土製人形の頭部が中央部東側から出土している。床面では，3の土師器手捏土器が中央部東側から横位の状態で，5の土製ミニチュアの支脚が中央部北西側から出土している。覆土中では，2の土師器坏が出土している。



第384図 第240号住居跡出土遺物実測図

所見 本跡の時期は，遺構の形態及び出土遺物から6世紀前葉と考えられる。

第240号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第384図1	坏土師器	A [13.0] B (3.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	長石・石英・雲母にぶい橙色普通	P1669 10% 覆土中 二次焼成
2	坏土師器	A [13.8] B (2.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり，口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り，内面ナデ。	長石・石英・雲母にぶい黄橙色普通	P1670 10% 覆土中 二次焼成
3	手捏土器土師器	A [7.4] B 4.9 C [4.7]	底部から口縁部片。平底。体部はわずかに内彎して立ち上がり，口縁部は外傾する。	口縁部，体部内・外面ナデ。体部外面下端ヘラ削り。外面指頭痕。	長石・石英・雲母にぶい黄橙色普通	P1671 45% 床面

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		備	考	
4	土製人面	2.2	2.1	-	(9.8)	覆土中	DP1128	90%	PL171
5	支脚	2.3	1.7	-	4.2	床面	DP1129	100%	

第241号住居跡（第385図）

位置 調査区の南東部，G3j7区。

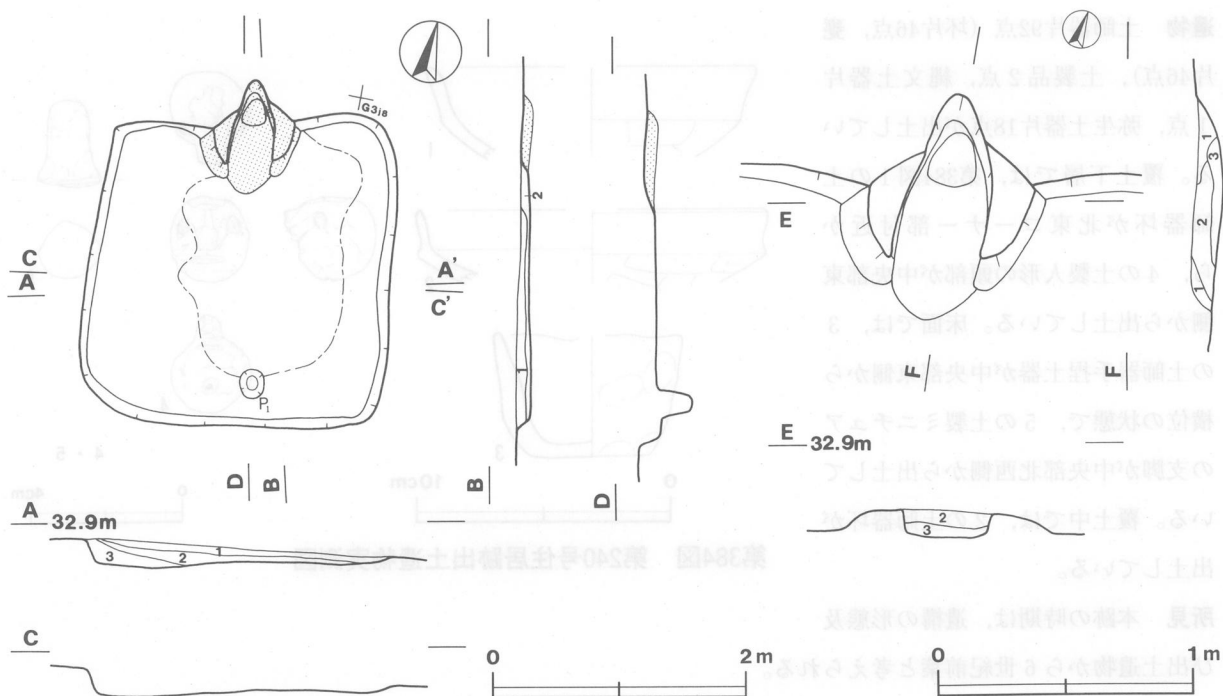
規模と平面形 長軸2.45m，短軸2.40mの方形である。

主軸方向 N-7°-W

壁 壁高は6~20cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦で，中央部が踏み固められている。

ピット 1か所（P1）。P1は，長径24cm，短径19cmの楕円形，深さ28cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。



第385図 第241号住居跡実測図

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は煙道部から焚き口部まで91cm、両袖最大幅75cm、壁外への掘り込みは37cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面を6cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子微量
- 2 暗褐色 焼土・ローム粒子少量、炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック中量、焼土粒子少量、炭化・ローム小ブロック・ローム粒子微量

覆土 3層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化物・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、焼土・炭化・ローム中ブロック微量

遺物 土師器片22点（甕片22点）、須恵器片4点（坏片2点、甕片2点）が出土しているが、ほとんどが細片であるため、図示できるものはない。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代と考えられる。

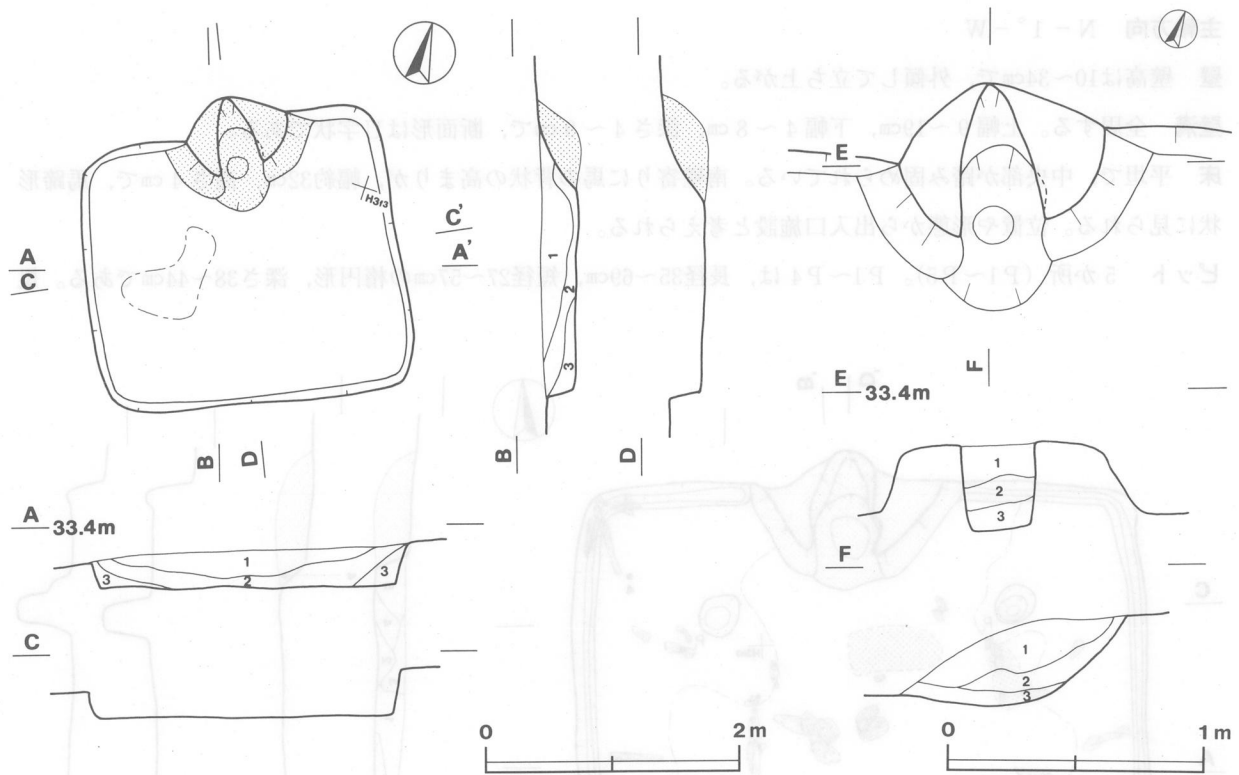
第242号住居跡（第386図）

位置 調査区の南部，H3f2区。

規模と平面形 長軸2.46m，短軸2.11mの長方形である。

主軸方向 N-27°-W

壁 壁高は22～36cmで、外傾して立ち上がる。



第386図 第242号住居跡実測図

床 平坦で、中央部の西側が一部踏み固められている。

竈 北西壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は煙道部から焚き口部まで90cm、両袖最大幅106cm、壁外への掘り込みは26cmである。袖の内壁は、火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は、床面を10cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土・ローム粒子少量、焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量

覆土 3層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、焼土・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

遺物 土師器片66点（坏片5点、甕片61点）、須恵器片1点（坏片1点）、弥生土器片1点、含鉄滓11gが出土しているが、ほとんどが細片であるため図示できるものはない。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から平安時代と考えられる。

第243号住居跡（第387図）

位置 調査区の南部，H 3 h2 区。

重複関係 本跡は、第50号溝によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.50m、短軸4.43m の方形である。

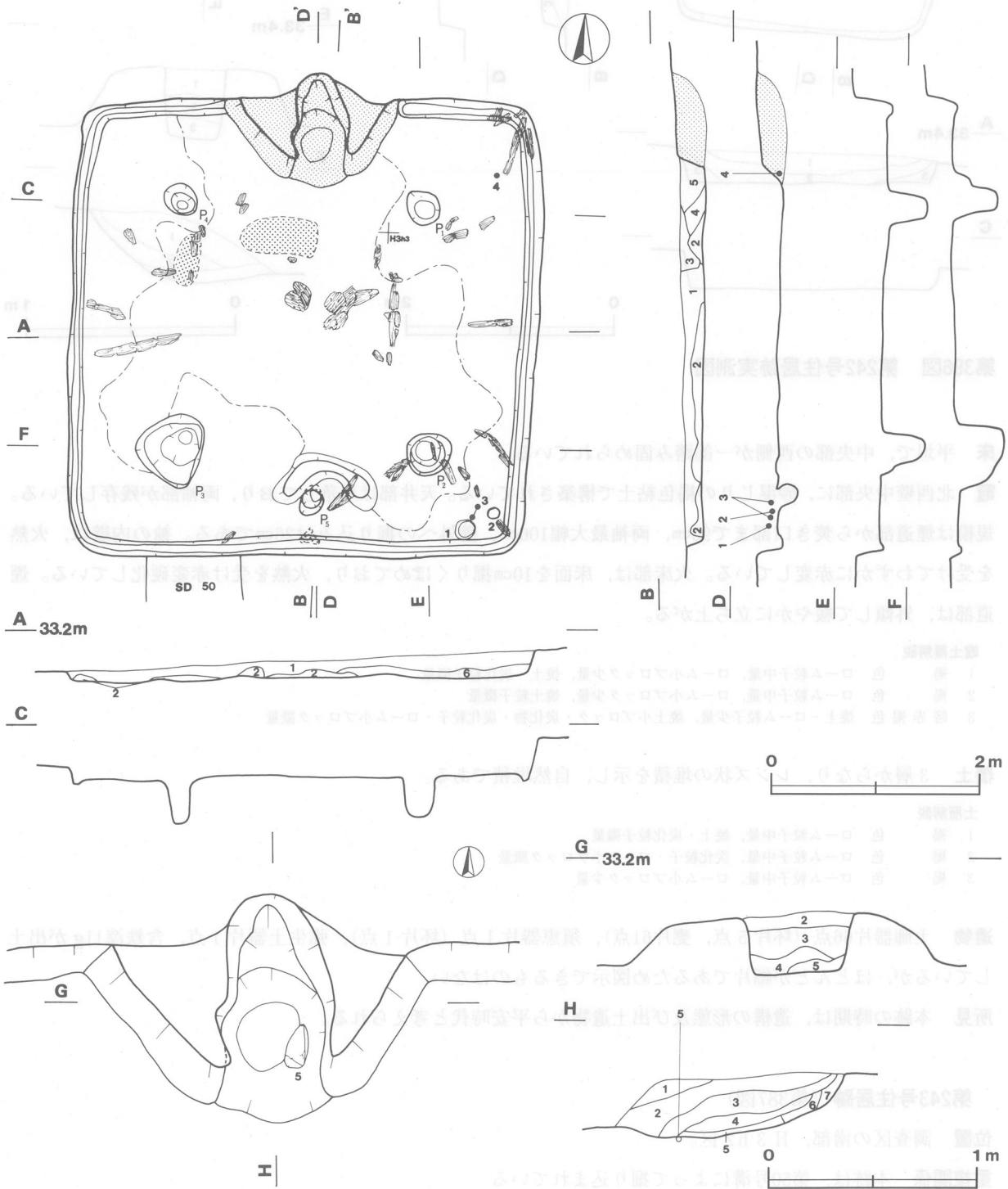
主軸方向 N-1°-W

壁 壁高は10~34cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅9~19cm、下幅4~8cm、深さ4~9cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。南壁寄りに馬の背状の高まりが、幅約32cm、高さ4cmで、馬蹄形状に見られる。位置や形態から出入口施設と考えられる。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は、長径35~69cm、短径27~57cmの楕円形、深さ38~44cmである。規



第387図 第243号住居跡実測図

横と配列から支柱穴と考えられる。P5は長径26cm、短径22cmの楕円形、深さ20cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は煙道部から焚き口部まで111cm、両袖最大幅142cm、壁外への掘り込みは28cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面を10cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。火床部の東側から倒れた状態で支脚が出土している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 粘土粒子少量、焼土・炭化粒子微量
- 2 褐色 粘土粒子中量、焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・粘土粒子少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 炭化材多量、炭化粒子中量、焼土粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土・炭化粒子中量、灰少量、炭化物微量
- 6 暗赤褐色 粘土粒子中量、焼土・炭化粒子少量
- 7 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化・粘土粒子少量、炭化物微量

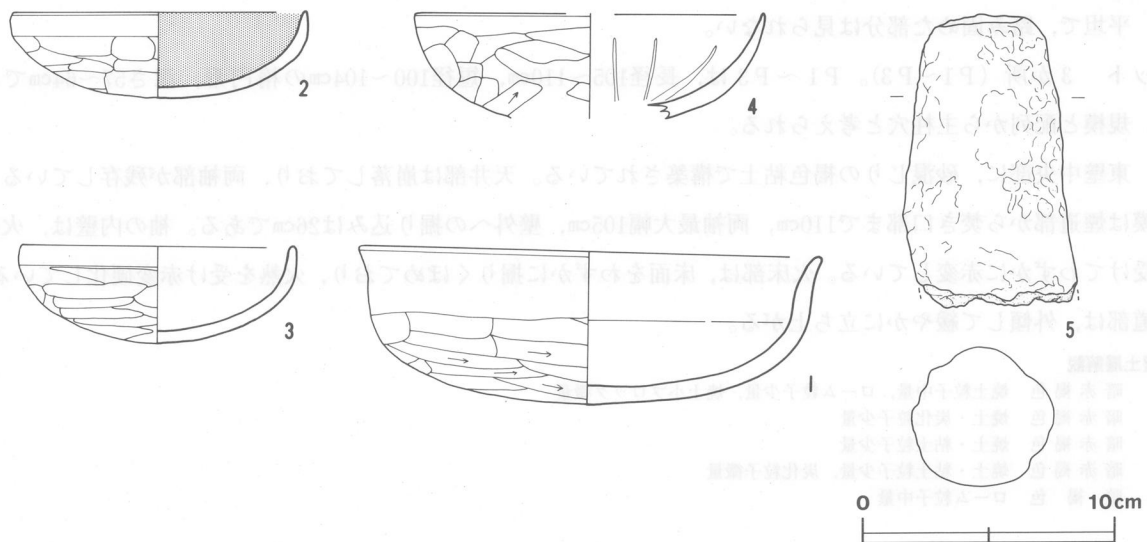
覆土 6層からなり、ロームブロックや焼土粒子を含む人為堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量
- 2 暗褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化材・ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・粘土粒子少量、焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

遺物 土師器片677点（坏片98点、高台付坏片17点、甕片562点）、弥生土器片22点、土製支脚1点が出土している。覆土下層では、第389図1、2の土師器坏が南東コーナー部から斜位の状態で、3の土師器坏が南東コーナー部から正位の状態で、4の土師器坏が北東コーナー部から出土している。5の土製支脚は、竈内から出土している。

所見 本跡は、覆土下層に焼土塊や炭化材がみられることや、その上にローム小ブロック・ローム粒子を含む層が堆積していることなどから焼失後埋め戻されたものと思われる。時期は、遺構の形態及び出土遺物から7世紀中葉と考えられる。



第388図 第243号住居跡出土遺物実測図

第243号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第389図 1	坏 土師器	A 18.3 B 6.2	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。内面一部器面荒れ。	長石・石英・雲母にぶい橙色普通	P1673 95% 覆土中 PL158
2	坏 土師器	A 11.4 B 3.3	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。内面黒色処理。	長石・石英・雲母黒褐色普通	P1674 95% 覆土中 PL158 二次焼成
3	坏 土師器	A 10.8 B 3.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母暗褐色普通	P1675 80% 覆土中 PL158 二次焼成
4	坏 土師器	A [13.7] B (4.1)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面放射状のヘラ磨き。	長石・石英・雲母橙色普通	P1676 25% 覆土中 二次焼成

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
5	支脚	(11.6)	6.5	-	(394.6)	竈内	DP1130 90%

第244 A号住居跡 (第389図)

位置 調査区の南部, I 3 a1 区。

規模と平面形 長軸 [6.77]m, 短軸 (5.78)m で方形と推定される。南壁は調査区域外に延び、西側の3分の1は削平されている。

主軸方向 N-86°-W

壁 壁高は12~27cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁下から東壁下にかけて巡っている。上幅15~29cm, 下幅4~12cm, 深さ4~14cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、踏み固めた部分は見られない。

ピット 3か所 (P1~P3)。P1~P3は、長径105~110cm, 短径100~104cmの楕円形、深さ57~64cmである。規模と配列から支柱穴と考えられる。

竈 東壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は煙道部から焚き口部まで110cm, 両袖最大幅105cm, 壁外への掘り込みは26cmである。袖の内壁は、火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

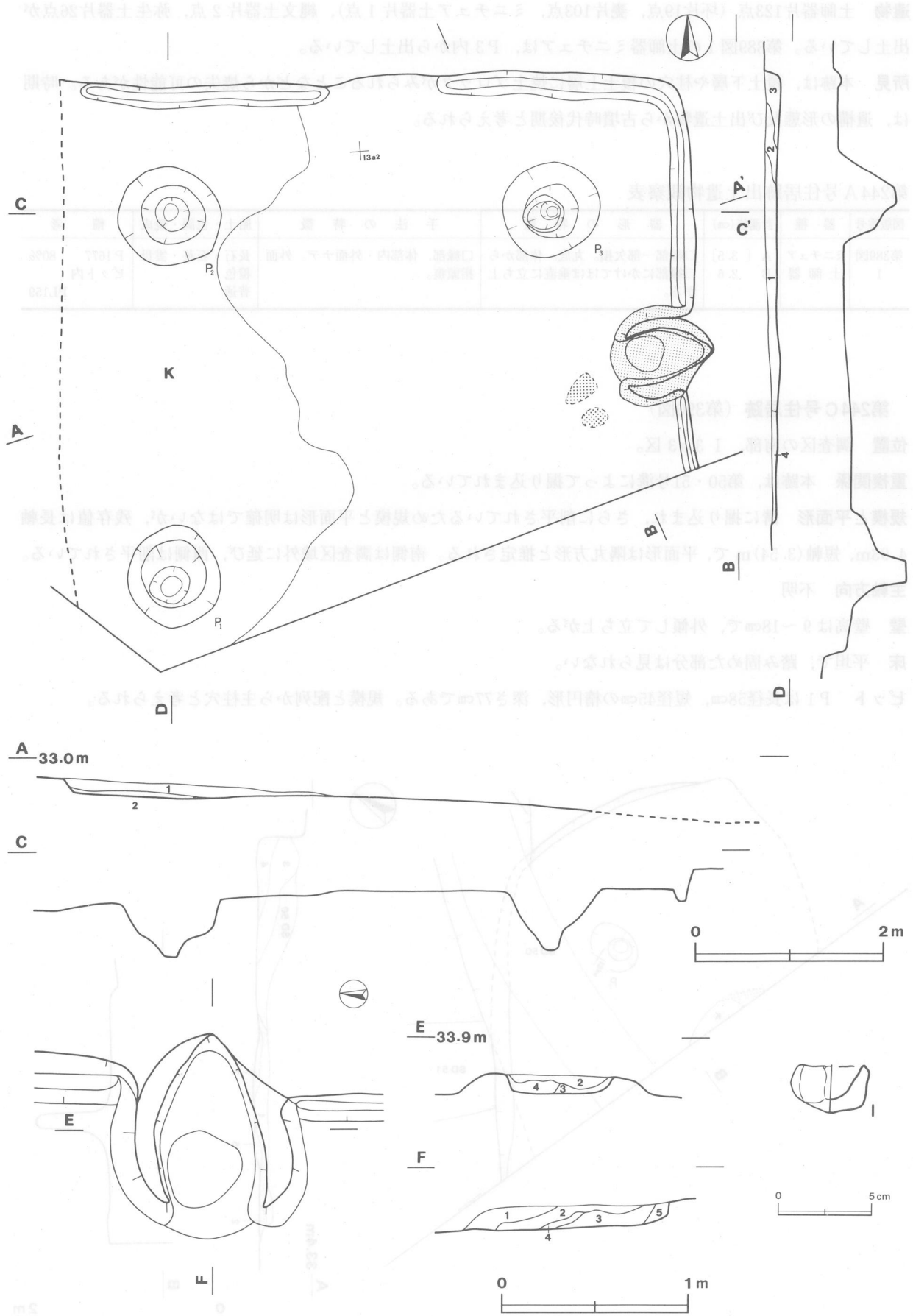
竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 2 暗赤褐色 焼土・炭化粒子少量
- 3 暗赤褐色 焼土・粘土粒子少量
- 4 暗赤褐色 焼土・粘土粒子少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量

覆土 4層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量



第389図 第244号住居跡・出土遺物実測図

遺物 土師器片123点（坏片19点，甕片103点，ミニチュア土器片1点），縄文土器片2点，弥生土器片26点が出土している。第389図1の土師器ミニチュアは，P3内から出土している。

所見 本跡は，覆土下層や柱穴の覆土上層に焼土ブロックがみられることなどから焼失の可能性がある。時期は，遺構の形態及び出土遺物から古墳時代後期と考えられる。

第244A号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第389図 1	ミニチュア 土師器	A [3.5] B 2.6	口縁部一部欠損。丸底。体部から口縁部にかけてほぼ垂直に立ち上がる。	口縁部，体部内・外面ナデ。外面指頭痕。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P1677 80% ピット内 PL159

第244C号住居跡（第390図）

位置 調査区の南部，I 3 a3区。

重複関係 本跡は，第50・51号溝によって掘り込まれている。

規模と平面形 溝に掘り込まれ，さらに削平されているため規模と平面形は明確ではないが，残存値は長軸4.93m，短軸(3.54)mで，平面形は隅丸方形と推定される。南側は調査区域外に延び，西側は削平されている。

主軸方向 不明

壁 壁高は9～18cmで，外傾して立ち上がる。

床 平坦で，踏み固めた部分は見られない。

ピット P1は長径58cm，短径45cmの楕円形，深さ77cmである。規模と配列から支柱穴と考えられる。



第390図 第244C号住居跡実測図

炉 調査区域外及んでおり、さらに根による攪乱もうけているため規模と平面形は明確ではない。確認範囲は長径32cm、短径20cmの楕円形で、床面をわずかに掘りくぼめた地床炉である。炉床面は、火熱を受け赤変硬化している。

覆土 4層からなり、自然堆積である。第5層は炉の土層である。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子少量（炉土層）

遺物 弥生土器片5点が出土しているが、ほとんどが細片であるため図示できるものはない。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から弥生時代と考えられる。

第245号住居跡（第391図）

位置 調査区の南東部、H3g4区。

重複関係 本跡が、第246号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸3.27m、短軸2.93mの長方形である。

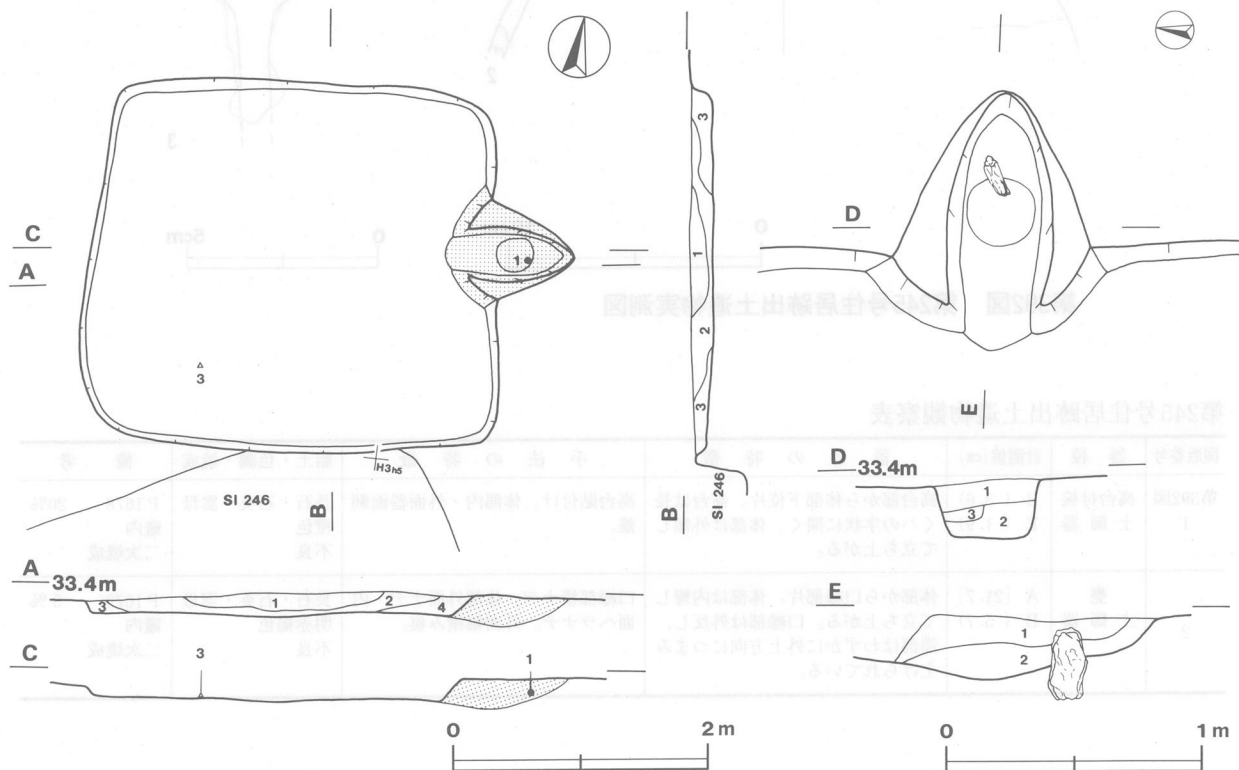
主軸方向 N-84°-E

壁 壁高は7~18cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、踏み固めた部分は見られない。

竈 東壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。

規模は煙道部から焚き口部まで102cm、両袖最大幅97cm、壁外への掘り込みは67cmである。袖の内壁は、火熱



第391図 第245号住居跡実測図

を受けてわずかに赤変している。火床部は、床面を8cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。支脚に使用された雲母片岩が直立した状態で火床部に設置されている。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

電土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック少量, 焼土粒子・炭化物微量
- 2 暗褐色 焼土中・小ブロック・焼土・粘土粒子微量
- 3 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量, ローム・粘土粒子微量

覆土 5層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

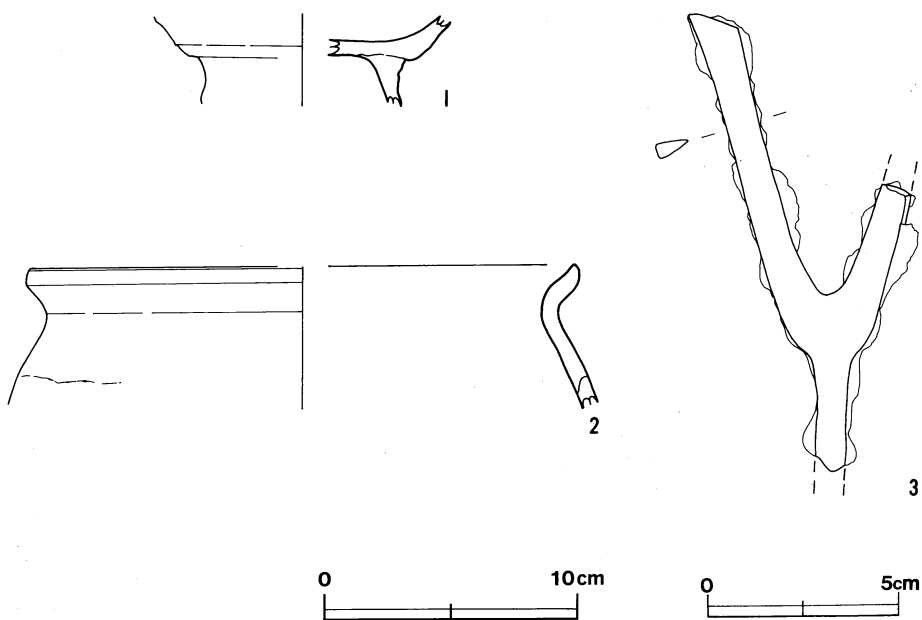
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量

遺物 土師器片130点（坏片11点, 高台付碗片1点, 甕片118点）, 須恵器片6点（坏片5点, 甕片1点）, 弥生土器片7点, 鉄製品1点が出土している。床面では、第392図3の鉄鏃が中央部南西側から出土している。

1の土師器高台付碗, 2の土師器甕は竈内から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から10世紀前葉と考えられる。



第392図 第245号住居跡出土遺物実測図

第245号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第392図 1	高台付碗 土師器	B (3.6) E (1.9)	高台部から体部下位片。高台は長くハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	高台貼付け。体部内・外面器面剝離。	長石・石英・雲母 橙色 不良	P 1678 20% 竈内 二次焼成
2	甕 土師器	A [21.7] B (5.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、端部はわずかに外上方向につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面ナデ, 内面ヘラナデ。外面輪積み痕。	長石・石英・雲母 明赤褐色 不良	P 1679 5% 竈内 二次焼成

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		備	考	
第392図3	鉄 鍍	(12.1)	(5.9)	0.4	(22.0)	床 面	M1030	95%	PL179

第246号住居跡 (第393図)

位置 調査区の南東部, H 3 h4 区。

重複関係 本跡は, 第245号住居跡によって掘り込まれている。

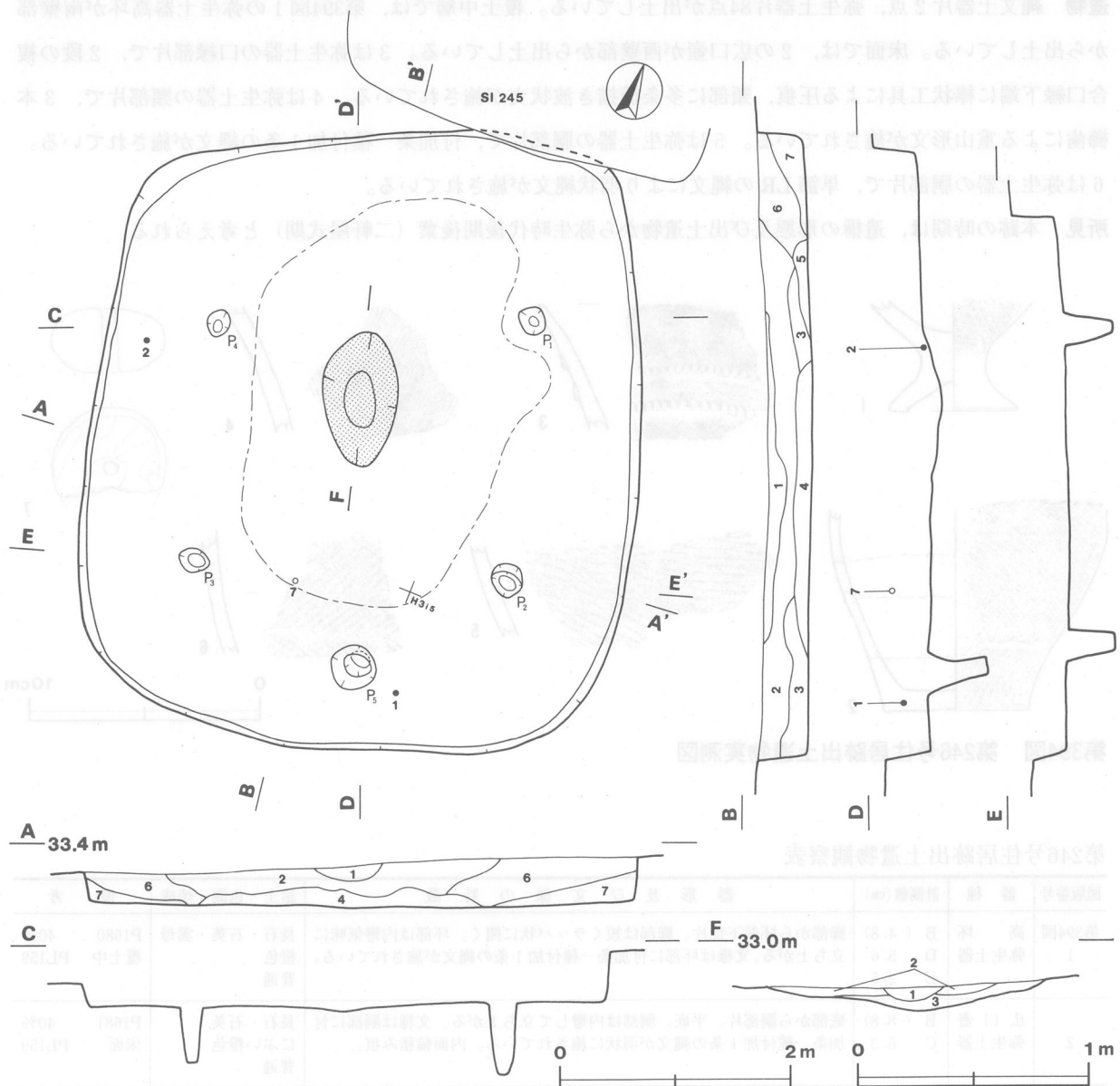
規模と平面形 長軸5.12m, 短軸4.76mの隅丸長方形である。

主軸方向 N-22°-W

壁 壁高は24~43cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 中央部は踏み固められている。

ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は, 長径24~29cm, 短径20~25cmの楕円形, 深さ38~62cmである。規



第393図 第246号住居跡実測図

模と配列から支柱穴と考えられる。P5 は径40cmの円形、深さ52cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

炉 中央部に位置し、長径116cm、短径66cmの楕円形で、床面を11cm掘りくぼめた地床炉である。炉床面は、火熱を受け赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子多量、焼土小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、焼土・炭化・ローム小ブロック微量
- 3 赤褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック少量、焼土粒子微量

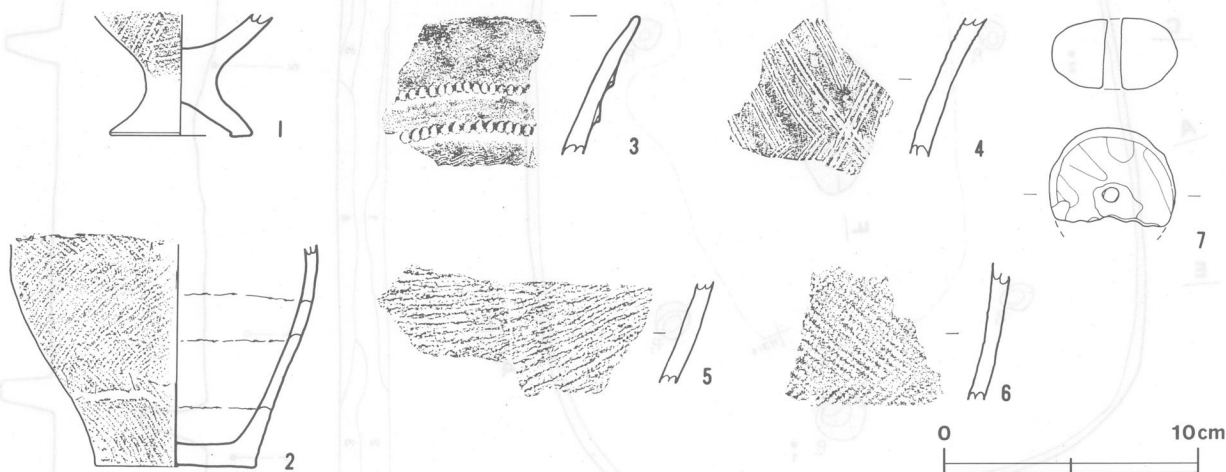
覆土 7層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 炭化・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物・ローム小ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量、焼土・炭化粒子・ローム大ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、炭化粒子微量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 6 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 7 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量

遺物 縄文土器片2点、弥生土器片84点が出土している。覆土中層では、第394図1の弥生土器高坏が南壁部から出土している。床面では、2の広口壺が西壁部から出土している。3は弥生土器の口縁部片で、2段の複合口縁下端に棒状工具による圧痕、頸部に多条櫛描き波状文が施されている。4は弥生土器の頸部片で、3本櫛歯による重山形文が施されている。5は弥生土器の胴部片で、付加条一種付加1条の縄文が施されている。6は弥生土器の胴部片で、単節LRの縄文により羽状縄文が施されている。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から弥生時代後期後葉（二軒屋式期）と考えられる。



第394図 第246号住居跡出土遺物実測図

第246号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第394図 1	高坏 弥生土器	B (4.8) D 5.6 E 2.5	脚部から坏部下位片。脚部は短くラッパ状に開く。坏部は内彎気味に立ち上がる。文様は坏部に付加条一種付加1条の縄文が施されている。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P1680 40% 覆土中 PL159
2	広口壺 弥生土器	B (8.8) C 6.3	底部から胴部片。平底。胴部は内彎して立ち上がる。文様は胴部に付加条一種付加1条の縄文が羽状に施されている。内面輪積み痕。	長石・石英 にぶい橙色 普通	P1681 40% 床面 PL159

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考			
		径 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)		備	考		
第394図7	紡錘車	2.8	4.9	0.6	(57.6)	覆土中	DP1131	全面へら削り	70%	PL171

第247号住居跡 (第395図)

位置 調査区の南東部, H 3 e 8 区。

規模と平面形 長軸3.37m, 短軸3.23m の方形である。

主軸方向 N-88°-E

壁 壁高は6~22cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 中央部は踏み固められている。

竈 東壁中央部に, 砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は煙道部から焚き口部まで76cm, 両袖最大幅96cm, 壁外への掘り込みは16cmである。袖の内壁は, 火熱を受けてわずかに赤変している。火床部は, 床面を4cm掘りくぼめており, 火熱を受けわずかに赤変硬化している。煙道部は, 外傾して緩やかに立ち上がる。

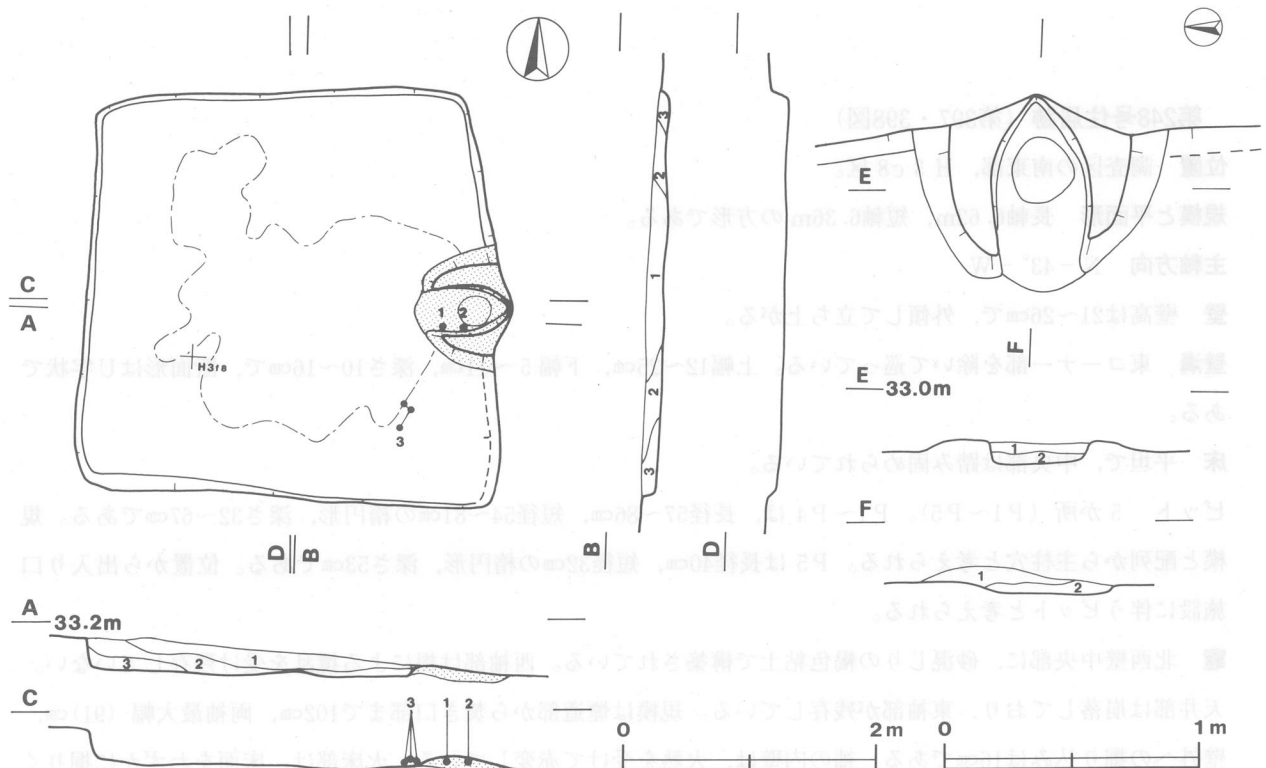
竈土層解説

- 1 黒褐色 焼土・ローム粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土・粘土粒子少量

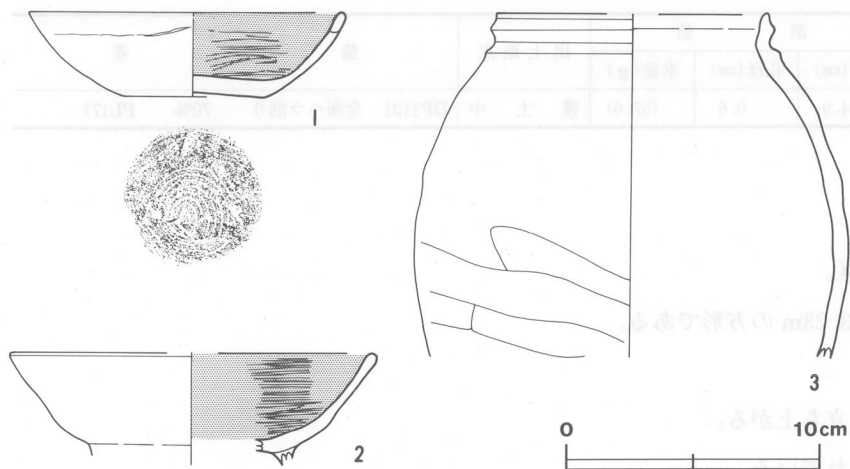
覆土 3層からなり, レンズ状の堆積を示し, 自然堆積である。

土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化物・ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量



第395図 第247号住居跡実測図



第396図 第247号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片56点(坏片15点, 高台付碗片3点, 甕片38点), 須恵器片2点(坏蓋片2点), 弥生土器片9点が出土している。覆土下層では, 第396図3の土師器甕が南東コーナー部付近から出土している。1の土師器坏, 2の高台付碗は, 竈内から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から9世紀後葉と考えられる。

第247号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第396図 1	坏 土師器	A [12.4] B 3.4 C 5.5	底部から口縁部片。平底。体部から口縁部にかけては内彎して立ち上がる。	口縁部, 体部ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。底面回転糸切り後, 周縁手持ちヘラ削り。内面黒色処理。外面輪積み痕。	長石・石英・雲母にぶい赤褐色普通	P1682 30% 竈内 PL159 二次焼成
2	高台付碗 土師器	A [14.4] B (4.4)	体部から口縁部片。体部から口縁部にかけては外傾して立ち上がる。	口縁部, 体部ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。高台貼付け。内面黒色処理。	長石・石英・雲母にぶい褐色普通	P1683 20% 竈内 二次焼成
3	甕 土師器	A [10.6] B (13.6)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は短く外反し, 端部は外上方向につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ, 内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 橙色普通	P1684 20% 覆土中

第248号住居跡 (第397・398図)

位置 調査区の南東部, H3c8区。

規模と平面形 長軸6.62m, 短軸6.36mの方形である。

主軸方向 N-43°-W

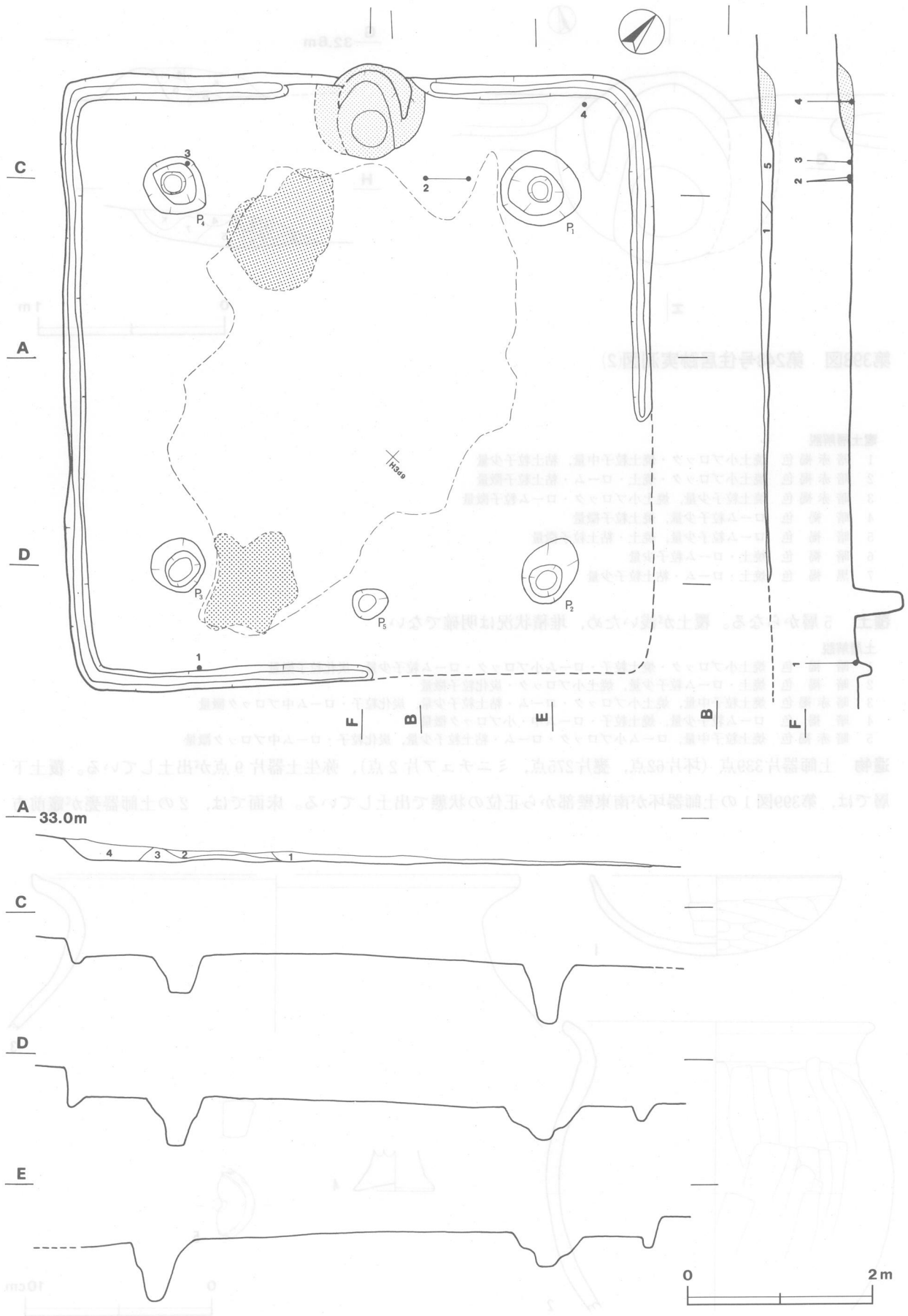
壁 壁高は21~26cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 東コーナー部を除いて巡っている。上幅12~25cm, 下幅5~11cm, 深さ10~16cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部は踏み固められている。

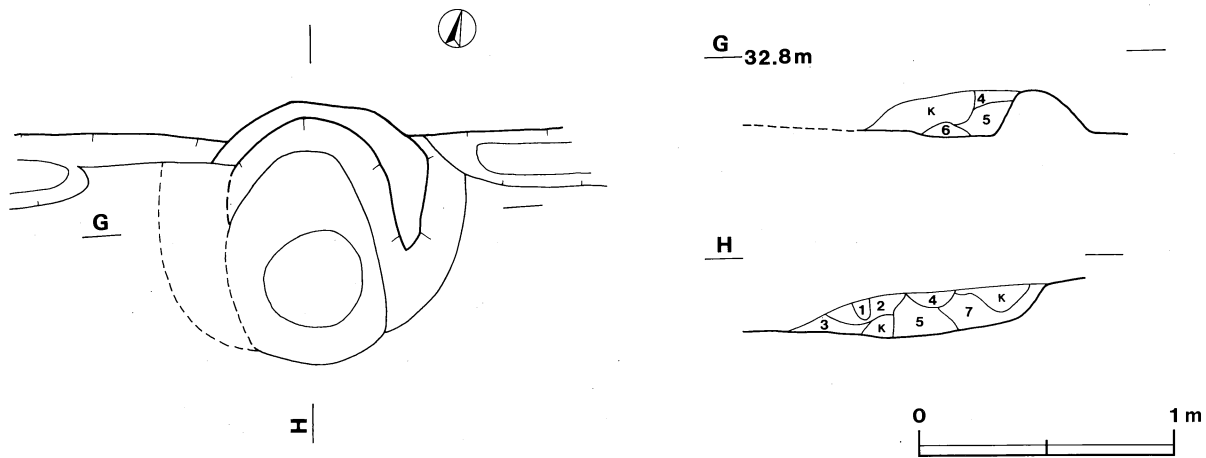
ピット 5か所 (P1~P5)。P1~P4は, 長径57~86cm, 短径54~81cmの楕円形, 深さ32~67cmである。規模と配列から支柱穴と考えられる。P5は長径40cm, 短径32cmの楕円形, 深さ53cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北西壁中央部に, 砂混じりの褐色粘土で構築されている。西袖部は根による攪乱を受け残存していない。天井部は崩落しており, 東袖部が残存している。規模は煙道部から焚き口部まで102cm, 両袖最大幅(91)cm, 壁外への掘り込みは16cmである。袖の内壁は, 火熱を受けて赤変している。火床部は, 床面をわずかに掘りくぼめており, 火熱を受けわずかに赤変硬化している。煙道部は, 外傾して緩やかに立ち上がる。



第397図 第248号住居跡実測図(1)

第398図 第248号住居跡実測図(2)



第398図 第248号住居跡実測図(2)

竈土層解説

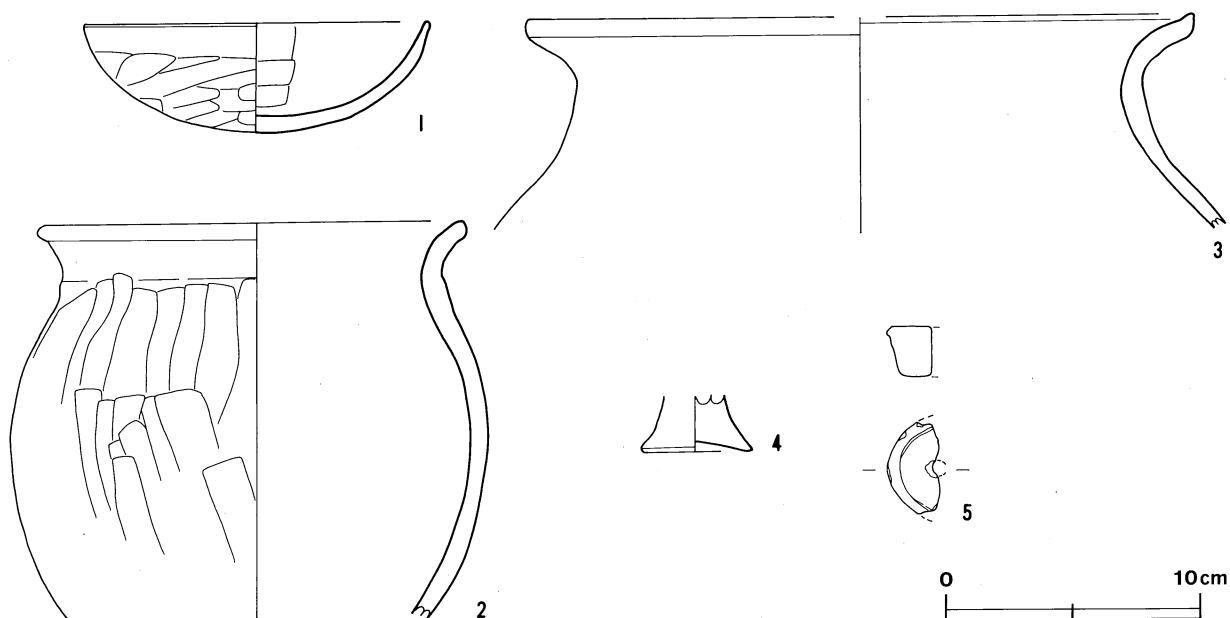
- 1 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量，粘土粒子少量
- 2 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土・ローム・粘土粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子少量，焼土小ブロック・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量，焼土・粘土粒子微量
- 6 暗褐色 焼土・ローム粒子少量
- 7 黒褐色 焼土・ローム・粘土粒子少量

覆土 5層からなる。覆土が浅いため，堆積状況は明確でない。

土層解説

- 1 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量
- 2 暗褐色 焼土・ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量，焼土小ブロック・ローム・粘土粒子少量，炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・ローム中・小ブロック微量
- 5 暗赤褐色 焼土粒子中量，ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量，炭化粒子・ローム中ブロック微量

遺物 土師器片339点(坏片62点，甕片275点，ミニチュア片2点)，弥生土器片9点が出土している。覆土下層では，第399図1の土師器坏が南東壁部から正位の状態で出土している。床面では，2の土師器甕が竈前方



第399図 第248号住居跡出土遺物実測図

部から、3の土師器甕が中央部西側から、4の土師器ミニチュアの高坏が北コーナー部から出土している。覆土中では、5の土製紡錘車が出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から7世紀前葉と考えられる。

第248号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第399図 1	坏 土師器	A 13.6 B 4.3	体部から口縁部片。丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母・スコリアにぶい橙色普通	P 1685 80% 覆土中 PL159
2	甕 土師器	A 16.8 B (15.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母にぶい橙色普通	P 1686 70% 床面 PL159 外面煤付着
3	甕 土師器	A [26.4] B (13.5)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、端部はわずかに外上方向につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母明赤褐色普通	P 1687 10% 床面 二次焼成
4	ミニチュア 高坏 土師器	D 4.4 E (3.2)	脚部片。脚部はハの字状に開く。	脚部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母赤褐色普通	P 1688 30% 床面 PL159 二次焼成

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		径(cm)	厚さ(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
5	紡錘車	2.1	[4.1]	[0.5]	(16.5)	覆土中	DP1132 50%

第249号住居跡 (第400図)

位置 調査区の南東部，H 4 d1 区。

重複関係 本跡は、第178、250号土坑によって掘り込まれている。

規模と平面形 北東側の半分は削平されており規模と平面形は明確ではないが、残存する壁から一辺が約5.16mの方形と推定される。

主軸方向 N-12°-W

壁 壁高は5~13cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 南西コーナー部から南壁下にかけて巡っている。上幅17~25cm，下幅5~9cm，深さ58~60cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

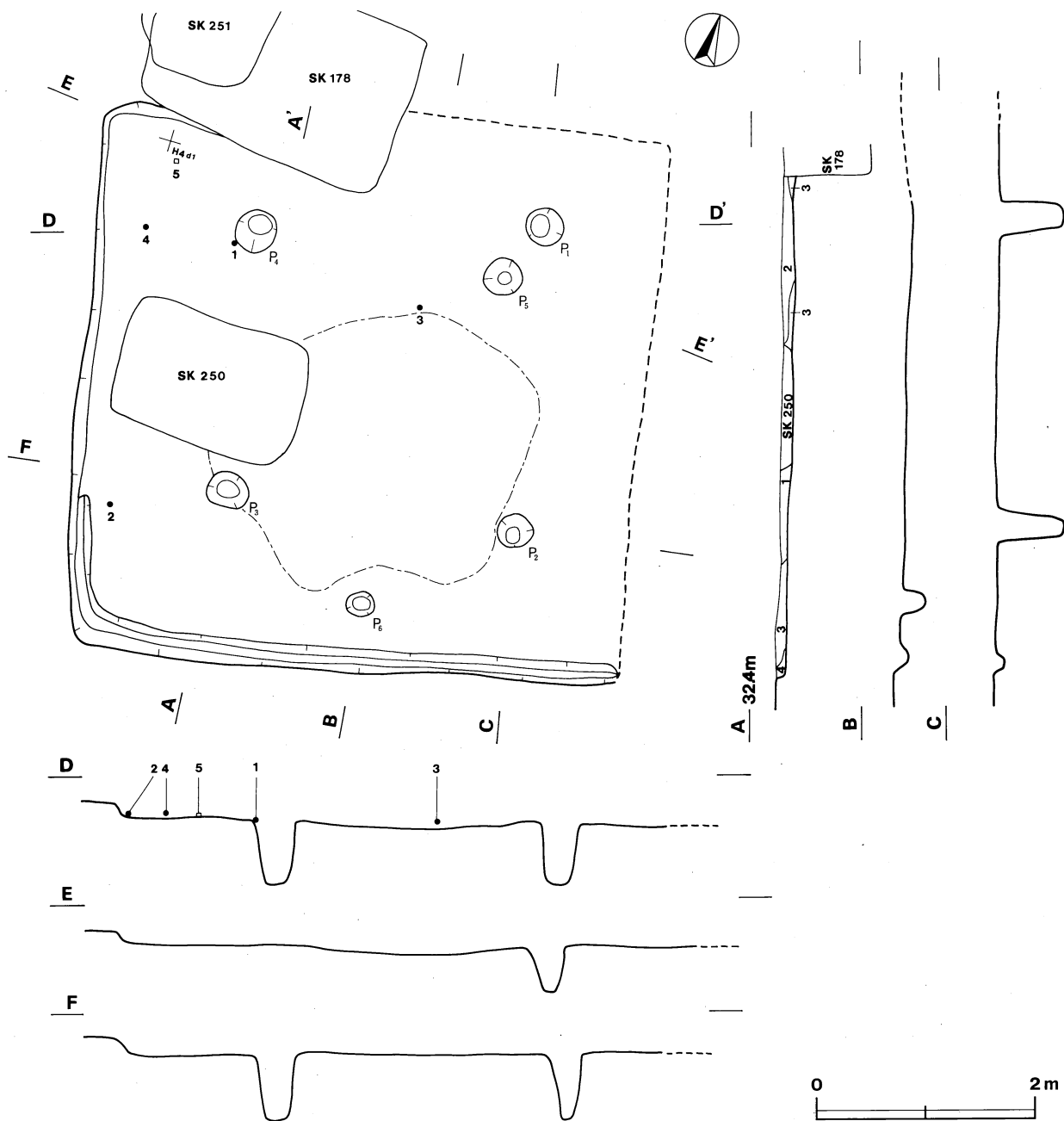
ピット 6か所 (P1~P6)。P1~P4は、長径32~39cm，短径31~37cmの楕円形，深さ58~60cmである。規模と配列から支柱穴と考えられる。P5は径36cmの円形，深さ42cmである。位置から補助柱穴と考えられる。

P6は径25cm，深さ22cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土 4層からなる。覆土が浅いため、堆積状況は明確でない。

土層解説

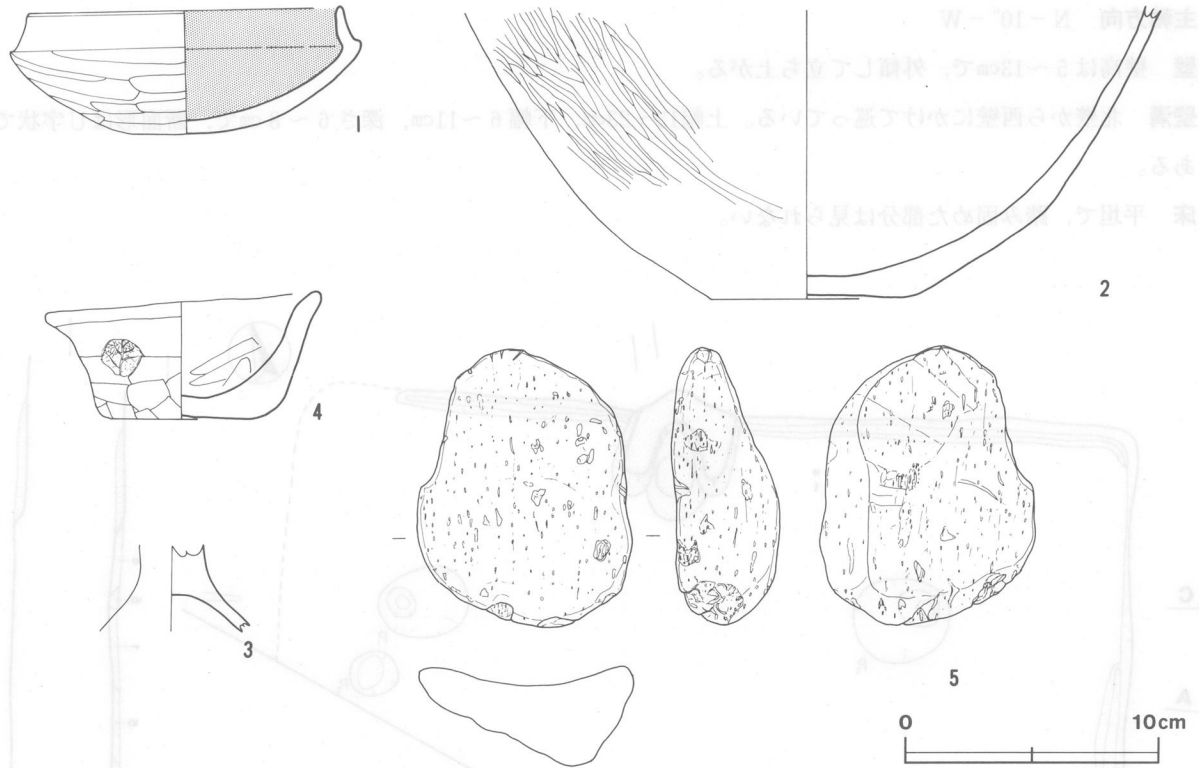
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，炭化物微量



第400図 第249号住居跡実測図

遺物 土師器片 8 点(坏片 2 点, 甕片 5 点, ミニチュア片 1 点), 弥生土器片 1 点, 軽石 1 点が出土している。覆土下層では, 第401図 4 の土師器坏が北西コーナー部付近から逆位の状態で, 3 の土師器ミニチュアの高坏が中央部北東側から出土している。床面では, 1 の土師器坏が中央部北西側から正位の状態で, 2 の土師器甕が南西コーナー部付近から出土している。覆土中では, 5 の軽石が出土している。

所見 本跡の竈は第178号土坑によって壊されたものと思われる。時期は, 遺構の形態及び出土遺物から 6 世紀後葉と考えられる。



第401図 第249号住居跡出土遺物実測図

第249号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第401図 1	坏 土師器	A 12.3 B 4.8	口縁部一部欠損。丸底。体部は内 彎して立ち上がり、口縁部との境 に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾 する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、 内面ナデ。内面黒色処理。	長石・石英・雲母・ スコリア 橙色 普通	P 1689 95% 床面 PL159 二次焼成
2	甕 土師器	B (11.4) C 7.7	底部から体部下位片。平底。体部 は内彎して立ち上がる。	体部内面ナデ、外面ヘラ磨き。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P 1691 10% 床面
3	ミニチュア 高坏 土師器	B (3.5)	脚部片。脚部はハの字状に開く。	脚部内・外面ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 1692 5% 覆土中 二次焼成
4	手捏土器 土師器	A 10.9 B 5.0 C 5.5	口縁部一部欠損。平底。体部は外 傾して立ち上がり、口縁部は外傾 する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、 内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母 暗灰黄色 普通	P 1690 95% 覆土中 PL159

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	高さ(cm)	重量(g)				
5	軽石	11.0	8.6	3.9	30.5	流紋岩	覆土中	Q1031	PL175

第250号住居跡 (第402図)

位置 調査区の南東部, H 4 f 1 区。

重複関係 本跡は, 第51号溝によって掘り込まれている。

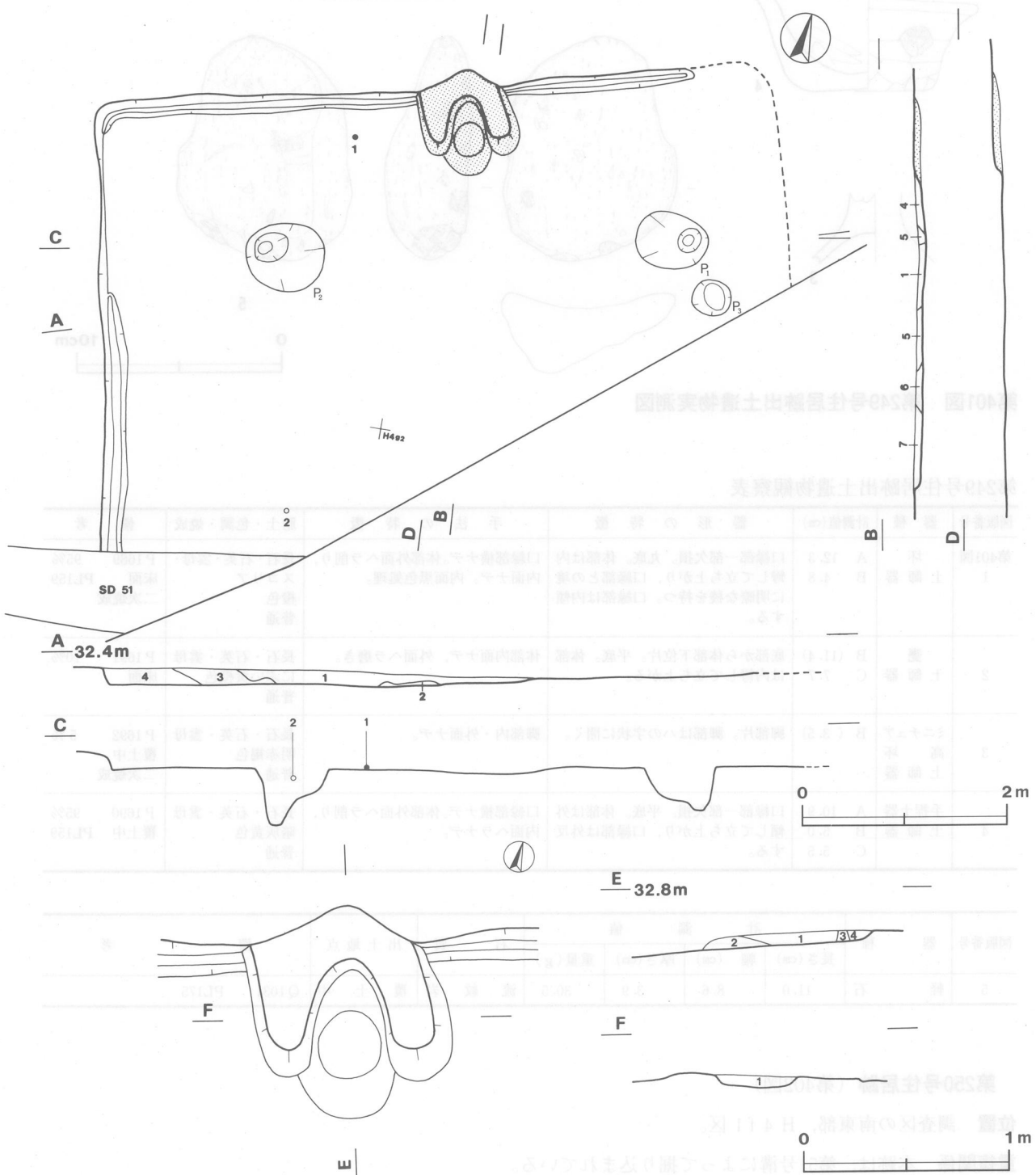
規模と平面形 南側は調査区域外に延び, 東側は斜面部で削平されている。そのため規模と平面形は明確ではないが, 残存する壁から一辺が約7.0m の方形と推定される。

主軸方向 N-10°-W

壁 壁高は5~13cmで、外傾して立ち上がる。

壁溝 北壁から西壁にかけて巡っている。上幅13~23cm, 下幅6~11cm, 深さ6~8cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、踏み固めた部分は見られない。



第402図 第250号住居跡実測図

ピット 3か所 (P1~P3)。P1~P2は、長径70~76cm, 短径53~67cmの楕円形, 深さ45~66cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。P3は径40cmの円形, 深さ20cmである。位置から補助柱穴と考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。煙道上部は、斜面部のため削平されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は煙道部から焚き口部まで102cm, 両袖最大幅95cm, 壁外への掘り込みは18cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土中・小ブロック・焼土・粘土粒子少量, 炭化・ローム粒子微量
- 2 明褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 3 明黄褐色 粘土粒子多量
- 4 暗褐色 焼土・炭化・ローム粒子微量

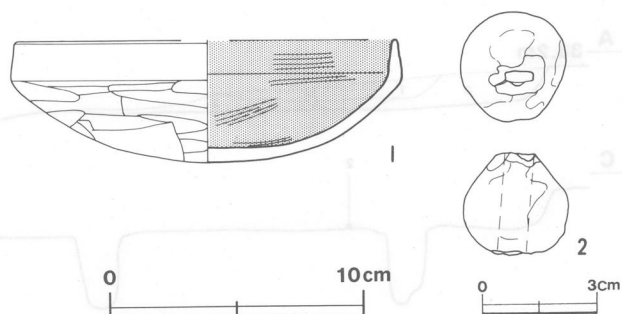
覆土 7層からなる。掘り込みが浅いため、堆積状況は明確でない。

土層解説

- 1 暗褐色 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土・ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子・ローム大・中ブロック微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム中ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片88点 (坏片34点, 甕片54点), 縄文土器片1点, 弥生土器片14点, 土玉1点が出土している。床面では第403図1の土師器坏が竈の西側から, 2の土玉が中央部南西側から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀後葉と考えられる。



第403図 第250号住居跡出土遺物実測図

第250号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第403図 1	坏 土師器	A [15.1] B 4.8	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部外面ナデ, 内面ヘラ磨き。体部外面ヘラ削り, 内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	長石・石英・雲母に ぶい橙色 普通	P1693 50% 床面 PL159 二次焼成

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		備	考	
2	土玉	2.7	2.8	0.8	19.1	床面	DP1133	100%	PL169

第251号住居跡 (第404図)

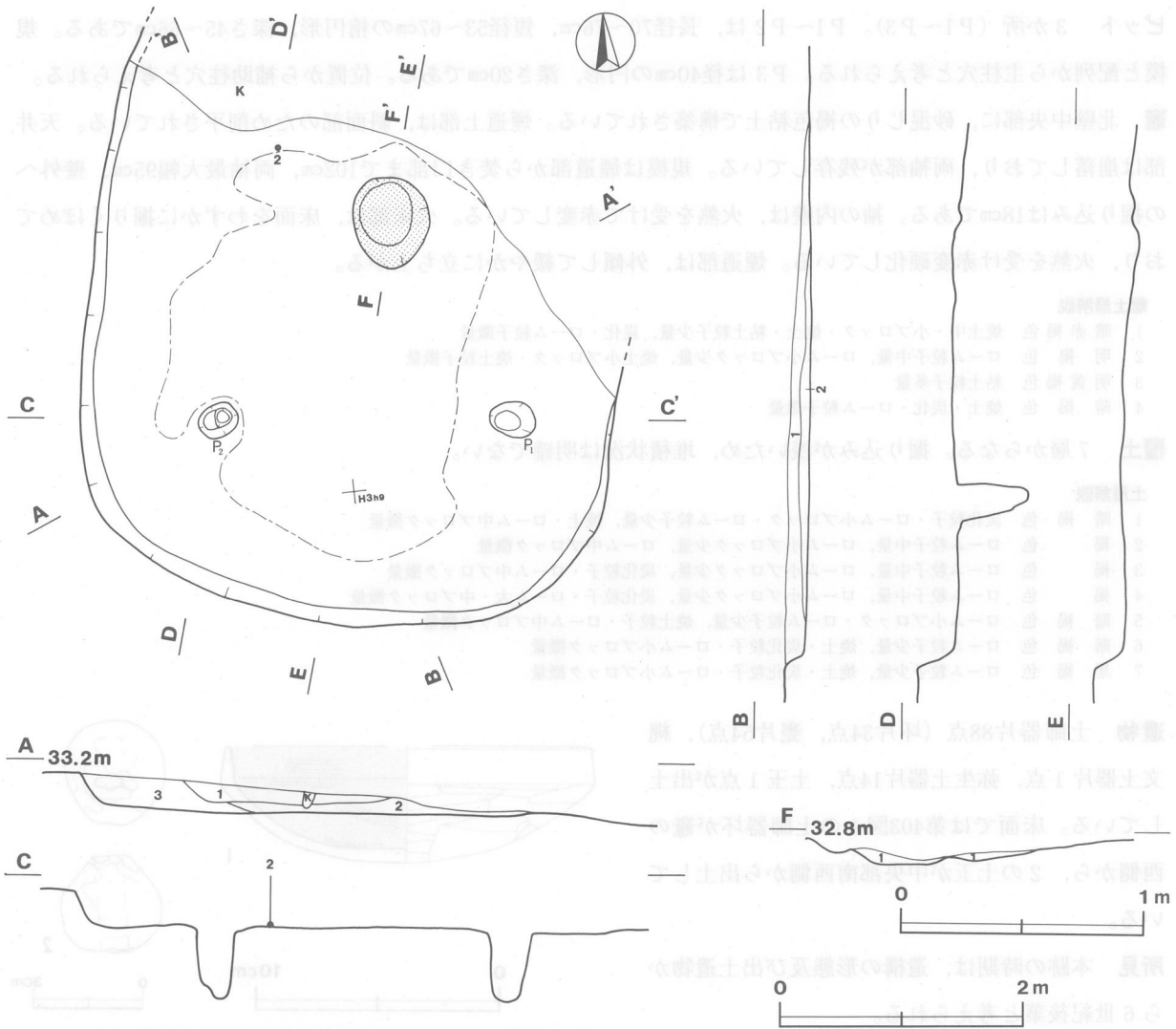
位置 調査区の南東部, H 3 g 9 区。

規模と平面形 斜面部のため北側 3分の1が削平されている。長軸4.43m, 短軸(4.10)mで隅丸長方形である。

主軸方向 N-15°-E

壁 壁高は0~30cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 中央部は踏み固められている。



第404図 第251号住居跡実測図

ピット 2か所 (P1~P2)。P1~P2は、長径34~49cm、短径29~30cmの楕円形、深さ56~58cmである。規模と配列から支柱穴と考えられる。

炉 中央部に位置し、長径78cm、短径62cmの楕円形で、床面を12cm掘りくぼめた地床炉である。炉床面は、火熱を受け赤変硬化している。

炉土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子中量、炭化粒子少量、焼土小ブロック・ローム小ブロック微量

覆土 3層からなる。覆土が浅いため、堆積状況は明確でない。

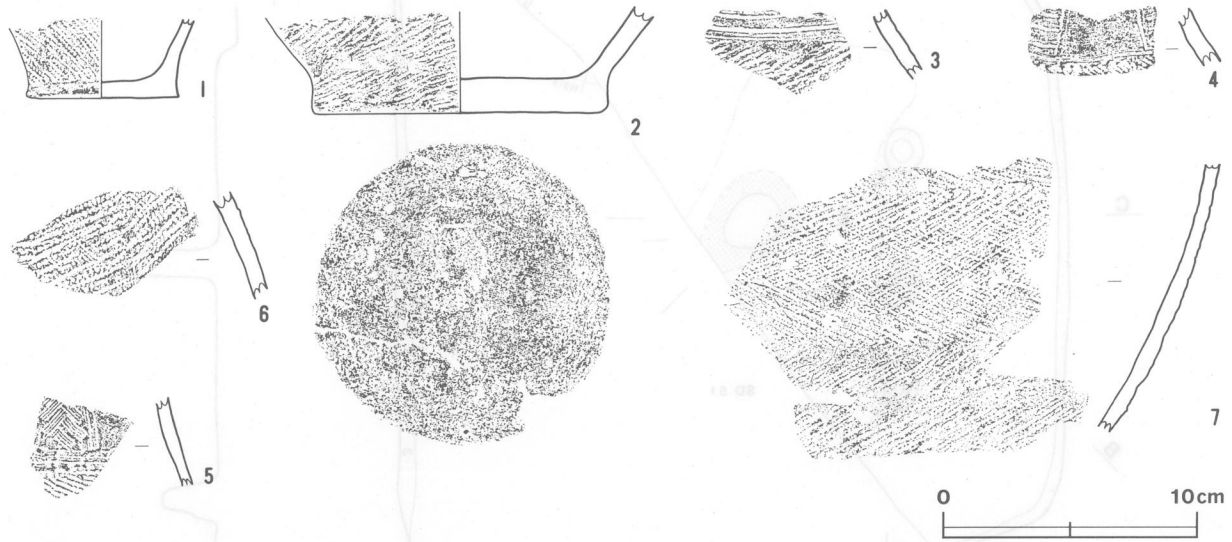
土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム中・小ブロック少量、焼土・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化粒子微量

遺物 縄文土器4点、弥生土器片79点が出土している。床面では、第405図2の弥生土器広口壺が北コーナー部から出土している。覆土中では、1の弥生土器広口壺が出土している。4, 5は弥生土器の頸部片で、4は縦区画充填波状文、5は縦区画充填簾状文が施されている。3, 7は弥生土器の胴部片で付加条一種付加2条の縄文が施されている。7は羽状構成をとっている。6は弥生土器の胴部片で付加条一種付加一条の縄文が施

されており、流れ込みと思われる。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から弥生時代後期後葉（二軒屋式期）と考えられる。



第405図 第251号住居跡出土遺物実測図

第251号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第405図 1	広口壺 弥生土器	B (3.1) C 6.1	底部から胴部下位片。平底。胴部はわずかに内彎して立ち上がる。文様は胴部に付加条一種付加1条の縄文が施されている。	長石・石英・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P1695 15% 覆土中 PL159
2	広口壺 弥生土器	B (4.1) C 11.4	底部から胴部下位片。平底。胴部はわずかに内彎して立ち上がる。文様は胴部に付加条一種付加1条の縄文が施されている。底部初痕。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P1694 15% 床面

第252号住居跡（第406図）

位置 調査区の南東部，H3i8区。

重複関係 本跡は、第51号溝によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸4.91m，短軸（3.53）mで隅丸方形と推定される。

主軸方向 N-24°-E

壁 壁高は16～19cmで、外傾して立ち上がる。

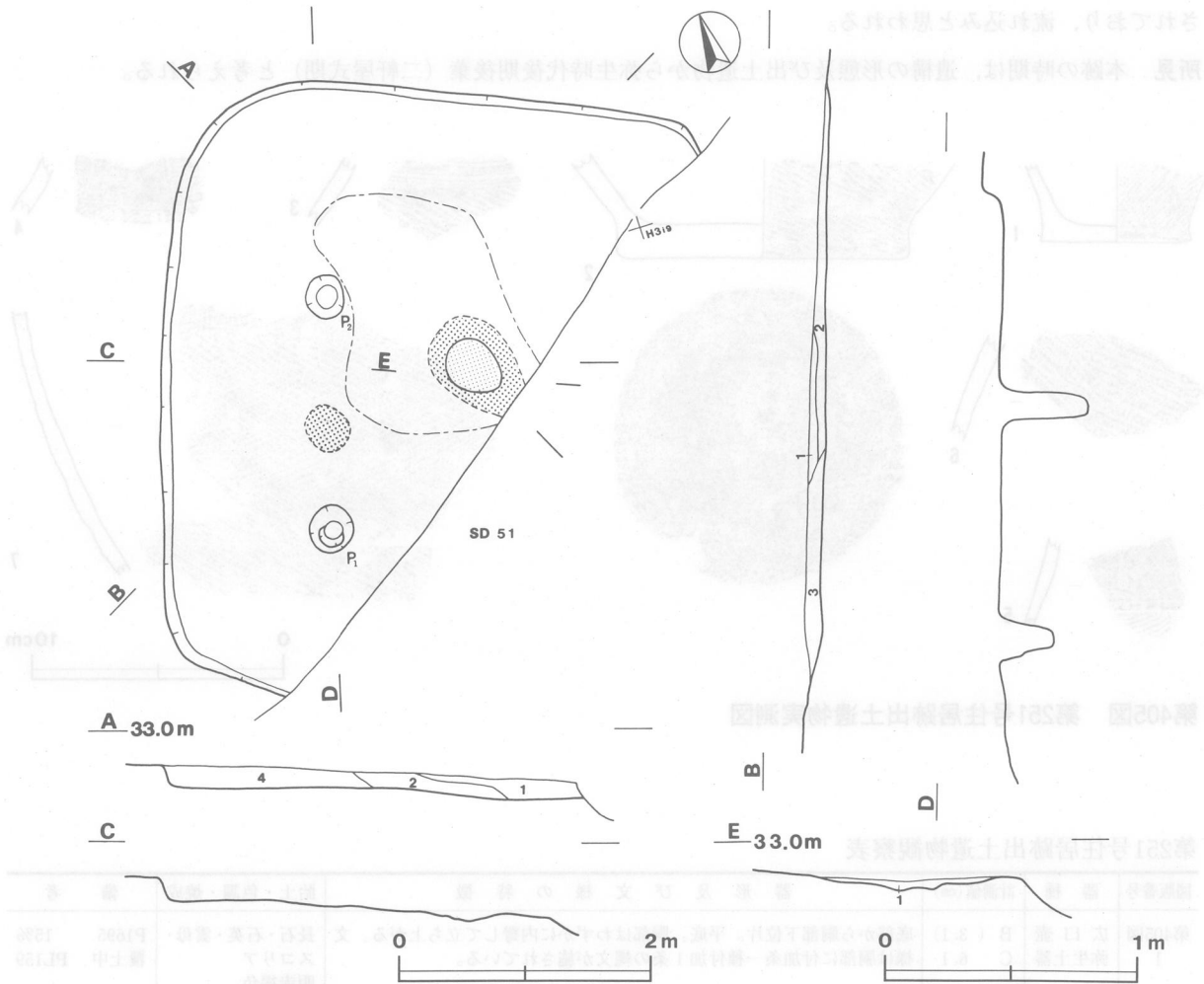
床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 2か所（P1～P2）。P1～P2は、径35～38cmの円形、深さ46～69cmである。規模と配列から主柱穴と考えられる。

炉 中央部に位置し、長径80cm，短径61cmの楕円形で、床面を8cm掘りくぼめた地床炉である。炉床面は、火熱を受け赤変硬化している。

炉土層解説

1 暗赤褐色 ローム小ブロック，ローム粒子少量，炭化粒子微量

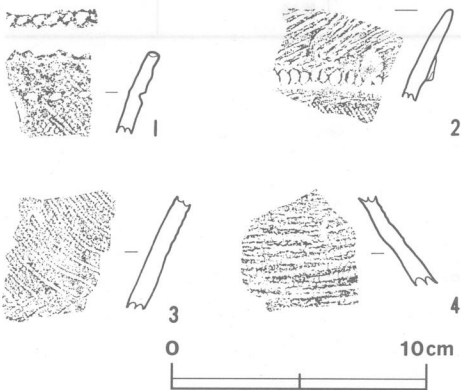


第406図 第252号住居跡実測図

覆土 4層からなる。覆土が浅いため、堆積状況は明確でない。

土層解説

- | | | |
|---|-----|-----------------------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム中ブロック微量 |
| 2 | 暗褐色 | 炭化粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量 |
| 3 | 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック少量 |
| 4 | 褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土・炭化粒子微量 |



第407図 第252号住居跡出土遺物実測図

遺物 弥生土器片4点が覆土中から出土している。第407図1は弥生土器広口壺の口縁部片で、口唇部に縄原体による押圧、地文に単節LRの縄文、刺突文が施されている。2は弥生土器広口壺の口縁部片で口縁部に付加条一種付加2条の縄文、頸部との境に縄原体による刺突が施されている。3は弥生土器の胴部片で付加条一種付加2条の縄文が羽状に施されている。4は弥生土器の胴部片で付加条一種付加1条の縄文が施されている。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から弥生時代後期と考えられる。

第253号住居跡 (第408図)

位置 調査区の南東部, H 3 d5 区。

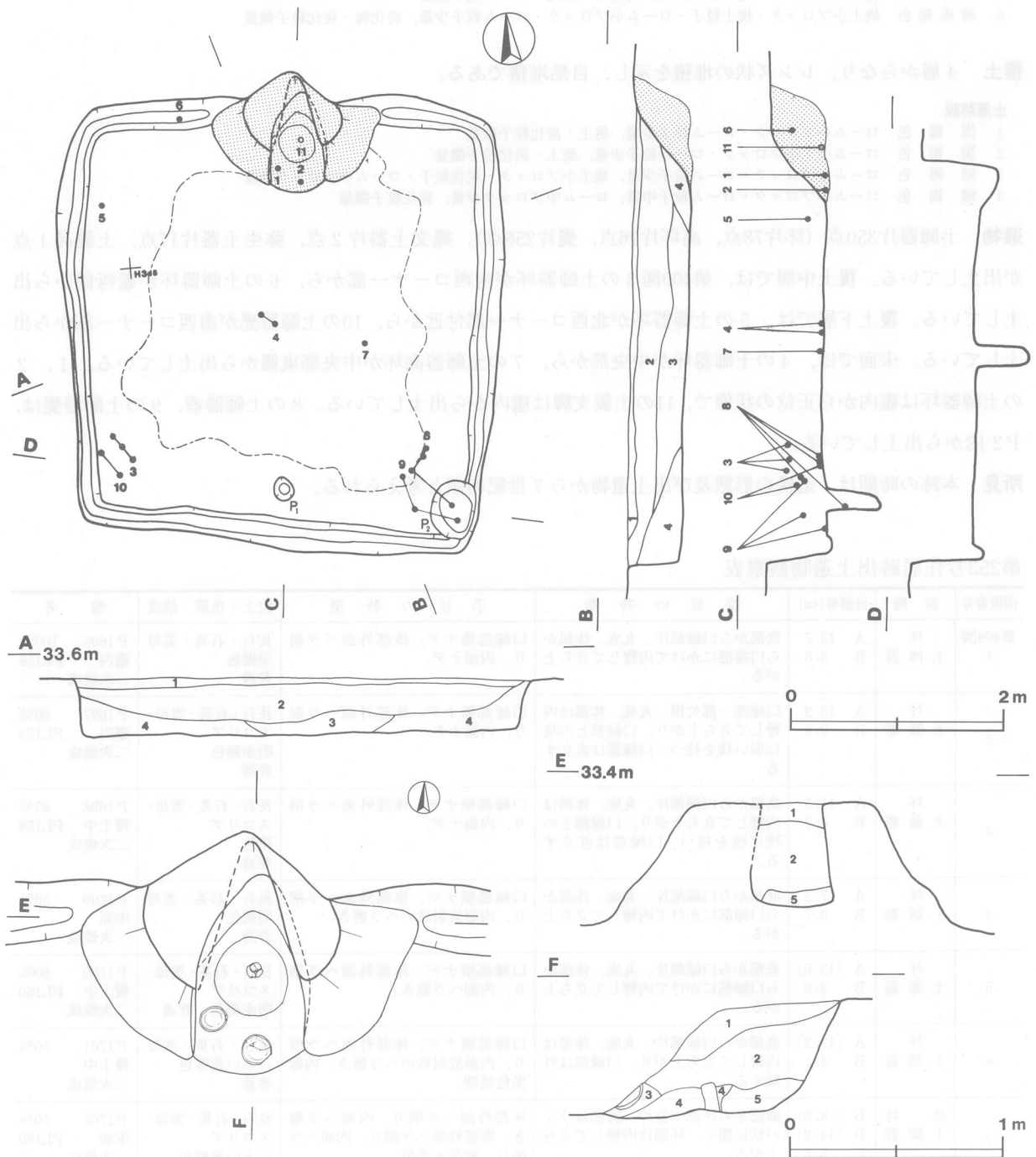
規模と平面形 長軸4.33m, 短軸4.07m の方形である。

主軸方向 N - 7° - E

壁 壁高は54~59cmで, 垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅15~30cm, 下幅6~14cm, 深さ8~9cmで, 断面形はU字状である。

床 平坦で, 中央部は踏み固められている。



第408図 第253号住居跡実測図

ピット 2か所 (P1~P2)。P1は長径23cm, 短径18cmの楕円形, 深さ50cmである。位置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P2は長径53cm, 短径40cm, 深さ20cmであるが, 性格は不明である。

竈 北壁中央部に, 砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており, 両袖部が残存している。規模は煙道部から焚き口部まで115cm, 両袖最大幅146cm, 壁外への掘り込みは30cmである。袖の内壁は, 火熱を受けて赤変している。火床面は, 床面を12cm掘りくぼめており, 火熱を受け赤変硬化している。支脚は土製で火床面に直立して設置されていた。煙道部は, 外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 2 褐色 粘土粒子中量, 焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化・ローム粒子微量
- 3 赤褐色 焼土・粘土粒子中量, 焼土小ブロック・炭化・ローム粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 炭化物・炭化・ローム粒子微量
- 5 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物・炭化粒子微量

覆土 4層からなり, レンズ状の堆積を示し, 自然堆積である。

土層解説

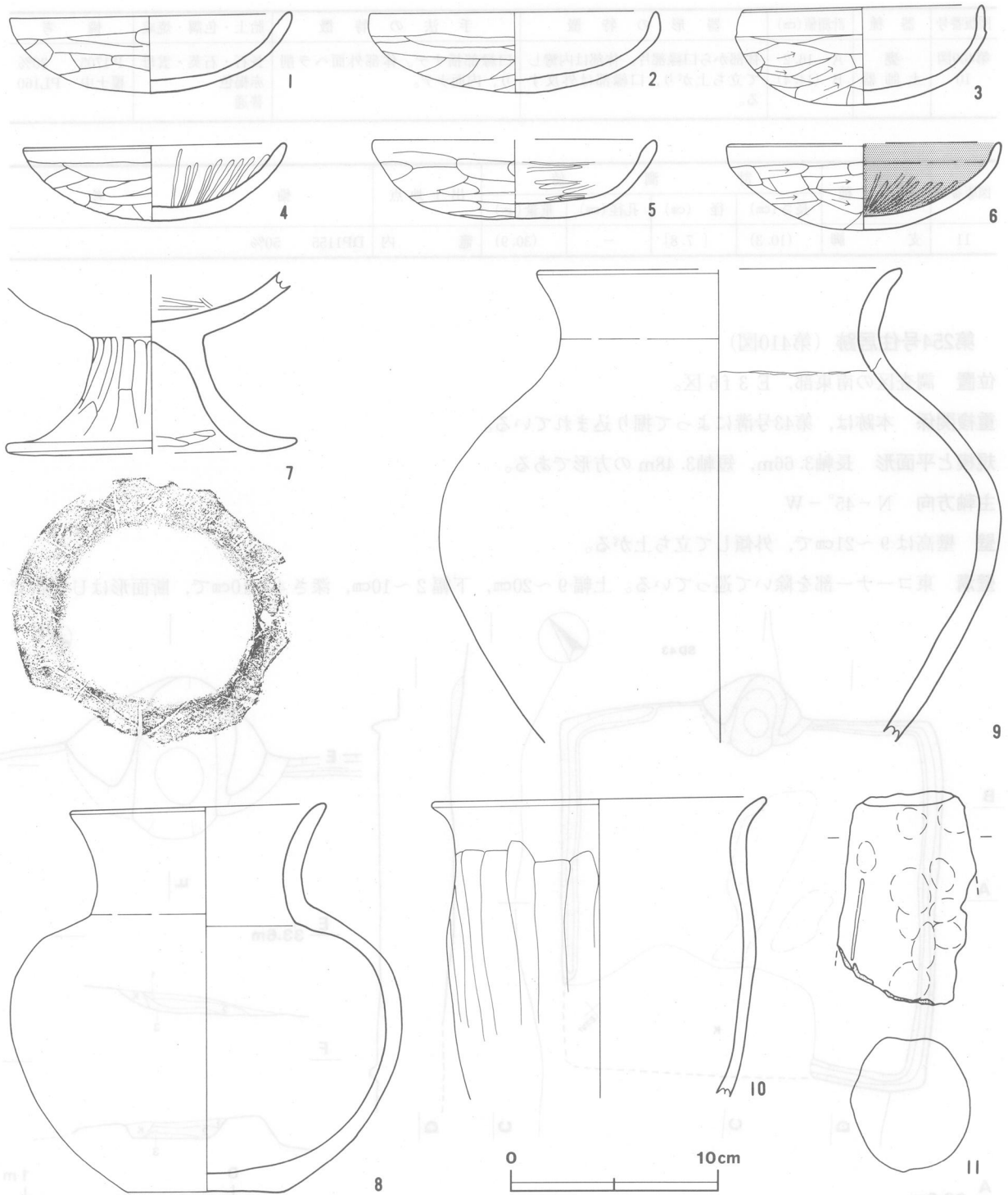
- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量

遺物 土師器片350点 (坏片78点, 高坏片16点, 甕片256点), 縄文土器片2点, 弥生土器片17点, 土製品1点が出土している。覆土中層では, 第409図3の土師器坏が南西コーナー部から, 6の土師器坏が竈西側から出土している。覆土下層では, 5の土師器坏が北西コーナー部付近から, 10の土師器甕が南西コーナー部から出土している。床面では, 4の土師器坏が中央部から, 7の土師器高坏が中央部東側から出土している。1, 2の土師器坏は竈内から正位の状態, 11の土製支脚は竈内から出土している。8の土師器壺, 9の土師器甕は, P2内から出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から7世紀初頭と考えられる。

第253号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第409図 1	坏 土師器	A 13.7	底部から口縁部片。丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り, 内面ナデ。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P 1696 100% 竈内 PL159 二次焼成
		B 3.6				
2	坏 土師器	A 13.9	口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り, 内面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P 1697 80% 竈内 PL159 二次焼成
		B 2.9				
3	坏 土師器	A 11.5	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部との境に稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り, 内面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア 橙色 普通	P 1698 85% 覆土中 PL159 二次焼成
		B 4.7				
4	坏 土師器	A 17.2	底部から口縁部片。丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り, 内面放射状のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 明褐色 普通	P 1699 50% 床面 二次焼成
		B 3.7				
5	坏 土師器	A [13.5]	底部から口縁部片。丸底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り, 内面ヘラ磨き。	長石・石英・雲母・スコリア 明赤褐色 普通	P 1700 60% 覆土中 PL160 二次焼成
		B 3.8				
6	坏 土師器	A [13.2]	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり, 口縁部は外傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り, 内面放射状のヘラ磨き。内面黒色処理。	長石・石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P 1701 50% 覆土中 二次焼成
		B 4.1				
7	高坏 土師器	B (8.8)	脚部から坏部下位片。脚部はラッパ状に開く。坏部は内彎して立ち上がる。	坏部外面ヘラ削り, 内面ヘラ磨き。脚部外面ヘラ削り, 内面ヘラ削り。裾部木葉痕。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい黄褐色 普通	P 1702 50% 床面 PL160 二次焼成
		D [14.2]				
		E 5.6				



第409図 第253号住居跡実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第409図 8	壺 土師器	A 12.4 B 18.7 C 7.8	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、肩部に張りを持つ。口縁部は長く外反する。	口縁部横ナデ。体部外面へラ削り後ナデ、内面ナデ。外面一部器面荒れ。	長石・石英・雲母にぶい褐色普通	P 1703 70% ビット内PL160 二次焼成
9	甕 土師器	A [17.6] B (22.7)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部内面ナデ。内面に輪積み痕。外面器面摩耗。	長石・石英・雲母・スコリア 橙色普通	P 1704 40% ビット内PL160

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第409図 10	甕 土師器	A 16.2 B (14.4)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 赤褐色 普通	P1705 30% 覆土中 PL160

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
11	支脚	(10.3)	[7.8]	-	(30.9)	竈内	DP1155 50%

第254号住居跡 (第410図)

位置 調査区の南東部, E3f6区。

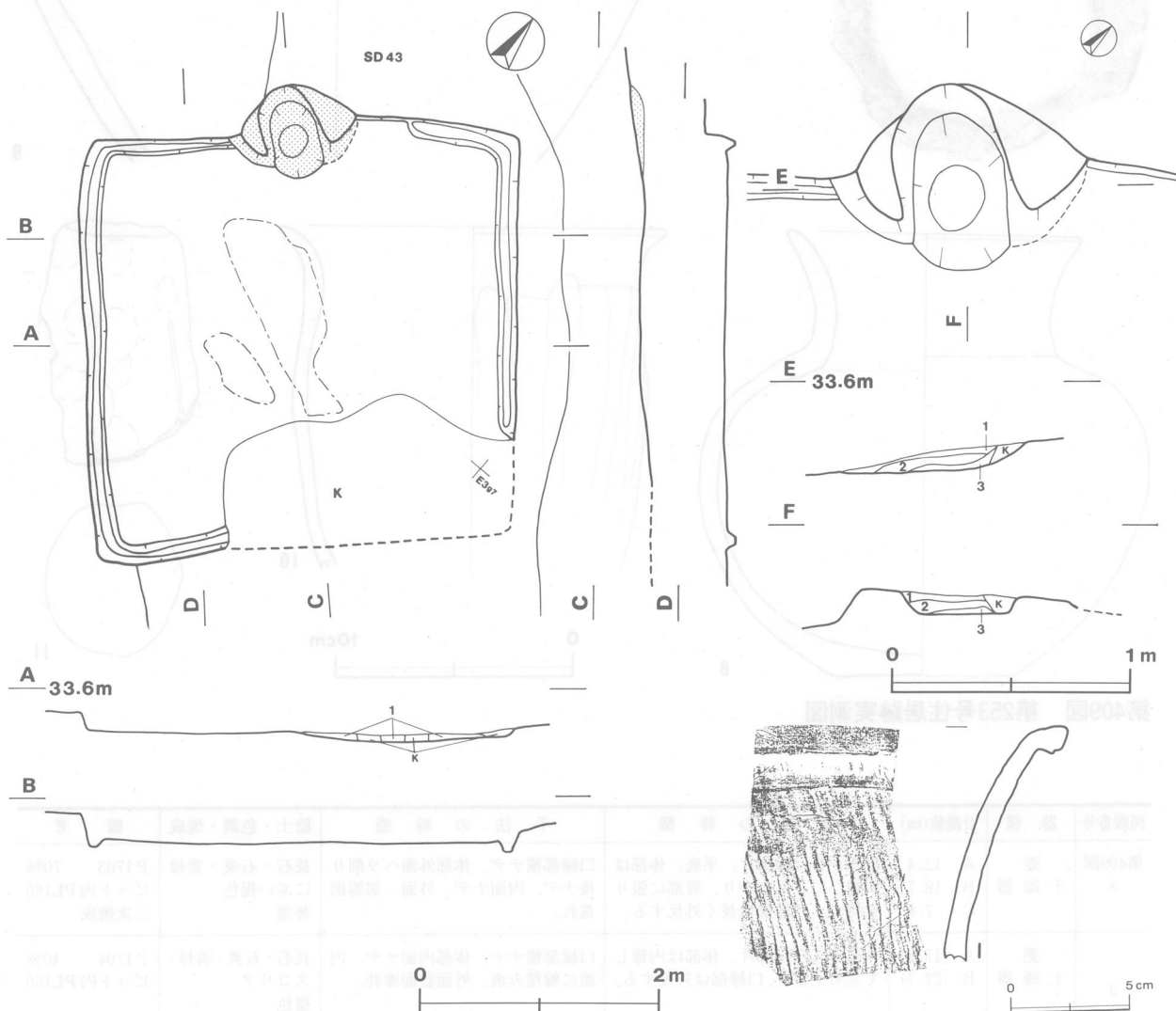
重複関係 本跡は, 第43号溝によって掘り込まれている。

規模と平面形 長軸3.66m, 短軸3.48mの方形である。

主軸方向 N-45°-W

壁 壁高は9~21cmで, 外傾して立ち上がる。

壁溝 東コーナー部を除いて巡っている。上幅9~20cm, 下幅2~10cm, 深さ4~10cmで, 断面形はU字状で



第410図 第254号住居跡・出土遺物実測図

ある。

床 平坦で、中央部は一部分踏み固められている。

竈 北東壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は溝によって削平され、両袖部は残存している。規模は煙道部から焚き口部まで77cm、両袖最大幅105cm、壁外への掘り込みは33cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受けわずかに赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子微量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子中量、ローム粒子微量

覆土 単一層であり、第43号溝によって掘り込まれているため、堆積状況は明確でない。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化粒子微量

遺物 土師器片38点（坏片9点、甕片28点、手捏土器片1点）、須恵器片5点（甕片5点）、鉄滓7gが出土している。第410図1は須恵器鉢の口縁部片で、体部外面に平行叩きが施されている。胎土に雲母を含む。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から9世紀代と考えられる。

第255号住居跡（第411図）

位置 調査区の南東部、H3 d5区。

規模と平面形 長軸3.55m、短軸3.44mの方形である。

主軸方向 N-9°-E

壁 壁高は50～56cmで、垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅10～20cm、下幅4～11cm、深さ4～9cmで、断面形はU字状である。

床 平坦で、中央部は踏み固められている。

ピット 1か所（P1）。P1は、径24cmの円形、深さ24cmである。位置から出入口口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は煙道部から焚き口部まで113cm、両袖最大幅129cm、壁外への掘り込みは33cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面をわずかに掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・ローム中ブロック少量、ローム大ブロック・粘土粒子微量
- 2 暗褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック・粘土粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子少量、焼土中ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック少量、焼土中ブロック・粘土粒子・灰微量
- 5 赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量、焼土大・中ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子少量、灰微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量

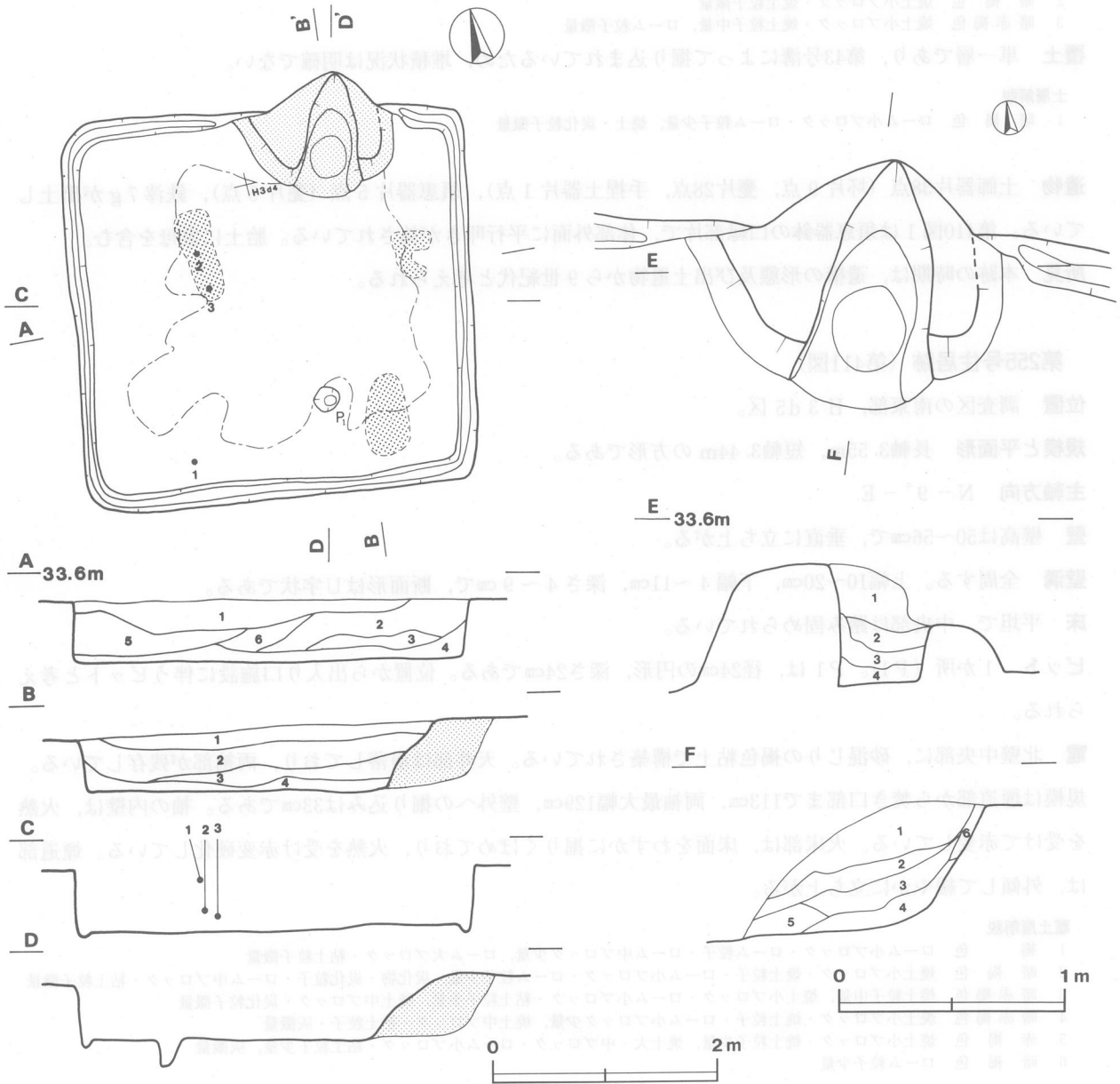
覆土 6層からなり、ロームブロックを含む人為堆積である。

土層解説

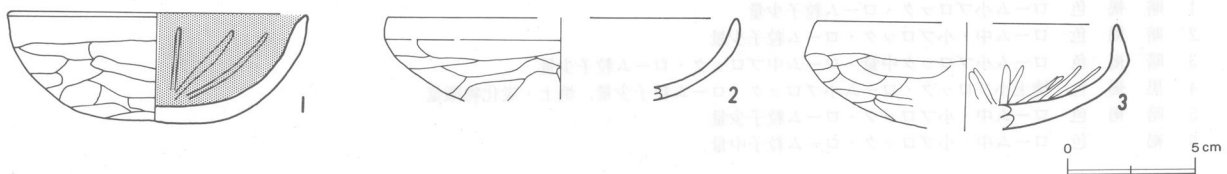
- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量・ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 4 黒褐色 焼土小ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土・炭化物微量
- 5 暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 6 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量

遺物 土師器片54点 (坏片6点, 甕片48点), 縄文土器片1点, 弥生土器片3点, 鉄滓9gが出土している。覆土上層では, 第412図1の土師器坏が南西コーナー部付近から出土している。覆土下層では, 2, 3の土師器坏が中央部北西側からそれぞれ出土している。

所見 当跡は, 覆土下層に焼土塊がみられること, その上にロームブロック・ローム粒子を含む層が堆積していることなどから, 焼失後埋め戻されたものと思われる。時期は, 遺構の形態及び出土遺物から7世紀前葉と考えられる。



第411図 第255号住居跡実測図



第412図 第255号住居跡出土遺物実測図

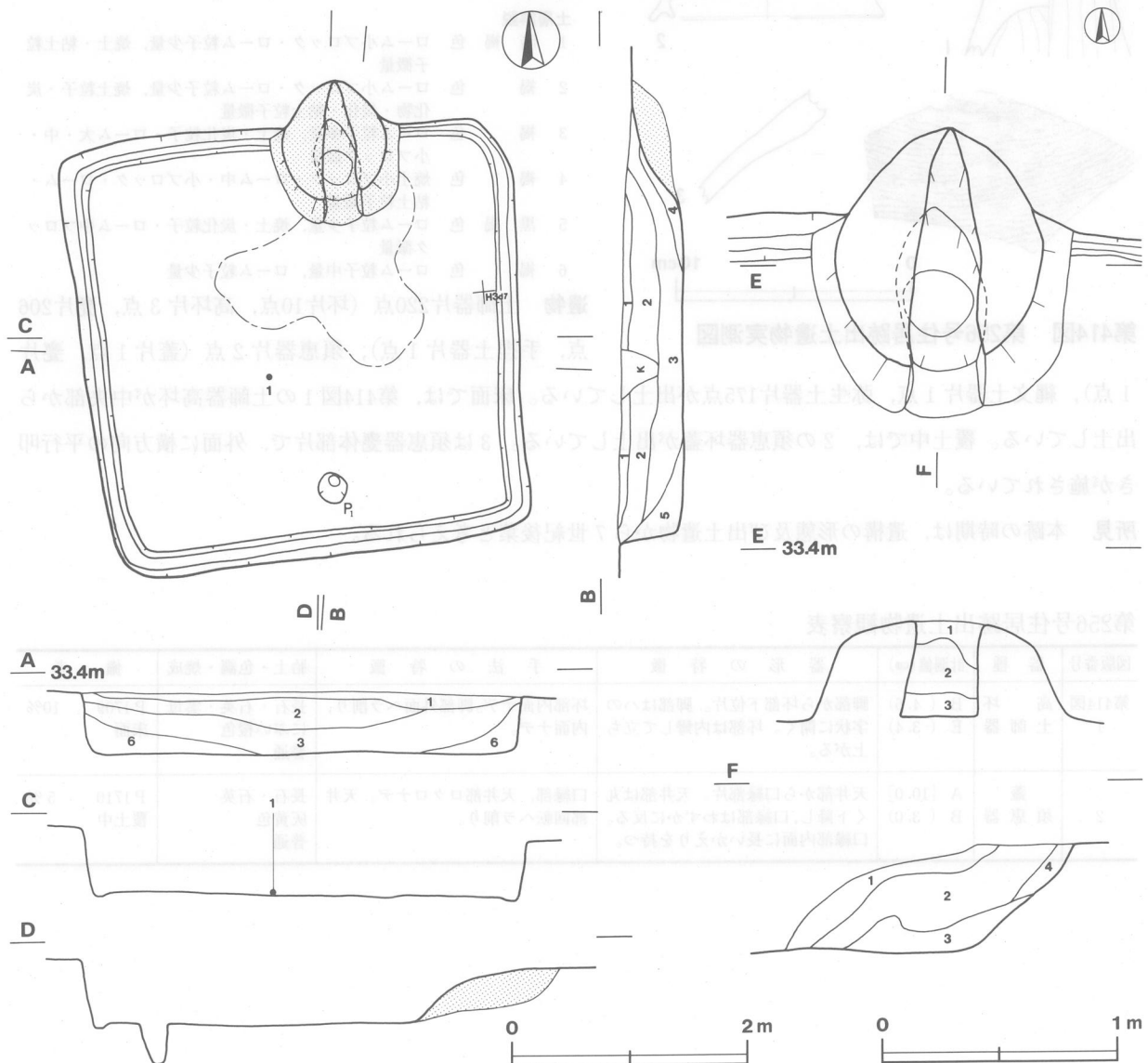
第255号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第412図 1	坏 土師器	A [11.8] B 4.3	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面放射状のヘラ磨き。内面黒色処理。	長石・石英・雲母・スコリアにぶい黄橙色普通	P 1706 45% 覆土中 PL160 二次焼成
2	坏 土師器	A [13.8] B (3.2)	体部から口縁部片。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア黄灰色普通	P 1707 30% 覆土中 二次焼成
3	坏 土師器	A [12.0] B (4.2)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面放射状のヘラ磨き。	長石・石英・雲母・スコリアにぶい赤褐色普通	P 1708 20% 覆土中 二次焼成

第256号住居跡 (第413図)

位置 調査区の南東部, H 3 d6 区。

規模と平面形 長軸3.74m, 短軸3.68m の方形である。



第413図 第256号住居跡実測図

主軸方向 N-10°-E

壁 壁高は46~55cmで、垂直に立ち上がる。

壁溝 全周する。上幅18~22cm, 下幅5~10cm, 深さ5~7cmで、断面形はU字状である。

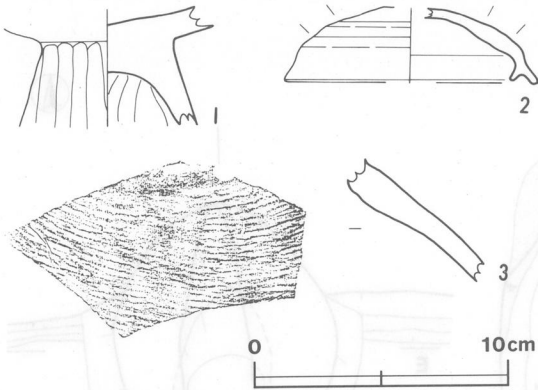
床 平坦で、竈前方部が踏み固められている。

ピット P1は、径26cmの円形、深さ35cmである。位置から出入り口施設に伴うピットと考えられる。

竈 北壁中央部に、砂混じりの褐色粘土で構築されている。天井部は崩落しており、両袖部が残存している。規模は煙道部から焚き口部まで122cm, 両袖最大幅104cm, 壁外への掘り込みは39cmである。袖の内壁は、火熱を受けて赤変している。火床部は、床面を7cm掘りくぼめており、火熱を受け赤変硬化している。煙道部は、外傾して緩やかに立ち上がる。

竈土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック, ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土・粘土粒子微量
- 3 暗赤褐色 焼土小ブロック・焼土粒子少量, 粘土粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子多量



第414図 第256号住居跡出土遺物実測図

覆土 6層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土・粘土粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化物・炭化・粘土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, 焼土・炭化粒子・ローム大・中・小ブロック微量
- 4 褐色 焼土小ブロック・ローム中・小ブロック・ローム・粘土粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 6 褐色 ローム粒子中量, ローム粒子少量

遺物 土師器片220点 (坏片10点, 高坏片3点, 甕片206

点, 手捏土器片1点), 須恵器片2点 (蓋片1点, 甕片

1点), 縄文土器片1点, 弥生土器片175点が出土している。床面では、第414図1の土師器高坏が中央部から出土している。覆土中では、2の須恵器坏蓋が出土している。3は須恵器甕体部片で、外面に横方向の平行叩きが施されている。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から7世紀後葉と考えられる。

第256号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第414図 1	高坏 土師器	B (4.6) E (3.4)	脚部から坏部下位片。脚部はハの字状に開く。坏部は内彎して立ち上がる。	坏部内面ナデ。脚部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母にぶい橙色 普通	P 1709 10% 床面
2	蓋 須恵器	A [10.0] B (3.0)	天井部から口縁部片。天井部は丸く下降し、口縁部はわずかに反る。口縁部内面に長いかえりを持つ。	口縁部, 天井部ロクロナデ。天井部回転ヘラ削り。	長石・石英 灰黄色 普通	P 1710 5% 覆土中

表2 木工台遺跡住居跡一覽表

住居跡 番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内・部 施 設						覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
							壁溝	ピット	主柱穴	出入口	炉・竈	貯蔵穴			
108	C4 b1	N-10°-E	方形	3.65 × 3.50	24~32	平坦	全周	-	-	1	1	-	自然	土師器(碗,高台付碗,甕)須惠器(坏,甌)鐵先	
109A	C4 f1	N-90°-E	長方形	3.71 × 3.00	8~17	平坦	-	-	-	-	1	-	自然	土師器(坏,高台付碗,甕)刀子	SI-109B→本跡
109B	C4 f1	N-27°-W	方形	5.45 × 5.35	15~35	平坦	全周	-	4	-	1	-	自然	土師器(坏,手握土器)	本跡→SI-109A→SB-2
110A	C3 i0	N-0°	方形	6.10 × 5.65	65~80	平坦	全周	14	4	-	1	-	自然	土師器(坏,甕)須惠器(坏,蓋,鉢,甕,甌)灰釉陶器(平瓶)石製紡錘車,釘,鉄鎌	SI-110C→110B→本跡
110B	C3 i0	N-0°	[長方形]	6.10 × [5.40]	65~80	平坦	全周	-	4	-	1	-	人為	-	SI-110C→本跡→110A
110C	C3 i0	N-0°	[長方形]	6.10 × [5.22]	65~80	平坦	全周	-	4	-	1	-	-	-	本跡→SI-110B→110A
111	D4 a1	N-123°-E	長方形	4.10 × 3.72	37~40	平坦	-	-	-	-	1	-	自然	土師器(坏,高坏,甕)	
112	E4 c1	N-10°-E	方形	5.42 × 5.33	30~65	平坦	全周	1	4	1	1	1	人為	土師器(坏,碗,鉢,高坏,甕)	本跡→SD-41・44
113A	E4 e1	N-11°-W	方形	6.11 × 6.00	45~67	平坦	全周	4	4	1	1	-	自然	土師器(坏,甕)須惠器(坏,蓋)	SI-114→113B→本跡
113B	E4 e1	[N・11°-W]	[方形]	[6.11]×[6.00]	-	平坦	-	-	4	-	-	-	-	-	SI-114→本跡→113A
114	E4 d2	N-31°-E	方形	4.88 × 4.68	17~36	平坦	-	-	4	-	1	1	人為	土師器(坏,甕)石製紡錘車	本跡→SI-113B→113A
115	F3 h3	N-7°-E	長方形	10.05 × 9.00	25~45	平坦	全周	1	4	1	1	-	自然	土師器(坏,甕,甌,ミニチュア碗)須惠器(甕)石製紡錘車,鎌	本跡→SB-3・5・6・7
116A	F2 g8	N-12°-W	方形	7.00 × 6.68	43~70	平坦	全周	9	4	-	1	-	自然	土師器(坏,甕)須惠器(坏,蓋,長頸瓶)土製紡錘車,銅製碗	SI-116B→116C→本跡
116B	F2 g0	N-25°-W	[長方形]	4.92 × (4.20)	28~41	平坦	一部	2	-	-	1	-	人為	土師器(坏,甕,ミニチュア甕)	SX-9→本跡→116A
116C	F2 g8	[N・12°-W]	[方形]	[7.00]×[6.68]	-	平坦	-	-	4	-	1	-	-	-	SI-116B→本跡→116A
118	F2 j8	N-75°-E	方形	3.70 × 3.70	22~36	平坦	-	-	-	1	1	-	自然	土師器(坏,甕)鉄鎌	
119	F2 f6	N-6°-E	方形	5.77 × 5.71	47~66	平坦	全周	2	4	1	1	-	自然	土師器(坏,甕)須惠器(坏)灰釉陶器(長頸瓶)刀子	SI-125B→本跡
120A	F2 g3	N-4°-W	方形	4.60 × 4.30	30~44	平坦	全周	-	4	1	1	-	自然・ 人為	土師器(甕)須惠器(坏,高台付坏)	SI-120D→120C→本跡
120C	F2 g4	N-16°-W	方形	5.60 × 5.50	32~44	平坦	全周	-	4	1	1	-	自然	土師器(坏,甕)石製紡錘車,刀子,鉄鎌	SI-120D→本跡→120A
120D	F2 g5	N-30°-W	[方形]	8.50 × (7.74)	31~54	平坦	全周	-	4	-	-	-	自然	土師器(坏,甕)	本跡→SI-120E→120C→120A
120E	F2 e4	N-0°	方形	4.68 × 4.40	56~69	平坦	全周	-	4	1	1	-	自然	土師器(坏,高坏,甕,甌,ミニチュア甕)	SI-120D→本跡
121	F2 d1	N-2°-W	長方形	4.40 × 3.90	10~35	平坦	全周	-	-	1	1	-	自然	土師器(坏,高台付碗,高台付皿)砥石,鉄鎌	SI-123B→123A→本跡
122	F2 e2	N-11°-E	方形	3.95 × 3.65	45~50	平坦	一部	-	-	1	1	-	自然	土師器(坏,碗,鉢)砥石,刀子,門	
123A	F2 e2	N-8°-W	方形	6.80 × 6.55	25~30	平坦	全周	-	4	-	1	-	自然	土師器(坏,甕,甌)釘	SI-123B→本跡→121
123B	F2 e2	[N・8°-W]	[方形]	[6.80]×[6.55]	-	平坦	-	-	2	-	1	-	人為	-	本跡→SI-123A→121
124	F3 j4	N-32°-W	[長方形]	(4.69)×(3.92)	10	平坦	一部	1	-	-	1	-	自然	灰釉陶器(長頸瓶)釘,刀子	本跡→SB-4, SK-169
125A	F2 d8	[N・24°-W]	方形	4.30 × 4.10	33~40	平坦	全周	6	3	-	-	-	自然	土師器(坏,甕)	本跡→SI-125C
125B	F2 d6	N-15°-W	長方形	5.80 × 5.10	40~45	平坦	全周	1	4	-	1	-	自然	土師器(坏,甕,ミニチュア甕)鉄鎌	本跡→SI-125C
125C	F2 d7	N-8°-W	[長方形]	[4.30]×[3.30]	35~40	平坦	一部	-	3	1	1	-	自然	土師器(坏)	SI-125A→125B→本跡
126A	F2 c0	N-1°-W	方形	10.25 × 10.03	51~66	平坦	全周	-	4	1	1	-	自然	土師器(坏,高坏,甌)須惠器(提瓶)砥石,刀子	SI-126C→本跡→126B
126B	F2 e9	N-16°-W	長方形	6.06 × 5.32	46~50	平坦	-	-	4	1	1	-	自然	土師器(坏,甕)須惠器(坏,蓋)砥石	SI-126C→126A→本跡
126C	F2 c0	[N・1°-W]	[方形]	[10.25]×[10.03]	-	平坦	-	-	4	1	1	-	-	-	本跡→SI-126A→126B
127A	F3 e3	N-2°-W	方形	6.95 × 6.85	20~50	平坦	全周	3	4	-	-	-	自然	土師器(甕)須惠器(坏,甕)石製紡錘車,軽石	SI-127D→本跡→127B →127C→SB-8・10
127B	F3 b2	N-15°-W	長方形	5.80 × 5.10	10~45	平坦	-	1	4	-	1	-	自然	土師器(蓋)	SI-127D→127A→本跡 →127C→SB-9
127C	F3 b2	N-72°-E	[長方形]	3.90 × (2.40)	20~25	平坦	一部	-	-	-	1	-	自然	土師器(高台付碗)	SI-127D→127B →本跡
127D	F3 a3	N-23°-E	[方形]	5.78 × (5.72)	15~50	平坦	一部	-	4	-	1	1	人為	土師器(坏,甕)	本跡→SI-127A →127B→127C
128A	F1 b0	N-0°	方形	5.40 × 5.22	20~35	平坦	-	-	4	1	1	-	人為	土師器(坏,甌)須惠器(蓋)砥石	SI-128B→本跡
128B	F1 b0	[N・0°]	[方形]	[5.40]×[5.22]	-	平坦	-	-	4	-	1	-	-	-	本跡→SI-128A
129	F1 j2	N-13°-W	方形	4.94 × 4.87	7~29	平坦	-	-	4	1	1	-	自然	土師器(坏,甕)	
130	E2 j4	N-9°-W	長方形	3.77 × 3.34	15~25	平坦	全周	-	-	-	1	-	自然	土師器(坏)須惠器(坏)石製紡錘車,鎌,不明銅製品	
131	F2 a6	N-12°-W	方形	3.25 × 3.08	27~30	平坦	全周	-	-	1	1	-	自然	土師器(坏)須惠器(坏)刀子,鉄鎌茎,釘	
132A	E2 j0	N-14°-E	方形	6.00 × 5.62	74~110	平坦	全周	11	4	1	1	-	自然	土師器(坏)須惠器(坏,高台付盤,蓋)石製紡錘車,釘	SI-132B→本跡
132B	E2 i0	N-5°-E	方形	8.38 × 7.95	29~37	平坦	全周	-	4	-	1	-	人為	土師器(坏,甕)	本跡→SI-133→ 132A
133	E2 h9	N-19°-W	方形	3.72 × 3.47	21~52	平坦	全周	-	-	1	1	-	自然	土師器(坏,甕,甌)須惠器(坏,蓋)刀子	SI-132B→本跡 →132A
134A	E2 i8	N-7°-E	方形	4.40 × 4.24	55~65	平坦	全周	-	4	-	1	-	人為	土師器(坏)須惠器(坏,甕)鎌,手鎌,鉄鎌茎	SI-134B→133→本跡 →134D→134C

住居跡 番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考 新旧関係(古→新)
							壁溝	ピット	柱穴	出入口	炉・竈	貯蔵穴			
134B	E2 i8	N-5°-E	方形	3.56 × 3.30	52~55	平坦	一部	-	-	-	-	-	人為	土師器(坏, 高坏, 甗)	本跡→SI-134A
134C	E2 h7	N-86°-E	方形	3.46 × 3.35	15~20	平坦	-	-	-	-	1	-	自然	土師器(坏)	SI-135B→134A→ 134D→本跡
134D	E2 h8	N-0°	方形	2.25 × 2.15	25	平坦	-	-	-	-	-	-	-	土師器(高台付椀)	SI-134A→本跡→134C
135A	E2 g7	N-0°	方形	3.46 × 3.36	55	平坦	全周	-	-	1	1	-	自然	土師器(坏, 甗) 須惠器(坏, 高台付椀, 甗) 灰釉陶器(碗, 長頸瓶) 石製紡錘車, 鉢	SI-135B→136C→本跡
135B	E2 g6	N-6°-W	[方形]	6.26 × [6.10]	43~55	平坦	一部	1	4	1	1	-	人為	土師器(坏, 高坏, 甗, 甗) 石製紡錘車	本跡→SI-136C→ 135A→134C
136A	E2 g8	N-4°-E	[長方形]	3.61 × (3.27)	20~29	平坦	一部	-	-	-	1	-	自然	土師器(坏, 甗, ミニチュア甗) 須惠器(長頸瓶)	SI-136D→136C→ 136B→本跡
136B	E2 f9	N-10°-W	方形	4.14 × 4.10	12~23	平坦	全周	-	-	-	1	-	自然	土師器(坏, 高台付椀) 釘	SI-136D→本跡→136A
136C	E2 g8	N-4°-E	方形	5.80 × 5.70	34~57	平坦	全周	2	4	1	1	-	自然	土師器(坏, 甗) 須惠器(坏, 蓋, 甗)	SI-135B→136D→ 本跡→135A, 136A
136D	E2 f9	N-16°-W	[長方形]	[5.28] × 4.75	42~47	平坦	一部	2	4	-	1	-	自然 人為	土師器(坏)	本跡→SI-136C→ 136A→136B
137	E2 i6	N-2°-W	方形	3.65 × 3.38	40~48	平坦	全周	2	-	1	1	-	自然	土師器(坏, 高坏, 甗) 須惠器(坏) 土製紡錘車, 釘	
138A	E2 g3	N-18°-E	長方形	3.30 × 2.92	25~35	平坦	全周	-	-	1	1	-	自然	土師器(坏, 甗) 釘	SI-139→本跡
138B	E2 g2	N-8°-W	長方形	5.50 × 4.95	10~35	平坦	-	-	2	-	1	-	自然	土師器(坏, 甗)	SI-138C→本跡
138C	E2 h1	N-3°-W	方形	5.92 × 5.42	20~50	平坦	全周	-	4	1	1	-	自然	土師器(坏, 甗, 甗)	本跡→SI-138B
139	E2 f3	N-0°	方形	3.95 × 3.76	30~40	平坦	一部	-	-	1	1	-	自然	土師器(坏, 高坏, 甗) 砥石	本跡→SI-138A
140	E2 i1	N-0°	方形	3.55 × 3.35	2~8	平坦	-	-	-	-	1	-	-	土師器(坏) 石製紡錘車	
141	E2 f1	N-10°-W	方形	3.05 × 2.94	22~47	凸凹	一部	-	-	-	1	-	自然	土師器(甗, 甗)	
142	E3 j7	N-56°-W	[方形]	[3.71] × [3.71]	3~6	平坦	-	-	-	-	1	-	-	須惠器(坏, 高台付皿)	
144	E2 e6	N-2°-W	方形	4.12 × 4.05	39~50	平坦	全周	-	-	1	1	-	自然	土師器(坏, 甗, ミニチュア椀) 砥石, 鎌, 刀子茎	本跡→SD-45
145A	E2 d8	N-0°	方形	6.92 × 6.91	49~76	平坦	全周	-	4	1	1	-	自然	土師器(坏, 甗, 手捏土器) 須惠器(甗) 勾玉, 釘, 銅鈴	SI-145B→本跡→SD-44
145B	E2 d8	N-0°	長方形	6.49 × 5.21	57~72	平坦	全周	-	4	1	1	-	人為	-	本跡→SI-145A
147	E2 d3	N-85°-E	[長方形]	2.48 × [2.20]	-	平坦	-	-	-	-	1	-	-	-	
148	E2 c1	N-0°	長方形	2.72 × 2.30	17~20	平坦	-	-	-	-	1	-	自然	土師器(坏, 高台付皿, 甗)	
149	E2 b2	N-5°-E	方形	3.55 × 3.22	36~48	平坦	全周	-	-	1	1	-	人為	土師器(坏, 甗) 砥石	本跡→SD-39・53
150A	E2 a2	N-13°-W	長方形	5.16 × 4.65	53~73	平坦	一部	-	4	-	1	-	自然	土師器(坏, 甗) 須惠器(蓋) 砥石	SI-150B→本跡
150B	E2 a3	N-24°-W	長方形	7.09 × 5.12	18~23	平坦	-	-	-	-	1	-	人為	土師器(坏, 高坏, 甗, 甗) 砥石	SI-150D→本跡→150A →150C→SD-39・53
150C	E2 b3	N-66°-W	方形	3.96 × 3.82	29~32	平坦	全周	-	-	-	2	-	自然	土師器(坏, 高台付椀, 高台付坏, 甗) 須惠器(蓋) 砥石	SI-150D→150B→本跡
150D	E2 b3	N-21°-E	方形	4.21 × 4.08	25~42	平坦	一部	-	-	-	1	-	人為	土師器(坏, 甗)	本跡→SI-150B→ 150C→SD-53
151	E1 b0	N-20°-W	方形	4.27 × 4.25	35~42	平坦	全周	-	-	1	1	-	自然	土師器(坏, 甗)	
152	D2 h1	N-8°-E	方形	5.25 × 5.17	25~40	平坦	一部	-	4	1	1	-	自然	土師器(坏, 高坏, 甗) 須惠器(坏) 小玉	
153	E2 a8	N-9°-W	方形	4.30 × 4.28	35~45	平坦	全周	-	4	-	1	-	自然	土師器(坏)	
154	D2 i7	N-30°-W	方形	5.95 × 5.90	26~38	平坦	全周	-	4	1	1	-	自然	土師器(坏, 甗)	本跡→SD-39・53
155A	D2 g5	N-5°-W	方形	5.95 × 5.70	18~25	平坦	-	-	4	1	-	-	自然	土師器(坏, 甗) 土鈴, 釘	SI-155B→本跡→SD-40
155B	D2 g5	N-7°-W	方形	5.60 × 5.10	5~13	平坦	全周	-	4	1	1	-	-	土師器(坏)	本跡→SI-155A→SD-40
156	D2 g8	N-0°	方形	5.97 × 5.66	45~65	平坦	全周	-	4	1	1	-	自然	土師器(甗) 須惠器(蓋) 土製勾玉, 砥石, 刀子	本跡→SD-29・53
157	E2 a0	N-25°-W	方形	6.08 × 5.93	26~37	平坦	一部	1	4	1	1	-	人為	土師器(坏, 鉢, 甗)	
158	D3 j2	N-9°-W	方形	6.35 × 6.15	40~53	平坦	全周	3	4	1	1	1	自然	土師器(坏, 鉢, 甗, 甗) 管玉	
159	D3 j4	[N・11°-W]	[方形]	[6.45] × [6.05]	5	平坦	-	-	4	-	1	-	-	-	
160	D3 g2	N-3°-W	方形	4.05 × 3.95	60~65	平坦	全周	-	-	1	1	-	自然	土師器(坏, 高坏, 甗, ミニチュア甗)	
161A	D3 d2	N-4°-E	方形	7.81 × 7.35	37~63	平坦	全周	-	4	1	1	-	自然	土師器(坏, 甗)	SI-161B→本跡→ SD-37・38・39・53
161B	D3 d2	N-4°-E	方形	7.05 × 6.54	-	平坦	全周	-	4	-	1	-	人為	-	SI-161C→本跡→161 A→SD-37・38・39・53
161C	D3 d2	[N・4°-E]	[方形]	[7.05] × [6.54]	-	平坦	-	-	4	-	1	-	-	-	本跡→SI-161B→161 A→SD-37・38・39・53
162	D2 b0	N-15°-W	方形	7.78 × 7.70	25~55	平坦	全周	-	4	1	1	-	自然	土師器(坏, 甗) 石製紡錘車	
163	C3 j3	N-2°-W	方形	3.56 × 3.52	27~32	平坦	一部	-	-	-	1	-	自然	土師器(坏, 甗) 須惠器(甗, 長頸瓶)	本跡→SD-37
164	C3 h3	N-15°-E	方形	3.94 × 3.79	30~42	平坦	一部	-	4	1	1	-	自然	土師器(坏, 甗, 手捏土器)	本跡→SI-165→SD-37
165	C3 h4	N-16°-W	方形	4.84 × 4.70	45	平坦	全周	-	4	1	1	-	自然	土師器(甗) 須惠器(坏, 鉢)	SI-164→本跡→SD-37
166A	D3 b7	N-1°-E	方形	9.10 × 8.90	20~53	平坦	全周	3	4	1	1	-	自然	土師器(坏, 高坏, 甗, 甗, ミニチュア 土器) 土製小玉, 管玉, 砥石	本跡→SI-166B

住居跡 番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m)		壁高 (cm)	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考
				長軸×短軸				壁溝	ピット	主柱穴	出入口	炉・竈	貯蔵穴			
166B	C3j7	N-90°-E	長方形	5.42 × 3.93	20~35	平坦	一部	-	-	1	1	-	自然	土師器(坏, 高台付椀, 小皿, 甕, 甌) 灰釉陶器(高台付椀)釘	SI-166A→本跡	
167	D3d8	N-13°-W	長方形	3.43 × 3.05	65~68	平坦	一部	-	-	1	1	-	自然	土師器(坏, 甕)須惠器(坏)		
168A	D3h6	N-20°-W	方形	7.50 × 7.42	48~65	平坦	全周	-	4	-	1	-	自然	土師器(坏, 高坏, 甕)刀子茎	SI-168B→本跡	
168B	D3h6	N-20°-W	長方形	7.50 × 6.74	48~65	平坦	全周	-	4	1	1	-	人為	鉄鎌茎	本跡→SI-168A	
169A	D3j3	N-106°-E	方形	5.55 × 5.45	40~55	平坦	全周	1	4	1	1	1	自然	土師器(坏, 甕)	SI-169B→本跡	
169B	D3j3	[N-106°-E]	[方形]	[5.55]×[5.45]	-	平坦	-	-	4	1	1	1	-	-	本跡→SI-169A	
170	E3a7	N-90°-E	長方形	3.60 × 3.00	30~35	平坦	一部	-	3	-	1	-	自然	土師器(坏, 椀, 高台付椀, 甕)羽口, 土製横造鏡		
171	E3a8	N-12°-E	長方形	5.29 × 4.81	46~56	平坦	-	1	4	1	1	-	自然	土師器(坏, 高坏, 甕)砥石		
172	E3c8	N-3°-E	長方形	5.72 × 5.22	36~73	平坦	全周	-	4	1	1	-	自然	土師器(坏, 甕, 鉢)砥石	本跡→SD-44	
173	E3e8	N-30°-W	方形	3.77 × 3.50	45~60	平坦	全周	-	-	1	1	-	自然	土師器(坏, 高坏, 甕, 甌)須惠器(坏, 环蓋) 灰釉陶器, 鉄鎌, 砥石		
174	C4h3	N-13°-W	方形	4.75 × 4.14	50~70	平坦	全周	-	4	1	1	-	自然	土師器(坏, 甕, 甌)須惠器(坏, 高台付 坏, 蓋, 高盤, 甕), 鉄釘, 紡錘車, 砥石		
175	E3f6	N-0°	[方形]	(3.80)×(2.12)	0~8	平坦	-	-	-	-	1	-	不明	土師器(坏, 甕)		
176	E4a3	N-51°-W	[方形]	3.50 × (3.10)	23~38	平坦	-	-	-	-	1	-	自然	土師器(坏, 甕)須惠器(坏, 甕)		
177	D4h1	N-77°-E	方形	4.48 × 4.12	20~46	平坦	一部	2	-	-	1	-	自然	土師器(坏, 甕)須惠器(高台付坏, 蓋, 甕)	本跡→SK181, 182	
178	D4e2	N-12°-W	方形	5.25 × 5.10	24~40	平坦	全周	-	4	1	1	-	自然	土師器(坏, 甕)須惠器(坏, 高台付坏)		
179	D4d1	N-0°	方形	7.80 × 7.75	51~55	平坦	全周	-	4	2	1	-	自然	土師器(坏, 甕, ミニチュア)須惠器(坏, 甕)土玉, 紡錘車, 鉄釘		
181A	D4a3	N-82°-E	長方形	5.26 × 4.65	17~28	平坦	一部	-	-	-	1	-	不明	土師器(坏, 高坏, 甕)須惠器(坏, 高 台付坏, 蓋, 甕, 甌)土玉, 刀子	SI-181B→本跡	
181B	D4a3	N-6°-W	方形	4.10 × 3.90	55~63	平坦	全周	-	-	-	1	-	人為	土師器(坏, 高坏, 甕, 甌)	本跡→SI-181A	
182	D4c6	N-9°-E	方形	5.43 × 5.33	60~68	平坦	全周	-	4	1	1	-	自然	土師器(坏, 甕)須惠器(坏, 高台付坏, 蓋, 甕)灰釉陶器, 土玉, 管状土錘, 砥石		
183A	C4j3	N-9°-W	方形	5.72 × 5.65	55~73	平坦	全周	8	4	-	-	-	自然	土師器(坏, 高台付坏, 甕)須惠器(坏, 高 台付坏, 蓋, 甕, 高盤)内面硯, 刀子, 砥石	SI-183C→SI-183B→本跡	
183B	C4j3	N-9°-W	方形	4.78 × 4.60	10~15	平坦	全周	-	4	-	1	-	人為	土師器(坏, 甕)須惠器(坏, 高台付坏, 甕)	SI-183C→本跡→SI-183A	
183C	C4j3	[N-9°-W]	不明	不明	不明	平坦	不明	2	4	-	[1]	-	人為	-	本跡→SI-183B→SI-183A	
184	E3g0	N-9°-E	[方形]	(4.20)×(1.60)	10~15	平坦	-	-	-	-	1	-	不明	土師器(坏, 高坏, 甕)管状土錘, 銅製品		
186A	C4h3	N-15°-E	長方形	4.80 × 5.87	30~36	平坦	全周	5	4	1	1	-	自然	土師器(坏, 甕)須惠器(坏, 高台付坏, 蓋, 甕, 高盤, 甕)灰釉陶器, 刀子, 砥石	SI-186B, 186C→本跡→SD36	
186B	C4h2	N-4°-E	方形	5.31 × 4.99	44~50	平坦	全周	3	4	-	1	1	自然	土師器(坏, 甕)須惠器(坏, 高台付坏, 蓋, 甕, 甌)砥石	SI-186C→本跡→ SI-186A, SD36	
186C	C4h2	N-4°-E	[方形]	[4.10]×[3.87]	不明	平坦	-	1	4	-	1	-	不明	土師器(坏, 高坏, 甕)	本跡→SI-186A, B→SD-36	
187	C4i8	N-71°-E	方形	4.64 × 4.43	26~36	平坦	一部	3	-	-	1	-	自然, 人為	土師器(坏, 高台付坏, 甕)須惠器(坏, 蓋, 甕)灰釉陶器, 砥石		
188A	C4d3	N-92°-E	方形	3.27 × 3.11	15~22	平坦	-	-	-	-	1	-	自然	土師器(坏, 高台付坏, 甕)須惠器(坏, 高台付坏, 蓋, 甕)灰釉陶器, 刀子, 釘	SI-188B→本跡	
188B	C4d3	N-24°-E	方形	4.90 × 4.16	36~48	平坦	全周	7	4	-	1	-	人為	土師器(坏, 高台付坏, 甕)須惠器(坏, 蓋, 甕, 甌)刀子	本跡→SI-188A	
190	C2i9	N-52°-E	[長方形]	(1.90)×(1.44)	-	平坦	-	-	-	-	1	-	不明	-		
193A	F1d9	N-17°-W	方形	5.96 × 5.77	32~44	平坦	全周	-	4	1	1	-	自然	土師器(坏, 高台付坏, 甕)須惠器(坏)	SI-193B, 193C→本跡	
193B	F1e9	N-20°-W	方形	4.80 × (2.55)	38~42	平坦	全周	-	4	-	-	-	自然	土師器(坏, 高坏, 甕)須惠器(坏, 甕)	本跡→SI-193A, 193C	
193C	F1d9	N-17°-W	方形	5.75 × 5.40	38~46	平坦	全周	2	4	-	1	-	人為	土師器(甕)	SI-193B→本跡→SI-193A	
194	F1h9	N-0°	方形	4.52 × 4.35	38~54	平坦	一部	-	4	1	1	-	人為	土師器(坏, 甕)須惠器(甕)		
195	E3e7	[N-0°]	不明	不明	不明	平坦	-	-	-	-	1	-	不明	-		
198	C3c6	N-19°-E	方形	4.30 × 3.94	7~17	平坦	-	-	-	-	1	-	不明	土師器(坏, 甕)須惠器(坏)		
199	C3c6	[N-0°]	方形	[2.74]×[2.35]	11~16	平坦	-	-	-	-	1	-	不明	土師器(坏, 甕, 甌)須惠器(坏, 甌) 灰釉陶器, 鉄鎌, 砥石		
200	C3g1	N-38°-W	方形	4.36 × 4.05	10~21	平坦	一部	-	4	-	1	-	自然	土師器(坏, 甕)須惠器(坏, 甕)釘		
201	C2j8	N-23°-E	方形	3.56 × 3.50	19~23	平坦	-	-	-	-	-	-	不明	土師器(坏, 甕)須惠器(坏, 甕)		
202	D2d4	N-17°-W	方形	5.22 × 4.97	12~30	平坦	-	-	4	1	1	-	自然	土師器(坏, 甕)	本跡→SD-40	
203A	D2g2	N-111°-E	[方形]	[3.45]×[2.83]	10	平坦	-	-	-	-	1	-	不明	土師器(坏, 高台付坏, 甕, 甌)須惠器(坏, 蓋, 甕)	SI-203B, 203D→本跡	
203B	D2g2	不明	方形	[3.10]×3.01	10	平坦	-	-	-	-	-	-	不明	土師器(甕)	本跡→SI-203A, 203B	
203D	D2f2	N-28°-W	方形	5.42 × 5.01	20~40	平坦	-	-	4	-	1	-	自然	土師器(坏, 甕)須惠器(坏, 高台付坏, 蓋)砥石	SI-203B→本跡→SI-203A	
204	D1j0	不明	不明	7.95 × (3.90)	55~67	平坦	一部	-	2	-	-	-	自然, 人為	土師器(坏, 甕)須惠器(甕)砥石		
205	E1d9	N-21°-W	方形	5.30 × 4.60	45~60	平坦	一部	-	4	1	1	-	人為	土師器(坏, 甕)須惠器(坏)灰釉陶器, 鉄鎌, 砥石	本跡→SD-44	
206	E1h0	N-6°-E	方形	2.36 × 2.31	4	平坦	-	-	-	-	-	-	不明	土師器(甕)		

住居跡 番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内部施設						覆土	出土遺物	備考
							壁溝	ピット	主柱穴	出入口	炉・竈	貯蔵穴			
207	F1a9	N-0°	方形	(2.39)×2.26	7	平坦	-	-	-	-	-	-	不明	土師器(坏,甕)須惠器(坏)灰釉陶器,鉄鏃,砾石	
208	G1a9	N-4°-E	方形	4.80×4.71	46~51	平坦	一部	-	2	-	1	-	自然	土師器(坏,甕)須惠器(坏)砾石	
209A	G2c1	N-7°-E	方形	6.66×6.35	26~56	平坦	全周	1	4	1	1	-	人為	土師器(坏,甕)須惠器(坏)鉄鏃	SI-209B→本跡
209B	G2b2	N-3°-W	方形	4.70×4.66	35~47	平坦	全周	-	4	1	1	-	自然	土師器(坏,甕)須惠器(甕)鉄鏃	本跡→SI-208A
210	G2b7	N-30°-E	方形	3.88×3.85	48~56	平坦	全周	-	4	1	1	-	自然	土師器(坏,甕)須惠器(坏)砾石	
211	G3e1	N-16°-W	方形	4.31×4.27	48~57	平坦	全周	-	4	1	1	-	自然	土師器(坏,甕)須惠器(坏)軽石	
213	G2d9	N-12°-W	方形	3.81×3.72	40~50	平坦	全周	-	-	-	1	-	自然	土師器(坏,甕)須惠器(坏,甕)石製紡錘車	
214	G2f8	N-11°-E	方形	3.34×3.19	47~54	平坦	一部	-	-	1	1	-	人為	土師器(坏,高坏,甕)須惠器(坏)	
215	G2f0	N-88°-E	方形	3.63×3.60	40~46	平坦	全周	-	-	1	1	-	自然	土師器(坏,甕)須惠器(坏,甕)灰釉陶器,鉄鏃,砾石	
216	G3f2	N-13°-W	方形	6.59×6.29	31~43	平坦	一部	-	4	1	1	-	自然	土師器(坏,甕,甗)須惠器(坏,蓋)石製勾玉	焼失
217	G3h1	N-20°-E	方形	3.85×3.80	30~37	平坦	一部	1	-	-	1	-	自然	土師器(坏,甕,手握土器)	
218A	G2h8	N-2°-E	方形	3.92×3.68	32~43	平坦	一部	-	-	1	1	-	自然	土師器(坏,甕)須惠器(坏,蓋,甕)	SI-218B→本跡
218B	G2h7	N-12°-E	長方形	7.20×6.14	15~27	平坦	全周	-	4	1	1	-	自然	土師器(坏,甕)釘,砾石	焼失
219	G2e6	N-5°-W	方形	4.33×4.11	50~52	平坦	全周	-	4	1	1	-	自然	土師器(坏,甕,甗,手握土器)須惠器(坏,蓋,甕)	
220	G2d5	N-81°-E	隅丸方形	3.95×3.92	18~24	平坦	-	1	6	-	-	-	自然	縄文土器(深鉢)	
221	G2e4	N-72°-E	方形	2.67×2.40	10~16	平坦	-	-	-	-	1	-	自然	土師器(坏,高台付坏,甕)須惠器(坏,蓋)刀子	
222	G2g3	N-14°-E	方形	4.30×4.11	15~40	平坦	全周	-	4	1	1	-	自然	土師器(坏,甕,甗)須惠器(坏)砾石	
223	G1e8	N-14°-W	方形	4.58×(3.31)	23~30	平坦	一部	-	-	-	1	-	人為	土師器(坏,甕)須惠器(坏)	本跡→SK-558
224A	G1f0	N-8°-E	[方形]	[7.72]×7.68	20~26	平坦	一部	-	4	-	1	-	自然	土師器(坏,甕)須惠器(甕)	本跡→SI-224B 焼失
224B	G2g1	N-6°-E	方形	3.52×3.24	18~20	平坦	-	-	-	1	1	-	自然	土師器(坏,甕,甗)須惠器(坏,蓋)砾石	SI-224A→本跡 焼失
225	G2i4	N-30°-E	方形	8.21×(8.16)	30~50	平坦	一部	-	4	1	1	-	自然	土師器(坏,高坏,甕,甗)須惠器(甕)刀子,砾石	本跡→SD-47
226	G2j2	不明	方形	[3.50]×[3.23]	0~28	平坦	一部	-	-	-	-	-	自然	土師器(甕)	
228	H2e4	N-30°-W	長方形	4.46×(3.44)	6~18	平坦	一部	-	-	1	1	-	自然	土師器(坏,甕)須惠器(甕)鏃	
229	H2d5	N-28°-W	方形	4.12×(2.33)	48~64	-	-	-	-	-	1	-	自然	土師器(坏,甕)石製紡錘車	
230A	H2b6	N-46°-W	方形	6.24×6.14	17~43	平坦	全周	-	4	-	1	-	自然	土師器(坏,甕)須惠器(長頸瓶,甗)勾玉,刀子	SI-230B→本跡
230B	H2d6	N-35°-W	方形	5.17×(4.16)	5~28	平坦	一部	-	-	-	1	-	自然	土師器(坏,甕)須惠器(甕)	本跡→SI-230A,SD48
231	H2a7	N-102°-E	方形	3.96×3.61	16~30	平坦	全周	-	-	-	1	-	自然	土師器(坏,高坏,甕,甗,ミニチュア)	本跡→SD-47
232	G2j8	N-63°-E	長方形	5.06×4.53	32~44	平坦	全周	-	4	1	1	-	自然	土師器(坏,碗,高坏,甕,甗)	焼失
233	H2j2	N-3°-W	方形	4.70×4.41	52~58	平坦	全周	-	4	1	1	-	自然	土師器(坏,高坏,鉢,甕,甗)須惠器(蓋,甕)	焼失
234A	G3i6	N-89°-E	方形	3.01×2.95	8~12	平坦	-	-	-	-	1	-	自然	土師器(坏,甕)	SI-234B→本跡
234B	G3i6	N-4°-W	方形	5.42×5.31	25~45	平坦	一部	-	4	-	1	-	自然	土師器(坏,碗,甕)	本跡→SI-234A 焼失
234C	H3j5	N-78°-E	方形	3.58×3.45	30~35	平坦	一部	1	-	-	1	-	自然	土師器(高台付碗,甕)須惠器(坏,長頸瓶,甕)	SI-234D→本跡
234D	G3j4	N-18°-E	方形	3.38×3.26	42~45	平坦	全周	-	-	-	1	-	自然	土師器(坏,甕)須惠器(坏)	本跡→SI-234C
235	H3b5	N-4°-E	方形	4.86×4.83	38~58	平坦	全周	-	4	1	1	-	人為	土師器(坏,碗,高坏,鉢,甕,甗,手握土器)須惠器(坏,蓋)	祭祀
236A	H3e2	N-82°-E	[長方形]	[4.84]×3.16	28~38	平坦	-	-	-	-	1	-	自然	土師器(坏,高台付坏,甕)須惠器(甕)	SI-236B→本跡
236B	H3e2	N-21°-W	方形	5.78×5.62	42~52	平坦	-	-	4	1	1	-	自然	土師器(坏,高坏,甕,手握土器)	本跡→SI-236A
237A	H2e0	N-88°-W	方形	3.50×3.23	15~24	平坦	一部	3	-	-	-	-	自然	土師器(坏,高台付碗,甕,羽釜,手握土器)須惠器(坏,長頸瓶,甕)鉄滓,羽白	SI-237B→本跡 鍛冶工房
237B	H2b0	[N-45°-W]	[隅丸長方形]	7.28×[5.54]	7~35	平坦	-	-	-	-	炉1	-	自然	弥生土器(広口壺,甕)	本跡→SI-237A,237D
237D	H2e8	N-28°-E	長方形	5.63×5.00	15~38	平坦	一部	-	4	1	1	-	人為	土師器(坏,高坏,鉢,甕)	SI-237B→本跡 焼失
238	H2e0	N-7°-W	長方形	5.87×[5.27]	3~16	平坦	-	1	4	1	1	1	不明	土師器(坏,甕,甗)須惠器(甕)	本跡→SD-49
240	H2i7	N-23°-W	方形	5.37×[5.20]	8~26	平坦	全周	-	4	1	1	-	自然	土師器(坏,甕,ミニチュア)	
241	G3j7	N-7°-W	方形	2.45×2.40	6~20	平坦	-	-	-	1	1	-	自然	土師器(甕)須惠器(坏,甕)	
242	H3f2	N-27°-W	長方形	2.46×2.11	22~36	平坦	-	-	-	-	1	-	自然	土師器(坏,甕)須惠器(坏)	
243	H3h2	N-1°-W	方形	4.50×4.43	10~34	平坦	全周	-	4	1	1	-	人為	土師器(坏,高台付坏,甕)	本跡→SD-50 焼失
244A	I3a1	N-86°-W	方形	[6.77]×(5.78)	12~27	平坦	一部	-	3	-	1	-	自然	土師器(坏,甕,ミニチュア)	本跡→SD-51 焼失

住居跡 番号	位置	主軸方向	平面形	規模(m) (長軸×短軸)	壁高 (cm)	床面	内 部 施 設						覆土	出 土 遺 物	備 考
							壁溝	ピット	主柱穴	出入口	炉・竈	貯蔵穴			
244C	I3a3	不明	隅丸方形	4.93 × 3.54	9~18	平坦	-	-	1	-	炉1	-	自然	弥生土器	本跡→SD-50, 51
245	H3g4	N-84°-E	長方形	3.27 × 2.93	7~18	平坦	-	-	-	-	1	-	自然	土師器(坏,高台付椀,甕)須恵器(坏,甕)	SI-246→本跡
246	H3h4	N-22°-W	隅丸長方形	5.12 × 4.76	24~43	平坦	-	-	4	1	炉1	-	自然	弥生土器(広口壺)	本跡→SI-245
247	H3e8	N-88°-E	方形	3.37 × 3.23	6~22	平坦	-	-	-	-	1	-	自然	土師器(坏,高台付椀,甕)須恵器(蓋)	
248	H3e8	N-43°-W	方形	6.62 × 6.36	21~26	平坦	一部	-	4	1	1	-	不明	土師器(坏,甕,ミニチュア)	
249	H4d1	N-12°-W	[方形]	[5.10]×[5.16]	5~13	平坦	一部	1	4	1	-	-	不明	土師器(坏,甕)	本跡→SK-178, 250
250	H4f1	N-10°-W	[方形]	[7.00]×[4.50]	5~13	平坦	一部	1	2	-	1	-	不明	土師器(坏,甕)	本跡→SD-51
251	H3g9	N-15°-E	隅丸長方形	4.43 × (4.10)	0~30	平坦	-	-	2	-	炉1	-	不明	弥生土器(広口壺)	
252	H3i8	N-24°-E	隅丸方形	4.91 × (3.53)	16~19	平坦	-	-	2	-	炉1	-	不明	弥生土器	本跡→SD-51
253	H3d5	N-7°-E	方形	4.33 × 4.07	54~59	平坦	全周	1	-	1	1	-	自然	土師器(坏,高坏,壺,甕)	
254	E3f6	N-45°-W	方形	3.66 × 3.48	9~21	平坦	一部	-	-	-	1	-	不明	土師器(坏,甕,手握土器)須恵器(甕)	本跡→SD-43
255	H3d4	N-9°-E	方形	3.55 × 3.44	50~56	平坦	全周	-	-	1	1	-	人為	土師器(坏,甕)	
256	H3d6	N-10°-E	方形	3.74 × 3.68	46~55	平坦	全周	-	-	1	1	-	自然	土師器(坏,高坏,甕,手握土器)須恵器(坏蓋,甕)	

2 鍛冶工房跡

当遺跡では4基の鍛冶工房跡が検出されている。今年度調査区南側から2基の工房跡が検出されているが、そのうち1基は住居跡として使用されているため第237A号住居跡として報告した。

第3号鍛冶工房跡(第415図)

位置 調査区の南部, H2f7区。

重複関係 本跡は, 第49号溝によって掘り込まれている。

規模と平面形 掘り込みが浅いため西側は削平され, 東側は第52号溝によって掘り込まれており, 規模と平面形は明確ではないが, 残存値は長軸(4.35)m, 短軸(2.9)mである。

主軸方向 不明

壁 壁高は5~10cmで, 外傾して立ち上がる。

床 平坦で, 踏み固めた部分は見られない。

ピット 2か所(P1~P2)。P1は長径66cm, 短径56cmの楕円形, 深さ35cmであるが, 性格は不明である。

P2は長軸110cm, 短軸102cmの方形で, 深さは63cm, 覆土はロームブロックを含む人為堆積である。断面形はU字状である。鍛冶炉に隣接することや羽口などが出土していることから鍛冶関連ピットと考えられる。

P2土層解説

- 1 褐 色 ローム中ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 暗 褐 色 ローム中・小ブロック少量, ローム粒子微量
- 4 暗 褐 色 焼土中ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 5 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子微量

鍛冶炉 長径54cm, 短径42cmの楕円形で, 床面を約10cm掘りくぼめ, 厚さ5cmほどの粘土を炉周辺に貼って構築されている。炉床面は, 火熱を受け青海色を呈し硬化している。

鍛冶炉土層解説

- 1 黒 褐 色 炭化・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒 褐 色 炭化粒子多量, ローム粒子少量, 焼土小ブロック・焼土粒子・ローム小ブロック微量
- 3 黒 色 粘土粒子多量
- 4 赤 褐 色 焼土小ブロック・焼土粒子多量, ローム粒子微量

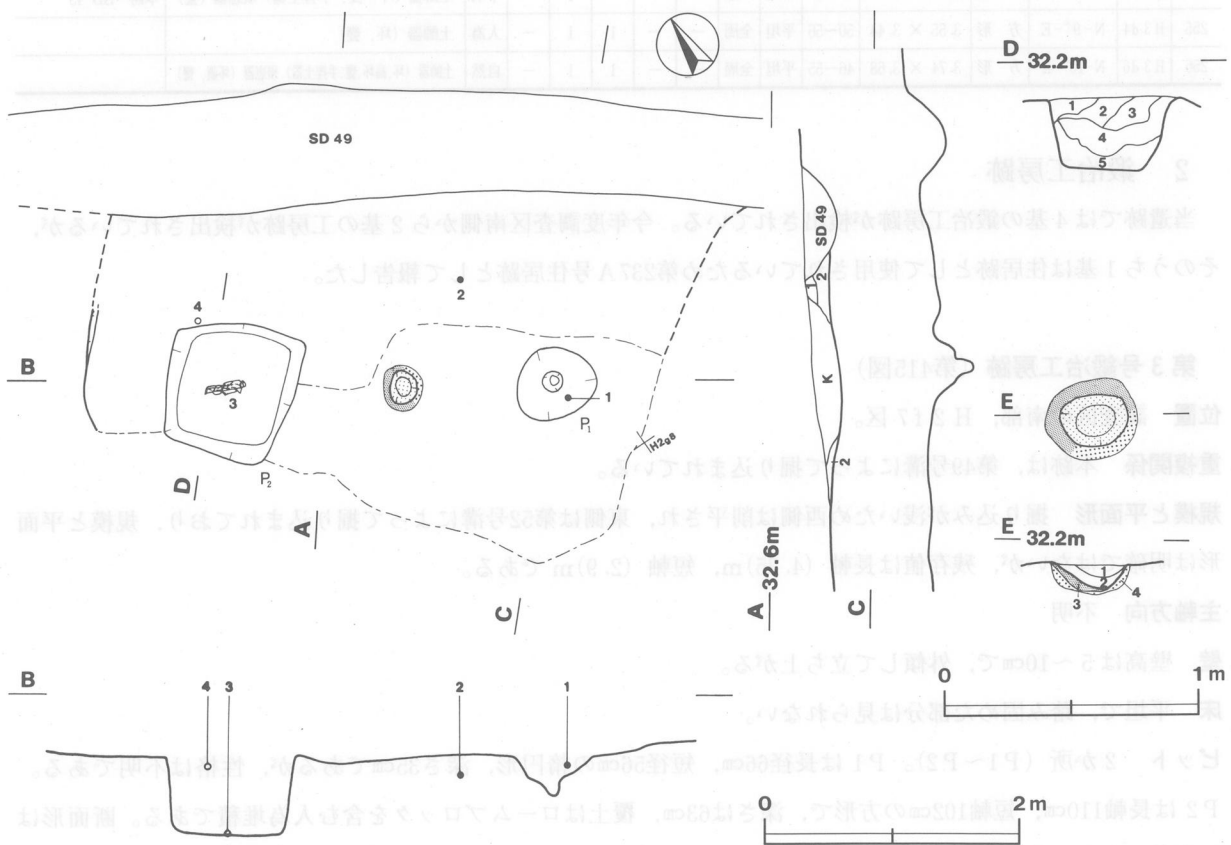
覆土 2層からなるが、覆土が浅いため、堆積状況は明確でない。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 褐色 ローム粒子中量、焼土粒子微量

遺物 土師器片37点（高台付椀片4点、甕片33点）、須恵器片6点（坏片1点、高台付坏片4点、甕片1点）、羽口2点、椀形滓1点(283g)、鉄滓622g、含鉄滓150gが出土している。第416図1の土師器高台付椀がP1、3の土製羽口がP2内から、4の土製羽口がP2の付近から出土している。2の土師器高台付椀は、覆土中から出土している。

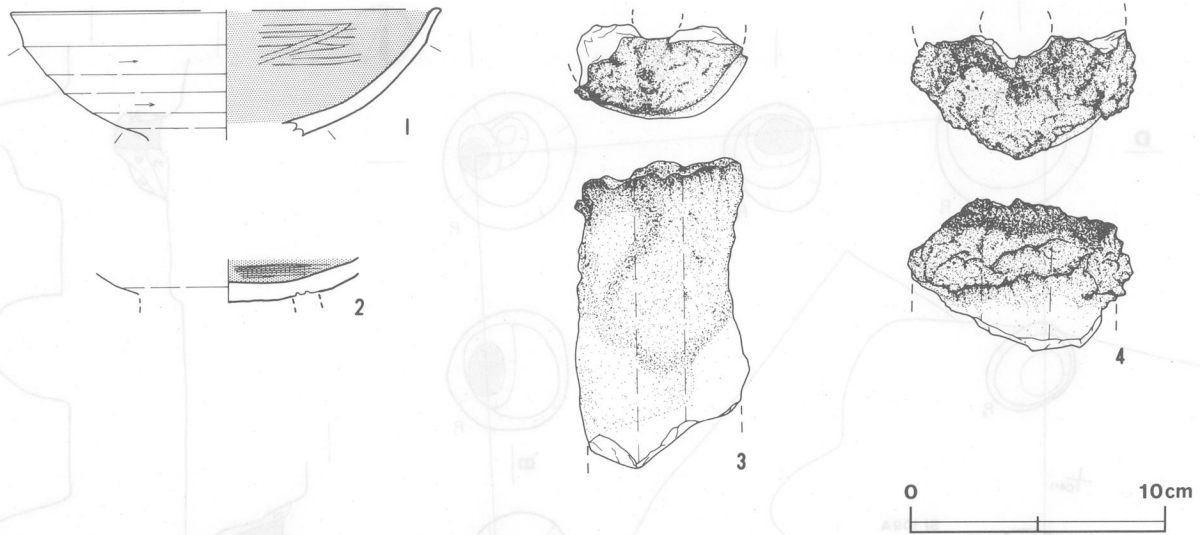
所見 本跡は鍛冶炉が検出されていることから鍛冶工房跡と思われる。時期は、遺構の形態及び出土遺物から10世紀中葉と考えられる。



第415図 第3号鍛冶工房跡実測図

第3号鍛冶工房跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第416図 1	高台付椀 土師器	A [17.0] B (5.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部クロロナデ。体部外面回転ヘラ削り、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	長石・石英・雲母 灰黄褐色 普通	P1667 20% ピット内 二次焼成
2	高台付椀 土師器	B (1.7)	体部下位片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面クロロナデ。体部内面ヘラ磨き。内面黒色処理。高台貼付け。	長石・石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P1668 20% 覆土中 二次焼成



第416図 第3号鍛冶工房跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
第416図3	羽口	(12.2)	(6.9)	-	(241.1)	ピット内	DP1126	20%	PL171
4	羽口	(6.1)	[8.7]	[2.7]	(134.6)	覆土中	DP1127	5%	PL171

3 掘立柱建物跡及び柱穴群

当遺跡から9棟の掘立柱建物跡が検出されている。今年度調査区の北側から1棟、中央部から8棟の掘立柱建物跡が検出されている。

第2号掘立柱建物跡 (第417図)

位置 調査区の北部, C4e1, C4f1区。

重複関係 本跡は, 第109A号住居跡に掘り込まれており, 第109B号住居跡を掘り込んでいる。

規模 2間×3間の側柱建物跡で, 桁行方向はN-13°-Eを示す。規模は, 桁行5.5m, 梁行4.4mである。柱間寸法は, 桁行が163~212cm, 梁行が189~242cmで, 柱穴はほぼ規則的に配置され, 柱筋はおおむね芯を通っている。柱穴掘り方は, 長径73~141cm, 短径57~112cmの楕円形のもの, 径98~105cmの円形を呈するものがある。深さは, いずれも42~80cmである。

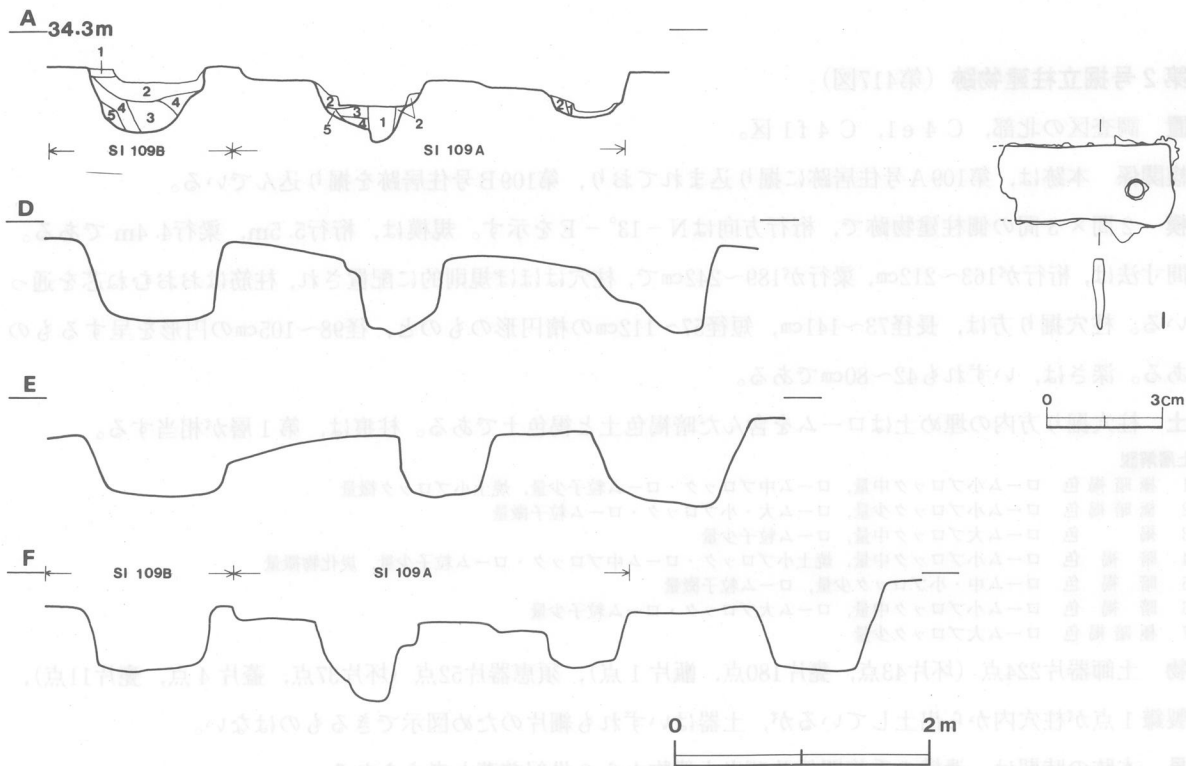
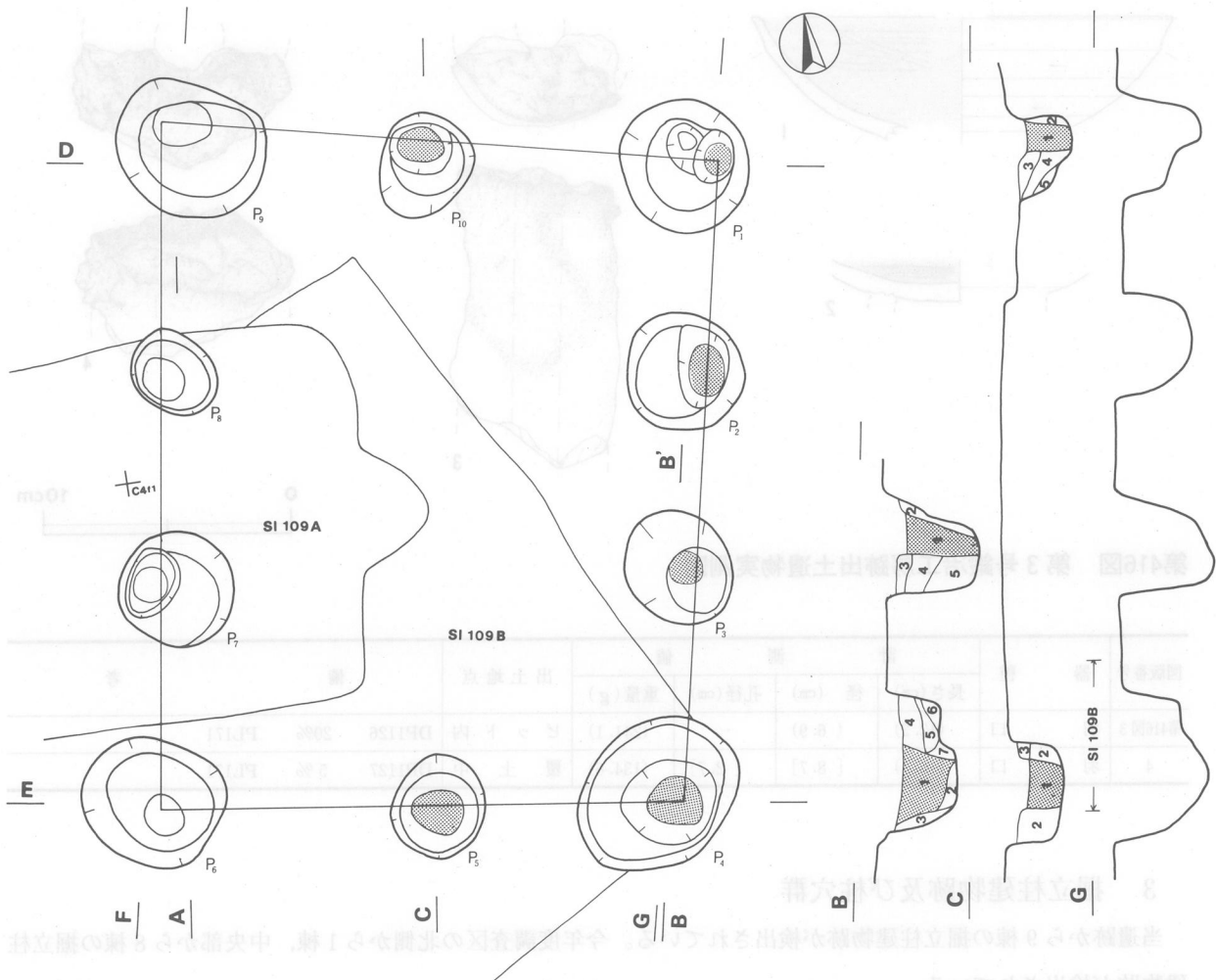
覆土 柱穴掘り方内の埋め土はロームを含んだ暗褐色土と褐色土である。柱痕は, 第1層が相当する。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム大・小ブロック・ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム大ブロック中量, ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土小ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量
- 5 暗褐色 ローム中・小ブロック少量, ローム粒子微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム粒子少量
- 7 極暗褐色 ローム大ブロック少量

遺物 土師器片224点(坏片43点, 甕片180点, 甌片1点), 須恵器片52点(坏片37点, 蓋片4点, 甕片11点), 鉄製鎌1点が柱穴内から出土しているが, 土器はいずれも細片のため図示できるものはない。

所見 本跡の時期は, 遺構の重複関係及び出土遺物から9世紀前葉と考えられる。



第417図 第2号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第2号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
第417図1	鎌	(4.8)	2.6	0.3	(7.0)	ピット内	M1031	95%	PL177

第3号掘立柱建物跡 (第418図)

位置 調査区の北部, F3i2, F3j2区。

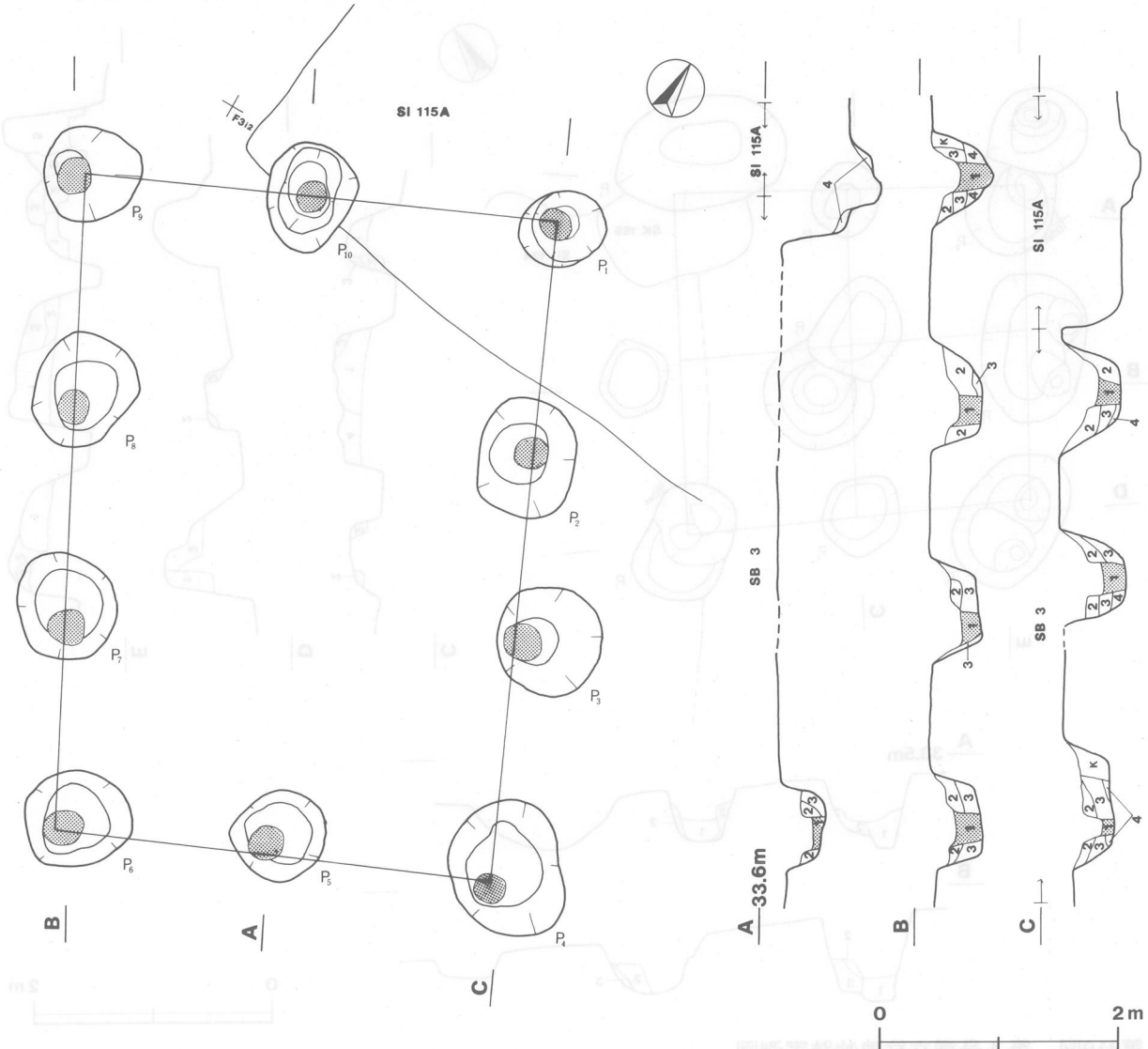
重複関係 本跡が, 第115号住居跡を掘り込んでいる。

規模 2間×3間の南北棟の側柱建物跡で, 桁行方向はN-26°-Wを示す。規模は, 桁行5.48m, 梁行4.08mである。柱間寸法は, 桁行が161~207cm, 梁行が170~207cmで, 柱穴はほぼ規則的に配置され, 柱筋はおおむね芯々を通っている。柱穴掘り方は, 長径72~114cm, 短径60~91cmの楕円形のものとして, 径92cmの円形を呈するものがある。深さは, いずれも46~102cmである。

覆土 柱穴掘り方内の埋め土は, ロームを含んだ暗褐色土である。柱痕は, 1層が相当する。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量



第418図 第3号掘立柱建物跡実測図

遺物 土師器片62点 (坏片 8点, 高坏片 1点, 甕片53点), 須恵器片 6点 (坏片 1点, 甕片 5点), 縄文土器片 3点, 弥生土器片 3点が柱穴内から出土しているが, いずれも細片のため図示できるものはない。

所見 本跡の時期は, 遺構の重複関係及び出土遺物から古墳時代後期以降と考えられる。

第4号掘立柱建物跡 (第419図)

位置 調査区の中央部, G 2 j3, G 3 a3 区。

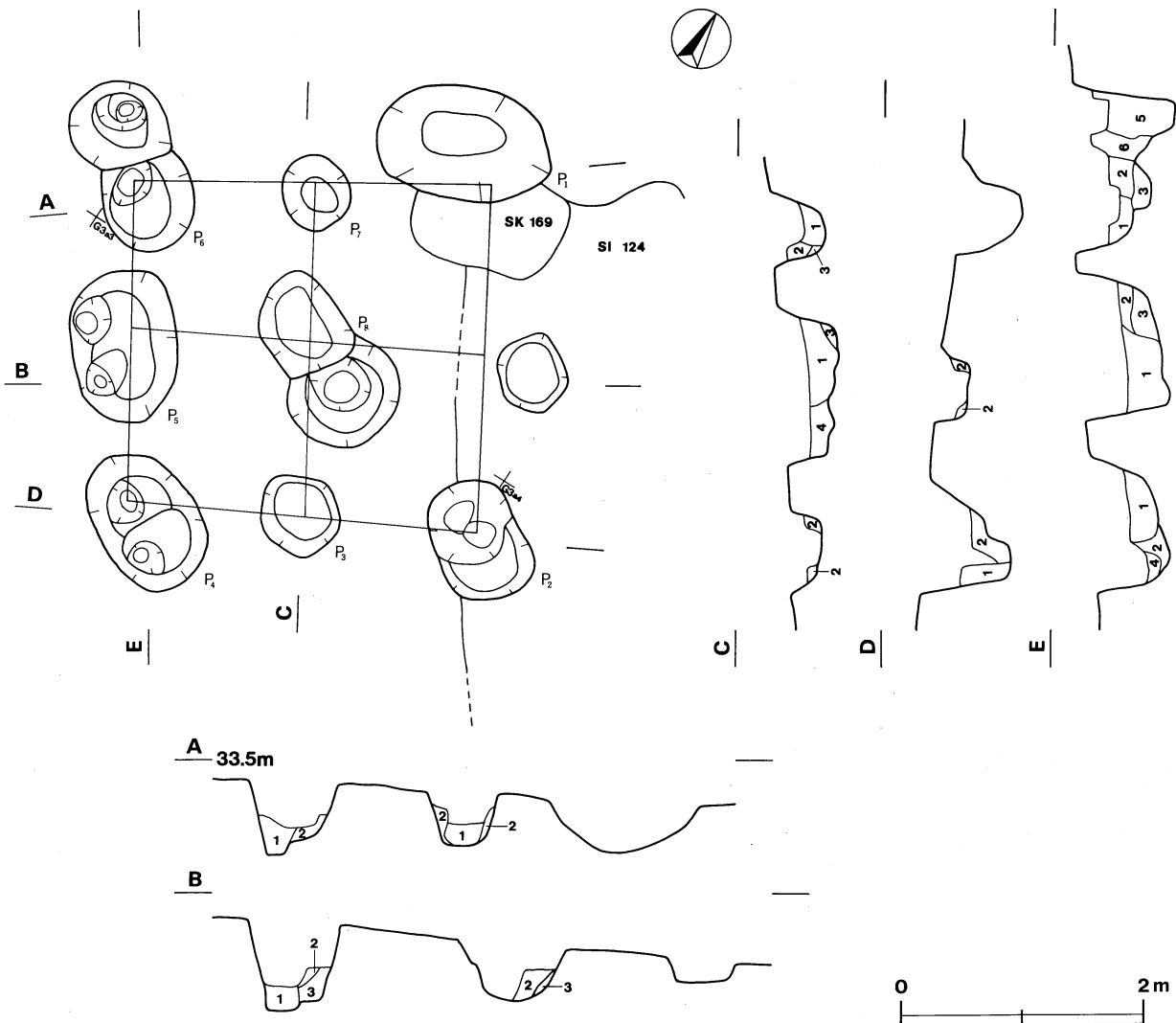
重複関係 本跡が, 第124号住居跡を掘り込んでいる。

規模 2間×2間の南北棟の総柱建物跡で, 桁行方向はN-29°-Wを示す。規模は, 桁行3.27m, 梁行2.95mである。柱間寸法は, 桁行が145~175cm, 梁行が138~150cmで, 柱穴はほぼ規則的に配置されている。柱痕は確認できなかった。柱穴掘り方は, 長径60~135cm, 短径53~94cmの楕円形を呈する。深さは, 25~85cmである。

覆土 柱穴掘り方内の埋め土は, ロームを含んだ暗褐色土, 褐色土である。

土層解説

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 炭化物・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子極微量 | 5 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子極微量 | 6 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量 |



第419図 第4号掘立柱建物跡実測図

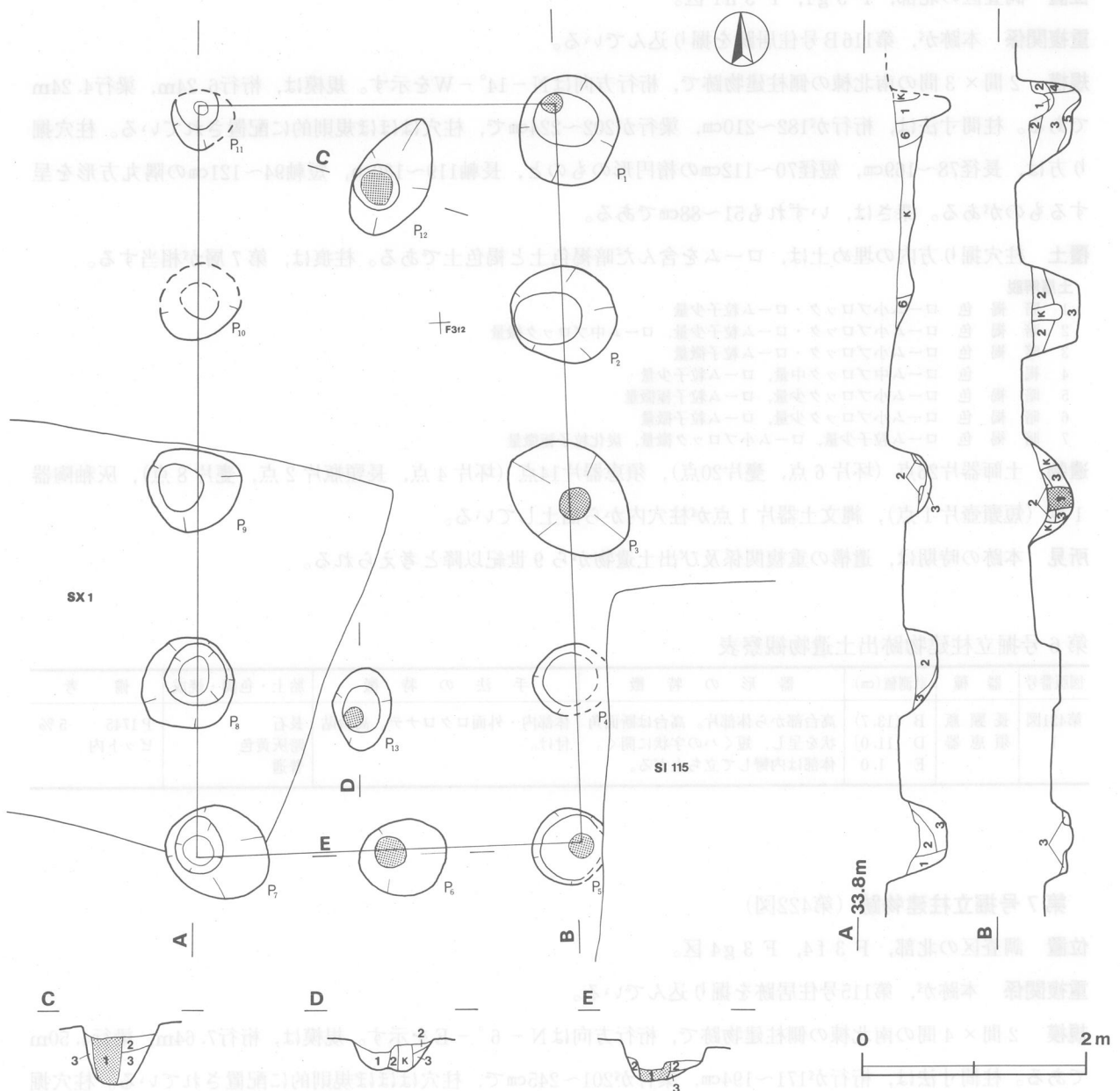
遺物 土師器片19点（甕片19点）が柱穴内から出土しているが、いずれも細片のため図示できるものはない。
所見 本跡の時期は、遺構の重複関係及び出土遺物から古墳時代後期以降と考えられる。

第5号掘立柱建物跡（第420図）

位置 調査区の北部，F 3 f1, F 3 e1 区。

重複関係 本跡が，第115号住居跡を掘り込み，第9号不明遺構に掘り込まれている。

規模 2間×4間の南北棟の側柱建物跡で，桁行方向はN-0°を示す。規模は，桁行6.80m，梁行4.89mである。柱間寸法は，桁行が148～172cm，梁行が145～169cmで，柱穴はほぼ規則的に配置され，柱筋はおおむね芯を通っている。柱穴掘り方は，長径74～121cm，短径51～90cmの楕円形のもの，径67cmの円形を呈するものがある。深さは，いずれも29～59cmである。



第420図 第5号掘立柱建物跡実測図

覆土 柱穴掘り方の埋め土は、ロームを含んだ暗褐色土と褐色土である。柱痕は、第1層が相当する。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子極微量
- 4 褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 炭化・ローム粒子少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量

遺物 遺物は出土しなかった。

所見 本跡の時期は、遺構の重複関係から古墳時代後期以降と考えられる。

第6号掘立柱建物跡 (第421図)

位置 調査区の北部, F 3 g1, F 3 h1 区。

重複関係 本跡が、第116B号住居跡を掘り込んでいる。

規模 2間×3間の南北棟の側柱建物跡で、桁行方向はN-14°-Wを示す。規模は、桁行6.24m, 梁行4.24mである。柱間寸法は、桁行が182~210cm, 梁行が202~224cmで、柱穴はほぼ規則的に配置されている。柱穴掘り方は、長径78~169cm, 短径70~112cmの楕円形のもと、長軸119~130cm, 短軸94~121cmの隅丸方形を呈するものがある。深さは、いずれも51~88cmである。

覆土 柱穴掘り方内の埋め土は、ロームを含んだ暗褐色土と褐色土である。柱痕は、第7層が相当する。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム中ブロック中量, ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子極微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 炭化粒子極微量

遺物 土師器片26点 (坏片6点, 甕片20点), 須恵器片14点 (坏片4点, 長頸瓶片2点, 甕片8点), 灰釉陶器1点 (短頸壺片1点), 縄文土器片1点が柱穴内から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の重複関係及び出土遺物から9世紀以降と考えられる。

第6号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第421図 1	長頸瓶 須恵器	B (13.7) D [11.0] E 1.0	高台部から体部片。高台は断面角状を呈し、短くハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。高台貼付け。	長石 暗灰黄色 普通	P1745 5% ピット内

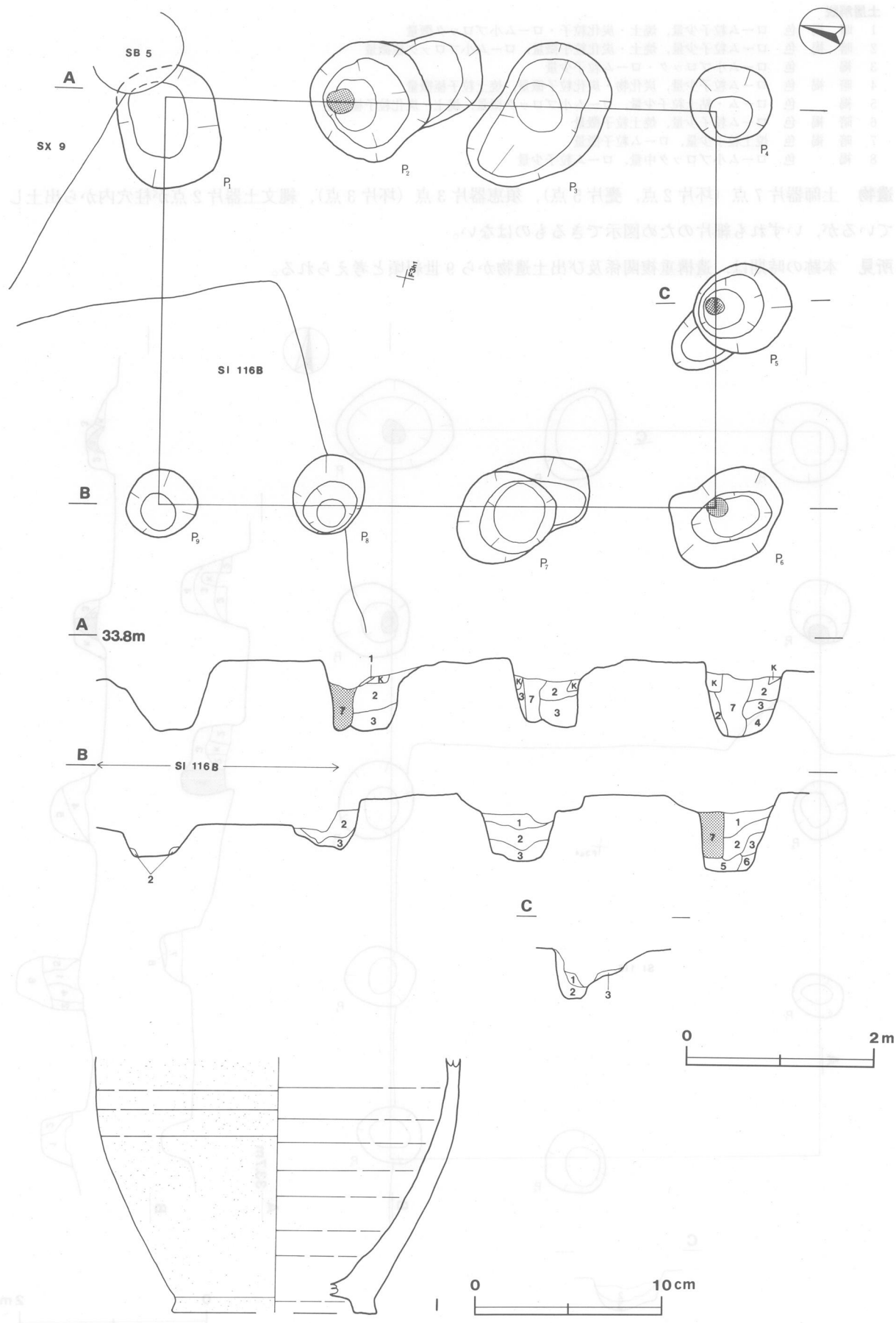
第7号掘立柱建物跡 (第422図)

位置 調査区の北部, F 3 f4, F 3 g4 区。

重複関係 本跡が、第115号住居跡を掘り込んでいる。

規模 2間×4間の南北棟の側柱建物跡で、桁行方向はN-6°-Eを示す。規模は、桁行7.64m, 梁行4.50mである。柱間寸法は、桁行が171~194cm, 梁行が201~245cmで、柱穴はほぼ規則的に配置されている。柱穴掘り方は、長径54~128cm, 短径44~100cmの楕円形を呈する。深さは、いずれも34~75cmである。

覆土 柱穴掘り方内の埋め土は、ロームを含んだ暗褐色土と褐色土である。柱痕は、第1層が相当する。



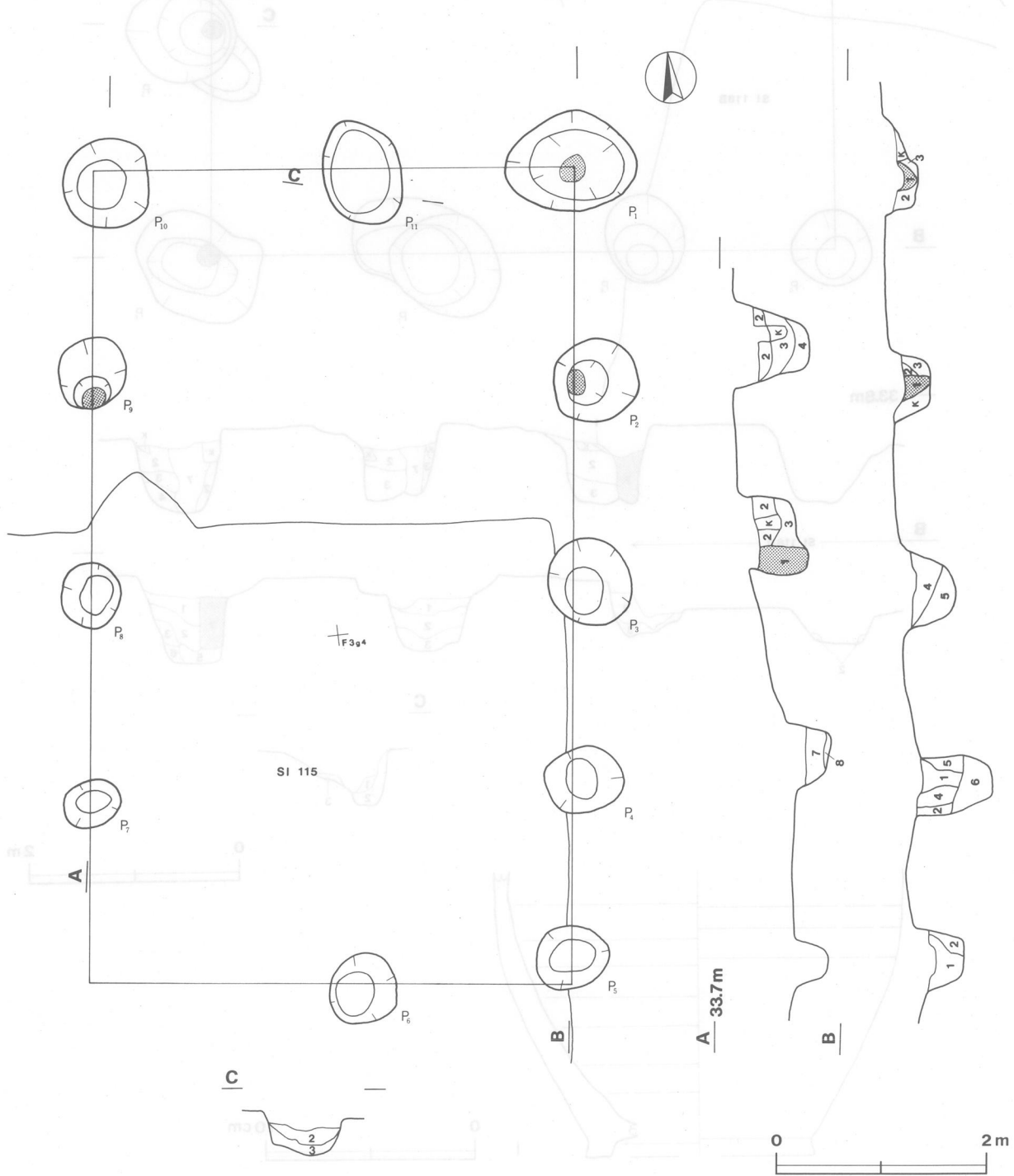
第421図 第6号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量, ローム小ブロック極微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物・炭化粒子微量, 焼土粒子極微量
- 5 褐色 ローム・粘土粒子少量, ローム小ブロック微量, 焼土・炭化粒子極微量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 7 暗褐色 焼土粒子少量, ローム粒子微量
- 8 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量

遺物 土師器片 7 点 (坏片 2 点, 甕片 5 点), 須恵器片 3 点 (坏片 3 点), 縄文土器片 2 点が柱穴内から出土しているが, いずれも細片のため図示できるものはない。

所見 本跡の時期は, 遺構重複関係及び出土遺物から 9 世紀頃と考えられる。



第422図 第7号掘立柱建物跡実測図

第8号掘立柱建物跡 (第423図)

位置 調査区の北部, F 3 b4, F 3 c4, F 3 d4 区。

重複関係 本跡が, 第127A・第127D号住居跡を掘り込んでいる。

規模 3間×4間の南北棟の側柱建物跡で, 桁行方向はN-3°-Eを示す。規模は, 桁行7.56m, 梁行4.80mである。柱間寸法は, 桁行が152~221cm, 梁行が143~173cmで, 柱穴はほぼ規則的に配置されている。柱穴掘り方は, 長径79~123cm, 短径60~115cmの楕円形を呈する。深さは, いずれも24~59cmである。

覆土 柱穴掘り方内の埋め土は, ロームを含んだ暗褐色土と褐色土である。柱痕は, 第1層が相当する。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム中ブロック多量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量

遺物 土師器片5点(坏片1点, 甕片4点)が柱穴内から出土しているが, 土器は, いずれも細片のため図示できるものはない。

所見 本跡の時期は, 遺構の重複関係及び出土遺物から8世紀前葉以降と考えられる。

第9号掘立柱建物跡 (第424図)

位置 調査区の北部, F 3 b1, F 3 c1, F 3 d1 区。

重複関係 本跡が, 第126A・127A号住居跡を掘り込んでいる。

規模 3間×4間の南北棟の側柱建物跡で, 桁行方向はN-4°-Eを示す。規模は, 桁行8.00m, 梁行4.14mである。柱間寸法は, 桁行が183~226cm, 梁行が158~238cmで, 柱穴はほぼ規則的に配置されている。柱穴掘り方は, 長径54~100cm, 短径47~87cmの楕円形を呈する。深さは, いずれも37~79cmである。

覆土 柱穴掘り方内の埋め土はロームを含んだ暗褐色土と褐色土である。柱痕は, 第1層が相当する。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物極微量
- 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量

遺物 遺物は出土しなかった。

所見 本跡の時期は, 遺構の重複関係から奈良時代以降と考えられる。

第10号掘立柱建物跡 (第424図)

位置 調査区の北部, F 3 c2, F 3 d2 区。

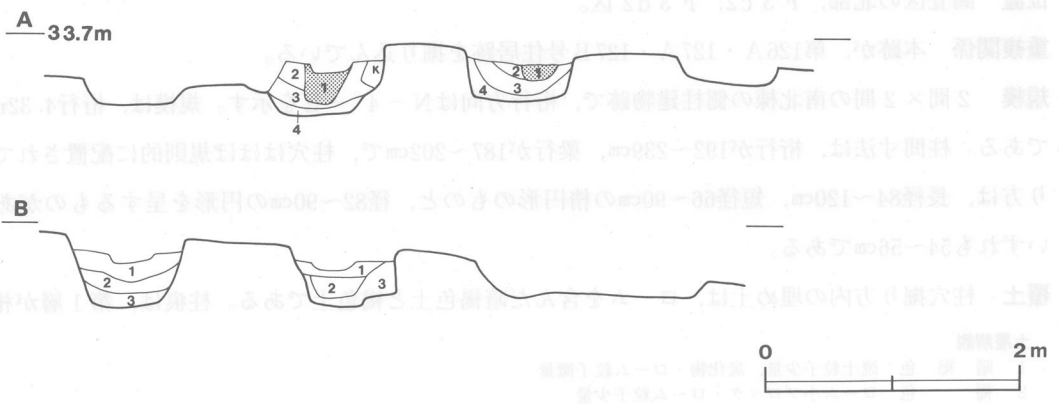
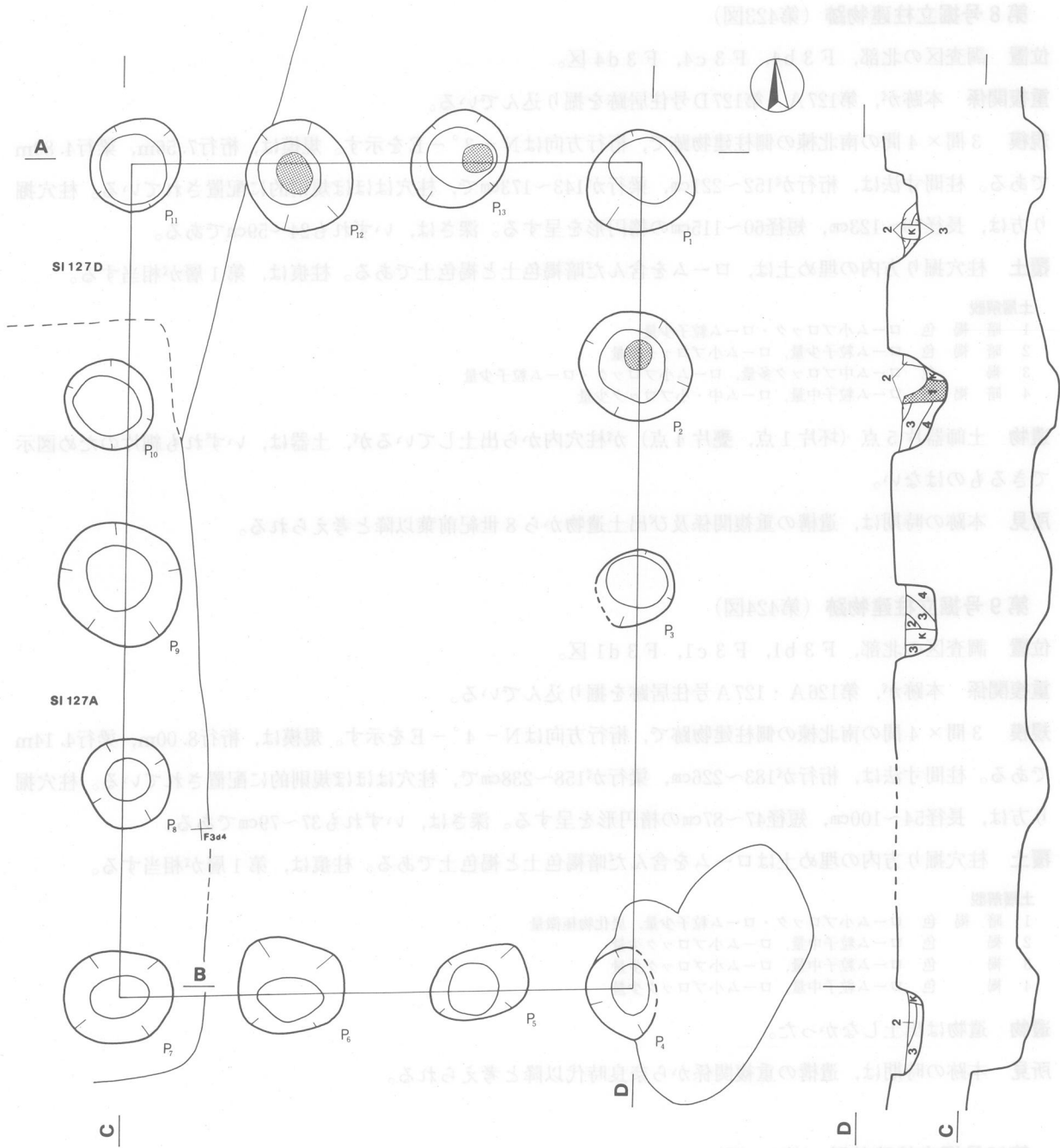
重複関係 本跡が, 第126A・127A・127B号住居跡を掘り込んでいる。

規模 2間×2間の南北棟の側柱建物跡で, 桁行方向はN-4°-Eを示す。規模は, 桁行4.32m, 梁行4.04mである。柱間寸法は, 桁行が192~239cm, 梁行が187~202cmで, 柱穴はほぼ規則的に配置されている。柱穴掘り方は, 長径84~120cm, 短径66~90cmの楕円形のもの, 径82~90cmの円形を呈するものがある。深さは, いずれも54~56cmである。

覆土 柱穴掘り方内の埋め土は, ロームを含んだ暗褐色土と褐色土である。柱痕は, 第1層が相当する。

土層解説

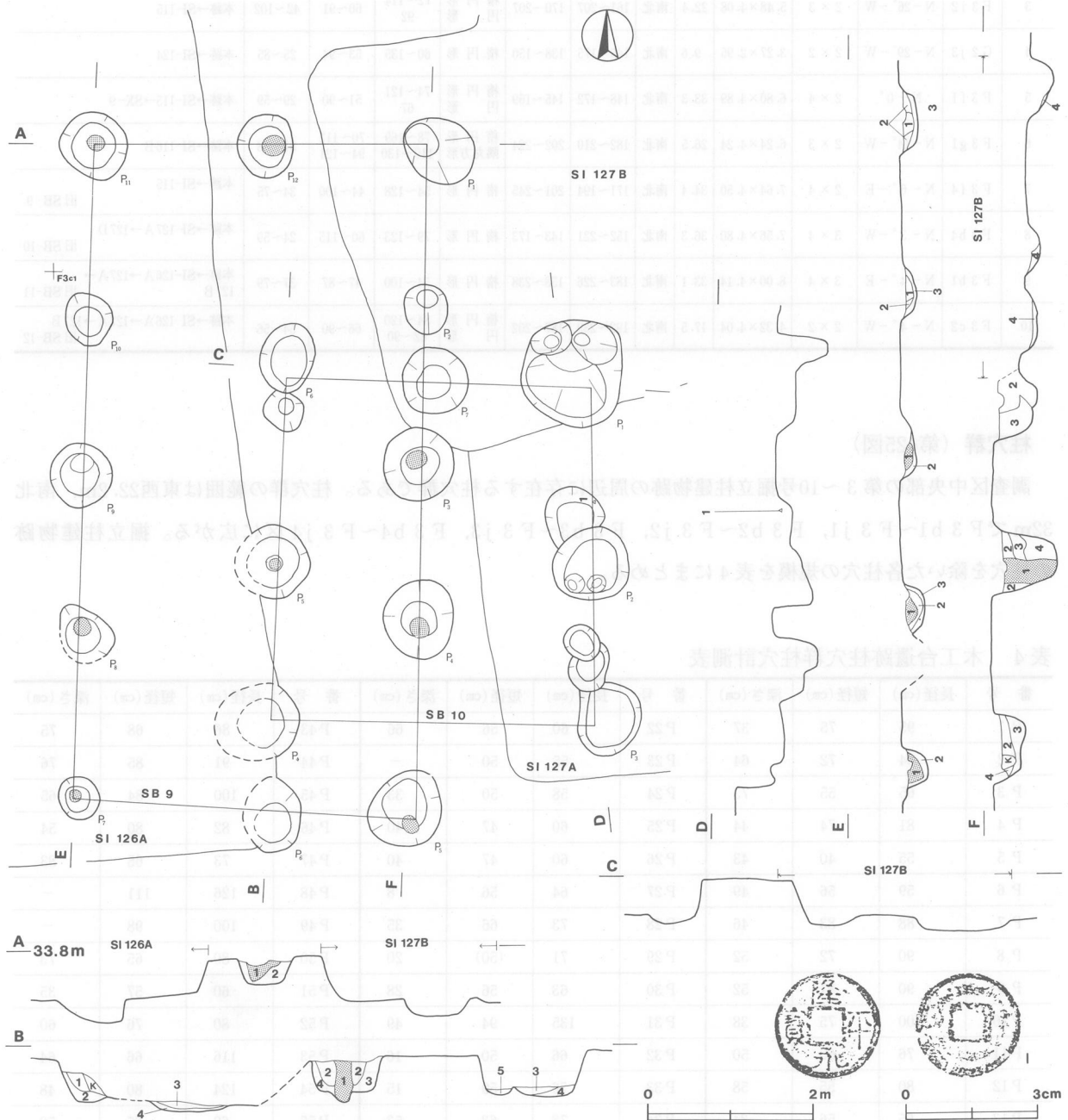
- 1 暗褐色 焼土粒子少量, 炭化物・ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量
- 4 褐色 ローム小ブロック中量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量



第423図 第8号掘立柱建物跡実測図

遺物 土師器片 3点 (甕片 3点), 古銭 1点が柱穴内から出土している。第424図1の古銭がP2内から出土している。土器はいずれも細片のため図示できるものはない。

所見 本跡の時期は、遺構重複関係及び出土遺物から9世紀後葉以降と考えられる。



第424図 第9・10号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第10号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	(古銭) 銭種	初 年		出土地点	備 考
		時 代	年号 (西暦)		
第424図1	隆平永寶	皇朝十二銭	延暦15年 (896年)	ピット覆土中	M10 真書 PL179

表3 木工台遺跡掘立柱建物跡一覧表

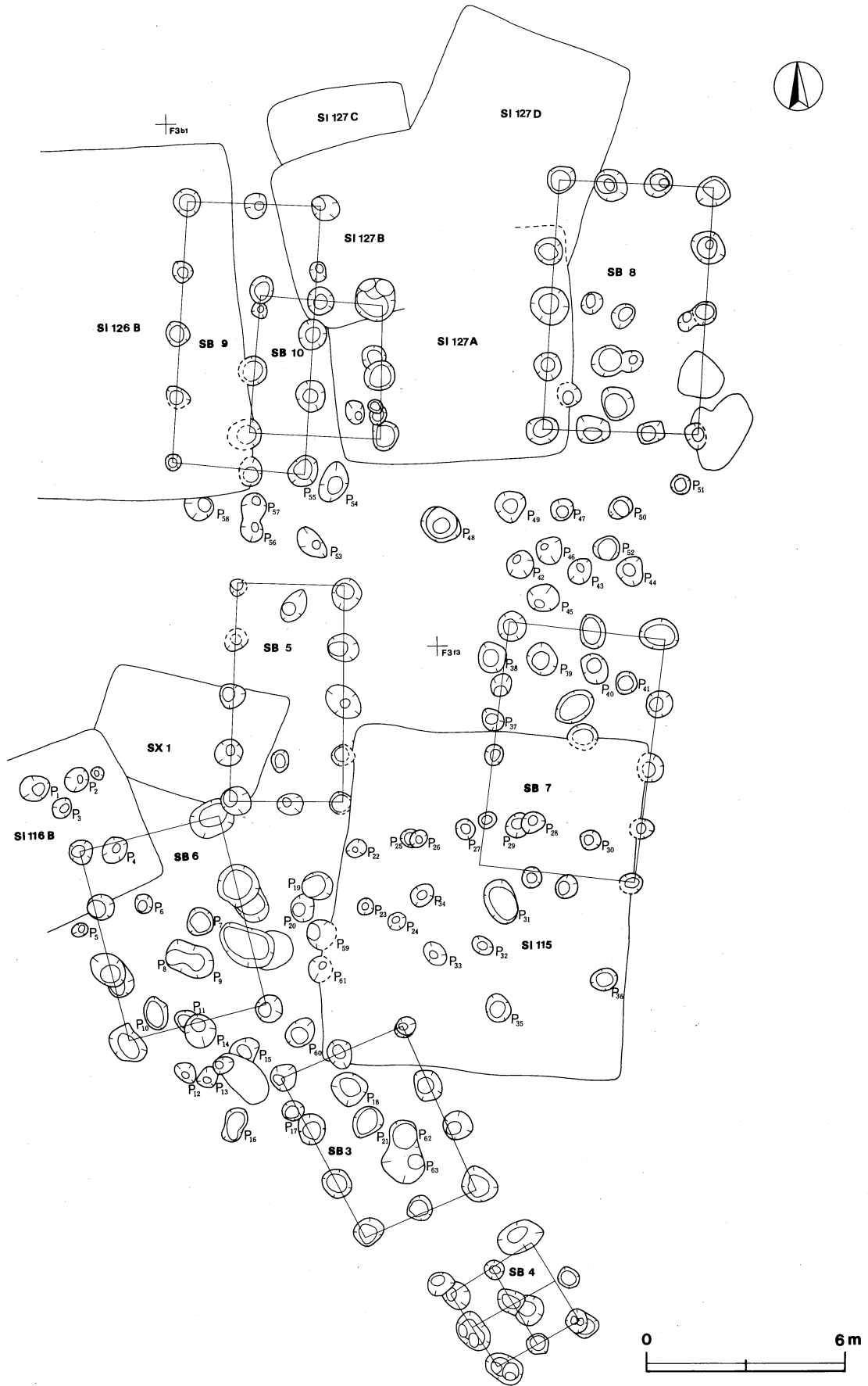
掘立柱建物跡番号	位置	方向	柱間 (桁×梁)	規模 (m)	面積 (㎡)	建物	桁柱間 (m)	梁柱間 (m)	柱 穴				備 考 新旧関係(新→旧)
									平面形	長径(軸) 径(cm)	短径(軸) (cm)	深さ(cm)	
2	C4e1	N-13°-E	2×3	5.50×4.40	24.2	南北	163~212	189~242	橢円形 円形	73~141 98~105	57~112	42~80	SI-109A→本跡→SI-109B
3	F3i2	N-26°-W	2×3	5.48×4.08	22.4	南北	161~207	170~207	橢円形 円形	72~114 92	60~91	42~102	本跡→SI-115
4	G2j3	N-29°-W	2×2	3.27×2.95	9.6	南北	145~175	138~150	橢円形	60~135	53~94	25~85	本跡→SI-124
5	F3f1	N-0°	2×4	6.80×4.89	33.3	南北	148~172	145~169	橢円形 円形	74~121 67	51~90	29~59	本跡→SI-115→SX-9
6	F3g1	N-14°-W	2×3	6.24×4.24	26.5	南北	182~210	202~224	橢円形 隅丸方形	78~169 119~130	70~112 94~121	51~88	本跡→SI-116B
7	F3f4	N-6°-E	2×4	7.64×4.50	34.4	南北	171~194	201~245	橢円形	54~128	44~100	34~75	本跡→SI-115 旧SB-9
8	F3b4	N-3°-W	3×4	7.56×4.80	36.3	南北	152~221	143~173	橢円形	79~123	60~115	24~59	本跡→SI-127A→127D 旧SB-10
9	F3b1	N-4°-E	3×4	8.00×4.14	33.1	南北	183~226	158~238	橢円形	54~100	47~87	37~79	本跡→SI-126A→127A→ 127B 旧SB-11
10	F3c2	N-4°-W	2×2	4.32×4.04	17.5	南北	192~239	187~202	橢円形 円形	84~120 82~90	66~90	54~56	本跡→SI-126A→127A→127B 旧SB-12

柱穴群 (第425図)

調査区中央部の第3~10号掘立柱建物跡の周辺に存在する柱穴群である。柱穴群の範囲は東西22.2m, 南北32mでF3b1~F3j1, F3b2~F3j2, F3b3~F3j3, F3b4~F3j4区に広がる。掘立柱建物跡の柱穴を除いた各柱穴の規模を表4にまとめる。

表4 木工台遺跡柱穴群柱穴計測表

番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)	番号	長径(cm)	短径(cm)	深さ(cm)
P1	95	75	37	P22	60	56	66	P43	86	68	75
P2	84	72	64	P23	55	50	-	P44	91	85	76
P3	65	55	73	P24	58	50	33	P45	100	84	65
P4	81	74	44	P25	60	47	40	P46	82	80	54
P5	55	40	43	P26	60	47	40	P47	73	65	83
P6	59	56	49	P27	64	56	8	P48	126	111	-
P7	88	83	46	P28	73	66	35	P49	100	98	-
P8	90	72	52	P29	71	(50)	20	P50	80	65	73
P9	90	81	52	P30	63	56	28	P51	60	57	35
P10	100	75	38	P31	135	94	49	P52	80	76	60
P11	76	60	50	P32	66	50	16	P53	116	66	64
P12	80	55	58	P33	76	59	15	P54	124	80	48
P13	65	56	34	P34	78	63	53	P55	69	65	50
P14	60	46	44	P35	89	80	21	P56	83	71	63
P15	95	75	58	P36	84	65	13	P57	(79)	80	36
P16	111	98	51	P37	74	65	-	P58	91	76	33
P17	65	62	40	P38	95	81	45	P59	90	(70)	45
P18	111	98	51	P39	100	83	46	P60	95	75	30
P19	95	84	42	P40	100	76	70	P61	80	[72]	-
P20	80	67	60	P41	65	62	-	P62	[110]	88	-
P21	109	85	30	P42	29	26	70	P63	130	[120]	-



第425图 柱穴群実測图

4 土 坑

当遺跡からは、土坑275基を検出した。形状、覆土の堆積状況、出土遺物等について特徴が顕著に認められるものについて検討した結果、次のように分類した。

- (1) 鍛冶関連遺物が出土している土坑…………… 3 基
- (2) 堆積状況が人為的な土坑…………… 2 基
- (3) 粘土貼りの土坑…………… 5 基
- (4) 底面に小ピットを伴う土坑…………… 1 基
- (5) 井戸状遺構…………… 1 基
- (6) 遺物が多い土坑、堅穴住居跡に重複している土坑…………… 2 基
- (7) その他の土坑……………261基

以下、土坑の形状、規模、覆土の状態及び出土遺物等に特徴がある(1)~(6)については文章で記載し、(7)のその他のものは一覧表で記載する。

(1) 鍛冶関連遺物が出土している土坑

第221号土坑 (第426図)

位置 調査区の北部、D 3 b4 区。

規模と平面形 長径2.32m、短径2.00mの不整楕円形で、深さは80cmである。

長径方向 N - 59° - W

壁面 ほぼ垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 10層からなり、ブロック状の堆積がみられることから、人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 焼土中・小ブロック・炭化物・焼土・炭化・ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム大・中ブロック少量
- 3 極暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム大ブロック微量
- 4 黒色 焼土小ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子微量
- 5 黒色 焼土大ブロック・ローム小ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
- 7 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム中・小ブロック・炭化物微量
- 8 極暗褐色 ローム小ブロック少量、炭化物・ローム大ブロック微量
- 9 極暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・ローム粒子微量
- 10 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・ローム大・中ブロック微量

遺物 土師器片769点 (坏片120点、甕片611点、椀片36点、蓋片2点)、須恵器片44点 (坏片27点、甕片11点、椀片3点、蓋片3点)、羽口2点、椀形滓157.5g、鉄滓1703.3g、含鉄滓968.3gが出土している。覆土中層では、第428図1、2の土師器小皿、3の土師器足高高台付椀、5、6の土師器甕、8の羽口が出土している。覆土下層では、7の羽口が出土している。4の土師器甕は、覆土中層と覆土下層の破片が接合したものである。

所見 椀形滓、鉄滓、含鉄滓、羽口等の鍛冶関連遺物が多量に出土していることから、本跡は鍛冶関連施設と考えられる。本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から10世紀後葉と考えられる。ほとんどの遺物は、出土状況から一括投棄されたと考えられる。

第182号土坑 (第426図)

位置 調査区の北東部、D 4 g5 区。

重複関係 本跡が、第177号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径1.71m、短径1.37mの不整楕円形で、深さは71cmである。

長径方向 N-38°-W

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 凸凹がある。

覆土 5層からなり、不自然な堆積を示していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化物・焼土・炭化・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化物・焼土・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 炭化物・ローム中・小ブロック・焼土・炭化・ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 5 明褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土・炭化粒子微量

遺物 土師器片39点(坏片18点, 甕片20点, 椀片1点), 須恵器片2点(坏片1点, 蓋片1点), 土製品, 鉄製品, 含鉄滓5.2gが出土している。覆土中層では, 第428図9の土師器坏, 14, 16, 19, 20の土玉, 22, 26の管状土錘, 25の鉄鉗が出土している。覆土下層では, 10, 11の土師器高台付椀, 12, 13, 15の土玉, 21, 23の管状土錘が出土している。底面では, 17, 18の土玉が出土している。覆土中では, 26の鉄鎌が出土している。

所見 鍛冶工具遺物である鉄鉗が出土していることから, 本跡は鍛冶関連施設である可能性がある。本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から10世紀中葉と考えられる。

第456号土坑 (第426図)

位置 調査区の南東部, H3g8区。

規模と平面形 長軸0.86m, 短軸0.78mの不整長方形で, 深さは23cmである。

長軸方向 N-90°

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 皿状である。

覆土 2層からなり, 炭化物や灰を含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 炭化物少量, ローム粒子微量
- 2 黒褐色 炭化物・ローム粒子微量

遺物 土師器片15点(甕片15点), 椀形滓3850.2g, 鉄滓2724.2g, 含鉄滓7427.9gが出土している。椀形滓は12点出土している。

所見 鍛冶関連遺物である椀形滓, 鉄滓, 含鉄滓が多量に出土していることから, 本跡は鍛冶関連施設である可能性がある。本跡の時期は, 限定できる遺物がなく不明である。

(2) 堆積状況が人為的な土坑

第178号土坑 (第426図)

位置 調査区の南東部, H4d1区。

重複関係 本跡が, 第249号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸2.44m, 短軸1.57mの長方形で, 深さは82cmである。

長軸方向 N-86°-W

壁面 ほぼ垂直に立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 5層からなり, ロームブロックを多く含むことから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 2 褐 色 ローム粒子中量, ローム中・小ブロック少量, 焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム大ブロック微量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土・炭化粒子・ローム大・中ブロック微量
- 4 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子多量, ローム中ブロック少量, 焼土粒子・ローム大ブロック微量
- 5 褐 色 ローム粒子多量, ローム中ブロック中量, ローム大ブロック少量, 焼土小ブロック微量

遺物 土師器片 6 点 (甕片 6 点) が覆土中から出土しているが, いずれも破片である。

所見 本跡の時期は限定できる遺物がなく不明であるが, 第249号住居跡 (6 世紀中葉) を掘り込んでいることから, 6 世紀中葉以降であると考えられる。

第457号土坑 (第426図)

位置 調査区の南東部, H 4 e 4 区。

規模と平面形 長軸2.19m, 短軸2.09m の不整形で, 深さは94cmである。

長軸方向 N - 59° - W

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 6 層からなり, ロームブロックを多く含み, ブロック状の堆積を示していることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 2 暗 褐 色 ローム中ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 3 暗 褐 色 ローム粒子多量
- 4 暗 褐 色 ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗 褐 色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 6 褐 色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量

遺物 土師器片 5 点 (坏片 1 点, 甕片 4 点) が覆土中から出土しているが, いずれも破片である。

所見 本跡の時期は, 限定できる遺物がなく不明である。

(3) 粘土貼りの土坑

第251号土坑 (第426図)

位置 調査区の東部, H 4 c 2 区。

規模と平面形 長軸1.63m, 短軸1.06m の不整形長方形で, 深さは25cm, 断面形は椀状である。粘土が12~20cm の厚さで土坑全体に貼られている。

長軸方向 N - 4° - W

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 硬く締まり, 平坦である。

覆土 2 層からなり, ロームブロックを多く含むことから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 2 明 褐 色 粘土粒子中量

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期は出土遺物がなく不明であるが, 第249号住居跡 (6 世紀中葉) を掘り込んでいることから, 6 世紀中葉以降であると考えられる。

第252号土坑（第426図）

位置 調査区の南東部，H 4 b2 区。

規模と平面形 長軸1.55m，短軸1.08m の長方形で，深さは14cm，断面形は皿状である。粘土が³3～6cmの厚さで土坑全体に貼られている。

長軸方向 N-0°

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 硬く締まり，皿状である。

覆土 3層からなり，ロームブロックを多く含むことから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，炭化物微量
- 3 にぶい黄色 粘土粒子多量

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期は，出土遺物がなく不明である。

第450号土坑（第426図）

位置 調査区の東部，F 4 f1 区。

規模と平面形 長径2.34m，短径1.05m の長楕円形で，深さは8cm，断面形は皿状である。粘土が⁵5～8cmの厚さで土坑全体に貼られている。

長径方向 N-90°

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 硬く締まり，皿状である。

覆土 2層からなるが，覆土が浅く，堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 にぶい褐色 粘土粒子少量
- 2 明褐色 粘土粒子中量

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期は，出土遺物がなく不明である。

第460号土坑（第426図）

位置 調査区の南東部，H 4 c1 区。

重複関係 本跡が，第178号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸1.51m，短軸0.76m の隅丸長方形で，深さは29cm，断面形は椀状である。粘土が⁸8～15cmの厚さで土坑全体に貼られている。

長軸方向 N-90°

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 硬く締まり，平坦である。

覆土 6層からなり，ロームブロックやローム粒子を多く含むことから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化粒子・ローム大・中ブロック微量
- 3 明褐色 ローム粒子多量，ローム中・小ブロック少量，ローム大ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子少量，焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 5 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，粘土粒子少量
- 6 灰白色 粘土粒子少量

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期は、出土遺物がなく不明である。

第250号土坑（第426図）

位置 調査区の南東部，H 4 d1 区。

重複関係 本跡が，第249号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸1.76m，短軸1.16mの長方形で，深さは10cm，断面形は皿状である。粘土が8～10cmの厚さで土坑全体に貼られている。

長軸方向 N-90°

壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 硬く締まり，平坦である。

覆土 2層からなり，堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量，焼土粒子微量
- 2 浅黄色 焼土・ローム粒子微量，粘土粒子多量

遺物 出土していない。

所見 本跡の時期は出土遺物がなく不明であるが，第249号住居跡（6世紀中葉）を掘り込んでいることから，6世紀中葉以降と考えられる。

(4) 底面に小ピットを伴う土坑

第395号土坑（第427図）

位置 調査区の東部，F 3 b0 区。

規模と平面形 長軸3.10m，短軸2.55mの長方形で，深さは119cmである。

長軸方向 N-32°-E

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦で長方形を呈している。

ピット 2か所(P1～P2)。P1は長径45cm，短径36cmの楕円形，深さ39cm，P2は径31cmの円形，深さ31cmである。

覆土 6層からなり，焼土，炭化物，ロームブロックを含み，人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 3 褐色 ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム大ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子中量，ローム中・小ブロック少量
- 5 明褐色 ローム粒子中量，ローム大・中・小ブロック少量，炭化物・炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土小ブロック・ローム中ブロック微量

遺物 土師器片6点（甕片6点）が覆土中から出土しているが，いずれも破片である。

所見 本跡の時期は，限定できる遺物がなく不明である。

(5) 井戸状遺構

第1号井戸状遺構（第427図）

位置 調査区の東部，G 3 e0 区。

重複関係 本跡が、第428号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.08mの円形で、確認面から0.92mの深さまで急傾斜を持つ。そこから下は円筒形をしている。

底面 皿状である。

覆土 7層からなり、ロームブロックを多く含むことから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | |
|---|-----|---------------------------------|
| 1 | 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 | 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量 |
| 4 | 褐色 | ローム粒子少量 |
| 5 | 褐色 | ローム粒子多量, ローム小ブロック少量 |
| 6 | 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 7 | 褐色 | ローム中ブロック多量, ローム小ブロック・ローム粒子少量 |

遺物 出土していない。

所見 本跡は粘土層を掘り込んでいるため、井戸状遺構と考えられる。時期は、出土遺物がなく不明である。

(6) 遺物が多い土坑, 竪穴住居跡に重複している土坑

第451号土坑 (第427図)

位置 調査区の南東部, H3 b0区。

重複関係 本跡が、第430号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸1.00m, 短軸0.72mの不整長方形で、深さは71cmである。

長軸方向 N-90°

壁面 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 単一層からなり、ロームブロックを多く含むことから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | |
|---|-----|------------------|
| 1 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量 |
|---|-----|------------------|

遺物 土師器片38点(坏片17点, 甕片21点), 土製品1点が出土している。覆土上層では、第429図28, 31, 32の土師器坏が出土している。覆土中層では、27の土師器坏, 33, 34の土師器碗が出土している。29の土師器坏は、覆土上層と覆土中層の破片が接合している。30の土師器坏は、覆土中層と覆土下層の破片が接合している。35の土玉は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、遺構の形態及び出土遺物から6世紀前葉と考えられる。

第168号土坑 (第427図)

位置 調査区の北部, C4 j1区。

重複関係 本跡が、第110A号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径1.34m, 短径1.17mの楕円形で、深さは32cmである。

長径方向 N-6°-E

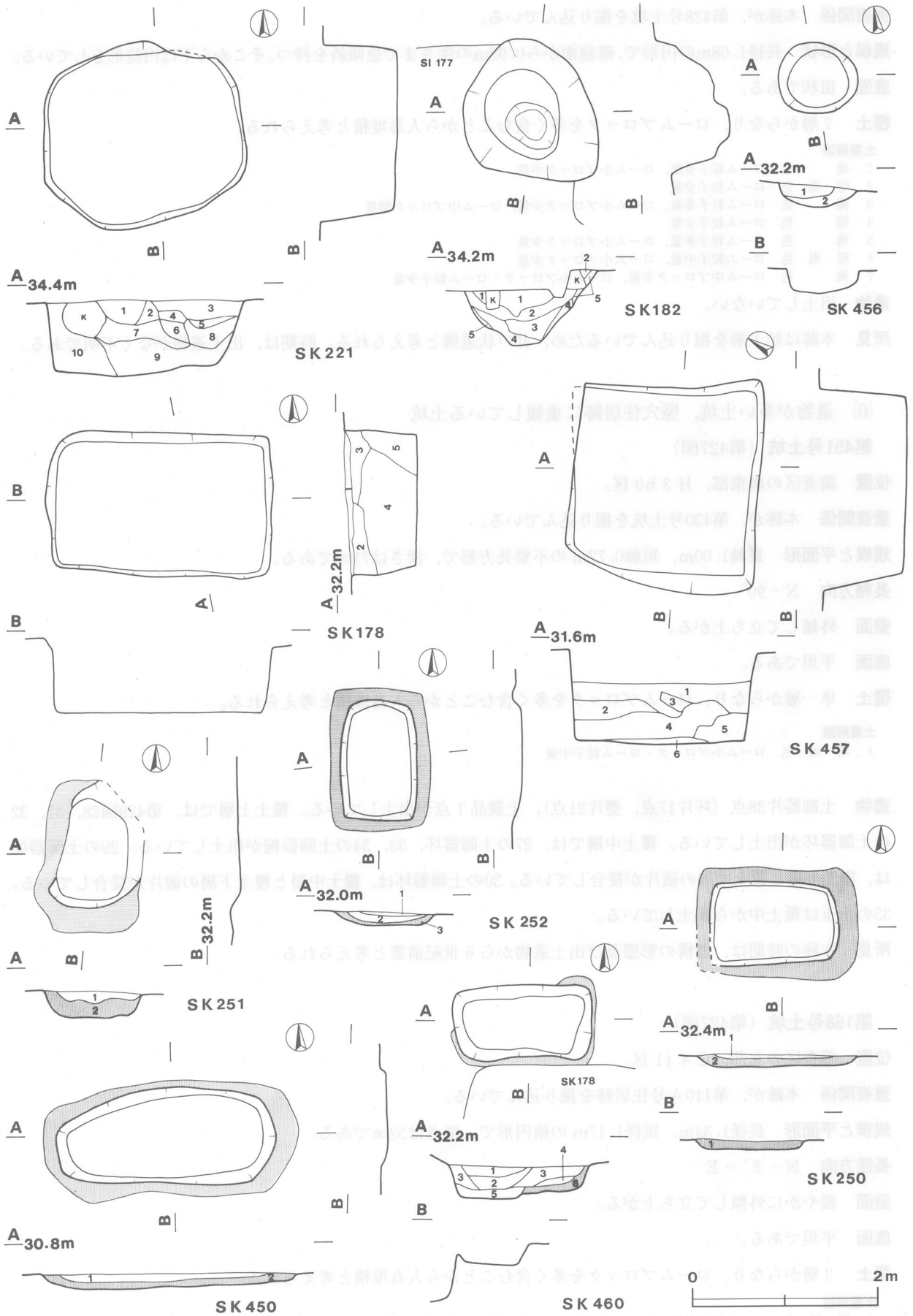
壁面 緩やかに外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

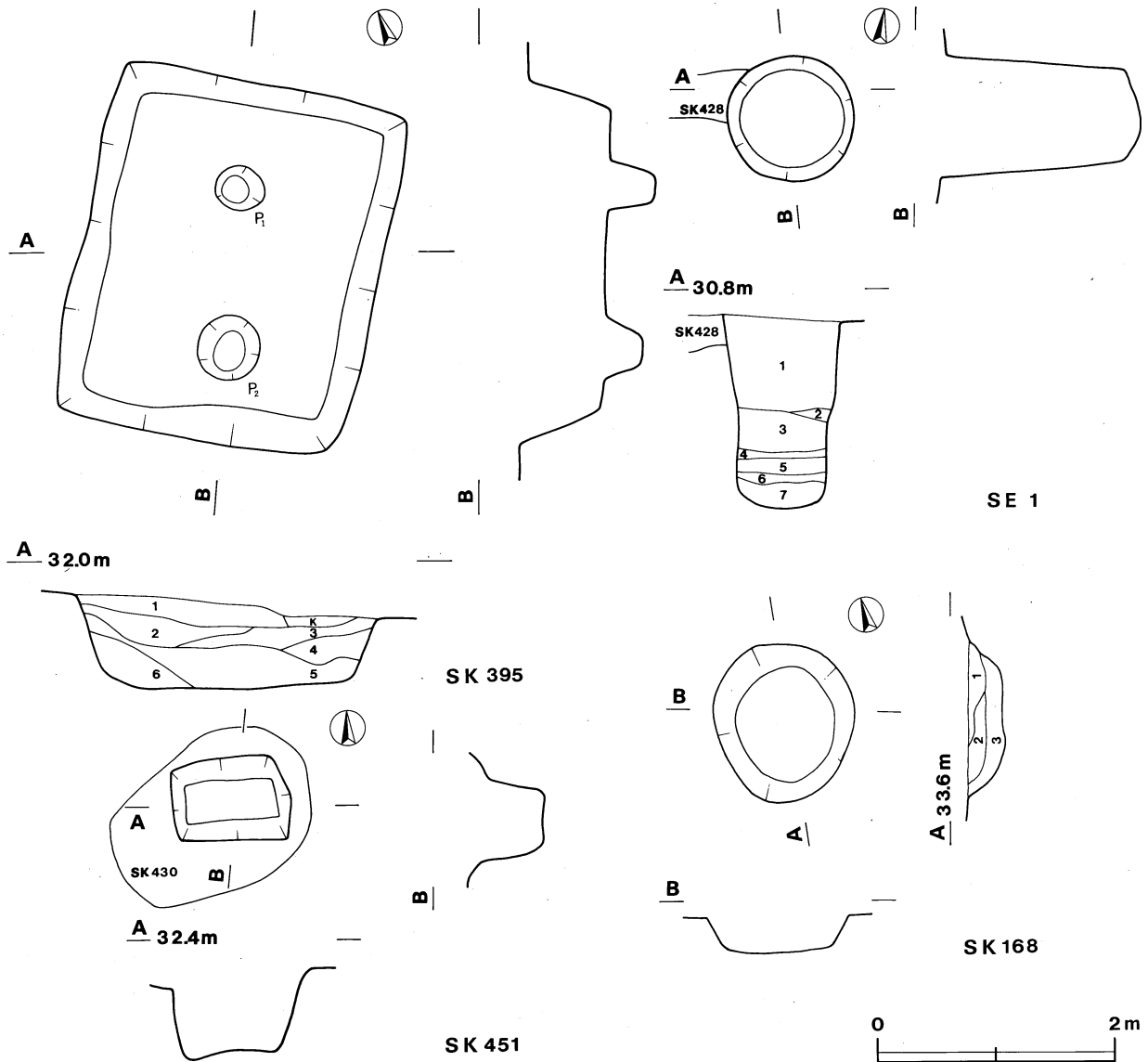
覆土 3層からなり、ロームブロックを多く含むことから人為堆積と考えられる。

土層解説

- | | | |
|---|-----|---|
| 1 | 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土・炭化粒子微量 |
| 2 | 褐色 | ローム中・小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック少量, 焼土・炭化粒子微量 |
| 3 | 褐色 | ローム大・小ブロック多量, ローム中ブロック・ローム粒子中量 |



第426図 土坑実測図(1)



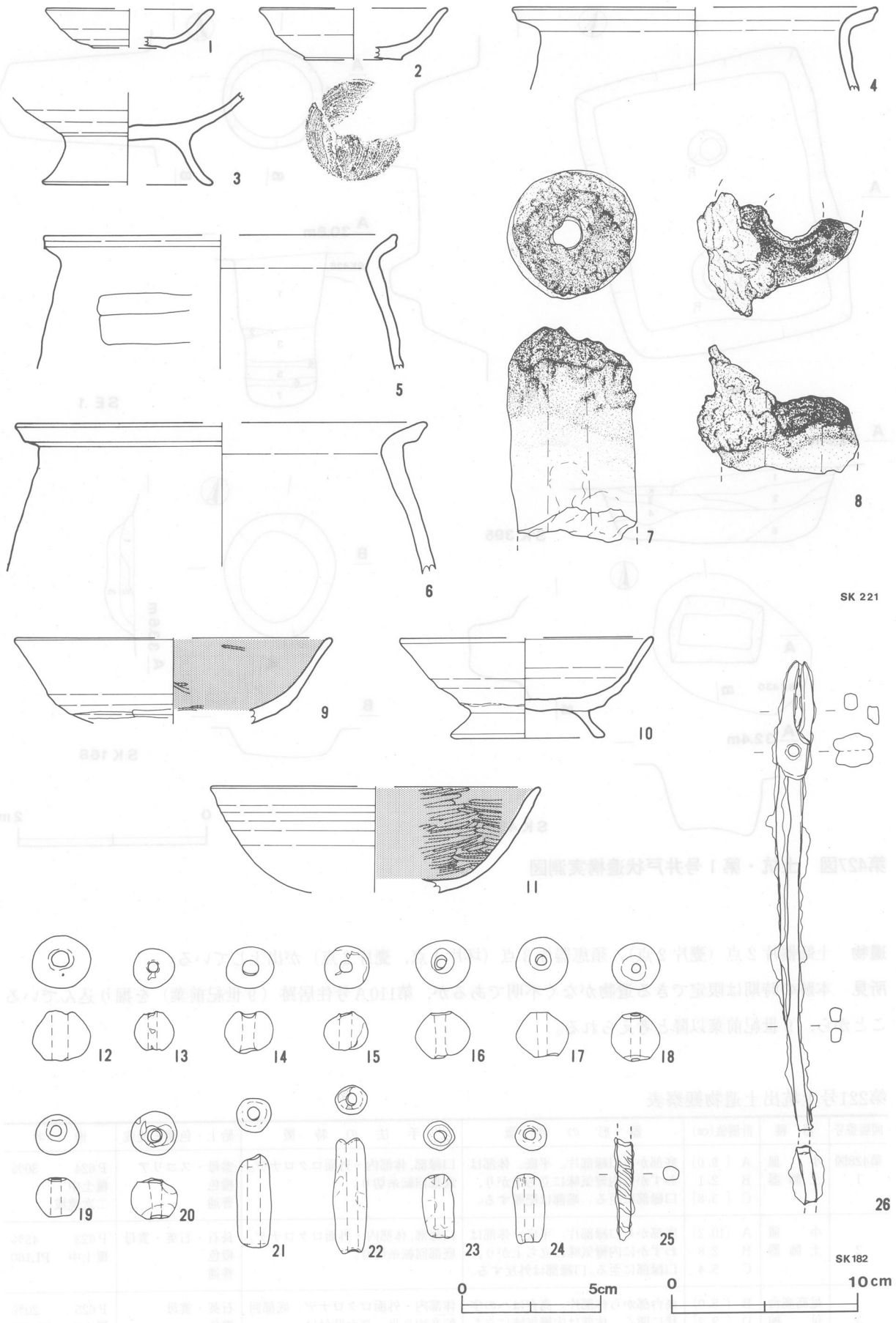
第427図 土坑・第1号井戸状遺構実測図

遺物 土師器片2点（甕片2点），須恵器片3点（坏片1点，甕片2点）が出土している。

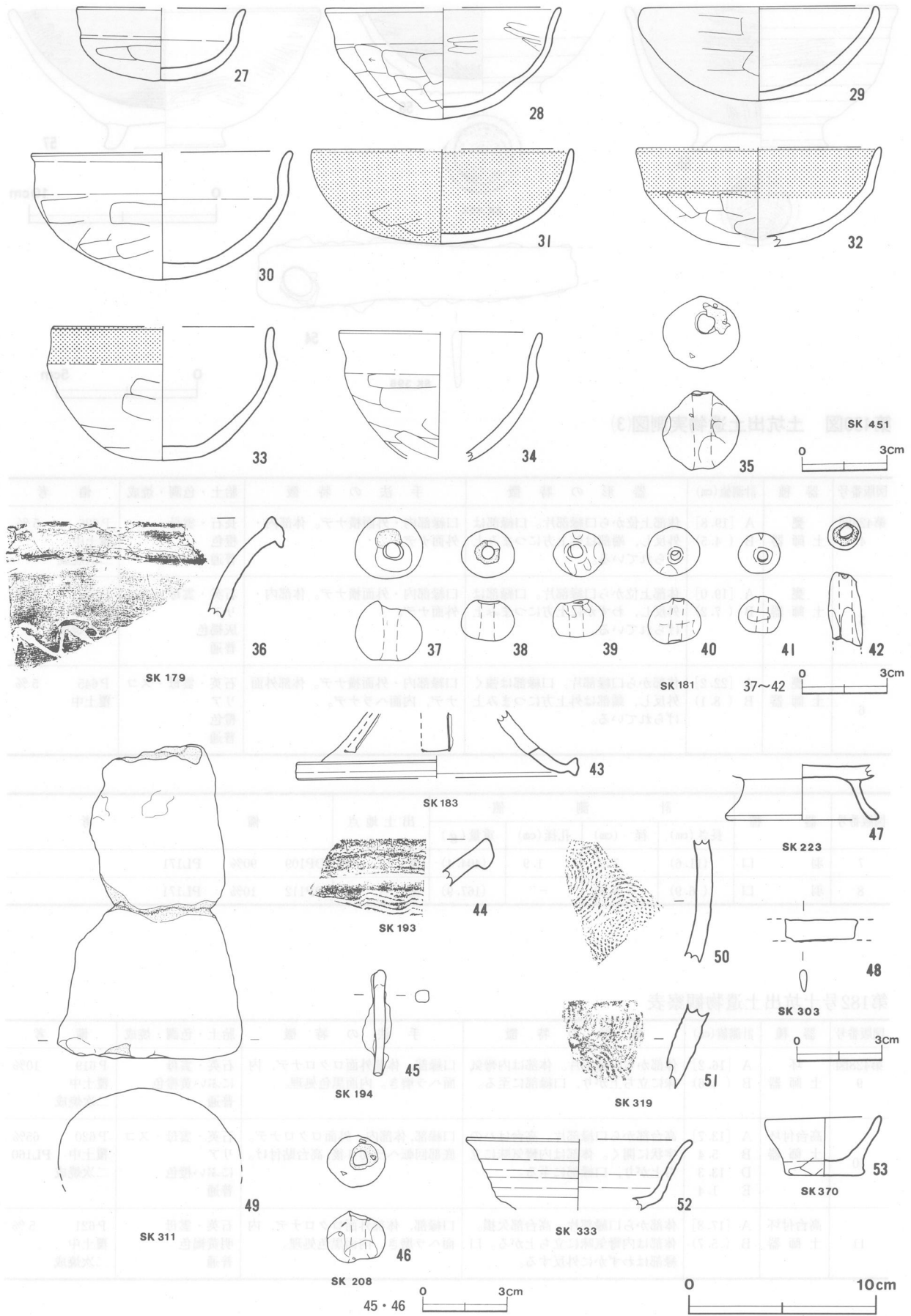
所見 本跡の時期は限定できる遺物がなく不明であるが，第110A号住居跡（9世紀前葉）を掘り込んでいることから，9世紀前葉以降と考えられる。

第221号土坑出土遺物観察表

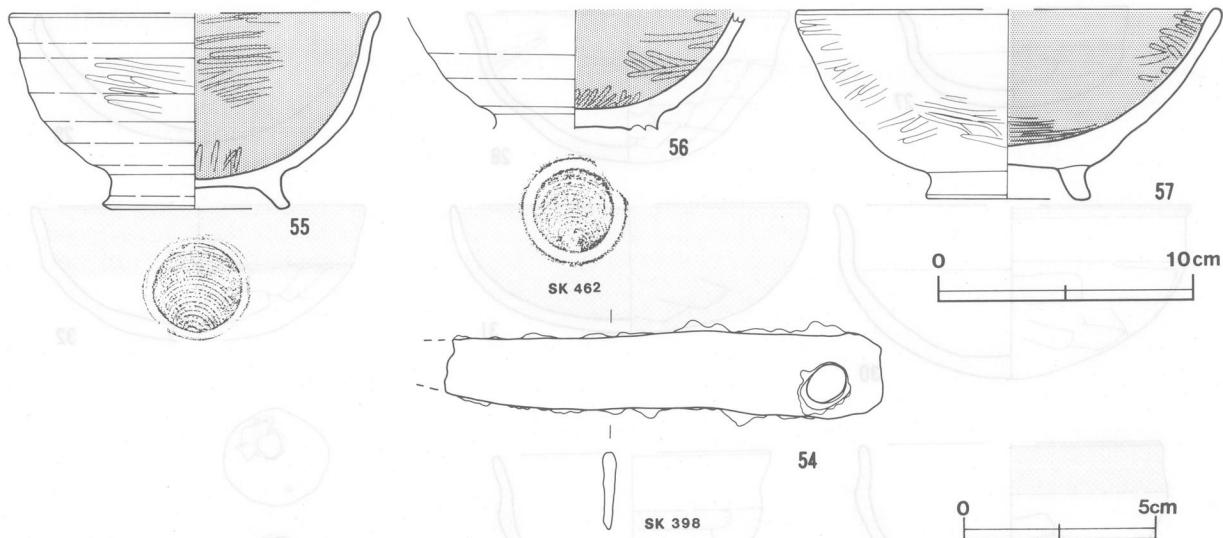
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第428図 1	小皿 土師器	A [9.0] B 2.1 C [3.8]	底部から口縁部片。平底。体部はわずかに内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。端部は肥厚する。	口縁部，体部内・外面クロロナデ。底部回転糸切り。	雲母・スコリア 橙色 普通	P624 30% 覆土中 二次焼成
2	小皿 土師器	A [10.2] B 2.8 C 5.4	底部から口縁部片。平底。体部はわずかに内彎気味に立ち上がり，口縁部に至る。口縁部は外反する。	口縁部，体部内・外面クロロナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P623 45% 覆土中 PL160
3	足高台付 椀 土師器	B (5.0) D [9.2] E 2.7	高台部から体部片。高台はハの字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部内・外面クロロナデ。底部回転糸切り後，高台貼付け。	石英・雲母 橙色 普通	P625 20% 覆土中 PL160



第428図 土坑出土遺物実測図(1)



第429図 土坑出土遺物実測図(2)



第430図 土坑出土遺物実測図(3)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第428図 4	甕 土師器	A [19.8] B (4.5)	体部上位から口縁部片。口縁部は外反し、端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	長石・雲母 橙色 普通	P 626 5% 覆土中 二次焼成
5	甕 土師器	A [19.0] B (7.2)	体部上位から口縁部片。口縁部は外反し、わずかに上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。	石英・雲母・スコ リア 灰褐色 普通	P 627 5% 覆土中 二次焼成
6	甕 土師器	A [22.2] B (8.1)	体部から口縁部片。口縁部は強く外反し、端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面ナデ、内面ヘラナデ。	石英・雲母・スコ リア 橙色 普通	P 645 5% 覆土中

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		備	考	
7	羽口	(11.6)	7.0	1.9	(404.4)	覆土中	DP109	90%	PL171
8	羽口	(6.9)	(8.6)	-	(167.9)	覆土中	DP112	10%	PL171

第182号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第428図 9	坏 土師器	A [16.2] B (4.6)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部外面ロクロナデ、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	石英・雲母 にぶい黄橙色 普通	P 619 10% 覆土中 二次焼成
10	高台付坏 土師器	A [13.7] B 5.4 D 13.3 E 1.4	高台部から口縁部片。高台はハの字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼付け。	石英・雲母・スコ リア にぶい橙色 普通	P 620 65% 覆土中 二次焼成 PL160
11	高台付坏 土師器	A [17.8] B (5.7)	体部から口縁部片。高台部欠損。体部は内彎気味に立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部外面ロクロナデ、内面ヘラ磨き。内面黒色処理。	石英・雲母 明黄褐色 普通	P 621 5% 覆土中 二次焼成

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		備	考	
第428図12	土玉	1.8	2.0	0.6	6.2	覆土中	DP95	100%	PL169
13	土玉	1.4	1.5	0.3	3.0	覆土中	DP96	100%	PL169
14	土玉	1.5	1.7	0.6	3.5	覆土中	DP97	100%	PL169
15	土玉	1.4	1.6	0.4	3.3	覆土中	DP98	100%	PL169
16	土玉	1.7	2.0	0.4	5.8	覆土中	DP99	100%	PL169
17	土玉	1.6	1.9	0.4	5.4	底面	DP100	100%	PL169
18	土玉	1.7	1.8	0.4	4.7	底面	DP101	100%	PL169
19	土玉	1.4	1.5	0.4	3.3	覆土中	DP102	100%	PL169
20	土玉	1.4	1.7	0.5	3.6	覆土中	DP103	100%	PL169
21	管状土錘	3.4	1.3	0.5	4.5	覆土中	DP104	100%	
22	管状土錘	4.1	1.2	0.4	4.7	覆土中	DP105	95%	
23	管状土錘	2.3	1.2	0.3	2.1	覆土中	DP107	80%	
24	管状土錘	2.5	1.2	0.5	2.5	覆土中	DP106	90%	

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		備	考	
25	鉄鍬茎	(3.7)	0.7	0.6	(2.4)	覆土中	M60		
26	鉄鉗	(29.2)	2.2	1.9	(162.1)	覆土中	M61	PL177	

第451号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第429図 27	坏土師器	A [9.0] B 3.9	底部から口縁部一部欠損。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。内・外面赤彩。	石英・雲母 赤褐色 普通	P 631 95% 覆土中 PL160 二次焼成
28	坏土師器	A [12.8] B 6.0	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面へラ磨き。	長石・雲母 橙色 普通	P 632 65% 覆土中 PL160 二次焼成
29	坏土師器	A 12.6 B 5.1	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は短く直立する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P 633 70% 覆土中 PL160 二次焼成
30	坏土師器	A [14.2] B 6.9	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。	石英・雲母・スコリア 赤褐色 普通	P 634 45% 覆土中 PL160 二次焼成
31	坏土師器	A [14.1] B 5.1	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面横ナデ。体部内・外面ナデ。内・外面赤彩。	長石・石英・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P 635 40% 覆土中 二次焼成
32	坏土師器	A [13.2] B (5.3)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外傾する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。口縁部内・外面赤彩。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 636 35% 覆土中 二次焼成
33	椀土師器	A [13.8] B 7.2	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。口縁部外面赤彩。	石英・雲母・スコリア にぶい黄褐色 普通	P 637 60% 覆土中 PL160 二次焼成
34	椀土師器	A [11.0] B (6.8)	体部から口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へラ削り、内面ナデ。口縁部外面赤彩。	石英・雲母 にぶい橙色 普通	P 638 50% 覆土中 PL161 二次焼成

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		備	考	
35	土玉	2.9	2.8	0.8	15.4	覆土中	DP111	95%	PL169

第179号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第429図 36	甕 須恵器	-	口縁部片。口縁部は緩やかに外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。口縁部外面に1本の櫛描波状文が施されている。	長石・雲母 黄灰色 普通	TP31 5% 覆土中 PL166

第181号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
第429図37	土玉	2.1	2.4	0.7	(9.6)	覆土中	DP89	95%	PL169
38	土玉	1.5	1.9	0.5	4.2	覆土中	DP90	100%	PL169
39	土玉	1.4	1.8	0.5	3.2	覆土中	DP91	100%	PL169
40	土玉	1.6	1.9	0.4	4.4	覆土中	DP92	100%	PL169
41	土玉	1.3	1.5	0.4	2.6	覆土中	DP93	100%	PL169
42	管状土錘	(2.7)	1.2	0.5	(2.8)	覆土中	DP94	60%	

第183号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第429図 43	高坏 須恵器	B (3.5) D [15.3]	脚部片。脚部はラッパ状に開く。4か所に透かし孔を持つ。	脚部内・外面ロクロナデ。	長石・石英 オリーフ灰色 良好	P622 5% 覆土中 PL161

第193号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第429図 44	甕 須恵器	-	口縁部片。口縁部は緩やかに外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面ロクロナデ。口縁部外面に1本2条の櫛描波状文が施されている。	長石・雲母 黄灰色 普通	TP32 5% 覆土中 PL166

第194号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
第429図45	不明鉄製品	(3.8)	0.6	0.5	(2.5)	覆土中	M62		

第208号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)				
第429図46	土玉	1.9	2.1	0.6	5.4	覆土中	DP108	100%	PL169

第223号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第429図 47	足高高台付 椀土師器	B (2.9) D 8.1 E 2.1	高台片。高台部はハの字状に開く。	高台内・外面ロクロナデ。高台貼付け。	長石・雲母・スコリア 橙色 普通	P628 10% 覆土中 二次焼成

第303号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第429図48	刀子	(2.6)	0.7	0.2	(1.4)	覆土中	M63 PL178

第311号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		
第429図49	支脚	17.0	(10.0)	-	(562.5)	覆土中	DP110 30%

第319号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第429図50	甕須恵器	-	体部片。	体部外面同心円当て具痕, 内面ナデ。	長石・雲母 黄灰色 普通	TP33 5% 覆土中 PL166
51	甕須恵器	-	体部片。	体部外面同心円当て具痕, 内面ナデ。	長石・雲母 明黄褐色 普通	TP34 5% 覆土中 PL166

第333号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第429図52	坏須恵器	A [12.2] B (3.8)	体部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部, 体部内・外面ロクロナデ。	石英 灰色 良好	P629 10% 覆土中

第370号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第429図53	ミニチュア鉢土師器	A 6.2 B 3.2 C 4.2	口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり, 口縁部に至る。底部は突出している。	口縁部内・外面, 体部内面横ナデ。体部外面ナデ。	雲母 にぶい黄褐色 普通	P630 95% 覆土中 PL161 二次焼成

第398号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		
第429図54	刀子	(11.6)	2.2	0.4	(18.2)	覆土中	M64 PL178

第462号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第430図55	高台付碗土師器	A [12.6] B 7.7 D 7.4 E 1.4	高台部から口縁部片。高台部はハの字状に開く。体部は内傾して立ち上がり, 口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内・外面ヘラ磨き。底部回転糸切り。高台貼付け後, ナデ。内面黒色処理。	石英・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P640 40% 覆土中 PL161
56	高台付碗土師器	B (4.6)	体部片。高台剥離。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部外面ロクロナデ。体部内面ヘラ磨き。底部回転糸切り。内面黒色処理。	雲母 にぶい橙色 普通	P641 10% 覆土中 二次焼成

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第430図 57	高台付腕 土師器	A [16.6] B 7.5 D 6.4 E 1.3	高台部から口縁部片。高台部はハの字状に開く。体部は内傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部から体部外面ロクロナデ。体部内・外面ヘラ磨き。底部回転糸切り。高台貼付け後、ナデ。内面黒色処理。	雲母・スコリア にぶい橙色 普通	P639 40% 覆土中 PL161 二次焼成

5 地下式墳

当遺跡からは、地下式墳2基を検出した。以下、それぞれの地下式墳の特徴と出土遺物について記載する。

第1号地下式墳（第431図）（SK-347）

位置 調査区の東部，F3c9区。

重複関係 本跡が，第388号土坑を掘り込んでいる。

長軸方向 N-71°-W

竪坑 上面は長径1.56m，短径0.48mの楕円形である。底面は平坦で，主室まで緩やかに傾斜する。確認面からの深さは1.27mである。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

主室 底面は長軸3.28m，短軸2.64mの不整長方形で，平坦である。確認面から底面までの深さは，1.57mである。壁面は外傾して立ち上がる。

覆土 13層からなり，1～2層はレンズ状の堆積を示していることから自然堆積，3～13層はブロック状の堆積を示していることから人為堆積と考えられる。特に，12～13層は天井部が崩落したと思われる。

土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化物・ローム中ブロック微量
- 2 褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子・ローム大・中・小ブロック微量
- 3 明褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム小ブロック微量
- 4 明褐色 ローム粒子中量，ローム大・中・小ブロック少量，焼土小ブロック・焼土・炭化粒子微量
- 5 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化物微量
- 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化物・ローム大ブロック微量
- 8 明褐色 ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，ローム大・中ブロック少量
- 9 暗褐色 ローム小ブロック中量，ローム大・中ブロック・ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子微量
- 10 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大・中ブロック少量
- 11 褐色 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム粒子少量，ローム大・小ブロック微量
- 12 褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック少量，炭化物微量
- 13 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大・中ブロック少量

遺物 土師器片2点（甕片2点），須恵器片4点（坏片1点，甕片3点），含鉄滓が出土している。

所見 本跡の時期は，限定できる遺物がなく不明である。

第2号地下式墳（第431図）（SK-455）

位置 調査区の南東部，G3j0区。

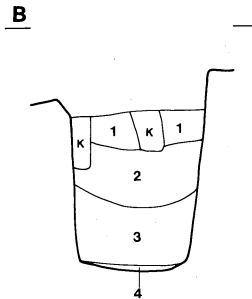
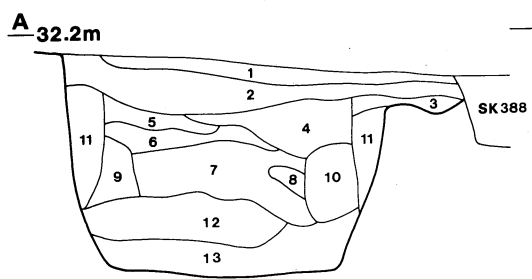
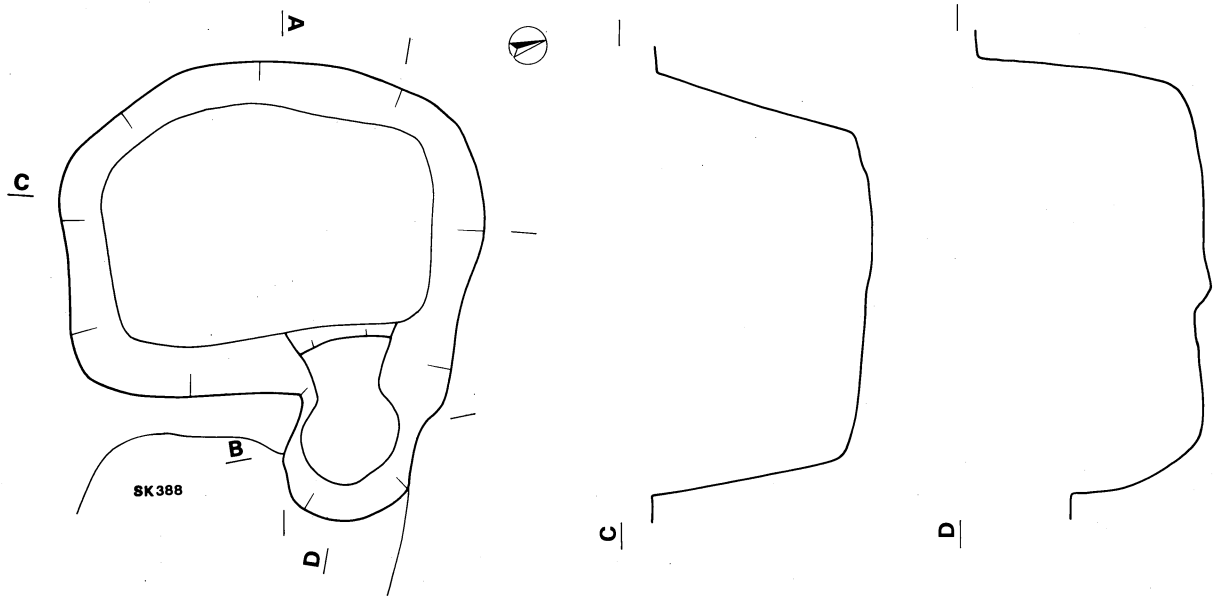
重複関係 本跡が，第461号土坑を掘り込んでいる。

長軸方向 N-79°-W

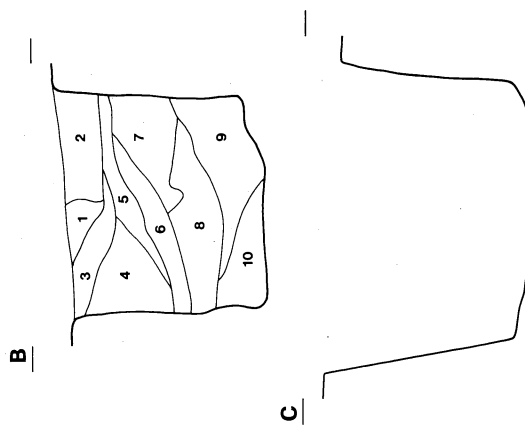
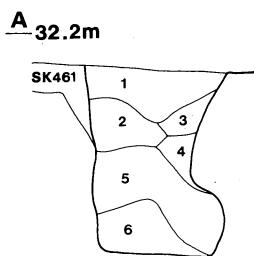
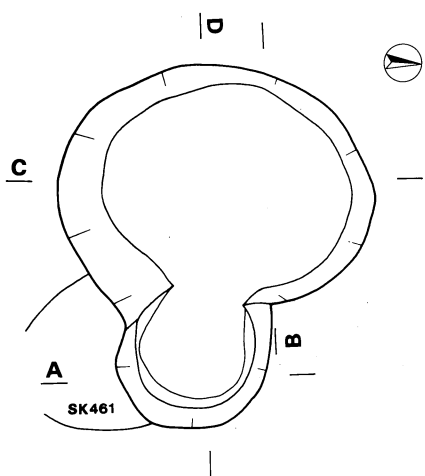
竪坑 上面は長径1.02m，短径1.00mの円形である。底面は平坦で，主室まで緩やかに傾斜する。確認面からの深さは1.36mである。壁面は外傾して立ち上がる。

主室 底面は長軸1.94m，短軸1.72mの楕円形で，平坦である。確認面から底面までの深さは，1.64mである。壁面はほぼ垂直に立ち上がる。

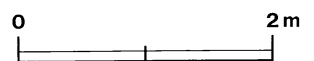
覆土 10層からなり，ブロック状の堆積を示していることから人為堆積と考えられる。



第1号地下式墳



第2号地下式墳



第431图 第1・2号地下式墳実測図

土層解説

- 1 黒 褐 色 ローム中ブロック・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 暗 褐 色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 4 褐 色 ローム大ブロック・ローム粒子多量
- 5 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 6 褐 色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量
- 7 黒 褐 色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 8 黒 褐 色 ローム大・中ブロック・ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 9 黒 褐 色 ローム粒子微量
- 10 暗 褐 色 ローム中・小ブロック・ローム粒子中量

遺物 土師器片27点(甕片27点)が出土している。

所見 本跡の時期は、限定できる遺物がなく不明である。

表5 木工台遺跡土坑一覧表

土坑 番号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平 面 形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
168	C4j1	N-6°-E	楕円形	1.34 × 1.17	32	緩斜	平坦	人為	土師器(甕)須恵器(坏, 甕)	SI-110→本跡
169	G3a4	N-61°-E	楕円形	1.27 × 0.60	76	緩斜	皿状	自然		
171	C2f0	-	円形	1.00 × 0.96	82	垂直	平坦	自然	土師器(坏, 甕)須恵器(坏, 蓋, 甕)	
172	E3f0	N-20°-E	不整楕円形	0.69 × 1.55	72	外傾	凸凹	自然	土師器(坏, 碗, 甕)須恵器(蓋, 甕)	
174	E2f0	-	隅丸方形	0.71 × 0.70	74	外傾	皿状	自然		
177	E2h9	N-43°-E	楕円形	0.69 × 0.55	28	緩斜	皿状	自然		
178	H4d1	N-86°-W	長方形	2.44 × 1.57	82	垂直	平坦	人為		SI-249→本跡 SK-460
179	H3c9	N-20°-W	楕円形	1.83 × 1.55	55	緩斜	皿状	自然	土師器(坏, 甕)	
181	D4h4	N-6°-W	隅丸長方形	2.69 × 1.53	50	緩斜	平坦	人為		SI-177→本跡
182	D4g5	N-38°-W	不整楕円形	1.71 × 1.37	71	緩斜	凸凹	人為	土師器(碗, 高台付碗)鉄鉗	SI-177→本跡 鍛冶
183	C4f6	N-11°-E	不定形	2.28 × 1.75	32	垂直	平坦	自然	土師器(坏, 甕)須恵器(坏, 蓋, 甕)	
184	C4f6	N-81°-W	不定形	1.03 × 0.42	32	緩斜	傾斜	自然		
185	C4f6	N-12°-E	不定形	1.31 × 0.61	52	垂直	平坦	自然		
186	C3f0	N-71°-W	楕円形	0.85 × 0.59	21	緩斜	凸凹	自然		
187	C3f0	N-3°-E	楕円形	0.96 × 0.88	55	外傾	凸凹	人為	土師器(坏, 甕)	
188	C3f0	-	円形	1.11 × 1.05	45	緩斜	傾斜	人為	土師器(坏, 甕)	
189	C3g0	-	円形	0.71 × 0.67	26	外傾	凸凹	自然		
190	C3g0	N-88°-W	不整楕円形	0.96 × 0.79	39	外傾	凸凹	人為	土師器(坏)	
191	C3g0	-	円形	0.57 × 0.55	41	外傾	皿状	人為	土師器(坏)	
192	C4g1	-	円形	0.52 × 0.50	15	外傾	凸凹	自然	須恵器(坏, 甕)	
193	C4f5	N-17°-E	不定形	0.83 × 0.52	37	外傾	平坦	人為	土師器(坏, 甕)須恵器(坏)	
194	C4f6	N-26°-E	不定形	0.61 × 0.42	54	外傾	平坦	自然	土師器(坏, 甕)須恵器(坏, 甕)不明鉄製品	
195	C4f6	N-21°-E	不定形	1.18 × 0.78	52	外傾	平坦	人為	土師器(坏, 甕)須恵器(坏)	
196	C4f5	N-2°-E	不定形	1.17 × 0.99	56	外傾	平坦	人為	土師器(坏, 甕)須恵器(坏, 蓋)	
197	C4f5	N-22°-W	楕円形	1.36 × 1.07	51	外傾	凸凹	人為	土師器(坏, 甕)須恵器(坏, 蓋)	
199	C3f0	-	円形	0.78 × 0.75	54	垂直	凸凹	人為		
200	C3f9	N-85°-W	楕円形	0.93 × 0.84	44	外傾	平坦	自然	土師器(坏, 甕)	
201	C4f6	-	不整円形	0.85 × 0.80	38	外傾	傾斜	人為	土師器(坏, 甕)須恵器(坏)	
202	C3e9	N-28°-E	楕円形	1.04 × 0.92	56	外傾	皿状	人為	土師器(甕)須恵器(坏, 甕)	
203	C3e9	N-0°	楕円形	1.00 × 0.72	68	外傾	平坦	人為	土師器(坏, 甕)須恵器(坏)	
204	C4h7	N-36°-E	楕円形	1.20 × 0.95	36	外傾	平坦	不明	土師器(甕)須恵器(蓋, 甕)	
205	C4h6	N-60°-W	楕円形	0.90 × 0.70	80	外傾	皿状	自然	土師器(坏, 甕)須恵器(坏, 甕)	
206	C4h6	-	不整円形	1.35 × 1.20	72	外傾	平坦	人為	土師器(坏, 甕)須恵器(坏, 蓋, 甕)	
207	C3f9	N-8°-E	楕円形	1.12 × 0.82	42	垂直	凸凹	自然	土師器(坏, 甕)須恵器(坏)	

土坑 番号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平 面 形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
208	C4h5	-	円形	0.60×0.55	56	垂直	皿状	自然	土師器(坏)須惠器(坏,甕)	
209	C4g5	N-78°-W	楕円形	0.81×0.54	60	垂直	平坦	自然	土師器(坏,甕)	
210	C4i4	不明	不明	(0.98)×(0.70)	52	外傾	傾斜	人為		
211	C4h7	-	円形	1.20×1.16	70	外傾	平坦	人為		
212	C4g6	N-13°-E	不整楕円形	0.80×0.66	76	外傾	平坦	自然	土師器(坏,甕)須惠器(坏)	
213	C4h6	-	不整円形	0.87×0.70	72	外傾	平坦	自然		
214	C3e0	N-0°	楕円形	0.91×0.74	40	外傾	皿状	人為		
218	D3c9	N-14°-E	不整円形	0.95×0.90	16	外傾	凸凹	人為	土師器(坏,甕)須惠器(坏,甕)	
219	D4b1	-	円形	1.56×1.45	38	外傾	平坦	自然		
220	D3f0	N-55°-W	不定形	2.15×1.17	51	外傾	平坦	自然	土師器(坏,甕)須惠器(甕)	
221	D3b4	N-59°-W	不整楕円形	2.32×2.00	80	垂直	平坦	人為	土師器(坏,甕,足高高台付碗) 須惠器(坏,碗)碗形滓,羽口	鍛冶
222	D3b5	N-0°	楕円形	1.28×1.13	28	外傾	凸凹	自然	土師器(坏,甕)	
223	D3c4	-	円形	1.52×1.50	33	外傾	平坦	人為	土師器(坏,足高高台付碗, 甕)須惠器(坏,甕)	
224	C4h5	-	円形	0.50×0.50	65	垂直	皿状	人為		
225	D3d6	N-34°-W	不整長楕円形	3.71×1.47	56	外傾	凸凹	人為		
227	C3e3	-	円形	0.95×0.85	39	外傾	皿状	自然		
228	C3e2	N-32°-E	楕円形	1.09×0.91	44	垂直	凸凹	自然	土師器(甕)	
229	C3f2	-	円形	0.93×0.90	35	外傾	皿状	自然		
230	C4g2	不明	不明	(1.55)×(1.45)	108	外傾	凸凹	人為	土師器(甕)須惠器(蓋)	
233	C4h5	-	円形	0.32×0.28	50	外傾	皿状	人為		
234	C4h6	-	円形	0.38×0.36	46	外傾	皿状	人為		
235	D2d9	-	円形	0.81×0.81	20	緩斜	凸凹	人為		
236	D2b7	N-56°-W	長方形	1.21×0.76	57	外傾	皿状	自然		
237	D3g4	N-76°-E	不定形	1.03×0.98	17	緩斜	平坦	自然	土師器(甕)	
238	D3g4	N-2°-E	隅丸長方形	1.98×1.42	19	緩斜	平坦	自然		
239	D2f0	-	円形	1.17×1.07	33	外傾	凸凹	人為	土師器(甕)	
240	D2i0	N-32°-W	楕円形	1.32×1.12	29	緩斜	皿状	人為		
241	D2i0	N-28°-W	楕円形	0.95×0.73	159	内傾	凸凹	人為		
242	D3i0	-	円形	0.73×0.67	54	外傾	皿状	人為		
243	D4j1	-	円形	1.27×1.19	40	緩斜	平坦	人為	土師器(甕)須惠器(甕)	
244	D3j0	-	円形	0.90×0.87	13	外傾	平坦	自然		
245	D3j0	N-23°-E	楕円形	1.59×0.75	29	外傾	平坦	自然	土師器(甕)	
246	D3j0	N-20°-W	不定形	0.58×0.41	74	垂直	凸凹	人為		
247	D2e0	-	円形	0.78×0.74	60	外傾	平坦	自然		
248	D2e9	-	不整円形	0.94×0.89	69	外傾	平坦	人為	土師器(甕)須惠器(蓋)	
249	E3c2	-	円形	1.00×1.00	55	外傾	皿状	人為		
250	H4d1	N-90°	長方形	1.76×1.16	10	緩斜	平坦	不明		粘土貼り SF-249→本跡
251	H4c2	N-4°-E	不整長方形	1.63×1.06	25	緩斜	平坦	人為		粘土貼り
252	H4b2	N-0°	長方形	1.55×1.08	14	緩斜	皿状	人為		粘土貼り
253	C3b6	-	円形	0.76×0.76	14	外傾	凸凹	人為	土師器(甕)	
254	C3b7	N-31°-W	不整楕円形	1.41×1.04	21	垂直	平坦	自然	土師器(甕)	
255	E3e5	-	円形	0.86×0.82	21	緩斜	凸凹	自然	土師器(甕)	
256	C3b7	-	円形	0.82×0.76	26	垂直	平坦	自然	土師器(坏,碗,甕)	
257	C3b7	-	円形	0.45×0.40	33	垂直	凸凹	自然		
258	D2g7	-	円形	1.06×[1.02]	46	垂直	平坦	人為	土師器(坏,高坏,甕)須惠器(坏,甕)	
259	E3f7	N-18°-E	長方形	1.06×0.61	106	垂直	平坦	自然		
261	E3d3	N-3°-W	不整楕円形	1.14×1.00	31	垂直	平坦	人為	土師器(甕)須惠器(甕)	

土坑 番号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平 面 形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考
				長径 × 短径(m)	深さ(cm)					
262	E 3 h2	N-53°-W	橢 円 形	0.47 × 0.43	57	垂直	皿状	自然	土師器(甕)須惠器(坏)	
263	E 3 h2	N-79°-E	橢 円 形	0.53 × 0.39	47	垂直	平坦	自然	土師器(甕)須惠器(坏)	
264	E 3 h2	N-51°-W	橢 円 形	0.41 × 0.34	31	垂直	平坦	自然		
265	E 3 i2	-	円 形	0.44 × 0.40	62	垂直	皿状	人為		
266	E 3 i2	-	円 形	0.44 × 0.43	47	垂直	皿状	人為	土師器(甕)	
267	E 3 i3	-	円 形	0.28 × 0.27	62	垂直	皿状	自然	土師器(坏)	
268	E 3 j3	N-77°-E	橢 円 形	0.47 × 0.42	40	外傾	皿状	自然	土師器(坏)	
269	E 3 j2	N-17°-E	橢 円 形	0.40 × 0.33	54	垂直	皿状	自然	土師器(甕)	
270	E 1 d0	N-55°-W	橢 円 形	1.13 × 0.93	49	緩斜	皿状	人為		
271	E 1 e9	-	円 形	0.93 × 0.89	28	緩斜	皿状	人為		
272	E 1 e0	N-86°-E	不整橢円形	0.58 × 0.44	58	垂直	凸凹	人為		
273	E 2 d1	N-24°-E	隅丸長方形	1.48 × 1.26	31	緩斜	平坦	人為		芋穴?
274	E 2 d6	N-77°-W	橢 円 形	0.53 × 0.47	9	緩斜	平坦	不明		
275	E 2 f0	N-26°-E	橢 円 形	1.34 × 0.92	54	垂直	凸凹	人為		
276	E 2 f0	N-0°	橢 円 形	0.46 × 0.40	96	垂直	平坦	人為		
278	E 2 c4	N-83°-W	橢 円 形	0.90 × 0.68	48	外傾	凸凹	人為	土師器(甕)須惠器(甕)	
280	E 2 c5	N-21°-E	不整橢円形	1.29 × 1.16	32	緩斜	平坦	人為	土師器(坏,高坏,甕)須惠器(坏,甕)	
281	E 2 d6	-	円 形	1.10 × 1.07	50	外傾	皿状	自然	土師器(坏,甕)	
282	E 2 d6	N-89°-E	不整橢円形	0.79 × 0.58	48	垂直	凸凹	人為		
283	E 2 d7	-	円 形	0.99 × 0.95	38	外傾	平坦	自然	土師器(坏,高坏,甕)須惠器(坏,甕)	
284	E 2 d7	-	円 形	0.90 × 0.82	46	外傾	平坦	人為	土師器(甕)	
285	E 2 f5	-	円 形	0.84 × 0.79	57	外傾	凸凹	自然	土師器(坏,甕)須惠器(蓋,甕)	
286	E 2 g5	N-68°-W	隅丸長方形	1.27 × 0.98	87	外傾	平坦	人為	土師器(坏,甕)	芋穴?
287	E 2 h4	N-36°-E	橢 円 形	0.38 × 0.31	31	外傾	皿状	不明	土師器(甕)須惠器(坏)	
288	E 2 h5	N-67°-W	橢 円 形	0.77 × 0.58	39	外傾	平坦	自然	土師器(坏,甕)	
289	E 2 h5	-	円 形	0.61 × 0.59	32	外傾	平坦	自然	土師器(甕)須惠器(坏)	
290	E 3 a6	-	[円 形]	[0.72] × 0.66	22	垂直	平坦	自然		
291	E 3 a6	N-39°-W	[橢 円 形]	0.71 × [0.63]	32	外傾	皿状	自然		
292	E 2 e7	-	円 形	0.75 × 0.74	41	垂直	平坦	自然		
293	E 2 e7	N-75°-E	不整橢円形	1.14 × 0.89	73	外傾	平坦	自然	土師器(坏,甕)須惠器(甕)	
294	E 2 e7	N-61°-W	橢 円 形	0.97 × 0.83	59	外傾	皿状	自然		
295	E 2 e8	-	円 形	1.13 × 1.08	54	外傾	平坦	人為	土師器(坏,高坏,甕)須惠器(甕)	
296	E 2 e8	N-45°-E	橢 円 形	1.08 × 0.88	54	外傾	平坦	人為	土師器(坏,甕)須惠器(坏)	
297	E 2 e8	N-9°-W	橢 円 形	1.04 × 0.92	47	外傾	平坦	自然	土師器(坏,甕)須惠器(坏,甕)	
298	E 2 h5	N-64°-E	橢 円 形	0.42 × 0.38	50	外傾	皿状	不明		
299	E 2 h5	-	円 形	0.46 × 0.46	51	外傾	皿状	自然	土師器(坏,甕)	
300	E 2 h5	N-73°-W	[橢 円 形]	[0.87] × [0.70]	44	垂直	平坦	自然		
301	E 2 h5	N-4°-E	[橢 円 形]	0.83 × [0.64]	35	外傾	傾斜	自然		
302	E 2 h5	-	円 形	0.34 × 0.33	55	外傾	平坦	人為	土師器(坏,甕)須惠器(甕)	
303	E 2 h4	N-16°-W	橢 円 形	0.61 × 0.53	55	垂直	平坦	人為	土師器(坏,甕)刀子	
304	E 2 i4	-	円 形	0.53 × 0.51	23	外傾	凸凹	自然	土師器(甕)	
306	E 2 i5	-	不整円形	0.61 × 0.59	39	外傾	平坦	自然	土師器(坏,甕)	
307	E 2 i5	N-33°-E	橢 円 形	0.80 × 0.69	45	垂直	平坦	人為		
308	E 2 i5	N-34°-E	不整橢円形	0.68 × 0.61	50	外傾	皿状	自然	土師器(坏,甕)	
309	E 2 f0	-	円 形	1.09 × 1.07	38	外傾	凸凹	人為		
310	E 2 f0	N-89°-E	橢 円 形	0.98 × 0.77	36	垂直	平坦	自然	土師器(坏,甕)須惠器(坏,蓋)	
311	E 2 j6	N-55°-W	橢 円 形	0.52 × 0.42	35	外傾	傾斜	自然	土製支脚	

土坑 番号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平 面 形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考
				長径 × 短径(m)	深さ(cm)					
312	E 2 j7	-	円 形	0.74 × 0.68	42	外傾	傾斜	自然	土師器(坏)須恵器(甕)	
313	F 2 b7	-	円 形	0.78 × 0.75	64	外傾	皿状	人為		
314	F 2 b6	N-44°-W	楕 円 形	1.01 × 0.79	52	緩斜	皿状	自然	土師器(坏, 甕)	
315	F 2 a6	N-69°-E	楕 円 形	0.53 × 0.42	37	外傾	皿状	人為		
316	F 2 a6	-	円 形	0.88 × 0.80	44	外傾	平坦	人為	土師器(甕)須恵器(坏)	
317	F 2 b8	-	円 形	0.45 × 0.41	42	外傾	皿状	人為		
318	E 3 f1	-	円 形	0.94 × 0.92	89	垂直	凸凹	人為		
319	E 2 f0	N-11°-W	不 定 形	0.80 × 0.74	52	外傾	凸凹	不明	土師器(坏, 甕)須恵器(甕)	
320	E 2 g0	N-17°-W	楕 円 形	0.93 × 0.74	57	外傾	凸凹	人為	土師器(坏, 甕)須恵器(坏, 蓋)	
321	E 2 g0	-	隅 丸 方 形	0.95 × 0.91	49	外傾	平坦	不明	土師器(甕)須恵器(甕)	
322	E 3 f1	-	隅 丸 方 形	1.09 × 1.08	50	外傾	平坦	人為	土師器(高坏, 甕)	
323	F 2 a8	N-52°-W	楕 円 形	1.73 × 1.55	20	緩斜	平坦	自然	土師器(坏, 甕)	
324	E 2 e9	N-49°-E	不 定 形	0.65 × 0.63	39	緩斜	皿状	自然	土師器(坏, 甕)	
325	E 2 e9	N-34°-E	楕 円 形	0.56 × 0.49	43	外傾	皿状	人為		
326	E 2 e9	-	円 形	0.60 × 0.56	19	緩斜	平坦	人為	土師器(甕)須恵器(甕)	
327	E 2 e9	N-53°-W	不 定 形	1.21 × 0.88	29	外傾	平坦	人為	土師器(甕)	
328	E 2 e9	N-79°-E	楕 円 形	0.71 × 0.56	44	外傾	平坦	人為	土師器(甕)	
329	E 2 e9	N-10°-W	楕 円 形	0.90 × 0.77	42	緩斜	凸凹	自然	土師器(甕)	
331	F 2 g0	-	[円 形]	0.71 × 0.69	25	緩斜	凸凹	人為	土師器(高坏, 甕)	
332	F 2 g9	-	[円 形]	0.60 × 0.59	19	外傾	傾斜	自然		
333	F 2 g9	-	円 形	0.63 × 0.59	28	緩斜	凸凹	自然	土師器(坏, 甕)須恵器(坏)	
334	F 2 d5	-	隅 丸 方 形	0.39 × 0.38	55	外傾	皿状	自然	土師器(甕)	
335	F 2 a5	N-8°-W	楕 円 形	0.94 × 0.40	78	垂直	平坦	人為	土師器(坏, 碗, 甕)	
336	F 2 a5	-	不 整 円 形	0.38 × 0.34	72	垂直	平坦	人為	土師器(甕)	
337	F 2 a5	-	不 整 円 形	0.42 × 0.40	76	垂直	平坦	人為	土師器(坏)	
338	F 2 g0	N-23°-E	不 整 楕 円 形	1.00 × 0.90	65	垂直	平坦	自然		
339	F 2 h0	N-43°-W	不 整 楕 円 形	1.06 × 0.95	57	外傾	平坦	人為	土師器(坏, 甕)	
340	F 2 h9	N-70°-E	不 整 楕 円 形	1.72 × 1.05	40	緩斜	皿状	自然		
341	F 2 g2	N-16°-E	不 整 楕 円 形	0.81 × 0.72	90	垂直	平坦	人為		
342	F 2 g2	N-43°-W	不 整 楕 円 形	0.81 × 0.70	20	緩斜	平坦	自然	土師器(坏, 碗, 高坏, 甕)須恵器(甕, 甗)	
343	F 2 h2	-	不 整 円 形	0.26 × 0.25	86	垂直	平坦	自然	土師器(甕)	
344	F 2 i1	N-45°-W	不 整 楕 円 形	1.02 × 0.90	55	垂直	平坦	人為		
345	F 2 i2	N-55°-W	楕 円 形	0.39 × 0.24	40	外傾	平坦	自然	土製支脚	
346	F 1 i9	-	不 整 円 形	1.30 × 1.20	70	外傾	平坦	自然	土師器(甕)須恵器(甕)	
347	F 3 c9	N-71°-W	隅 丸 長 方 形	1.56 × 0.48	127	外傾	平坦	人為	土師器(坏, 甕)須恵器(坏, 甕)	地下式壊(規模等 は主室のみ) SK -388-一本跡
348	F 2 j2	-	隅 丸 方 形	0.38 × 0.38	36	外傾	平坦	自然	土師器(坏, 甕)	
349	F 2 j2	-	不 整 円 形	0.70 × 0.64	39	外傾	平坦	人為	土師器(甕)	
350	H 2 b0	N-48°-W	[不 整 楕 円 形]	1.46 × [1.08]	32	緩斜	皿状	自然	土師器(甕)	
351	F 2 g1	-	不 整 円 形	0.40 × 0.40	66	外傾	平坦	人為		
352	F 2 f2	N-82°-W	楕 円 形	0.82 × 0.62	50	外傾	皿状	自然	土師器(坏)須恵器(坏)	
353	G 2 b6	N-70°-W	不 整 楕 円 形	0.74 × 0.52	48	垂直	平坦	自然	土師器(坏, 甕)	
354	F 2 h2	N-45°-E	楕 円 形	1.34 × 0.74	20	外傾	平坦	不明	土師器(坏)須恵器(坏, 甕)陶器	
355	G 2 b5	N-55°-W	楕 円 形	1.16 × 0.64	20	緩斜	皿状	自然	土師器(坏, 甕)須恵器(坏)	
356	G 2 b5	-	円 形	1.04 × 1.02	73	垂直	平坦	自然	弥生土器, 土師器(坏, 甕)	
357	G 2 b6	-	不 整 円 形	0.50 × 0.48	54	外傾	平坦	自然	土師器(坏, 甕)	
358	G 2 b5	N-28°-W	楕 円 形	0.72 × 0.42	88	垂直	平坦	自然	土師器(坏, 甕)	
359	G 2 b5	N-38°-W	楕 円 形	0.58 × 0.50	86	垂直	平坦	自然	土師器(坏, 甕)	

土坑 番号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平 面 形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考
				長径 × 短径(m)	深さ(cm)					
360	G2b4	-	円 形	0.40 × 0.40	42	外傾	平坦	自然	土師器(甕)	
361	F1j0	N-46°-W	不整楕円形	0.98 × 0.84	69	外傾	平坦	人為	土師器(甕)	
362	G2b4	N-12°-E	不整楕円形	0.44 × 0.38	68	外傾	平坦	自然		
363	G2b4	N-8°-E	不整楕円形	0.44 × 0.36	76	垂直	平坦	自然		
364	G2c4	N-58°-E	不 定 形	1.41 × 1.10	30	緩斜	皿状	自然		
365	G2c5	N-40°-E	隅丸長方形	0.64 × 0.52	82	垂直	傾斜	自然	土師器(坏, 甕)	
366	G2c5	N-16°-E	不整楕円形	0.62 × 0.53	68	外傾	平坦	自然		
367	G2c5	N-81°-E	楕 円 形	1.00 × 0.74	13	緩斜	皿状	自然	土師器(坏) 須恵器(坏, 甕)	
368	G2c5	N-48°-E	隅丸長方形	0.59 × 0.43	94	垂直	平坦	自然		
369	G2c5	N-43°-W	楕 円 形	0.43 × 0.35	48	外傾	皿状	自然	土師器(坏, 甕) 須恵器(甕)	
370	G2c5	-	円 形	0.52 × 0.48	80	外傾	平坦	自然	土師器(甕) ミニチュア土器	
371	G2c6	N-40°-E	楕 円 形	0.90 × 0.76	78	垂直	皿状	自然	土師器(坏, 甕)	
372	G2c5	N-30°-E	楕 円 形	0.70 × 0.56	60	外傾	皿状	自然	土師器(坏, 甕)	
373	G2d5	N-90°-E	楕 円 形	0.42 × 0.29	46	外傾	凸凹	自然		
374	G2d5	-	円 形	0.95 × 0.87	32	外傾	平坦	自然		
375	G2c5	-	円 形	0.42 × 0.41	80	外傾	傾斜	自然		
376	G2d5	-	隅丸方形	0.42 × 0.42	90	垂直	皿状	人為		
377	G2c6	-	円 形	1.10 × 0.98	74	外傾	平坦	自然		
378	G2c6	N-66°-E	楕 円 形	0.70 × 0.60	38	外傾	凸凹	自然		
379	G2f0	N-0°	楕 円 形	1.72 × 1.13	47	外傾	皿状	自然	土師器(坏, 甕)	
380	G2c6	-	円 形	0.55 × 0.53	45	垂直	傾斜	自然	土師器(甕)	
381	H3a6	-	不整円形	1.42 × 1.30	24	緩斜	凸凹	自然	土師器(坏, 甕) 須恵器(坏)	
382	G2c9	N-76°-W	不整楕円形	1.56 × 1.02	49	外傾	平坦	人為	土師器(坏, 甕) 須恵器(甕)	
383	G2c9	[N-66°-W]	[楕円形]	(1.00) × 1.35	34	外傾	皿状	自然		
384	G2d9	N-71°-W	楕 円 形	0.98 × 0.80	21	外傾	平坦	自然	土師器(甕) 須恵器(甕)	
385	G2c9	N-46°-E	楕 円 形	1.18 × 0.95	15	外傾	平坦	自然	土師器(甕)	
386	G2e9	-	円 形	0.48 × 0.47	46	外傾	皿状	自然	土師器(甕)	
387	G2e9	-	円 形	0.84 × 0.77	21	外傾	皿状	自然		
388	F3c9	-	隅丸方形	2.70 × 2.48	54	緩斜	凸凹	人為	土師器(甕)	
389	G2d0	-	円 形	0.50 × 0.49	57	外傾	皿状	人為	土師器(坏)	
390	G2d0	-	円 形	0.52 × 0.48	55	外傾	皿状	自然	土師器(坏, 甕)	
391	G2d5	-	円 形	0.53 × 0.52	33	外傾	皿状	自然	土師器(甕)	
392	G2d6	-	円 形	0.55 × 0.53	54	外傾	皿状	自然		
393	G2e7	N-0°-E	楕 円 形	0.48 × 0.40	44	外傾	平坦	自然	土師器(坏)	
394	G2e7	N-75°-E	楕 円 形	0.45 × 0.37	45	垂直	平坦	自然	土師器(甕)	
395	F3b0	N-32°-E	長 方 形	3.10 × 2.55	119	外傾	平坦	人為	土師器(甕)	
396	G2h5	N-54°-W	楕 円 形	1.25 × 0.95	21	緩斜	皿状	自然	縄文土器, 土師器(甕)	
397	G2f8	N-25°-E	楕 円 形	0.75 × 0.63	66	外傾	凸凹	自然	土師器(甕)	
398	G2e4	-	不整円形	0.44 × 0.42	20	外傾	平坦	自然	土師器(甕) 刀子	
399	G2e5	-	[円 形]	0.88 × [0.85]	89	垂直	皿状	自然	土師器(坏, 甕)	
400	G2d4	N-15°-E	楕 円 形	0.50 × 0.35	40	垂直	平坦	自然		
401	G2d4	-	円 形	0.47 × 0.42	72	垂直	皿状	自然	土師器(甕)	
402	G2d4	-	円 形	0.47 × 0.43	44	外傾	凸凹	自然		
403	G2e3	-	円 形	0.53 × 0.51	101	外傾	平坦	人為		
404	G1a0	N-71°-W	[長楕円形]	[1.56] × 0.84	25	緩斜	平坦	自然	土師器(甕)	
405	G1b0	N-35°-E	楕 円 形	1.39 × 1.02	18	外傾	平坦	人為	土師器(甕)	
406	G3e2	N-16°-E	不 定 形	0.90 × 0.79	53	外傾	傾斜	人為	縄文土器, 土師器(坏, 甕) 須恵器(甕)	

土坑 番号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平 面 形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考
				長径 × 短径(m)	深さ(cm)					
407	G3e3	N-53°-E	不 定 形	2.97 × 1.36	122	外傾	凸凹	自然	土師器 (坏)	
408	G3d3	N-2°-E	楕 円 形	0.87 × 0.73	28	外傾	平坦	自然		
409	G3g3	N-16°-W	[不整長方形]	[1.29] × 1.04	25	緩斜	皿状	自然		
410	G2c3	-	円 形	0.98 × 0.95	12	緩斜	皿状	自然	土師器 (坏, 甕)	
411	G2i2	-	不 整 円 形	0.93 × 0.87	37	垂直	平坦	自然	土師器 (甕) 須惠器 (坏)	
412	H2a5	N-14°-E	不整楕円形	1.34 × 1.13	129	垂直	皿状	自然	土師器 (甕) 陶器	
413	H2a8	-	不 整 方 形	1.35 × 1.32	86	外傾	平坦	自然		
414	H3b3	N-11°-W	楕 円 形	1.15 × 0.97	28	緩斜	皿状	自然	土師器 (甕)	
415	H3b3	N-39°-W	不整楕円形	1.29 × 1.11	31	外傾	凸凹	自然	土師器 (甕)	
416	H3a4	N-5°-E	楕 円 形	1.18 × 1.02	25	緩斜	皿状	自然		
417	H3b4	-	隅 丸 方 形	1.34 × 1.24	28	外傾	平坦	自然	縄文土器, 土師器 (甕) 須惠器 (坏)	
418	H3d2	N-86°-W	楕 円 形	1.72 × 1.08	24	緩斜	皿状	自然	須惠器 (甕)	
419	H3d1	N-64°-E	楕 円 形	1.56 × 1.11	25	外傾	平坦	自然	土師器 (甕)	
420	H3d3	N-59°-E	楕 円 形	1.18 × 1.02	30	緩斜	凸凹	自然	土師器 (坏, 甕)	
421	H3e3	-	円 形	0.61 × 0.51	26	外傾	平坦	自然		
422	H3e3	N-34°-E	楕 円 形	0.85 × 0.57	19	外傾	皿状	自然	土師器 (坏, 甕)	
423	H3h1	N-13°-E	不整楕円形	0.92 × 0.78	33	外傾	皿状	自然		
424	H3f5	N-64°-W	楕 円 形	1.01 × 0.86	30	外傾	皿状	自然		
425	H3c4	N-0°	楕 円 形	1.16 × 0.97	28	外傾	平坦	自然	土師器 (甕)	
426	G3f0	N-90°	楕 円 形	1.70 × 0.99	23	外傾	平坦	自然	土師器 (甕)	
427	G3e0	N-5°-E	不整楕円形	2.04 × 1.22	16	緩斜	平坦	自然		
428	G3e0	N-85°-E	[長楕円形]	[1.23] × 0.35	33	外傾	傾斜	自然		
429	H3a9	-	方 形	1.61 × 1.61	32	外傾	平坦	自然	土師器 (甕)	
430	H3b0	N-59°-E	不整楕円形	1.81 × 1.24	19	外傾	平坦	自然	土師器 (甕) 須惠器 (甕)	
431	H4b1	N-84°-W	不整長方形	2.06 × 1.56	14	緩斜	平坦	自然	土師器 (坏, 甕) 陶器	
432	H3a0	N-4°-E	長 方 形	1.76 × 1.36	18	外傾	平坦	自然	土師器 (甕)	
433	H3a9	N-76°-E	不整長方形	1.81 × 0.97	13	外傾	凸凹	自然		
434	H4a2	N-5°-E	[不 定 形]	1.78 × [0.76]	35	外傾	皿状	自然		
435	H4a2	[N-2°-E]	不 明	(0.54) × [0.49]	17	外傾	平坦	自然		
436	H4a2	N-9°-W	不整長方形	1.52 × 1.25	82	外傾	凸凹	自然	土師器 (坏, 甕) 須惠器 (甕)	
437	H4a2	[N-14°-W]	不 明	(0.37) × (0.24)	19	緩斜	皿状	自然		
438	H4a3	N-31°-E	[不整楕円形]	(1.75) × 1.55	24	外傾	平坦	自然		
439	H4a3	N-84°-W	[不整長方形]	1.80 × (0.55)	12	緩斜	平坦	自然		
440	H3j9	N-34°-W	不整長方形	1.74 × 1.00	10	緩斜	平坦	自然		
441	H3a9	N-9°-W	長 方 形	1.98 × 0.98	10	緩斜	平坦	自然		
442	F3e7	N-70°-W	隅 丸 長 方 形	2.78 × 1.30	60	外傾	平坦	自然		
444	F3d7	N-10°-E	楕 円 形	1.15 × 0.90	35	外傾	凸凹	自然	土師器 (甕) 陶器	
445	F3d6	-	円 形	0.90 × 0.90	28	外傾	平坦	自然		
446	F3d6	N-26°-E	隅 丸 長 方 形	1.08 × 0.97	78	外傾	皿状	自然		
447	F3d6	N-22°-E	[長 方 形]	1.15 × [0.87]	65	外傾	凸凹	自然		
448	F3e7	-	[隅 丸 方 形]	1.20 × (0.71)	45	外傾	平坦	自然		
450	F4f1	N-90°	長 楕 円 形	2.34 × 1.05	8	緩斜	皿状	不明		粘土貼り
451	H3b0	N-90°	不整長方形	1.00 × 0.72	71	外傾	平坦	人為	土師器 (坏, 碗, 甕)	鍛冶 SK-430内
452	H4c2	N-61°-E	[不整楕円形]	2.18 × [1.88]	35	外傾	凸凹	自然	土師器 (甕)	
453	H4c2	[N-68°-E]	[楕 円 形]	2.15 × [1.27]	33	外傾	傾斜	自然	土師器 (坏, 甕)	
454	H3g0	N-72°-E	長 方 形	2.03 × 1.65	33	外傾	平坦	自然		
455	G3j0	N-79°-W	楕 円 形	1.94 × 1.72	164	垂直	平坦	人為	土師器 (甕)	地下式竈 (規模等は 主室のみ) SK-461 +本跡

土坑 番号	位 置	長径方向 (長軸方向)	平 面 形	規 模		壁面	底面	覆土	出 土 遺 物	備 考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
456	H3g8	N-90°	不整長方形	0.86 × 0.78	23	外傾	皿状	人為	椀形滓	鍛冶
457	H4e4	-	不整方形	2.19 × 2.09	94	外傾	平坦	人為	土師器(坏, 甕)	
458	F3d5	N-16°-E	隅丸長方形	1.48 × 1.31	121	外傾	平坦	自然		
460	H4c1	N-90°	隅丸長方形	1.51 × 0.76	29	外傾	平坦	人為		粘土貼り SK-178→本跡
461	G3j0	-	不 明	1.23 × (0.99)	23	緩斜	皿状	自然		
462	F3f3	N-17°-W	楕 円 形	0.90 × 0.70	41	緩斜	平坦	自然	土師器(高台付椀)	

6 溝

当遺跡から53条の溝が検出されている。そのうち今年度調査区から19条の溝が検出されている。前年度調査区検出の溝と関連があるもの、遺物が出土しているものについて報告する。その他の溝については一覧表にて報告する。

第35号溝 (付図・第432図)

位置 調査区の北部, C3f8~C2j0

重複関係 本跡が, 第197号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 北東部が調査区域外に延びているため検出部分は長さ(26.6)m, 上幅78~108cm, 下幅24~52cm, 深さ17.0~34.0cmで, 断面形はU字形である。

方向 C3e9区から北東(N-22°-E)に直線的に延びる。

覆土 4層からなり, レンズ状の堆積を示し, 自然堆積である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム中・小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
- 4 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量

遺物 土師器片120点(坏片20点, 甕片100点), 須恵器片39点(坏片26片, 蓋片3点, 甕片10点), 土製品1点が出土している。覆土中から第432図1の土玉が出土している。土器類はほとんどが細片であるため, 図示できるものはない。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から平安時代以降と考えられる。

第36号溝 (付図・第432図)

位置 調査区の北部, C3f8~D4a7区

重複関係 本跡が第186A, 186B号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南東部が調査区域外に延びているため検出部分は長さ(44.0)m, 上幅73~182cm, 下幅22~68cm, 深さ13.0~53.0cmで, 断面形は箱葉研状である。

方向 D4a7区から北西(N-60°-W)に直線的に延びる。

覆土 6層からなり, レンズ状の堆積を示し, 自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
- 3 極暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒子微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量

遺物 土師器片156点(坏片42点, 高台付坏片2点, 甕片112点), 須恵器片48点(坏片24点, 高台付坏片2点, 甕片22点)が出土している。覆土中では, 第433図2の土師質土器, 3の陶器壺が出土している。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から中世以降と考えられる。

第37号溝 (付図・第432図)

位置 調査区の北西部, C3f6~D3b1区

重複関係 本跡が第161B・第163・第164・第165号住居跡を掘り込んでいる。また, 39号溝と合流するが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 確認長(35.0)m, 上幅44~108cm, 下幅22~68cm, 深さ20~56cmで, 断面形は箱薬研状である。

方向 C3f6区から南西(N-60°-W)に直線的に伸び, C3b1区で2条に分岐する。そのうち1条は南西(N-14°-E)に緩やかに曲がり5.50m伸び, もう1条は南(N-2°-E)に直線的に6.75m伸びる。

覆土 3層からなり, レンズ状の堆積を示し, 自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物 土師器片55点(坏片4点, 甕片11点), 須恵器片1点(甕片1点)で出土しているが, ほとんどが細片のため図示できるものはない。

所見 本跡の時期は, 遺構の形態及び出土遺物から平安時代以降と考えられる。

第38号溝 (付図・第432図)

位置 調査区の北部, D3d3~D4j5区

重複関係 本跡が第161A・161B号住居跡, 及び第42号溝を掘り込んでいる。

規模と形状 確認長(54.8)m, 上幅51~130cm, 下幅16~80cm, 深さ7~21cmで, 断面形はU字形である。

方向 D3d3区から南西(N-63°-W)に直線的に伸びる。

覆土 3層からなり, レンズ状の堆積を示し, 自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック微量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック少量・ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量・ローム小ブロック少量

遺物 遺物は出土していない。

所見 本跡の時期は, 不明である。

第41号溝 (付図・第432図)

位置 調査区の北東部, D4i4~E4c1区

重複関係 本跡が第112号住居跡を掘り込んでおり, 第38号溝に掘り込まれている。

規模と形状 東部が調査区域外に伸びているため検出部分は長さ(32.1)m, 上幅56~154cm, 下幅20~72cm, 深さ46~56cmで, 断面形は薬研状である。

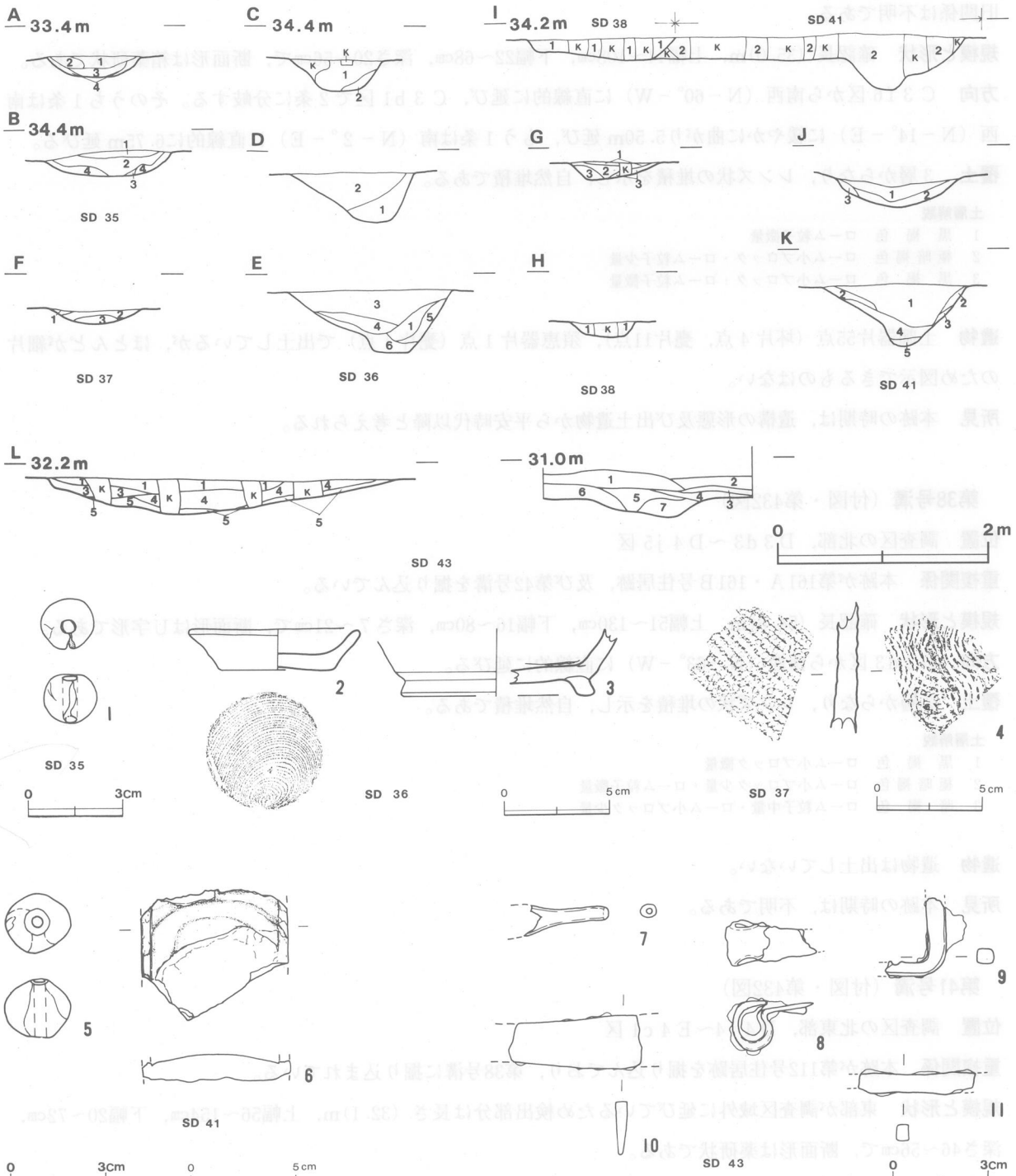
方向 E4c1区から北西に1.4m伸び, 第112号住居跡で曲がり, 北東(N-24°-E)に直線的に伸び, E4c1区でほぼ東(N-24°-E)に10.9m伸びる。

覆土 5層からなり、レンズ状の堆積を示し、自然堆積である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子少量、ローム中・小ブロック微量
- 2 極暗褐色 ローム中・小ブロック・ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 4 黒褐色 ローム大・中・小ブロック・ローム粒子少量
- 5 暗褐色 ローム中・小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム粒子少量
- 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物 土師器片 5点 (坏片 4点, 高台付碗片 1点), 須恵器片 5点 (蓋片 1点, 甕片 4点), 土製品 1点, 石製



第432図 溝・出土遺物実測図

品1点が出土している。第432図5の土玉、6の石製硯は覆土中から出土している。

所見 本跡の時期・性格は不明である。

第43号溝 (付図・第432図)

位置 調査区の北東部, E 3 e5~F 4 c3

重複関係 本跡が第254号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南東部が調査区域外に延びているため検出部分は長さ(44)m, 上幅141~364cm, 下幅68~192cm, 深さ5~28cmで, 断面形はU字形である。

方向 E 3 e5 区から南東(N-51°-W)に直線的に延びる。

覆土 4層からなり, レンズ状の堆積を示し, 自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック・ローム・粘土粒子少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量, 焼土小ブロック極微量
- 7 灰褐色 粘土粒子中量, ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

遺物 土師器片382点(坏片43点, 高台付坏片1点, 高坏片2点, 甕片336点), 須恵器片79点(坏片41点, 高台付坏片1点, 蓋片1点, 甕片36点), 弥生土器片12点, 煙管1点, 刀子1点, 不明鉄製品3点が出土している。第433図7の煙管, 10の刀子, 8, 9, 11の不明鉄製品は覆土中から出土している。

所見 当集落の中央部から谷津に向かう方向にあり, 溝の底面は, 踏み固められていることから, 道路状遺構と思われる。時期は, 古墳時代の住居跡を掘り込み, 覆土中から平安時代の遺物が出土していることから平安時代以降と考えられる。

第35号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		備	考	
第432図1	土玉	1.6	1.7	0.5	3.3	覆土中	DP1134	100%	PL169

第36号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第432図2	小皿 土師質土器	A 8.2	平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部, 体部ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・雲母・スコリア 明黄褐色 普通	P 1716 100% 覆土中 PL161
		B 1.9				
		C 5.4				
3	壺 陶器	B (3.2) D [9.2] E 0.8	高台部から体部下位片。高台は短くハの字状に開く。体部は内彎気味に立ち上がる。	体部ロクロナデ。高台貼付け。	長石・石英 暗赤褐色 普通	P 1717 5% 覆土中

第41号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		備	考	
第432図5	土玉	1.9	2.1	0.4	3.3	覆土中	DP1135	100%	

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
第432図6	硯	(6.3)	7.0	(1.4)	(64.8)	粘板岩	覆土中	Q1032	PL175

第43号溝金属製品観察表

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考	
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)			
第432図7	煙管	(2.7)	(1.1)	0.4	(1.1)	覆土中	M1032	95%
8	不明鉄製品	(3.0)	1.6	0.4	(6.4)	覆土中	M1033	95%
9	不明鉄製品	(2.5)	0.6	0.5	(4.3)	覆土中	M1044	95%
10	刀子	(4.2)	1.7	0.5	(8.3)	覆土中	M1045	95% PL177
11	不明鉄製品	(3.7)	0.9	0.4	(3.0)	覆土中	M1046	95%

表6 木工台遺跡溝一覽表

溝番号	位置	方向	形状	規模				断面	底面	覆土	出土遺物	備考	
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)					新旧関係(古→新)	旧溝番号
35	C3f8~C2j0	N-22°-E	直線	(26.6)	78~108	24~52	17~34	-	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SI197→本跡	SD1
36	C3f8~D4a7	N-60°-W	直線	(44.0)	73~182	22~68	13~53	-	平坦	自然	土師器片, 須恵器片, 陶器片	SI186A, 186B→本跡	SD2
37	C3f6~D3c1	N-60°-W	曲線	(35.0)	44~108	22~68	20~56	-	平坦	自然	土師器片	SI161B, 163, 164, 165→本跡 SD39?	SD3
38	D3d3~D4j5	N-63°-W	直線	(54.8)	51~130	16~80	7~21	-	平坦	自然		SI161A, 161B, SD42→本跡	SD5
39	D3c1~E2d1	N-46°-E	曲線	(60.3)	43~180	20~99	9~24	-	平坦	自然	土師器片, 鉄滓	SI149, 150B, 154, 156, 161A, 161B→本跡	SD6
40	D2e3~D2g6	N-50°-W	曲線	19.6	66~161	22~60	16~30	-	平坦	自然		SI155A, 155B→本跡	SD7
41	D4i4~E4c1	N-24°-E	曲線	(32.1)	56~154	20~72	46~56	-	平坦	自然	土師器片, 須恵器片, 土玉	SI112→本跡→SD38	SD8
42	E2a6~E2h3	N-17°-E	曲線	(33.1)	51~188	32~130	12~20	-	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SI137B, SD45→本跡→SD44	SD11
43	E3e5~F4c3	N-51°-W	曲線	(44.0)	141~364	68~192	5~28	-	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SI254→本跡	SD12
44	E1d0~E4a5	N-85°-W	曲線	100.4	74~168	35~108	0~29	-	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SI112, 145A, 145B, 145C, 172, 205, SD42→本跡	SD13
45	E2e2~E3f2	N-90°-E	曲線	36.6	74~110	44~64	14~22	-	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SI144→本跡 SD45?	SD14
46	G2i9~G3i5	N-86°-E	曲線	(23.6)	-	35~64	0	-	平坦	自然		SI234B→本跡	SD16
47	G2i9~H3b1	N-82°-W	曲線	(24.3)	39~81	14~58	4~20	-	平坦	自然		SI231, 225→本跡	SD17
48	H2c5~H2g9	N-46°-W	曲線	21.9	52~114	20~74	15~18	-	平坦	自然	土師器片	SI239, 230B→本跡	SD18
49	H2f0~H2j8	N-25°-E	曲線	(20.8)	114~284	83~218	14~25	-	平坦	自然	弥生土器片, 土師器片	SI238→本跡	SD19
50	H3h2~I3a3	N-46°-W	曲線	(12.6)	74~161	45~108	16~22	-	平坦	自然		SI243, 244C→本跡 SD51?	SD20
51	I3a2~H4g1	N-67°-E	曲線	(42.3)	56~210	9~66	16~35	-	平坦	自然	弥生土器片, 土師器片, 須恵器片	SI244A, 244C, 252, 250→本跡 SD50, 52?	SD21
52	H3e9~H3h0	N-53°-W	曲線	(9.5)	102~154	74~96	9~22	-	平坦	自然		SD21→本跡 SD51?	SD22
53	D3d1~E2b2	N-53°-W	曲線	(46.0)	56~94	20~46	8~21	-	平坦	自然		SI149, 161A, 161B, 161C, 156, 154, 150B, 150D→本跡	SD26

7 不明遺構

当遺跡から性格不明の遺構が2基検出されている。

第1号不明遺構(第433図)

位置 調査区の中央部, F3f1区。

重複関係 第116B号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長軸5.20m, 短軸24.6mの長方形である。

長軸方向 N-73°-W

壁 壁高は8~24.6cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、軟弱なロームである。

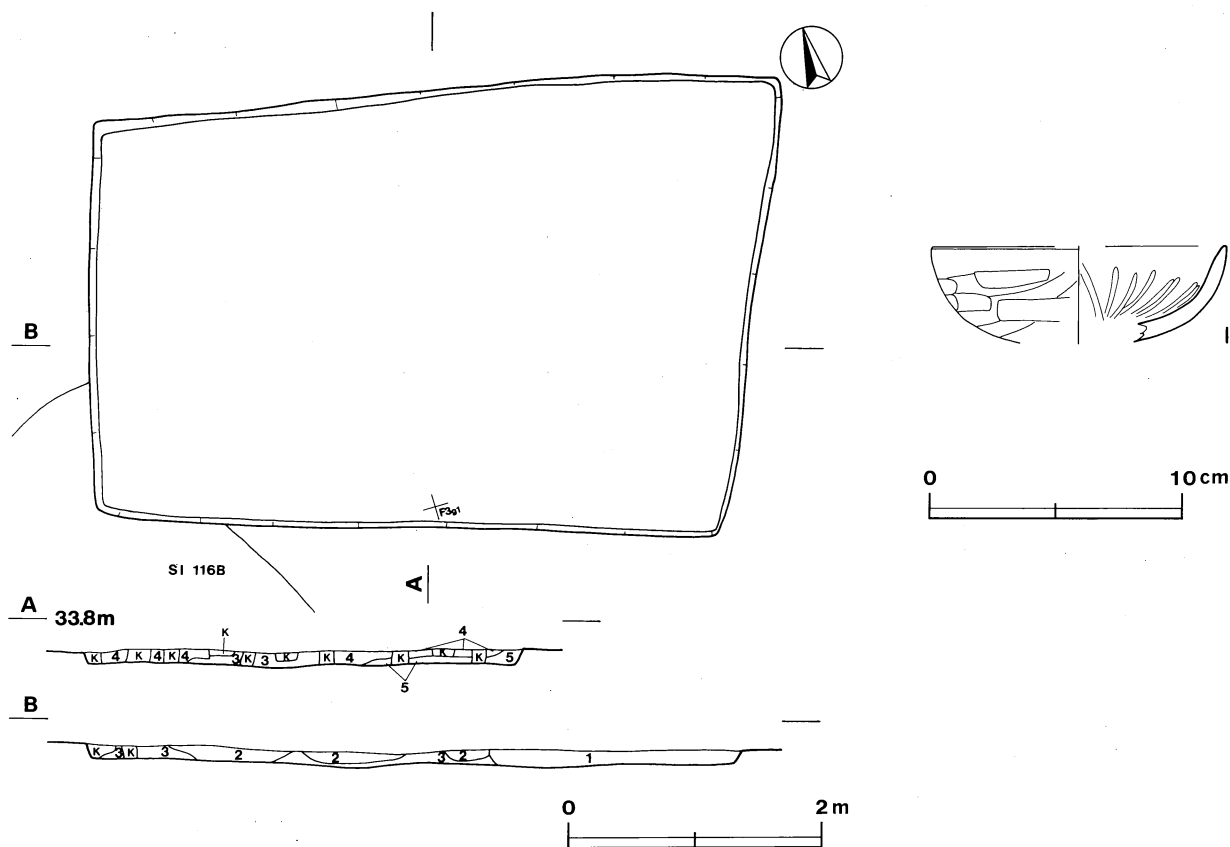
覆土 5層からなるが、掘り込みが浅く攪乱なども受けているため、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 焼土小ブロック・炭化粒子・ローム中ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土・炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム粒子多量, ローム小ブロック中量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム中・小ブロック, ローム粒子少量

遺物 土師器片16点(坏片6点, 甕片10点), 縄文土器片1点が出土している。第433図1の土師器坏が覆土中から出土している。その他の土器は、いずれも細片である。

所見 本跡の時期は、第116B号住居跡を掘り込んでいることから古墳時代後期と考えられが、遺構の性格は不明である。



第433図 第1号不明遺構・出土遺物実測図

第1号不明遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第433図 1	坏 土師器	A [12.6] B (3.8)	体部から口縁部片。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ割り, 内面縦位のヘラ磨き。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P1711 20% 覆土中

第2号不明遺構 (第434図)

位置 調査区の中央部, F 2 j0 区。

規模と平面形 掘り込みが浅く北側の壁はほとんど残存していないが, P3 の位置などから長軸 [5.10]m, 短軸29.6m の長方形であると推定される。

長軸方向 N - 5° - E

壁 壁高は 8 cm で, 外傾して立ち上がる。

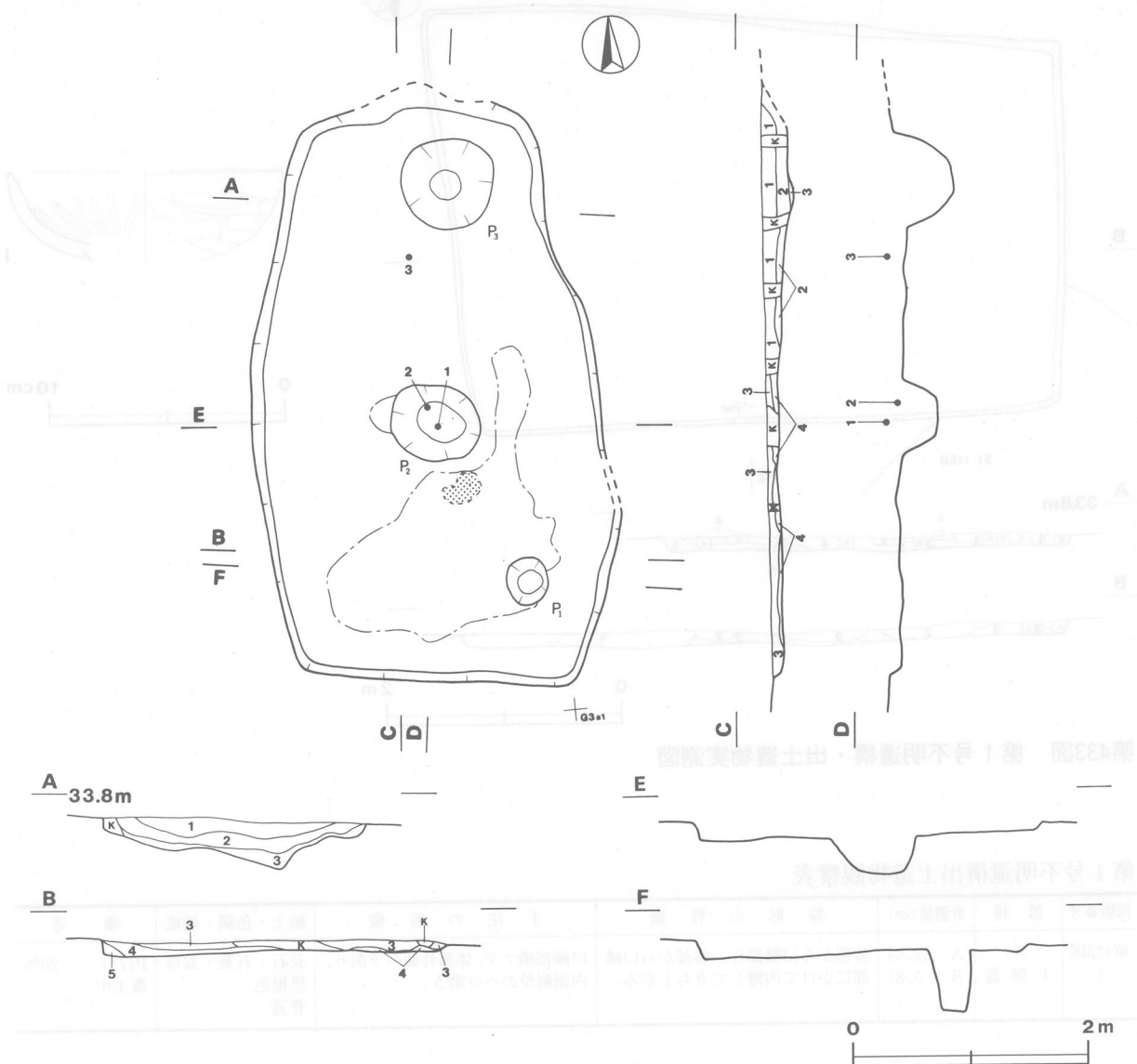
床 平坦で, P1 から P2 付近にかけて一部踏み固められている。

ピット 3ヶ所 (P1~P3)。P1 は長径41cm, 短径36cmの楕円形, 深さ52.8cm, P2 は長径78cm, 短径68cm の楕円形, 深さ29.6cm, P3 は径81cmの円形, 深さ34.5cmである。P1 ~ P3 はいずれも性格不明である。

覆土 5層からなるが, 掘り込みが浅く攪乱なども受けているため, 堆積状況は不明である。

土層解説

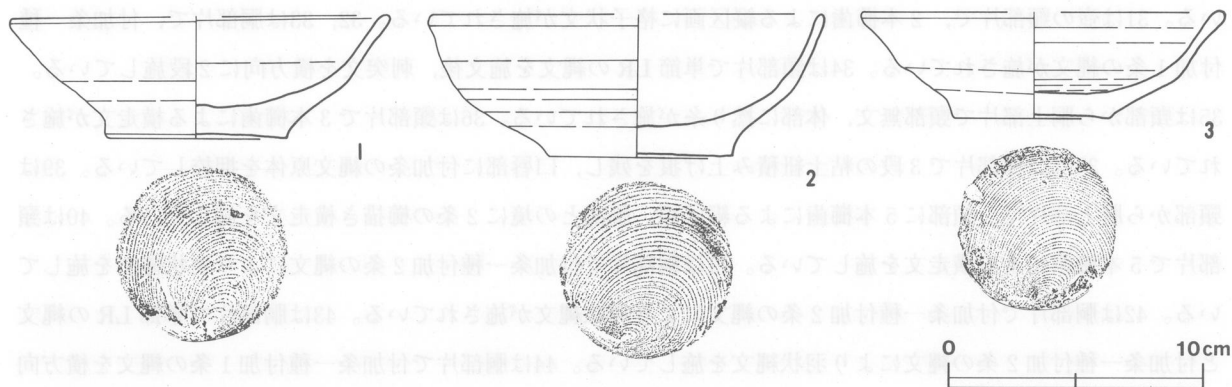
- 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック微量, 焼土・炭化粒子・ローム中ブロック極微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土・炭化粒子・ローム小ブロック微量
- 3 極暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化物微量
- 5 褐色 炭化粒子少量



第434図 第2号不明遺構実測図

遺物 土師器片66点（坏片61点，甕片5点），灰釉陶器片1点，含鉄滓12gが出土している。第435図3の土師器台付椀が中央部北側の覆土上層から正位の状態出土している。1，2の土師器台付椀がP2内から正位の状態出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から10世紀前葉と考えられる。遺構の性格は不明である。



第435図 第2号不明遺構出土遺物実測図

第2号不明遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第435図 1	台付椀 土師器	A [15.0] B 4.8 C 7.2	底部から口縁部片。突出した平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・雲母スコリア 灰黄色 普通	P 1713 45% ピット内 PL160
2	台付椀 土師器	A [15.7] B 5.6 C 7.2	底部から口縁部片。突出した平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・雲母スコリア 灰褐色 普通	P 1714 65% ピット内 PL160
3	台付椀 土師器	A [14.5] B 4.3 C 6.3	底部から口縁部片。突出した平底。体部は内彎して立ち上がり，口縁部は外反する。	口縁部，体部ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・雲母スコリア にぶい黄橙色 普通	P 1712 45% 覆土中 PL160

8 遺構外出土遺物

今回調査した縄文時代から平安時代の遺構に，旧石器時代の石器や縄文土器，弥生土器が混入している。また，試掘調査の際に出土した遺物もある。これらを含めて遺構外出土遺物として報告する。

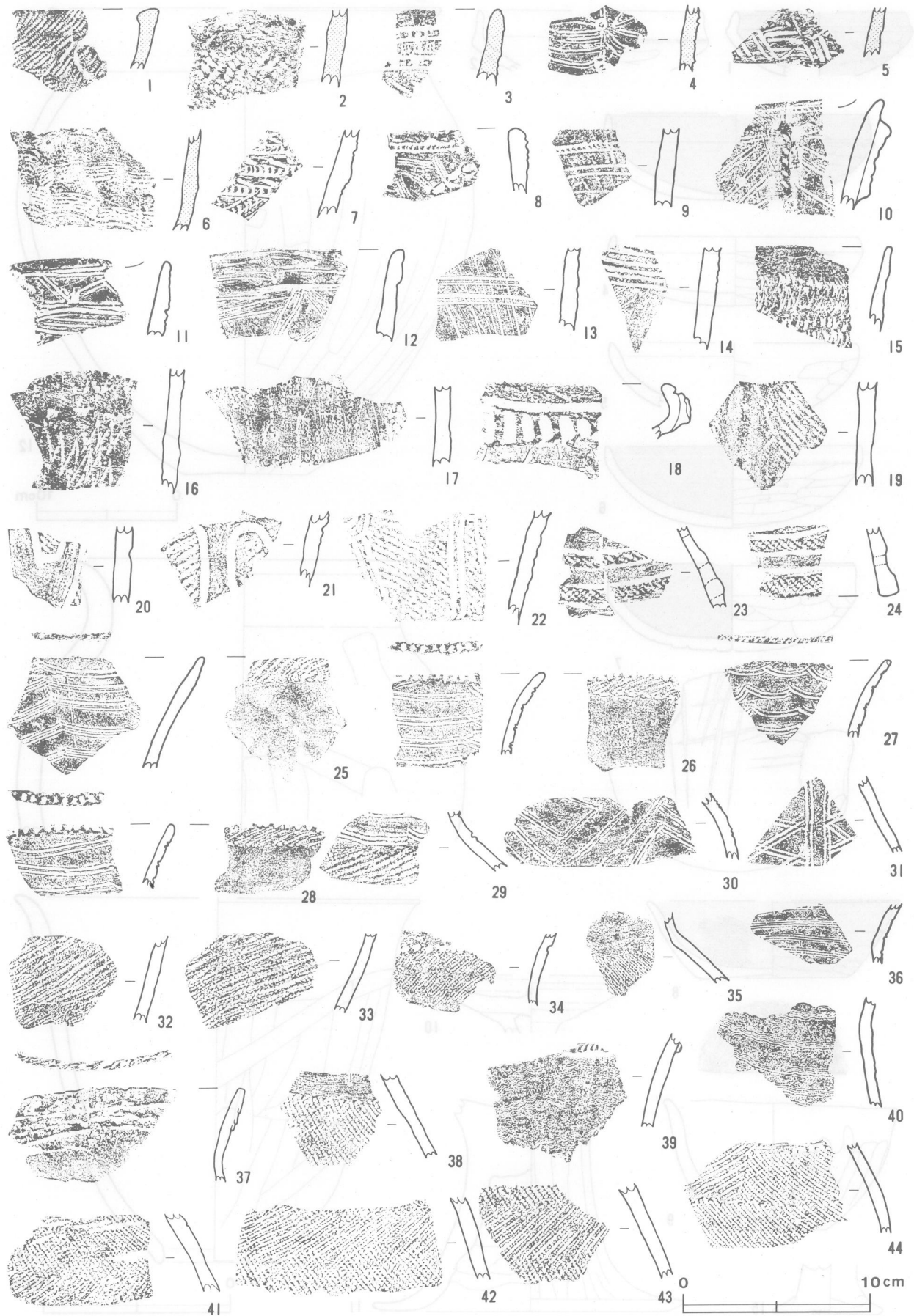
第436図1～24は縄文土器片である。1，2は深鉢の口縁部片で単節縄文RLが施されている。3は口縁部片，4，5は胴部片で，竹管による爪形文，肋骨文，刺突文が施されている。6は条線が横方向に施されている。1～6は胎土に繊維を含んでいる。7は胴部片で，半截竹管による爪形文が施されている。8は口縁部片，9は体部片で半截竹管による平行沈線，爪形文が施されている。10～12は口縁部片である。10は口縁部直下に爪形文，キザミを入れた隆帯による縦区画をし，平行沈線による肋骨文が施されている。11，12は平行沈線文がランダムに施されている。13，14は胴部片で撚糸を地文とし，平行沈線文が施されている。15は口縁部片，16は胴部片で，貝殻腹縁による波状文が施されている。17は胴部片で貝殻腹縁文が施されている。18は口縁部片で直下に沈線を施し，粘土紐を貼り付け縦位に短い沈線を施している。19は胴部片で断面三角形を呈する隆帯を施し，その両側に磨消縄文を施している。20，21は胴部片で沈線により区画し，磨消縄文を施している。22は胴部片で単節RLの縄文を地文にし，沈線を施している。23，24は台付鉢の台部片で隆起帯縄文が施されて

いる。

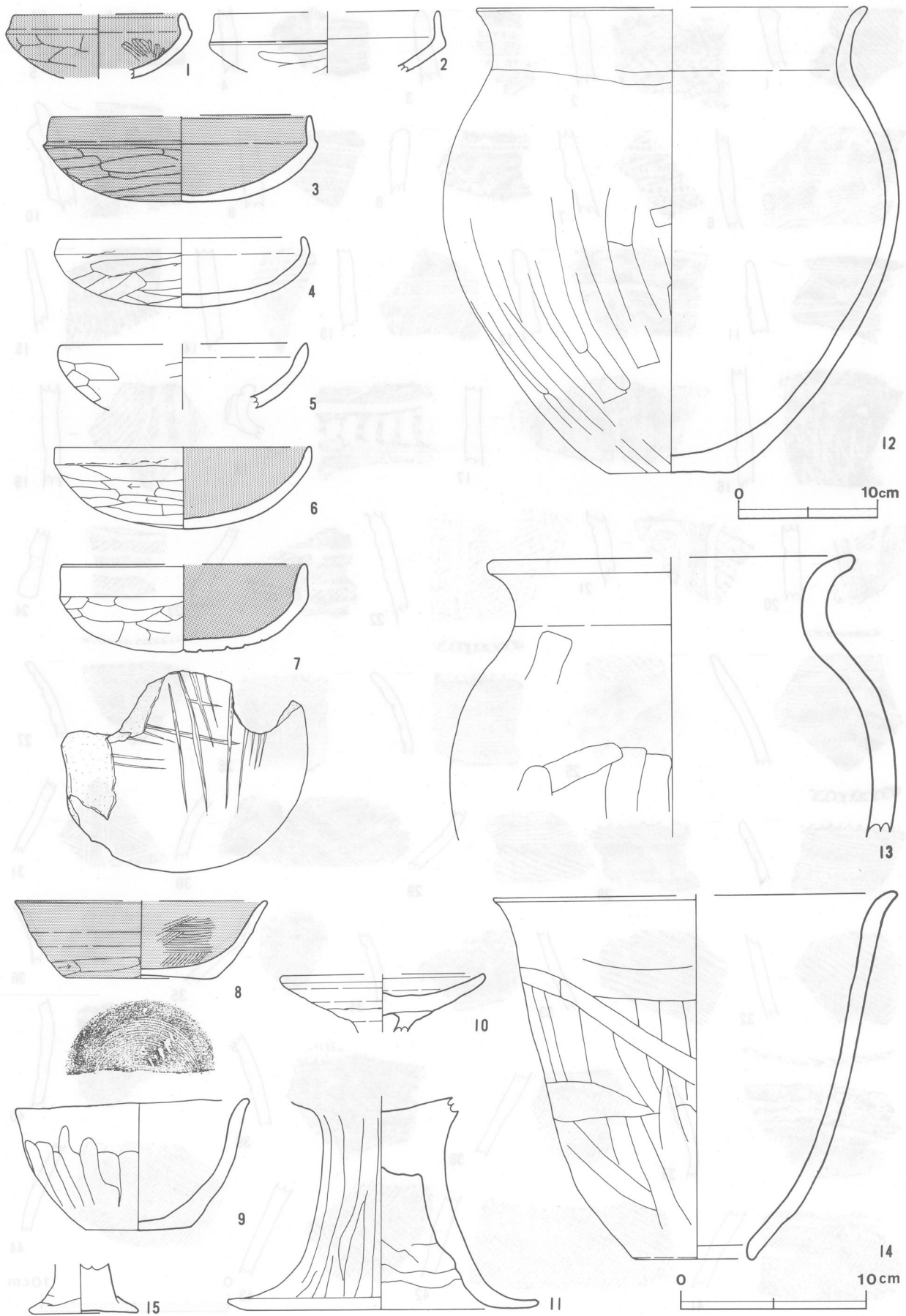
第436図25~44は弥生土器片である。25~28は広口壺の口縁部片で2本櫛歯による連弧文が施されおり、25の口唇部には付加条の縄文が回転押捺され、27、28の口唇部には棒状工具による押圧が施されている。25、26、28は内面に付加条一種付加1条の縄文が施されている。29は頸部から胴部片で頸部に2本櫛歯による連弧文、胴部に付加条一種付加1条の縄文が施されている。30は壺の胴上部片で、2本櫛歯による重層V字文が施されている。31は壺の頸部片で、2本櫛歯による縦区画に格子状文が施されている。32、33は胴部片で、付加条一種付加1条の縄文が施されている。34は頸部片で単節LRの縄文を施文後、刺突文を横方向に2段施している。35は頸部から胴上部片で頸部無文、体部に撚り糸が施されている。36は頸部片で3本櫛歯による横走文が施されている。38は口縁部片で3段の粘土紐積み上げ痕を残し、口唇部に付加条の縄文原体を押捺している。39は頸部から胴上部片で、頸部に5本櫛歯による縦区画、胴部との境に2条の櫛描き横走文を施している。40は頸部片で5本櫛歯による横走文を施している。41は胴部片で付加条一種付加2条の縄文により羽状縄文を施している。42は胴部片で付加条一種付加2条の縄文により羽状縄文が施されている。43は胴部片で単節LRの縄文と付加条一種付加2条の縄文により羽状縄文を施している。44は胴部片で付加条一種付加1条の縄文を横方向に押捺しているが、部分的に縦方向に押捺しているところがある。

遺構外出土遺物観察表

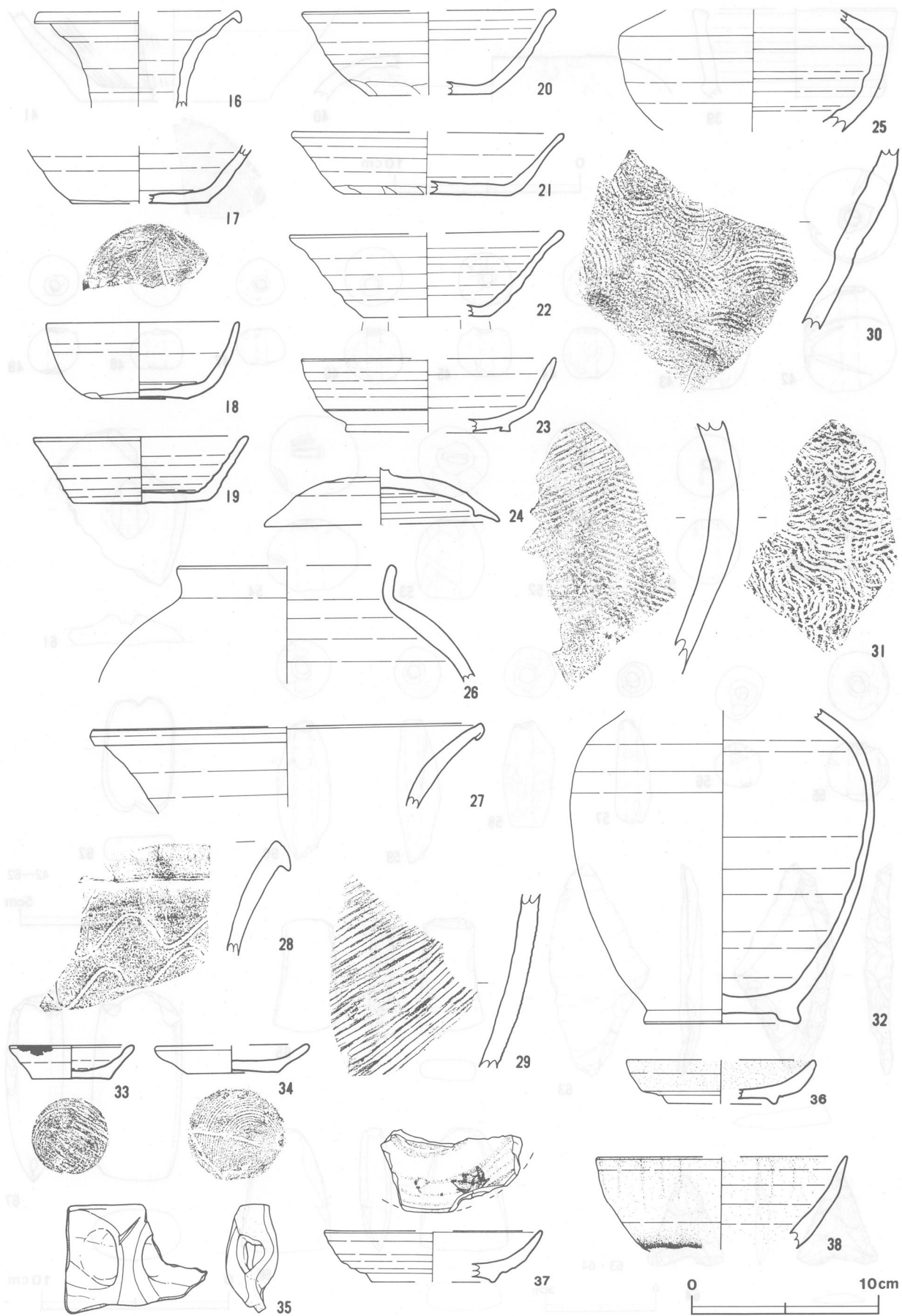
図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第437図 1	坏 土師器	A [9.2] B (3.5)	底部から口縁部片。丸底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ、内面ヘラ磨き。内・外面黒色処理。	長石・雲母・スコリア にぶい黄褐色 普通	P129 覆土中 10%
2	坏 土師器	A [12.2] B (3.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P1719 覆土中 10%
3	坏 土師器	A [14.0] B 4.6	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に明瞭な稜を持つ。口縁部は内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・石英・雲母 スコリア 黒褐色 普通	P1725 トレレンチ 40% PL161
4	坏 土師器	A 13.4 B 3.7	口縁部一部欠損。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部はわずかに内傾する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 スコリア 黄灰褐色 普通	P1723 トレレンチ 95% PL161
5	坏 土師器	A [13.2] B (3.5)	底部から口縁部片。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ナデ。内面ナデ。	石英・雲母・スコリア にぶい褐色 普通	P23 覆土中 40%
6	坏 土師器	A 13.9 B 4.4	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に弱い稜を持つ。口縁部は短く直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り後ヘラ磨き、内面ナデ。内・外面黒色処理。	長石・石英・雲母 黒褐色 普通	P1726 D4f9区 60%
7	坏 土師器	A [13.2] B 4.8	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。内面黒色処理。底部砥石転用痕。	長石・石英・雲母 スコリア 黒褐色 普通	P1724 表採 45% PL161
8	坏 土師器	A [13.6] B 4.2 C 7.7	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部クロナデ。体部下端手持ちヘラ削り、内面ヘラ磨き。底部回転糸切り後、回転ヘラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・雲母 スコリア 明黄褐色 普通	P1715 覆土中 45%
9	碗 土師器	A 12.6 B 7.0 C 5.6	平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 スコリア 橙色 普通	P1720 覆土中 100% PL161



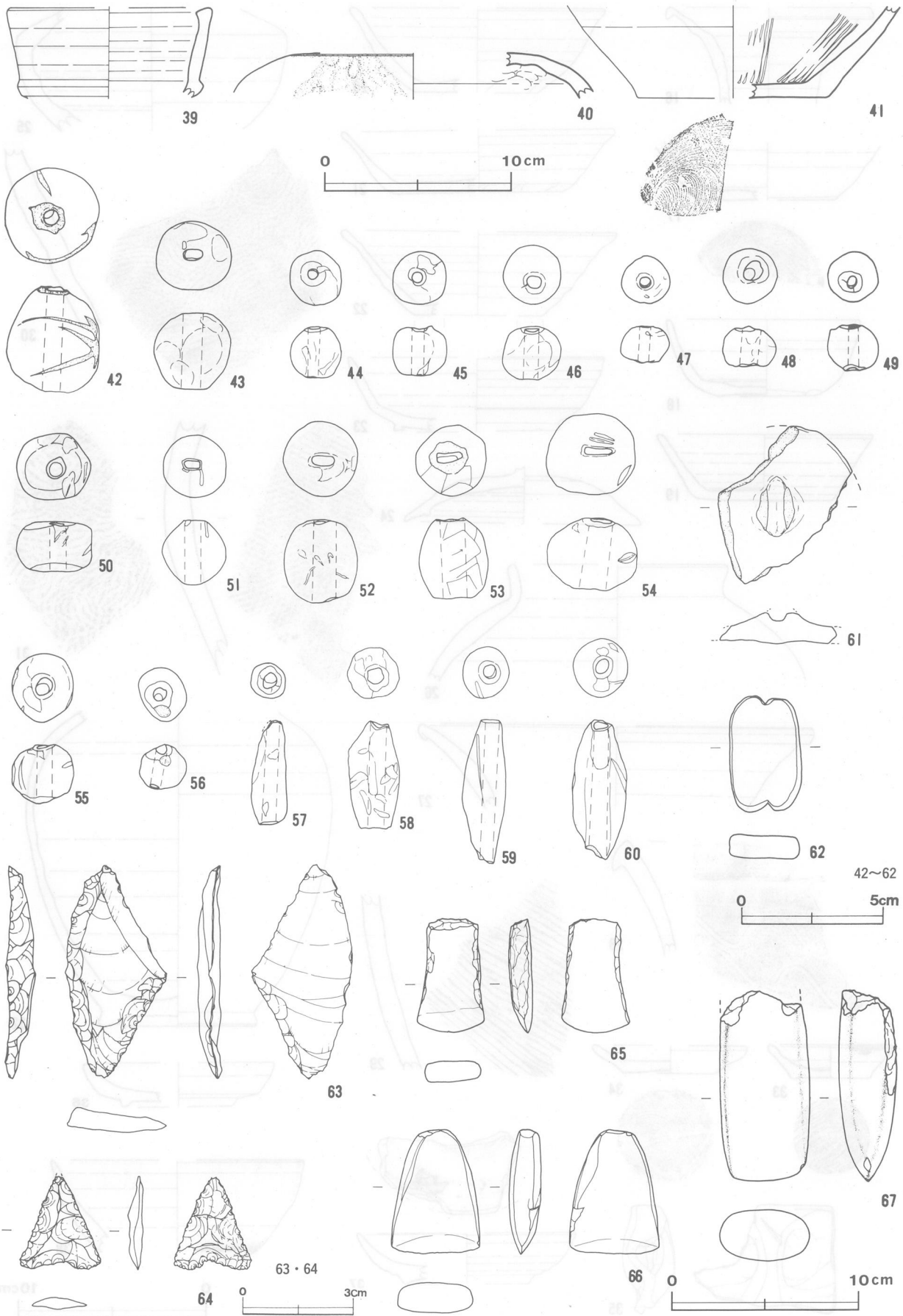
第436图 遺構外出土遺物実測図(1)



第437图 遺構外出土遺物実測図(2)

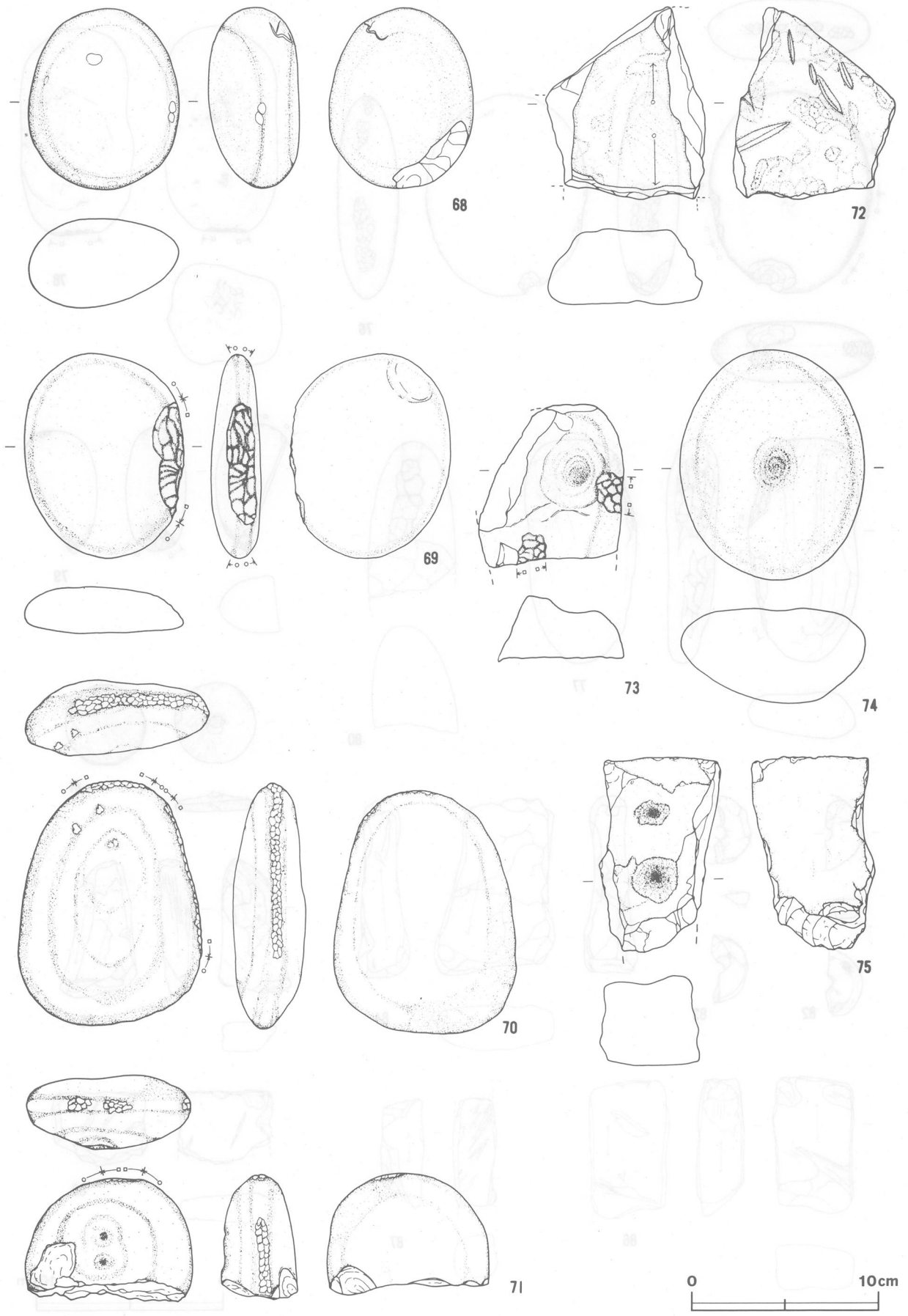


第438图 遺構外出土遺物実測図(3)



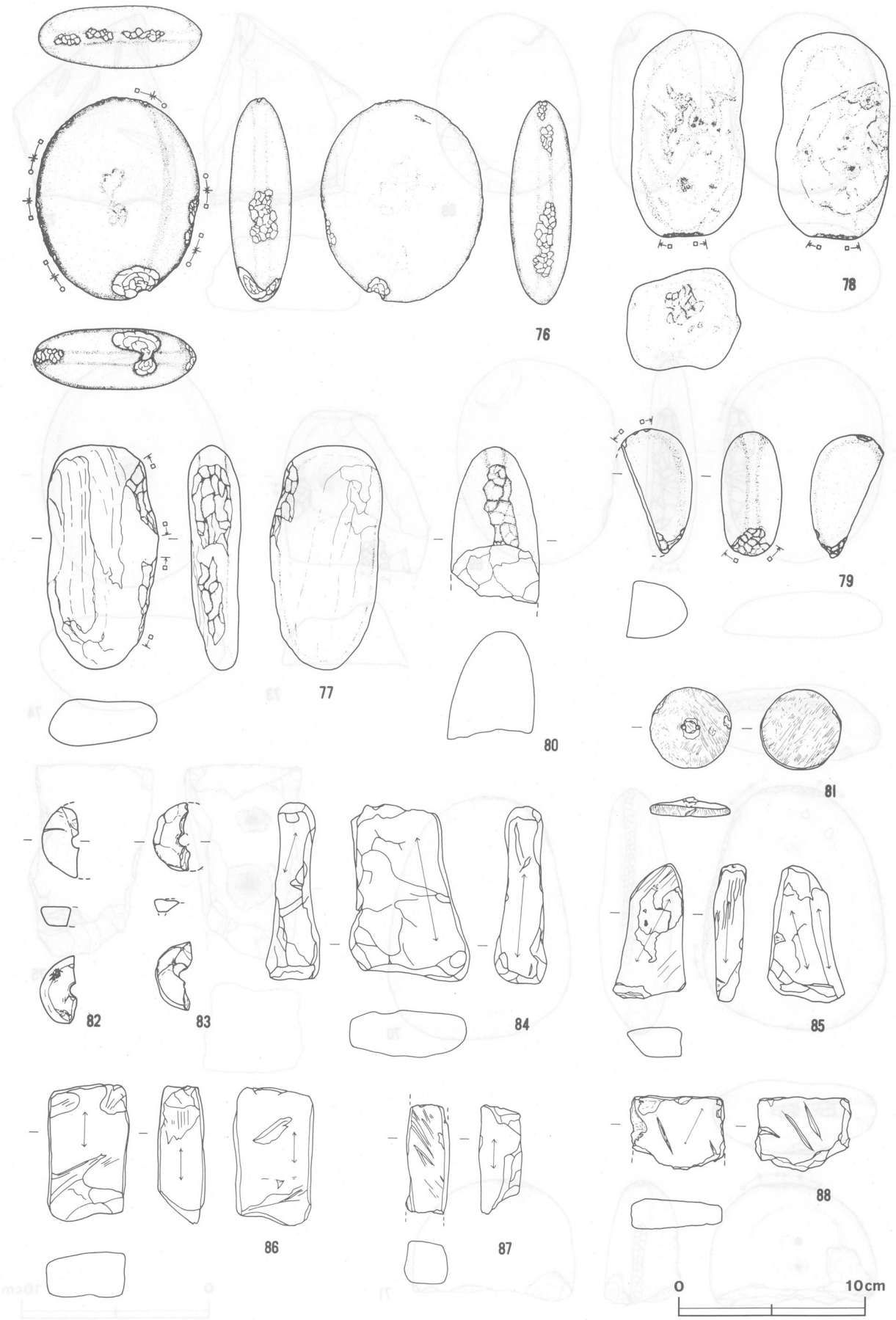
第439图 遺構外出土遺物実測図(4)

（図紙実研室土出大附） 図364



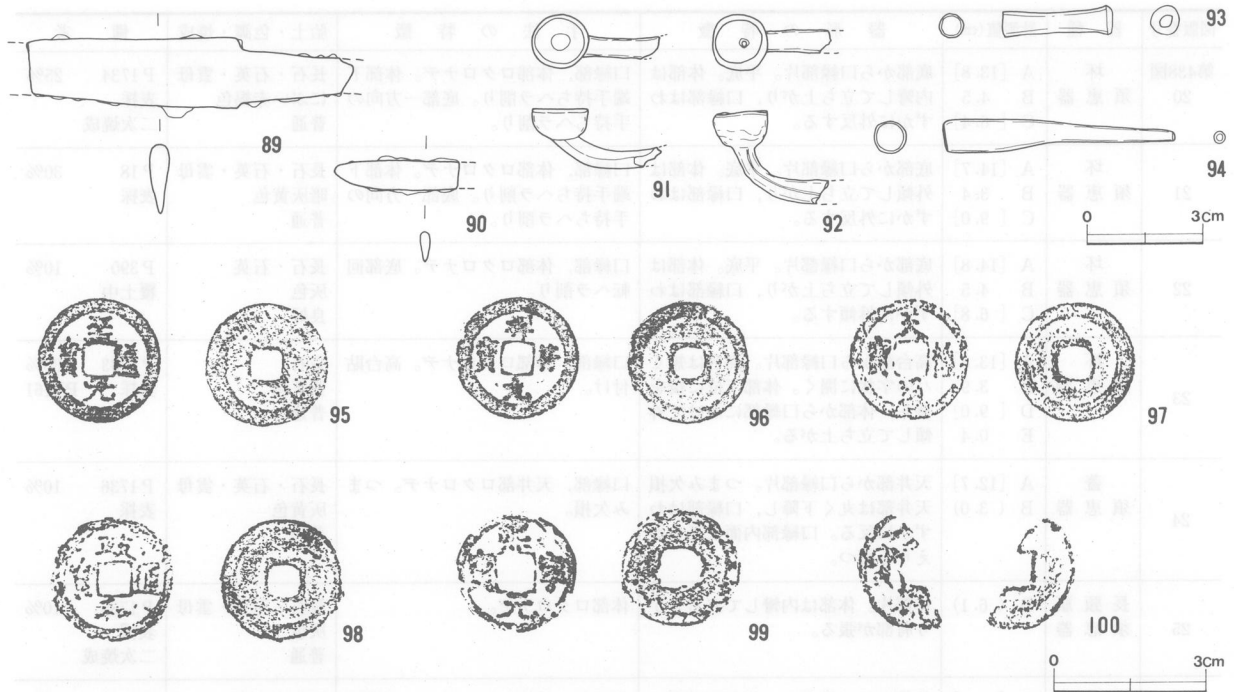
第440图 遺構外出土遺物実測図(5)

図版実物出土遺物実測図(5)



第441図 遺構外出土遺物実測図

遺構実測出土遺物実測図 441号



第442図 遺構外出土遺物実測図(7)

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第437図 10	高坏 土師器	A [11.0] B (3.2) E (0.6)	坏部片。脚部はわずかに内彎して立ち上がる。	坏部内・外面ロクロナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 1727 20% 表採
11	高坏 土師器	D 16.8 E (11.4)	脚部片。脚部は太くラップ状に開く。	脚部内・外面ヘラ削り。内面輪積み痕。	長石・石英・雲母・ スコリア 橙色 普通	P 1721 50% 覆土中 二次焼成
12	甕 土師器	A [28.0] B 33.6 C [8.8]	底部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、端部は外上方向にわずかにつまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面中位から下位にかけて縦位のヘラ削り、内面ヘラナデ。	長石・石英・雲母 スコリア 橙色 普通	P 1722 45% 覆土中 PL161
13	甕 土師器	A [20.0] B (15.0)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がる。口縁部は外反し、端部はわずかに外上方向につまみ上げられている。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・石英・雲母 スコリア にぶい橙色 普通	P 1728 20% F 1区表採 PL161
14	甕 土師器	A [21.6] B 19.6 C 6.6	底部から口縁部片。無底式。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部横ナデ。体部外面ヘラ削り、内面ナデ。	長石・雲母・スコ リア・白色針状物 にぶい褐色 普通	P 1729 60% トレンチ 6 PL161
15	ミニチュア 高坏 土師器	B (2.7) D 5.8	脚部片。脚部は柱状を呈し、裾部は開く。	脚部内・外面ナデ。裾部粘土貼付け。	長石・石英・雲母・ 明赤褐色 普通	P 1748 30% 表採
第438図 16	甕 須恵器	A [10.8] B (5.1)	頸部から口縁部片。口縁部は外反する。端部は外下方に突出する。	口縁部、頸部ロクロナデ。	石英・雲母 にぶい褐色 普通	P 229 10% 覆土中
17	坏 須恵器	B (3.1) C [7.4]	底部から体部片。平底。体部はわずかに内彎して立ち上がる。	体部ロクロナデ。底部ヘラ記号。	長石・石英・白色 針状物 灰黄色 普通	P 1730 25% トレンチ
18	坏 須恵器	A 10.5 B 4.1 C 5.2	底部から口縁部片。平底。体部から口縁部にかけて内彎して立ち上がる。	口縁部、体部ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、周縁手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	P 1731 80% トレンチ PL161
19	坏 須恵器	A 11.6 B 3.6 C 7.4	底部から口縁部片。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部、体部ロクロナデ。底部回転ヘラ切り後、周縁手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母 暗灰黄色 普通	P 1732 80% トレンチ PL161

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第438図 20	坏 須恵器	A [13.8] B 4.5 C [6.4]	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向の手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母にぶい赤褐色普通	P 1734 25% 表採 二次焼成
21	坏 須恵器	A [14.7] B 3.4 C [9.0]	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部、体部ロクロナデ。体部下端手持ちヘラ削り。底部一方向の手持ちヘラ削り。	長石・石英・雲母暗灰黄色普通	P 18 30% 表採
22	坏 須恵器	A [14.8] B 4.5 C [6.8]	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外傾する。	口縁部、体部ロクロナデ。底部回転ヘラ削り。	長石・石英 灰色 良好	P 390 10% 覆土中
23	坏 須恵器	A [13.8] B 3.9 D [9.0] E 0.4	高台部から口縁部片。高台は短くハの字状に開く。体部下位に稜を持ち、体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部、体部ロクロナデ。高台貼付け。	長石 黄灰色 普通	P 1733 30% 表採 PL161
24	蓋 須恵器	A [12.7] B (3.0)	天井部から口縁部片。つまみ欠損。天井部は丸く下降し、口縁部はわずかに反る。口縁部内面に長いかえりを持つ。	口縁部、天井部ロクロナデ。つまみ欠損。	長石・石英・雲母 灰黄色 普通	P 1736 10% 表採
25	長頸瓶 須恵器	B (6.1)	体部片。体部は内彎して立ち上がり肩部が張る。	体部ロクロナデ。	長石・石英・雲母 灰色 普通	P 1735 10% 表採 二次焼成
26	短頸壺 須恵器	A [11.9] B (6.3)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部は短く外反する。	口縁部、体部ロクロナデ。体部外面自然釉。	長石・小礫 灰白色 普通	P 1738 10% トレンチ
27	甕 須恵器	A [20.9] B (4.6)	口縁部片。口縁部は外反する。端部は下端が突出する。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。	長石 黄灰色 普通	P 1118 5% 攪乱
28	甕 須恵器	-	口縁部片。口縁部は外反する。端部下端が突出する。	櫛歯1本1条による波状文を2段に施している。外面自然釉。	長石・石英 灰色 普通	T P 186 5% 表採
29	甕 須恵器	-	体部片。	体部外面に平行叩き。	長石・石英 灰色 普通	T P 143 5% 表採
30	甕 須恵器	-	体部片。	体部外面に同心円状叩き。	長石・石英・雲母 黄灰色 普通	T P 26 5% 表採
31	甕 須恵器	-	体部片。	体部外面平行叩き、内面同心円状当て具痕。	長石・石英 灰色 普通	T P 187 5% 表採
32	長頸瓶 灰釉陶器	B (16.9) D 8.3 E 0.6	高台部から体部片。高台部は断面角状を呈し、短くハの字状に開く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。体部外面灰釉漬け掛け。底部回転糸切り後、高台貼付け。	長石 灰オリーブ色 普通	P 1747 30% トレンチ PL161 黒笹90号窯式
33	小皿 土師質土器	A 6.8 B 1.8 C 4.2	口縁部一部欠損。平底。体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。口縁部に煤付着。	長石・石英・雲母 黒褐色 不良	P 1117 85% 攪乱
34	小皿 土師質土器	A [8.4] B 1.5 C 5.0	底部から口縁部片。平底。体部から口縁部まで内彎して立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナデ。底部回転糸切り。	長石・石英・雲母・ スコリア 橙色 普通	P 1746 60% 表採
35	内耳土器 土師質土器	-	内耳部片。	内耳部内・外面ナデ。	長石・雲母 にぶい赤褐色 普通	P 1739 5% 表採 外面煤付着
36	丸皿 陶器	A [10.2] B 2.4 D [5.8] E 0.4	高台部から口縁部片。高台は断面三角形の輪高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	ロクロ成形。体部内・外面灰釉施釉。	長石 胎土色 浅黄色 にぶい黄橙色 普通	P 1744 10% トレンチ
37	鉄絵丸皿 陶器	A [11.8] B 2.8 D [6.7] E 0.2	高台部から口縁部片。高台は輪高台。体部は内彎して立ち上がる。	ロクロ成形。体部内面絵付け鉄絵。内・外面灰釉施釉。	長石 胎土色 浅黄色 灰白色 普通	P 1743 10% 表採

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第438図 38	天目茶碗 陶器	A [13.4] B (4.9)	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部ロクロナデ。外面鉄釉施釉。	長石 胎土色 灰黄色 黒色 普通	P 1741 10% トレンチ
第439図 39	香炉 陶器	A [11.0] B (4.9)	体部から口縁部片。体部下端に明瞭な稜を持ち、体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる。	体部ロクロナデ。内・外面緑釉施釉。	長石 胎土色 灰黄色 褐色 普通	P 1740 10% トレンチ
40	瓶子 陶器	B (2.5)	肩部片。肩部は内彎して立ち上がる。	ロクロ成形。体部外面緑釉施釉、内面指頭痕。	長石 胎土色 灰黄色 灰白色 普通	P 1742 5% 表採
41	播鉢 陶器	B (5.0) C [10.2]	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部ロクロナデ。体部内面5条1単位の播り目。糸切り底。鉄釉。	長石 胎土 にぶい黄橙色 にぶい橙色 普通	P 1737 10% G 3 e 6 区

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重量(g)		備	考	
42	土玉	3.8	3.4	0.6	43.6	表採	DP1148	95%	PL169
43	土玉	1.8	2.6	0.7	19.1	表採	DP1144	100%	PL169
44	土玉	1.8	1.8	0.4	6.6	表採	DP1139	100%	PL169
45	土玉	1.7	1.9	0.4	5.5	表採	DP1140	100%	PL169
46	土玉	1.9	2.1	0.6	7.0	表採	DP1141	100%	PL169
47	土玉	1.3	1.7	0.4	3.6	表採	DP1136	100%	PL169
48	土玉	1.4	1.9	0.7	4.8	表採	DP1138	100%	PL169
49	土玉	1.6	1.8	0.4	4.7	表採	DP1137	100%	PL169
50	土玉	1.8	2.6	0.6	10.6	表採	DP1142	100%	PL169
51	土玉	2.3	2.2	0.6	11.1	表採	DP1143	100%	PL169
52	土玉	3.0	2.6	0.8	19.2	表採	DP1145	100%	PL169
53	土玉	3.0	2.6	0.9	18.8	表採	DP1146	100%	PL169
54	土玉	2.7	3.2	0.9	24.8	表採	DP1147	100%	PL169
55	土玉	2.2	2.5	0.6	10.6	表採	DP1150	100%	PL169
56	土玉	1.7	2.0	0.5	4.2	表採	DP1149	100%	
57	土玉	3.8	1.3	0.5	4.1	表採	DP1151	100%	
58	土玉	3.8	1.9	0.5	10.3	表採	DP1152	100%	
59	土玉	5.1	1.8	0.4	10.6	表採	DP1153	100%	
60	土玉	4.9	2.1	0.6	13.2	表採	DP1154	95%	

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考		
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)		備	考	
61	鏡	4.8	-	(1.1)	(19.3)	SI170	DP85	40%	PL171
62	土器片 錘	5.1	2.6	0.9	13.3	表採	DP25	100%	PL171

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			備	考
63	ナイフ形石器	5.7	2.6	0.7	6.3	頁岩	表採	Q1025	PL176
64	石 鏃	2.5	2.1	0.4	(1.3)	石英斑文岩	表採	Q1022	PL176

図版番号	器種	計測値				石質	出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)				
第439図65	磨製石斧	6.1	3.4	1.4	46.2	蛇紋岩	SI136C	Q26	PL176
66	磨製石斧	6.6	4.7	1.7	92.0	蛇紋岩	SI115	Q4	PL176
67	磨製石斧	(10.3)	4.8	3.1	(248.0)	安山岩	SI26A	Q32	PL176
第440図68	磨石	9.8	8.1	4.8	474.1	緑色凝灰岩	SI204	Q1011	PL174
69	磨石	11.0	8.7	2.7	367.4	砂岩	表採	Q34	
70	磨石	13.2	9.8	3.8	694.3	砂岩	SI216	Q1016	
71	砥石	(6.5)	8.8	3.8	(310.4)	砂岩	SD2	Q1040	
72	敲石	(10.4)	(9.6)	(4.2)	(470.7)	砂岩	SI219	Q1021	PL175
73	凹石	(8.7)	7.8	(3.3)	(329.1)	ホルンフェルス	表採	Q27	
74	凹石	12.4	9.9	5.1	907.8	砂岩	表採	Q31	
75	敲石	(10.4)	6.9	4.9	421.9	砂岩	SI218B	Q1019	PL175
第441図76	敲石	10.9	8.1	3.3	435.5	砂岩	SI218B	Q1018	PL175
77	敲石	12.0	4.9	2.8	286.4	緑色凝灰岩	SI115	Q5	
78	敲石	11.1	5.9	4.9	563.3	緑色凝灰岩	SI218B	Q1020	PL175
79	敲石	(6.7)	(3.9)	3.3	(91.4)	砂岩	表採	Q17	
80	敲石	(8.4)	4.7	4.5	(258.4)	砂岩	表採	Q28	
81	双孔円板	4.4	0.8	0.3	25.8	滑石	SI183A	Q1006	PL173
82	紡錘車	(1.1)	[3.7]	0.7	(7.1)	滑石	表採	Q1033	PL176
83	紡錘車	(2.0)	(3.7)	(0.6)	(5.7)	滑石	表採	Q1034	PL176
84	砥石	9.5	6.5	2.5	196.9	砂岩	表採	Q1039	PL174
85	砥石	(7.5)	4.0	1.6	(55.3)	凝灰岩	表採	Q1037	PL174
86	砥石	(7.4)	4.3	2.6	(120.1)	凝灰岩	表採	Q1038	PL174
87	砥石	(5.9)	(2.3)	(2.2)	(40.9)	緑色凝灰岩	表採	Q1035	PL174
88	砥石	(3.9)	4.9	1.7	(46.6)	凝灰岩	表採	Q1036	PL174

図版番号	器種	計測値				出土地点	備考	
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)			
第442図89	刀子	4.4	0.4	0.5	(2.9)	表採	M34	95%
90	不明鉄製品	(3.3)	0.8	0.2	(2.1)	表採	M26	95%
91	煙管	1.5	3.4	0.6	(3.0)	表採	M1035	95%
92	煙管	(3.3)	1.5	-	(3.5)	SI110	M5	95%
93	煙管	(2.9)	-	0.8	(2.9)	表採	M1036	95%
94	煙管	(6.1)	0.8	0.3	(3.2)	表採	M1037	95%

図版番号	(古銭)種	初鑄年		出土地点	備考	
		時代	年号(西暦)			
95	至道元寶	北宋	至道元年(995年)	表採	M1043真書	PL179
96	祥符元寶	北宋	大中鄧符元年(1009年)	表採	M1042真書	PL179
97	天禧通寶	北宋	天禧元年(1017年)	表採	M1041真書	PL179
98	政和通寶	北宋	政和元年(1111年)	表採	M1039真書	PL179
99	熙寧元寶	北宋	熙寧元年(1068年)	表採	M1040真書	PL179
100	□□元寶	不明	不明	表採	M1038	PL179

第4節 ま と め

1 はじめに

木工台遺跡は、北浦町の北東部、行方台地東部の標高31～35mの台地縁辺部から南に伸びる舌状台地上に位置している。その東側には北浦が湖水を湛えている。

当遺跡の周辺には、北西方向1.25kmに6世紀後葉の札幌古墳群が、北西方向0.64kmに7世紀中葉から8世紀初頭にかけての成田古墳群が存在している。

当遺跡からは、2年次にわたる調査で堅穴住居跡301軒、鍛冶工房跡3軒、掘立柱建物跡10棟、土坑394基、地下式墳2基、不明遺構2基が検出された。堅穴住居跡の時代別内分訳は縄文時代前期1軒、弥生時代中期5軒、古墳時代後期112軒、奈良・平安時代170軒、時期不明13軒である。

遺物は、古墳時代後期から奈良・平安時代の土師器や須恵器等で、堅穴住居跡の覆土及び床面から出土している。また、鉄製品のほか、羽口、鉄滓等も出土している。

この木工台遺跡は縄文時代前期（黒浜式期）、弥生時代中期末葉（銚子市佐野原遺跡併行）、及び古墳時代後期（6世紀前葉）から平安時代（10世紀後葉）まで集落として存在したことが明らかになった。ここでは出土土器によって時期区分し、集落変遷について述べて、まとめとする。

2 木工台遺跡の時期区分について

当遺跡の出土土器については、下記の1～17期に分けることができる。

木工台1期

第220号住居跡の土器が該当し、縄文時代前期の黒浜式土器である。

木工台2A期

第237B号住居跡の土器が該当し、弥生時代中期末葉の弥生土器広口壺、甕が該当する。広口壺は口縁部に2本櫛歯による連弧文、胴部には付加条一種付加1条の縄文が施されているものと、搬入品と思われる南関東系のものが共伴して出土している。

木工台2B期

第256号住居跡の土器が該当し、弥生時代後期後葉の弥生土器広口壺、高坏等が該当する。広口壺の頸部には簾状文、胴部には付加条一種付加2条の縄文が施されている。二軒屋式土器と思われる。

木工台3期

第158号住居跡の土器が該当し、土師器坏類は須恵器坏蓋の模倣坏が主体をしめ、口縁部が外反する形態（舞台式類似）のもの（1）と口縁部が直立する形態のもの（5、6）とがある。法量は口径12.2～15.1cmである。技法は、内・外面に磨きが施され、赤彩されている。

甕類は胴部が胴形をしたものが主体をしめる。長胴化傾向の甕（14）も一部に見られる。技法は胴部ヘラ削り後、丁寧なナデが施されている。

甗類は鉢形を呈し、口縁部はわずかに外反する。技法は胴部に縦位または斜位のヘラ削りが施されている。

木工台4期

第112号住居跡の土器が該当し、土師器坏類は須恵器坏身の模倣坏と坏蓋模倣坏が混在する。坏身模倣坏は体部との境に明瞭な稜を持ち、口縁部が内傾（1～3）する。坏蓋模倣坏は口縁部が外反する形態（7、8）と直立する形態（5）のものがある。

甕類は最大径が胴部上位にあり、前期に比べ長胴化の傾向にある。技法は、胴部に斜位のヘラ削りが施される。

木工台 5 期

第179号住居跡の土器が該当し、土師器坏類は須恵器坏身の模倣坏が主体をしめ、大型化する。坏蓋模倣坏は少なくなる。技法はヘラ磨きが施され、内・外面黒色処理されたものが大部分を占める。

鉢類は、横ナデにより幅広の口縁部を持つ。

甕類は、口縁部と体部との境に明瞭な稜を持つものと、口縁端部を外上方につまみ上げた常総型甕がある。

木工台 6 期

第225号住居跡の土器が該当し、土師器坏類は須恵器坏身の模倣坏が主体をしめる。坏身模倣坏は、口縁部と体部との境の稜が弱くなり、口縁部が屈曲する形態（4，6）で、法量は口径12.6～14.8cmである。また従来の坏身模倣坏と同じであるが小型化するものがある。法量は10.3～12.7cmである。技法はヘラ磨きが施され、内・外面黒色処理が大部分をしめる。

甕類は、口縁端部がつまみ上げられる常総型甕である。技法は体部中位から下位にかけてヘラ磨きが施される。

甗類は、常総型甕の影響を受け口縁端部がつまみ上げられている。また、口縁部と体部との境に明瞭な稜を持つ。技法は体部にヘラ削りが施されている。

木工台 7 期

第181B号住居跡の土器が該当し、土師器坏類は6期と同じく口縁部が屈曲する坏（1，6）が残る。新しく体部から口縁部にかけて丸みを持つ坏（2，5，7）が出現する。技法は坏身模倣坏は内・外面黒色処理が施され、丸みを持つ坏は内面に放射状のヘラ磨きが施される。

甗類は口縁端部がつまみ上げられており6期と変化はないが、体部にヘラ磨きが施される。

小形甕類は、口縁端部がつまみ上げられ常総型甕の影響を受けている。法量は口径14.1cm，器高14.9cm，底径8.6cmで口径に比べ底径が大きい。技法は内・外面に丁寧なナデが施されている。

木工台 8 A 期

第216号住居跡の土器が該当し、土師器坏類は、7期で丸みを持つ坏が半球形の形態になる。法量は、口径10.3～11.2cmの小型のもの、口径13.6cm前後の中型のものがある。技法は内面に放射状のヘラ磨きが施されている。

甕類は常総型甕が主体をしめ、7期に比べ口縁端部のつまみ上げがより明確になり、体部下半にヘラ磨きが施される。

この時期になると在地の須恵器が相伴するようになる。

木工台 8 B 期

第133号住居跡の土器が該当し、土師器坏類は須恵器坏蓋の模倣坏の稜の名残りが見られ、口縁部が短く外反する。

須恵器坏は、平底で体部から口縁部にかけて外傾して立ち上がる形態である。法量は口径12.1～13.8cm，器高3.5～4.0cm，底径6.4～8.0cmである。技法は体部下端，及び底部に回転ヘラ削り調整が施されている。胎土に雲母を含んでいる。

須恵器坏蓋はボタン状の扁平なつまみが付き、口縁部内面に短いかえりが付けられている。法量は口径13.0～13.8cmである。胎土に雲母を含んでいる。須恵器は器形や胎土から新治村新治窯産と思われる。

木工台 9 期

第87号住居跡の土器が該当し、土師器坏類は丸底で弱い稜を持ち、口縁部が短く外反する。

土師器甕類は常総型甕主体である。

須恵器坏類は平底の小形坏と丸底気味の大型坏がある。法量は口径10.2cm，器高5.0cm，底径5.4cmの小形の坏（10），口径14.8cm，器高4.2cm，底径11.2cmの大型の坏（11）がある。技法は，底部調整が手持ちヘラ削り（10）と回転ヘラ削り（11）に分かれる。11は胎土に雲母を含んでいる。

須恵器坏蓋類はボタン状のつまみを有し，口縁部内側に短いかえりを持っている。法量は口径14.6cmの小型蓋（14），16.1cmの大型蓋（15）がある。胎土に雲母を含んでいる。

木工台10期

第41号住居跡の土器が該当し，須恵器坏類が主体になる。

須恵器坏類は平底で底径が広く，器高が低い。法量は口径13.8～14.2cm，器高3.6～4.3cm，底径8.6～9.0cmである。技法は，底部手持ちヘラ削り調整（10～12）と，底部周縁のナデ（13）が施されているものがある。胎土には雲母（10～11）と白色針状物（13）を含むものがある。

須恵器坏蓋類は擬宝珠のつまみを持ち，口縁部は短く折り返し，内面にかえりを持つ坏蓋は見られなくなる。坏蓋の法量は，口径20.2cmと大形である。胎土には雲母を含んでいる。

土師器甕類は常総型甕が主体で，9期に比べ口縁端部のつまみ上げが強くなる。

木工台11期

第100号住居跡の土器が該当し，器種は須恵器の坏，高台付坏，盤，高盤，蓋，鉢，土師器の常総型甕である。

須恵器坏類が主体をしめる。法量は口径12.4～14.8cm，器高3.7～5.3cm，底径5.8～9.1cmで，10期よりも口径が大きく，器高が高くなっている。技法は，底部回転ヘラ削り（9，16）と底部手持ちヘラ削り（8，10～14）である。胎土は雲母（12，15）と白色針状物（10）を含むものがある。

須恵器高台付坏類は大形，小形のものがある。

須恵器蓋類は口径13.4cm前後のもの16.2～19.7cmのもの2種類に分けることができ，胎土には雲母（28），白色針状物（26）を含むものがある。

須恵器盤類は口径19.2～20.0cmで，中形の盤である。

須恵器鉢類は，外面に横位の平行叩きが施されている。

これらの須恵器は胎土に雲母や白色針状物を含む物があり，特に雲母を含むものが多い。

木工台12期

第1号住居跡の土器が該当し，器種は土師器の坏，高台付坏，常総型甕，須恵器の坏，高台付坏，盤である。

土師器坏は法量が口径26.0cm，器高5.7cm，底径8.2cmと大型である。技法はロクロ整形で内面ヘラ磨き，内面黒色処理が施されている。

土師器高台付坏の法量は，口径14.8cm，器高5.5cmである。技法は土師器坏と同じである。この時期に須恵器の高台付坏を模倣したものが出現する。

須恵器坏類は法量が口径13.0～13.4cm，器高4.2～4.3cm，底径7.7～7.9cmで，11期に比べ器高が高く，底径が小さくなっている。技法は底部手持ちヘラ削りが大部分をしめるが，体部下端が回転ヘラ削り（4）と，手持ちヘラ削り（5）のものがある。

須恵器高台付坏は，法量が口径12.0～13.0cmと17.1cm前後の2種類があり，胎土に白色針状物を含むものがある。

木工台13期

第13号住居跡の土器が該当し、器種は土師器の高台付椀、常総型甕、須恵器の坏、高台付坏、鉢である。

土師器高台付椀は法量が口径13.6cm、器高4.5cmである。技法はロクロ整形で内面ヘラ磨き、内面黒色処理が施されている。

須恵器坏類は、法量が口径13.0～14.1cm、器高3.8～4.9cm、底径5.0～7.2cmで、11期に比べ底径が小さくなっている。技法は、底部手持ちヘラ削りが大部分をしめるが、体部下端が回転ヘラ削り（3）、手持ちヘラ削り（4、5）のものもみられる。

須恵器高台付坏類は、2種類の大きさのものがある。

須恵器鉢類は、外面に擬格子目叩きが施されている。

これらの須恵器は胎土に雲母を含む物がある（3、4、6、7、8）。

木工台14期

第135A号住居跡の土器が該当し、器種は土師器の坏、常総型甕、須恵器の坏、高台付坏、鉢、灰釉陶器椀、長頸瓶である。土師器坏が主体である。

土師器坏は法量が口径12.4～13.6cm、器高3.9～4.5cm、底径5.4～6.4cmである。技法はロクロ整形で内面ヘラ磨き、内面黒色処理、底部回転ヘラ削りが施されており、胎土に雲母を含むもの（1、2、4）がある。

須恵器坏類は法量が口径12.4～13.1cm、器高4.0～4.4cm、底径5.4～6.4cmで、底径が小さく、体部に丸みを持っている。技法は体部下端回転ヘラ削り（8）、手持ちヘラ削り（9、10）の調整の違いをもつものがある。

須恵器鉢類は、外面に縦位の平行叩きが施されている。

灰釉陶器は椀（13）、長頸瓶（14）共に黒笹の90号窯式である。

木工台15期

第135A号住居跡の土器が該当し、器種は土師器の坏、高台付椀、足高高台付椀、甕である。土師器坏が主体で、足高高台付椀を伴っている。

土師器坏は法量が口径13.2～13.6cm、器高3.5～3.9cm、底径4.6～6.8cmで、14期に比べ口径が大きく、器高が低い。技法はロクロ整形、底部糸切り不調整である。内面ヘラ磨き、内面黒色処理が施される坏は少なくなる。胎土に雲母を含むもの（1、2、3）がある。

土師器高台付椀は法量が口径14.0cm、器高5.8cmである。技法はロクロ整形で内面ヘラ磨き、内面黒色処理が施されている。

土師器足高高台付椀は法量が口径15.2cm、器高7.0cm、底径8.6cm、高台高2.4cmである。技法はロクロ整形のみで、胎土に雲母を含むもの（4、5）がある。

土師器甕は、小形化し、口縁部が短く外反し、口縁端部が丸くなる。

木工台16期

第109A号住居跡の土器が該当し、器種は土師器の坏、高台付椀、甕である。土師器坏が主体である。ロクロ整形で器高の低くなった土師器坏と高台付椀を伴っている。

土師器坏は法量が口径10.9～11.6cm、器高3.1～3.5cm、底径5.4～5.7cmで、15期に比べ口径が小さく、器高が低くなる。技法はロクロ整形、底部糸切り不調整である。内面ヘラ磨き、内面黒色処理が施される坏（4）は少なくなる。胎土に雲母を含むもの（1、4、5、6）がある。

土師器高台付椀は法量が口径13.9～16.5cm、器高6.0～6.8cm、高台径6.9～7.7cm、高台高1.4～1.5cmである。技法はロクロ整形で不調整のもの（8、9）と内面ヘラ磨き、内面黒色処理が施されているもの（7、10、11）があり、胎土に雲母を含むもの（7、10、11）がある。

木工台17期

第236A号住居跡の土器が該当し、器種は土師器の小皿、高台付椀、足高高台付椀である。土師器小皿と高台付椀が主体で、小皿と足高高台付椀が共存している。

土師器小皿は法量が口径9.5～11.0cm、器高2.1～2.5cm、底径5.6～6.4cmである。技法はロクロ整形、底部糸切り不調整である。すべての胎土に雲母を含んでいる。

土師器高台付椀は法量が口径14.8～16.8cm、器高5.0～6.1cm、底径6.8～8.4cm、高台高0.8～1.0cmで、高台が短くなる。技法はロクロ整形で内面ヘラ磨き、内面黒色処理が施されている。胎土に雲母を含んでいる。

土師器足高高台付椀は法量が口径15.6cm、器高6.0cm、底径9.5cm、高台高2.3cmで、15期のものよりも体部は丸味を持って立ち上がる。技法はロクロ整形のみで、胎土に雲母を含んでいる。

3 集落について

(1) 集落の立地について

当遺跡は、南北に入り込んだ小支谷を囲む台地上に形成されている。

(2) 集落の変遷と特色について

木工台1期

本期にあたる住居跡は1軒（第220号住居跡）で、小支谷西側の舌状台地の中央部に位置している。平面形は隅丸方形で、規模は一辺約3.9mである。主軸方向はN-81°-Eである。

木工台2期

本期にあたる住居跡は5軒で、西側の舌状台地中央部の標高約33m付近に集中して位置している。平面形は隅丸方形2軒、方形1軒、楕円形1軒である。規模は、長軸4.4～7.3m、短軸3.5～5.8mの範囲である。主軸方向はN-45°-W～N-24°-Eの範囲である。

木工台3期

本期にあたる住居跡は7軒である。そのうち、4軒は西側の舌状台地中央部の緩斜面に集中し、3軒は散在している。平面形は方形で、一辺が5.2～6.3mとほぼ同規模である。主軸方向はN-4°～35°-Eの範囲にあり、北方向を意識して構築されたと考えられる。貯蔵穴をもつ住居跡が3軒（第15、158、238号住居跡）みられ、北東コーナー部や南東コーナー部に付設されている。

木工台4期

本期にあたる住居跡は21軒で、3期の約4倍の住居跡が検出されている。住居跡の分布も広がり、西側の舌状台地中央部からその基部にかけての南北約200mの範囲に弧を描くように形成されている。平面形は、方形または長方形である。規模は、長軸または一辺が4.0～6.3mで、3期と比べてそれほど違いはない。主軸方向はN-28°-W～N-31°-Eとほぼ北方向のものが16軒と大半を占めているが、東方向のものも5軒みられる。

木工台5期

本期にあたる住居跡は31軒で、4期より増加している。住居跡の分布は小支谷を囲むようにして、西側の舌状台地の地形に沿うように弧を描いて形成されている。その中心には、他の住居跡と距離を置き、大形の住居跡（第115、120D、126A・C、132B号住居跡）がみられる。平面形は、方形または長方形である。規模は4期より大形化の傾向にある。長軸または一辺が10m以上のものが2軒、5～10mのものが24軒、5m未満のものが5軒である。主軸方向はN-46°-W～N-30°-Eの範囲であるが、その中でもN-15°-W～N-15°

- Eのものが多い。第235号住居跡は竈側から土器が一括投棄されており、祭祀的要素が強いと考えられる。

木工台6期

本期にあたる住居跡は17軒で、5期より減少している。住居跡の分布状況に特徴は認められず、台地の中央部及び西側の舌状台地中央部と基部に散在している。平面形はほとんどが方形である。規模は、一辺5m未満のものが半数以上となり、再び小形化してくる。主軸方向は、 $N-43^{\circ}-W \sim N-9^{\circ}-E$ の範囲であるが、ほとんどが北方向に竈をもつ。覆土が人為堆積である住居跡が6軒確認された。

木工台7期

本期にあたる住居跡は11軒で、そのほとんどが西側の舌状台地中央部と基部に散在している。平面形はすべて方形で、規模は一辺が3.6~7.2mとばらつきがある。主軸方向は、 $N-30^{\circ}-W \sim N-21^{\circ}-E$ の範囲である。

木工台8期

本期にあたる住居跡は14軒で、そのうち11軒が西側の舌状台地中央部及び基部に、3軒が東側の舌状台地の基部に位置している。平面形は長方形または方形である。規模は、長軸または一辺が3.4~6.6mの範囲にあり、7期とほぼ同規模である。主軸方向は $N-32^{\circ}-W \sim N-10^{\circ}-E$ の範囲にあり、北方向を意識して構築されたと考えられる。

木工台9期

本期にあたる住居跡は32軒で、5期に次ぐ軒数である。しかし、5期の住居跡が西側の舌状台地に集中していたのに対して、本期の範囲は台地中央部と東側の舌状台地にまで広がりをみせている。西側の舌状台地の住居跡は15軒、台地中央部の住居跡は6軒、東側の舌状台地の住居跡は11軒である。平面形は長方形または方形である。規模は2.1~8.6mの範囲にあり、大きさに統一性はないが、4~6mのものが多い。主軸方向は $N-30^{\circ}-W \sim N-14^{\circ}-E$ の範囲にあるが、1軒だけ $N-113^{\circ}-E$ で東に竈をもつ住居跡がみられる。

木工台10期

本期にあたる住居跡は7軒で、9期に対して著しく減少している。住居跡は散在している。平面形は方形である。規模は3.7~4.8mの範囲にあり、9期よりわずかに小形化している。主軸方向は $N-16^{\circ}-W \sim N-26^{\circ}-E$ の範囲にある。鍛冶工房跡が、東側の舌状台地の基部から1軒検出されている。

木工台11期

本期にあたる住居跡は30軒で、西側の舌状台地から7軒、台地中央部から4軒、東側の舌状台地の基部から19軒が確認されている。このことから、これまでどちらかという集落の中心が西側の舌状台地にあったのが、東側へ移行したのではないかと考えられる。平面形は長方形または方形である。規模は2.5~5.7mの範囲にあり、10期とほぼ同規模である。主軸方向は $N-34^{\circ}-W \sim N-30^{\circ}-E$ の範囲にあるが、1軒だけ $N-102^{\circ}-E$ で東に竈をもつ住居跡がみられる。

木工台12期

本期にあたる住居跡は26軒で、西側の舌状台地から6軒、台地中央部から12軒、東側の舌状台地から8軒確認されている。また、この3か所の住居跡は、それぞれまとまって分布している。平面形は長方形または方形である。規模は、長軸または一辺が2.7~6.5mの範囲にあるが、ほとんどが3.5~4.5mの範囲にある。それに対し、西側の舌状台地の住居跡(第126B, 127B, 132A, 145B)は5.8~6.5mの範囲にある。主軸方向は $N-68^{\circ}-W \sim N-82^{\circ}-E$ の範囲であるが、その中でも $N-16^{\circ}-W \sim N-14^{\circ}-E$ のものが多い。東に竈をもつ住居跡が2軒みられる。

木工台13期

本期にあたる住居跡は16軒で、馬蹄形の台地上に散在している。平面形は長方形または方形である。規模は、長軸または一辺が2～4mで、小形の住居跡が大部分であり、最大のもので一辺が約6.1mである。主軸方向はN-56°-W～N-103°-Eの範囲である。東に竈をもつ住居跡は、12期と同じく2軒みられる。

木工台14期

本期にあたる住居跡は21軒で、そのうち9軒が西側の舌状台地中央部に集中している。平面形は長方形または方形である。長軸または一辺が2～4mの小形の住居跡が16軒と多い。主軸方向はN-32°-W～N-92°-Eの範囲である。支柱穴をもたない住居跡が多くなる。

木工台15期

本期にあたる住居跡は17軒であるが、集落分布に特徴はみられない。平面形は長方形または方形である。規模は、長軸または一辺が2～4mで、小形の住居跡が多い。主軸方向はN-2°-W～N-111°-Eの範囲であるが、特にN-66°～111°-Eの範囲の東に竈をもつ住居跡が11軒と半数以上みられるようになる。

木工台16期

本期にあたる住居跡は13軒である。東側の舌状台地の基部に6軒が集中しているが、その他は散在している。平面形は長方形または方形で、規模は2～4mで小形の住居跡が多い。主軸方向はN-10°-W～N-97°-Eの範囲であり、ほとんどが東に竈をもつ住居跡である。鍛冶工房跡が東側の舌状台地の基部から1基、西側の舌状台地の中央部から2基検出されている。

木工台17期

本期にあたる住居跡は2軒である。平面形は長方形で、規模は長軸が約5mである。主軸方向はN-82°-W～N-90°-Eの範囲であり、2軒とも東に竈をもつ住居跡である。

4 おわりに

木工台遺跡について出土土器を基に時期区分し、集落の変遷を考えてみた。その成果と今後の問題点について取り上げる。

(1) 成果について

弥生時代については、中期末葉の弥生土器がセットで出土しており、それが南関東系の搬入品と共伴していることから貴重な資料を得ることができた。

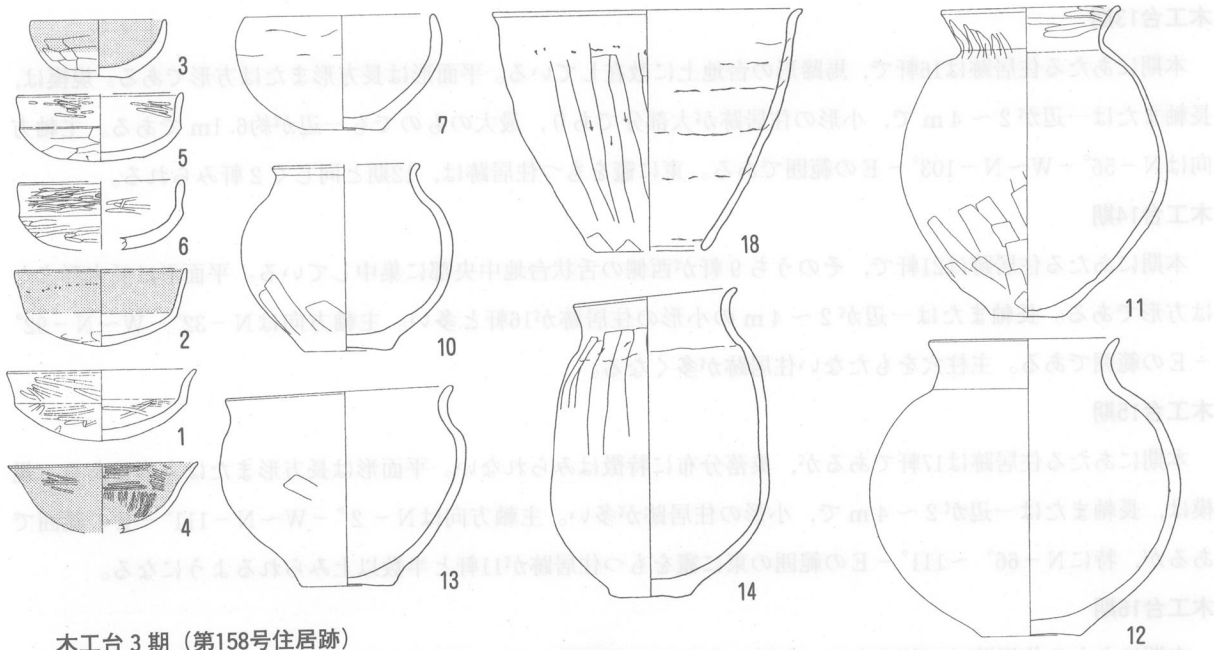
古墳時代後期については、大きく6区分したが、後期前葉から後葉にかけて継続する遺跡であるため、各地域の土器編年と対比することにより相対的な時期区分がおこなえた。

奈良・平安時代については、出土した須恵器の胎土に雲母や白色針状物が混入していることから、新治窯産、木葉下窯産の須恵器が出土していることにより、須恵器を基準に時期を区分することができた。

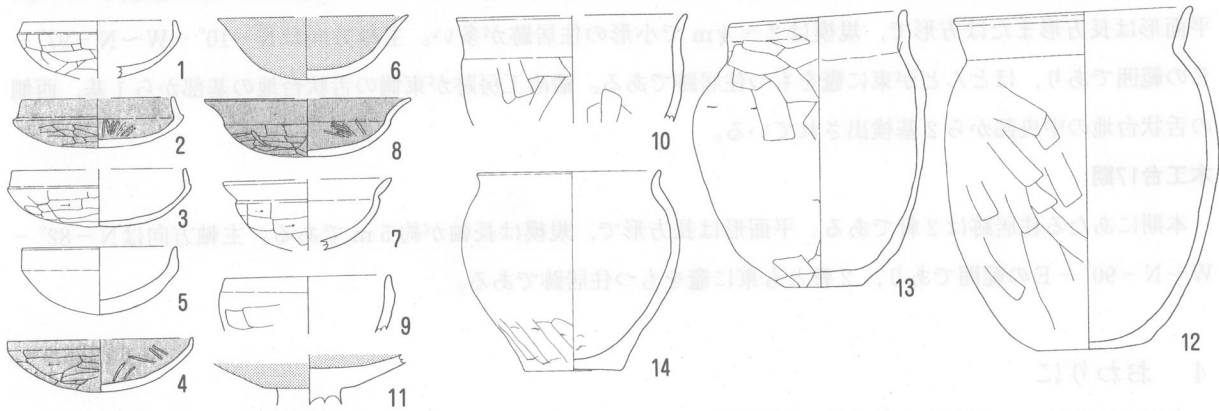
(2) 今後の問題点について

当集落と隣接する札幌古墳群、成田古墳群との関係について、さらに分析が必要である。この時期において祭祀的要素が強い遺構（第235号住居跡）が検出されており、その大量の遺物廃棄状況や遺物の内容についても詳細に調べることにより、大量の遺物廃棄の目的などにせまりたい。

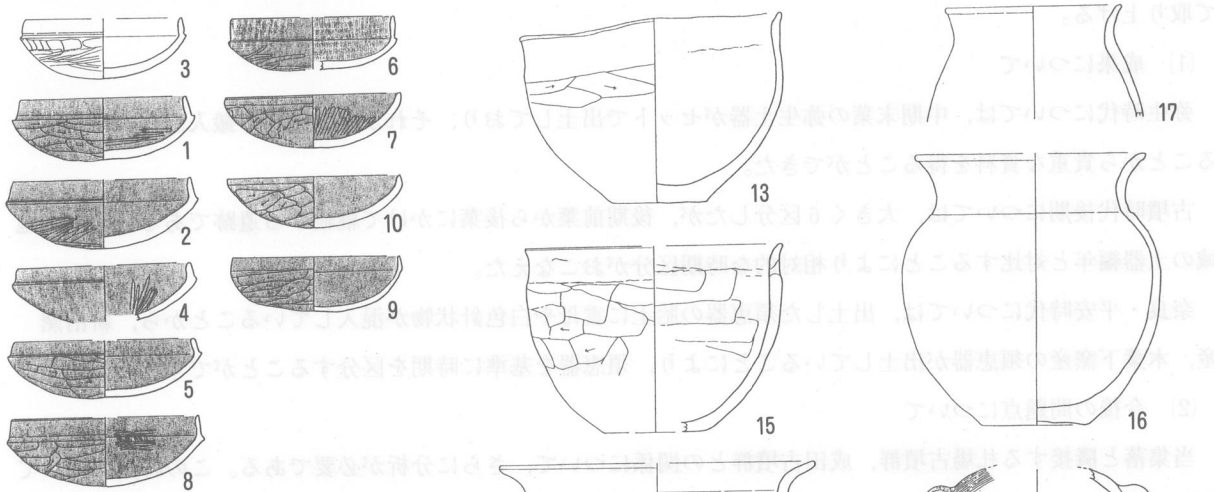
古墳時代後期の土器、9世紀後半以降の土器の時期区分については、良好な一括資料が少ない時期もあり、十分な土器のセット関係を捉えることができなかった。



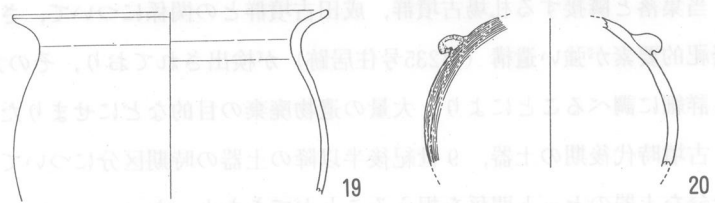
木工台 3 期 (第158号住居跡)



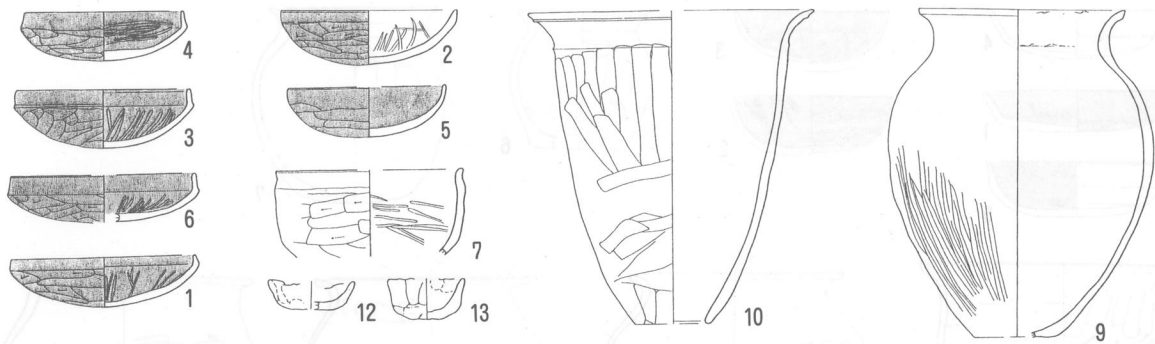
木工台 4 期 (第112号住居跡)



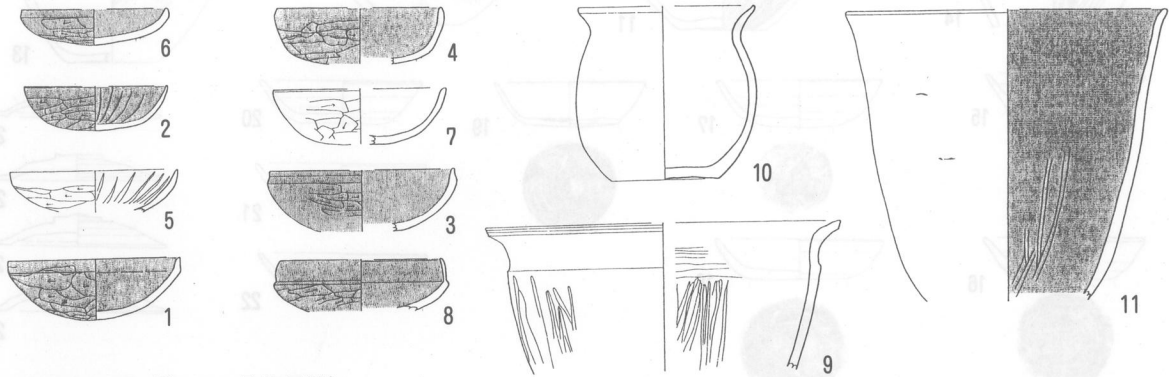
木工台 5 期 (第179号住居跡)



第443図 木工台 3～5 期の土器群

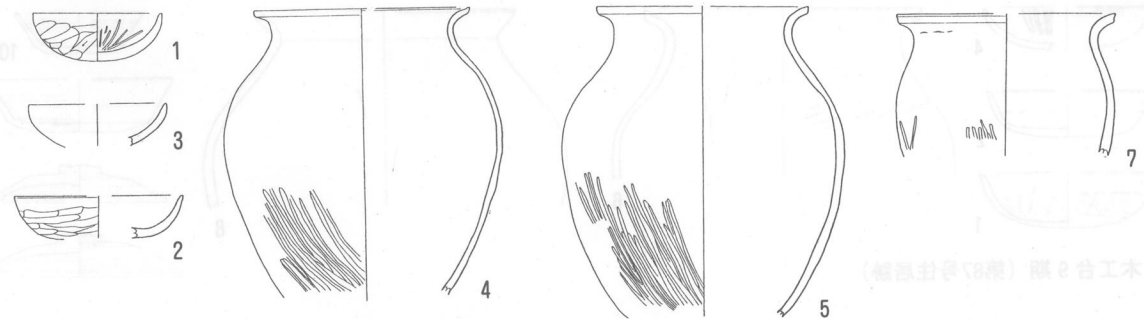


木工台 6 期 (第225号住居跡)



木工台 7 期 (第181B号住居跡)

(福原台跡 8B区) 木工台 8 期



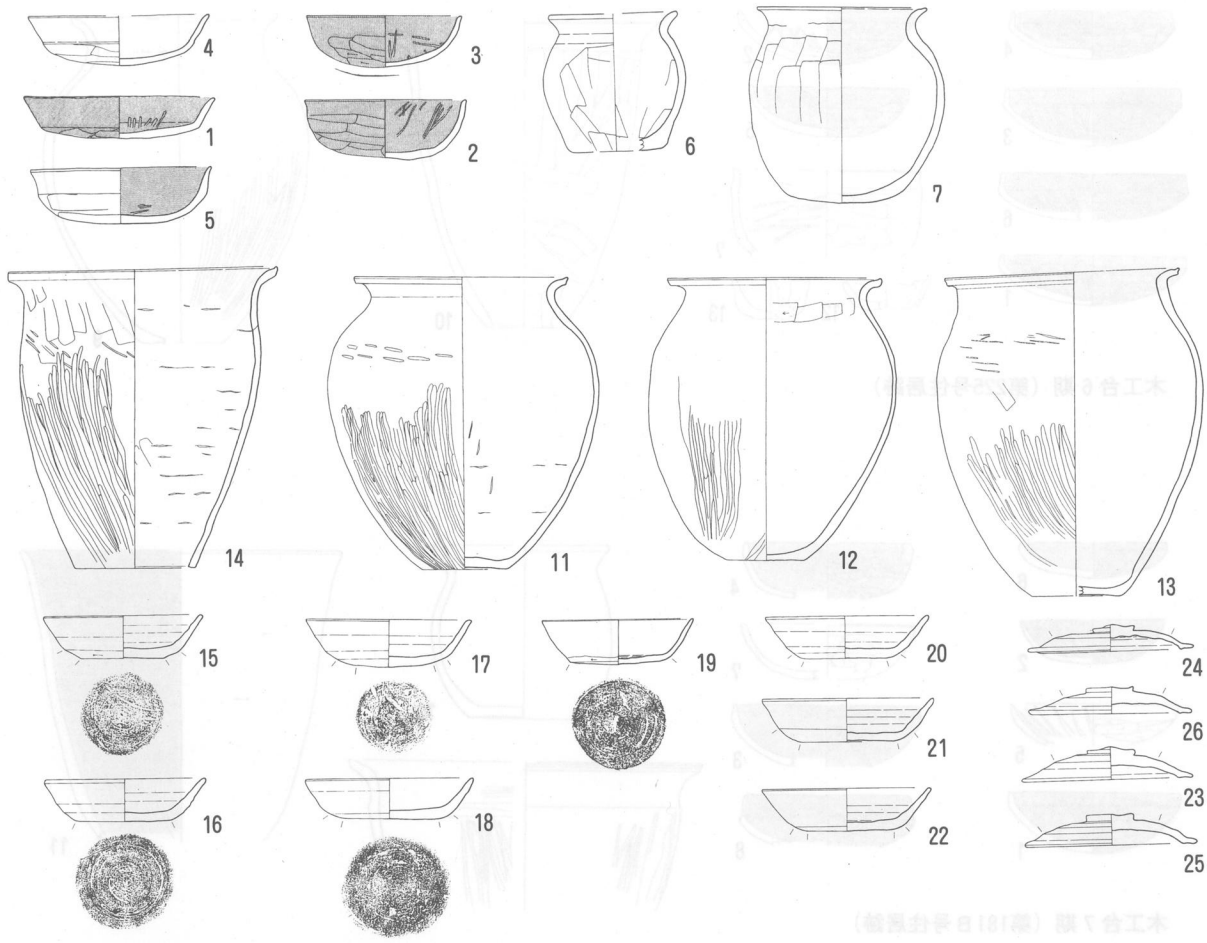
(福原台跡 8B区) 木工台 8 期

木工台 8 A 期 (第216号住居跡)

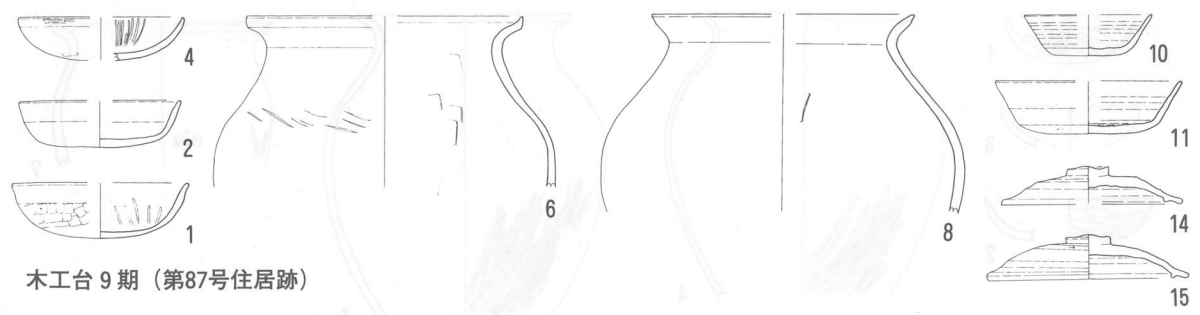
(福原台跡 8B区) 木工台 8 期

第444図 木工台 6 ~ 8 A 期の土器群

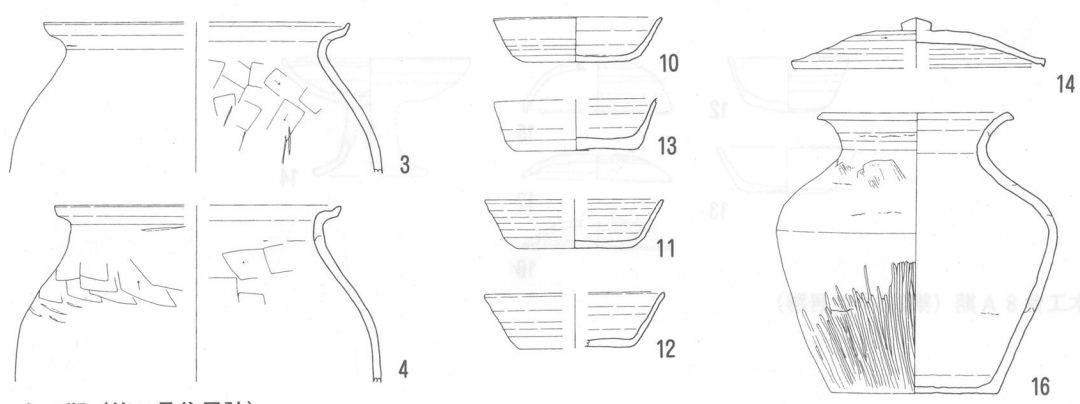
福原台跡 8B区 木工台 8 期 土器群 図 444



木工台 8 B 期 (第133B号住居跡)



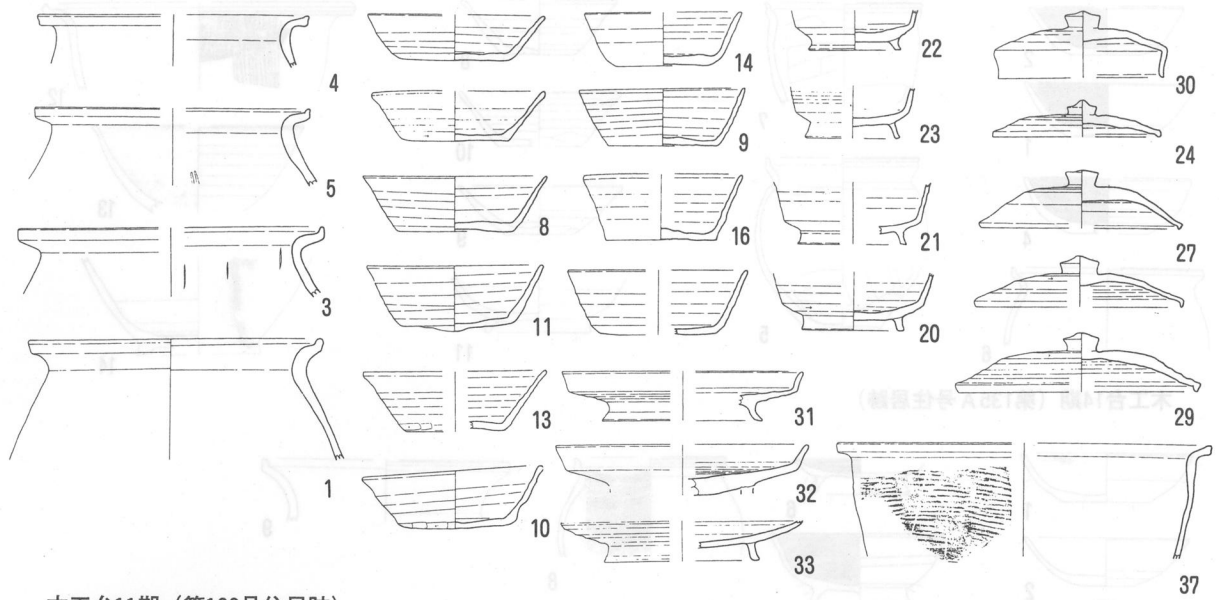
木工台 9 期 (第87号住居跡)



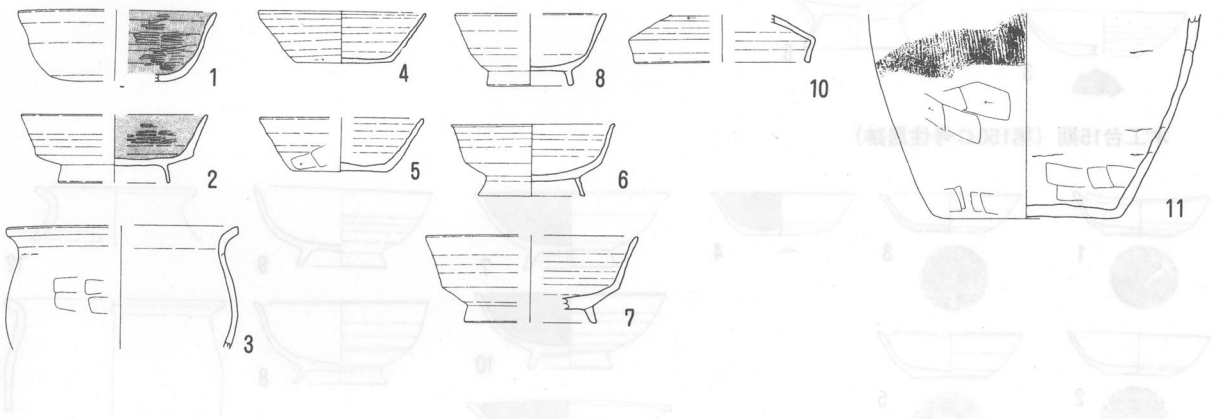
木工台10期 (第41号住居跡)

第445図 木工台 8 B ~ 10 期の土器群

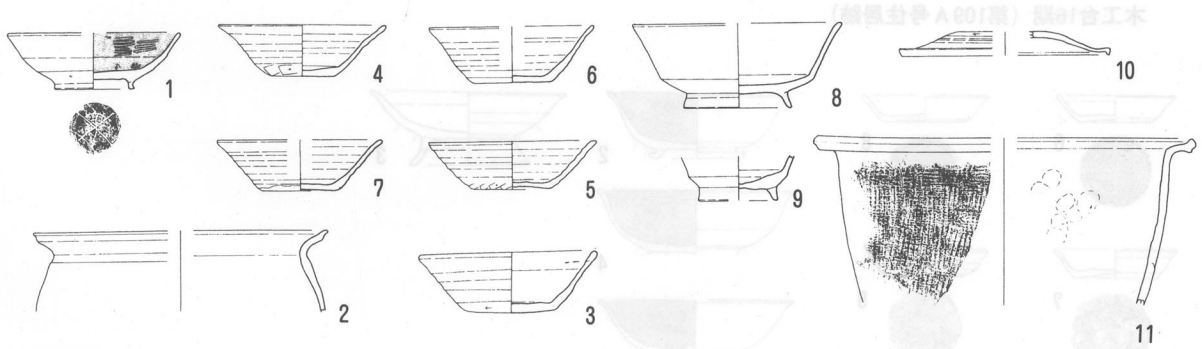
新石器時代の土器 A 8 ~ 10 期 木工台 図 445 集



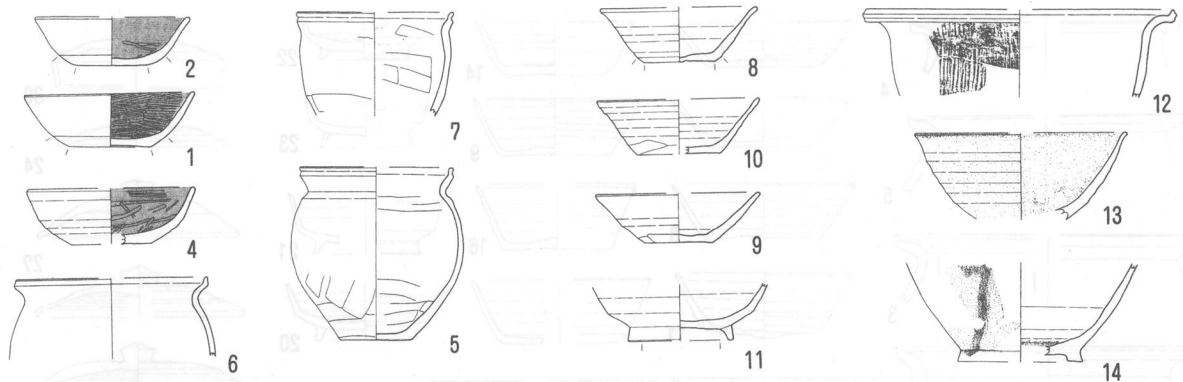
木工台11期 (第100号住居跡)



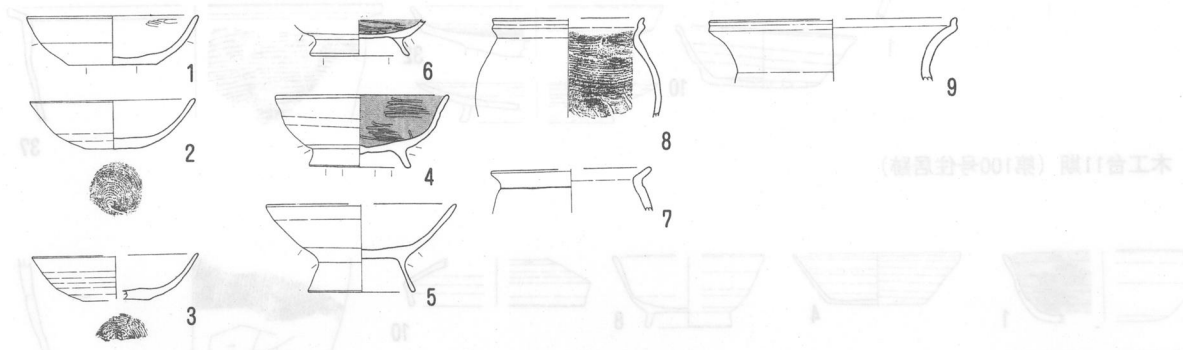
木工台12期 (第1号住居跡)



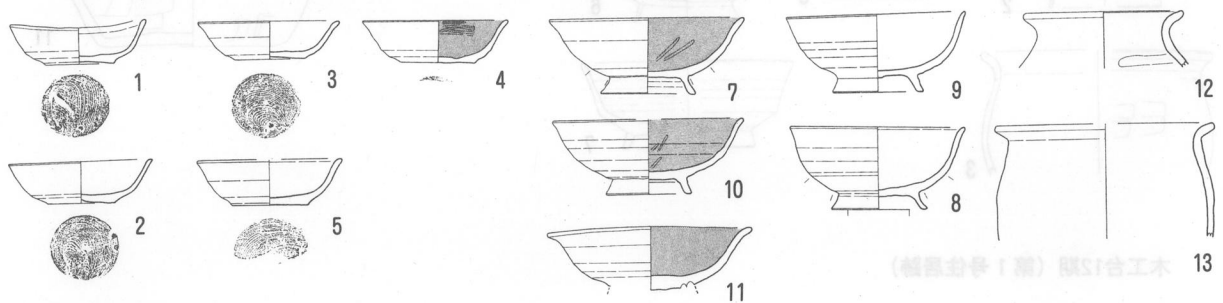
木工台13期 (第13号住居跡)



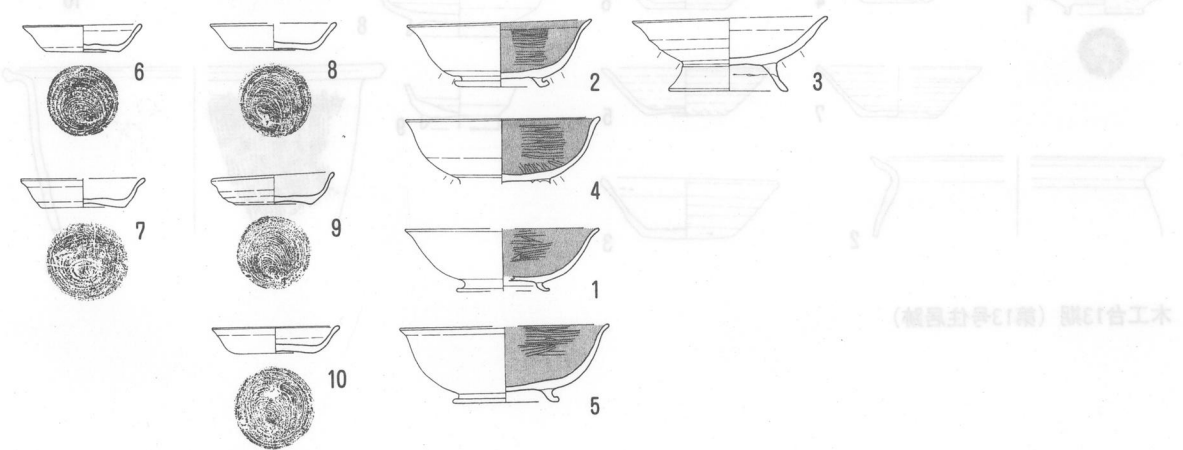
木工台14期 (第135A号住居跡)



木工台15期 (第150C号住居跡)



木工台16期 (第109A号住居跡)



木工台17期 (第236A号住居跡)

第447図 木工台14~17期の土器群

複製分号001期) 図11台木工



第448図 木工台遺跡集落変遷図1



第449图 木工台遗址集落变迁图2

参考文献

- (1) 茨城県教育財団「北浦複合団地造成事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ 炭焼遺跡 札場古墳群 三和貝塚 成田古墳群」『茨城県教育財団文化財調査報告』第130集 1998年3月
- (2) 茨城県教育財団「北浦複合団地造成事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ 木工台遺跡1」『茨城県教育財団文化財調査報告』第140集 1998年9月
- (3) 小玉 秀成「常陸地域における弥生土器編年の大枠」『霞ヶ浦沿岸の弥生文化』霞ヶ浦町郷土資料館 1998年
- (4) 茨城県『茨城県史料 考古史料編 弥生時代』1991年3月
- (5) 佐々木義則「木葉下窯跡群出土坏・盤類の法量分化について」『婆良岐考古』第11号 婆良岐考古同人会 1981年
- (6) 東国土器研究会『特集 黒色土器一展開と終焉』東国土器研究会 第3号 1990年
- (8) 東国土器研究会『特集 東国における律令制成立までの土器様相とその歴史的動向』東国土器研究会 第4号 1995年
- (9) 浅井 哲也「茨城県内における奈良・平安時代の土器(Ⅰ)」『研究ノート』創刊号 茨城県教育財団 1992年
- (10) 浅井 哲也「茨城県内における奈良・平安時代の土器(Ⅱ)」『研究ノート』2号 茨城県教育財団 1993年
- (11) 樫村 宣行「茨城県南部における鬼高式土器について」『研究ノート』2号 茨城県教育財団 1993年
- (12) 樫村 宣行・浅井哲也「常陸地域の鬼高式土器」『考古学ジャーナル』NO.342号 1992年
- (13) 川井 正一「茨城県域における須恵器窯跡出土資料について」『茨城県史研究』第75号 1995年
- (14) 吹野富美夫「常陸南部における古墳時代後期の土器様相」『列島の考古学』1998年
- (15) 荒井 保雄「大宮町下村田遺跡周辺の奈良平安時代の土器様相」『研究ノート』6号 茨城県教育財団 1996年

付 章

木工台遺跡から出土した炭化材の樹種

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

木工台遺跡では、これまでに行われた発掘調査で古墳時代～平安時代の集落が検出されている。住居跡の中には、焼失家屋も多数認められており、住居構築材などと考えられる炭化材も出土している。焼失家屋から出土した炭化材については、これまでも樹種同定が行われており、コナラ節、アカガシ亜属、クリ、スタジイなど、落葉広葉樹と常緑広葉樹が混在する樹種構成が確認されている（未公表資料）。

本報告では、住居構築材と考えられる炭化材の樹種を明らかにし、前回の結果と比較しながら用材に関する検討を行う。

1 試 料

試料は、SI-157から出土した炭化材5点（試料番号23～26, 29）である。

2 方 法

木口（横断面）・柁目（放射断面）・板目（接線断面）の3断面の割断面を作製し、実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡を用いて木材組織の特徴を観察し、種類を同定する。

3 結 果

樹種同定結果を表1に示す。炭化材は広葉樹3種類（コナラ属コナラ亜属クヌギ節・クリ・ムクロジ）に同定された。各種類の解剖学的特徴などを、以下に記す。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節（*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris*） ブナ科

環孔材で孔圏部は1～3列、孔圏外でやや急激に管径を減じたのち、漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・クリ（*Castanea crenata* Sieb. et Zucc.） ブナ科クリ属

環孔材で孔圏部は1～3列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら放射状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1～15細胞高。

表1 炭化材の樹種同定結果

遺構名	試料番号	用途など	樹種
SI-157	23	住居構築材（部位不明）	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
	24	住居構築材（垂木）	ムクロジ
	25	住居構築材（垂木）	ムクロジ
	26	住居構築材（垂木）	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
	29	住居構築材（垂木）	クリ

・ムクロジ (*Sapindus mukorossi* Gaertn.) ムクロジ科ムクロジ属

環孔材で孔圏部は、1～3列、孔圏外でやや急激に管径を減じたのち漸減、塊状に複合する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列、小道管内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は同性、1～2細胞幅、まれに3細胞幅、1～40細胞高。柔組織は周囲状～連合翼状、帯状およびターミナル状。

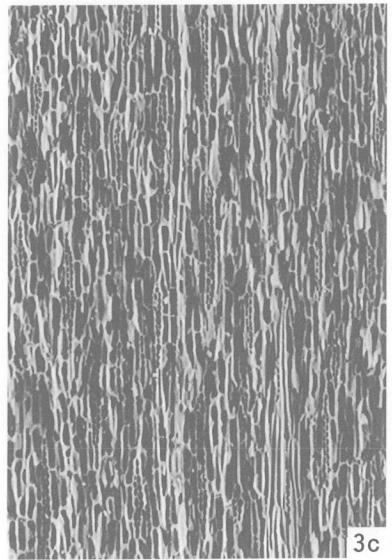
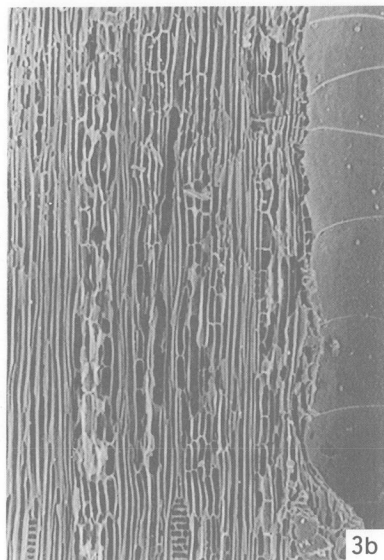
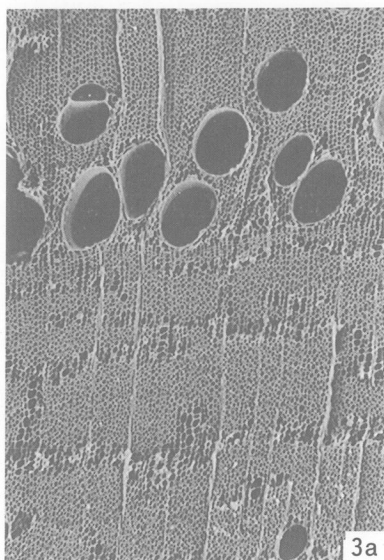
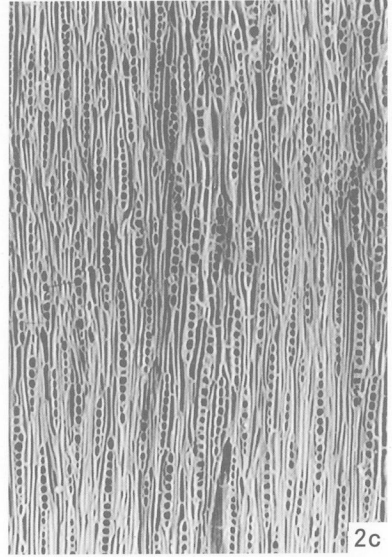
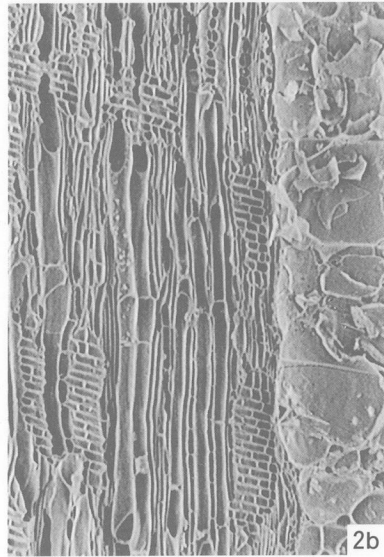
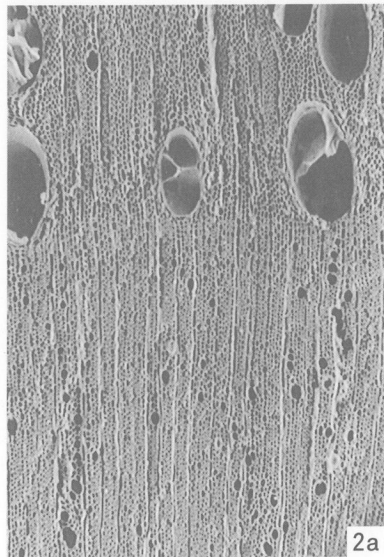
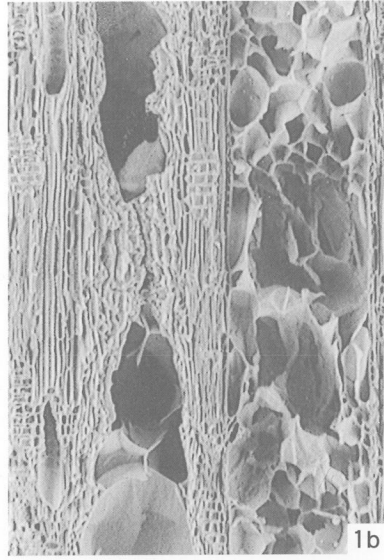
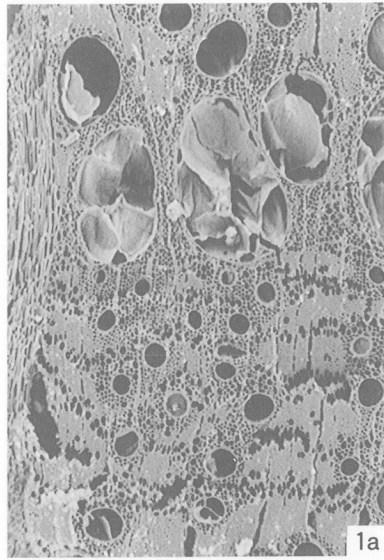
4 考 察

住居構築材と考えられる炭化材には、合計3種類が確認された。本遺跡で前回行われた住居構築材の樹種同定結果では、コナラ節・アカガシ亜属・クリ・スダジイ・エノキ属など、7種類の広葉樹が認められている(未公表資料)。今回の結果により、さらにクヌギ節やムクロジも利用されていたことが明らかになった。住居構築材は、基本的に遺跡周辺に生育していた樹木を利用したと考えられている(高橋・植木, 1994)。前回の結果から、遺跡周辺には落葉広葉樹と常緑広葉樹が生育していたことが指摘されている。今回の結果についても、ムクロジが暖温帯常緑広葉樹林の構成種であり、同様の植生が推定される。

引用文献

高橋 敦・植木 真吾(1994) 樹種同定からみた住居構築材の用材選択. PALYNO, 2, p.5-18.

図版1 炭化材



1. コナラ属コナラ亜属クスギ節
 2. クリ (SI-157 No.29)
 3. ムクロジ (SI-157 No.24)
- a : 木口, b : 柁目, c : 板目

200 μm : a
200 μm : b, c

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

掲載不可

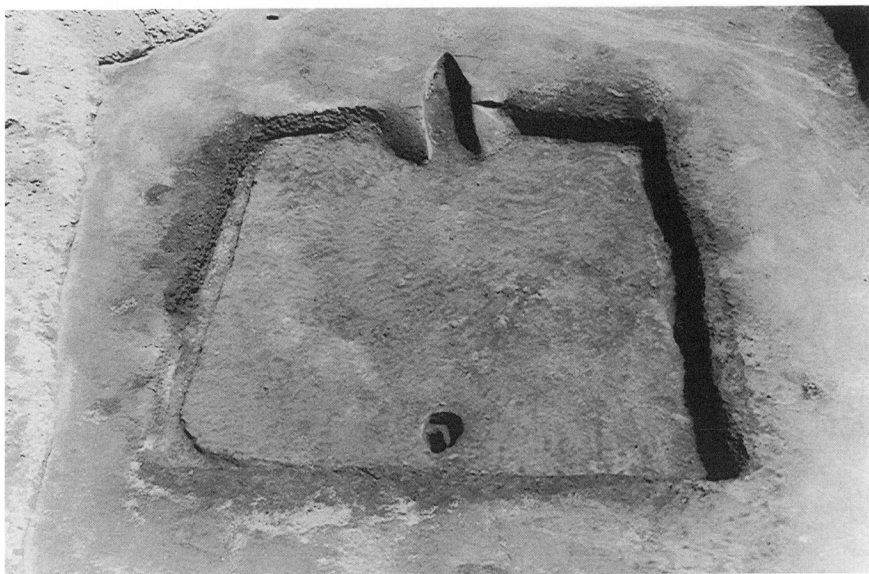
掲載不可

掲載不可

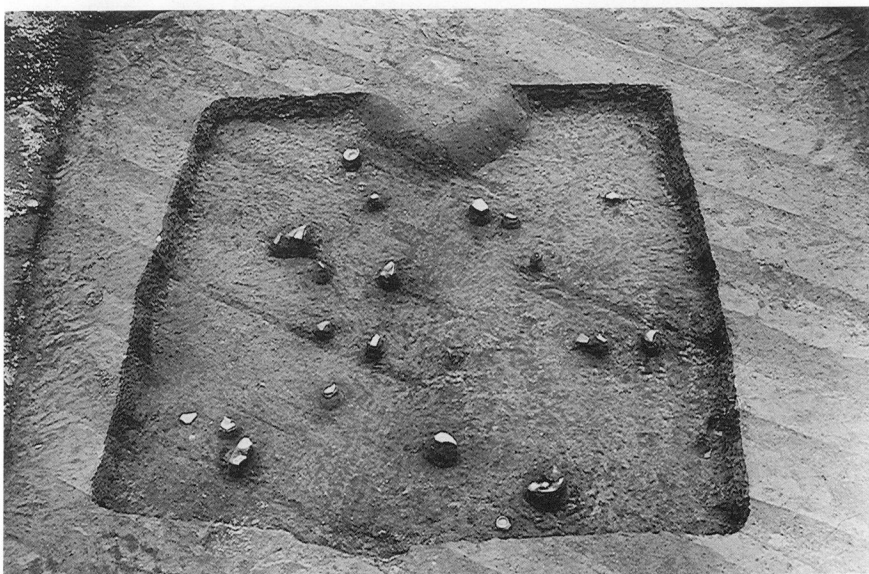
掲載不可

写 真 图 版

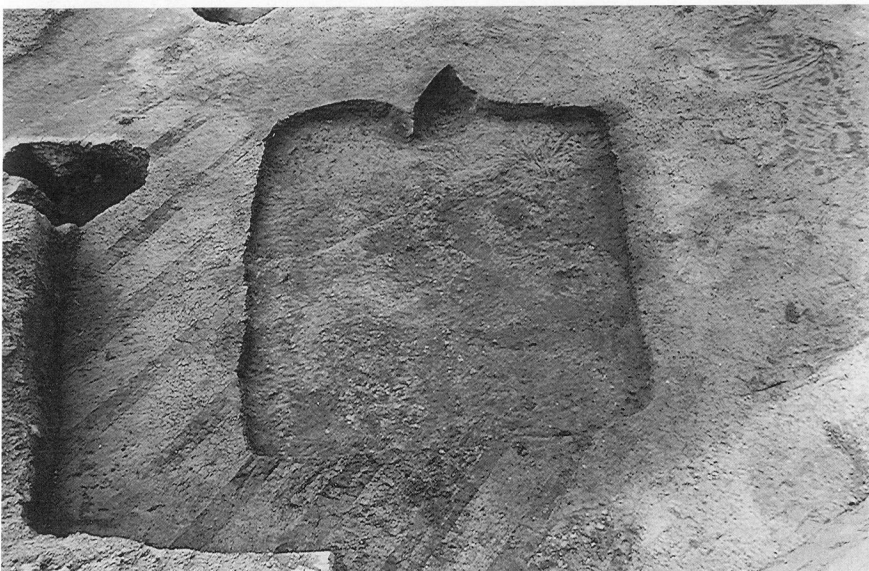




第108号住居跡



第108号住居跡遺物出土状況



第109A号住居跡



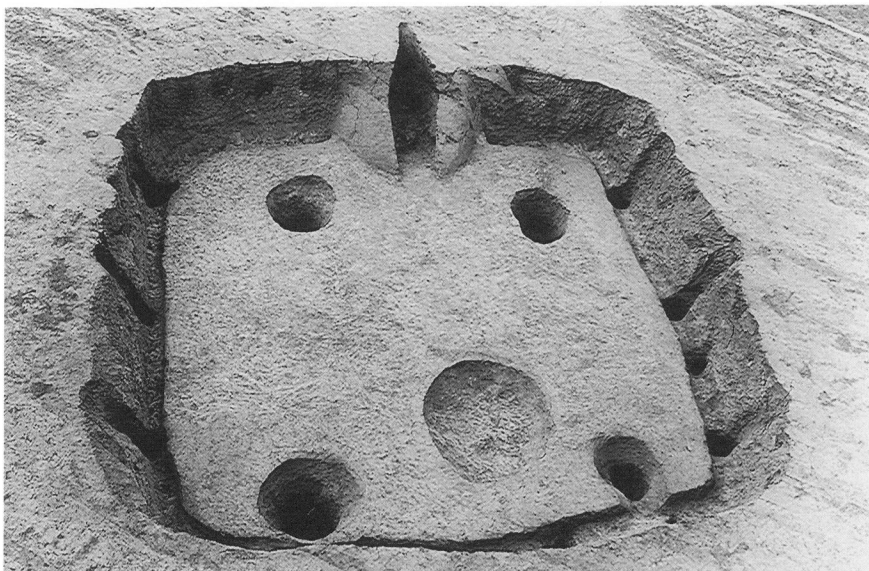
第109A号住居跡竈遺物出土
状況



第109B号住居跡



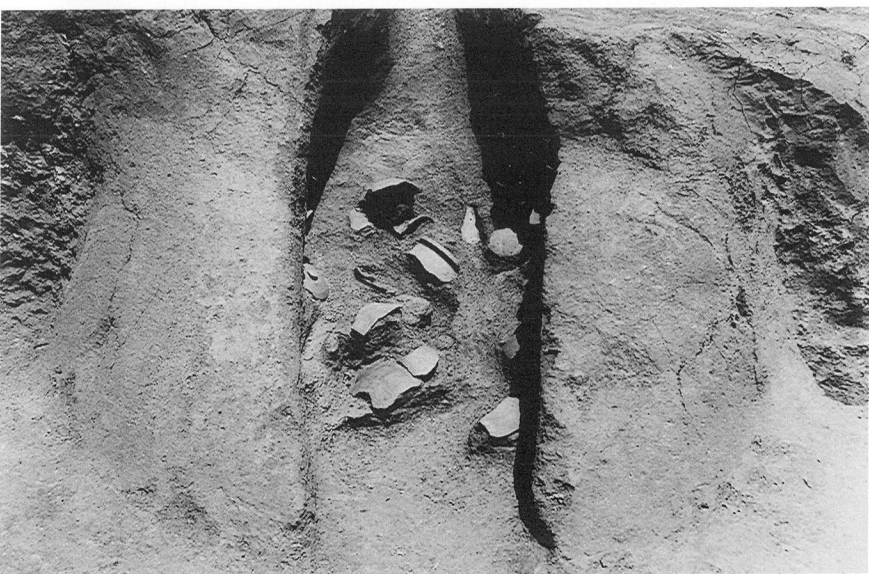
第109B号住居跡遺物出土
状況



第110A号住居跡

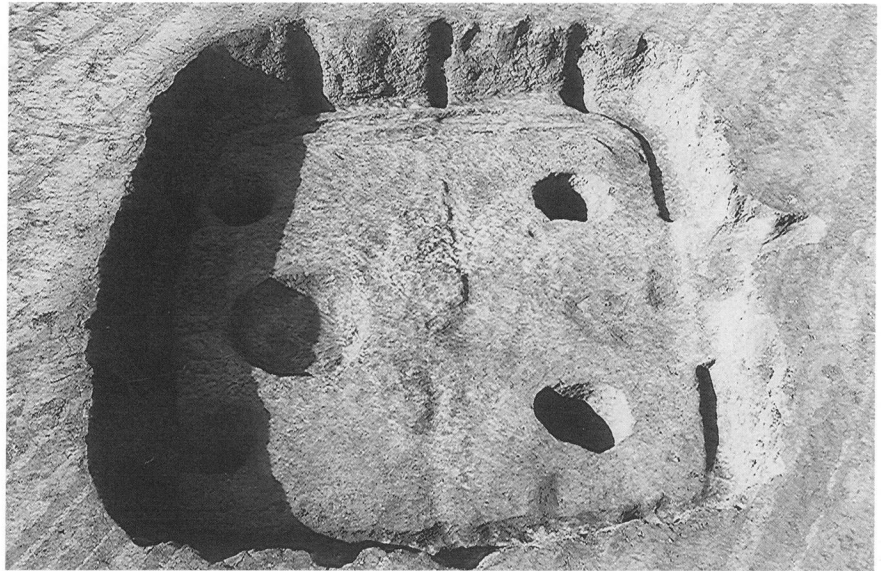


第110A号住居跡遺物出土状況



第110A号住居跡竈遺物出土状況

第110B号住居跡



第111号住居跡

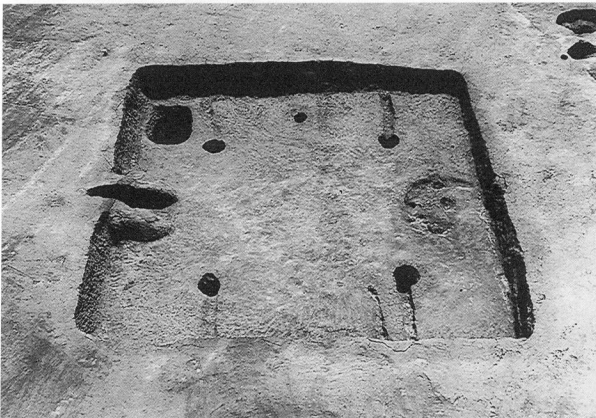


第111号住居跡遺物出土状況





第112・113・114号住居跡



第112号住居跡



第112号住居跡遺物出土状況



第112号住居跡遺物出土状況



第112号住居跡竈



第112号住居跡遺物出土状況



第113号住居跡



第114号住居跡遺物出土状況